徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第94集

新　居　見　遺　跡（Ⅱ）

（古墳時代・古代篇）

四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

徳　　島　　県
公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第94集

新　居　見　遺　跡（Ⅱ）

（古墳時代・古代篇）

四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

徳　　島　　県
公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

序　文

この度、四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連埋蔵文化財発掘調査の正式報告書がまとまりましたのでここに刊行いたします。

新居見遺跡は、徳島県小松島市新居見町に所在します。近接する田野山地には前期古墳である前山古墳や円筒埴輪や人物埴輪散布地の前山遺跡、後期古墳の弁慶の岩屋古墳等が立地します。また、北側の田浦地区には金銅装甲冑を出土した子安観音塚古墳が築造されるなど、勝浦川流域は徳島の古墳文化を考える上で重要な地域として、近年は特に注目されています。古代には東大寺領「勝浦庄」、中世には「太奈保」や、仁和寺領「勝浦庄」の比定される地域です。今回の調査ではこうした古代から中世関連遺構が検出される可能性を視野に入れて発掘調査を実施しました。

今回の発掘調査では、中世期の屋敷地に伴う区画溝や掘立柱建物等と遺物だけではなく、古代末の大型区画溝や古墳時代後期の礫床木棺墓を埋葬施設に採用した小型古墳が確認されました。特筆すべき事は、縄文時代晩期の遺構面から土偶が出土したことです。徳島県下では初めての出土例となります。改めて当遺跡の重要性を再確認することができました。

今後、本書が当該地域および本県の歴史を解明する上で貴重な資料として活用され、広く文化財保護の一助となることを期待したいと思います。

末尾ではありますが、この度の発掘調査の実施により、貴重な成果を上げることができましたのも、関係機関並びに地元の皆様の多大な御理解、御協力のおかげであり、心から感謝申し上げる次第です。また、発掘調査および報告書作成にあたっては、徳島県・徳島県教育委員会をはじめ関係各位から貴重な御指導・御教示を賜りました。ここに厚く御礼申し上げますとともに、今後も当センターの事業について一層御支援下さるようお願い申し上げます。

令和３年３月

公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

理事長　福　家　清　司

例　言

1　本書は徳島県小松島市新居見町山路 28 番地ほか 37 筆において実施した、平成 21，22 年度四国横断自動車道（阿南～小松島）関連埋蔵文化財発掘調査、平成 23 年度四国横断自動車道（阿南～徳島東）関連埋蔵文化財発掘調査、平成 24 年度四国横断自動車道（阿南～徳島東）新居見工区関連埋蔵文化財発掘調査、平成 25 年度四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連埋蔵文化財発掘調査、平成 26 年度四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連埋蔵文化財発掘調査（新居見遺跡）平成 29 年年度，令和 2 年度四国横断自動車道（阿南～徳島東）関連埋蔵文化財発掘調査に関わる発掘調査報告書である。

2　本書は小松島市新居見遺跡の古墳時代、古代に関する調査成果について収録した。

3　発掘調査は、国土交通省から徳島県が委託を受け、徳島県教育委員会文化財課（当時）・教育文化政策課（当時）・徳島県教育文化課（当時）・徳島県からの再委託により、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び報告書作成についての実施期間は下記の通りである。

発掘調査

平成 21 年度	平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
平成 22 年度	平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
平成 23 年度	平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
平成 24 年度	平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
平成 25 年度	平成 25 年 4 月 1 日～ 6 月 30 日、11 月 1 日～ 12 月 31 日
平成 26 年度	平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
平成 29 年度	平成 29 年 8 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日
令和 2 年度	令和 3 年 4 月 1 日～令和 2 年 6 月 30 日

報告書作成

平成 27 年度	平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
平成 28 年度	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
令和元年度	平成 30 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日
令和 2 年度	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

5　挿図番号・写真番号は通し番号とした。遺物番号は、各遺構面・各遺構種別毎に通し番号とした。

6　図 5 は国土交通省発行の『水害地形分類図』より転載したものである。
図 3 は国土地理院登録の 1:50,000 地形図『徳島』および『阿波富田』を転載し、加筆したものである。
図 3 の地形図は小松島市発行の 1：2,500 都市計画図を転載し、加筆したものである。
図 258　IL-S13 オルソ画像は株式会社ラングによる作成である。

7　発掘調査、報告書作成期間を通じて次の機関の方々に御協力・ご教授を得た。
小松島市教育委員会　　株式会社ラング　　横山　真　　千葉　文

8　本書の執筆は、徳島県（第 I 章第 1 節）・栗林誠治（第 I 章第 2 節～第 II 章、第 III 章、第 V 章）があたった。パレオ・ラボ　竹原弘展（第IV章第 1、2 節）、パレオ・ラボ　三谷智広・米田恭子（第IV章第 3 節）、パレオ・ラボ　藤根　久・米田恭子（第IV章第 4 節）、パレオ・ラボ　藤根　久・竹原弘展（第IV章第 5 節）、全体の編集は栗林が行った。

9　遺構写真は調査担当者が、遺物写真は栗林誠治が撮影した。

10　本書に収録した遺物及び写真・図面類の記録は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86 － 2 に所在する徳島県立埋蔵文化財総合センターにて保管している。

凡　例

1　遺構の表示は（公財）徳島県埋蔵文化財センターが定める発掘調査基準による略記号を用いた。

SR：自然流路　SD：溝　SK：土坑　SP：柱穴・小穴　ST：埋葬施設　SX：性格不明遺構

2　遺構番号は、4 桁で表示する。4 桁目の番号は遺構面数を表し、以下の 3 桁が遺構の通し番号を表す。

3　遺構掲載サイズは、遺構平面図は 1/25、遺物出土状況図は 1/25、遺構覆土層図は 1/25 を基本とし、各スケールに縮尺を表示している。自然流路等大型遺構に関しては、遺構平面図は 1/50，1/100、遺構覆土層図は 1/50 にて掲載した。

4　方位、座標は世界測地系に準拠するが、調査時に設定したグリッドにて表示する。標高は東京湾標準潮位（T.P）に準拠する。

5　本書で用いた土層及び土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄『新版土色帳』2011 年度版、および細野尚久編『標準色彩図表 A』に準拠する。

6　遺物の掲載サイズは、原則下記のものに統一した。

土器：1/3　土製品：1/1　鉄器：2/3　ガラス製品：1/1　礫石器・石製品：1/3

7　図版・挿図及び表は基本的に通し番号である。

8　観察表中の弥生土器に関しては以下の文献を参考にして記載している。

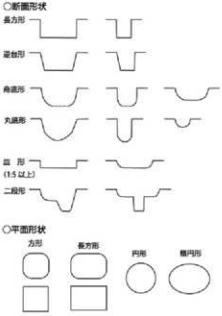
（公財）徳島県埋蔵文化財センター 2014『南蔵本遺跡－徳島県立中央病院改築事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書－』

9　土器観察表中の胎土（含有物）の略号は下記の通りである。

結：結晶片岩　石：石英　　長：長石　チ：チャート　雲：雲母　金雲：金雲母

角：角閃石　赤：赤色斑粒　砂：砂岩粒　泥：泥岩粒　黒：黒色粒　花：花崗岩

10　遺構の平断面形状の記載は下記の通りである。



目　次

第Ⅰ章　調査と整理の経緯 …… 1
1　調査の経緯 …… 2
（1）　四国横断自動車道と遺跡の関係 …… 2
（2）　遺跡の確認 …… 2
（3）　発掘調査の経過と調査成果の公開 …… 4
2　発掘調査の方法 …… 5
（1）　調査区の設定 …… 5
（2）　グリッドの設定 …… 5
3　整理の経緯 …… 6
4　業務の体制 …… 8
5　調査日誌抄 …… 8

第Ⅱ章　地理的環境・歴史的環境 …… 11
1　地理的環境 …… 12
2　歴史的環境 …… 14

第Ⅲ章　調査成果 …… 19
1　山路地区基本層序 …… 20
2　古墳時代遺構配置 …… 20
3　古墳時代の遺構・遺物 …… 20
（1）　落ち込み・自然流路（SR） …… 20
（2）　古墳（SM）・周溝状遺構（SD） …… 26
（3）　埋葬施設（ST） …… 102
（4）　土坑（SK） …… 149
4　古代の遺構・遺物 …… 169
（1）　自然流路（SR） …… 169
（2）　溝状遺構（SD） …… 183
（3）　土坑（SK） …… 248
（4）　小穴・柱穴（SP） …… 283
（5）　竪穴住居（SB）・性格不明遺構（SX） …… 310
（6）　包含層出土遺物 …… 319
5　小結 …… 343
（1）　古墳・埋葬施設 …… 343
（2）　須恵器ヘラ記号 …… 350
（3）　前山遺跡採集須恵器 …… 353

（4） 勝浦川・那賀川流域の遺跡 …… 355
（5） 小結 …… 361

第Ⅳ章 自然化学分析 …… 365
1 新居見遺跡出土土製品付着赤色顔料の自然科学分析 …… 366
2 新居見遺跡出土ガラス小玉の蛍光X線分析 …… 371
3 レプリカ法による貝殻圧痕の同定 …… 375
4 新居見遺跡の土師器・埴輪の胎土分析 …… 377
5 新居見遺跡出土須恵器の蛍光X線分析 …… 404

図版 …… 411

図版目次

図 1　新居見遺跡位置図(S=1/500,000) …… 2
図 2　新居見遺跡調査地点(S=1/50,000) …… 3
図 3　新居見遺跡調査地点(S=1/2,500) …… 6
図 4　新居見遺跡調査区・グリッド配置図 …… 7
図 5　新居見遺跡周辺地形図(水害地形分類図)
(S=1/25,000) …… 13
図 6　新居見遺跡周辺遺跡図(S=1/25,000) …… 14
図 7　調査区土層図 …… 21
図 8　第 4 遺構面主要遺構配置図 …… 22
図 9　1 号落ち込み(SR4001)遺構図・遺物図(1)
…… 23
図 10　1 号落ち込み(SR4001)遺構図(2) …… 24
図 11　2 号落ち込み(SR4002)遺構図(1) …… 25
図 12(1)　2 号落ち込み(SR4002)遺構図(2) …… 27
図 12(2)　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(1) …… 28
図 13　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(2) …… 29
図 14　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(3) …… 30
図 15　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(4) …… 31
図 16　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(5) …… 32
図 17　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(6) …… 33
図 18　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(7) …… 34
図 19　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(8) …… 35
図 20　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(9) …… 36
図 21　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(10) …… 37
図 22　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(11) …… 38
図 23　2 号落ち込み(SR4002)遺物図(12) …… 39
図 24　3 号落ち込み(SR4003)遺構図 …… 40
図 25　3 号落ち込み(SR4003)遺物図(1) …… 41
図 26　3 号落ち込み(SR4003)遺物図(2) …… 42
図 27　1 号墳(SM4001)遺構図(1) …… 50
図 28　1 号墳(SM4001)遺構図(2) …… 51
図 29　1 号墳(SM4001)遺物出土状況図 …… 52
図 30　1 号墳(SM4001)出土玉類 …… 52
図 31　1 号墳下層遺構図(1) …… 53
図 32　1 号墳下層遺構図(2) …… 54
図 33　1 号墳下層遺構図(3) …… 55
図 34　1 号墳(SM4001)遺物図(1) …… 56
図 35　1 号墳(SM4001)遺物図(2) …… 57
図 36　1 号墳(SM4001)遺物図(3) …… 58
図 37　1 号墳(SM4001)遺物図(4) …… 59
図 38　1 号墳(SM4001)遺物図(5) …… 60
図 39　1 号墳(SM4001)遺物図(6) …… 61
図 40　1 号墳(SM4001)遺物図(7) …… 62
図 41　1 号墳(SM4001)遺物図(8) …… 63
図 42　2 号周溝状遺構(SD5002)遺構図 …… 66
図 43　2 号周溝状遺構(SD5002)遺物図 …… 67
図 44　3 号周溝状遺構(SD5003)遺構図 …… 68
図 45　3 号周溝状遺構(SD5003)遺物図 …… 69
図 46　4 号周溝状遺構(SD5004)遺構図 …… 70
図 47　5 号周溝状遺構(SD5005)遺構図 …… 71
図 48　5 号周溝状遺構(SD5005)遺物図 …… 72
図 49　6 号周溝状遺構(SD5006)遺構図 …… 73
図 50　1 号周溝状遺構(SD4001)遺構図・遺物図 … 75
図 51　2 号周溝状遺構(SD4002)遺構図・遺物図 … 76
図 52　3 号周溝状遺構(SD4003)遺構図 …… 77
図 53　4 号周溝状遺構(SD4004)遺構図 …… 78
図 54　4 号周溝状遺構(SD4004)遺物出土状況図・
遺物図 …… 79
図 55　5 号周溝状遺構(SD4005)遺構図 …… 80
図 56　6 号周溝状遺構(SD4006)遺構図 …… 81
図 57　7 号周溝状遺構(SD4007)遺構図・
遺物出土状況図 …… 82
図 58　7 号周溝状遺構(SD4007)遺物図 …… 83
図 59　8 号周溝状遺構(SD4008)遺構図 …… 84
図 60　9 号周溝状遺構(SD4009)遺構図 …… 85
図 61　9 号周溝状遺構(SD4009)遺物出土状況図(1)
…… 86
図 62　9 号周溝状遺構(SD4009)遺物出土状況図(2)
…… 87
図 63　9 号周溝状遺構(SD4009)遺物図 …… 88
図 64　10 号周溝状遺構(SD4010)遺構図 …… 89
図 65　11 号周溝状遺構(SD4011)遺構図 …… 90
図 66　12 号周溝状遺構(SD4012)遺構図 …… 91
図 67　12 号周溝状遺構(SD4012)遺物出土状況図 … 92
図 68　12 号周溝状遺構(SD4012)遺物図 …… 93
図 69　13 号周溝状遺構(SD4013)遺構図 …… 94
図 70　14 号周溝状遺構(SD4014)遺構図 …… 95
図 71　15 号周溝状遺構(SD4015)遺構図 …… 96
図 72　16 号周溝状遺構(SD4016)遺構図・遺物図 … 97
図 73　1 号埋葬施設(ST4001)遺構図(1)・遺物図… 100
図 74　2 号埋葬施設(ST4002)遺構図 …… 101
図 75　3 号埋葬施設(ST4003)遺構図 …… 101
図 76　5 号埋葬施設(ST4005)遺構図・遺物図…… 102
図 77　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(1) …… 104
図 78　8 号埋葬施設(ST4008)遺構図・遺物図…… 105
図 79(1)　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(2) …… 106
図 79(2)　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(2) …… 108
図 80　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(3) …… 109
図 81　18 号埋葬施設(ST4018)遺構図 …… 110
図 82　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(4) …… 111

図 83　21 号埋葬施設(ST4021)遺構図 …… 112
図 84　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(5) …… 113
図 85　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(6) …… 115
図 86　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(7) …… 116
図 87　31 号埋葬施設(ST4031)遺構図 …… 118
図 88　32 号埋葬施設(ST4032)遺構図・遺物図 … 119
図 89　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(8) …… 120
図 90　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(9) …… 121
図 91　38 号埋葬施設(ST4038)遺構図・遺物図 … 122
図 92　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(10) …… 123
図 93　43 号埋葬施設(ST4043)遺構図・遺物図 … 125
図 94　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(11) …… 127
図 95　45 号埋葬施設(ST4045)遺構図・遺物図 … 128
図 96　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(12)・遺物図 … 129
図 97　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(13) …… 130
図 98　51 号埋葬施設(ST4051)遺構図 …… 131
図 99　52 号埋葬施設(ST4052)遺構図 …… 132
図 100　53 号埋葬施設(ST4053)遺構図 …… 133
図 101　54 号埋葬施設(ST4054)遺構図・遺物図 … 134
図 102　55 号埋葬施設(ST4055)遺構図・遺物図 … 135
図 103　56 号埋葬施設(ST4056)遺構図 …… 136
図 104　56 号埋葬施設(ST4056)遺物図 …… 137
図 105　57 号埋葬施設(ST4057)遺構図 …… 138
図 106　57 号埋葬施設(ST4057)遺物図 …… 139
図 107　59 号埋葬施設(ST4059)遺構図(1)…… 140
図 108　59 号埋葬施設(ST4059)遺構図(2)・遺物図 …… 141
図 109　60 号埋葬施設(ST4060)遺構図 …… 142
図 110　第 4 遺構面埋葬施設遺構図(14) …… 143
図 111　63 号埋葬施設(ST4063)遺構図・遺物図 … 144
図 112　7 号土坑(SK5007)遺構図・遺物出土状況図・遺物図 …… 150
図 113　8 号土坑(SK5008)・1 号土坑(SK4001)遺構図・遺物図 …… 151
図 114　1 号土坑(SK4001)遺物図…… 152
図 115　第 4 遺構面土坑 SK 遺構図(1)・遺物図(1)　153
図 116　3 号土坑(SK4003)遺構図・遺物図…… 154
図 117　4 号土坑(SK4004)遺構図・遺物図…… 155
図 118　第 4 遺構面土坑 SK 遺構図(2)・遺物図(2) … 156
図 119　7 号土坑(SK4007)遺構図・遺物図…… 157
図 120　第 4 遺構面土坑 SK 遺構図(3)・遺物図(3) … 158
図 121　10 号土坑(SK4010)遺構図・遺物図 …… 160
図 122　1 号性格不明遺構(SX4001)遺構図…… 162
図 123　5 号性格不明遺構(SX4005)遺構図・遺物図(1) …… 163
図 124　第 4 遺構面性格不明遺構 SX 遺物図(2)…… 164
図 125　第 4 遺構面性格不明遺構 SX 遺物図(3)…… 165
図 126　第 4 遺構面性格不明遺構 SX 遺構図(2)・遺物図(4) …… 166
図 127　第 4 遺構面性格不明遺構 SX 遺構図(4)・遺物図 (5) …… 167
図 128　第 3 遺構面主要遺構配置図 …… 169
図 129　1 号自然流路(SR3001)遺構図(1) …… 170
図 130　1 号自然流路(SR3001)遺構図(2) …… 171
図 131　1 号自然流路(SR3001)遺物出土状況図…… 172
図 132　1 号自然流路(SR3001)遺構図(3) …… 173
図 133　1 号自然流路(SR3001)遺物図(1) …… 174
図 134　1 号自然流路(SR3001)遺物図(2) …… 175
図 135　1 号自然流路(SR3001)遺物図(3) …… 176
図 136　1 号自然流路(SR3001)遺物図(4) …… 177
図 137　1 号溝状遺構(SD3001)遺構図(1) …… 180
図 138　1 号溝状遺構(SD3001)遺構図(2) …… 181
図 139　1 号溝状遺構(SD3001)遺構図(3) …… 182
図 140　1 号溝状遺構(SD3001)遺構図(4) …… 183
図 141　1 号溝状遺構(SD3001)遺構図(5) …… 84
図 142　1 号溝状遺構(SD3001)遺構図(6) …… 185
図 143　1 号溝状遺構(SD3001)遺構図(7) …… 186
図 144　1 号溝状遺構(SD3001)遺物出土状況図(1)… 187
図 145　1 号溝状遺構(SD3001)遺物出土状況図(2)… 188
図 146　1 号溝状遺構(SD3001)遺物出土状況図(3)… 189
図 147　1 号溝状遺構(SD3001)遺物出土状況図(4)… 190
図 148　1 号溝状遺構(SD3001)遺物出土状況図(5)… 191
図 149　1 号溝状遺構(SD3001)遺物出土状況図(6)… 192
図 150　1 号溝状遺構(SD3001)遺物出土状況図(7)… 193
図 151　1 号溝状遺構(SD3001)遺物出土状況図(8)… 194
図 152　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(1) …… 195
図 153　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(2) …… 196
図 154　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(3) …… 197
図 155　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(4) …… 198
図 156　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(5) …… 199
図 157　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(6) …… 200
図 158　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(7) …… 201
図 159　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(8) …… 202
図 160　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(9) …… 203
図 161　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(10) … 204
図 162　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(11) … 205
図 163　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(12) … 206
図 164　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(13) … 207
図 165　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(14) … 208
図 166　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(15) … 209
図 167　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(16) … 210
図 168　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(17)

……211・212
図 169　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(18)　…　213
図 170　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(19)　…　214
図 171　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(20)　…　215
図 172　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(21)　…　216
図 173　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(22)　…　217
図 174　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(23)　…　218
図 175　1 号溝状遺構(SD3001) 出土遺物図(24)　…　219
図 176　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(25)　…　220
図 177　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(26)　…　221
図 178　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(27)　…　222
図 179　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(28)　…　223
図 180　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(29)　…　224
図 181　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(30)　…　225
図 182　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(31)　…　226
図 183　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(32)　…　227
図 184　1 号溝状遺構(SD3001)出土遺物図(33)　…　228
図 185　2 号溝状遺構(SD3002)遺構図(1) ……　243
図 186　2 号溝状遺構(SD3002)遺構図(2) ……　244
図 187　2 号溝状遺構(SD3002)遺構図(3) ……　245
図 188　2 号溝状遺構(SD3002)遺物出土状況図　…　246
図 189　2 号溝状遺構(SD3002)遺物図　……　247
図 190　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図(1)　……　249
図 191　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図(2)・遺物図(1)
……　250
図 192　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図(3)・遺物図(2)
……　251
図 193　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図(4)・遺物図(3)
……　252
図 194　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図(5)・遺物図(4)
……　253
図 195　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図(6)・遺物図(5)
……　254
図 196　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図(7)・遺物図(6)
……　255
図 197　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺物図(7) ……　256
図 198　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図(9)・遺物図(8)
……　257
図 199　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図(10) ……　258
図 200　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(1)・遺物図(1) …　261
図 201　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(2)・遺物図(2) …　262
図 202　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(3)・遺物図(3) …　263
図 203　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(4)・遺物図(4) …　264
図 204　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(5)・遺物図(5) …　265
図 205　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(6)・遺物図(6) …　266
図 206　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(7)・遺物図(7) …　267
図 207　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(8)・遺物図(8) …　268
図 208　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(9)・遺物図(9) …　269
図 209　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(10)・遺物図(10)
……　271
図 210　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(11)・遺物図(11)
……　272
図 211　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(12)・遺物図(12)
……　273
図 212　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(13)・遺物図(13)
……　274
図 213　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(14)・遺物図(14)
……　275
図 214　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(15)・遺物図(15)
……　276
図 215　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(16)・遺物図(16)
……　277
図 216　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(17)・遺物図(17)
……　278
図 217　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(18)・遺物図(18)
……　279
図 218　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(19)・遺物図(19)
……　280
図 219　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図(19)・遺物図(20)
……　282
図 220　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(1)……　288
図 221　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(2)……　289
図 222　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(3)……　290
図 223　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(4)……　292
図 224　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(5)……　293
図 225　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(6)……　295
図 226　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(7)……　296
図 227　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(8)……　298
図 228　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(9)……　300
図 229　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(10) ……　301
図 230　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図(11) ……　302
図 231　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺物図(1)……　304
図 232　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺物図(2)……　305
図 233　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺物図(3)……　306
図 234　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺物図(4)……　307
図 235　1 号竪穴住居(SB3001)遺構図・遺物図……　311
図 236　2 号竪穴住居(SB3002)遺構図(1)・遺物図　312
図 237　2 号竪穴住居(SB3002) 遺構図(2)……　313
図 238　1 号性格不明遺構(SX3001)遺構図・遺物図
……　314
図 239　2 号性格不明遺構(SX3002)遺構図(1) ……　315
図 240　2 号性格不明遺構(SX3002)遺物図(1) ……　316

図 241　2 号性格不明遺構(SX3002)遺物図(2) …… 317
図 242　包含層出土遺物図(1) …… 320
図 243　包含層出土遺物図(2) …… 321
図 244　包含層出土遺物図(3) …… 322
図 245　包含層出土遺物図(4) …… 323
図 246　包含層出土遺物図(5) …… 324
図 247　包含層出土遺物図(6) …… 325
図 248　包含層出土遺物図(7) …… 326
図 249　包含層出土遺物図(8) …… 327
図 250　包含層出土遺物図(9) …… 328
図 251　包含層出土遺物図(10) …… 329
図 252　包含層出土遺物図(11) …… 330
図 253　包含層出土遺物図(12) …… 331
図 254　包含層出土遺物図(13) …… 332
図 255　包含層出土遺物図(14) …… 333
図 256　包含層出土遺物図(15) …… 334
図 257　包含層出土遺物図(16) …… 335
図 258　包含層出土遺物図(17) …… 336
図 259　周溝状遺構類例 …… 345
図 260　埋葬施設類型(1) …… 346
図 261　埋葬施設類型(2) …… 347
図 262　埋葬施設類型(3) …… 348
図 263　埋葬施設規模 …… 349
図 264　須恵器ヘラ記号(1) …… 351
図 265　須恵器ヘラ記号(2) …… 352
図 266　前山遺跡採集須恵器 …… 354
図 267　当該期遺跡・遺構 …… 358
図 268　勝浦川・那賀川流域の土器(1) …… 359
図 269　勝浦川・那賀川流域の土器(2) …… 360

表目次

表 1　周辺遺跡一覧 …… 17
表 2　自然流路出土鉄器観察表 …… 42
表 3　自然流路出土土器観察表 …… 43
表 4　自然流路出土石器観察表 …… 48
表 5　自然流路出土土製品観察表 …… 49
表 6　1 号墳出土土器観察表 …… 64
表 7　1 号墳出土土製品観察表 …… 65
表 8　1 号墳出土鉄器観察表 …… 65
表 9　1 号墳出土玉類観察表 …… 65
表 10　周溝状遺構出土土器観察表 …… 98
表 11　周溝状遺構土製品観察表 …… 99
表 12　周溝状遺構石器観察表 …… 99
表 13　周溝状遺構鉄器観察表 …… 99
表 14　埋葬施設（ST）一覧表 …… 145
表 15　埋葬施設出土土器観察表 …… 146
表 16(1)　埋葬施設出土鉄器観察表 …… 147
表 16(2)　埋葬施設出土玉類観察表 …… 147
表 17　土坑出土石器観察表 …… 151
表 18　土坑出土土器観察表 …… 161
表 19　土坑（SK）一覧表 …… 161
表 20　性格不明遺構等出土石器観察表 …… 166
表 21　性格不明遺構等出土土器製品観察表 …… 167
表 22　性格不明遺構等出土土器観察表 …… 168
表 23　1 号自然流路出土土器観察表 …… 178
表 24　1 号自然流路出土土製品観察表 …… 179
表 25　1 号自然流路出土石器観察表 …… 179
表 26　1 号溝状遺構出土土器観察表 …… 229
表 27　1 号溝状遺構出土土製品観察表 …… 241
表 28　1 号溝状遺構出土石器観察表 …… 242
表 29　1 号溝状遺構鉄器観察表 …… 242
表 30　1 号溝状遺構玉類観察表 …… 242
表 31　2 号溝状遺構出土土器観察表 …… 248
表 32　溝状遺構出土土器観察表 …… 259
表 33　溝状遺構出土石器観察表 …… 259
表 34　溝状遺構出土鉄器観察表 …… 259
表 35　土坑（SK）一覧表 …… 284
表 36　土坑出土土器観察表 …… 284
表 37　土坑出土土製品観察表 …… 286
表 38　小穴（SP）一覧表 …… 302
表 39　小穴出土鉄器観察表 …… 307
表 40　小穴出土土器観察表 …… 308
表 41　性格不明遺構等出土鉄器観察表 …… 317
表 42　性格不明遺構等出土石器観察表 …… 317
表 43　性格不明遺構等出土土器観察表 …… 318
表 44　包含層出土土器観察表 …… 337
表 45　包含層出土石器観察表 …… 341
表 46　包含層出土土製品観察表 …… 342

写真図版目次

図版 1　ガラス玉類 …… 412
図版 2　ガラス玉、管玉 …… 413
図版 3　田野山塊北麓と新居見遺跡東を望む　山路地区（旧 B1・B2 区）古墳時代～古代遺構面究掘状況 …… 414
図版 4　旧 B1 区自然流路 SR3001 完掘状況　旧 B1 区古墳時代円形周溝と古代自然流路 …… 415
図版 5　旧 B2 区 1 号墳 SM4001 …… 416
図版 6　1 号墳石室石材 …… 417
図版 7　1 号墳周辺遺物出土状況 …… 418
図版 8　1 号周溝 SD4001,2 号周溝 SD4002,7 号周溝 SD4007　2 号周溝 SD4002　7 号周溝 SD4007 …… 419
図版 9　1 号周溝 SD4001　14 号円形周溝 SD4014　5 号円形周溝 SD5003 …… 420
図版 10　5 号円形周溝 SD5003 遺物出土状況　5 号円形周溝 SD5003 遺物出土状況　12 号円形周溝 SD4012 遺物出土状況 …… 421
図版 11　15 号円形周溝 SD4015 遺物出土状況　2 号円形周溝 SD5002 遺物出土状況　5 号埋葬施設 ST4005 …… 422
図版 12　8 号埋葬施設 ST4008 …… 423
図版 13　8 号埋葬施設 ST4008 小口構造　8 号埋葬施設 ST4008 遺物出土状況 …… 424
図版 14　3 号埋葬施設 ST4003　55 号埋葬施設 ST4055　2 号埋葬施設 ST4002 …… 425
図版 15　38 号埋葬施設 ST4038　38 号埋葬施設 ST4038 遺物出土状況 …… 426
図版 16　48 号埋葬施設 ST4048　53 号埋葬施設 ST4053　63 号埋葬施設 ST4063 …… 427
図版 17　13 号埋葬施設 ST4013 …… 428
図版 18　56 号埋葬施設 ST4056 …… 429
図版 19　59 号埋葬施設 ST4059 …… 430
図版 20　60 号埋葬施設 ST4060 …… 431
図版 21　57 号埋葬施設 ST4057 …… 432
図版 22　21 号埋葬施設 ST4021　16 号埋葬施設 ST4016 …… 433
図版 23　54 号埋葬施設 ST4054　3 号土坑 SK4003　1 号自然流路 SR3001 …… 434
図版 24　1 号自然流路 SR3001 …… 435
図版 25　1 号溝状遺構 SD3001 …… 436
図版 26　1 号溝状遺構、2 号溝状遺構　1 号溝状遺構　1 号溝状遺構東側（下流側）土層　1 号溝状遺構西側（上流側）土層 …… 437
図版 27　1 号溝状遺構遺物出土状況 …… 438
図版 28　1 号溝状遺構遺物出土状況 …… 439
図版 29　須恵器杯蓋 …… 440
図版 30　須恵器杯蓋・杯身 …… 441
図版 31　須恵器杯身 …… 442
図版 32　須恵器杯身・高杯・甕 …… 443
図版 33　須恵器甕・平瓶 …… 444
図版 34　須恵器提瓶 …… 445
図版 35　須恵器長頸壺・横瓶 …… 446
図版 36　須恵器壺 …… 447
図版 37　須恵器壺・甕 …… 448
図版 38　須恵器甕 …… 449
図版 39　土師器皿類 …… 450
図版 40　土師器杯類 …… 451
図版 41　土師器杯類・椀類、黒色土器椀類 …… 452
図版 42　黒色土器椀・体部打ち欠き …… 453
図版 43　黒色土器椀・体部打ち欠き …… 454
図版 44　黒色土器椀・体部打ち欠き …… 455
図版 45　土師器椀・杯体部打ち欠き …… 456
図版 46　土師器椀・杯体部打ち欠き …… 457
図版 47　灰釉陶器・土師器体部打ち欠き・土師器風炉 …… 458
図版 48　土師器羽釜・円筒埴輪・焼成時破裂痕 …… 459

第Ⅰ章　調査と整理の経緯

1　調査の経緯

(1)　四国横断自動車道と遺跡の関係

四国横断自動車道は、徳島県阿南市を起点に、徳島市、香川県高松市を経て愛媛県大洲市に至る延長400km の高規格道路である。このうち阿南 IC（仮称）～徳島東 IC（仮称）間「以下「阿南～徳島東間」という。」は、県庁所在地である徳島市の沿岸部を通過し、県南の阿南市へと至る約 17.7km の区間である。阿南～徳島東間は、国土開発幹線自動車道建設会議において決定された新直轄方式により整備が進められている。これにより、慢性的な渋滞の緩和、医療機関への搬送時間の短縮や災害時の緊急輸送道路、産業活動の活性化、観光客の増加など多方面への効果が期待されている。

本報告書に掲載される新居見遺跡は、阿南～徳島東間のうち、阿南 IC（仮称）～小松島 IC（仮称）間「以下「阿南～小松島間」という。」の約 10km の路線のうち、小松島市新居見町字山路に所在する。遺跡は田野山地の北麓にあたり、ここより南側には新居見トンネルが建設される予定である。

阿南～徳島東間では、新居見遺跡のほか、田浦遺跡（小松島市田浦町字妙蓮・字子安）、奥角遺跡（小松島市田野町奥角）において発掘調査を実施している。

(2)　遺跡の確認

阿南～小松島間における文化財及び埋蔵文化財の取扱いについて、徳島県教育育員会は、平成 11 年 7 月 29 日付け「四国横断自動車道阿南～小松島の調査について」で高速道路推進局を通じ日本道路公

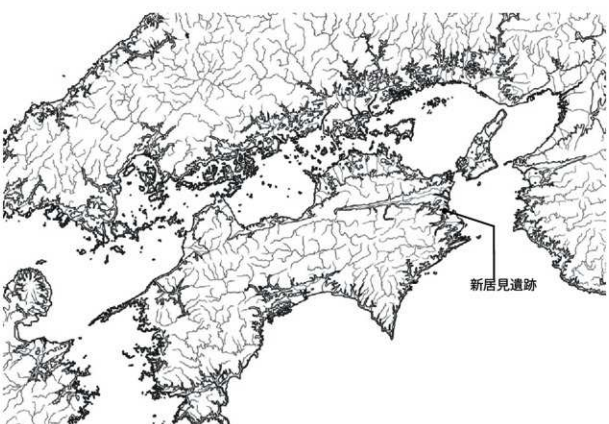


図 1　新居見遺跡位置図（S=1/500,000）

団徳島工事事務所長宛に提出している。平成 17 年の日本道路公団の分割民営化後は、西日本高速道路株式会社と協議を継続し、平成 17 年 12 月 26 日付けで「四国横断自動車道（小松島～鳴門）建設事業関連埋蔵文化財発掘調査協定書」が徳島県教育委員会教育長と西日本高速道路株式会社四国支社長との間で締結されている。

平成 18 年 2 月に四国横断自動車道のうち阿南～徳島東間が、西日本高速道路株式会社の施工から国土交通省が施工する新直轄区間へ移行したため、国土交通省徳島河川国道事務所と協議することとなったが、本路線における文化財及び埋蔵文化財の取扱いについては、前記協定書に基づくことで合意している。

山路地区には従来より古代中世の遺物が散布していたことにより、同地区は徳島県遺跡地図における

図 2　新居見遺跡調査地点（S=1/50,000）

東方向（新居見城・小松島湾）を望む

北東方向（津乃峰・勝浦川河口）を望む

北方向（三ッ岩山塊・眉山）を望む

西方向（前山・八多地区）を望む

周知の埋蔵文化財包蔵地（散布地 203-30）として扱われているため、試掘調査の対象となった。

遺跡の有無を確認するための試掘調査は、徳島河川国道事務所からの依頼（h21.7.30 国四整徳道一調第 62 号）を受けた徳島県教育委員会がこれを承諾（h21.7.30 教文課第 216 号）し、平成 21 年 8 月 26 日と 27 日の 2 日間で実施された。対象範囲は家屋等の移転が終了している 7,820 ㎡とし、計 22 箇所のトレンチが設定された。調査により平安時代から鎌倉時代にかけての集落遺跡を確認している。また、山麓部に設けられたトレンチでは、古墳時代の横穴式石室と思わせる列石状遺構が当該期の土器を伴って出土しており、複数時代の遺跡が重層的に形成されている可能性が考えられた。この試掘調査によって遺跡の存在が明らかとなったため、地名を採って「新居見遺跡」と呼称することとした。

徳島県教育委員会では、平成 21 年 9 月 11 日に国土交通省徳島河川国道事務所へ試掘調査の内容を報告し、工事着手前に発掘調査を実施して遺跡の記録保存を図ることで合意している。また、本線に伴って小松島市が施工する側道部分については、小松島市教育委員会が発掘調査することも併せて確認した。

(3)　発掘調査の経過と調査成果の公開

発掘調査は徳島河川国道事務所の委託を受けた徳島県教育委員会が、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター（当時は財団法人徳島県埋蔵文化財センター）に再委託して平成 21 年度から平成 29 年度にかけて実施した。各年度の調査期間、調査体制及び調査面積は以下のとおりである。

年度	調査期間	班体制	月数	表面積	延べ面積
平成 21 年度	平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日	2 班	5 ヶ月	2,780 ㎡	2,780 ㎡
平成 22 年度	平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日	1 班	6 ヶ月	2,600 ㎡	2,600 ㎡
平成 23 年度	平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	2 班	15 ヶ月	4,646 ㎡	6,700 ㎡
平成 24 年度	平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日	2 班	9 ヶ月	3,039 ㎡	3,625 ㎡
平成 25 年度	平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日	2 班	7 ヶ月	2,661 ㎡	2,661 ㎡
平成 26 年度	平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	1 班	8 ヶ月	3,051 ㎡	3,051 ㎡
平成 29 年度	平成 29 年 8 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日	1 班	5 ヶ月	910 ㎡	2,280 ㎡
令和 2 年度	令和 2 年 4 月 1 日～令和 2 年 6 月 30 日	1 班	3 ヶ月	1,134 ㎡	1,134 ㎡

発掘調査は、平成 21 年度に新居見遺跡山路地区と柳内地区から着手され、それぞれ B 区・A 区と呼称し、教育委員会試掘調査成果を元に古代～中世の遺構面を想定して発掘調査が行われた結果、B 区（山路地区）において、中世の遺構面と 12 世紀後半の遺構面の他、古墳時代後半～飛鳥時代初頭の包含層と遺構面が確認された。以降、連続する地籍を調査区として設定する形で進行した。平成 22 年度は山路地区と柳内地区の前年度に連続する地点の発掘調査を実施し、山路地区（旧 B2 区）において縄文時代～弥生時代後期の遺構面が展開することが確認された。また柳内地区においても北側へ遺構面が展開することが確認された。平成 23 年度は山路地区、高内地区、柳内地区で発掘調査を実施した。高内地区と柳内地区では中世後半の集落が、山路地区では古代末～中世の集落が確認された。平成 24 年度は、柳内地区と山路地区で発掘調査を実施した。山路地区では古墳時代後期の小型墳や縄文時代の遺構を確認した。平成 25 年度は、高内地区、柳内地区で発掘調査を実施し、中世後半の集落と墓域を確認した。平成 26 年度は高内地区、柳内地区において、中世後半の方形区画屋敷地が連続する集落を確認した。

発掘調査期間中は、現地説明会の開催や報道発表と併せて、小松島市立見安小学校の見学会、各調査年度には徳島県立埋蔵文化財総合センターにて開催された「発掘とくしま」において調査成果の紹介に努めた。

2　発掘調査の方法

(1)　調査区の設定

調査対象地点は新居見町内の複数の小字にまたがっていることから、柳内地区を A 区、山路地区を B 区、高内地区を C 区と仮称した。更に、筆単位および調査着順に 1 から番号を付与した。

(2)　グリッドの設定

平成 21 年度は、A 区及び B 区の発掘調査実施するにあたり、第Ⅳ系 X＝110,850、Y=98,000 を中グリッドの基準点α - 1 として設定した。平成 22 年度は、測量および図化の基準として世界測地系座標（平成 14 年 4 月施行）を用いた。X=110,500、Y=98,000 を本遺跡の測量原点として、大グリッド（一辺 500m）L0c.1 を設定した。更に大グリッドを一辺 100m 毎の中グリッドに分割し、基準点より北方向へα・β・γ・δ・εと、東方向へⅠ・Ⅱ・Ⅲと呼称し、αⅠ・αⅡ・βⅡと表記した。各中グリッド南西隅を基点として、一辺 5m 毎に東西方向に西から 1，2，3，4，…20、南北方向に南から a，b，c，d，e…t の名称を与え、a 1，b 2，c 3 等の表示する小グリッドを設定した。標高については東京湾標

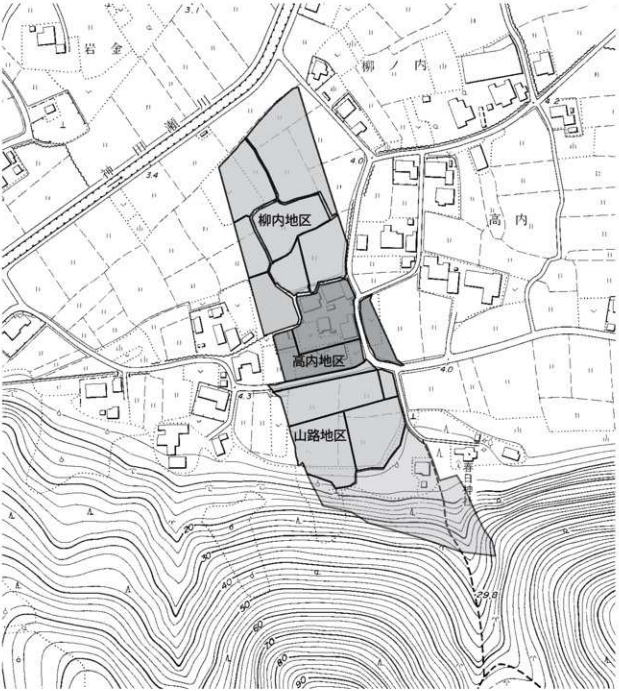


図 3　新居見遺跡調査地点（S=1/2,500）

準潮位（T.P）を使用した。

なお遺跡名称については、『徳島県遺跡地図』散布地 203-30 に該当することから、新たに町名をもって新居見遺跡と呼称することとした。

3　整理の経緯

新居見遺跡における発掘調査では、コンテナ 407 箱の遺物が出土した。整理作業は、発掘調査同様に徳島河川国道事務所の依頼を受けた徳島県教育委員会が、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターに

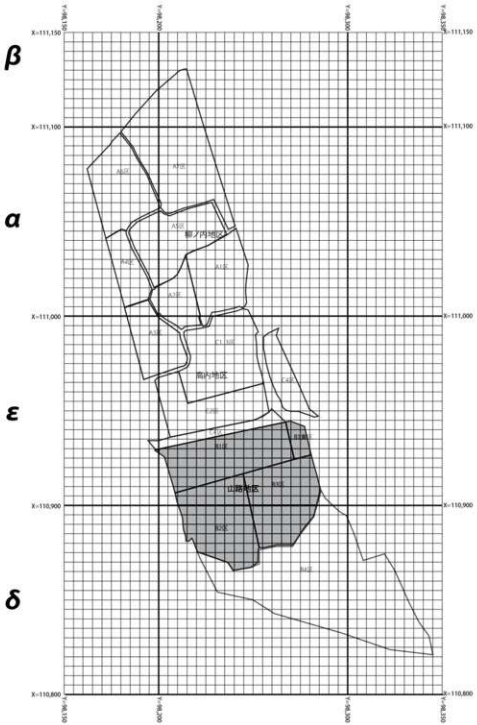


図４　新居見遺跡調査区・グリッド配置図

再委託して実施している。

平成 27 年 7 月 1 日から平成 30 月 3 月 31 日までの延べ 47 ヵ月間の作業で、コンテナ 548 箱の整理作業を終了したため、第 1 分冊となる縄文・弥生時代編を刊行した。引き続き、平成 31 年 4 月 1 日より令和 3 年 3 月 31 日までの延べ 24 ヶ月の作業で第 2 分冊となる古墳時代・古代篇を刊行することとした。

発掘調査の終了に伴い、発掘調査報告書を刊行する運びとなり、(公財) 徳島県埋蔵文化財センターが、平成 27 年 7 月 1 日より遺物整理及び報告書作成に当たることとなった。出土遺物総点数は 179,260 点、

コンテナ換算箱数 407 箱を数えることから、研究員 1 名に整理作業員 4 名の体制で年間 170 箱の整理作業を行う徳島県教育委員会策定標準歩掛りを適用して、整理にかかる期間は 90 ヶ月とした。平成 27 年度は 3 班体制で 11 ヶ月、平成 28 年度は 2 班体制で 24 ヶ月、平成 29 年度は 2 班体制で 12 ヶ月と、3 カ年で総計 47 ヶ月分の整理作業を実施した。

整理業務内容は、遺物洗浄・注記・接合・復元・実測・トレース、遺構検討・トレース、観察表作成、遺物写真撮影、原稿執筆、編集である。整理期間が 90 ヶ月に及ぶため、報告書刊行は時代毎にまとめることと成り、第 1 分冊は縄文時代及び弥生時代に関する遺構・遺物の報告とする。第 2 分冊は古墳時代と及び古代に関する遺構・遺物の報告とする。

平成 27 年度に基礎整理である遺物洗浄・注記・接合と実測（報告書掲載）遺物の抽出を行った。平成 28 年度は縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代の遺物実測、遺物写真撮影と遺構トレースを行った。平成 29 年度は遺構トレース、中世の遺物実測と第 1 分冊の原稿執筆・編集を行った。平成 30 年と令和 1, 2 年度は、第 2 分冊の原稿執筆・編集を行った。

4　業務の体制

発掘調査体制及び報告書作成体制は、下記表の通りである。

年度	事業	理事長／所長	常務理事／所長	常務理事兼事務局長	総務課長	調査／事業課長	調査第一係長	担　当	非常勤職員
平成21	発掘調査	福家清司	阿部修三	近松克仁	三好修基	石井伸夫	藤川智之	久保脇美明・近藤　玲・田川　憲・西本和成	伊部恵梨子、田川一志、栗林千恵、近藤ゆかり、瀬尾誠、古川裕美、山路武、天白睦美
平成22	発掘調査	福家清司	平尾恭二	菅原康夫	三好修基	藤川智之	原　芳伸	原　芳伸・栗林誠治・大北和美・田川　憲・井上拓春・矢野佳和	伊部恵梨子、田川一志、栗林千恵、近藤ゆかり、瀬尾誠、古川裕美、山路武、天白睦美、芝馬祐子、栗田真由美、上田敦子
平成23	発掘調査	福家清司	平尾恭二	菅原康夫	諏訪明彦	藤川智之	－	久保脇美明・栗林誠治・大北和美・佐藤誠祐	古川裕美、遠部早苗、栗林千恵、近藤ゆかり、天白睦美、芝馬祐子、栗田真由美、瀬尾誠子、伊部恵梨子
平成24	発掘調査	佐野義行	小西　孝	菅原康夫	諏訪明彦	藤川智之	－	氏家敏之・原　芳伸・島田豊彰・近藤大雄・山下進人	遠部早苗、天白睦美、芝馬祐子、栗田真由美、近藤ゆかり、平津芙蓉、池田香織、山本裕孝、原田尚子、細川正樹、津坂章啓、玉置洋太郎、鈴木奈美、青木純
平成25	発掘調査	福家清司	菅原康夫	－	諏訪明彦	藤川智之	－	栗林誠治・田川　憲・近藤大雄・岩崎慎司	遠部早苗、天白睦美、芝馬祐子、栗田真由美、三木裕孝、細川正樹、鈴木奈美、藤原重月、竹本康浩、高橋優子
平成26	発掘調査	福家清司	菅原康夫	－	諏訪明彦	藤川智之	－	島田豊彰・市村　恵・山下智美	栗田真由美、細川正樹、鈴木奈美、増村友喜、田中良治郎
平成27	報告書作成	福家清司	菅原康夫	－	藤田吉則	藤川智之	－	榎地品彦・島田豊彰	堀田恵、西川早苗、藤澤栄世、吉岡希実子
平成28	報告書作成	福家清司	丸居昭彦	－	藤田吉則	藤川智之	－	栗林誠治・三好愛美	江口裕美、堀田恵、西川早苗、松田めぐみ、藤澤栄世、山田純、大西紀子、堀口春菜、井内加奈、前野義澄、添原智美
平成29	発掘調査	福家清司	丸居昭彦	－	藤田吉則	藤川智之	－	島田豊彰・曽根大地	渕崎遥之介
平成29	報告書作成	福家清司	丸居昭彦	－	藤田吉則	藤川智之	－	栗林誠治・近藤　玲	松田めぐみ、藤澤栄世、堀口春菜、井内加奈、前野義澄、添原智美、井内加奈、吉岡希実子、福原佳子
令和元	報告書作成	福家清司	浦浅利彦	－	住友　健／藤田智之	藤川智之／氏家敏之	－	岡田圭司	野野垣子、山本洋子、吉岡希実子、栗田真由美
令和2	発掘調査	福家清司	浦浅利彦	－	藤田智之	氏家敏之	－	島田豊彰・小林由徳	辰本和孝、美島秀和
令和2	報告書作成	福家清司	－	浦浅利彦	藤田智之	氏家敏之	－	栗林誠治	伊勢あゆみ、大伏美帆、堀田恵、堀口春菜、吉岡希実子

5　調査日誌抄

本発掘調査は平成 21 年 1 月 4 日から令和 2 年 6 月 30 日まで実施した。以下、第 2 分冊に掲載する古墳時代・古代の遺構・遺物が確認された山路地区を中心に、各年度調査担当者による調査日誌の抄録を掲載する。

平成 21 年度

2010 年

1 月 4 日　柳内 A1 区 調査区設定

1 月 25 日　柳内 A1 区 機械掘削

2 月 25 日　柳内 A1 区 人力掘削、平面図作成、写真撮影

3 月 30 日　柳内 A1 区 区埋め戻し

平成 22 年度

2010 年

9 月 3 日　山路 B1 区 機械掘削

9 月 29 日　山路 B2 区 第 1 遺構面遺構検出状況写真撮影

11 月 5 日　山路 B2 区 第 1 遺構面完掘状況写真撮影

12 月 1 日　山路 B1 区東 第 1 遺構面完掘状況写真撮影

12 月 8 日　山路 B1 区 第 2 遺構面完掘状況写真撮影

12 月 16 日　山路 B1 区東 第 2 遺構面遺構検出写真撮影

B1 区第 3 遺構面遺構検出写真撮影

12 月 24 日　山路 B1 区東 B2 区 第 2 遺構面完掘状況写真撮影

2011 年

1 月 20 日　山路 B2 区 第 3 遺構面遺構検出状況写真撮影

2 月 25 日　山路 B2 区 第 3 遺構面遺構写真撮影

3 月 5 日　現地説明会開催

3 月 10 日　山路 B2 区 第 4 包含層掘削

3 月 18 日　山路 B1 区 第 4 遺構面遺構精査

3 月 24 日　柳内 A2 区 埋戻し

平成 23 年度

2011 年

4 月 19 日　山路 B1 区 B2 区 第 4 遺構面検出

柳内 A3 区機械掘削

4 月 20 日　山路 B1 区 B2 区 第 4 遺構面遺構検出状況写真撮影

6 月 29 日　見安小学校 6 年生見学

8 月 3 日　山路 B1 区 B2 区 第 4 遺構面完掘状況写真撮影

9 月 1 日　山路 B1 区 B2 区 埋戻し

10 月 5 日　山路 B3 区 第 1 包含層掘削・遺構検出

10 月 13 日　山路 B3 区 第 1 遺構面遺構検出状況写真撮影

12 月 20 日　山路 B3 区 第 1 遺構面精査

2012 年

1 月 16 日　山路 B3 区 第 2 遺構面掘削

3 月 6 日　山路 B3 区 第 3 遺構面精査

平成 24 年度

2012 年

9 月 19 日　山路 B3 区 機械掘削

10 月 4 日　山路 B3 区 第 2 包含層掘削・遺構検出

10 月 10 日　山路 B3 区 第 2 遺構面検出状況撮影

調査前

機械掘削

作業風景

10 月 26 日　山路 B3 区 第 2 遺構面遺構写真撮影
11 月 16 日　山路 B3 区 第 3 遺構面写真撮影
12 月 7 日　山路 B3 区 第 4 遺構面遺構写真撮影
12 月 17 日　山路 B3 区 埋戻し

2013 年

1 月 10 日　柳内 A4 区 第 1 遺構面遺構検出状況写真撮影
1 月 21 日　山路 B3 区 埋戻し・整地
2 月 21 日　柳内 A4 区 写真撮影、柳内 A6 区 遺構掘削
3 月 13 日　柳内 A6 区写遺構完掘状況写真撮影

平成 25 年度

2013 年

4 月 22 日　柳内 A7 区 機械掘削
5 月 2 日　柳内 A3 区 機械掘削、柳内 A7 区 第 1 面検出写真
5 月 17 日　柳内 A3 区 第 1 遺構面検出状況写真撮影
6 月 12 日　柳内 A3 区 A7 区 第 1 遺構面遺構完掘状況写真撮影
6 月 27 日　柳内 A7 区 埋戻し
11 月 6 日　高内 C4-2 区　機械掘削・基準杭移設・調査区測量
11 月 13 日　高内 C4-2 区 第 1 遺構面完掘状況写真撮影
11 月 14 日　高内 C4-1 区 機械掘削・第 1 包含層掘削
11 月 22 日　高内 C4-1 区 第 1 遺構面遺構検出状況写真撮影
11 月 28 日　高内 C4-1 区 第 1 遺構面遺構完掘状況写真撮影
12 月 2 日　高内 C4-1 区 第 2 遺構面遺構検出状況写真撮影
12 月 4 日　高内 C4-1 区 第 2 遺構面遺構完掘状況写真撮影
12 月 9 日　高内 C4-1 区 第 3 遺構面遺構検出状況写真撮影
12 月 11 日　高内 C4-1 区 第 3 遺構面遺構完掘状況写真撮影
12 月 13 日　柳内 A3-A4 区 間第 1 遺構面遺構検出状況写真撮影
12 月 16 日　柳内 A3-A4 区 間第 1 遺構面完掘状況写真撮影
12 月 17 日　高内 C4-1 区 埋戻し

平成 26 年度

2014 年

8 月 1 日　資材搬入
8 月 20 日　C2 区祠調査
8 月 21 日　機械掘削
8 月 27 日　C4-3 区第 1 面完掘写真撮影
9 月 2 日　D1 区第 1 面完掘
9 月 5 日　C1･3 区機械掘削
9 月 22 日　C1･3 区第 1 遺構面遺構掘削
10 月 6 日　D2-2 区第 1 遺構面完掘写真撮影
11 月 10 日　A7-2 区機械掘削
11 月 17 日　C1･3 区第 1 遺構面完掘

2015 年

1 月 16 日　D3 区調査終了
3 月 5 日　A7-2 区第 1 遺構面完掘写真撮影
3 月 20 日　A7-2 区埋め戻し
3 月 27 日　A7-2 区埋め戻し完了。撤収

令和 2 年度

2020 年

4 月 1 日　調査準備
4 月 8 日　リース器材入札
4 月 14 日　作業員選考
5 月 1 日　山路地区機械掘削
5 月 11 日　第 3 包含層掘削
5 月 13 日　第 3 遺構面遺構検出・図化
5 月 19 日　第 3 遺構面遺構掘削
5 月 22 日　第 3 位湖面完掘状況写真撮影
5 月 25 日　第 4 包含層掘削、墓石撤去
6 月 16 日　第 4 遺構面完掘状況写真撮影
6 月 22 日　埋め戻し
6 月 26 日　埋め戻し完了、撤収

現地説明会

現地説明会

第Ⅱ章　地理的環境・歴史的環境

1. 地理的環境

徳島県の面積は約8割が山地であり、北から讃岐（阿讃）山脈、四国山地、剣山地、海部山地が東西方向に連なっている。讃岐山脈と四国山地の間には、中央構造線が東西方向に延び、北側の西南日本内帯と南側の西南日本外帯とに分割している。中央構造線に沿うように、高知県瓶ヶ森山を水源とする吉野川が、四国山地から紀伊水道へと東流しており、下流域沿岸部には沖積平野が拡がる。北側の内帯は中生代の和泉層群を主体とする讃岐山脈が、南側の外帯は三波川変成帯、御荷鉾緑色岩類、御荷鉾構造線を挟んで中生代の砂岩泥岩互層の秩父累帯北帯や黒瀬川構造帯（秩父累帯中帯）や三宝山帯（秩父累帯南帯）で構成される秩父帯が、仏像構造線を挟み中生代から古第三紀にかけて堆積した砂岩泥岩互層の四万十帯が配列し、四国山地と剣山地、海部山地を形成する。

小松島市は、勝浦川右岸の県東部沿岸に拡がる平野に位置し、市域全面積約7割が小松島湾を囲む形で発達した紀伊水道に臨む低平な沖積平野で構成されている。主な山塊としては、北東端には古生代三波川系結晶片岩層の日之峰山地が、市域の中央で平野部を南北に分けるように、西側は勝浦川沿岸から東側は小松島湾沿岸へと突き出ている形で、古生代秩父古生層の田野山地が延びている。田野山地南部には、櫛渕川を境に向山丘陵があり、阿南市との境界をなす。沖積平野は勝浦川と那賀川の堆積作用で沈降海岸が埋積されて形成されたものである。北側の徳島市との境には勝浦川が東流する。現在、田野山地より下流域では北流して日の峰山地北側で紀伊水道に流れ込む勝浦川であるが、かつては東流し、小松島平野を形成したと推定される。勝浦川は、秩父帯北帯を東流する河川で、総延長49.6㎞、流域面積は224㎢に及ぶ。中生代ペルム紀中古世剣山層群の砂岩層である勝浦郡上勝町剣山地雲早山東方を水源とし、上勝町域では中生代ペルム紀中古世剣山層群の砂質泥岩層や泥岩層を穿ちながら曲流・蛇行し、勝浦町域では中世代白亜紀有田世羽ノ浦層を蛇行しながらも北東方向へ貫流し、勝浦盆地内では中世代白亜紀中古世藤川層を貫流しながら低位段丘や沖積地を形成し、勝浦町沼江附近で北流に転じ、剣山層群砂岩層や徳島市飯谷地区のチャート層や凝灰岩層を穿ち、横谷を形成する。徳島市飯谷町や小松島市田浦町付近より沖積平野を形成し、徳島市津田町地域南部で東に向きを変え紀伊水道に注ぐ。勝浦川が現在の河道に固定されたのは、17世紀に徳島藩が旧勝浦郡田野村（現小松島市田野町）井口から旧勝浦郡大原浦（現徳島市大原町）千代ヶ丸にかけて前原堤を築堤したからであり、現在の小松島市田浦町や新居見町を東流する神田瀬川や芝生川は、勝浦川の旧河道もしくは支流である。南部の立江・櫛渕低地は、溺れ谷のような入江であった所が、向山丘陵に沿って東流し、さらに北東に向かって現在の目佐川の流路をとっていた那賀川の堆積作用によって、形成された低地である。東から西へ堆積し、ふさがれて逆三角州の形をとり湿地化し、形成された。南東部の坂野や和田島付近は那賀川の流出した土砂が、沿岸流や波浪の影響で再堆積することで形成され、数列の浜堤や砂丘の跡が認められる。

新居見遺跡の所在地である新居見町は、小松島平野西部の勝浦川礫質低地に位置する。勝浦川礫質低地は、勝浦川の堆積作用で生じた砂礫によって形成された扇状地性の三角州である。勝浦川が田野山地から平地へと出る田浦町井口付近を中心に、弧状に張り出す形をしている。海抜は井口付近が約10m、子安付近で約4m、近里付近で約3m、中田から日開野町付近にかけて約2.5mとなっている。新居見町は、神田瀬川の蛇行部と田野山地の間の地域に位置する。神田瀬川沿岸では、低湿地が広がっている様子がうかがえる。新居見遺跡は、田野山地北側の麓から神田瀬川右岸の旧自然堤防上に立地する遺跡である。

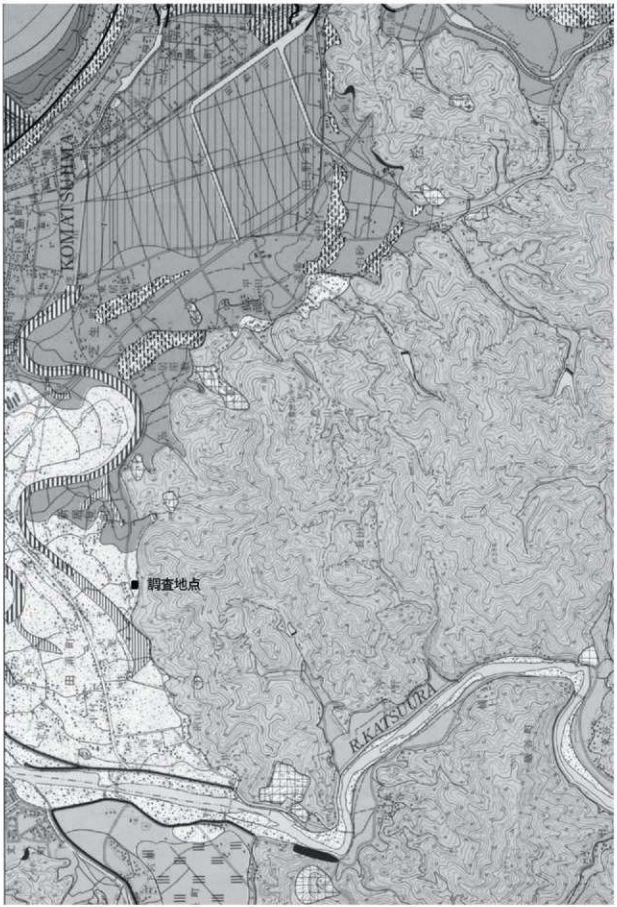


図 5　新居見遺跡周辺地形図（水害地形分類図）（S=1/25,000）

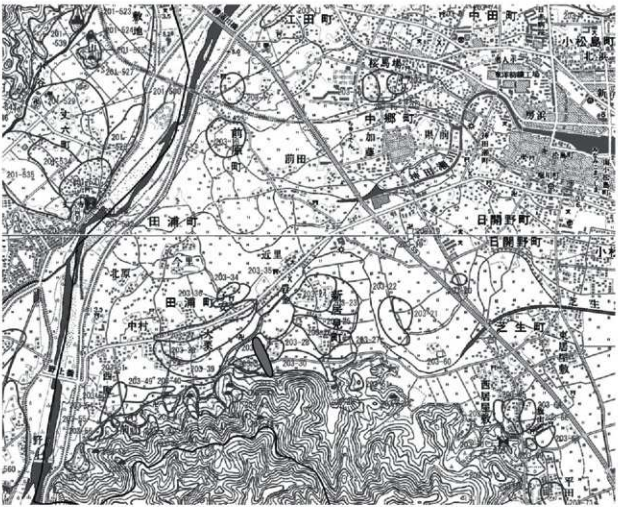


図６　新居見遺跡周辺遺跡図（S=1/25,000）

2. 歴史的環境

旧石器時代の遺跡は、勝浦川流域では確認されていない。那賀川支流域に位置する阿南市桑野町廿枝遺跡からは、チャートを主体としたナイフ形石器・石核・細石刃・掻器・尖頭器などが出土している。縄文時代の遺跡も、新居見遺跡を除き勝浦川流域では未確認である。弥生時代には、平野部にも分布するが、その発掘調査例は少ない。小松島市田浦町からは太形蛤刃石斧出土が確認されている。勝浦川北岸の徳島市渋野町渋野遺跡からは、遺構・遺物が確認されており、小規模ながら集落が展開したと推定される。徳島市多家良町では香川県高松市香東川流域産の甕形土器が採集されており、渋野遺跡と併せて勝浦川流域における拠点的集落が展開した下可能性が高い。田野山地東端に位置する小松島市赤石町勢合からは、中期後半にあたる扁平紐式銅鐸が出土している。７口の銅鐸が出土した星河内美田と同様の複数埋納と推定される。勝浦川北岸の徳島市八多町からは突線鈕１～２式銅鐸が、多家良町からは突線鈕５式銅鐸が出土した。

古墳時代前期前半における徳島市南部から小松島市にかけての地域では古墳築造は低調である。園瀬川南岸の七ッ山に小規模墳が築造されるが、明確に首長墳と位置づけられる古墳は定かでは無い。しかし前期後半には各水系群に首長墳と位置づけられる中型円墳が築造される。冨田浦を望む眉山東端には

勢見山古墳、園瀬川流域には巽山（星河内丸山）古墳が築造される。勝浦川水系では、南岸の田野山地尾根上に前山古墳が築造される。前山古墳は並行する竪穴式石槨と粘土槨を埋葬主体部とし、石槨内棺外に鉄剣・袋状鉄斧・鑿・ヤリガンナ・砥石・内行花文鏡が副葬される。中期初頭には、勝浦川北岸の三ッ時山南麓にマンジョ塚２号墳が築造され、当該地に徳島における主要中期古墳が連続して築造される。中期前葉には徳島県下最大級の前方後円墳である渋野丸山古墳が築造される。同古墳の築造を最後に徳島での前方後円墳の築造は停止する。勝浦川北岸地域では、渋野丸山古墳に続いて、新宮塚古墳や天王の森古墳が築造されるが、何れも結晶片岩製箱式石棺を埋葬主体に採用した20m級の円墳である。一方、勝浦川南岸の沖積平野には、子安観音古墳が築造される。墳丘形態・規模は不明であるが、地籍・ランドクルップより盾形周溝を伴う 60m 級の前方後円墳もしくは 40m 級の帆立貝形古墳であった可能性がある。埋葬施設は不明であるが、嘉永７年（1854）に金銅装の三角板鋲留短甲と小札鋲留胄の出土が伝わる(『阿波国勝浦郡田之浦村掘出古甲図』)。同一古墳群内で首長墳系譜が辿るのではなく水系群内(小地域内）において維持されたことが伺える。首長墳以外にも、地域的紐帯を表象する結晶片岩製箱式石棺を埋葬主体に採用した小墳墓が築造される。当該地では、鶴島山墳墓群、丈領古墳、芝生古墳群、日の峰所在や井口所在の箱式石棺等である。後期前半に築造された横穴式石室を採用する古墳は不明である。田野山地北麓に立地する前山遺跡からは、普通円筒・朝顔形円筒埴輪と共に人物・盾形・岩見型盾形・蓋形・靫形・太刀形形象埴輪が出土した。古墳は未確認であり、古墳に樹立されたものではなく、埴輪窯の可能性も想定されるが、窯跡本体は未確認であり、埴輪集積遺跡もしくは古墳外での埴輪樹立祭祀遺構と考えられる。後期後半には津田浦群の恵解山古墳群や根郷古墳が築造されるが、当該地では不明である。後期末に田野山地東北端に位置する芝生町大嶽に弁慶の岩屋古墳が築造される。墳丘は流失が著しく規模は不明である。玄室は長方形プランを呈し、長さ 5.8m、奥壁幅 1.8m を測る。横穴式石室石材は一辺 1.5m を越える大型で、７世紀前半の築造と推定される。

古代の律令制下においては、小松島市北部は勝浦郡、南部は那賀郡に属した。『和名類聚抄』に記された勝浦郡域には、篠原郷・託羅郷・新居郷・余戸郷が設置される。篠原郷は徳島市丈六町・本庄町・渋野町・大松町・大谷町・方上町・西須賀町・小松島市前原町に比定されている。託羅郷は徳島市宮井町・飯谷町・八多町に比定されている。新居郷は小松島市田浦町・新居見町・田野町・芝生町・前原町・江田町に比定されている。余戸郷は小松島市中田町・中郷町から徳島市大原町にかけての勝浦川河口部に比定されている。那賀郡域には坂野郷が設置され、小松島市立江町・櫛淵町・坂野町・赤石町・大林町が比定されている。小松島市立江町立江馬渕遺跡と立江柳ノ内遺跡からは、平安時代以前からの律令祭祀を窺わせる木製品（斎串・人形・舟形等）や土器（黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器）が出土している。検出された遺構には、９～10 世紀を中心とした大規模な掘立柱建物も確認されている。この建物の規模と配置、出土遺物から、立江馬渕遺跡・立江柳ノ内遺跡にも、官衙施設があった可能性が高いと考えられる。小松島市大林町宮免遺跡からは、古墳時代から奈良・平安時代にかけての須恵器を中心とした遺物が出土している。

中世には勝浦庄・勝浦新庄・太奈保・坂野新庄・立江庄・櫛淵庄の諸荘園が成立した。勝浦新庄は篠原庄を前身とし、庄域の拡大と新規開発の進んだ沿岸地域を勝浦新庄と称したと推定される。太奈保は現田浦町・新居見町に比定され勝蓮院米料所である。坂野新庄は現坂野町に比定され建武年間に村岡武藤三郎入道殿跡に宛行されている。立江庄は現立江町に比定され牛牧庄（現阿南市阿南町）地頭職に預け置かれた。櫛淵庄は現櫛淵町に比定され山城国石清水八幡宮の庄園である。集落・官衙関連遺跡では、

宮免遺跡、立江馬渕遺跡、立江柳ノ内遺跡において消長が認められる。宮免遺跡は平安時代に始まり、鎌倉時代に拡大した集落遺跡であるが、室町時代以降は集落構成遺構が認められないことから生産域として変容したことが伺える。官衙も想定された立江馬渕遺跡と立江柳ノ内遺跡においても、中世の遺構・遺物は少なく、鎌倉時代には集落規模は縮小する。徳島市渋野町渋野遺跡では、室町期の炭窯遺構が確認されており、開発に伴う生産が伺える。徳島市丈六町丈領に所在する丈六寺 は、白鳳期の創建と伝えられ、京都仁和寺の末寺であった可能性や篠原庄に勢力を持つ田口氏に保護された可能性が指摘されている。明応元年（1492）阿波国守護細川成之により桂林寺金岡用兼を開山とし曹洞宗寺院として再興された。丈六寺境内遺跡からは、12 世紀後半の掘立柱建物群や池状遺構が、16 世紀代の盛土整地層、16 世紀末から 17 世紀にかけての土塁状遺構や溝状遺構が確認されている。掘立柱建物群は丈六寺前身の寺院関連の遺構ではなく中世村落関連遺構と推定される。勝浦川下流域における中世城館は、徳島市域に 11 ヵ所、小松島市域に 11 ヵ所存在していたと考えられている。所在地が比定されているものでは、徳島市丈六町熊山城跡、渋野町八多城跡、小松島市新居見町新居見城跡、櫛淵町櫛淵城跡があげられる。新居見城跡は標高約 45m の尾根上に立地し、曲輪・竪堀が残る。主郭は東西 28m、南北 23m を測る不整円形を呈し、東側には切崖を介して曲輪が連続する。

蜂須賀氏の阿波入部に伴い、小松島市域も藩領に含まれた。勝浦川南岸の勝浦郡田浦村（現小松島市）の井口から勝浦郡大原町（現徳島市）の千代ヶ丸にかけての右岸 4 ㎞にわたる前原堤が築かれた事により、勝浦川の河道が固定され、同時に干潟等の新田開発も進められた。

参考文献

阿部　猛 1997『日本荘園大辞典』東京堂出版
天羽利夫 1969「徳島県甘枝遺跡採集の石器－徳島県出土のナイフ形石器」「古代学」16-1
天羽利夫 1973「徳島県における横穴式石室の一様相」「徳島県博物館紀要」第 4 集　徳島県博物館
飯田　実 1963「前山古墳」徳島県教育委員会社会教育課
池邊　彌 1976「和名類聚抄郷名考證 増訂版」吉川弘文館
一山　典 1981『古墳時代の徳島市－理蔵文化財資料展－」徳島市教育委員会
梅原末治 1941「胴譯に関する若干の新知見」「考古学雑誌」31 巻 5 号　日本考古学会
梅原末治 1985「胴譯の研究」木耳社
勝浦郡教育委員会 1972「勝浦郡志」名著出版
角川日本地名大辞典編纂委員会 1986「角川日本地名大辞典 36 徳島県」角川書店
西田宏幸 1978「円筒埴輪総論」「考古学雑誌」日本考古学会
菅　英志 1979「日本城郭大系 第 15 巻」新人物往来社
元興寺文化財研究所 1979『徳島市鶴島山古墳群の調査－発掘調査報告書」徳島市教育委員会
栗林誠治 2013「渋野遺跡　徳島県埋蔵文化財センター調査報告書」第 83 集
栗林誠治 2014「勝浦川流域における前・中期古墳の動態」「青藍」10　考古学フォーラム蔵本
久保脇美朗 2006「立江馬渕遺跡　徳島県埋蔵文化財センター調査報告書」第 26 集　徳島県教育委員会
小林勝美ほか 1985「羽ノ浦町の考古学調査報告」「総合学術調査報告　羽ノ浦町郷土研究発表会紀要　第 31 号」徳島県立図書館
下田順一 2000「マンジョ塚 2 号墳（市道拡幅工事）」「徳島市埋蔵文化財発掘調査概要 10」徳島市教育委員会
下田順一 2006「渋野丸山古墳発掘調査報告書」「徳島市埋蔵文化財調査報告書」徳島市教育委員会
下中直人 2002「日本歴史地名大系 37 徳島県の地名」平凡社
菅原康夫 1988「日本の古代遺跡 37 徳島」保育社
高橋正則 1984「徳島県阿南市・甘枝遺跡採集の石器再考」「旧石器考古学」29　旧石器文化談話会
田中英夫 1968「徳島市渋野古墳群の出土品」「古代學研究」53　古代學研究會
徳島県教育委員会 1963「前山古墳」（徳島県文化財調査報告書 第 6 集）
原芳伸 2016「深瀬遺跡－都賀川河川改修事業（深瀬堤防）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」（徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 86 集）徳島県教育委員会
徳島県教育委員会 2011「徳島県の中世城館」徳島県教育委員会
三宅良明・勝浦康守ほか 2000「徳島市埋蔵文化財発掘調査概要 10」徳島市教育委員会
福家清司 1990「阿波国中世所領研究ノート」「四国中世史研究」1 号
小松島市教育委員会 2002「小松島市の文化財」

小松島市教育委員会 1964『小松島市古代文化のあと』
小松島市新風土記編纂委員会 2001『小松島市新風土記』
徳島県史編さん委員会 1964『徳島県史　第一巻』徳島県
近藤玲 2000「遺跡地図整備事業」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.12 2000 年度』徳島県埋蔵文化財センター
須崎一幸 2003「圃場整備事業関連調査」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.14 2002 年度』徳島県埋蔵文化財センター（立江柳ノ内遺跡）
須崎一幸 2004「宮免遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.15 2003 年度』徳島県埋蔵文化財センター
牧野浩章 1998「宮免遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.9 1997 年度』徳島県埋蔵文化財センター

表 1　周辺遺跡一覧

番号	名称	世界測地系X	世界測地系Y	面積（㎡）	所在地	時代	種別	主要遺構	出土遺物
201	S23	112977.269	97267.612	382173.0	徳島市勝占町	古墳、中世	散布地		
201	S24	陶開古墳	113077.266	97082.612	徳島市丈六町	古墳	古墳		
201	S25	熊山城跡	112977.269	97082.613	徳島市丈六町	中世	城館		
201	S26		112977.269	97082.613	徳島市丈六町	古墳、中世	散布地		
201	S27		112927.271	97082.614	徳島市丈六町	古墳	古墳		
201	S28		112377.294	96932.628	55500.9	徳島市丈六町	古墳、中世	散布地	
201	S29		112577.287	96932.623	222589.1	徳島市丈六町	古墳、中世	散布地	
201	S30		112552.287	96957.623		徳島市丈六町	古墳	古墳	
201	S31		112102.3	97057.632	74366.3	徳島市丈六町	古墳、中世	散布地	
201	S32	丈六寺	111977.304	97082.634	7877.6	徳島市丈六町	中世、近世	寺院	溝、土坑、ピット、その他（土器）
201	S33	丈六古墳	111877.309	97007.638		徳島市丈六町	古墳	古墳	
201	S34		112222.300	96857.632	69008.3	徳島市丈六町	古墳、中世	散布地	
201	S35		112177.315	96857.647	160026.5	徳島市丈六町	古墳、中世	散布地	
201	S39		113077.270	96857.614	40296.3	徳島市勝占町	古墳、中世	散布地	
201	S43		112717.288	96607.627		徳島市丈六町小谷	古墳	古墳	
201	S44		112827.286	96307.632		徳島市丈六町	古墳	古墳	
201	S45	花折塚古墳	112677.293	96267.635		徳島市丈六町葉	古墳	古墳	古墳（横式石槨）
201	S46	マンジョ塚2号墳	112522.298	96257.637		徳島市清野町	古墳	古墳	古墳（竪穴式石室）
201	S47	マンジョ塚古墳	112417.302	96282.638		徳島市清野町	古墳	古墳	古墳（円墳）
201	S60		110377.328	96582.651	130127.8	徳島市多家良町	古代、中世	散布地、遺物包含層	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	4		113377.132	100307.468	186339	小松島市中田町	弥生、古墳、中世	散布地	弥生土器、須恵器、土師器、陶器、瓦器、土製品（土錘）
203	11		113327.222	98497.577	53210.2	小松島市江田町			
203	12		113527.239	97757.599	48082.0	小松島市江田町	中世	散布地	
203	13	豊国神社の鍵石群	112827.205	99657.547		小松島市中郷町	近世	神社	その他（鍵石群）
203	14		112777.308	99107.550	13758.4	小松島市中郷町	古代、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	15		112777.213	99007.555	15826.4	小松島市中郷町	中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	16		112777.212	99032.554	171116.8	小松島市中郷町	中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	17		112752.254	98007.598	27454.3	小松島市田浦町			
203	18		112427.265	98007.606	53185.8	小松島市田浦町			
203	19	藤懸寺古瓦	111802.234	99207.569		小松島市日開野町	古代	寺院	瓦
203	20	峰田遺跡	111502.229	99532.561	5214.4	小松島市日開野町	中世	集落、散布地	土師、ピット、自然流路	須恵器、土師器土師、土製品（土錘）、鉄器（鏃）、銅製小柄
203	21		111277.252	99157.582	15907.0	小松島市日開野町	中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	22		111227.257	99057.588	32191.0	小松島市日開野町	中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	23		111377.267	98757.599	37616.6	小松島市新居見町	古墳、古代、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	24		111402.275	98557.609	51504.4	小松島市新居見町	中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	25		111227.276	98657.608	32138.9	小松島市新居見町	古代、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	26		111127.281	98607.613	50106.0	小松島市新居見町	古代、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	27		111027.277	98757.608	17379.0	小松島市新居見町	古代、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	28		111077.289	98457.622	32066.2	小松島市新居見町	古墳、古代	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	29		110927.282	98357.613	26752.5	小松島市新居見町	古代、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	30		110952.294	98432.627	47242.8	小松島市新居見町	古代、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	31		110977.304	98267.639	30499.3	小松島市新居見町	古代、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	32		111027.305	98157.639	23151.2	小松島市新居見町	古代、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	33		110877.314	98057.650	5796.0	小松島市新居見町	古墳	古墳	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	34		111427.297	98032.633	14297.8	小松島市田浦町	中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	35		111352.299	98057.634	14595.6	小松島市田浦町	古墳、中世	散布地	須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	36	子安観音古墳	111327.302	98007.638		小松島市田浦町	古墳	古墳	古墳（円墳）	鉄器（刀剣、甲冑）
203	37		111177.312	97857.648	40916.4	小松島市田野町	古代、中世	散布地	須恵器、土師器、埴輪、瓦、瓦器、瓦質土器、陶器、青磁、銅鏡、土製品（土錘、泥面子）、弥生石器（石庖丁）、石器（砥石、火打ち石、サヌカイト剥片）、石製品（勾玉）
203	38		111077.315	97857.651	73685.8	小松島市田浦町	古墳、中世	散布地	須恵器、土師器、埴輪、瓦、瓦器、瓦質土器、陶器、青磁、銅鏡、土製品（土錘、泥面子）、弥生石器（石庖丁）、石器（砥石、火打ち石、サヌカイト剥片）、石製品（勾玉）

番号		名称	世界測地系X	世界測地系Y	面積（㎡）	所在地	時代	種別	主要遺構	出土遺物
203	39		110902.320	97857.656	96768.7	小松島市田浦町	古墳、中世	散布地		須恵器、土師器、埴輪、瓦、瓦器、瓦質土器、陶器、茶臼、硯器、土製品（土錘、泥面子）、弥生石器（石庖丁）、石器（紡石、次打ち石、サヌカイト剥片）、石製品（勾玉）
203	40		110777.321	97857.658	7752.7	小松島市田浦町	古墳	散布地		
203	41		110752.316	98007.652	25252.4	小松島市田浦町	古墳	散布地、窯跡	埴輪（円筒、鍔瓶、盾、武人、人物、馬）	
203	42	山ノ神塚古墳	110827.317	98007.653		小松島市田浦町	古墳、古代	経塚、古墳	古墳（円墳）	石・ガラス製品（子持勾玉）
203	43	神子ノ内古墳	110777.317	97982.654		小松島市田浦町	古墳	古墳	古墳（円墳）	須恵器
203	44		110552.305	98307.641		小松島市田浦町	古墳	古墳	古墳（円墳）	須恵器、埴輪（人物、馬）、鉄器（剣、鉄鏃、直刀）
203	45		110677.319	97907.657	18046.7	小松島市田浦町	古墳	古墳		
203	46		110702.321	97757.657	13278.2	小松島市田浦町郡山	古墳	古墳		
203	47	郡山古墳	110702.321	97757.657		小松島市田浦町	古墳	古墳	古墳（円墳：竪穴式石室、粗竹形木棺、粘土槨）	石器（鏃石）、鉄器（鉄鏃、鉄斧、鉤、鞘）、銅鏡（倭製内行花文鏡）、人骨
203	48		110677.321	97632.656	8440.1	小松島市田浦町	古墳、古代、中世	散布地		
203	49		110702.324	97407.656	16268.3	小松島市田浦町	中世	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	50		110677.325	97257.655	17703.8	小松島市田浦町	中世	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	51		110627.323	97357.653	19930.3	小松島市田浦町神	古墳	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	52		110552.322	97382.655	7849.0	小松島市田浦町	古墳、古代、中世	散布地		
203	53		110477.320	97407.654	24394.6	小松島市田浦町	古墳	古墳		
203	54		110552.323	97257.654	1079.1	小松島市田浦町	古墳、古代、中世	散布地		
203	55		110502.322	97207.654	6850.0	小松島市田浦町	古墳	古墳		
203	56		110477.323	97157.654	4805.9	小松島市田浦町	古墳	散布地		
203	57	井口古墳	110277.317	97307.652		小松島市田浦町	古墳	古墳		
203	58		110352.321	97107.653		小松島市田浦町	古墳	古墳		
203	59		110277.321	97007.652	14968.6	小松島市田浦町	古墳、古代、中世	散布地		
203	60	川村塚経塚	111052.247	99432.575		小松島市日開野町	縄文	経塚		
203	61	新宮馬場跡	110827.277	98857.606	5695.8	小松島市新宮馬場	中世	城館		土師器、瓦器
203	62	女郎ヶ谷古墳	110727.268	99082.595		小松島市新宮馬場	古墳	古墳	古墳（横穴式石室）	
203	63	金鶏窯百姓	111052.126	102357.495		小松島市金鶏町	近世	その他（窯百姓）	その他（住居、火薬庫、射撃場等）	
203	64		110602.241	99982.555	16688.7	小松島市芝生町	中世	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	65		110627.242	99907.558	19969.2	小松島市芝生町	中世	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	66		110577.244	99907.558		小松島市芝生町	古墳	古墳		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	67		110577.247	99807.563	16037.6	小松島市芝生町	中世	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	68		110452.243	100082.551	117969	小松島市芝生町	中世	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	69		110427.266	100007.554	42900.9	小松島市芝生町	中世	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	70	弁慶の岩屋古墳	110427.254	99732.567		小松島市田野町	古墳	古墳		
203	71		110227.258	99782.566		小松島市田野町	古墳	古墳		
203	72		110202.258	99857.562		小松島市田野町	古墳	古墳		
203	73		110027.258	100182.546	41135.8	小松島市田野町	中世	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器
203	74		109977.261	100082.551	43810.3	小松島市田野町	古代、中世	散布地		須恵器、土師器、陶器、瓦器

第Ⅲ章　調査成果

1　山路地区基本層序（図7）

山路地区は、南端が田野山地北麓に接し、北側は旧神田瀬川自然堤防となり、発掘調査前現況は水田である。南側水田筆が一段高いことから、旧地形においても南から北へ緩やかに傾斜していたと推定される。現表土の水田耕作土及び床土下に第1包含層である灰黄色シルト質土層が堆積する。中世の遺構が検出された第1遺構面は標高約3.0mを測り、灰褐色ないし黄灰色粘性砂質土層である。中世の遺構は、旧地形の神田瀬川（旧勝浦川支流）砂礫がベースとなる埋没自然堤防上では1面のみであるが、やや低くなる後背地では埋没過程に沿って2時期にわたる事が確認された。このやや低い箇所に該当する中世遺構面を第2遺構面とする。主に山路地区北側半分と柳内地区で確認された。

古代末の遺構が検出された第3遺構面は灰褐色シルト質土層で、標高約2.8mを測る。古代末の遺構が検出された。古墳時代後期から飛鳥時代の遺物を含む第4包含層は暗褐色粘性砂質土層である。第4遺構面は褐色粘性砂質土層で、標高約2.6mを測る。なお、当初は第4遺構面までの遺構・遺物が確認されていたが、調査の進展により山路地区全体に縄文時代晩期から弥生時代後期に属する第5遺構面が展開することが確認された。神田瀬川旧河道堆積層を南側からの小扇状地を形成した河道が、切り合うことにより複雑な地形を形成したと推定される。

2　古墳時代遺構配置（図8）

山路地区古墳時代遺構面は、田野山地山麓と小扇状地扇央部から扇端部を中心に展開する。調査区東側の扇状地を形成する谷地形基部では遺構分布は疎で、扇端部が密となる。一方、調査区西側では山麓から扇状地扇央端まで遺構分布はやや密であるが、扇端部はやや疎となる。主要遺構は、墳丘が削平・流失した古墳の周溝と推定される周溝状遺構（SD）と、墳丘が明確ではない埋葬施設（ST）である。

3　古墳時代の遺構・遺物

(1) 落ち込み・自然流路（SR）

1号落ち込み（SR4001）（図9、10）

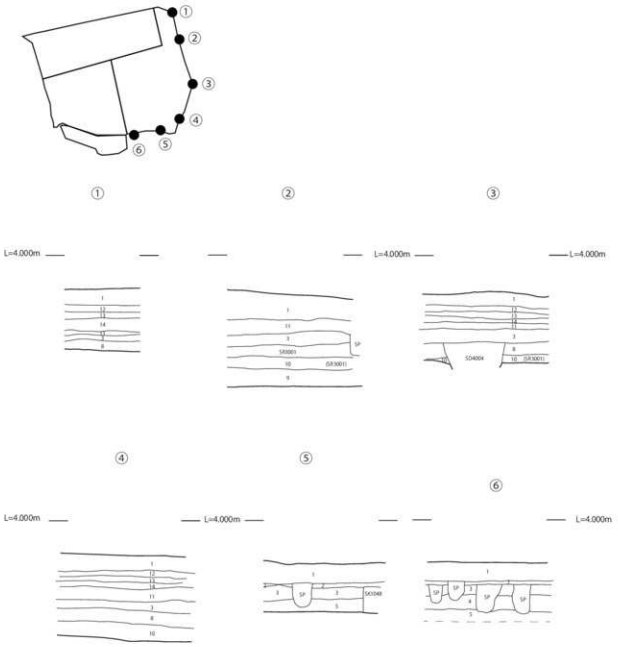
旧B1区D9,E9～G16,F16グリッドにて検出された浅い落ち込みである。

幅5.65m、深度0.3mを測る南西D9グリッドから北東方向へ延び、幅10.6m、深度0.4mを測るF12～G12グリッド付近を頂点として緩い弧を描ながら東南東方向へ幅11.0m以上、深度0.3mを測るF16グリッドまで延びる。D9グリッド側が上流であるが、下流側との比高差は少ない。北側は1号自然流路SR3001に切られる。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。南側田野山塊からの堆積作用により、北へ湾曲後に南へ曲がったと推定される。

周溝状遺構（SD）や埋葬施設（ST）が1号落ち込み埋没後に形成されることから、弥生時代後期後半から古墳時代中期前半に埋没したと想定できる。

2号落ち込み（SR4002）（図11～23）

旧B2区P10～T3グリッドにて検出された浅い落ち込みである。



1:オリーブ褐色(2.5Y4/6)粘質土　表土
2:褐色(10YR4/6)シルト
3:暗褐色(10YR3/4)シルト　第2遺構面、第3包含層
4:褐色(10YR4/6)シルト
5:褐色(10YR4/4)粘質土
6:暗褐色(10YR4/3)粘質土
7:にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト
8:褐色(10YR4/4)粘質土　第3遺構面
9:にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土
10:褐色(10YR4/6)シルト
11:オリーブ褐色(2.5YR4/6)シルト　第1遺構面、第2包含層
12:オリーブ褐色(2.5YR4/6)シルト
13:オリーブ褐色(2.5YR4/4)シルト
14:オリーブ褐色(2.5YR4/3)シルト 第1包含層

図７　調査区土層図

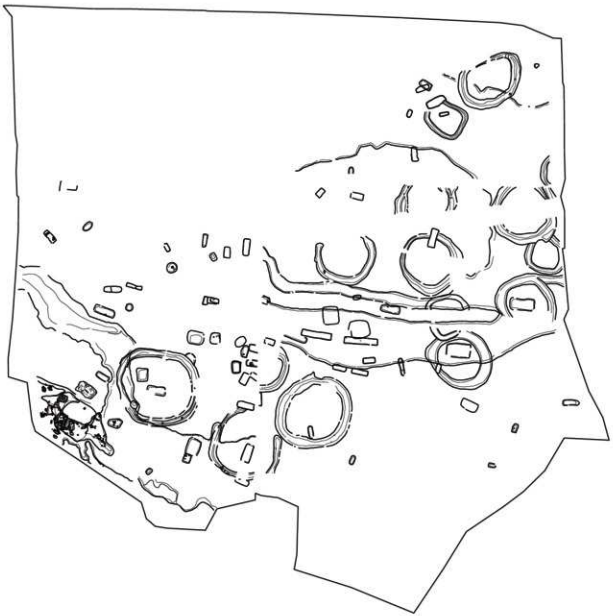


図 8　第 4 遺構面主要遺構配置図

幅 9.0m、深さ 0.25m を測る P10 グリッドから西へ延び、幅 6.0m、深さ 0.2m を測る P6 グリッド付近で一旦収束する。同地点で北方向へ直角に曲がるが、幅 3.3m と細くなる。R6 グリッド付近で北西方向へと延び、幅 2.9m を測る T3 グリッド付近で調査区外へと延びるが、その幅・深度共に減じると想定される。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や頁岩粒（地山岩盤）を多量に含む明黄褐色粘質土である。田野山塊裾部と旧神田瀬川旧河道が形成した自然堤防に挟まれた後背部が、田野山塊や旧河道の堆積により埋没していく過程において最後まで残った旧地形に起因する浅い落ち込みである。

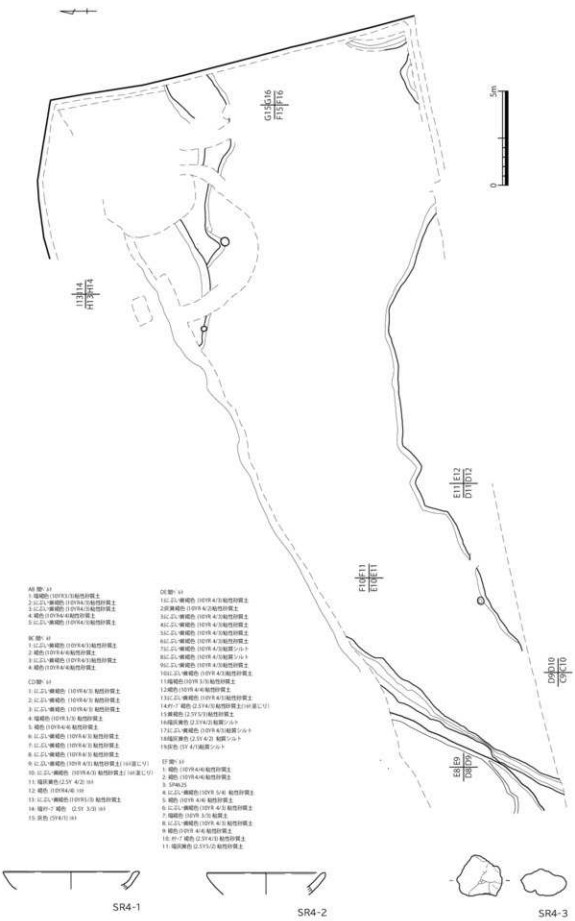


図９　１号落ち込み（SR4001）遺構図・遺物図（1）

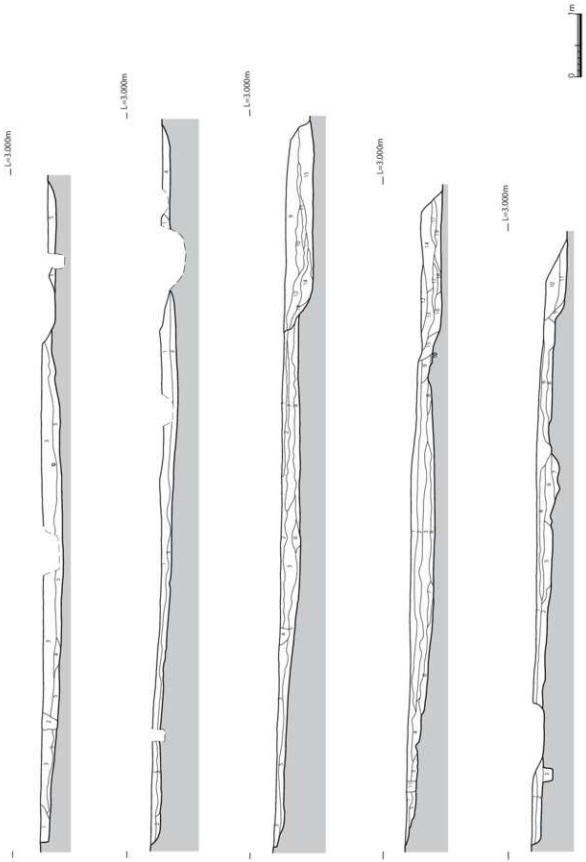


図 10　1 号落ち込み（SR4001）遺構図（2）

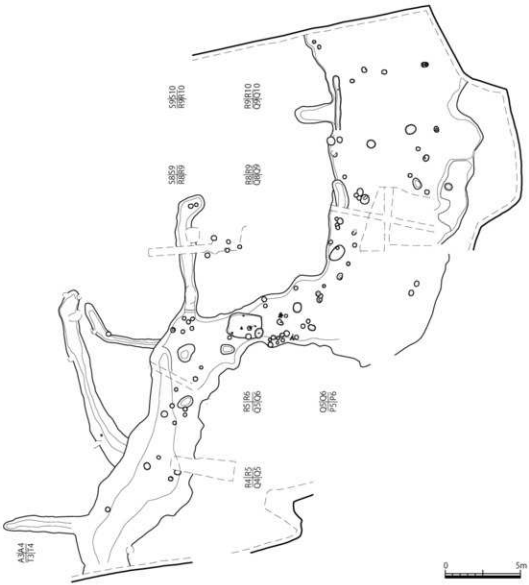


図 11　2 号落ち込み（SR4002）遺構図（1）

出土遺物は、古代に属する一群と、古墳時代後期に属する一群が多い。古墳時代後期に属する一群は、1 号墳（SM4001）に属すると推定され、P9,P10 グリッド付近より出土した。古代に属する一群は、東西方向に延びる一帯に集中した。杯須恵器杯身 SR4-5 は口縁端部に打ち欠きを施す。杯身 SR4-6 は口縁端部に打ち欠きを施し、胎土中に角閃石状の粒を含む。土師器皿 SR4-28 は底部に穿孔を施す。皿 SR4-29 は底部に外側からの穿孔を施す。皿 SR4-36 は外面に煤が付着する。SR4-51 は口縁部に打ち欠きを施した後に破断面にケズリを施して滑らかにしている。また底部外面に赤色顔料を塗布する。杯 SR4-55 は内外面に赤色顔料を塗布する。高台付椀 SR4-67 は体部に打ち欠きを施し高台付皿に転用している。高台付椀 SR4-71 は外面に赤色顔料を塗布し、高台部外面には白色粘土を使用する。高台付杯 SR4-72 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。高台付椀 SR4-73 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。高台付椀 SR4-77 は被熱に因る赤変が観察される。高台付椀 SR4-81 は体部に打ち欠きを施し

高台付皿に転用している。高台付椀 SR4-83 は内外面に赤色顔料を塗布する。高台付椀 SR4-84 は体部に打ち欠きを施した転用皿で、焼成や胎土の特徴から那賀川流域から搬入された可能性がある。高台付椀 SR4-85 は体部に打ち欠きを施した転用皿で、胎土の特徴から勝浦川流域の在地産と推定される。高台付椀 SR4-87 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。高台付椀 SR4-88 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。高台付椀 SR4-93 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。高台付椀 SR4-94 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。杯 SR4-96 には底部穿孔が施されている。高台付椀 SR4-98 は被熱による赤変もしくは赤色顔料塗布が観察される。杯 SR4-100 は内面に赤色顔料塗布もしくは化粧粘土塗布の可能性がある。杯 SR4-103 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。杯 SR4-84 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。高台付椀 SR4-109 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。杯 SR4-112 は底部に外側からの穿孔が施される。転用皿 SR4-113 は天部に穿孔が施される。高台付椀 SR4-115 は胎土中に雲母片が多いのが特徴である。転用皿 SR4-116 は胎土が白色系と赤色系がマーブル状に混じるのが特徴である。転用皿 SR4-118 は体部打ち欠きによる転用皿で、底部穿孔が施される。鉢 SR4-132 は被熱による赤変が観察される。鍋 SR4-134 は香川地域からの搬入と推定される。甕 SR4-149,SR4-151,SR4-152 は香川地域からの搬入と推定される。SR4-30,SR4-50,SR4-59,SR4-70,SR4-74,SR4-75,SR4-77,SR4-80,SR4-88,SR4-90,SR4-92,SR4-93,SR4-109,SR4-118,SR4-119,SR4-179,SR4-180,SR4-183 は黒色土器 B 類である。

遺構覆土には、勝浦川河川敷からの搬入石材となる結晶片岩割石や田野山塊由来の頁岩割石が点在することや、頁岩礫を多量に含む粘質土を含むこと、古墳副葬品や供献土器と推定される須恵器を含むことから、古代の段階において 1 号墳の破壊と落ち込みへの埋め立てが想定される。

出土遺物と遺構埋土から、古墳時代後期段階までの落ち込み形成と 10 世紀前半の埋め立てが想定される。

3 号落ち込み（SR4003）（図 24 ～ 26）

旧 B3 区 A10,B10 ～ B17,C17,D17 グリッドで検出された浅い落ち込みである。

1 号落ち込み（SR4001）に連続する落ち込みでもある。遺構覆土は、褐色シルト質土である。須恵器杯身 SR4-204,SR4-205 にはヘラ記号が施される。土師器高台付椀 SR4-208 は口縁端部に打ち欠きを施し、打ち欠いた端部に煤が付着することから灯明皿として転用している。須恵器壺 SR4-216 の底部には内側からの敲打による穿孔を施す。

周溝状遺構（SD）や埋葬施設（ST）が 1 号落ち込み埋没後に形成されることから、弥生時代後期後半から古墳時代中期前半に埋没したと想定できる。

（2）古墳（SM）・周溝状遺構（SD）

1 号墳（SM4001）（図 27 ～ 41）

旧 B2 区 P5,P6 グリッドにて検出された旧 SM1001,SM3001（仮）である。

当初、田野山地の山裾部として調査を開始したが、Q6 グリッド（同地点は山裾と旧水田の境界に位置する）にて、表土掘削時に包含層上面に露出する 2.5 × 1.5m 大の結晶片岩割石を検出した。山裾斜面部からも 1 × 0.5m 大の結晶片岩割石を確認した。斜面部割石は、斜面等高線に対して直交方向に 4

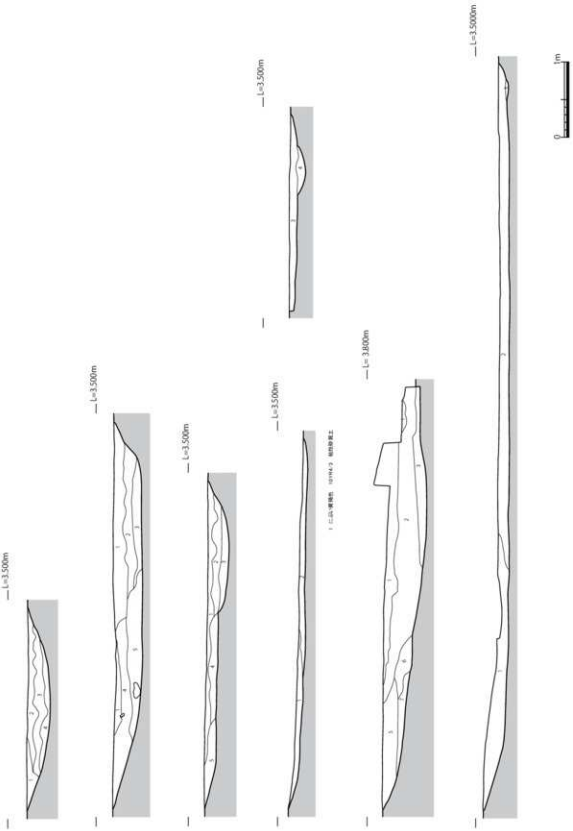


図 12(1)　2 号落ち込み（SR4002）遺構図（2）

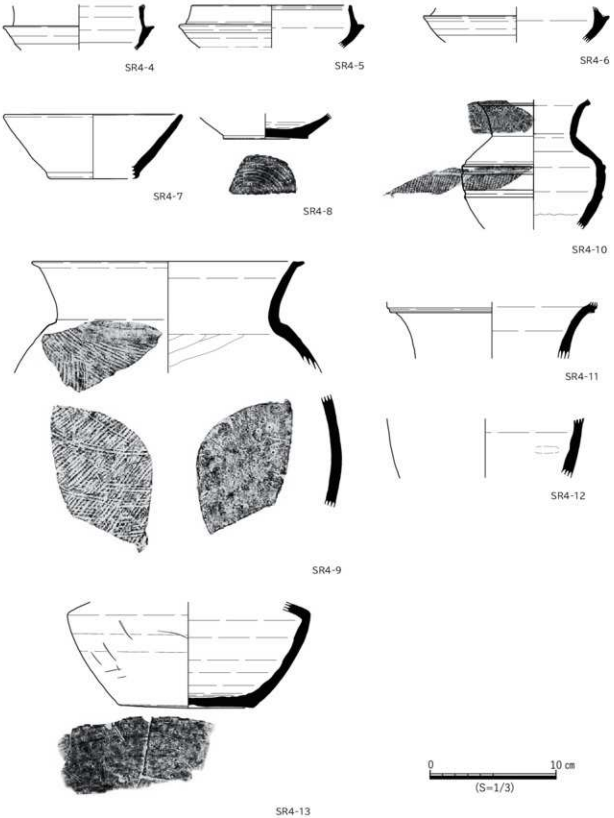
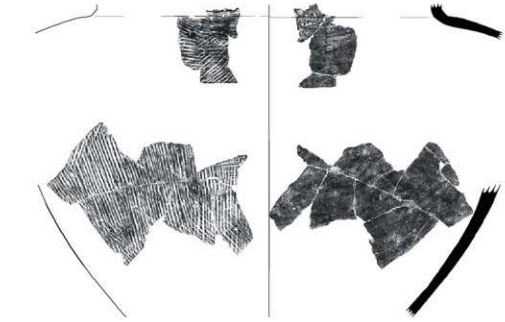
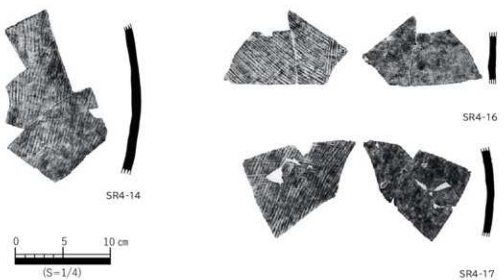


図 12(2)　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（1）





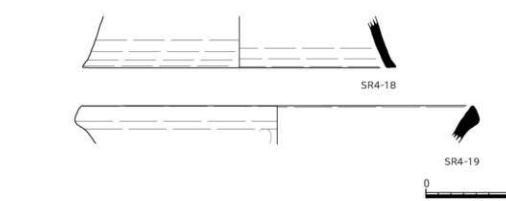


図 13　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（2）

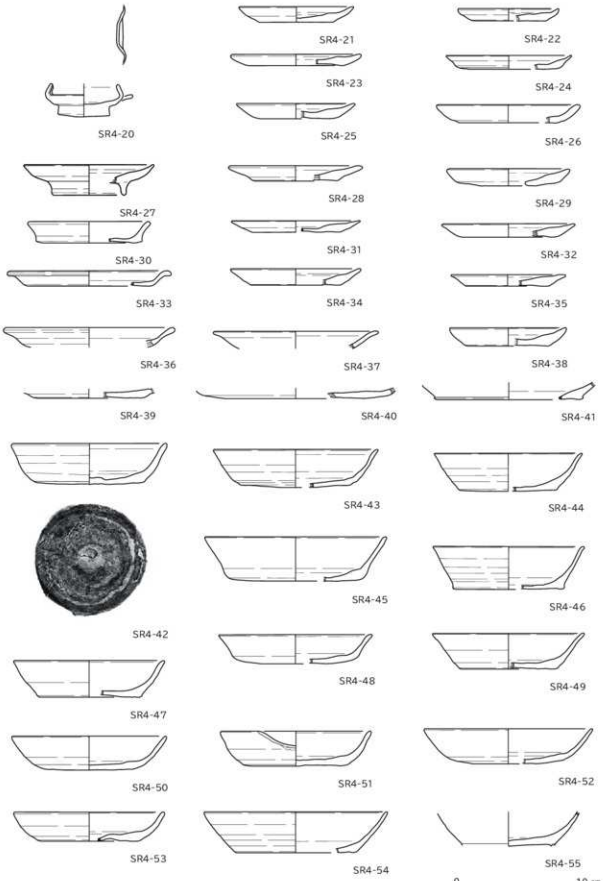


図 14 2 号落ち込み（SR4002）遺物図（3）

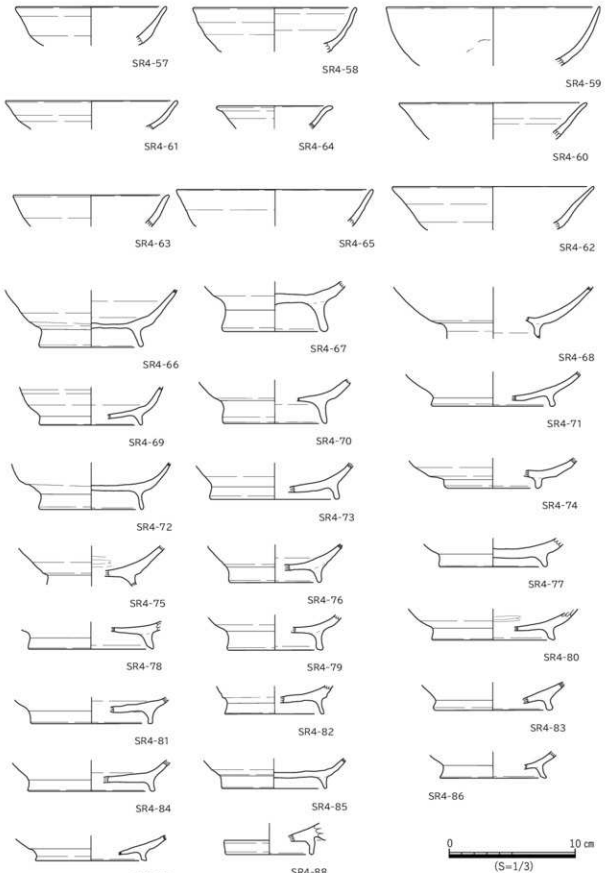


図 15　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（4）

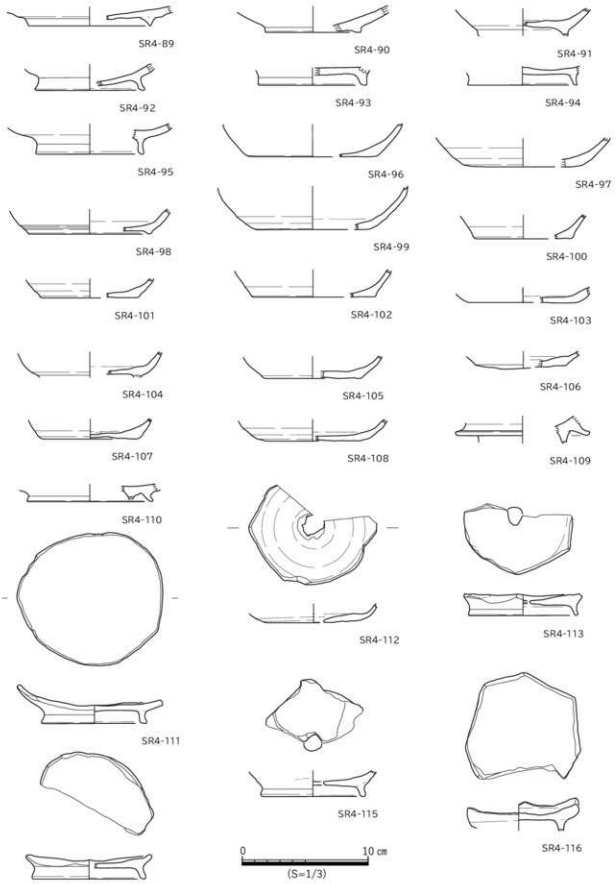


図 16　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（5）

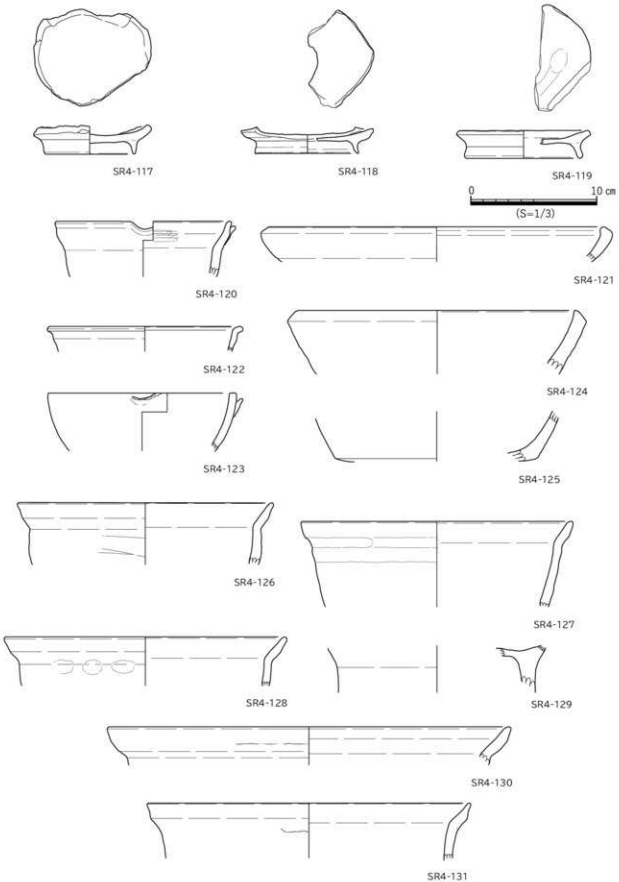


図 17　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（6）

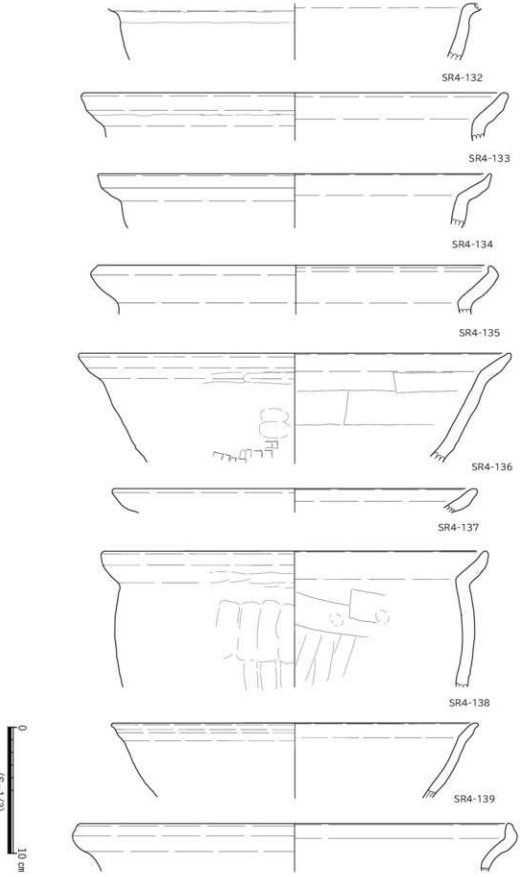


図 18　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（7）

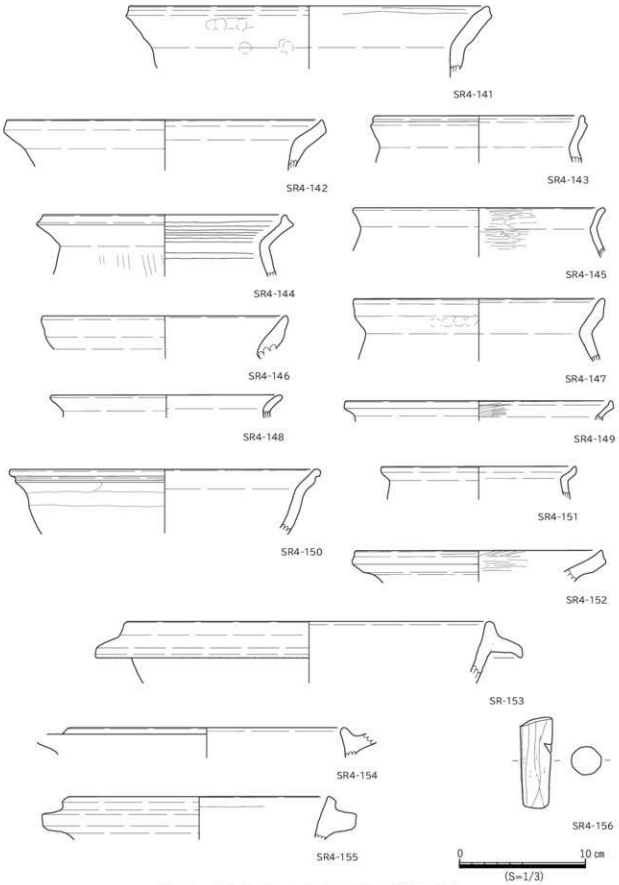


図 19　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（8）

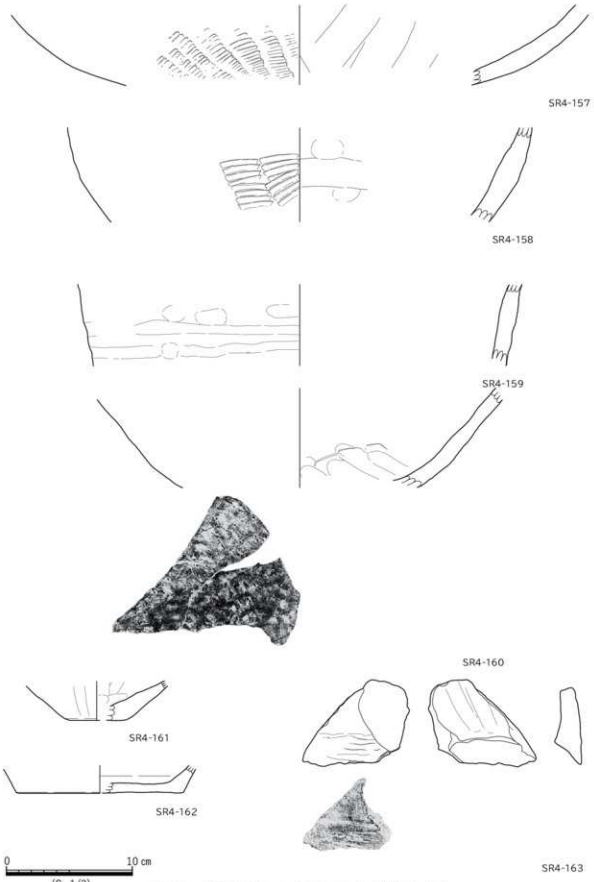


図 20　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（9）

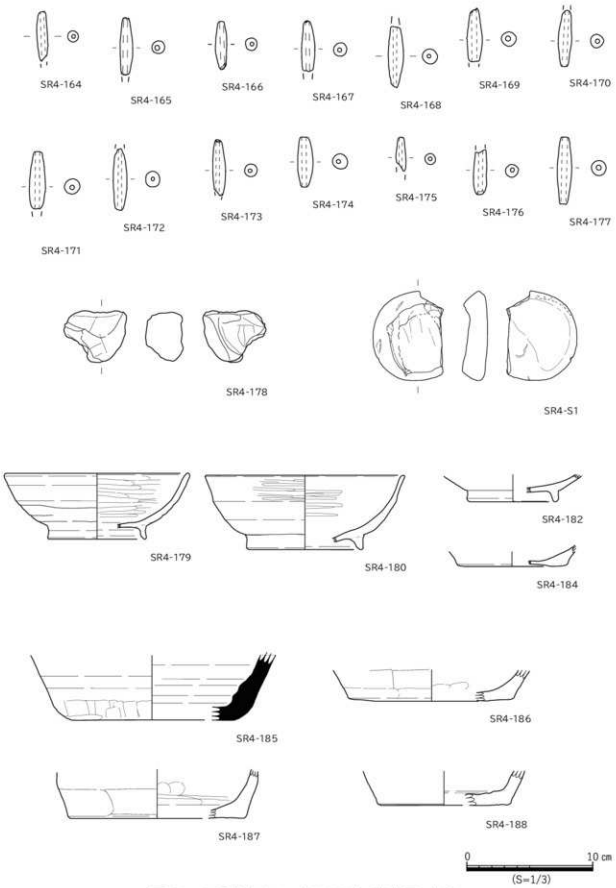


図 21　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（10）

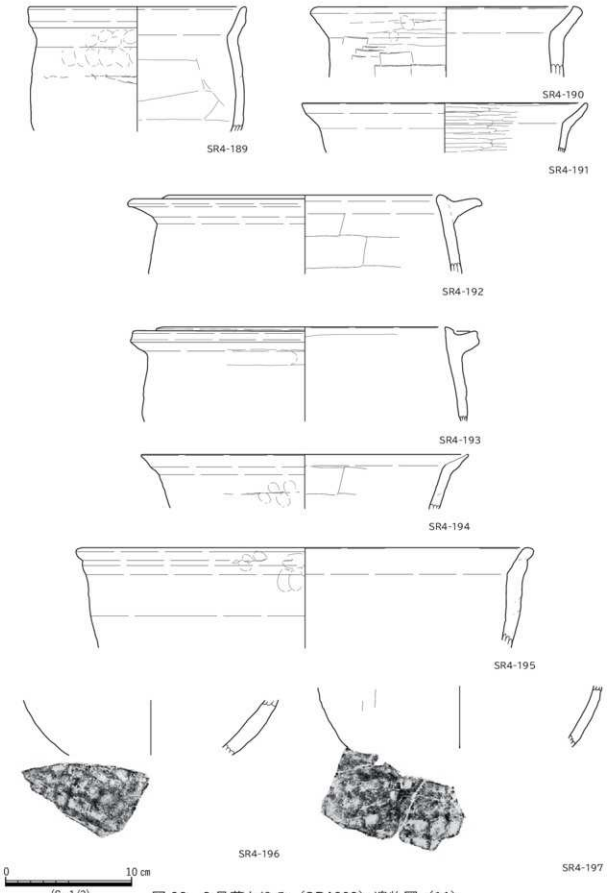


図 22　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（11）

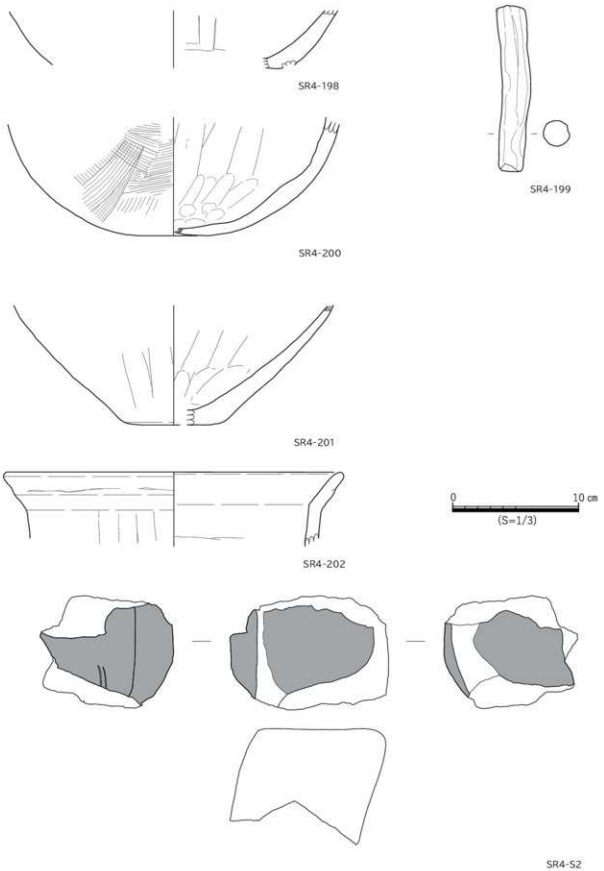


図 23　2 号落ち込み（SR4002）遺物図（12）

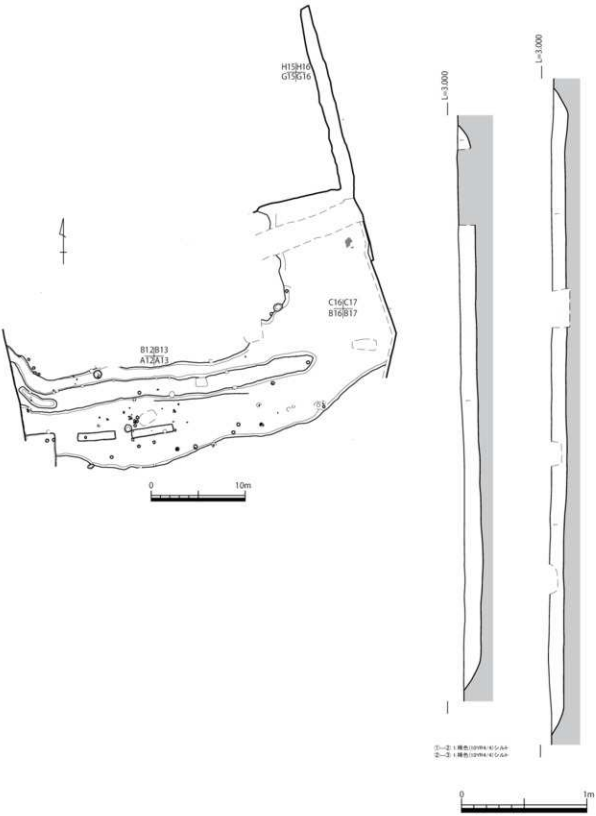


図 24　3 号落ち込み（SR4003）遺構図

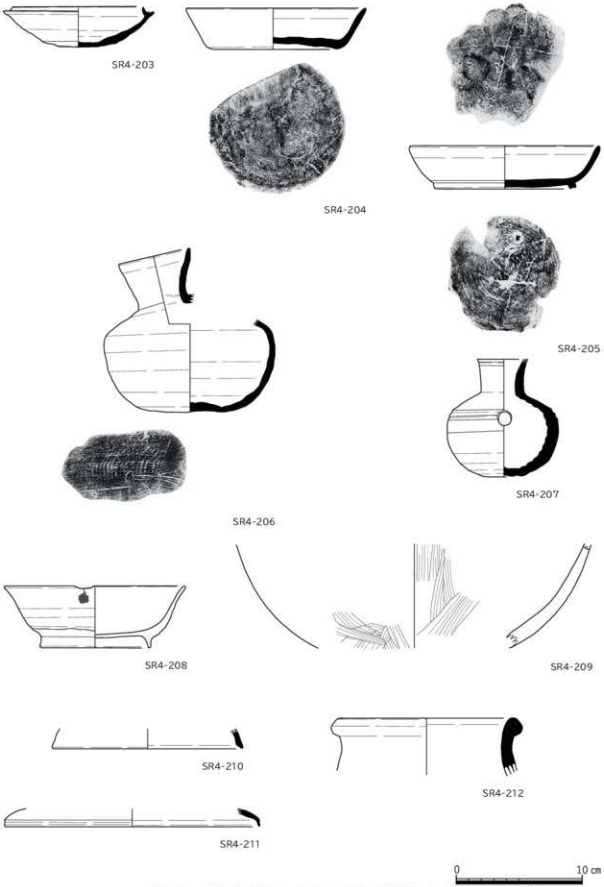
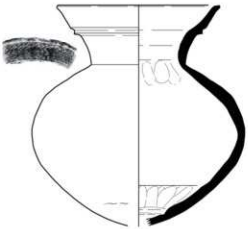
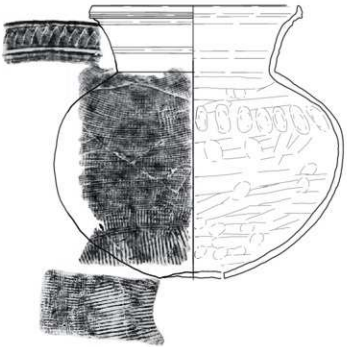


図 25　3 号落ち込み（SR4003）遺物図（1）

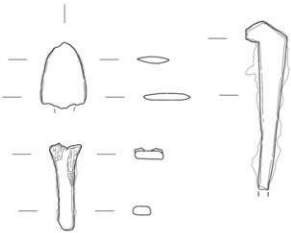


SR4-215

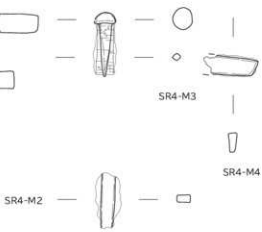


SR4-216

0 10 cm
(S=1/3)



SR4-M1



SR4-M2

SR4-M3

SR4-M4

SR4-M5

SR4-M6

0 5 10 cm
(S=1/2)

表 2　自然流路出土鉄器観察表

番号	遺構	器種	全長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	実測番号
SR4-M1	SR4002	鏃	(8.1)	(2.5)	(0.7)	3801
SR4-M2	SR4002	釘	(8.9)	2.2	1.1	4405
SR4-M3	SR4002	釘	(3.4)	1.25	1.2	4409
SR4-M4	SR4002	刀子	(2.9)	1.1	0.48	4407
SR4-M5	SR4002	鏃	(2.9)	1.3	0.4	4408
SR4-M6	SR4002	鉄滓	7.9	8	3.3	4406

図 26　3 号落ち込み（SR4003）遺物図（2）

表 3　自然流路出土土器類観察表

番号	遺構	種別	器種	法量（cm）	粒径（mm）	密度	成成	胎土組成	色調	調整	備考
SR-1	SR001	土師器	杯	高（1.4） 口（10.7）	0.1～3.0	精 やや不	良	石・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	2821
SR-2	SR001	土師器	皿	口（9.3）	0.1	精	良	石・赤・泥	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	2841
SR-4	SR002	須恵器	杯身	側：（12.0）	～1.0	精	良	石・長・黒	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	5991
SR-5	SR002	須恵器	杯身	口（12.6） 側：（14.8）	0.1～2.0	精	良	長・黒	外：青灰（5PB5/1） 内：明青灰（5PB7/1）	口外：回転ナデ→打ち欠き／内：回転ナデ・側下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	別転方向下から見て反時計回り。口縁部打ち欠き。4258
SR-6	SR002	須恵器	杯身	側：（14.8）	～1.0	精	良	長・角	外：灰（7.5Y4/1） 内：灰（N8/0）	側上外：回転ナデ→回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	口縁端部打ち欠き か？。胎土分析在地？。4278
SR-7	SR002	須恵器	椀	高 5.1 口（14.0） 底（6.8）	0.1	精	良	長	外：灰（N5/0） 内：灰（5Y5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4293
SR-8	SR002	須恵器	杯身	底 6.65	0.1～2.0	精 やや不	良	石・長	外：灰黄（2.5Y7/2） 内：灰黄（2.5Y7/2）	側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4357
SR-9	SR002	須恵器	甕	口（21.3） 胴（17.5）	0.2～1.5	精 良	良	結・石・長・チ	外：灰（N4/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：平行タタキ／内：ユビナデ	結晶片岩？クサレチャート含む。胎土分析在地？。3453
SR-10	SR002	須恵器	鉢	高（10.2）・胴 6.7 側（11.4	0.1～3.0	精 良	良	石・長・黒	外：灰（7.5Y6/1） 内：灰オリーブ（7.5Y5/2）	側外：回転ナデ→櫛状波状文（18 条 1.6 cm）／内：回転ナデ・側上外：刺突文（15 条 1.5 cm）／内：回転ナデ	白然砥付着。4628
SR-11	SR002	須恵器	壺	口（16.7）	0.1～0.5	精 良	良	石・長	外：灰（N6/0） 内：にぶい黄（2.5Y6/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ／内：回転ナデ	4257
SR-12	SR002	須恵器	壺		0.1～3.0	精 良	良	石・長・黒	外：灰（7.5Y6/1） 内：灰（7.5Y5/1）	側下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4365
SR-13	SR002	須恵器	長頸壺	側：（19.8）・底 10.5	0.1～4.0	精 良	良	石・長・泥	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	側下外：回転ナデ→ハラ状早？／内：回転ナデ・底外：ユビナデ／内：回転ユビナデ	4874
SR-14	SR002	須恵器	甕		0.1～3.0	精 良	良	石・長・泥	外：灰黄（2.5Y7/2） 内：灰白（2.5Y7/1）	側上外：平行タタキ／内：ユビナデ	4313
SR-15	SR002	須恵器	甕	側（37.8）	～3.0	良 やや不	良	石・長・泥	外：灰（N6/0） 内：灰白（N8/0）	口外：回転ナデ／内：ユビナデ・側上外：平行タタキ／内：ユビナデ・側下外：平行タタキ／内：ユビナデ	6071
SR-16	SR002	須恵器	甕		0.1～2.0	精 良	良	石・長・チ・泥	外：灰（N5/0） 内：灰（N5/0）	側上外：平行タタキ／内：ユビオサエ→ユビナデ	6073
SR-17	SR002	須恵器	壺		0.1～1.5	精 良	良	石・長・黒	外：黄灰（2.5Y6/1） 内：灰（N4/0）内：灰（N5/0）	側下外：平行タタキ／内：ユビオサエ→ユビナデ	6075
SR-18	SR002	須恵器	器台	底（24.9）	0.1～3.0	良 やや不	良	石・長・泥	外：青灰（5PB6/1） 内：灰（5Y4/1）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4363
SR-19	SR002	須恵器	ニぬ鉢	口（31.0）	0.1～8.0	良 やや不	良	石・長・雲・赤	外：灰（5Y4/1） 内：灰白（2.5Y7/2）	口外：回転ナデ／内：ユビオサエ→回転ナデ	4284
SR-20	SR002	土師器	耳坏	高 2.6 口 7.6・底 4.2	0.1～5.5	やや精 不良	良	石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ→折り曲げ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4364
SR-21	SR002	土師器	皿	高（1.2）口（9.1）・底（6.0）	0.1～0.45	良 不良	良	長・雲・赤	外：明黄褐（5YR5/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4252
SR-22	SR002	土師器	皿	口（8.0）・底（6.0）	0.1～1.0	良 やや不	良	石・長・雲・赤	外：赤灰（5PR6/1） 内：灰黄（2.5Y6/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4358
SR-23	SR002	土師器	皿	高（0.9）口（10.0）・底（7.2）	0.1～3.0	良 やや不	良	石・長・チ・泥	外：明黄褐（10YR7/6） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側上外：ヨコナデ／内：回転ナデ・側下外：ヨコナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4212
SR-24	SR002	土師器	皿	高 1.1 口（9.9）・底（6.4）	0.1～2.5	精 良	良	長・雲	外：明黄褐（10YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4253
SR-25	SR002	土師器	皿	高（1.3）口（9.4）・底（5.8）	0.5～3.0	良 やや不	良	結・石・長・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4304
SR-26	SR002	土師器	皿	高（1.4）口（11.5）・底（8.0）	0.1～0.45	良 不良	良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：明褐（7.5YR5/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4249
SR-27	SR002	土師器	高台付皿	高（2.9）口（10.2）・底（5.55）	0.2～1.5	良 不良	良	石・長・金雲・角・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4227
SR-28	SR002	土師器	皿	口（10.2）・底（6.4）	0.1～4.0	精 やや不	良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	底部穿孔？。4255
SR-29	SR002	土師器	皿	高（1.3）口（9.6）・底（7.5）	0.1～6.0	やや精 やや不	良	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：褐灰（10YR5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	底部穿孔（外側より）。4206
SR-30	SR002	土師器	皿	高（1.7）口（9.4）・底（8.4）	0.1～2.0	良 やや不	良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：褐灰黄（2.5Y5/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：ユビナデ	4217
SR-31	SR002	土師器	皿	高（0.9）口（10.2）・底（7.1）	0.1～5.0	良 やや不	良	結・石・長・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黄橙（7.5YR8/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4393
SR-32	SR002	土師器	皿	高 1.05 口（10.3）・底（7.0）	0.1～4.0	精 良	良	長・チ・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り	4301
SR-33	SR002	土師器	皿	口（12.6）・底（9.8）	～1.0	精 良	良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラナデ？／内：回転ナデ	4387
SR-34	SR002	土師器	皿	高（1.3）口 10.2・底 7.4	0.1～3.5	やや精 やや不	良	石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4333
SR-35	SR002	土師器	皿	高（1.2）口 9.2）・底（6.6）	0.1～3.0	良 やや不	良	長・赤	外：黄橙（7.5YR7/8） 内：黄橙（7.5YR8/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4302
SR-36	SR002	土師器	皿	口（13.15）	0.1～1.5	精 良	良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ	外面煤付着。4259

番号	遺構	種別	器種	法量（cm）	粒径（mm）	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考
SR4-37	SR4002	土師器	皿	口（12.7）	0.2～2.0	硬 不良	石・長・雲・赤	外：灰白（10YR8/2） 内：浅黄橙（10YR8/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4314
SR4-38	SR4002	土師器	皿	高：1.45 口（9.2）・底（6.3）	0.1～3.0	良 不良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黄橙（7.5YR7/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4280
SR4-39	SR4002	土師器	杯	底（8.4）	0.1～4.0	良 やや不	結・長	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（5YR6/6）	底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4380
SR4-40	SR4002	土師器	鉢	底（11.0）	0.1～2.0	良 やや不	結・石・長・雲	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	底外：回転ヘラ切り→ナデ／内：回転ナデ	4383
SR4-41	SR4002	土師器	杯	底（9.6）	0.2～2.0	良 不良	石・長・金雲・角・赤	外：橙（2.5YR7/6） 内：橙（5YR6/6）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4385
SR4-42	SR4002	土師器	杯	高：3.2 口 12.15・底 8.8	0.1～8.0	良 やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラナデ／内：回転ナデ	在地、2695
SR4-43	SR4002	土師器	杯	高：3.5 口（12.9）・底（8.7）	0.1～2.5	やや極 不良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR7/6） 内：橙（5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4334
SR4-44	SR4002	土師器	杯	高：3.0 口（11.7）・底（7.5）	0.1～1.5	良 不良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	4376
SR4-45	SR4002	土師器	杯	高：（3.5）口（14.2）・底（10.6）	0.1～5.0	良 不良	石・長・雲・角・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4373
SR4-46	SR4002	土師器	杯	高：（3.4）口（12.6）・底（8.8）	0.1～3.0	良 不良	石・長・赤	外：明黄褐（10YR7/6） 内：褐灰（10YR4/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り	4386
SR4-47	SR4002	土師器	杯	高：（2.95）口（11.9）・底（8.0）	0.1～3.0	やや極 不良	石・長・チ・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黄橙（7.5YR8/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4273
SR4-48	SR4002	土師器	杯	高：（2.3）口（12.0）・底（10.0）	0.1～1.5	硬 不良	石・長・赤	外：明赤褐（2.5YR5/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラナデ／内：回転ナデ	4378
SR4-49	SR4002	土師器	杯	高：2.85 口（12.0）・底（7.3）	0.1～3.0	やや極 不良	石・長・チ・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4353
SR4-50	SR4002	土師器	杯	高：（2.6）口（12.2）・底（7.0）	0.5～5.0	良 不良	結・石・長・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：明赤褐（2.5YR5/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4277
SR4-51	SR4002	土師器	杯	高：（2.8）口（11.6）・底（7.0）	0.5～5.0	良 不良	結・石・長・金雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：浅黄橙（10YR8/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	口縁打ち欠きーつ又は数箇所、底部外面黒斑、赤色顔料分析、4337
SR4-52	SR4002	土師器	杯	高：（2.8）口（13.3）・底（5.4）	0.1～3.5	やや極 不良	結・長・雲・赤	外：橙（2.5YR6/8） 内：明赤褐（2.5YR5/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4359
SR4-53	SR4002	土師器	杯	高：（2.3）口（5.8）・底（8.0）	1.0～5.0	粗 やや不	結・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ→ユビオサエ	4332
SR4-54	SR4002	土師器	杯	高：3.25 口（14.5）・底（9.1）	0.1～3.5	やや極 不良	長・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（5YR7/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4291
SR4-55	SR4002	土師器	杯		0.2～2.0	良 やや不	石・長・金雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：ヘラナデ	内外面赤色顔料塗布、4275
SR4-57	SR4002	土師器	杯	口（11.8）	0.1～2.5	良 不良	結・石・長・雲・金雲	外：明赤褐（5YR5/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4281
SR4-58	SR4002	土師器	椀		0.5～3.0	良 不良	結・石・長・雲・赤	外：明黄褐（10YR7/6） 内：明黄褐（10YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4391
SR4-59	SR4002	土師器	椀	口（12.0）	0.1～3.5	良 不良	石・長・雲	外：橙（7.5YR6/6） 内：黒（7.5YR2/1）	口外：ヨコナデ／内：回転ナデ・胴上外：ユビナデ→回転ナデ、ヨコナデ／内：ヘラミガキ（暗紋）・胴下外：ユビナデ→回転ナデ、ヨコナデ／内：ヘラミガキ（暗紋）・底外：ユビナデ→回転ナデ、ヨコナデ／内：ヘラミガキ（暗紋）	4218
SR4-60	SR4002	土師器	杯	口（14.8）	0.1～5.0	硬 不良	結・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4348
SR4-61	SR4002	土師器	杯	口（13.6）	0.1～2.0	硬 やや不	結・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：黄灰（2.5Y4/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（暗紋）	4398
SR4-62	SR4002	土師器	杯	口（16.0）	0.1～5.0	硬 不良	石・長・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：明黄褐（10YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4349
SR4-63	SR4002	土師器	椀	口（12.4）	0.5～3.0	やや極 やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4371
SR4-64	SR4002	土師器	杯	口（8.8）	0.5～4.0	硬 やや不	結・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	4312
SR4-65	SR4002	土師器	杯	口（15.5）	0.1～1.0	良 やや不	結・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：黒（7.5YR2/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4389
SR4-66	SR4002	土師器	高台付椀	底 8.2	0.1～2.5	やや極 やや不	石・長・チ・赤・泥	外：浅黄橙（7.5YR8/4） 内：浅黄橙（10YR8/4）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→回転ナデ／内：回転ナデ	4345
SR4-67	SR4002	土師器	高台付椀	底（7.9）	0.2～4.0	良 やや不	石・長・雲	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/8）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	転用鉢の可能性あり、4276
SR4-68	SR4002	土師器	高台付椀		0.2～2.5	良 不良	石・長・チ・雲	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：灰（N5/0）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（暗紋）・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（暗紋）	4235
SR4-69	SR4002	土師器	高台付杯	底（8.2）	0.1～3.1	やや 堅不良	長・チ・雲・赤	外：橙（2.5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4341
SR4-70	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.0）	0.1～3.5	やや極 不良	石・長・雲	外：橙（7.5YR6/8） 内：黒褐（10YR3/1）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ（暗紋）	4292

番号	遺構	種別	器種	法量（cm）	粒径（mm）	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考
SR4-71	SR4002	土師器	高台付椀	底（9.6）	0.5～5.0	良 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4）内：橙（7.5YR7/6）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→ヨコナデ／内：回転ナデ	外面赤色顔料塗布、高台部外面化粧貼土？（白色粘）、4330
SR4-72	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.0）	0.1～4.0	やや粗 不良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6）内：橙（7.5YR6/6）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	転用品の可能性あり、4365
SR4-73	SR4002	土師器	高台付椀	底（10.0）	0.1～5.5	精 やや不	砂・石・長・雲・角・赤	外：橙（7.5YR6/6）内：灰（5Y4/1）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	転用品の可能性あり、4236
SR4-74	SR4002	土師器	高台付椀	底（7.2）	0.5～5.0	良 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4）内：暗灰黄（2.5Y5/2）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→ヨコナデ／内：回転ナデ、ヘラミガキ（?磨滅）	4395
SR4-75	SR4002	土師器	高台付椀	高（3.2）・底（7.1）	0.1～3.0	やや粗 不良	砂・石・長・雲・赤	外：明黄褐（7.5YR6/8）内：黒褐（2.5YR3/1）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ（?磨滅）	4370
SR4-76	SR4002	土師器	高台付椀	底（7.1）	0.1～4.0	良 不良	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/8）内：橙（5YR6/8）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4225
SR4-77	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.4）	0.1～2.0	良 不良	石・長・チ・雲	外：橙（7.5YR6/6）内：橙（10YR5/1）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り（有キ（?磨滅）・底外：回転ナデ→高台貼付／内：回転ヘラミガキ（?磨滅）	被熱赤変、4202
SR4-78	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.8）	0.2～2.5	良 良	砂・石・長・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4）灰（7.5Y5/1）内：にぶい黄橙（10YR7/4）黒（5Y2/1）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4384
SR4-79	SR4002	土師器	高台付椀	底（7.4）	0.1～7.0	良 不良	石・長・チ	外：明赤褐（5YR5/8）内：明褐（7.5YR5/6）	別下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（?磨滅）・底外：高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ（?磨滅）	4226
SR4-80	SR4002	土師器	高台付椀	底（9.5）	0.1～4.0	精 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：浅黄橙（10YR8/4）内：黒褐（10YR3/1）	別下外：回転ナデ／底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	4394
SR4-81	SR4002	土師器	高台付椀	底（9.6）	0.5～6.0	やや粗 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6）内：橙（7.5YR6/6）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ、ユビオサエ	転用品の可能性あり、4356
SR4-82	SR4002	土師器	高台付椀	高台（7.8）	0.1～0.2	良 やや不	砂・石・長・雲	外：にぶい橙（7.5YR6/4）内：橙（7.5YR6/6）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4228
SR4-83	SR4002	土師器	高台付椀	底（9.0）	0.1～4.0	精 良	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/3）内：にぶい黄橙（10YR6/3）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	内外面赤色顔料塗布、4311
SR4-84	SR4002	土師器	高台付椀	底（9.7）	0.1～6.0	良 良	石・長・チ・雲・砂	外：浅黄橙（7.5YR8/6）内：橙（7.5YR7/6）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	転用品の可能性あり、煤黒付着？、4360
SR4-85	SR4002	土師器	高台付椀	高（2.4）・底 8.2	0.1～4.0	やや粗 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：明黄褐（10YR6/6）内：橙（7.5YR6/6）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→貼付高台／内：回転ナデ／内：回転ナデ	在地、内面黒煤（?）あり、転用品の可能性あり、粘土分析在地？、4340
SR4-86	SR4002	土師器	高台付椀	高（2.1）・底（8.4）	0.1～2.0	精 不良	長・雲	外：明褐（7.5YR5/8）内：橙（7.5YR6/8）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ	4207
SR4-87	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.8）	0.5～3.0	良 不良	砂・石・長・角・赤	外：橙（7.5YR6/6）内：橙（5YR6/6）	底外：高台貼付→ヨコナデ／内：回転ナデ	転用品の可能性あり、4237
SR4-88	SR4002	土師器	高台付椀	底（6.7）	0.1～2.5	良 やや不	石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/6）内：黒褐（5YR2/1）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（?磨滅）？・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（?磨滅）	転用品の可能性あり、4240
SR4-89	SR4002	土師器	椀	底（9.6）	0.1～2.0	良 不良	砂・石・長・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6）内：にぶい褐（7.5YR5/4）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4328
SR4-90	SR4002	土師器	高台付椀	底（7.5）	0.1～1.5	精 不良	砂・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6）内：黒褐（7.5YR3/1）	別下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（?磨滅）・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ（?磨滅）	4399
SR4-91	SR4002	土師器	高台付椀	底（7.0）	0.5～7.0	やや粗 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR5/4）内：黄灰（2.5Y4/1）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（?磨滅）・底外：高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（?磨滅）	内黒、4203
SR4-92	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.5）	0.1～3.0	良 不良	砂・石・長・雲・赤・記	外：にぶい黄橙（10YR6/4）内：黒（10YR2/1）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4388
SR4-93	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.1）	0.1～6.3	やや粗 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6）内：黒（7.5YR2/1）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	転用品の可能性あり、4261
SR4-94	SR4002	土師器	高台付椀	高（1.5）・底（8.6）	0.1～4.5	精 不良	石・長・雲・金雲	外：橙（5YR6/8）内：橙（5YR6/8）	底外：ヘラ切り→高台貼付／内：ヨコナデ	転用品の可能性あり、4214
SR4-95	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.4）	0.2～1.0	精 不良	石・長・チ・角	外：明赤褐（5YR5/6）内：にぶい黄橙（10YR6/4）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4213
SR4-96	SR4002	土師器	杯	底（10.0）	0.1～5.5	良 不良	長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/8）内：明赤褐（5YR5/8）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→貼付高台／内：回転ナデ	底部穿孔の可能性あり、4269
SR4-97	SR4002	土師器	杯	底（9.5）	0.1～5.5	良 やや不	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4）内：にぶい橙（7.5YR7/4）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→貼付高台／内：回転ナデ	4354
SR4-98	SR4002	土師器	高台付椀	底（9.5）	0.1～5.0	精 やや不	石・長・チ・雲		別下外：回転ナデ（下端に2条のヘラ状の痕跡あり）／内：回転ナデ・底内：回転ナデ	底部外面被熱赤変or赤色顔料？、外面（高台周部）赤色顔料、4327
SR4-99	SR4002	土師器	杯	底（9.2）	0.1～5.0	粗 不良	砂・石・長・赤	外：橙（7.5YR7/6）内：黒（7.5YR2/1）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・別下外：回転ナデ／内：回転ナデ	内黒、4372
SR4-100	SR4002	土師器	杯	底（7.6）	0.5～5.0	良 不良	砂・石・雲・赤	外：浅黄橙（2.5YR7/4）内：にぶい黄橙（10YR7/4）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	内面赤色or化粧粘土、4352
SR4-101	SR4002	土師器	杯	底（7.6）	0.1～4.0	良 不良	石・長・雲	外：明黄褐（10YR6/6）内：橙（7.5YR6/6）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4222
SR4-102	SR4002	土師器	杯	底（9.6）	0.1～3.5	良 良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6）内：にぶい橙（10YR7/4）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4215
SR4-103	SR4002	土師器	杯	底（8.6）	0.1	良 不良	砂・石・雲	外：褐（7.5YR4/3）内：灰黄褐（10YR4/2）	底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	転用品の可能性あり、4274
SR4-104	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.3）	0.1～6.0	やや粗 不良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（5YR7/4）内：にぶい橙（5YR7/4）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：？ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4283

番号	遺構	種別	器種	法量（cm）	転径（mm）	密度	成成	胎土組成	色調	調整	備考
SR4-105	SR4002	土師器	杯	高（1.8）・底（7.8）	0.1～3.0	良	やや不	石・長・雲・金雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：明赤褐（5YR5/6）	側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	転用皿の可能性あり、4365
SR4-106	SR4002	土師器	杯	高（1.4）・底7.2	0.1～3.0	やや精	良	石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4246
SR4-107	SR4002	土師器	杯	底（7.6）	0.5～1.5	粗	不良	石・長・雲・赤・泥	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：黄灰（2.5Y4/1）	底外：回転ヘラ切り→ユビナデ／内：ユビナデ、ユビオサエ	4367
SR4-108	SR4002	土師器	杯	底（7.6）	0.5～1.5	良	不良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：明黄褐（10YR6/6）	側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4289
SR4-109	SR4002	土師器	高台付椀	底（9.9）	0.1～1.0	精	不良	石・長・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒褐（2.5Y3/1）	側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ	転用皿の可能性あり、4239
SR4-110	SR4002	土師器	高台付椀	底（9.9）	0.1～2.5	良	やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：黒褐（10YR3/1）	側下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）	4242
SR4-111	SR4002	土師器	転用皿	底8.1	0.2～3	良	不良	石・長・チ・雲	外：打ち欠き／内：打ち欠き・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（磨滅）・底外：回転ヘラ切り→貼付高台→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（磨滅）	底部外側からの穿孔、4199	
SR4-112	SR4002	土師器	杯	底7.5	0.1～3	やや精	良	石・長・チ・雲・赤	外：明黄褐（10YR6/6） 内：橙（5YR6/8）	側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	底部外側からの穿孔、4260
SR4-113	SR4002	土師器	鉢	底（8.5）	～1.5	精	不良	石・石・長・赤	外：浅黄橙（10YR8/4） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：打ち欠き・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ	底部穿孔、4192
SR4-114	SR4002	土師器	転用皿	高（1.9）口（9.8）・底（9.0）	0.1～1.5	良	良	石・長・雲・金雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：転用皿／内：打ち欠き・底外：ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4326
SR4-115	SR4002	土師器	高台付椀	底（8.0）	0.1～3.0	精	やや不	石・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ	雲母片特に多い、産地不明、4206
SR4-116	SR4002	土師器	転用皿		0.2～5.0	良	不良	石・長・雲・金雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（5YR6/4） 外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：橙（5YR6/6）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→切り離し／内：回転ナデ	粉土粘土に白色系（74）と赤色系（66）を混ぜる（マーブル状）、4351
SR4-117	SR4002	土師器	転用皿	底（7.1）	0.1～10.0	良	やや不	石・長・雲・赤・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4369
SR4-118	SR4002	土師器	転用皿	高台（8.2）	0.1～0.35	良	不良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：黒（10YR2/1）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・側下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）・底外：回転ヘラ切り？→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	転用皿の可能性あり、底部穿孔、4234
SR4-119	SR4002	土師器	転用皿	高（2.2）口（10.2）・底（9.0）	0.1～5.0	粗	不良	石・長・赤	外：明黄褐（2.5Y4/1） 内：暗灰黄（2.5Y4/1）	口外：打ち欠き→ケズリ／内：打ち欠き・側外：打ち欠き・底外：ヘラ切り→高台貼付→ヨコナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ	4238
SR4-120	SR4002	土師器	鉢	口（13.7）	0.1～3.5	良	やや不	石・長・雲・赤・赤	外：黒（5Y2/1）橙（5YR6/8） 内：黒（5Y2/1）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ヨコナデ／内：ヨコナデ→ヘラミガキ・側上外：ヨコナデ／内：ヨコナデ→ヘラミガキ	4219
SR4-121	SR4002	土師器	浅鉢	口（26.6）	0.1～3.0	粗	不良	石・長・赤・赤	外：黄褐（10YR5/8） 内：明褐（7.5YR5/6）		4248
SR4-122	SR4002	土師器	鉢	口（15.2）	0.1～3.0	良	やや不	石・長・チ・雲	外：灰褐（7.5YR4/2） 内：褐灰（7.5YR4/1）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側上外：ヨコナデ	4256
SR4-123	SR4002	土師器	鉢	口（14.9）	0.5～8.0	良	やや不	石・長・角・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：黒褐（10YR3/1）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・側上外：ユビナデ／内：ユビナデ	4220
SR4-124	SR4002	土師器	鉢	口（21.85）	0.1～5.0	粗	不良	石・長・チ・雲・赤・泥	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：イタナデ／内：イタナデ	4335
SR4-125	SR4002	土師器	鉢	底（16.0）	0.1～5.0	良	不良	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒（5Y2/1）	側下外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・底外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	4204
SR4-126	SR4002	土師器	鉢	口（30.0）	0.2～2.0	精	やや不	石・長・チ・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：灰（5Y4/1）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・側外：ユビナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）？・側上外：イタナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）？	4396
SR4-127	SR4002	土師器	鉢	高（6.8）口（21.0）・脚（20.0）	0.1～4.0	良	やや不	石・長・チ・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/8）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ユビナデ／内：ヨコナデ・側上外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	4223
SR4-128	SR4002	土師器	鉢	口（22.5）	0.2～2.5	良	良	石・長・チ・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：灰（5Y5/1）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・側外：ユビオサエ→ユビナデ／内：ユビナデ・側上外：イタナデ／内：イタナデ	4251
SR4-129	SR4002	土師器	不明	底（15.6）	0.1～0.45	良	良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/8）	側下外：指ナデ／内：指ナデ・底外：指ナデ／内：指ナデ	上端部に鉄系組み与高付か？、脚幅不明、4224
SR4-130	SR4002	土師器	鉢	口（31.7）	0.2～8.0	粗	良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	口外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ヨコナデ	4266
SR4-131	SR4002	土師器	鉢	口（25.4）	0.2～3.5	良	良	石・長・チ・雲・金雲・赤	外：浅黄橙（10YR8/4） 内：浅黄橙（10YR8/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ユビオサエ→ユビナデ／内：ヨコナデ	4243
SR4-132	SR4002	土師器	鉢	高（4.5）・脚（27.6）	0.1～4.5	粗	不良	砂・石・長・雲・砂・泥	外：明赤褐（2.5YR5/6） 内：黄灰（2.5Y4/1）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ユビナデ／内：ヨコナデ・側上外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	被熱赤変、4232
SR4-133	SR4002	土師器	鍋	口（33.4）・脚（30.2）	0.1～7.0	粗	やや不	砂・石・長・チ・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	口縁外面黒煙あり、4187
SR4-134	SR4002	土師器	鍋	口（31.0）	0.1～3.0	粗	良	石・長・金雲・角	外：明赤褐（5YR5/6） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：イタナデ／内：ヨコナデ・側上外：イタナデ／内：ヨコナデ	サメネカムの搬入品、4288
SR4-135	SR4002	土師器	鍋	口（30.2）	0.1～13.5	粗	良	石・長・雲・赤	外：明赤褐（2.5YR5/8） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：イタナデ／内：イタナデ	内面煤付着、4279
SR4-136	SR4002	土師器	鍋	口（34.0）	0.1～4.0	粗	やや不	砂・石・長・チ・赤・砂・泥	外：暗褐（10YR3/3） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ユビオサエ→ユビナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ・側上外：指ナヲタキ、ユビナデ／内：イタナデ	4259
SR4-137	SR4002	土師器	甕	口（28.8）	0.5～6.0	粗	やや不	砂・石・長・チ・金雲・角	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）		4230
SR4-138	SR4002	土師器	鍋	口（30.3）・脚（27.7）脚（28.6）	0.1～7.0	粗	良	石・長・チ・雲	外：橙（5YR7/6） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：ユビナデ／内：ヨコナデ・側外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・側上外：ユビナデ／内：ユビナデ→イタナデ	4296
SR4-139	SR4002	土師器	甕	口（40.6）	0.1～4.0	良	やや不	砂・石・長・チ・雲・金雲・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側上外：イタナデ／内：イタナデ	4287
SR4-140	SR4002	土師器	鍋	口（34.0）	0.1～3.0	良	やや不	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：明褐（7.5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ユビナデ／内：イタナデ	内面煤？付着、4319

番号	遺構	種別	器種	法量（cm）	粒径（mm）	密度	成形	胎土組成	色調	調整	備考
SR4-141	SR4002	土師器	鍋	口（28.5）	0.1～3.5	粗	良	石・長・チ・赤・黒	外：褐（7.5YR4/3） 内：灰褐（7.5YR4/2）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ・胴上：イタナデ／内：イタナデ	4294
SR4-142	SR4002	土師器	鍋	口（24.9）・胴（22.3）	0.1～2.5	粗	良	石・長・黒・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ・底内：ユビナデ、ケズリ	4244
SR4-143	SR4002	土師器	甕	口（16.8）	0.5～6.0	粗	やや不	砂・石・長・チ・黒・赤	外：明黄褐（10YR6/6） 内：にぶい黄褐（10YR6/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上：ヨコナデ／内：ヨコナデ	4267
SR4-144	SR4002	土師器	甕	高：（4.9）口（19.1）・胴（16.6）	0.1～5.5	粗	やや不	砂・石・長・チ・黒・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：明褐（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：ヨコナデ／内：イタナデ	4329
SR4-145	SR4002	土師器	甕	口（19.6）	0.5～2.0	精	やや不	石・長・黒・赤・金	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：黄灰（2.5Y4/1）	口外：ヨコナデ→イタナデ／内：ヘラミガキ・胴外：タタキ→イタナデ／内：ヘラ（ガキ	4241
SR4-146	SR4002	土師器	甕	口（19.3）	0.1～5.0	粗	不良	石・長・チ・黒・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒褐（7.5YR3/1）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	内面煤付着、4231
SR4-147	SR4002	土師器	甕	口（19.8）・胴（18.0）	1.0～5.0	粗	やや不	砂・石・長・チ・黒・赤	外：明褐（7.5YR5/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ、ユビオサエ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ヨコナデ／内：イタナデ	4185
SR4-148	SR4002	土師器	甕	口（18.1）・胴（16.5）	0.1～5.0	精	良	砂・石・長・黒・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：黒（7.5YR2/1）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	在地？タタキ甕？、4303
SR4-149	SR4002	土師器	甕	口（21.0）・胴（19.7）	0.1～3.5	良	良	石・長・チ・黒・赤・金	外：赤褐（5YR4/6） 内：にぶい赤褐（5YR4/4）	口外：ヨコナデ／内：ハケ（8条1cm）・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	胎焼用浅鍋から の搬入品、被熱痕跡、胎土分析胎焼用直野用一群、4271
SR4-150	SR4002	縄文土器	鉢	口 24.2	0.1～3.5	良	やや不	石・長・チ・黒	外：橙（10YR6/6） 内：（7.5YR6/6）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・胴外：ユビナデ／内：ユビナデ	4186
SR4-151	SR4002	土師器	甕	口（15.3）・胴（14.1）	0.1～6.0	良	やや不	砂・石・長・黒・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黒（5Y2/1）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	口縁～頸部煤？付着、胎焼用浅鍋から の搬入品？、胎土分析胎焼用直野用一群、4270
SR4-152	SR4002	土師器	甕	口（19.5）	0.1～1.0	粗	良	石・長・金雲・角	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	口外：ヨコナデ／内：ハケ（6条1cm）	搬入品（ケヌキ？）、4233
SR4-153	SR4002	土師器	羽釜	口（26.6）・胴（28.8）	0.1～8.5	粗	不良	砂・石・長・チ・黒・角	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4247
SR4-154	SR4002	土師器	羽釜	口（21.7）	0.1～4.0	粗	やや不	石・長・チ・黒・赤・泥	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・胴外：ユビナデ	4188
SR4-155	SR4002	土師器	羽釜	口（20.6）	0.1～1.0	粗	良	砂・石・長・黒	外：にぶい黄橙（10YR5/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ	外面煤付着、4216
SR4-156	SR4002	土師器	羽釜		0.1～1.5	良	やや不	石・長・チ・黒・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4）	底内：ユビナデ、ケズリ	4229
SR4-157	SR4002	土師器	壺		0.1～1.0	粗	良	砂・石・長・チ・黒・赤・泥	外：橙（2.5YR6/6） 内：にぶい橙（2.5YR6/4）	胴上外：平行タタキ／内：イタナデ	4306
SR4-158	SR4002	土師器	鍋		0.1～7.0	やや粗	良	石・長・チ・黒・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	胴上外：タタキ→ユビナデ／内：ユビオサエ→イタナデ	4307
SR4-159	SR4002	土師器	甕		0.1～7.0	粗	やや不	砂・石・長・チ・黒・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	胴上外：イタナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ	4261
SR4-160	SR4002	土師器	甕		0.1～1.1	やや粗	良	石・長・チ・黒	外：にぶい黄橙（10YR5/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	胴上外：ユビナデ→格子タタキ／内：ユビナデ、ユビオサエ	4189
SR4-161	SR4002	土師器	壺	底（4.4）	0.1～6.0	やや粗	良	砂・石・長・チ・黒・赤	外：橙（5YR6/6） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	胴下外：ユビナデ／内：ユビナデ・底外：ユビナデ／内：ユビオサエ	4320
SR4-162	SR4002	土師器	壺	底（13.4）	0.5～3.0	良	不良	砂・石・長・黒・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR7/6）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ？・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ？	4286
SR4-163	SR4002	土師器	鍋？甕？		0.1～5.5	粗	やや不	砂・石・長・チ・黒・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	胴下外：イタナデ／内：ユビナデ	4309
SR4-179	SR4002	土師器	高台付椀	高：（3.2）口（14.6）・底（7.6）	0.5～4.0	やや精	良	石・長・黒・赤	外：明黄褐（10YR7/6） 内：黒褐（10YR2/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ヘラナデ→回転ナデ／内：ヘラミガキ（墨痕）・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：ヘラミガキ	内黒、4300
SR4-180	SR4002	土師器	高台付椀	高：3.9 口 15.8・底 9.4	0.1～4.5	やや精	やや不	石・長・黒・赤	外：明褐灰（10YR7/6） 内：黒（10YR1.7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：ヘラミガキ・底外：貼付高台→回転ナデ／内：ヘラミガキ	内黒 4382
SR4-182	SR4002	陶器	碗	底（6.8）	0.1	精	良	灰	外：グレイ&白黄（10Y6.5/3.5） 内：（胎土）：灰白（10Y8/1）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底内：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ	4194
SR4-184	SR4002	土師器	壺	底（8.8）	0.5～7.0	やや精	やや不	砂・石・長・黒・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/6）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切り→回転ナデ？／内：回転ナデ	4344
SR4-185	SR4002	須恵器	壺	底（13.0）	0.1～0.3	精	良	石・長	外：黄灰（2.5Y6/1） 内：灰黄（2.5Y6/2）	胴下外：回転ナデ→回転ヘラケズリ、イタナデ／内：回転ナデ・底外：イタナデ／内：回転ナデ→ユビオサエ	4368
SR4-186	SR4002	土師器	壺	底（12.6）	0.1～3.0	精	良	石・長・黒・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒（5Y2/1）	胴下外：イタナデ→ユビナデ／内：イタナデ・底外：回転ヘラ切り→ナデ／内：ユビナデ	内面煤付着、4396
SR4-187	SR4002	土師器	壺	底（13.7）	0.1～1.2	やや粗	やや不	砂・石・長・チ・黒・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/2） 内：にぶい橙（2.5YR7/4）	胴上外：ヘラナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ・底外：ヘラナデ／内：ユビナデ	4347
SR4-188	SR4002	縄文土器	深鉢	底 10.4	0.1～4.5	粗	良	砂・石・長・チ・黒・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：黒褐（10YR3/1）	胴下外：ユビナデ／内：ユビナデ・底外：ユビナデ／内：ユビナデ	内面・朱？付着、4200
SR4-189	SR4002	土師器	甕	口 17.4・胴 16.0	1.0～7.0	粗	やや不	砂・石・長・チ・黒・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ／胴上外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ヨコナデ、ユビオサエ（絵上接合痕）／内：ヨコナデ、イタナデ	4346
SR4-190	SR4002	土師器	甕	口（20.4）・胴（18.7）	0.1～6.0	粗	良	砂・石・長・チ・赤・黒	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/8）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビナデ／内：イタナデ	4350
SR4-191	SR4002	土師器	鍋	口（22.6）	0.1～6.0	良	やや不	砂・石・長・チ・黒・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：黒（7.5YR2/1）	口外：ヨコナデ／内：ヘラミガキ・胴外：ユビナデ（墨痕）？／内：ヘラミガキ・胴上外：ユビナデ（墨痕）？／内：ヘラミガキ	4397
SR4-192	SR4002	土師器	羽釜	口（21.2）・胴（23.5）	0.1～1.15	粗	不良	砂・石・長・チ・黒・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.4YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	4375

番号	遺構	種別	器種	法量（cm）	粒径（mm）	密度 成形	胎土組成	色調	調整	備考
SR4-193	SR4002	土師器	羽釜	口（22.2）	0.1～10.0	粗 良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：明黄橙（10YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	4377
SR4-194	SR4002	土師器	甕	口（25.8）・胴（21.2）	0.1～1.0	やや緻 不良	石・長・赤・泥	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ユビナデ／内：胴部・胴上外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ	屋島口縁、口縁部内面ユズ塗成による緻密塗変調品。4379
SR4-195	SR4002	土師器	甕	口（35.3）・胴（35.2）	0.1～6.0	粗 やや不 良	結・石・長・チ・雲・赤・砂	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	4331
SR4-196	SR4002	土師器	鍋		0.1～4.0	粗 良	結・石・長・チ・雲	外：橙（5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/6）	胴下外：格子タタキ／内：ユビナデ	4336
SR4-197	SR4002	土師器	鍋		0.1～3.0	良 良	結・石・長・チ・雲・泥	外：橙（5YR6/8） 内：にぶい褐（7.5YR5/4）	胴下外：格子タタキ／内：ユビナデ	4339
SR4-198	SR4002	土師器	鼎か	高：（4.6）	0.1～5.0	粗 やや不 良	結・石・長・チ・雲	外：橙（5YR6/6） 内：黒褐（5YR3/1）	胴下外：ヨコナデ／内：イタナデ	4338
SR4-199	SR4002	土師器	羽釜		0.1～4.0	良 やや不 良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6）	底外：ユビナデ	4392
SR4-200	SR4002	土師器	甕	底（10.2）	0.1～3.0	やや粗 良	結・石・長・チ・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：明赤褐（5YR5/6）	胴上外：イタナデ／内：ヘラケズリ・底外：ユビオサエ→イタナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ	外面煤付着。4342
SR4-201	SR4002	土師器	壺	底（7.0）	1.0～10.0	やや粗 良	結・石・長・チ・雲	外：明赤褐（5YR5/8） 内：橙（7.5YR6/6）	胴上外：イタナデ／内：ヘラケズリ・底外：イタナデ／内：ヘラケズリ、ユビオサエ	伯耆型金屋からの流れ込み。外面体部煤成時の焼製痕？。4349
SR4-202	SR4002	土師器	鍋	口（26.4）・胴（23.4）	0.1～9.0	粗 やや不 良	結・石・長・チ・赤・泥	外：明赤褐（5YR5/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	4374
SR4-203	SR4003	須恵器	杯身	高：3.2 口：10.4・底：6.0	～5.0	良 良	長・チ・角・黒	外：灰白（N7/0） 内：灰白（N8/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り。胎土分析在地？。5789
SR4-204	SR4003	須恵器	杯	高：3.3 口：14.1）・底：9.7	0.1～8.0	やや粗 やや不 良	石・長・石・泥・黒	外：灰（5Y5/1） 内：灰（5Y4/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ→ヘラ記号／内：回転ナデ	底部外面ヘラ記号あり。胎土分析ヘラ記号。3749
SR4-205	SR4003	須恵器	杯身	高：3.4 口：（15.0）・底：11.15	0.1～2.0	精 良	石・長・赤	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ・底外：ヘラケズリ→高台貼付→ヘラ記号／内：回転ナデ→ユビナデ→ヘラ記号	回転方向下から見て時計回り。底部内外面ヘラ記号。胎土分析ヘラ記号。3751
SR4-206	SR4003	須恵器	平瓶	高：13.0 口：5.7・頸径6・胴：13.6・底：5.8	～1.0	精 良	石・長	外：灰（N6/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：タタキ（3条1cm）／内：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て時計回り。5217
SR4-207	SR4003	須恵器	瓶	高：9.3 口：（4.0）・胴：（3.4）頸：8.9・底：3.1	0.1～3.0	精 やや不 良	石・長・チ	外：灰（2.5Y6/1） 内：灰（2.5Y6/1）	胴外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ→2条沈線・胴下外：回転ヘラケズリ・底外：回転ヘラケズリ	回転方向下から見て反時計回り。3754
SR4-208	SR4003	土師器	高台付椀	高：4.9 口：14.3・底：8.6	0.1～2.5	やや粗 やや不 良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/3） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ユビオサエ→ユビナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切り→貼付高台→回転ナデ／内：回転ナデ	口縁端部打ち欠き（1ヶ所）。打ち欠き部外面煤付着。ることから灯明皿として使用。高台部打ち欠き？。3750
SR4-209	SR4003	土師器	甕		0.1～9.3	粗 良	石・長・雲・泥	外：にぶい橙（7.5YR5/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	胴下外：イタナデ・底外：イタナデ／内：ハケ（5条1cm）	5998
SR4-210	SR4003	須恵器	杯蓋	口（15.0）	0.1～1.0	精 良	石・長・泥	外：灰白（N7/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	6058
SR4-211	SR4003	須恵器	杯蓋	口（22.0）	～0.5	精 良	石	外：灰白（N6/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	5171
SR4-212	SR4003	須恵器	壺	口（14.0）・胴（13.5）	～1.5	精 良	石・長・黒	外：灰白（2.5Y7/1） 内：黄褐（2.5Y6/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ／内：回転ナデ	5200
SR4-215	SR4003	須恵器	壺	口（11.8）・胴（7.0）頸：（15.6）	0.1～4.0	精 良	石・長・泥	外：灰（N4/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ→櫛描波状文（6条幅8 cm）／内：回転ナデ→ユビオサエ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ→イタナデ／内：回転ナデ→ユビナデ・底外：イタナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ	5763
SR4-216	SR4003	須恵器	壺	口（16.2）・胴：12.5 頸：22.8	0.1～2.0	精 良	石・長・チ・泥	外：明黄灰（5PB7/1）、明内：黄灰（5PB6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ・櫛描波状文（14条1.4 cm）／内：回転ナデ・胴上外：平行タタキ→カキ目（6条1cm）／内：ユビオサエ→ユビナデ・胴下外：平行タタキ／ユビオサエ→ユビナデ・底外：平行タタキ→底部撫付／内：ユビオサエ→ユビナデ	底部撫丸（内側からの）。3766

表 4　自然流路出土石器観察表

番号	遺構	石材	器種	長径（cm）	短径（cm）	高さ（cm）	重量（g）	備考・実測番号
SR4-S1	SR4002	砂岩	磨石	5.6	2.0	7.1	114.97	4299
SR4-S2	SR4002	砂岩	敲石	8.8	12.5	9.2	1304.5	4402

表 5　自然流路出土土製品観察表

番号	遺構	器種	長径（cm）	短径（cm）	高さ（cm）	重量（g）	粒径	密度／焼成	胎土組成	色調	実測番号
SR4-3	SR4001	壁土？	3.7	3.6	2.1	14.92	～1.5	稠／やや不	石	外：橙（7.5YR6/6） 内：褐灰（10YR5/1）	3827
SR4-164	SR4002	土錘	0.85	0.85	3.95	2.6	0.2～5	粗／不	石・長・金雲	外：橙（7.5YR6/6）	4193
SR4-166	SR4002	土錘	1	0.96	3.8	2.7	0.2～1.5	良／やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10 YR 6/4）	4209
SR4-167	SR4002	土錘	1.05	1.05	5.0	3.9	0.1～3	良／不良	石・長・チ・雲	外：橙（7.5 YR 6/6） 内：にぶい橙（5.3 YR 6/4）	4210
SR4-168	SR4002	土錘	1.2	1.2	4.85	5.8	0.2～3.5	良／やや不	石・長・金雲	外：橙（7.5YR6/6）	4245
SR4-169	SR4002	土錘	1.2	1.1	4.2	4.79	0.5～4.0	良／やや不	結・石・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	4254
SR4-170	SR4002	土錘	1.1	1.01	4.49	3.72	0.1～	良／やや不	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/6）	4262
SR4-171	SR4002	土錘	12.0	12.0	4.55	5.78	0.5～3.0	良／やや不	結・石・長・雲・赤	外：明黄褐（10YR 7/6） 内：明黄褐（10YR7/6）	4263
SR4-172	SR4002	土錘	1.2	1.1	4.8	5.2	0.1～2	良／やや不	石・長・チ・雲・赤	外：黄橙（7.5YR7/8）	4264
SR4-173	SR4002	土錘	1.0	1.0	4.4	3.5	0.1～1	良／不良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（5 Y R 6/6） 内：にぶい黄橙（5 Y R 6/4）	4282
SR4-174	SR4002	土錘	2.2	1.2	3.95	4.8	0.1～1	粗／良	石・長・赤	外：黄灰（2.5Y5/1）明褐（7.5YR5/6）	4325
SR4-175	SR4002	土錘	0.85	0.8	26.5	1.2	0.1～1	稠／良	石・長・チ・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4）	4295
SR4-176	SR4002	土錘	1.05	1.0	3.6	3.13	0.1～2	良／やや不	長・雲	外：褐（7.5YR4/4） 内：橙（7.5YR6/6）	4298
SR4-177	SR4002	土錘	1.2	1.15	5.33	6.5	0.2～4.5	良／やや不	石・長・雲	外：緑灰（10G5/1）にぶい褐（7.5YR5/4）	4324
SR4-178	SR4002	壁土	5.0	3.0	4.1	39.88	0.1～2	稠／やや不	石・長	外：黄褐（2.5YR5/2） 内：黄褐（2.5YR5/3）	4318

基連続する。結晶片岩割石の下部には 0.5m 大の頁岩割石が点在する。北西方向にやや離れて、1 × 1 ～ 1.5m 大の結晶片岩割石が 2 基点在する。

勝浦川南岸地域では、三波川帯で産出される結晶片岩は勝浦川以北からの搬入石材となる。よって、P5,P6 グリッドにて検出された大型結晶片岩石材は、搬入された事となり、古墳の可能性が想定された。

石材が埋没する土層は、礫混じり暗褐色粘質土や灰黄褐色粘性砂質土である。1 ～ 4 層は何れも締まりが無く地山の頁岩小礫を多量に含むのが特徴であることから、墳丘盛土の状態で遺存しているとは考え難い。一方、12 ～ 15 層は、比較的土層が水平に堆積していることから、墳丘盛土の可能性がある。しかし、石材は比較的表層に近い層から検出されており、横穴式石室基底部や床面としての水平な石敷遺構は未検出である。

盛土下の地山面からは土坑（EK1 ～ 6）が検出された。何れも浅く明赤褐色粘土層が堆積する。埋葬施設とは考え難く、古墳築造以前の遺構と推定される。

4 基連続する結晶片岩割石から東へ約 2m 付近から須恵器提瓶や管玉類が出土した。更に下方の山裾斜面部から旧水田への傾斜変換点より低い箇所から鉄器類や須恵器甕類や円筒埴輪片と混じって古代の土師器類が出土した。

SM-D1 は碧玉製管玉で片面穿孔による。SM-D2 はグリーンタフ製管玉で片面穿孔による須恵器杯身 SM-5 は底部外面にヘラ記号が施され、内面には当具痕が残る。壺 SM-9, 脚台付長頸壺 SM-11 は、ヘラ記号が施される。提瓶 SM-13 は底部に穿孔が施されている。甕 SM-18 は茎部内面にヘラ記号が、底部に敲打による穿孔が施される。甕 SM-20 は茎部内面にヘラ記号が施される。甕 SM-23 は茎部外面にヘラ記号が施される。鉄鏃 SM-M1 は片丸造り長三角形の刃部を持つ長頸鏃である。鉄鎌 SM-M2 は直刃鎌で折り返し基部を持つ。鉄鎌 SM-M3 は曲刃鎌で折り返し基部が伴う。鋤先 SM-M4 は U 字型鋤先である。棒状鉄製品 SM-M5 は幅 1.2 ×厚 1 ㎝を測る断面長方形を呈する。本体をスラグ状の不定形鉄分が付着しており、加工途中の鉄素材と推定される。

1 号墳は、副葬品や周辺の結晶片岩石材から横穴式石室を埋葬主体に採用した古墳で、TK43 型式併

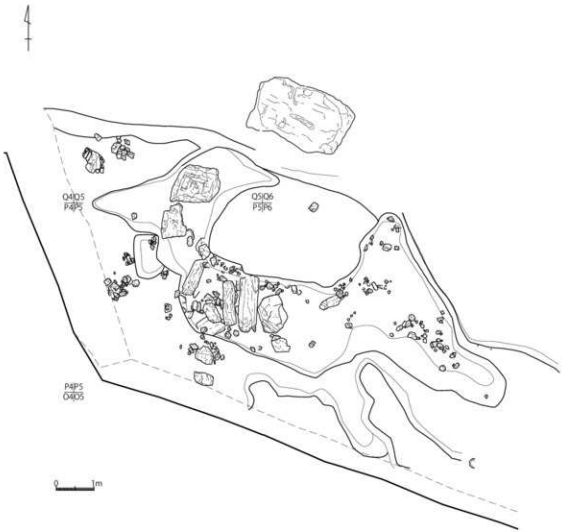


図 27　1 号墳（SM4001）遺構図（1）

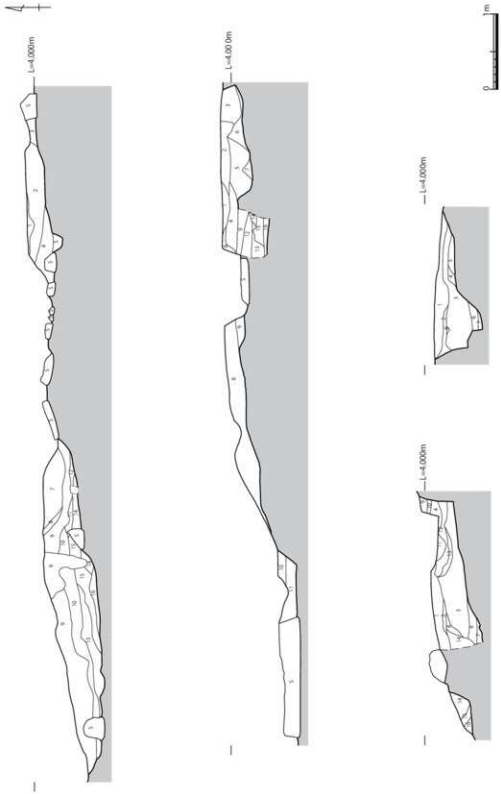


図 28　1 号墳（SM4001）遺構図（2）

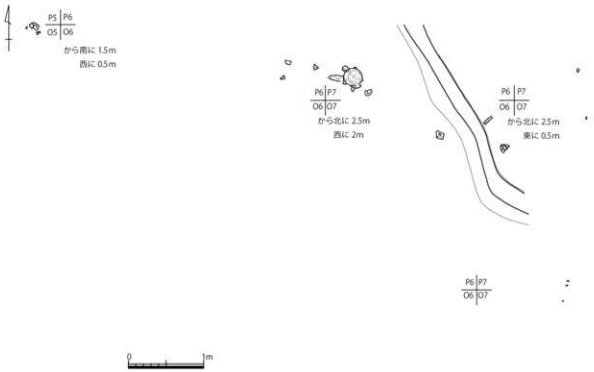


図 29　1 号墳（SM4001）遺物出土状況図

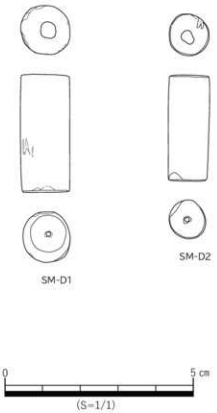


図 30　1 号墳（SM4001）出土玉類

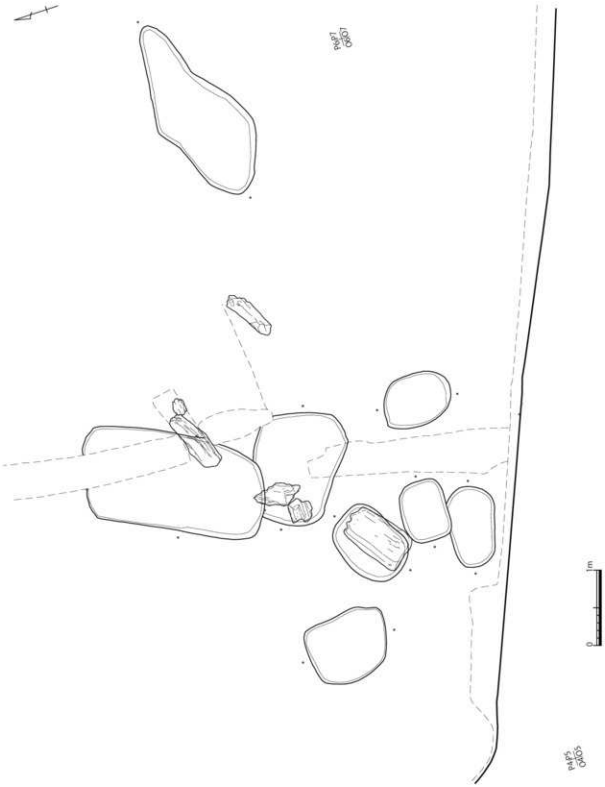


図 31　1 号墳下層遺構図（1）

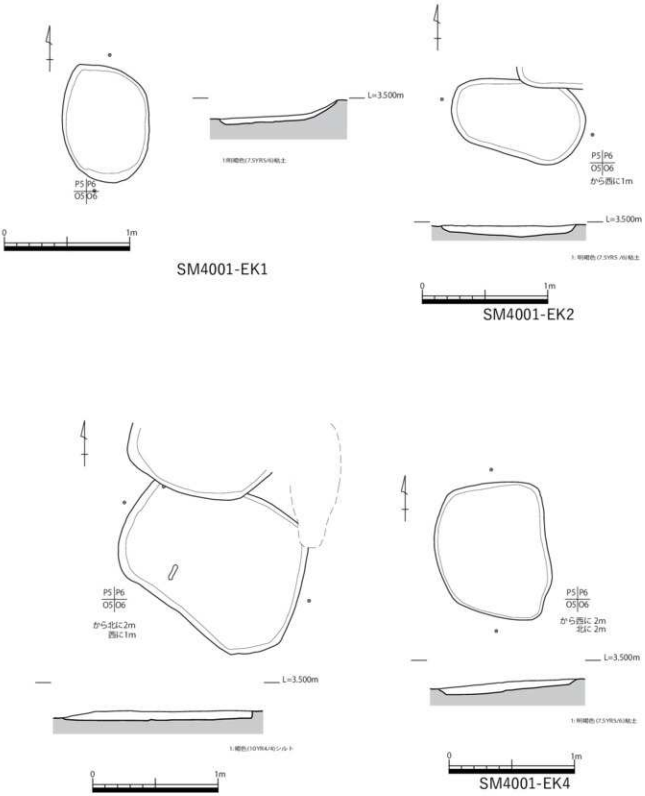


図 32　1 号墳下層遺構図（2）

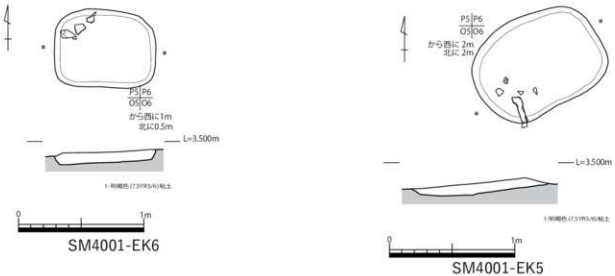


図 33　1 号墳下層遺構図（3）

行期の築造で TK209 型式併行期の追葬と考えられるが、古代の段階で破壊されたと推定される。

2 号周溝状遺構 SD5002（図 42、43）

旧 B Ⅰ区 D10,D11 グリッドにて検出された旧 SD3006 である。

古墳周溝と想定され、平面形態は不整円形を呈する。推定直径約 8m、幅約 1m、深度 0.3m を測る。4 層中より須恵器杯蓋・杯身、土製紡錘車が出土した。杯蓋 SD4-1, 杯身 SD4-2 は MT85 型式併行期である。紡錘車 SD4-3 は体部に鋸歯文が施される。

『新居見遺跡（Ⅰ）』では、出土土器や石器から弥生時代中期後半の円形周溝墓の可能性を指摘したが、出土遺物より古墳時代後期中葉・6 世紀中葉の年代を与えることができる。

3 号周溝状遺構 SD5003（図 44、45）

旧 B1 区 F11,F12 グリッドにて検出された旧 SD3007 でる。

古墳周溝と想定され、平面形態は不整楕円形～隅丸方形を呈する。長軸径 8.9m、短軸径 7.4m、溝幅 0.75 ～ 1.5m、深度 0.3m を測る。断面形状は緩い V 字形を呈する。周溝内下層より須恵器杯蓋・杯身・甕（もしくは壺）、土製紡錘車が出土した。杯身 SD4-7 は口縁部に打ち欠きを施す。

『新居見遺跡（Ⅰ）』では、出土土器や石器から弥生時代中期後半の円形周溝墓の可能性を指摘したが、出土遺物より MT/S 式併行期・6 世紀第 1 四半世紀の年代を与えることができる。

4 号周溝状遺構 SD5004（図 46）

旧 B1 区 G15,G16,H15,H16 グリッドにて検出された旧 SD3010 である。

古墳周溝と想定され、半円形を呈するが、西側 1/2 のみの検出と推定され、本来は円形もしくは不整楕円形と推定される。長軸径 8.1m、推定短軸径 7.5m、溝幅 0.75m、深度 0.15 ～ 0.3m を測る。断面形状は緩い船底形を呈する。

『新居見遺跡（Ⅰ）』では、出土土器や石器から弥生時代中期後半の円形周溝墓の可能性を指摘したが、

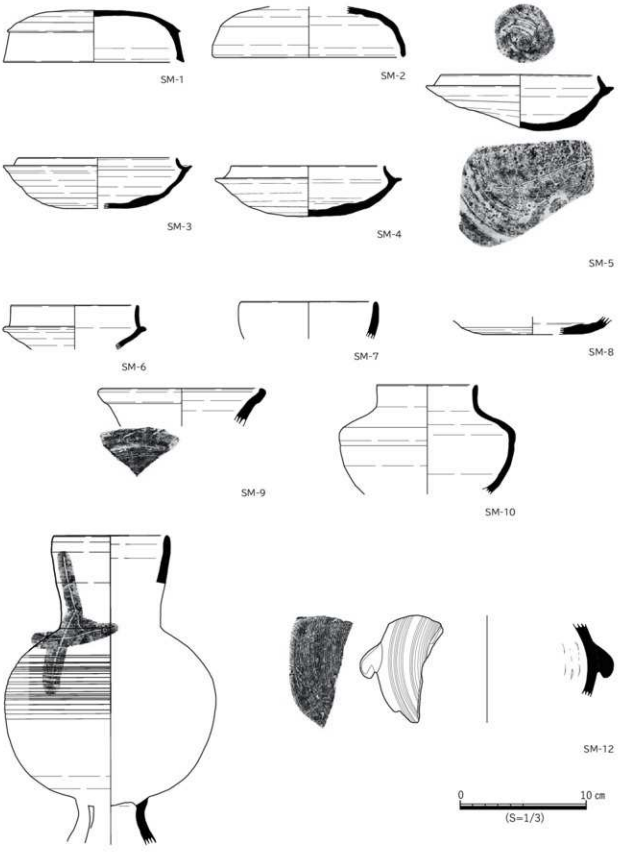
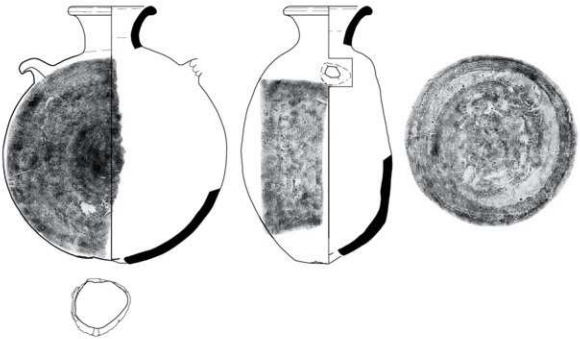
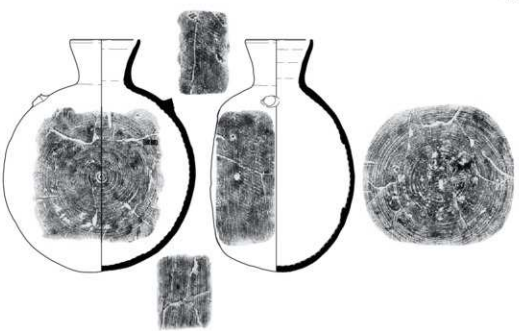


図 34　1 号墳（SM4001）遺物図（1）



SM-13



SM-14

SM-15

0 5 10 cm
(S=1/4)

図 35　1 号墳（SM4001）遺物図（2）

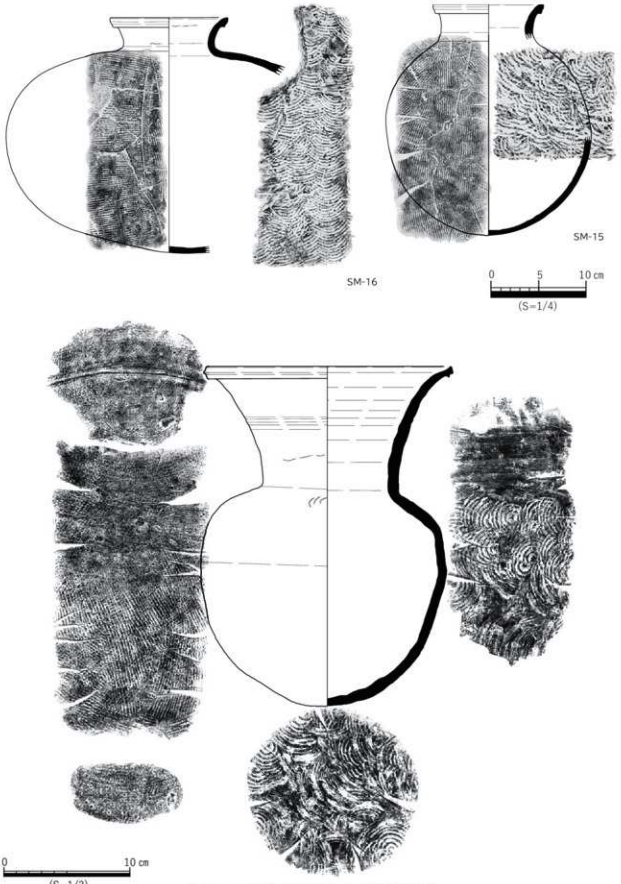
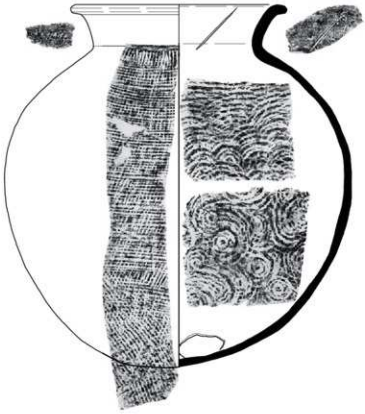


図 36　1 号墳（SM4001）遺物図（3）



SM-18

0 10 cm
(S=1/3)

SM-19

0 5 10 cm
(S=1/4)

図 37　1 号墳（SM4001）遺物図（4）

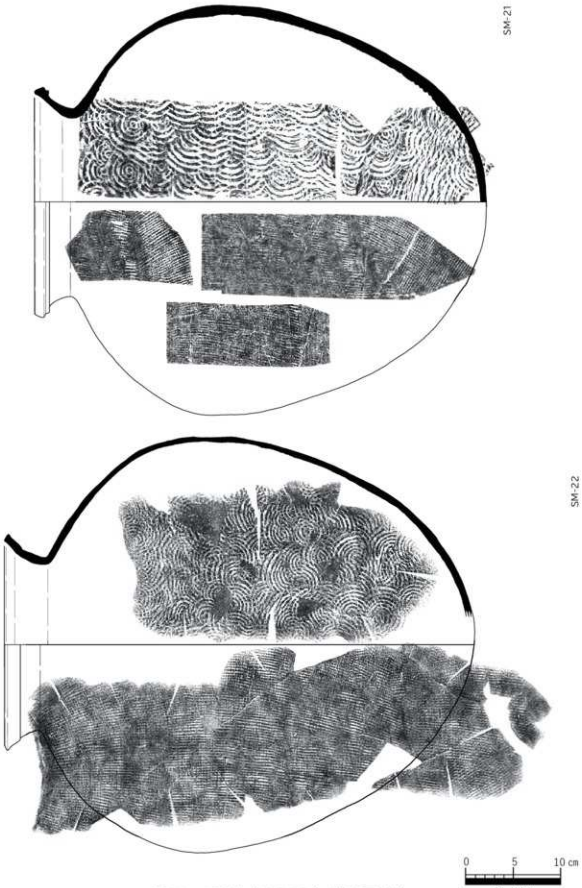


図 38　1 号墳（SM4001）遺物図（5）

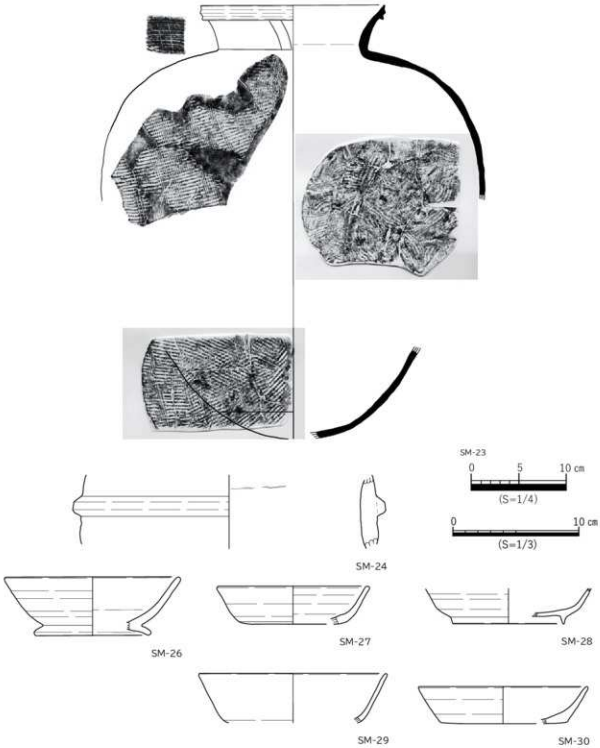


図 39　1 号墳（SM4001）遺物図（6）

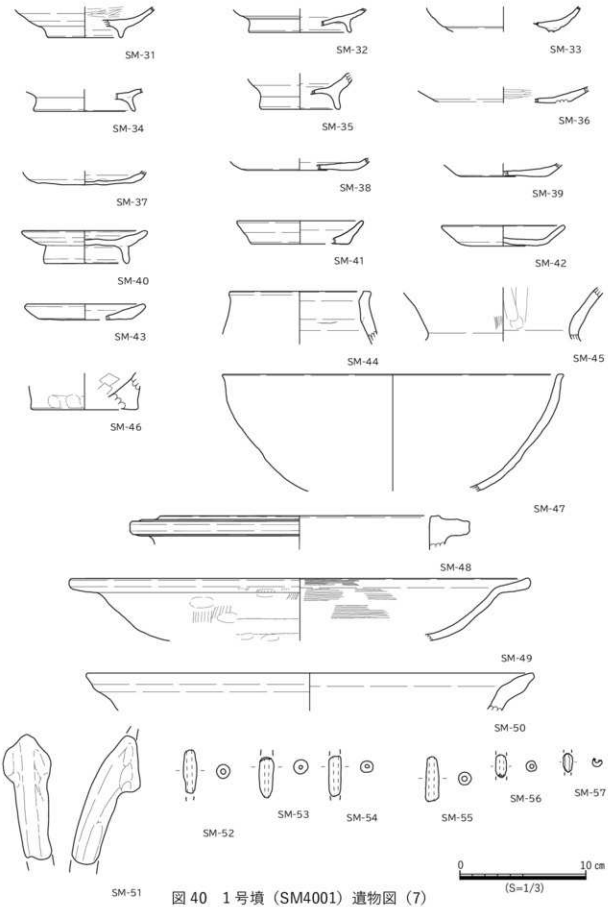


図 40　1 号墳（SM4001）遺物図（7）

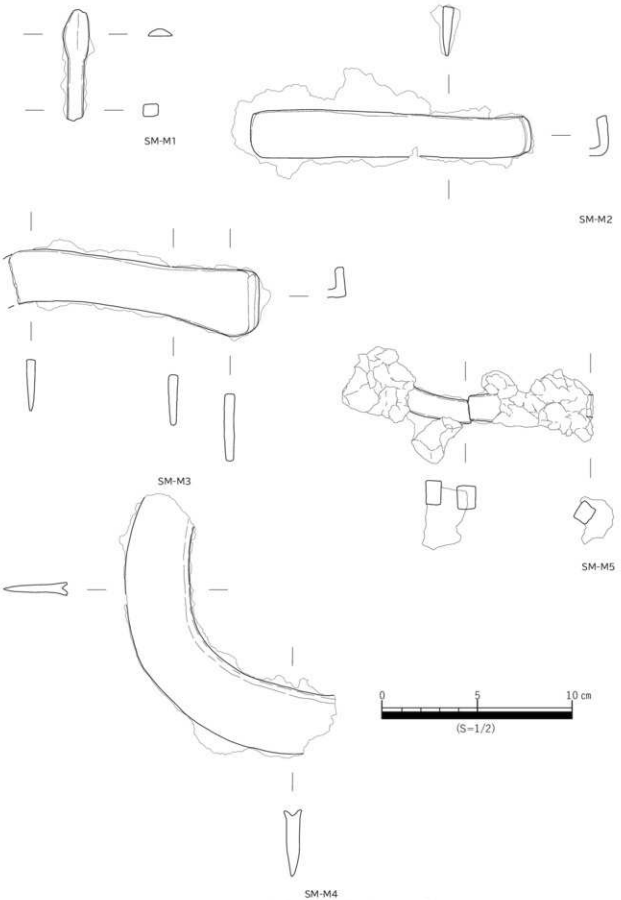


図 41　1 号墳（SM4001）遺物図（8）

表 6　1 号墳出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	粘土	密度 構成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SM-1	SM4001	須恵器	杯蓋	高：(4.1) 口：(14.2)	0.2～2.0	精良	石・長・チ	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→ユビナデ	回転方向上から見て反時計回り。4710
SM-2	SM4001	須恵器	杯蓋	高：(4.0) 口：(15.0)	0.1～2.0	精良	石・長・チ	外：褐灰（N3/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向上から見て時計回り。4850
SM-3	SM4001	須恵器	杯身	高：(8.0) 口：(12.6) 底：(5.0)	～4.0	精良	石・長・チ	外：赤灰（2.5YR4/1） 内：灰赤（2.5YR5/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上内：回転ナデ・頂下外：回転ナデ→回転ヘラケズリ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→1本ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り。粘土分析在地？。4849
SM-4	SM4001	須恵器	杯身	高：4.0 口：12.1 胴：14.8・底：4.5	0.1～4.0	精良	石・長・泥	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上内：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→1本ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り。4846
SM-5	SM4001	須恵器	杯身	高：4.5 口：12.5	0.1～3.5	精良	石・長・チ	外：黄灰（5B5/1） 内：黄灰（5B5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上内：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→あて具	回転方向下から見て反時計回り。微細粘の歪みひどい。4847
SM-6	SM4001	須恵器	杯身	口：(5.0) 胴：(11.6)	0.1～1.0	精良	石・長・チ・泥	外：黄灰（2.5Y6/1） 内：灰白（5Y7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	外面黒灯痕？あり。5957
SM-7	SM4001	須恵器	甕	口：(10.6)	0.2～1.5	精・不良	長・チ	外：灰白（5Y7/1） 内：灰白（5Y7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ	5936
SM-8	SM4001	須恵器	杯身	胴：(12.6)	～2.0	精良	石・長・角	外：灰白（N7/0） 内：灰（N6/0）	頂下外：回転ナデ→回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て時計回り。粘土分析在地？。4709
SM-9	SM4001	須恵器	甕	口：(12.8)	0.1～1.0	精・不良	石・長・チ	外：灰（5Y5/1） 内：灰白（2.5Y7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ→カキ目（9本1cm）／内：回転ナデ	4864
SM-10	SM4001	須恵器	短頸壺	高：(8.65) 口：(8.0) 胴：(8.0) 頸：(4.0)	0.1～4.0	精良	石・長・チ	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り。4842
SM-11	SM4001	須恵器	壺	口：(9.0) 胴：(7.9) 頸：(16.7)	0.2～3.0	精良	石・長・チ	外：オリーブ黒（5Y3/1） 内：灰（5Y6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ→ヘラ記号／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ→カキ目（5条1cm）／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ→ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ→藁／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り。頸部に0.5%の方形透かし。ヘラ記号。粘土分析ヘラ記号。4832
SM-12	SM4001	須恵器	提瓶	胴：(20.2)	0.1～2.0	精良	石・長・チ	外：浅黄（5Y7/3） 内：灰白（5Y7/1）	頂上外：カキ目（8条1cm）／ユビナデ	6854
SM-13	SM4001	須恵器	提瓶	口：8.2 胴：6.1 胴：23.2	0.1～4.0	良	石・長・泥	外：褐灰（10YR5/1） 内：褐灰（10YR5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ→カキ目（8条1cm）／内：ユビナデ・頂下外：回転ナデ→カキ目（8条1cm）／内：ユビナデ・底外：回転ナデ→カキ目（8条1cm）／内：ユビナデ	底部穿孔（内側から）。5576
SM-14	SM4001	須恵器	提瓶	高：45.5 口：7.2 胴：5.55 頸：20.4	0.1～4.0	精良	石・長	外：灰（5Y5/1） 内：明赤褐（5YR5/6）	頂下外：カキ目（16条1cm）	6840
SM-15	SM4001	須恵器	提瓶		0.1～3.0	精良	石・長	外：灰（N4/0） 内：灰（N5/0）	頂上外：カキ目（8条1cm）／内：ユビオサエ	6680
SM-16	SM4001	須恵器	横瓶	高：46.0 口：12.4 胴：9.6	～2.5	精良	石・長・黒	外：オリーブ灰（2.5GY6/1） 内：オリーブ黒（2.5GY3/1）	口内：回転ナデ・頂外：回転ナデ・ユビナデ／内：ユビナデ・頂上内：青灰波文・頂下外：タタキ→カキ目（14条1cm）／内：青灰波文・底外：タタキ／内：青灰波文	3623
SM-17	SM4001	須恵器	壺	高：26.9 口：19.25 胴：10.9 頸：19.45・底：4.5	0.1～6.0	精良	石・長・角・泥・ガラス	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ・ユビナデ／内：回転ナデ・頂上外：平行タタキ→ユビナデ／内：青灰波文・頂下外：平行タタキ／内：青灰波文・底外：平行タタキ／内：青灰波文	口縁部打ち欠きラ徳部内面に強右擦き（敲解か？）の痕跡。粘土分析在地？。4856
SM-18	SM4001	須恵器	甕	高：(28.8) 口：16.0 胴：13.5 胴：22.7・底：(7.6)	0.1～4.5	精良	石・長・泥	外：灰（7.5Y5/1） 内：灰オリーブ（5Y6/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：平行タタキ→カキ目（7条1cm）／内：青灰波文・頂下外：平行タタキ→カキ目（5条1cm）／内：青灰波文・底外：平行タタキ／内：青灰波文	底部穿孔。4844
SM-19	SM4001	須恵器	甕		0.1～3.0	精良	石・長・泥	外：にぶい赤褐（5YR4/3） 内：灰褐（7.5YR4/2）	頂下外：平行タタキ→カキ目（9条1cm）／内：青灰波文	6688
SM-21	SM4001	須恵器	甕	高：47.9 口：23.6 胴：20.0 頸：43.0・底：5.0	0.1～2.0	精良	石・長・チ・黒	外：灰白（7.5Y7/1） 内：オリーブ黒（2.5Y3/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：平行タタキ→ヘラケズリ／内：青灰波文・頂下外：平行タタキ→ヘラケズリ／内：青灰波文・底外：平行タタキ→ヘラケズリ／内：青灰波文	4841
SM-22	SM4001	須恵器	甕	高：49.8 口：21.6 胴：18.5 頸：44.0・底：10.0	～4.0	精良	石・長・黒	外：灰（N5/0） 内：灰（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ→格子タタキ／内：回転ナデ→青灰波文・頂上外：格子タタキ→カキ目（14条1cm）／内：青灰波文・頂下外：格子タタキ→カキ目（14条1cm）／内：青灰波文・底外：格子タタキ→カキ目（14条1cm）／内：青灰波文	6855
SM-23	SM4001	須恵器	甕	口：(19.3) 胴：(15.8) 頸：(40.6)・底：11.2	0.1～2.0	精・やや不	石・長・泥	外：灰白（N7/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ→カキ目（9条1cm）→ヘラ記号／内：回転ナデ・頂上外：平行タタキ→カキ目（5条1cm）／内：青灰波文→ユビナデ、スリ消し・頂下外：平行タタキ／内：青灰波文によるナデ→ユビナデ・底外：タタキ工具によるナデ／内：ユビナデ	ヘラ記号あり。粘土分析ヘラ記号。6664
SM-24	SM4001	埴輪	円筒	胴：(24.8)	0.1～6.0	粗・不良	結・石・長・チ・雲	外：明赤褐（5YR5/8） 内：明赤褐（5YR5/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ナデ／内：回転ナデ	鬱滅著しい。4697
SM-26	SM4001	土師器	甕	高：(6.6) 口：(15.7) 胴：(7.8)・底：(9.0)	0.1～5.0	精・やや不良	結・長	外：橙（5YR6/8） 内：黒（10YR2/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ナデ→ヘラ ガキ（鬱滅）	内黒。4674
SM-27	SM4001	土師器	杯	高：3.0 口：(11.9)・底：(8.5)	0.1～5.0	良・不良	結・石・長・赤・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：ユビナデ	在地。粘土分析在地？。4839
SM-28	SM4001	土師器	甕	底：(8.8)	0.1～1.0	良・不良	石・長・赤・雲	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	頂下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラケズリ・高台貼付／内：回転ナデ	5955
SM-29	SM4001	土師器	甕	口：(14.8)	0.1～3.5	精	結・石・長・赤・赤	外：橙（2.5YR6/6） 内：橙（2.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・頂上外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	2次焼成。被熱赤変？。4692
SM-30	SM4001	土師器	杯	口：(13.4)・底：(10.0)	0.1～6.0	良・不良	結・石・長・金雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	6858
SM-31	SM4001	土師器	甕	底：(6.4)	～3.0	良・不良	結・石・長・雲	外：明黄褐（10YR7/6） 内：黒褐（10YR3/1）	頂下外：回転ナデ／内：ヘラ ガキ・底外：ユビナデ／内：ヘラ ガキ	6695

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度/構成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SM-32	SM4001	土師器	高台付椀	底 (8.0)	0.5～5.0	やや精不良	砂・石・長・雲・赤	外：橙（2.5YR6/8） 内：橙（2.5YR6/8）	別上外：回転ナデ／内：ヘラ（ガキ（濃縮）・底外：ヘラ切り→高台貼付→ヨコナデ（雑合痕・ヘラ目）／内：回転ナデ?、ユビオサエ→ヘラ（ガキ	内面、転用品の可能性あり、搬出作業に高台貼付設定痕跡認める、5957
SM-33	SM4001	土師器	高台付椀		0.1～3.0	良不良	石・長・赤	外：橙（2YR6/8） 内：橙（2YR6/6）	別下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4673
SM-34	SM4001	土師器	高台付椀	腰（7.7）・底（7.9）	0.1～2.0	やや精不良	チ・赤	外：褐灰（10YR5/1） 内：黒褐（2.5YR3/1）	底外：高台貼付→回転ナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ	内黒底部内面が焼成時吸着物のように見え、人骨検討、転用品の可能性あり、5939
SM-35	SM4001	土師器	高台付椀	底 (6.1)	0.1～6.0	良やや不	砂・石・雲・赤	外：橙（2YR6/8） 内：橙（2YR6/8）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	5952
SM-36	SM4001	土師器	高台付椀		0.1～3.0	精やや不	砂・石・長・雲・赤・泥	外：橙（5YR6/6） 内：黒褐（5YR2/1）	別下外：回転ナデ／内：ヘラ（ガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	高台付の設定残る、6683
SM-37	SM4001	土師器	杯	底 9.0	1.0～5.0	やや精不良	砂・石・長・雲・赤	外：橙（2.5YR6/8） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：ユビオサエ	6687
SM-38	SM4001	土師器	杯	底 (8.4)	0.1～1.5	良やや不	砂・石・長・赤・雲	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：灰黄褐（10YR6/2）	底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	6677
SM-39	SM4001	土師器	杯	底 7.2	0.1～4	やや精やや不	砂・石・長・雲・赤・泥	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ→ユビオサエ	6686
SM-40	SM4001	土師器	台付皿	口 (10.0)・底 6.7	～2.0	やや精並	砂・石・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→ヨコナデ／内：回転ナデ	6880
SM-41	SM4001	土師器	皿	高：(2.9) 口：(9.75)・底 (7.85)	0.2～1.0	良不良	長・チ	外：黄橙（2.5YR7/8） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	6691
SM-42	SM4001	土師器	杯	高 (1.5 口：(9.6)・底 (5.0)	0.1～3.0	精やや不	石・長・赤・泥	外：浅黄橙（10YR8/4） 内：浅黄橙（10YR8/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別下外：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	5938
SM-43	SM4001	土師器	皿	高 (1.5 口：(9.2) 脚：(9.6)・底 (7.4)	0.1～4.0	良不良	砂・石・長・雲・赤・泥	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別上外：回転ナデ／内：回転ナデ・別下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	6689
SM-44	SM4001	土師器	無頸壺？	口：(11.0)	0.1～2.0	良良	砂・石・長・チ・雲	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：暗灰黄（2.5Y5/2）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・別上外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	6694
SM-45	SM4001	土師器	壺	頸：(11.9)	0.1～3.5	良良	砂・石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	頸外：ハケ（磨滅）→ユビナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ	転嗟川流域からの搬入品？、墨土作への流れ込み か、4671
SM-46	SM4001	土師器		高：(2.9)・底 (8.5)	0.1～2.5	精良	石・長・雲	外：オリーブ黒（5Y3/1） 内：黒（5Y2/1）	底外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ヘラケズリ	流れ込み か、4682
SM-47	SM4001	土師器	鉢	口：27.0	～1.5	精やや不	石・長・雲	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・別上外：ユビオサエ→ヘラ（ガキ？）／内：ハケ（9条1cm）	4848
SM-48	SM4001	土師器	鍋	口：(22.3)	0.1～1.0	粗良	石・長・赤・雲	外：灰褐（7.5YR5/2） 内：黒（7.5YR2/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	内面煤付着、4690
SM-49	SM4001	土師器	鍋	口：(36.2) 頸：(32.4)	0.1～1.0	やや粗やや不	石・長・雲・金雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR5/3） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・別上外：ハケ（5条1cm）→ユビオサエ／内：ハケ（8条1cm）	外面煤付着、4672
SM-50	SM4001	土師器	鍋	口：(35.7)	0.1～8.0	粗やや不	石・長・チ・雲	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（2YR6/8）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	6681
SM-51	SM4001	土師器	羽釜		0.1～0.2	精不良	砂・石・長・雲・赤・泥	外：明黄褐（10YR6/6） 内：浅黄（2.5Y7/4）		6693

表７　１号墳出土土製品観察表

番号	遺構	器種	外径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	孔径(cm)	粒径	密度/焼成	組成	色調	備考・実測番号
SM-54	SM4001	土錘	1.0	0.9	3.2	2.65		0.1～1.2	良／内	石・長・雲	外：黒（10YR2/1） 内：黄橙（10YR8/6）	4678
SM-55	SM4001	土錘	1.0	1.0	3.4	2.8		0.1～1.5	良／不良	石・長・チ	外：明黄褐（10YR6/6）	4679
SM-52	SM4001	土錘	1.1	1.05	3.4	2.87		0.5～1.5	良／やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	4684
SM-53	SM4001	土錘	3.3	1.15	0.4	3.59	0.3	0.1～0.2			外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	4696
SM-57	SM4001	土錘		0.75		0.50	0.3	～0.5	粗／不良	結・石	外：黄灰（2.5Y6/2） 内：黄灰（2.5Y6/2）	4861
SM-56	SM4001	土錘		0.8		0.94	0.3	～0.5	粗／不良	雲	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：黄灰（2.5Y6/1）	4862

表８　１号墳出土鉄器観察表

番号	遺構	器種	全長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	実測番号
SM-M1	SM4001	鉄鎌	5.9	1.6	1	4717
SM-M2	SM4001	直刀鞘	16.0	5.8	1.6	3613
SM-M3	SM4001-EGA	曲刀鞘	13.35	2.7	0.5	3797
SM-M4	SM4001	U字型鎹先	15.9	7.2	1.3	3610
SM-M5	SM4001	不明	13.3	6.2	3.4	4863

表９　１号墳出土玉類観察表

遺物番号	遺構番号	器種	材質	色調	重量（g）	直径（mm）	高さ（mm）	実測番号
SM-D1	SM4001	管玉	碧玉	12G3.5/5S くらいグレイみの緑	1.58	12.75	30.94	3850
SM-D2	SM4001	管玉	碧玉	12G2.4/5S くらいグレイみの緑	6.02	10.74	28.21	3579

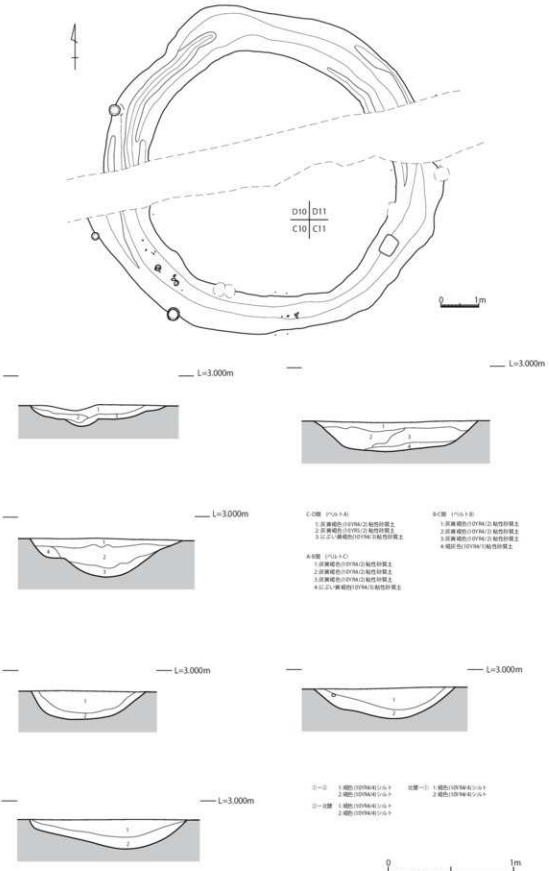


図 42　2 号周溝状遺構（SD5002）遺構図

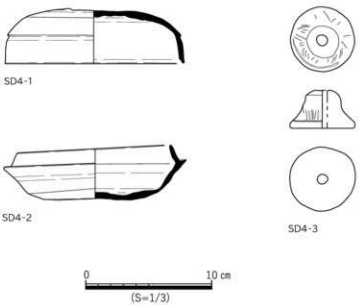


図 43　2 号周溝状遺構（SD5002）遺物図

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代の築造年代を与えることができる。

5 号周溝状遺構 SD5005（図 47、48）

旧 B2 区 A5,T5 グリッドにて検出された旧 SD3011 である。

溝外形は不整円形を呈するが、溝内形は隅丸方形を呈する。北端部を攪乱により削平される。南北径 8.5m、東西径 8.5m、溝幅 1.0 ～ 1.25m、深度 0.35m を測る。四隅が連続する方形周溝墓もしくは、不整形な円形周溝墓である。『新居見遺跡（Ⅰ）』掲載弥生土器 55 は大型広口壺口縁、56 は広口壺口縁、57 は壺口縁、58 は大型広口壺胴部肩、59 は広口壺部頸部である。他に、須恵器杯蓋 SD4-11、須恵器甕 SD4-18 等も出土した。

弥生時代中期後半である。

6 号周溝状遺構 SD5006（図 49）

旧 B1 区 E14,E15,F14,F15 グリッドにて検出された旧 SD3014 である。

不整円形を呈する。南北直径 7.95m、東西直径 8.35m、溝幅 1.5 ～ 0.9m 深度 0.25 ～ 0.33m を測る。溝断面形状は緩い船底型や 2 段形を呈する。

『新居見遺跡（Ⅰ）』では、出土土器や石器から弥生時代中期後半の円形周溝墓の可能性を指摘したが、遺構構築面や出土遺物より、古墳時代の築造年代を与えることができる。

1 号周溝状遺構（SD4001）（図 50）

旧 B1 区 G14,G15,H14,H15 グリッドにて検出された旧 SD3009 である。

古墳周溝の可能性があり、平面形態は不整長方形を呈する。周溝外形長径 8.90m、周溝外形短径 6.00m、周溝内形長径 6.05m、周溝内形短径 5.05m、溝幅 0.6 ～ 1.1m、深度 0.1 ～ 0.45m を測る。溝断面形状は緩い舟底形や V 字形を呈する。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土、暗褐色

図 44　3 号周溝状遺構（SD5003）遺構図

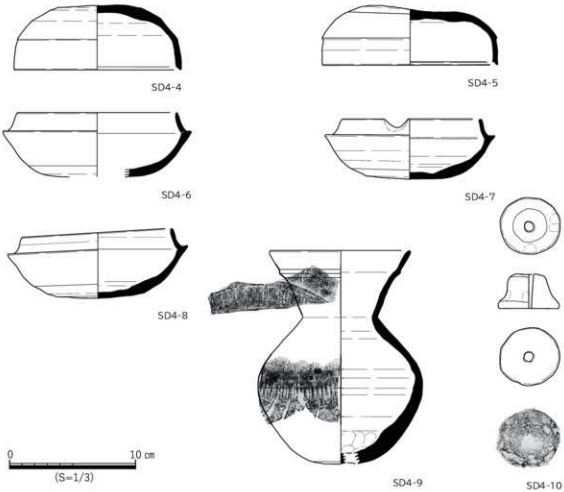


図 45　3 号周溝状遺構（SD5003）遺物図

粘性砂質土である。サヌカイト製剝片が出土した。剝片 SD4-S2 は弥生包含層からの流れ込みもしくは、縄文時代包含層の混入と推定される。

1 号周溝状遺構に伴う埋葬施設は未確認である。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代の築造年代を与えることができる。

2 号周溝状遺構（SD4002）（図 51）

旧 B1 区 F13,F14 グリッドにて検出された旧 SD3008 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は隅丸長方形を呈する。周溝外形長径 5.57m、周溝外形短径 4.52m、周溝内形長径 4.38m、周溝内形短径 3.3m、溝幅 0.48 ～ 0.63m、深度 0.2 ～ 0.25m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土・暗褐色粘性砂質土である。周溝内覆土より土師器甑が出土した。SD4-19 は円形スカシが伴う多孔式甑である。

6 号埋葬施設（ST4006）が 2 号溝状遺構墳丘範囲内に位置するが、中心部では無いことや 2 号周溝状遺構の長辺方位と大きく異なることから、関連性は不明である。5 号埋葬施設（ST4005）に北西側隅を切られる。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期の築造年代を与えることができる。

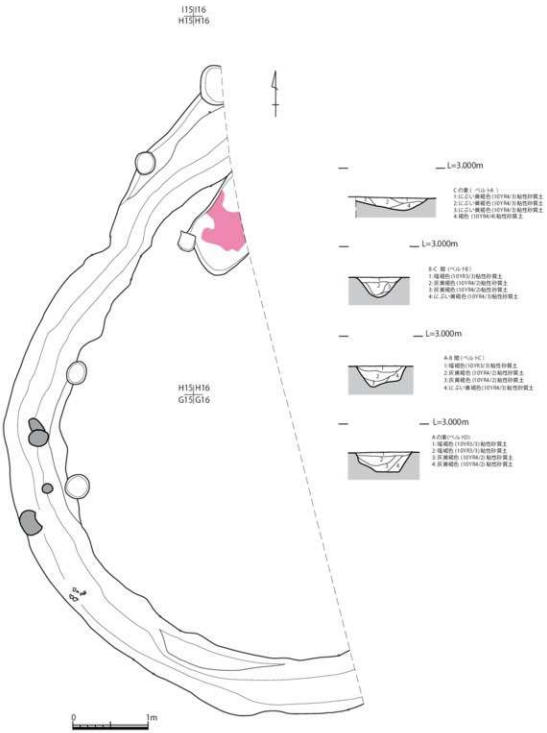


図 46　4 号周溝状遺構（SD5004）遺構図

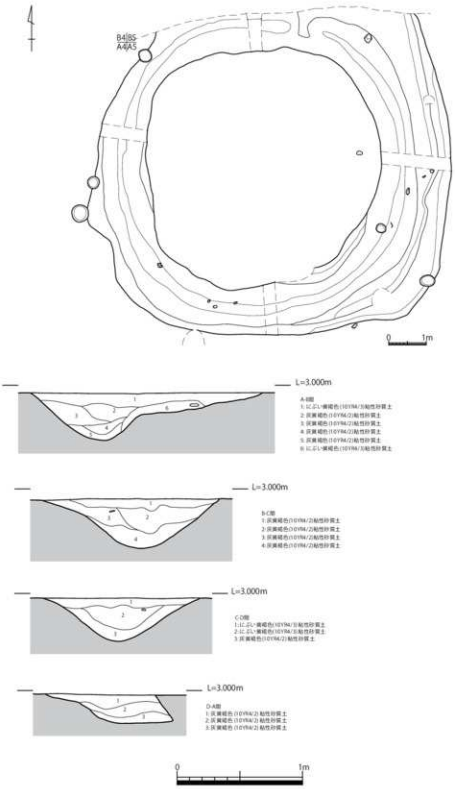


図 47　5 号周溝状遺構（SD5005）遺構図

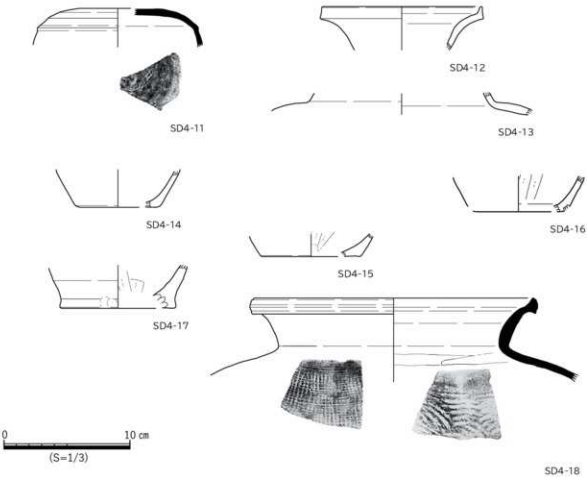


図 48　5 号周溝状遺構（SD5005）遺物図

3 号周溝状遺構（SD4003）（図 52）

旧 B1 東区 E16 グリッドにて検出された旧 SD4001 と SM4005 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は円形を呈すると推定される。溝幅 0.52 ～ 0.95m、深度 0.32 ～ 0.4m を測る。溝断面形状は緩い V 字形を呈する。東半が調査区外へ拡がるため形態・規模は不明である。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土である。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期の築造年代が推定される。

4 号周溝状遺構（SD4004）（図 53、54）

旧 B3 区 D15,D16,E15,E16 グリッドにて検出された旧 SM4006 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は不整円形を呈する。周溝外形長径 9.05m、周溝外形短径 8.55m、周溝内形長径 6.5m、周溝内形短径 6.2m、溝幅 0.93 ～ 1.1m、深度 0.35 ～ 0.63m を測る。溝断面形状は緩い舟底形や V 字形を呈する。遺構覆土は、褐色シルト質土や褐灰色シルト質土・オリーブ褐色シルト質土である。南西側周溝肩より須恵器杯蓋・杯身が 2 組出土した。1 組は杯蓋と杯身を合わせ、2 組目は 1 組目杯身の下部側に杯身・杯蓋の順で重ねている。杯蓋 SD4-20 は天井部内側に当て具痕が残る。

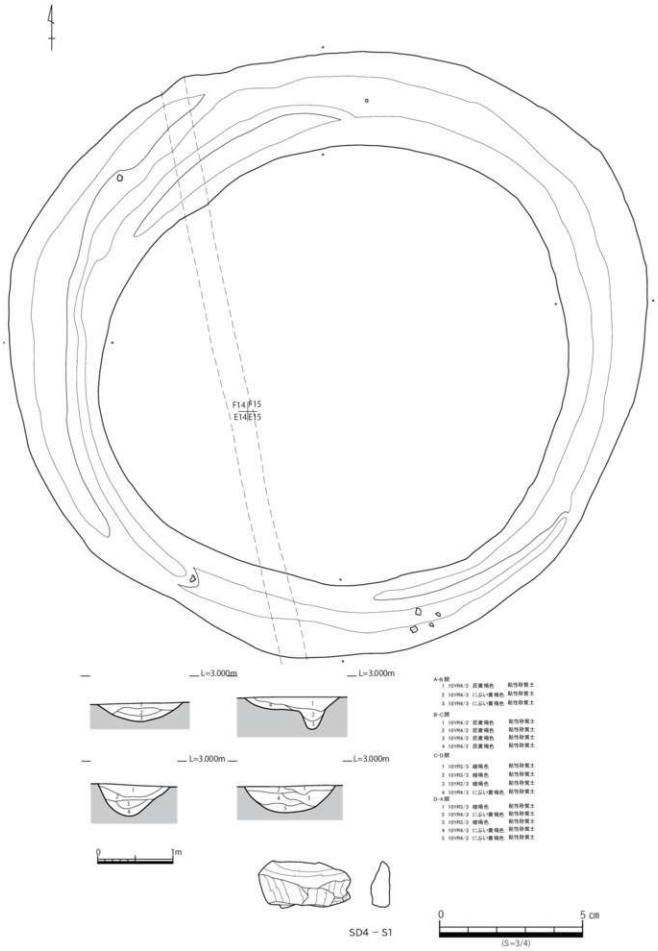


図 49　6 号周溝状遺構（SD5006）遺構図

TK10 式併行期である。

4 号周溝状遺構に伴う埋葬施設は未検出である。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期中葉の築造年代を与えることができる。

5 号周溝状遺構（SD4005）（図 55）

旧 B3 区グリッドにて検出された旧 SM4003 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は不整方形を呈する。周溝外形長径 10.35m、周溝外形短径 10.35m、周溝内形長径 7.35m、周溝内形短径 7.2m、溝幅 0.92 ～ 1.00m、深度 0.18 ～ 0.23m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、褐色シルト質土や暗褐色シルト質土である。

4 号周溝状遺構（SD4004）に切られており、先行する。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期の築造年代を与えることができる。

6 号周溝状遺構（SD4006）（図 56）

旧 B3 区 B16,B17 グリッドにて検出された旧 SM4004 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は不整円形を呈する。周溝外形短径 7.7m、周溝内形短径 5.1m、溝幅 1.42m、深度 0.25m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、褐色シルト質土や黄褐色シルト質土・明褐色シルト質土である。

56 号埋葬施設（ST4056）が周溝状遺構ほぼ中央からやや西寄りに位置する事から、6 号周溝状遺構の主体部となる可能性がある。しかし、ST4056 西側小口堀方と周溝内法が近接しており、充分な墳丘盛土を確保できない。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期の築造年代が想定される。

7 号周溝状遺構（SD4007）（図 57、58）

旧 B3 区 A14,A15 グリッドにて検出された旧 SM4002 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は不整方形を呈する。周溝外形長径 5.65m、周溝外形短径 5.60m、周溝内形長径 4.5m、周溝内形短径 4.1m、溝幅 0.8m、深度 0.3m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、褐色シルト質土である。周溝北辺より須恵器杯蓋・杯身や砥石が出土した。杯蓋 SD4-24 は天井部外面にヘラ記号が施され、内面には当て具痕が残る。杯身 SD4-25 は底部外面にヘラ記号が施される。TK47 式併行期である。砥石 SD4-S3 は砂岩製仕上置砥である。鉄錆が付着する。刀子 SD4-M1 は直角関である。

遺構中央部に 1 号溝（SD3001）が掘削されており、埋葬主体は不明である。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代中期後半の築造年代を与えることができる。

8 号周溝状遺構（SD4008）（図 59）

旧 B3 区 A15,T15 グリッドにて検出された旧 SM4001 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は不整楕円形を呈する。周溝外形長径 9.1m、周溝外形短径 7.5m、周溝内形長径 5.83m、周溝内形短径 5.26m、溝幅 0.63 ～ 1.35m、深度 0.1 ～ 0.27m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、にぶい黄褐色シルト質土や褐色シルト質土である。

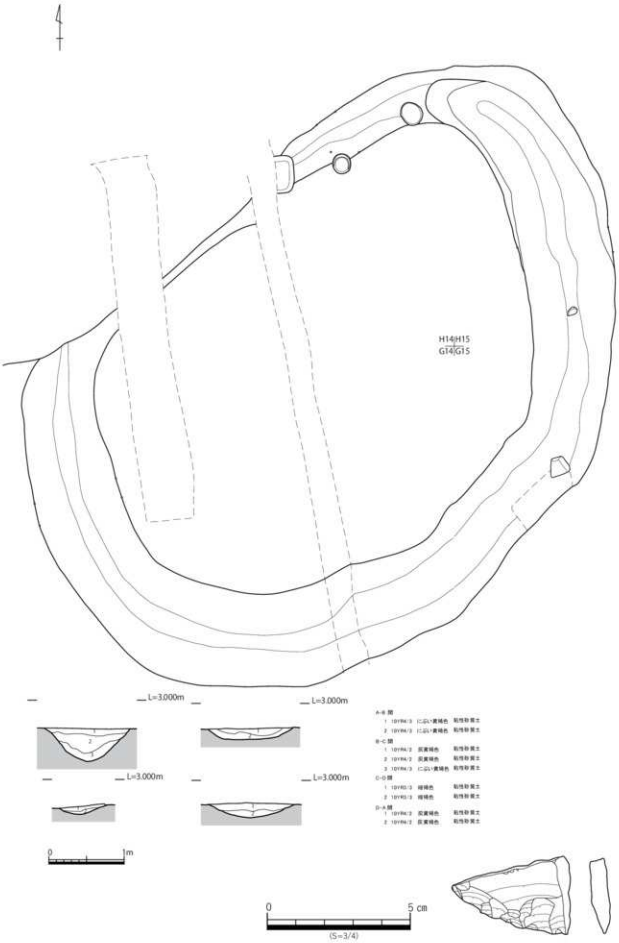


図 50　1 号周溝状遺構（SD4001）遺構図・遺物図

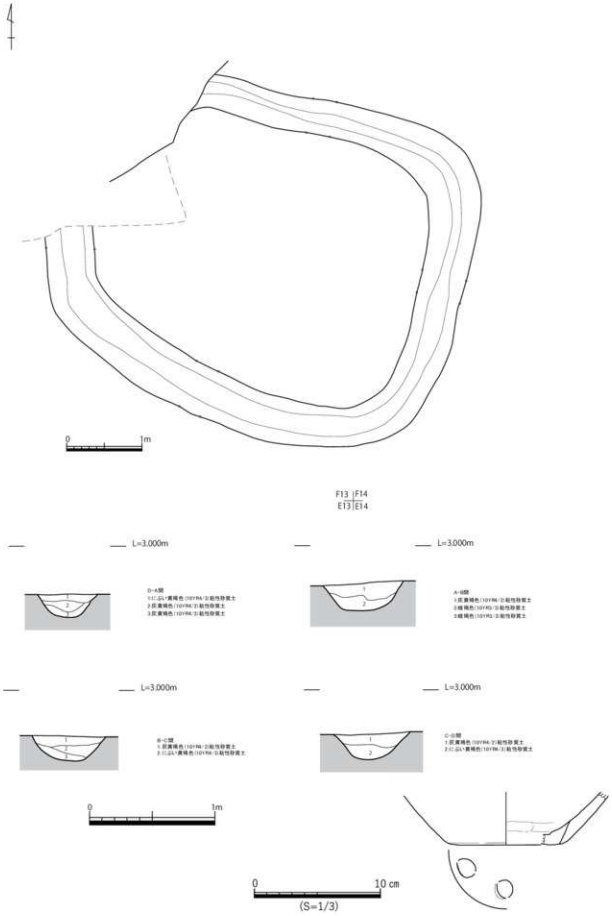


図 51　2 号周溝状遺構（SD4002）遺構図・遺物図

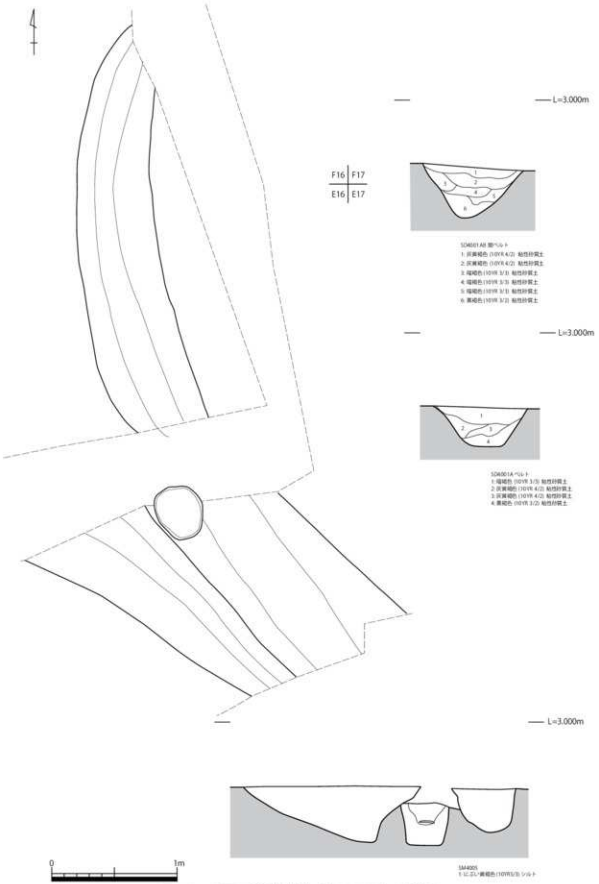


図 52　3 号周溝状遺構（SD4003）遺構図

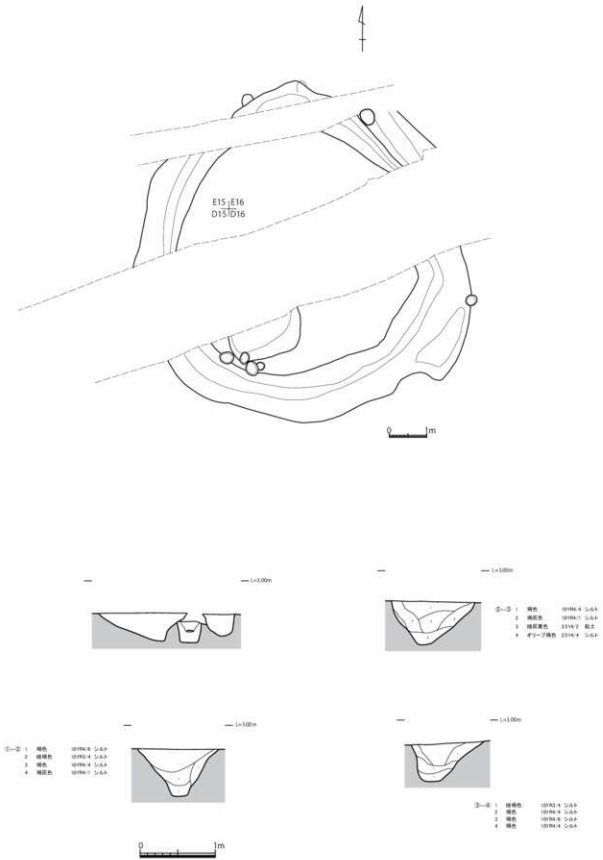


図 53　4 号周溝状遺構（SD4004）遺構図

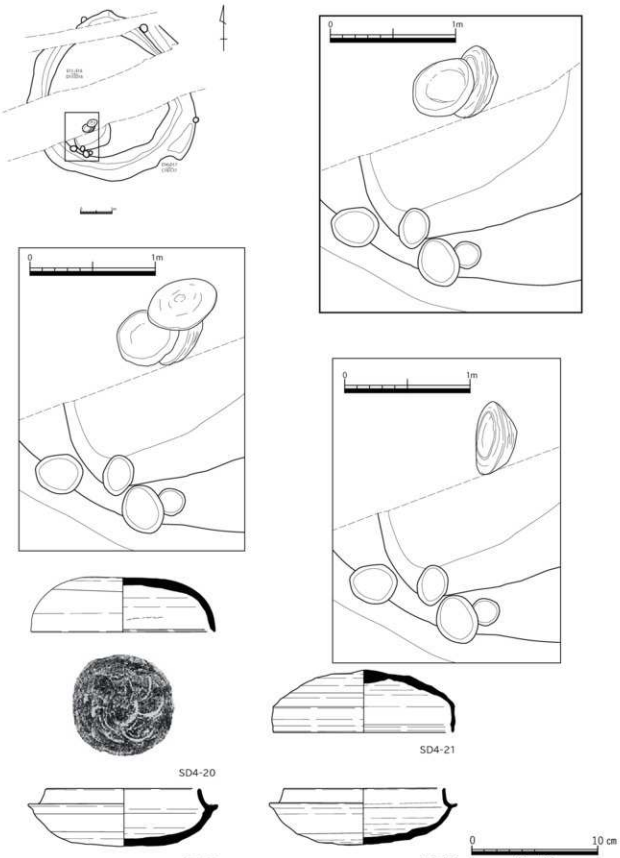


図 54　4 号周溝状遺構（SD4004）遺物出土状況図・遺物図

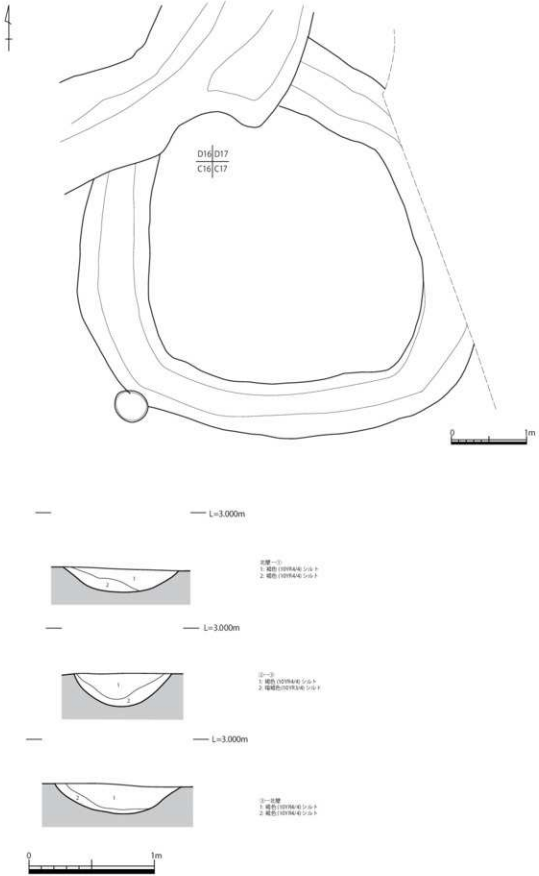


図 55　5 号周溝状遺構（SD4005）遺構図

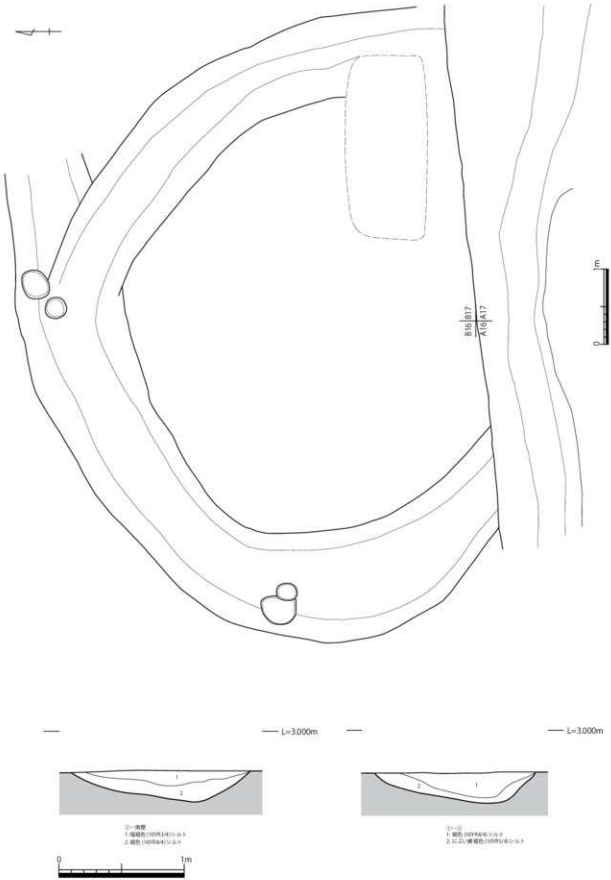


図 56　6 号周溝状遺構（SD4006）遺構図

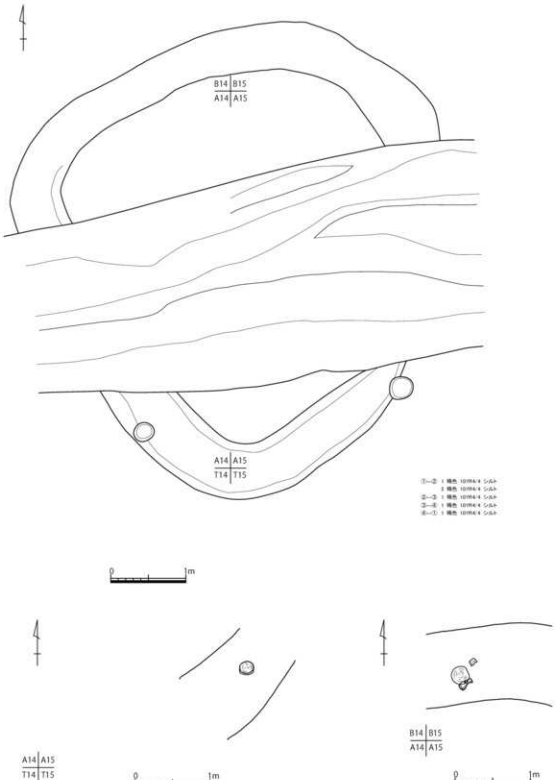


図 57　7 号周溝状遺構（SD4007）遺構図・遺物出土状況図

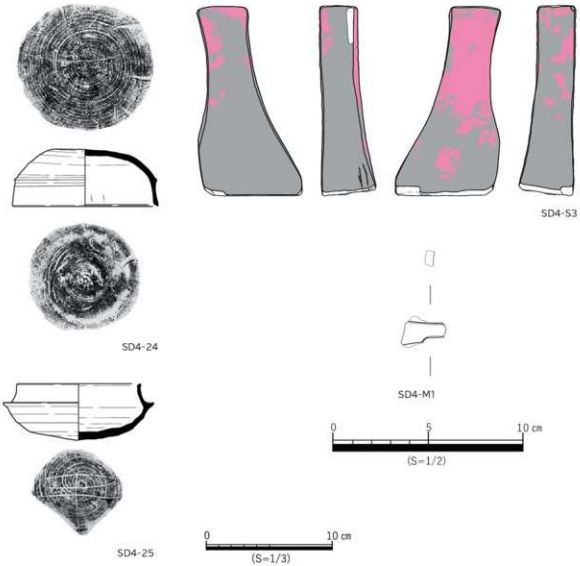


図 58　7 号周溝状遺構（SD4007）遺物図

57 号埋葬施設（ST4057）が遺構北半部に重なるが、周溝規模に比して ST4057 の規模が大きく、同周溝に伴う埋葬主体とは考え難い。また、14 号埋葬施設（ST4014）が周溝を切る。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代の築造年代が想定される。

9 号周溝状遺構（SD4009）（図 60 ～ 63）

旧 B3 区 D13,D14 グリッドにて検出された旧 SM4007 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は不整円形を呈すると想定されるが、南半を SD3001 掘削に伴い消失する。周溝外形長径 8.5m、周溝内形長径 5.65m、溝幅 1.03 ～ 2.55m、深度 0.13 ～ 1.65m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、褐色シルト質土である。周溝内より須恵器杯蓋・杯身・平平・土師器高杯・鉄鏃が出土した。SD4-26 ～ SD4-28 は TK43 式併行期である。鉄鏃 SD4-M2 は片刃箭である。

9 号周溝状遺構に伴う埋葬施設は未検出である。

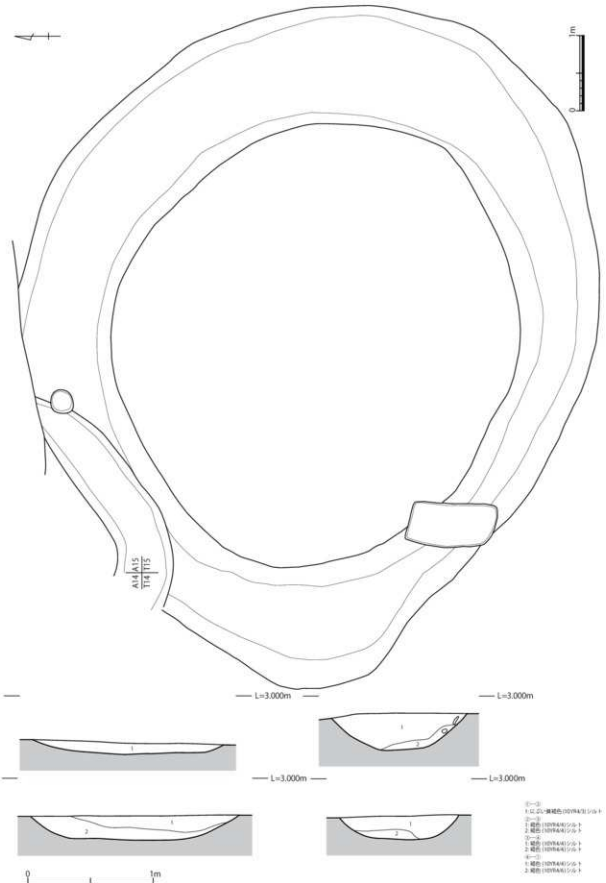


図 59　8 号周溝状遺構（SD4008）遺構図

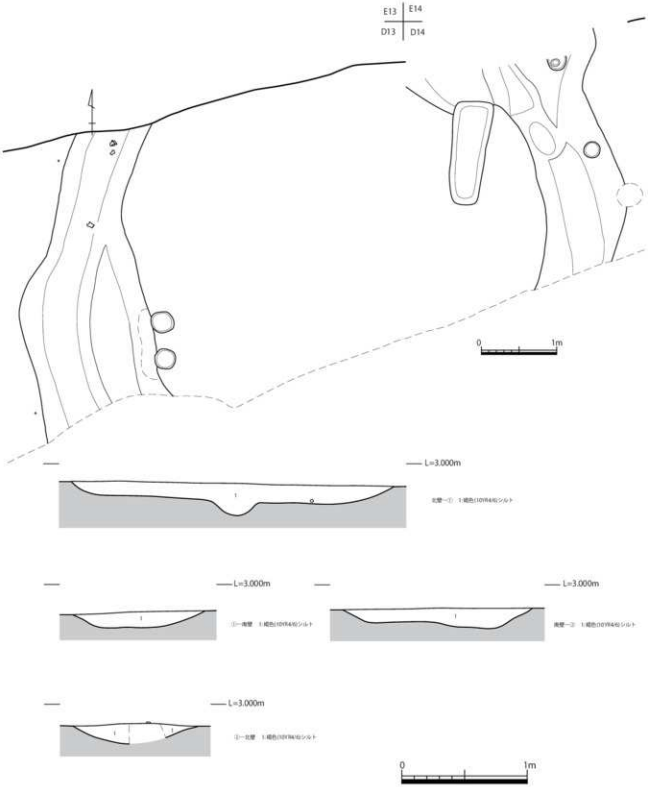


図 60　9 号周溝状遺構（SD4009）遺構図

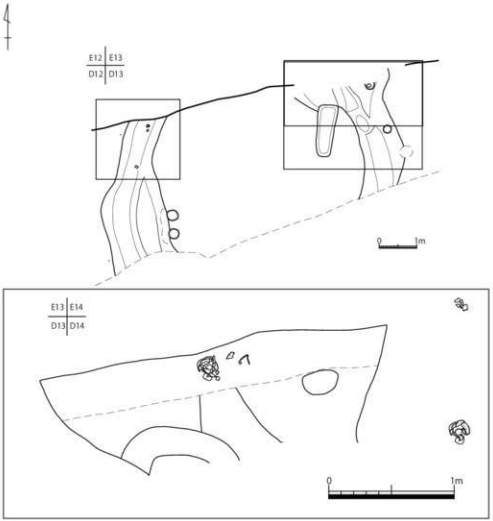


図 61　9 号周溝状遺構（SD4009）遺物出土状況図（1）

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期・6 世紀後葉の築造年代を与えることができる。

10 号周溝状遺構（SD4010）（図 64）

旧 B3 区 B13,B14,C13,C14 グリッドにて検出された旧 SM3005 である。

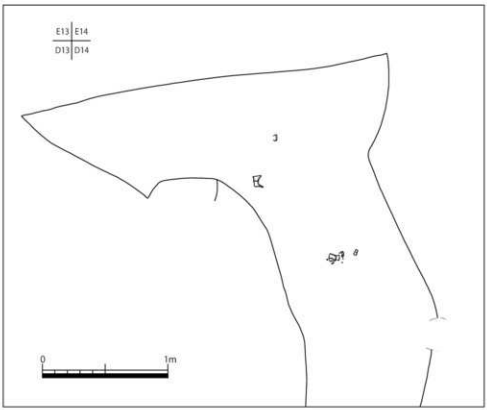
古墳周溝と推定され、平面形態は不整円形を呈する。周溝外形長径 8.2m、周溝外形短径 7.9m、周溝内形長径 6.35m、周溝内形短径 5.85m、溝幅 0.62 ～ 1.75m、深度 0.33 ～ 0.36m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、褐色シルト質土や暗褐色シルト質土である。

13 号埋葬施設（ST4013）が周溝北側において直交方向に重なる。10 号周溝状遺構に伴う埋葬施設は未検出である。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代の築造年代を与えることができる。

11 号周溝状遺構（SD4011）（図 65）

旧 B3 区 B11,B12 グリッドにて検出された旧 SM3004 である。



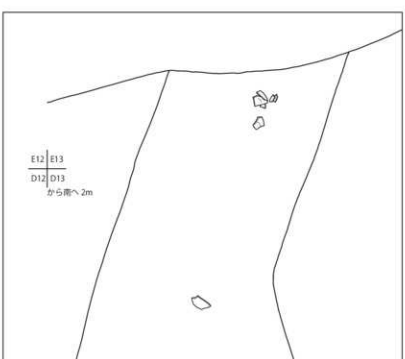


図 62　9 号周溝状遺構（SD4009）遺物出土状況図（2）

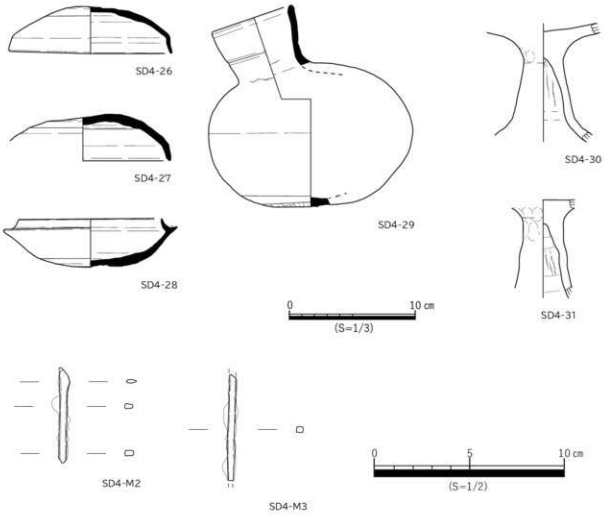


図 63　9 号周溝状遺構（SD4009）遺物図

古墳周溝と推定され、平面形態は不整方形を呈する。周溝外形長径 8.05m、周溝内形長径 6.25m、溝幅 0.78 ～ 1.23m、深度 0.24 ～ 0.42m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、暗褐色シルト質土や褐色シルト質土である。

11 号周溝状遺構に伴う埋葬施設は未検出である。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代の築造年代が想定される。

12 号周溝状遺構（SD4012）（図 66 ～ 68）

旧 B3 区 Q11,Q12,R11,R12 グリッドにて検出された旧 SM3001 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は不整円形を呈する。周溝外形長径 9.7m、周溝外形短径 9.4m、周溝内形長径 7.1m、周溝内形短径 7.05m、溝幅 1.21 ～ 1.63m、深度 0.18 ～ 0.35m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、褐色シルト質土やにぶい黄褐色シルト質土である。周溝内北東部より鉄鏃、砥石、石鏃が出土した。鉄鏃 SD4-M4 は片刃箭に棘関が伴う。鉄鏃 SD4-M5 は茎部のみの出土で矢柄が伴う。砥石 SD4-S4 は泥岩製仕上提砥である。上部に懸垂孔が 2 方向より穿孔され、側面中

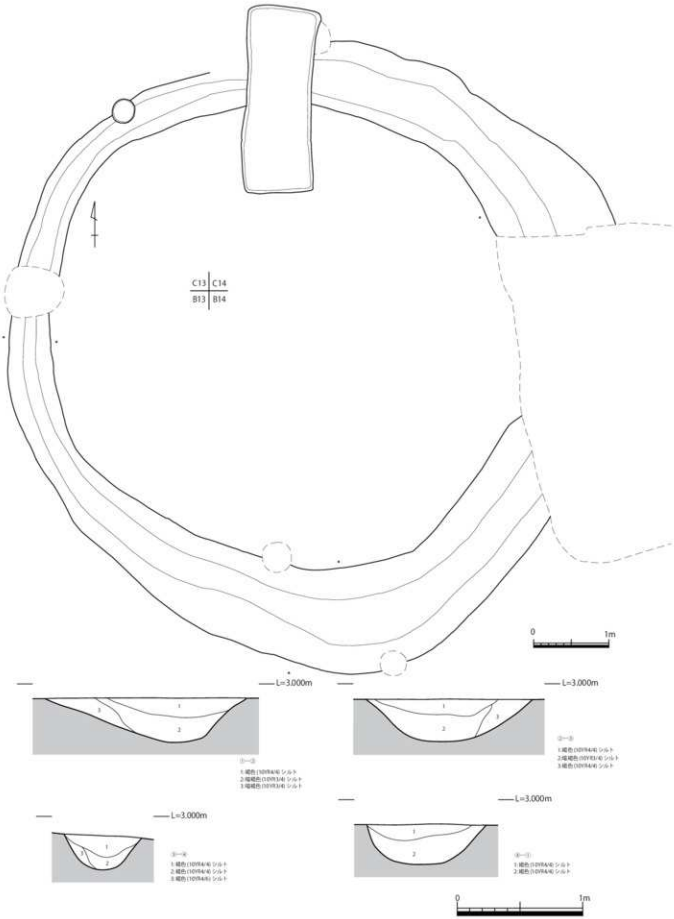


図 64　10 号周溝状遺構（SD4010）遺構図

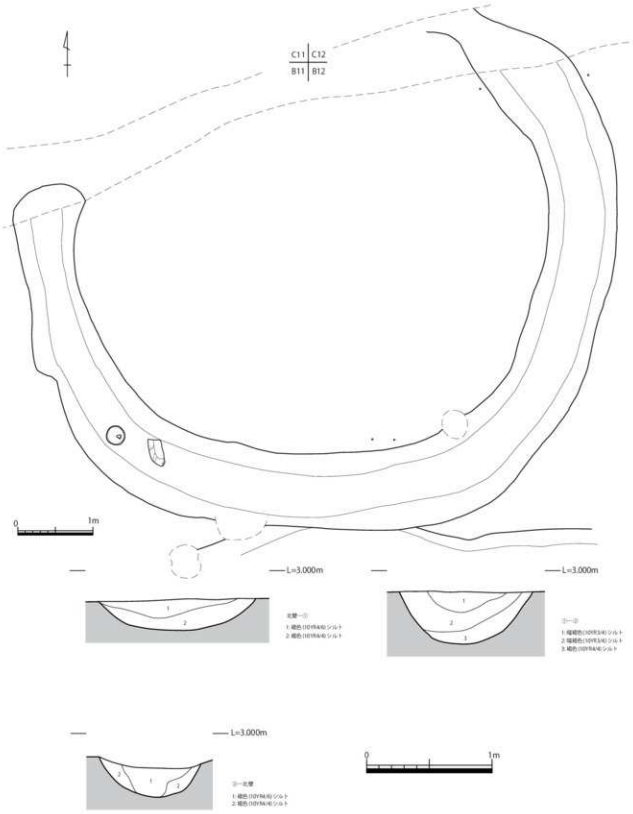


図 65　11 号周溝状遺構（SD4011）遺構図

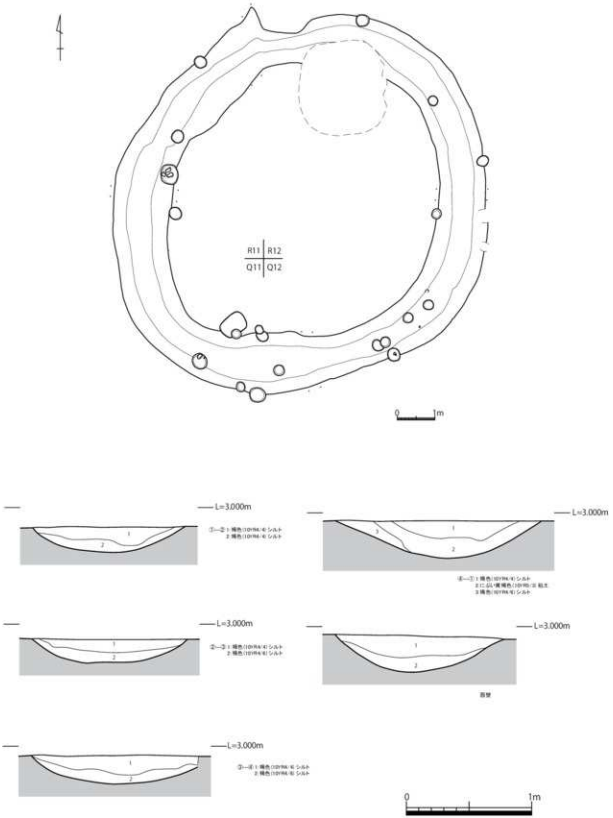


図 66　12 号周溝状遺構（SD4012）遺構図

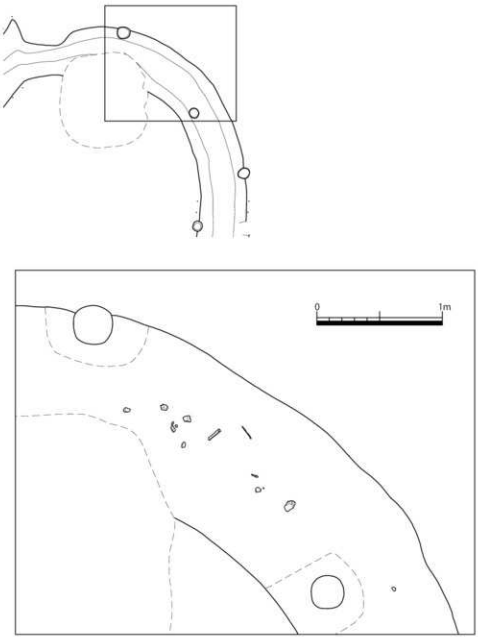


図 67　12 号周溝状遺構（SD4012）遺物出土状況図

央部～下半部に刃部調整に伴う筋状擦痕が残る。砥石 SD4-S5 は砂岩製置き砥である。上面には敲打痕も残る。石鏃 SD3-S6,SD3-S7 はサヌカイト製打製石鏃で流れ込みである。

26 号埋葬施設（ST4026）が周溝状遺構南端で検出されたが、検出位置から 12 号周溝状遺構に伴う埋葬施設とは考え難い。12 号周溝状遺構に伴う埋葬施設は未検出である。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期末・7 世紀初頭の築造年代を与えることができる。

13 号周溝状遺構（SD40）（図 69）

旧 B3 区 R10,R11,S10,S11 グリッドにて検出された旧 SM3002 である。

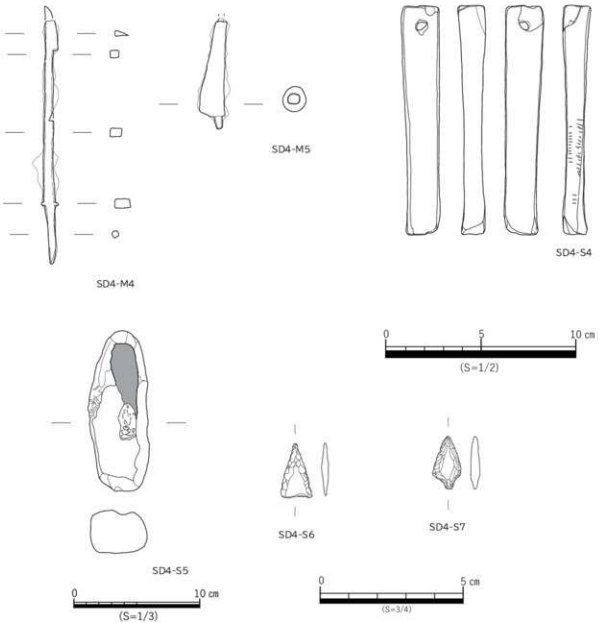


図 68　12 号周溝状遺構（SD4012）遺物図

古墳周溝と推定され、平面形態は不整方形を呈する。遺構西半部は B2 区調査時に掘削されており未確認である。残存周溝外形長径 6.5m、残存周溝内形長径 4.25m、溝幅 1.34m、深度 0.24m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、褐色シルト質土やにぶい黄褐色シルト質土である。47 号埋葬施設（ST4047）が周溝状遺構のほぼ中央に位置し、13 号周溝状遺構に伴う埋葬主体部である可能性が高い。ST4028,ST4029,ST4048,ST4049,ST4050 が周溝状遺構の西半部に重なる。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期の築造年代を与えることができる。

14 号周溝状遺構（SD4014）（図 70、71）

旧 B2 区 Q7,Q8,R7,R8 グリッドにて検出された旧 SM3002 である。

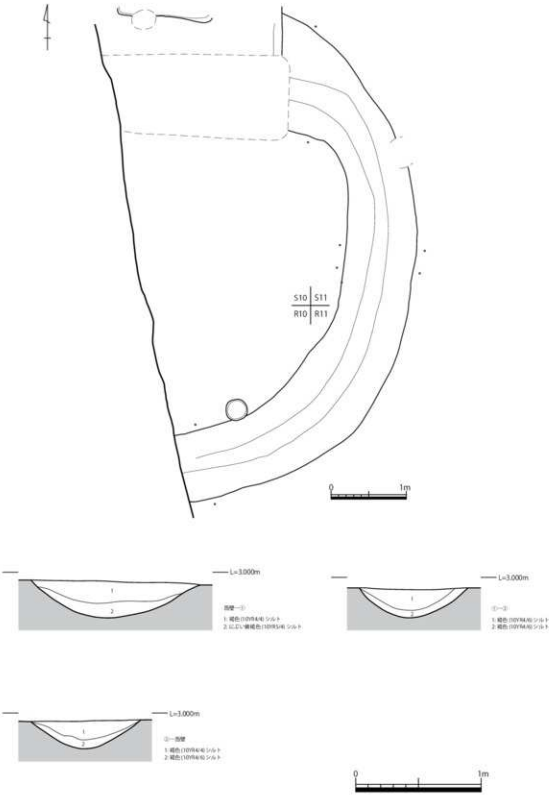


図 69　13 号周溝状遺構（SD4013）遺構図

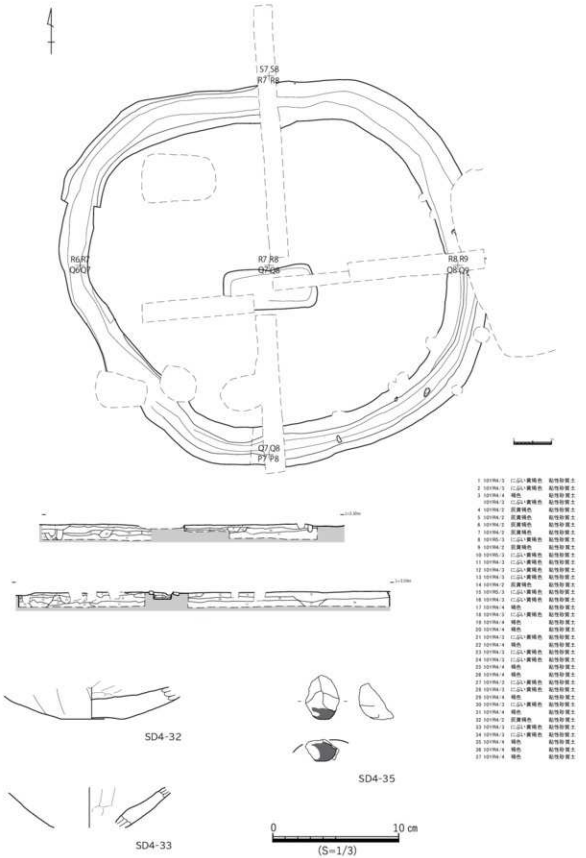


図 70　14 号周溝状遺構（SD4014）遺構図

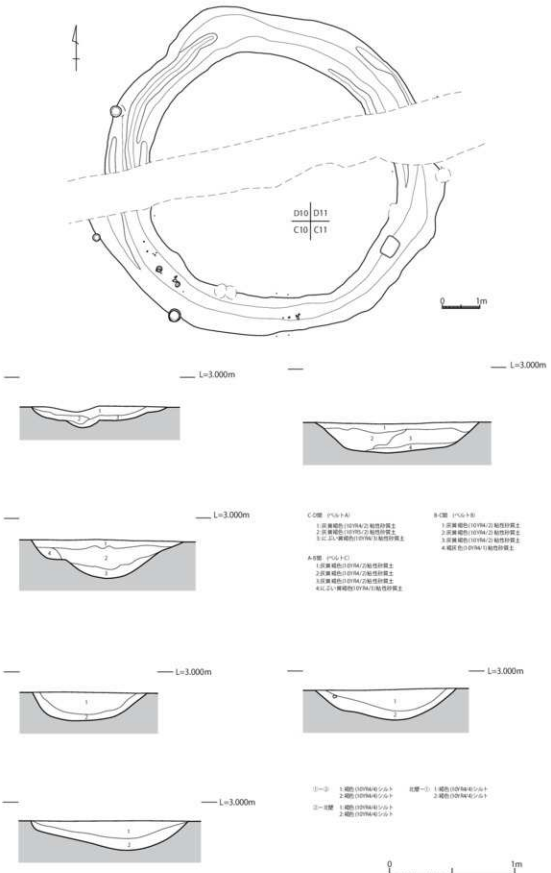


図 71　15 号周溝状遺構（SD4015）遺構図

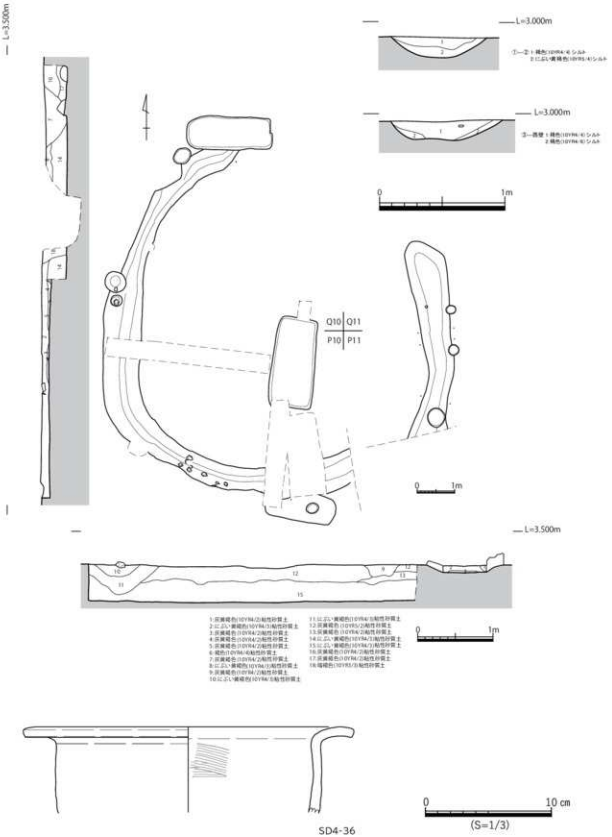


図 72　16 号周溝状遺構（SD4016）遺構図・遺物図

表 10　周溝状遺構出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度 構成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD4-1	SD5002	須恵器	杯蓋	高:4.2 口:14.1	0.1～4.0	精良	石・長・泥	外:灰白(N7/0) 内:灰白(N7/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡外:回転ナデ/簡内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ	回転方向:上から見て時計回り。2762
SD4-2	SD5002	須恵器	杯身	高:3.9 口:12.1 鋸:14.5・底:6.1	0.1～2.0	精良	石・長・泥	外:灰白(N2/1) 内:灰白(N2/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡上外:回転ナデ/簡上内:回転ナデ・簡下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→1本ユビナデ	回転方向:下から見て反時計回り。2761
SD4-4	SD5003	須恵器	杯蓋	高:5.1 口:13.3	0.1～2.0	精やや不	石・長	外:灰(N6/0) 内:灰(N6/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡外:回転ナデ/簡内:回転ナデ・簡下外:回転ナデ/簡下内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向:上から見て時計回り。2757
SD4-5	SD5003	須恵器	杯蓋	高:4.7 口:13.8 鋸:14.0	0.1～1.5	精良	石・長・凝灰岩	外:灰(N5/0) 内:褐灰(10YR6/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡外:回転ナデ/簡内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向:上から見て時計回り。胎土中に黒色微粒を少し。経年により発泡化？。2758
SD4-6	SD5003	須恵器	杯身	高:(5.1) 口:(12.6)	0.1～1.0	良不良	石・長	外:灰オリーブ(7.5Y6/2) 内:灰白(7.5Y7/2)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡外:ユビナデ/内:ユニナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ	回転方向:下から見て反時計回り。2754
SD4-7	SD5003	須恵器	杯身	高:4.8 口:11.0 鋸:13.5	0.1～2.0	精やや不	石・長・泥	外:灰白(N7/0) 内:灰白(N7/0)	口外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向:下から見て反時計回り。口縁部打ち欠き。2755
SD4-8	SD5003	須恵器	杯蓋	高:5.2 口:11.8 鋸:14.3・底:6.0	0.1～2.0	精やや不	石・長・角・泥	外:灰白(10Y7/1) 内:灰白(10Y7/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡上外:回転ナデ/簡上内:回転ナデ・簡下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向:上から見て時計回り。2756
SD4-9	SD5003	須恵器	壺	高:(16.9) 口:(11.0) 鋸:(5.95)	0.2～1.5	精良	石・長・雲	外:灰(N5/0) 内:灰(N5/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡外:回転ナデ→櫛描直状文(12条15.m)/内:回転ナデ・簡上外:回転ナデ→櫛状文(7条1cm)/内:回転ナデ・簡下外:回転ヘラケズリ→ヘラナデ/内:回転ナデ・底外:ヘラナデ→ヘラオサエ/内:指オサエ	2558
SD4-11	SD5005	須恵器	杯蓋		0.1～2.0	精良	石・長・黒	外:青灰(5PB6/1) 内:青灰(5PB6/1)	底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→あて具オサエ	回転方向:上から見て反時計回り。あて具痕あり。4592
SD4-12	SD5005	土師器	壺	口:(12.7)	0.1～7.0	良不良	石・石・雲・赤	外:浅黄橙(7.5YR8/6) 内:橙(7.5YR7/6)	口外:ヨコナデ/内:ヨコナデ・簡外:ヨコナデ/内:ヨコナデ	搬入品？。4591
SD4-13	SD5005	土師器	壺	鋸:(14.7)	0.1～2.5	精良	石・長・雲・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	簡外:ユビナデ/内:ユビナデ	4597
SD4-14	SD5005	土師器	杯	底:(6.7)	0.1～4.5	良良	石・長・チ・雲・赤・泥	外:浅黄橙(7.5YR8/4) 内:橙(7.5YR7/6)	底外:回転ヘラ切り	4590
SD4-15	SD5005	弥生土器	壺	底:7.8	0.2～2	良良	石・長・金雲	外:黒(7.5Y2/1) 胎黄灰(2.5Y5/2) 内:黒(7.5Y2/1)	底外:ユビナデ/内:ヘラケズリ	4601
SD4-16	SD5005	土師器	甕		0.1～1.0	精良	石・長・雲・赤・泥	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:橙(7.5YR7/6)	簡下外:イタナデ/内:ヘラケズリ・底外:イタナデ/内:ユビナデ	4593
SD4-17	SD5005	土師器	甕	底:(8.8)	0.5～3.0	良良	石・石・長・雲・赤	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:褐灰(10YR4/1)	簡下外:ヨコナデ/内:ケズリ・底外:ユビナデ/内:ユニナデ	4954
SD4-18	SD5005	須恵器	甕	口:(22.1) 鋸:(18.2)	0.1～0.5	精やや不	石・長	外:灰(7.5Y6/1) 内:灰(5Y6/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡外:イタナデ(ミガキ目状)/内:ヨコナデ・簡上外:平行タタキ→カキ目(本条1cm)/内:青海波文	カキ目は弱い。4612
SD4-19	SD4002	土師器	甕	底:(8.0)	0.1～3.0	粗良	石・石・長・赤・泥	外:明黄褐(10YR6/6) 内:浅黄(2.5Y8/3)	簡下外:ヘラナデ?/内:ユビナデ・底外:ユビナデ/内:ユビナデ	多孔式。2746
SD4-20	SD4004	須恵器	杯蓋	高:4.3 口:14.4	0.1～3.5	精良	石・長・チ	外:青灰(5PB5/1) 内:青灰(5PB5/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡外:回転ナデ/簡内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ→ユビナデ/内:回転ナデ→あて具痕→ユビナデ	回転方向:上から見て反時計回り。3757
SD4-21	SD4004	須恵器	杯蓋	高:3.9 口:14.2 鋸:14.6	～3.0	精良	石・長・黒	外:青灰(5PB6/1) 内:青灰(5PB5/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡上外:回転ナデ/簡上内:回転ナデ・簡下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→ユビナデ	回転方向:上から見て反時計回り。3758
SD4-22	SD4004	須恵器	杯身	高:4.55 口:12.2 鋸:6.3	0.5～4.0	精良	石・長・チ	外:褐灰(N3/0) 内:褐灰(N3/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡下外:回転ナデ/簡下内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→ユビナデ	回転方向:下から見て時計回り。3760
SD4-23	SD4004	須恵器	杯身	高:4.4 口:12.7 鋸:14.95・底:3.2	0.1～3.0	精良	石・長・黒	外:青灰(5PB6/1) 内:青灰(5PB5/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡上外:回転ナデ/簡上内:回転ナデ・簡下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向:下から見て反時計回り。3759
SD4-24	SD4007	須恵器	杯蓋	高:4.5 口:11.4	0.1～1.0	精良	石・長・チ・黒	外:明青灰(5PB7/1) 内:青灰(5PB5/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡下外:回転ナデ/簡下内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ→ヘラ記号/内:回転ナデ→あて具痕→ユビナデ	外ヘラ記号。胎土分析へラ記号。3763
SD4-25	SD4007	須恵器	杯身	高:4.5 口:9.8・底:6.8	～3.0	精良	石・長	外:灰(N6/0) 内:灰(N7/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡上外:回転ナデ/簡上内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ→ヘラ記号/内:回転ナデ→1本ユビナデ	回転方向:下から見て反時計回り。3755
SD4-26	SD4009	須恵器	杯蓋	高:3.7 口:12.8	0.1～2.0	良やや不	石・長・泥	外:灰白(5Y7/1) 内:灰白(5Y7/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡上外:回転ナデ/簡上内:回転ナデ・簡下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ	回転方向:上から見て時計回り。5782
SD4-27	SD4009	須恵器	杯蓋	高:3.7 口:(14.0)	0.2～2.5	精良	石・長	外:灰(N4/0) 内:灰(N6/0)	底外:回転ナデ→ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向:上から見て反時計回り。2541
SD4-28	SD4009	須恵器	杯身	高:3.75 口:13.3 鋸:13.8・底:4.0	0.1～2.0	精良	石・長・泥	外:灰白(N7/0) 内:灰白(N7/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡上外:回転ナデ/簡上内:回転ナデ・簡下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向:下から見て時計回り。5778
SD4-29	SD4009	須恵器	平瓶	高:14.5 口:6.4 鋸:5.45 胴:16.2・底:7.95	0.1～2.0	良良	石・長・泥	外:灰(N6/0) 内:灰(N6/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・簡外:回転ナデ/簡上内:回転ナデ・簡下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ→手持ちヘラケズリ	回転方向:下から見て反時計回り。3764
SD4-30	SD4009	土師器	高坏		0.2～3.5	良不良	石・石・長・チ・雲・赤	外:浅黄橙(10YR8/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)		5754
SD4-31	SD4009	土師器	高坏		0.1～0.2	良不良	石・長・雲・赤	外:浅黄橙(7.5YR8/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	簡下外:ユビオサエ→ユビナデ/内:ユビオサエ。シボリ→ユビナデ	5755
SD4-32	SD4014	土師器	壺	底:(5.0)	0.1～6.0	良やや不	石・石・長・チ・雲・赤	外:にぶい橙(2.5YR5/4) 内:灰褐(2.5YR5/2)	簡下外:イタナデ/内:ユビナデ・底外:イタナデ/内:ユビオサエ	4699
SD4-33	SD4014	土師器	甕		0.1～5.0	良やや不	石・石・長・雲・赤・泥	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:褐灰(2.5YR5/1)	簡下外:ユビナデ/内:ユビナデ・底内:ユビオサエ	4700

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度焼成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD4-35	SD4014	土師器	羽口		0.1～0.2	脆不良	石・長・泥	外：にぶい橙（5YR6/4）		4702
SD4-36	SD4016	土師器	甕	高:24.2 口:20.95	0.2～3.5	粗良	結・石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・頸上部：ユビナデ／内：イタナデ	4708

表 11　周溝状遺構土製品観察表

番号	遺構	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	孔径(cm)	粒径(mm)	密度／焼成	胎土組成	色調	実測番号
SD4-3	SD5002	土製紡錘車	5.2	5.1	3.0	54.86	0.9	0.1～0.4	稍／良	結・石・長・チ	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	2760
SD4-10	SD8003	土製紡錘車	4.8	4.4	2.7	48.85	0.75	0.1～0.4	稍／良	結・石・長・チ	外：橙(7.5YR6/8) 内：橙（5YR6/8）	2759

表 12　周溝状遺構石器観察表

掲載番号	遺構	石材	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	実測番号
SD4-S1	SD5006	サヌカイト	剥片	3.2	1.5	0.7	3.3	2963
SD4-S2	SD4001	サヌカイト	剥片	4.2	2.7	0.6	7.75	2969
SD4-S3	SD4007	凝灰岩	砥石	10.0	5.5	3.0	160.4	3791
SD4-S4	SD4012	泥岩	砥石	12.1	2.1	1.5	49.7	3792
SD4-S5	SD4012	砂岩	敲石	12.7	4.6	3.4	290.1	4703
SD4-S6	SD4012	サヌカイト	石鏃	3.8	2.2	0.5	3.4	4675
SD4-S7	SD4012	サヌカイト	石鏃	3.7	2.0	0.65	4.4	4860

表 13　周溝状遺構鉄器観察表

番号	遺構	器種	全長(cm)	幅（cm）	厚（cm）	実測番号
SD4-M1	SD4007	刀子	2.2	0.7		3802
SD4-M2	SD4009	鉄鏃	4.9	0.8	0.7	3800
SD4-M3	SD4009	鉄鏃	5.6	0.8	0.7	3799
SD4-M4	SD4012	鉄鏃	12.8	1.2	1.1	3794
SD4-M5	SD4012	鉄鏃	5.9	1.4	1.4	3798

古墳周溝と推定され、平面形態は不整方形を呈する。周溝外形長径 11.75m、周溝外形短径 10.0m、周溝内形長径 9.95m、周溝内形短径 7.95m、溝幅 1.1m、深度 0.5m を測る。溝断面形状は緩い逆台形を呈する。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。周溝内より弥生土器壺や土師器甕や羽口が出土した。壺 SD4-32 は浅く凹んだ底部であり弥生時代後期前半と推定される。甕 SD4-33 は平底と推定され、弥生時代後期前半と推定される。壺 SD4-34 は平底底部で、弥生時代後期前半である。羽口 SD4-35 は一部に被熱赤変が確認される。何れも小片であり、流れ込みである。

52 号埋葬し施設（ST4052）が周溝状遺構のほぼ中央部に構築されており、14 号周溝状遺構に伴う埋葬施設と推定される。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期の築造年代を与えることができる。

16 号周溝状遺構（SD4016）（図 72）

旧 B2 区 P10,P11,Q10,Q11 グリッドにて検出された旧 SM3003 である。

古墳周溝と推定され、平面形態は不整円形を呈する。周溝外形長径 9.35m、周溝内形長径 7.35m、溝幅 0.88m、深度 0.14m を測る。溝断面形状は緩い舟底形を呈する。遺構覆土は、褐色シルト質土やにぶい黄褐色シルト質土である。土師器甕が出土した。

54 号埋葬施設（ST4054）が周溝状遺構のほぼ中央部南よりに構築されており、15 号周溝状遺構に伴う埋葬施設と推定される。周溝状遺構南端において 55 号埋葬施設（ST4055）を切る。

遺構構築面や出土遺物より、古墳時代後期の築造年代を与えることができる。

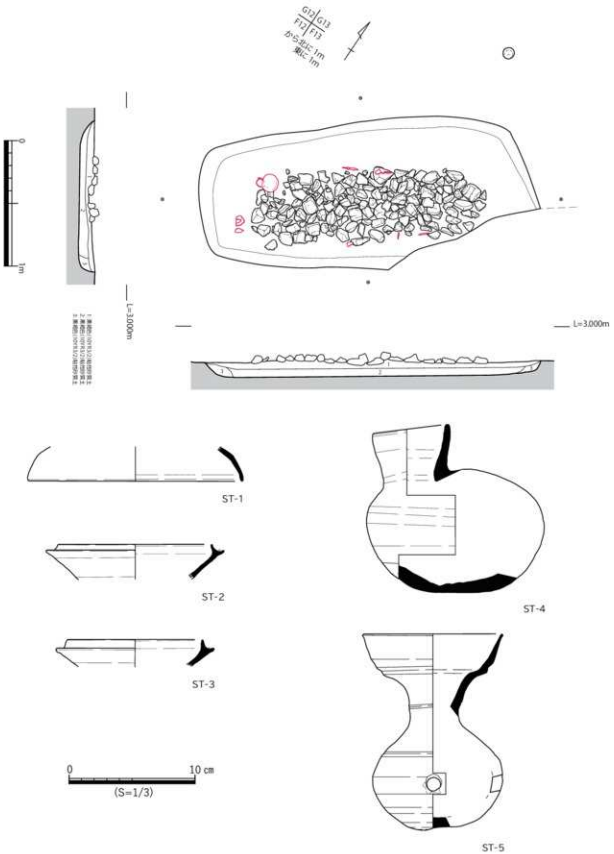


図 73　1 号埋葬施設（ST4001）遺構図（1）・遺物図

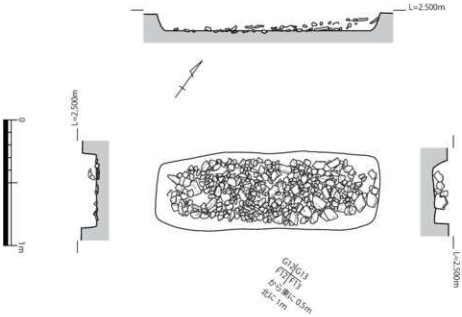


図 74　2 号埋葬施設（ST4002）遺構図

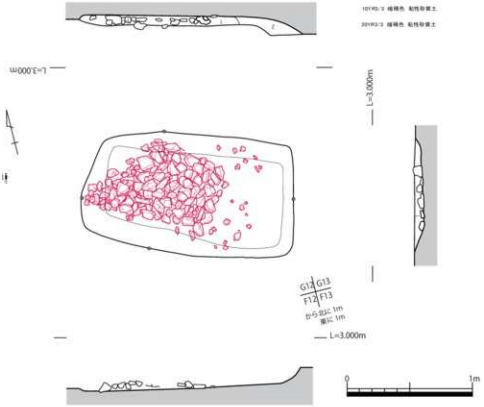


図 75　3 号埋葬施設（ST4003）遺構図

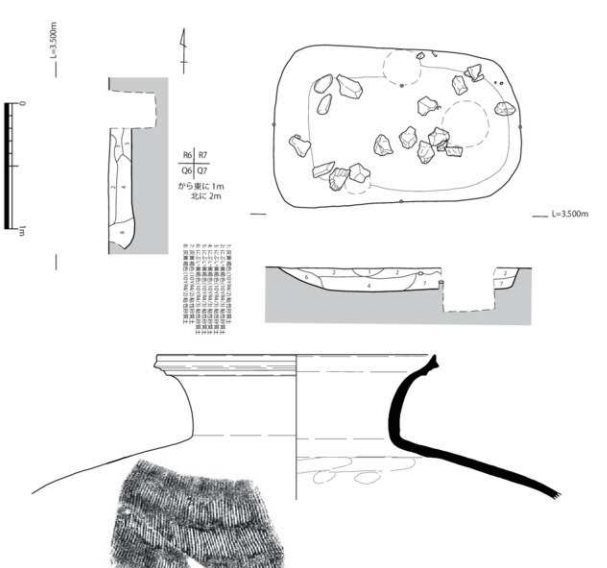


図 76　5 号埋葬施設（ST4005）遺構図・遺物図

(3) 埋葬施設（ST）

1 号埋葬施設（ST4001）（図 73）

旧 B1 区 G13 グリッドにて検出された旧 ST3002 である。

礫床墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.70m、短軸長 1.13m、深度 0.11m、主軸方位 N-55.30°-E を測る。遺構覆土は、黒褐色粘性砂質土である。黒褐色粘性砂質土を墓壙充填土として 1 層上面に川原石を敷き詰める。礫床横断形状が浅い舟底形を呈することから、舟底形木棺が伴うと推定される。礫床の範囲から木棺法量は、全長 1.8m、幅 0.5m と推定される。

須恵器杯蓋・杯身・平瓶・甕が出土した。平瓶 ST-4 は礫床南西隅に該当し、棺内副葬の可能性がある。

甕 ST-5 は墓壙より北へ約 0.5m 外れた地点より出土した。本来は墓壙内もしくは墳丘盛土内に供献された可能性がある。杯蓋 ST-1 は TK43 式併行期に、杯身 ST-2, 杯身 ST-3, 平瓶 ST-4, 甕 ST-5 は TK209 式併行期に該当する。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期・6 世紀末葉の年代を与えることができる。

2 号埋葬施設（ST4002）（図 74）

旧 B1 区 G12 グリッドにて検出された旧 ST3007 である。

礫床墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は矩形を呈する。長軸長 1.78m、短軸長 0.60m、深度 0.10m、主軸方位 N-55.00°-E を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土である。墓壙内に川原石が 2 重に充填されているが、東側小口には比較的大きな礫が敷設されている。礫床の範囲から木棺法量は、全長 1.65m、幅 0.5m と推定される。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

3 号埋葬施設（ST4003）（図 75）

旧 B1 区 G13 グリッドにて検出された旧 ST3005 である。

礫床墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.64m、短軸長 0.92m、深度 0.11m、主軸方位 N-71.00°-W を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土である。墓壙基底部に川原石を敷設する。礫床の範囲から木棺法量は、全長 1.1m、幅 0.56m と推定されるが、墓壙規模と 1 層の範囲を基準にすると全長約 1.2m が想定される。ST4003・ST4005・ST4006 は主軸方位がほぼ同じ事から、関連性が伺える。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

4 号埋葬施設（ST4004）（図 77）

旧 B1 区 F12 グリッドにて検出された旧 SK3011 である。

土壙墓である。平面形態は楕円形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.00m、短軸長 0.59m、深度 0.20m、主軸方位 N-9.50°-E を測る。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。木棺等の痕跡は認められない。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

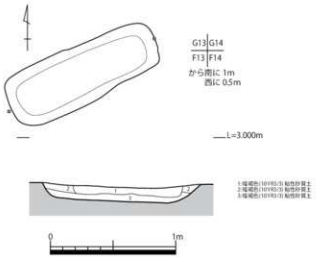
5 号埋葬施設（ST4005）（図 76）

旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 ST3004 である。

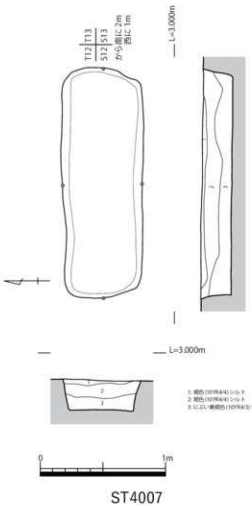
礫敷土壙墓である。平面形態は隅丸方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.96m、短軸長 1.22m、深度 0.17m、主軸方位 N-90.00°-E を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。基底部に 20 ㎝大の比較的大型の割石が敷設されるが、全面ではない。また、木槨・木棺の裏込機能も弱い。棺台の可能性が想定される。須恵器甕が出土した。甕 ST-10 は TK43 式併行期である。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

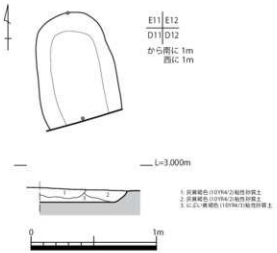
ST4004



ST4006



ST4007



ST4009

図 77　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（1）

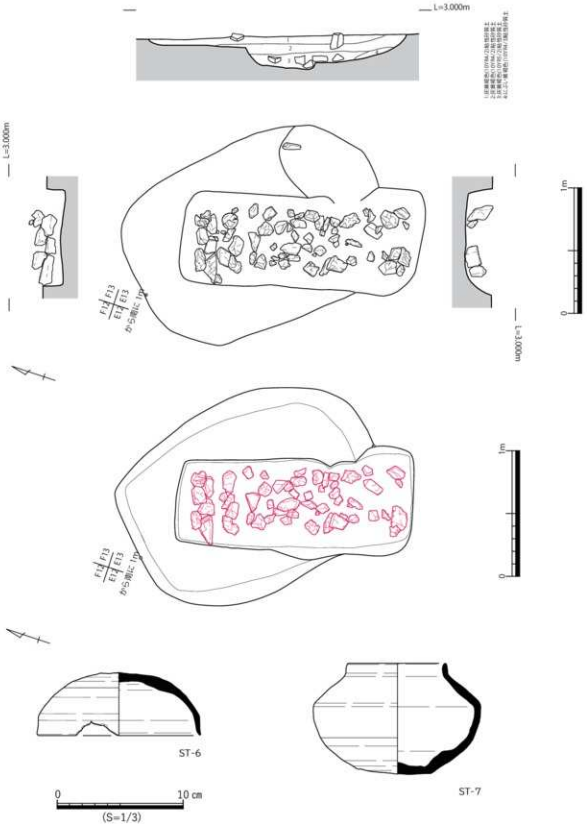


図 78　8 号埋葬施設（ST4008）遺構図・遺物図

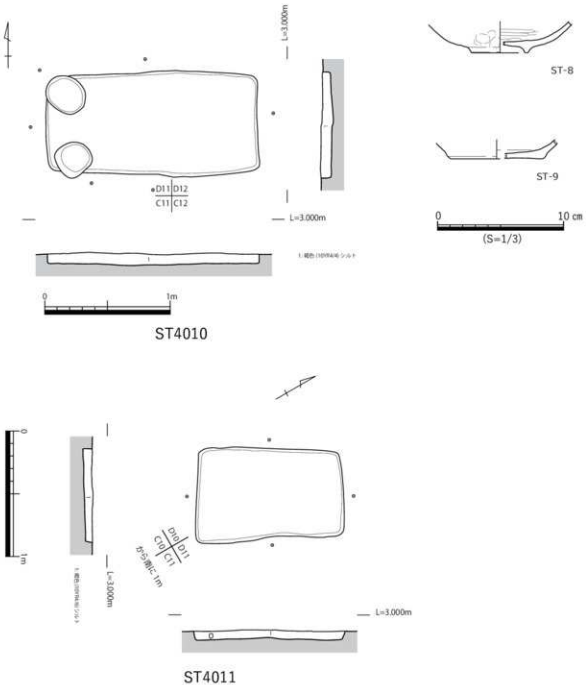


図 79(1)　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（2）

6 号埋葬施設（ST4006）（図 77）

旧 B1 区 F13 グリッドにて検出された旧 SD3008-ET1 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.23m、短軸長 0.43m、深度 0.11m、主軸方位 N-64.00°-E を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土である。SD4002（旧 SD3008）に伴う墓壙として検出したが、主軸方位が異なることや、周溝状遺構の中心に位置しないことから , 別遺構とした。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

7 号埋葬施設（ST4007）（図 77）

旧 B3 区 S12 グリッドにて検出された旧 ST4007 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.81m、短軸長 0.62m、深度 0.21m、主軸方位 N-90.00°-E を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。木棺等の痕跡は未確認である。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

8 号埋葬施設（ST4008）（図 78）

旧 B1 区 E13 グリッドにて検出された旧 SK3012 である。

礫床木槨墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.05m、短軸長 0.98m、深度 0.24m、主軸方位 N-44.75°-W を測る。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。

礫床は 1 重の敷石が敷設されるのみである。一方、南北両小口では約 10 cm幅の礫床空隙が認められ、両空隙の外側礫は直線状に面を揃え、且つ、外側礫は 2 段二以上積まれていることから、外側礫が小口板（短側板）を押さえる木槨構造と推定される。但し長測壁外側には、押さえ機能を有する石積みは認められない。木槨底面断面形状は、礫床横断面が緩い弧を描くことから浅い舟底を呈する。槨内法法量は、全長 1.4m、幅 0.5m と推定される。釘や鎹などの緊結金具は未検出である事から、小口板が棺底部より長い組合式木棺の可能性も想定できる。

槨内礫床部より須恵器杯蓋と短頸壺が出土した。坏蓋 ST-6 は口縁端部 1 箇所に打ち欠きを施す。TK43 式併行期の年代を与えることができる。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期・6 世紀後葉の年代を与えることができる。

9 号埋葬施設（ST4009）（図 77）

旧 B3 区 D11 グリッドにて検出された旧 SK3016 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。残存長軸長 0.88m、短軸長 0.63m、深度 0.12m、主軸方位 N-10.08°-W を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。

遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

10 号埋葬施設（ST4010）（図 79）

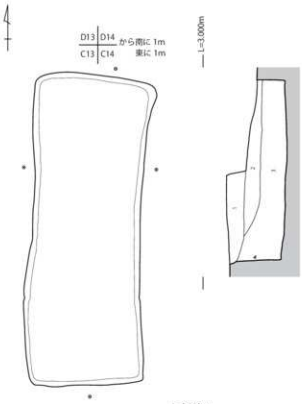
旧 B3 区 D11 グリッドにて検出された旧 SK3014 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 1.65m、短軸長 0.80m、深度 0.08m、主軸方位 N-88.00°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土である。土師器椀と土師器杯が出土した。

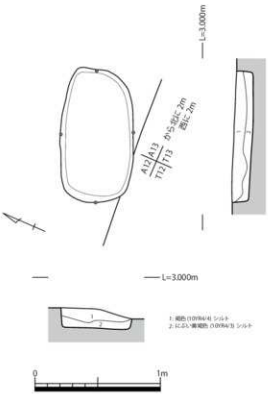
出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

11 号埋葬施設（ST4011）（図 79）

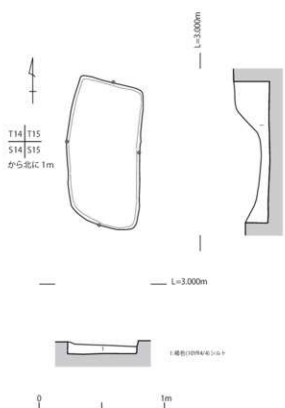
旧 B1 区 C10,C11 グリッドにて検出された旧 SM3006-ET1 である。



ST4013



ST4012



ST4014

図 79(2)　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（2）

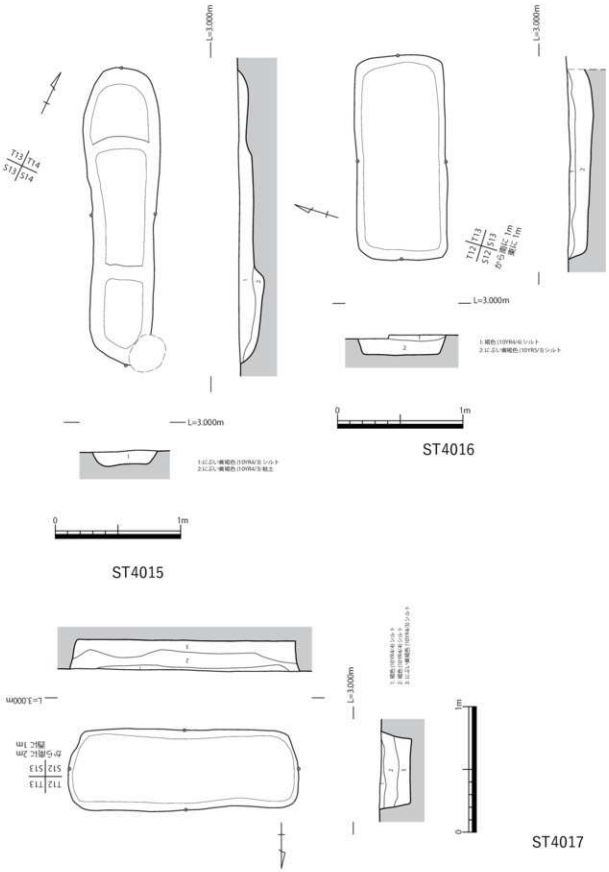


図 80　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（3）

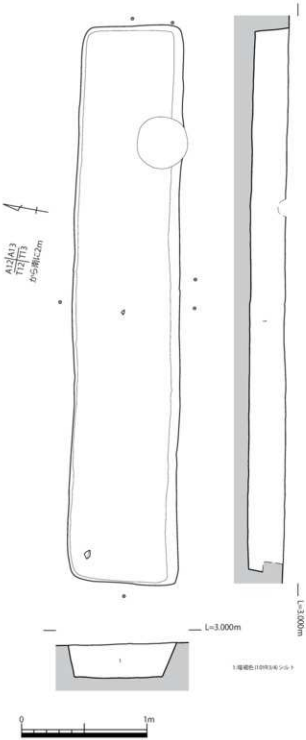


図 81　18 号埋葬施設（ST4018）遺構図

土壙墓である。平面形態は長方形を呈し、断面形態は矩形を呈する。長軸長 1.13m、短軸長 0.70m、深度 0.03m、主軸方位 N-31.00°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土である。

遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

12 号埋葬施設（ST4012）（図 79）

旧 B3 区 A12 グリッドにて検出された旧 4001 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.05m、短軸長 0.58m、深度 0.15m、主軸方位 N-70.30°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土やにぶい黄褐色シルト質土である。

遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

13 号埋葬施設（ST4013）（図 79）

旧 B3 区 C14 グリッドにて検出された旧 ST3003 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は長方形を呈する。長軸長 2.42m、短軸長 0.83m、深度 0.44m、主軸方位 N-5.00°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土である。木棺痕跡等は未確認である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と遺構形状から、古墳時代後期と推定される。古代の可能性も想定される。

14 号埋葬施設（ST4014）（図 79）

旧 B3 区 T15 グリッドにて検出された旧 SK4014 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.13m、短軸長 0.58m、深度 0.27m、主軸方位 N-37.50°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土である。土師器小片がが出土した。

遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

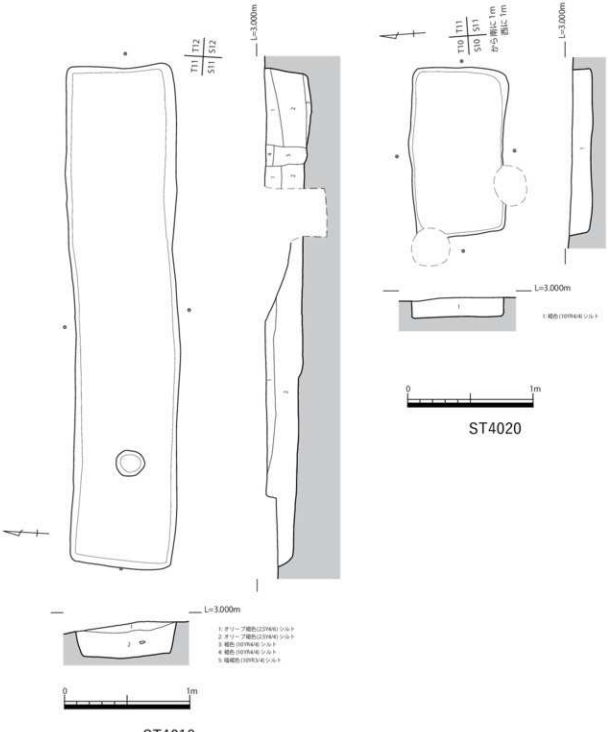


図 82　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（4）

15 号埋葬施設（ST4015）（図 80）

旧 B3 区 S14,S15 グリッドにて検出された旧 SK4003 である。

土壙墓である。平面形態は楕円形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.34m、短軸長 0.50m、深度 0.20m、主軸方位 N-26.30°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色シルト質土やにぶい黄褐色粘土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

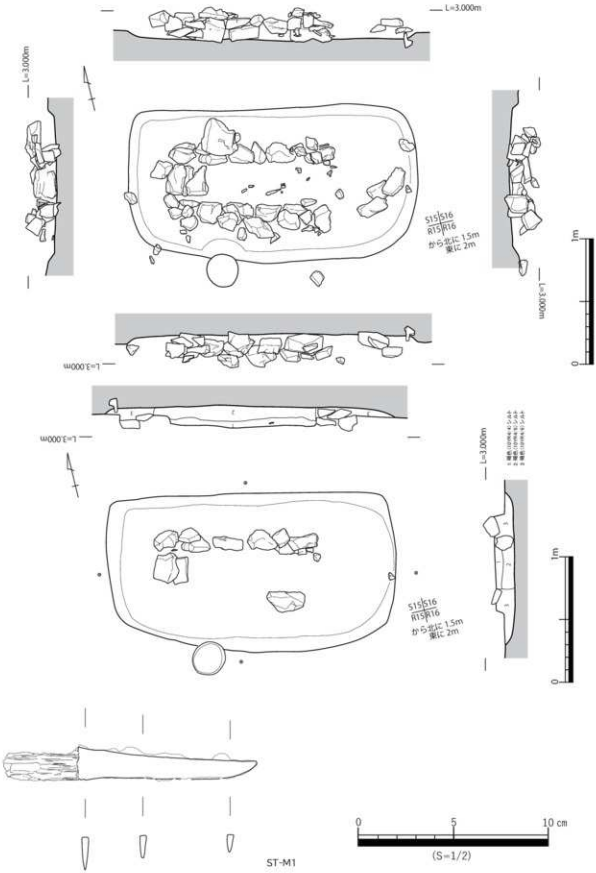


図 83　21 号埋葬施設（ST4021）遺構図

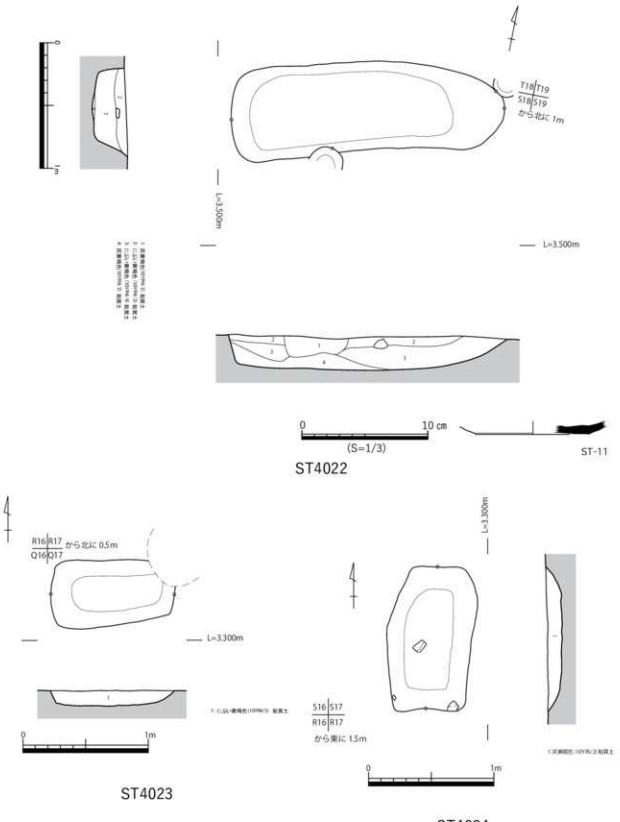


図 84　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（5）

16 号埋葬施設（ST4016）（図 80）

旧 B3 区 S13 グリッドにて検出された旧 ST4004 である。

土壙墓である。平面形態は長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.60m、短軸長 0.70m、深度 0.20m、主軸方位 N-71.00°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土やにぶい黄褐色シルト質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

17 号埋葬施設（ST4017）（図 80）

旧 B3 区 S13 グリッドにて検出された旧 ST4002 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 2.13m、短軸長 0.63m、深度 0.30m、主軸方位 N-89.00°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土やにぶい黄褐色シルト質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

18 号埋葬施設（ST4018）（図 81）

旧 B3 区 T12 グリッドにて検出された旧 ST3004 である。

土壙墓である。平面形態は長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 4.39m、短軸長 0.83m、深度 0.24m、主軸方位 N-78.50°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

19 号埋葬施設（ST4019）（図 82）

旧 B3 区 T11 グリッドにて検出された旧 ST3002 である。

土壙墓である。平面形態は長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 3.96m、短軸長 0.87m、深度 0.29m、主軸方位 N-87.50°-E を測る。遺構覆土はオリーブ褐色シルト質土や褐色シルト質土や暗褐色シルト質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

20 号埋葬施設（ST4020）（図 82）

旧 B3 区 T10 グリッドにて検出された旧 SK3010 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は矩形を呈する。長軸長 1.33m、短軸長 0.74m、深度 0.15m、主軸方位 N-86.10°-W を測る。遺構覆土は褐色シルト質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

21 号埋葬施設（ST4021）（図 83）

旧 B3 区 S15 グリッドにて検出された旧 ST3001 である。

小竪穴式石室墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 2.35m、短軸長 1.26m、深度 0.18m、主軸方位 N-76.00°-W を測る。遺構覆土は褐色シルト質土である。白色の頁岩系割石を 1 ～ 2 段積み重ねている。床石は敷設されていない。西側短側壁内側に平石が敷設されて

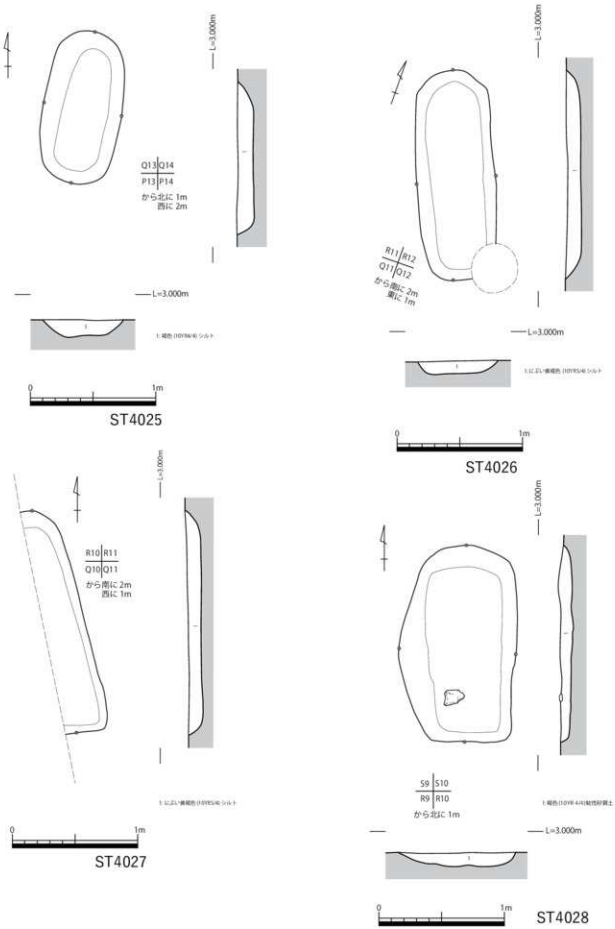
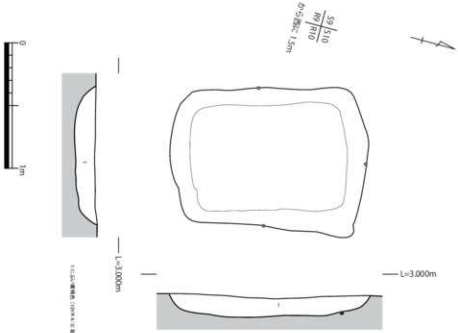
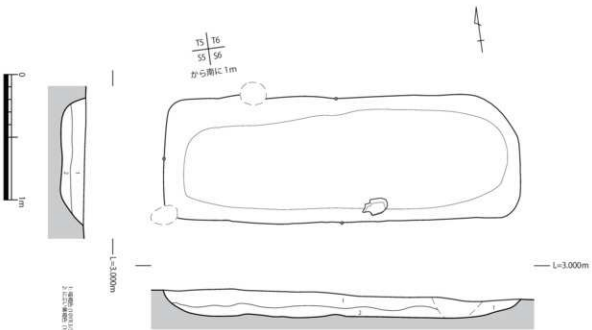


図 85　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（6）



ST4029



ST4030

図 86 第 4 遺構面埋葬施設遺構図（7）

おり、棺台と推定される。石室内法全長 1.56m、幅 0.35m と推定される。鹿角装刀子が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期前半の年代を与えることができる。

22 号埋葬施設（ST4022）（図 84）

旧 B4 区 S18 グリッドにて検出された旧 SK2025 である。

土壙墓である。平面形態は不整楕円形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.16m、短軸長 0.69m、深度 0.26m、主軸方位 N-77.70°-E を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。木棺痕跡は未確認である。2 層中より須恵器杯身が出土した。杯身 ST-11 は小片であり、流れ込みの可能性もある。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

23 号埋葬施設（ST4023）（図 84）

旧 B4 区 S17 グリッドにて検出された旧 SK4011 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 1.13m、短軸長 0.68m、深度 0.12m、主軸方位 N-5.00°-E を測る。遺構覆土はである。が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

24 号埋葬施設（ST4024）（図 84）

旧 B4 区 Q17 グリッドにて検出された旧 SK4010 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 0.99m、短軸長 0.53m、深度 0.11m、主軸方位 N-89.25°-W を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

25 号埋葬施設（ST4025）（図 85）

旧 B3 区 Q13 グリッドにて検出された旧 SK4007 である。

土壙墓である。平面形態は楕円形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.22m、短軸長 0.62m、深度 0.14m、主軸方位 N-8.30°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

26 号埋葬施設（ST4026）（図 85）

旧 B3 区 Q12 グリッドにて検出された旧である。

土壙墓である。平面形態は楕円形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸 1.66 長 m、短軸長 0.63m、深度 0.11m、主軸方位 N-23.70°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色シルト質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

27 号埋葬施設（ST4027）（図 85）

旧 B3 区 R10 グリッドにて検出された旧 SK4010 である。

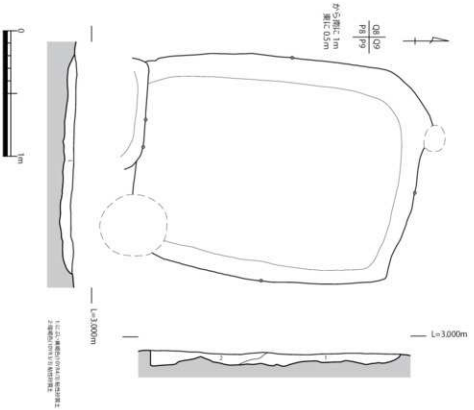


図 87　31 号埋葬施設（ST4031）遺構図

土壙墓である。平面形態は楕円形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.80m、残存短軸長 0.22m、深度 0.11m、主軸方位 N-13.20°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色シルト質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

28 号埋葬施設（ST4028）（図 85）

旧 B2 区 S10 グリッドにて検出された旧 SK4039 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.59m、短軸長 0.8m、深度 0.14m、主軸方位 N-5.00°-W を測る。遺構覆土は褐色粘性砂質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

29 号埋葬施設（ST4029）（図 86）

旧 B2 区 R9 グリッドにて検出された旧 SK4041 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.57m、短軸長 1.06m、深度 0.17m、主軸方位 N-16.50°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

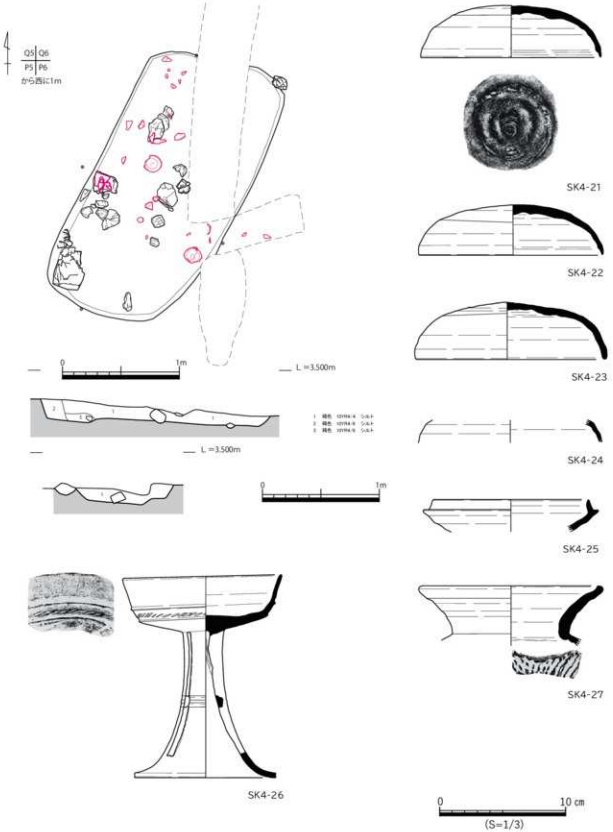


図 88　32 号埋葬施設（ST4032）遺構図・遺物図

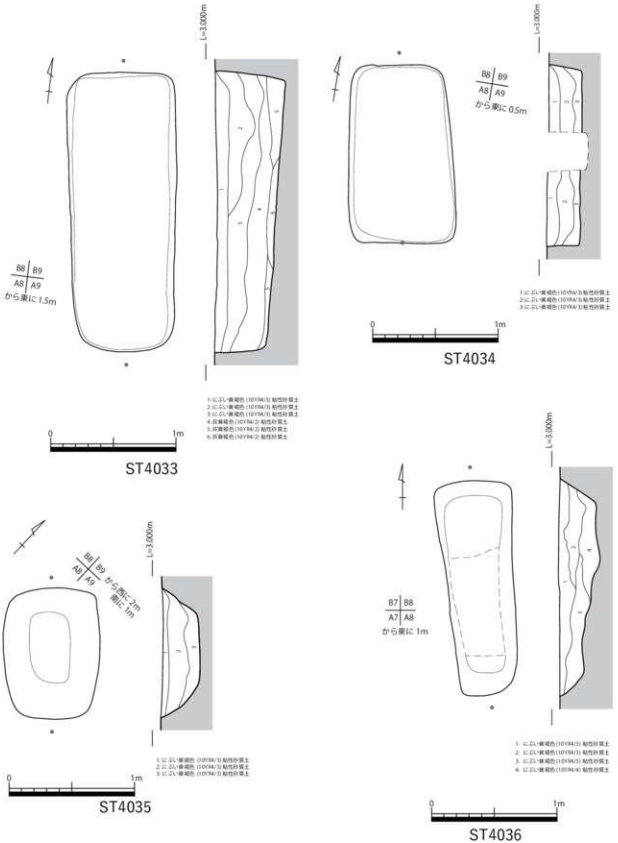


図 89　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（8）

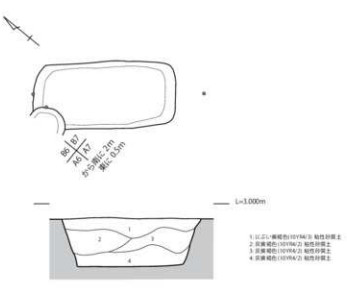


図 90　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（9）

30 号埋葬施設（ST4030）（図 86）

旧 B2 区 S6 グリッドにて検出された旧 SK4049 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.81m、短軸長 0.99m、深度 0.18m、主軸方位 N-83.20°-W を測る。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

31 号埋葬施設（ST4031）（図 87）

旧 B2 区 Q9 グリッドにて検出された旧 SK4062 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.18m、短軸長 1.79m、深度 0.12m、主軸方位 N-9.55°-E を測る。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

32 号埋葬施設（ST4032）（図 88）

旧 B2 区 B4 グリッドにて検出された旧 ST3001 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.23m、短軸長 1.35m、深度 0.15m、主軸方位 N-75.00°-E を測る。遺構覆土は褐色シルト質土である。礫床等は敷設されていない。

墓壙基底面から須恵器杯蓋・杯身・高杯・甕が出土した。坏蓋 SK4-21 は内面に青海波文当具痕が残る。杯蓋 SK4-23 は外面に発泡痕と壁体が付着する。高杯 SK4-26 は長脚 2 段スカシが 3 方向に施される。TK43 式併行期である。

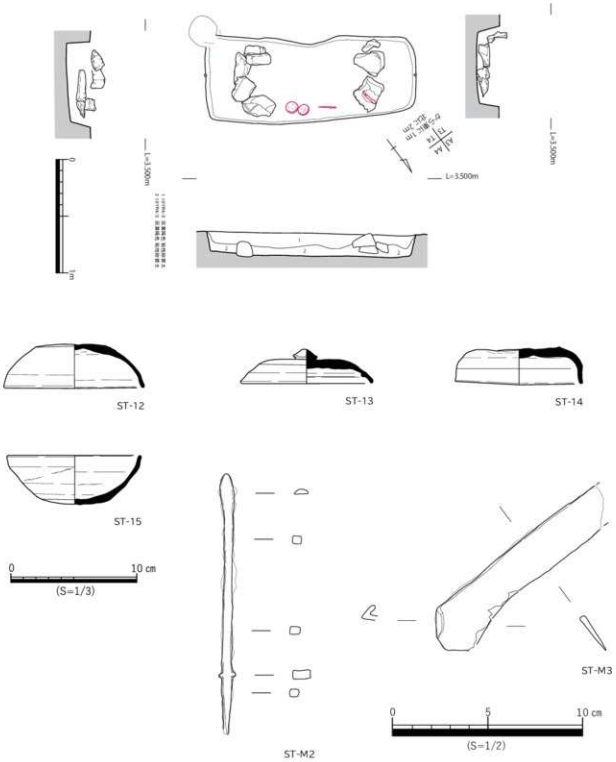
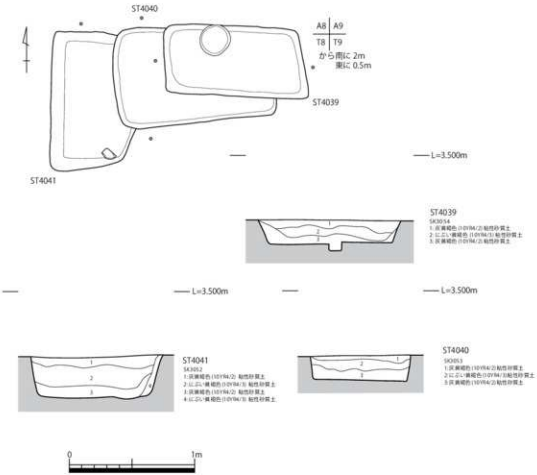


図 91　38 号埋葬施設（ST4038）遺構図・遺物図



ST4039・ST4040・ST4041

図 92　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（10）

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期・6 世紀後葉の年代を与えることができる。

33 号埋葬施設（ST4033）（図 89）

旧 B2 区 B9 グリッドにて検出された旧 SK3021 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は台形を呈する。長軸長 2.25m、短軸長 0.80m、深度 0.55m、主軸方位 N-7.25°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。木棺等の痕跡は未検出である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

34 号埋葬施設（ST4034）（図 89）

旧 B2 区 A8,A9 グリッドにて検出された旧 SK3022 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は台形を呈する。長軸長 1.43m、短軸長 0.73m、深度 0.27m、主軸方位 N-10.25°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土である。木棺等の痕跡

は未検出である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

35 号埋葬施設（ST4035）（図 89）

旧 B2 区 A8 グリッドにて検出された旧 SK3023 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.04m、短軸長 0.58m、深度 0.28m、主軸方位 N-42.75°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土である。木棺等の痕跡は未検出である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

36 号埋葬施設（ST4036）（図 89）

旧 B2 区 A8,B8 グリッドにて検出された旧 SK3024 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.73m、短軸長 0.52m、深度 0.33m、主軸方位 N-5.25°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土である。木棺等の痕跡は未検出である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

37 号埋葬施設（ST4037）（図 90）

旧 B2 区 A7 グリッドにて検出された旧 SK3032 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.12m、短軸長 0.54m、深度 0.38m、主軸方位 N-38.50°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

38 号埋葬施設（ST4038）（図 91）

旧 B2 区 A4 グリッドにて検出された旧 SK3037 である。

棺台敷設土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.85m、短軸長 0.75m、深度 0.20m、主軸方位 N-53.00°-W を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土である。両小口側に約 30 ㎝弱の割石が棺台として敷設される。組合式木棺の裏込石の可能性がある。木棺法量は全長 1.3m、幅 0.5m と推定される。北東側が頭位か。

棺内左手側に須恵器杯蓋・杯身と鉄鏃が副葬される。鉄鏃 ST-M2 は片丸造撫関長三角形鏃身に棘状関の直線状頸部が伴う長頸鏃 B- Ⅳ -3-2 式である。鎌 ST-M3 は、刃部は直線状を呈するが、基部は折り返す曲刃鎌である。鉄鏃からはⅩ期（TK43 式併行期）、須恵器からは TK217 式併行期の年代を与えることができる。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代末葉・7 世紀初頭の年代を与えることができる。

39 号埋葬施設（ST4039）（図 92）

旧 B2 区 T8 グリッドにて検出された旧 SK3054 である。

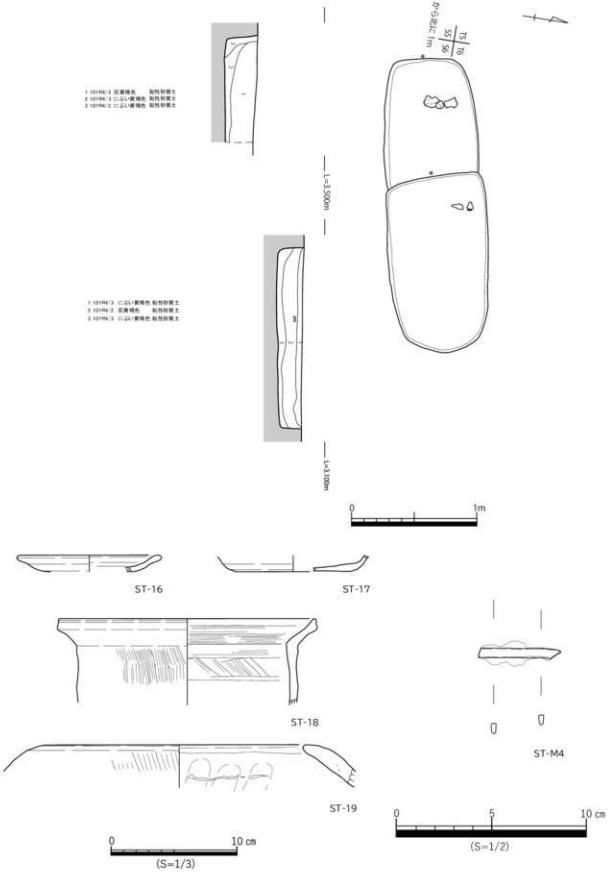


図 93　43 号埋葬施設（ST4043）遺構図・遺物図

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.19m、短軸長 0.55m、深度 0.19m、主軸方位 N-85.40°-W を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

40 号埋葬施設（ST4040）（図 92）

旧 B2 区 T8 グリッドにて検出された旧 SK3053 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は矩形を呈する。長軸長 1.25m、短軸長 0.79m、深度 0.21m、主軸方位 N-82.90°-W を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

41 号埋葬施設（ST4041）（図 92）

旧 B2 区 T8 グリッドにて検出された旧 SK3052 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.11m、短軸長 0.67m、深度 0.34m、主軸方位 N-2.40°-E を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

42 号埋葬施設（ST4042）（図 94）

旧 B2 区 T6 グリッドにて検出された旧 SK3047,SK3048 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 2.11m、短軸長 0.45m、深度 0.12m、主軸方位 N-82.90°- を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。土師器小片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

43 号埋葬施設（ST4043）（図 93）

旧 B2 区 T6 グリッドにて検出された旧 SK3045 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 2.43m、短軸長 0.76m、深度 0.25m、主軸方位 N-77.00°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。土師器皿・杯・甕・鍋・刀子が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、11 世紀前半の年代を与えることができる。

44 号埋葬施設（ST4044）（図 94）

旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 SK4054 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.71m、短軸長 1.40m、深度 0.23m、主軸方位 N-12.55°-W を測る。遺構覆土は褐色粘性砂質土である。土師器皿が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半の年代を与えることができる。

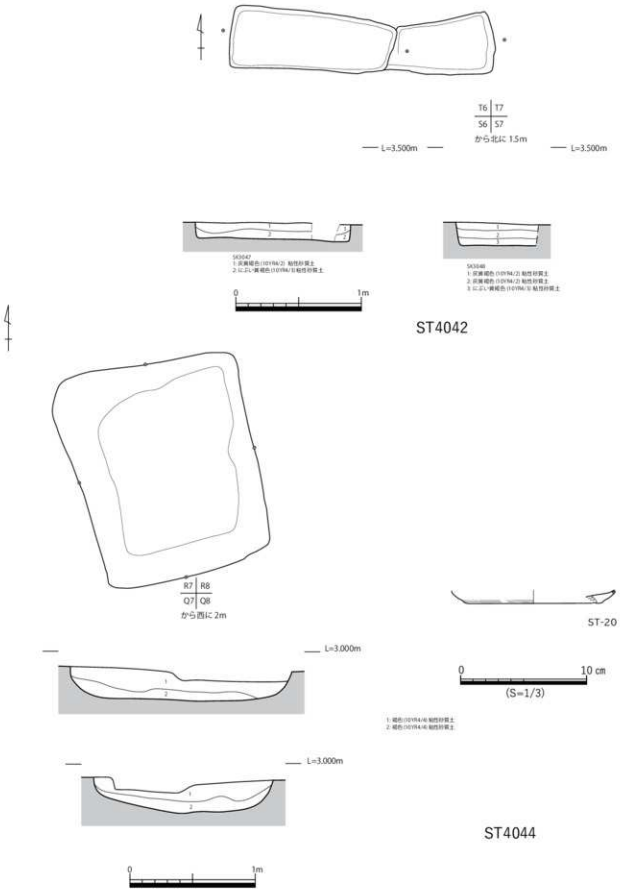


図 94　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（11）

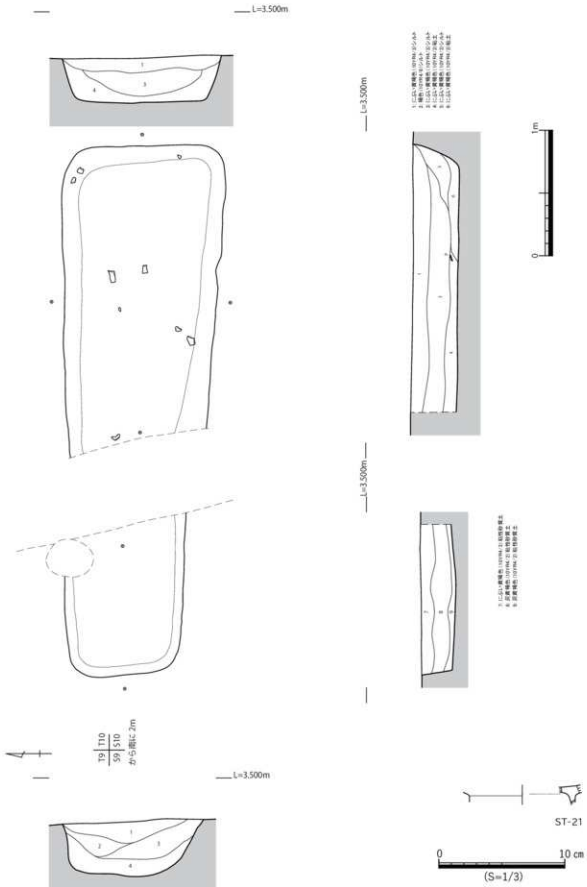


図 95　45 号埋葬施設（ST4045）遺構図・遺物図

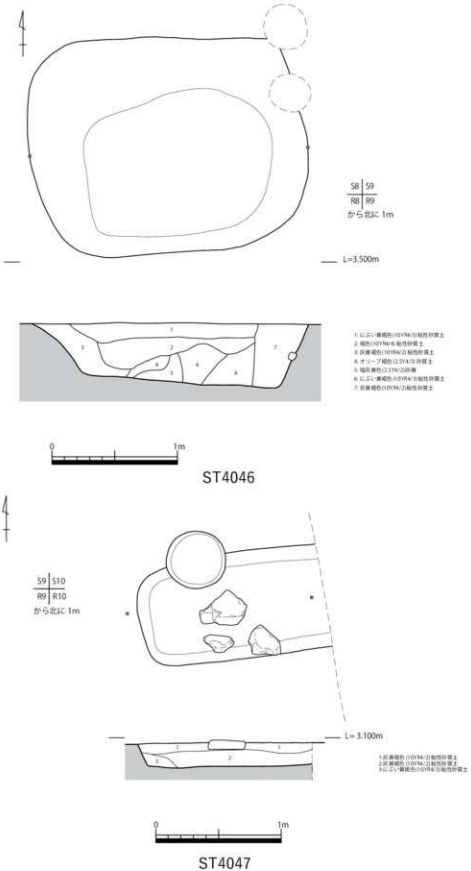
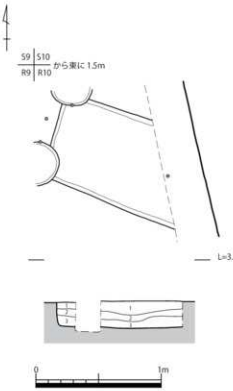
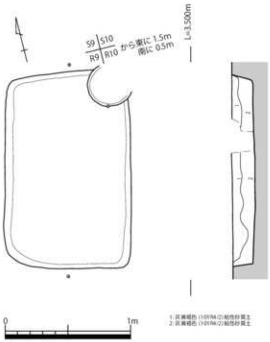


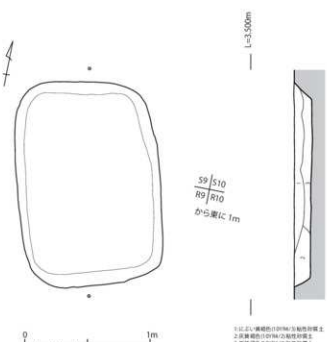
図 96　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（12）・遺物図



ST4048



ST4049



ST4050

45 号埋葬施設（ST4045）（図 95）

旧 B2 区 S10 グリッドにて検出された旧 SK3055 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.68m、短軸長 0.95m、深度 0.27m、主軸方位 N-88.00°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。土師器片が出土した。

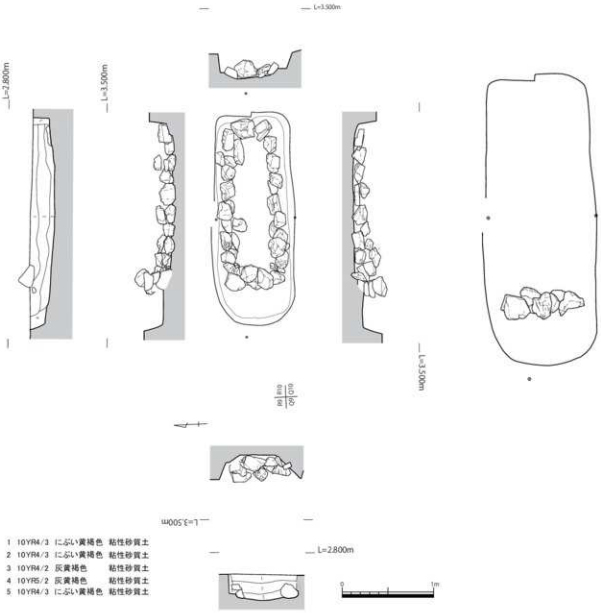
出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半と推定される。

46 号埋葬施設（ST4046）（図 96）

旧 B2 区 S8 グリッドにて検出された旧 SK3075 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 2.20m、短軸長 1.70m、深度 0.50m、主軸方位 N-86.00°-E を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土・灰

図 97　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（13）



ST4051

図 98　51 号埋葬施設（ST4051）遺構図

黄褐色粘性砂質土・オリーブ褐色粘性砂質土等である。土師器皿が出土した。土師器片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代後半と推定される。

47 号埋葬施設（ST4047）（図 96）

旧 B2 区 S10 グリッドにて検出された旧 SK3056 である。

棺台敷設土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。残存長軸長 1.48m、短軸長 0.84m、深度 0.19m、主軸方位 N-82.00°-E を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄

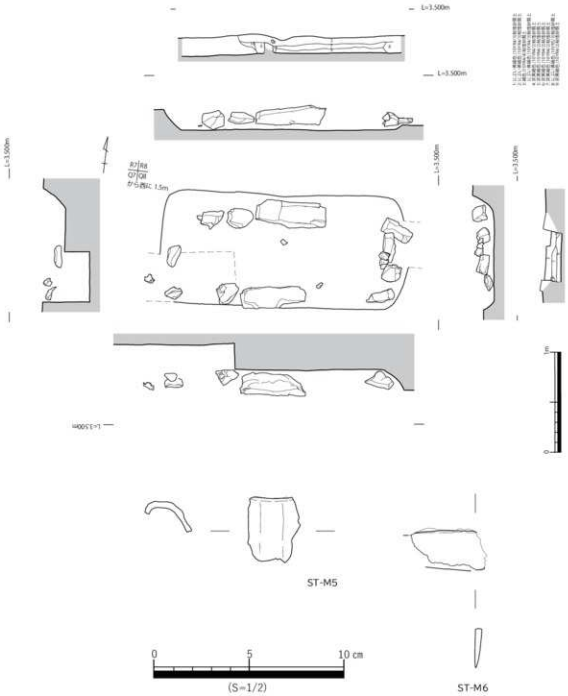


図 99　52 号埋葬施設（ST4052）遺構図

褐色粘性砂質土である。棺台と推定される頁岩割石は土壙基底部に灰黄褐色粘性砂質土を充填後に、土壙短側辺から約 0.6m 離れた場所に敷設される。

遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

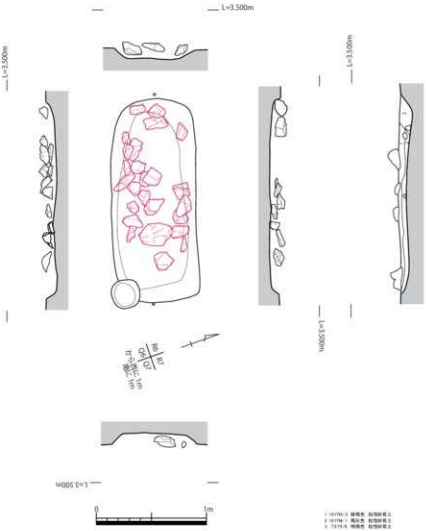


図 100　53 号埋葬施設（ST4053）遺構図

48 号埋葬施設（ST4048）（図 97）

旧 B2 区 R10 グリッドにて検出された旧 SK3057 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は丸底形を呈する。残存長軸長 0.93m、短軸長 0.74m、深度 0.22m、主軸方位 N-67.00°-W を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土である。土師器片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

49 号埋葬施設（ST4049）（図 97）

旧 B2 区 R10 グリッドにて検出された旧 SK3058 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.58m、短軸長 1.00m、深度 0.18m、主軸方位 N-14.40°-E を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土である。土師器片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

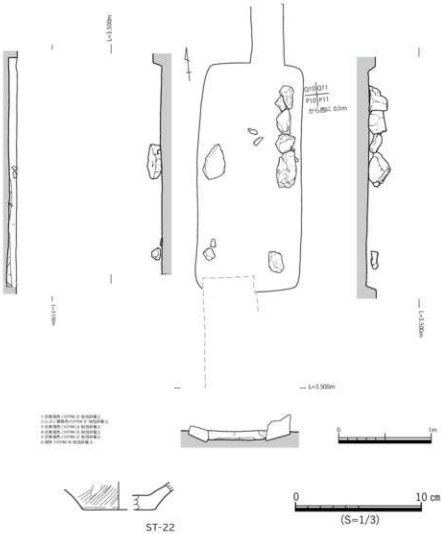


図 101　54 号埋葬施設（ST4054）遺構図・遺物図

50 号埋葬施設（ST4050）（図 97）

旧 B2 区 R9 グリッドにて検出された旧 SK3059 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.62m、短軸長 1.11m、深度 0.13m、主軸方位 N-18.60°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。土師器片が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

51 号埋葬施設（ST4051）（図 98）

旧 B2 区 R10 グリッドにて検出された旧 ST3003 である。

非石蓋石槨状土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.50m、短軸長 0.58m、深度 0.23m、主軸方位 N-88.00°-W を測る。墓壙基底部から頁岩割石を用いた石槨状石積みが敷設される。石積内法は、全長 1.4m、西側短側辺幅 0.45m、東側短側辺幅 0.3m を測る。長側辺

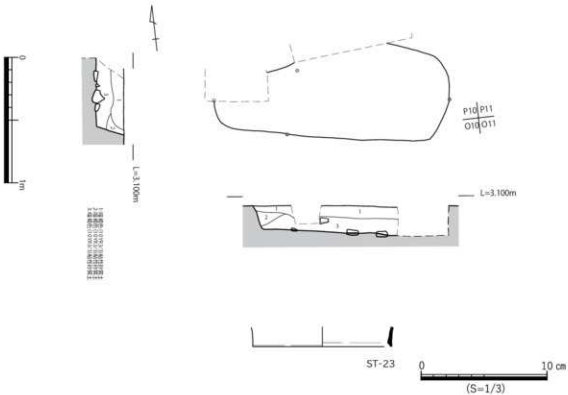


図 102　55 号埋葬施設（ST4055）遺構図・遺物図

石積みは 1 段のみである。東側短側辺（小口）石積みは 1 段であるが、西側短側辺石積みは 2 ～ 3 段となる。西側短側辺から長側辺中央付近まで複数段の石積みとなるが、東側短側辺にかけて 1 段石積みとなる。石槨内遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。短側辺裏込埋土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。石積み内側に粘土床に該当する充填粘土は敷設されていない。木棺直葬と推定される。西側が頭位と推定される。棺内外より遺物は出土していない。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

52 号埋葬施設（ST4052）（図 99）

旧 B2 区 Q7,Q8 グリッドにて検出された旧 SM3002-ET1 である。

小竪穴式石槨墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.51m、短軸長 1.10m、深度 0.20m、主軸方位 N-83.60°-E を測る。石槨内法は、全長 1.8m、東小口幅 0.6m、西側小口幅 0.6m、中央部幅 0.55m を測る。長側壁には 60 ㎝大の頁岩割石を、短側壁には 20 ㎝大割石を用いる。長側壁石材には面取り加工が施される。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。石突と刀子が出土した。ST-M5 は鉾石突片である。ST-M6 は刀子刃部である。

SD4015 に伴う主体部と推定される。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代中期後半の年代を与えることができる。

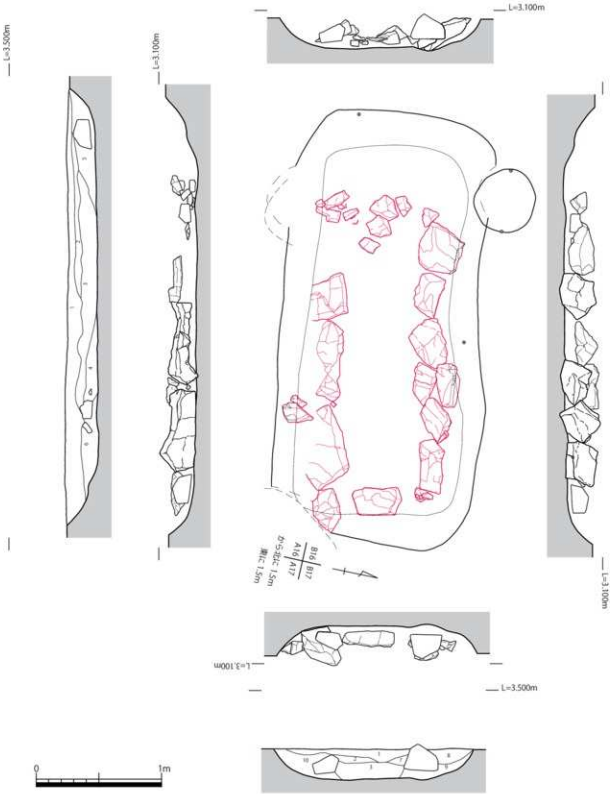


図 103　56 号埋葬施設（ST4056）遺構図

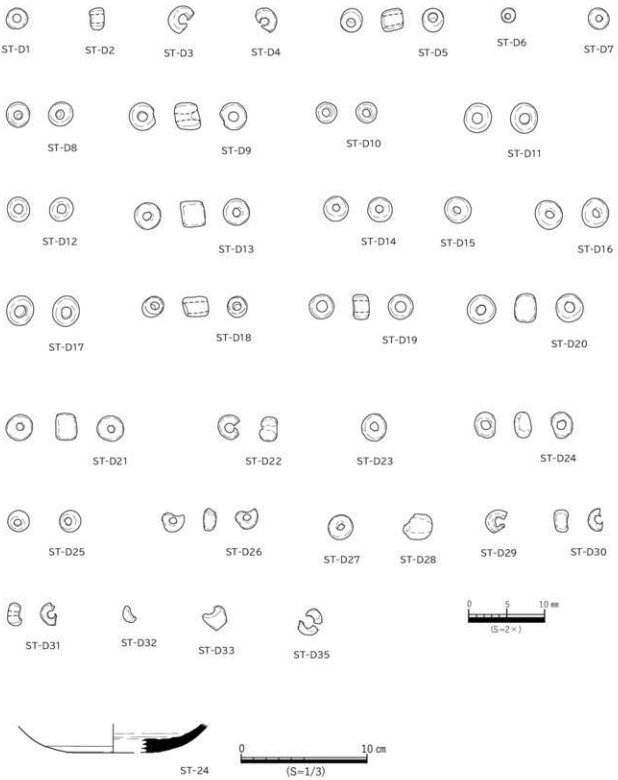


図 104　56 号埋葬施設（ST4056）遺物図

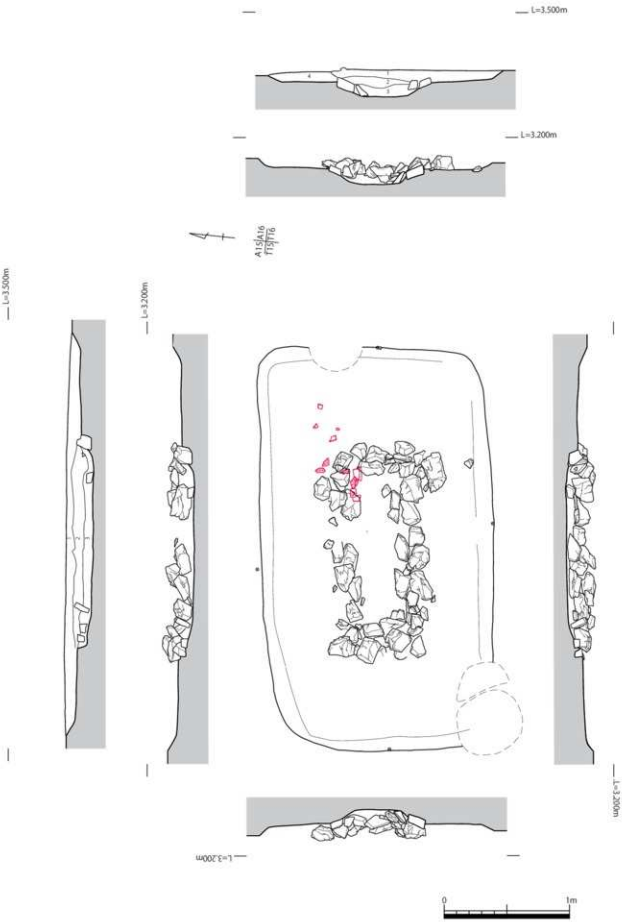


図 105　57 号埋葬施設（ST4057）遺構図

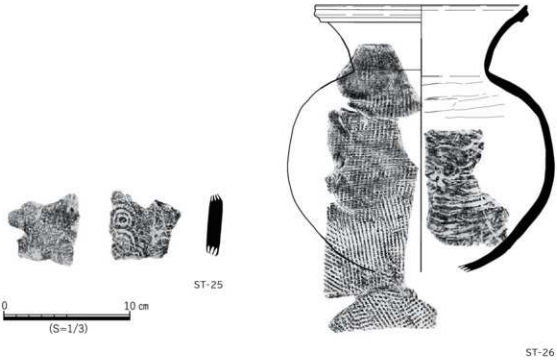


図 106　57 号埋葬施設（ST4057）遺物図

53 号埋葬施設（ST4053）（図 100）

旧 B2 区 Q6 グリッドにて検出された旧 SK3074 である。

非石蓋石槨状土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.85m、短軸長 0.86m、深度 0.11m、主軸方位 N-72.25°-W を測る。墓壙基底部に頁岩割石を用いた石槨状石積みが敷設される。石槨内法は、全長 1.25m、東側短側辺幅 0.42m、西側短側辺幅 0.58m を測る。短側辺・長側辺共に石積みは 1 段である。槨内内側にも割石が点在するが、比較的大型の石材は 1 層上面より出土したことから、本来は非石蓋上部に据え置かれた標石・覆石が転落したものと推定される。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土や褐灰色粘性砂質土・明褐色粘性砂質土である。粘土床に該当する粘土層は未検出であり、木棺直葬と推定される。槨内より遺物の出土は無い。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

54 号埋葬施設（ST4054）（図 101）

旧 B2 区 P10 グリッドにて検出された旧 SM3003-ET1 である。

小竪穴式石槨墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.36m、短軸長 1.16m、深度 0.08m、主軸方位 N-7.25°-E を測る。墓壙基底部に 30 ㎝大の頁岩割石を敷設する。複数段の石積みは認められず、木槨裏込めの可能性もある。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。3,5 層灰黄褐色粘性砂質土層は粘土床に該当する可能性がある。

土師器壺が覆土中より出土した。壺 ST-22 は平底の底部である。弥生時代中期後半能壺底部の可能性があり、流れ込みと推定される。

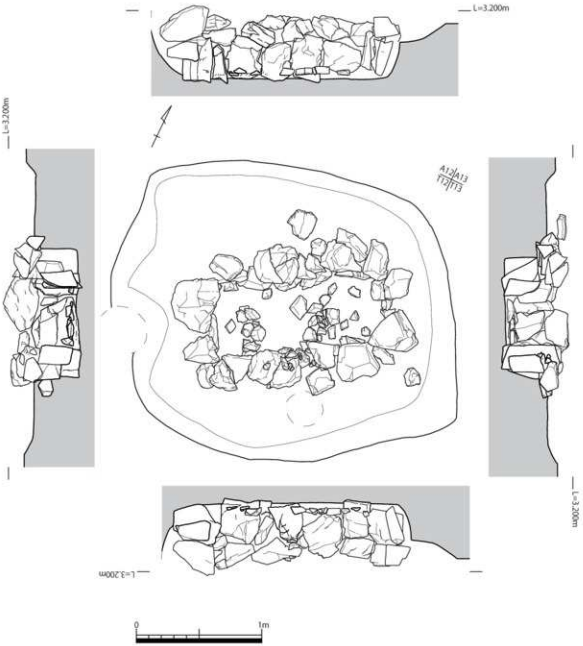


図 107　59 号埋葬施設（ST4059）遺構図（1）

SD4016 に伴う埋葬施設と推定される。

遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

55 号埋葬施設（ST4055）（図 102）

旧 B2 区 P10 グリッドにて検出された旧 ST3006 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.86m、短軸長 0.76m、深度 0.32m、主軸方位 N-83.6°-E を測る。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土である。須恵器杯蓋が出土した。ST-23 は TK43 式併行期と推定されるが、小片であり流れ込みの可能性がある。

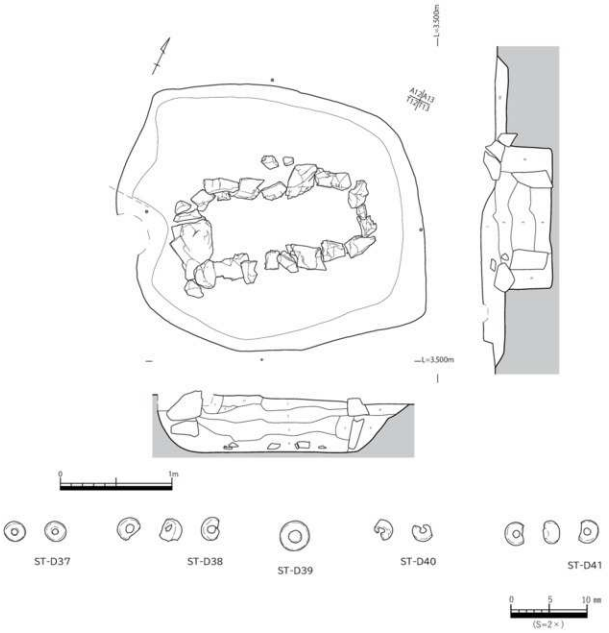


図 108　59 号埋葬施設（ST4059）遺構図（2）・遺物図

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

56 号埋葬施設（ST4056）（図 103、104）

旧 B3 区 B16 グリッドにて検出された旧 ST2001 である。

非石蓋石槨状土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 3.27m、短軸長 1.39m、深度 0.35m、主軸方位 N-74.80°-W を測る。墓壙基底部に 40 ㎝大の頁岩割石を敷設する。短側壁・長側壁共に石積みは 1 段である。石槨内法は、全長 2.0m、東側短側壁幅 0.6m、西側短側壁幅 0.68m を測る。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土や褐灰色粘性砂質土・明褐色粘性砂質土である。粘土床に該当する粘土層は未検出である。短側壁際に 4,5 層が堆積するが、しまりと粘性がやや弱く、短側壁が埋没す

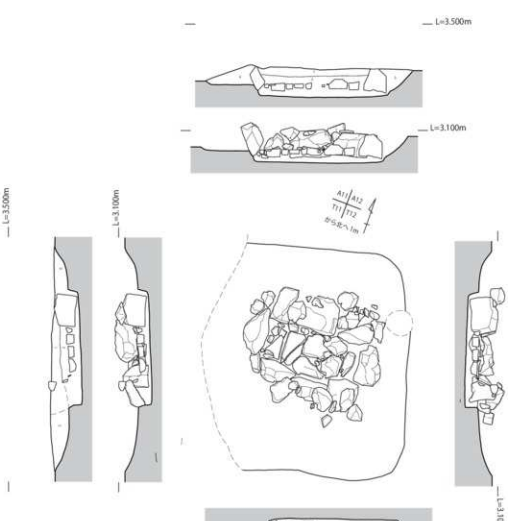


図 109　60 号埋葬施設（ST4060）遺構図

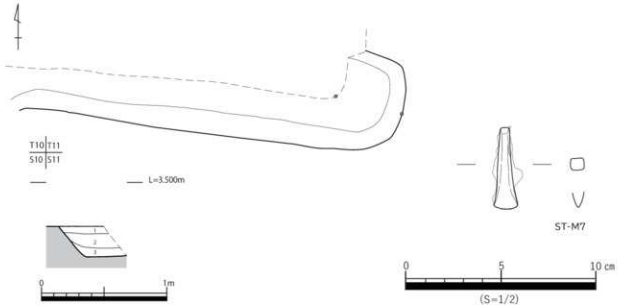
ることから粘土床とは考え難い。西頭位と推定される。槨内よりガラス玉 35 点と須恵器壺が出土した。壺 ST-24 は破片であり、墓壙外からの流れ込みと推定される。ガラス玉 ST-D1 ～ D35 は粟玉と小玉が混在している。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

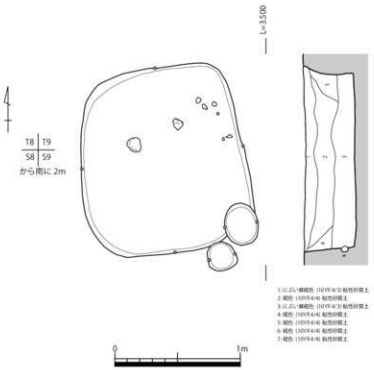
57 号埋葬施設（ST4057）（図 105、106）

旧 B3 区 T15 グリッドにて検出された旧 ST2004 である。

非石蓋石槨状土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は二段形を呈する。長軸長 3.17m、短軸長 1.9m、深度 0.3m、主軸方位 N-84.90°-W を測る。墓壙基底部に長軸長 1.68m ×短軸長 0.76m 規模の浅い墓壙を掘削し、石槨石材の頁岩割石を敷設する。石槨内法は、全長 1.36m、東側短側壁幅 0.4m、



ST4061



ST4062

図 110　第 4 遺構面埋葬施設遺構図（14）

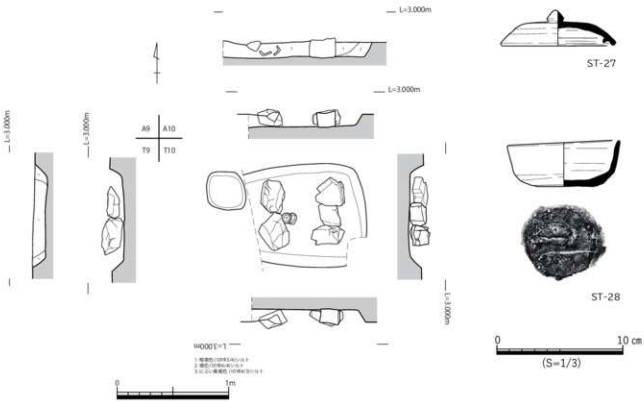


図 111　63 号埋葬施設（ST4063）遺構図・遺物図

西側短側壁幅 0.4m を測る。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土や褐灰色粘性砂質土・明褐色粘性砂質土である。木棺痕跡は未検出である。

墓壙北西隅から石槨上面の範囲から須恵器壺と須恵器甕が出土した。TK43 式併行期である。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

59 号埋葬施設（ST4059）（図 107、108）

旧 B3 区 T12 グリッドにて検出された旧 ST2002 である。

小竪穴式石槨墓である。平面形態は隅丸方形を呈し、断面形態は二段形を呈する。長軸長 2.40m、短軸長 2.34m、深度 0.83m、主軸方位 N-68.60°-W を測る。1 次墓壙中央部に長軸 1.85m、短軸 1.16m、深度 0.3m を測る 2 次墓壙を掘削し、頁岩割石を敷設する。下段割石は立石とし、2 段目は平積みとする。石槨内法は、全長 1.15m、東短側壁幅 0.45m、西側短側壁幅 0.52m を測る。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土や褐灰色粘性砂質土である。木棺痕跡は未検出である。ガラス小玉が出土した。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

60 号埋葬施設（ST4060）（図 109）

旧 B3 区 T12 グリッドにて検出された旧 ST2003 である。

小竪穴式石槨墓である。平面形態は隅丸方形を呈し、断面形態は 2 段形を呈する。長軸長 2.34m、短

表 14　埋葬施設（ST）一覧表

遺構番号	旧調査区	旧遺構番号	グリッド	平面形態	断面形態	長軸長	短軸長	深度	主軸方位
ST4001	B1	ST3002	g13	隅丸長方形	舟底形形	2.70	1.13	0.11	N ～ 55.30°－ E
ST4002	B1	ST3007	g12	隅丸長方形	長方形	1.78	0.60	0.10	N ～ 55.00°－ E
ST4003	B1	ST3005	g13	隅丸長方形	舟底形形	1.64	0.92	0.11	N ～ 71.00°－ W
ST4004	B1	SK3011	f12	楕円形	台形	1.00	0.59	0.20	N ～ 9.50°－ E
ST4006	B1	SD3008ET1	f13	隅丸長方形	舟形	1.23	0.43	0.11	N ～ 64.00°－ E
ST4007	B3	ST4002	f13	隅丸長方形	台形	1.81	0.62	0.21	N ～ 90.00°－ E
ST4008	B1	SK3012	e13	隅丸四隅形	舟底形形	2.05	0.98	0.24	N ～ 44.75°－ W
ST4010	B3	SK3014	d 11	隅丸長方形	丸底形	1.65	0.80	0.08	N ～ 88.00°－ E
ST4011	B1	SM3006ET1	c10,11	長方形	長方形	1.13	0.70	0.03	N ～ 31.00°－ E
ST4012	B3	SK4001	a12	隅丸長方形	舟底形形	1.05	0.58	0.15	N ～ 70.30°－ E
ST4013	B3	ST3003	e14	隅丸長方形	長方形	2.42	0.83	0.44	N ～ 5.00°－ E
ST4014	B3	SK4014	r15	隅丸長方形	舟底形形	1.13	0.58	0.27	N ～ 37.50°－ E
ST4015	B3	SK4003	s14	楕円形	舟底形形	2.34	0.50	0.20	N ～ 26.30°－ W
ST4016	B3	ST3004	s13	長方形	舟底形形	1.60	0.70	0.20	N ～ 71.00°－ E
ST4017	B3	ST4002	s13	隅丸長方形	台形	2.13	0.63	0.30	N ～ 89.00°－ E
ST4018	B3	ST3004	t12	長方形	台形	4.39	0.83	0.24	N ～ 78.50°－ E
ST4019	B3	ST3002	t11	隅丸長方形	舟底形形	3.96	0.87	0.29	N ～ 82.50°－ E
ST4020	B3	SK3010	r10	隅丸長方形	丸底形	1.33	0.74	0.15	N ～ 86.10°－ W
ST4021	B3	ST3001	s15	隅丸長方形	丸底形	2.25	1.26	0.18	N ～ 76.00°－ W
ST4022	B4	SK2025	s18	楕円形	舟底形形	2.16	0.69	0.26	N ～ 77.70°－ E
ST4023	B4	SK4011	s17	隅丸長方形	丸底形	1.13	0.68	0.12	N ～ 5.00°－ E
ST4024	B4	SK4010	q17	隅丸長方形	丸底形	0.99	0.53	0.11	N ～ 89.25°－ W
ST4025	B3	SK4007	q13	楕円形	舟底形形	1.22	0.62	0.14	N ～ 8.30°－ E
ST4026	B3	SK4009	q12	楕円形	舟底形形	1.66	0.63	0.11	N ～ 23.70°－ W
ST4027	B3	SK4010	r10	楕円形	舟底形形	1.80	(0.22)	0.11	N ～ 13.20°－ W
ST4028	B2	SK4039	s10	隅丸長方形	舟底形形	1.59	0.8	0.14	N ～ 5.00°－ W
ST4029	B2	SK4041	r9	隅丸長方形	舟底形形	1.57	1.06	0.17	N ～ 16.50°－ W
ST4030	B2	SK4049	s6	隅丸長方形	舟底形形	2.81	0.99	0.9	N ～ 83.20°－ W
ST4031	B2	SK4062	q9	隅丸長方形	舟底形形	2.18	1.79	0.12	N ～ 9.55°－ E
ST4032	B2	ST3001	b4	隅丸長方形	舟底形形	2.23	1.35	0.05	N ～ 75.00°－ E
ST4033	B2	SK3021	b9	隅丸四隅形	台形	2.25	0.80	0.55	N ～ 7.25°－ W
ST4034	B2	SK3022	a8,9	隅丸四隅形	台形	1.43	0.73	0.27	N ～ 10.25°－ W
ST4035	B2	SK3023	a8	隅丸四隅形	舟底形形	1.08	0.58	0.28	N ～ 42.75°－ W
ST4036	B2	SK3024	a,b8	隅丸四隅形	舟底形形	1.73	0.32	0.33	N ～ 5.25°－ W
ST4037	B2	SK3032	a7	隅丸四隅形	台形	1.12	0.54	0.38	N ～ 38.50°－ W
ST4038	B2	SK3037	a4	隅丸四隅形	台形	1.85	0.75	0.20	N ～ 53.00°－ W
ST4039	B2	SK3054	t8	隅丸四隅形	台形	1.19	0.55	0.19	N ～ 85.40°－ W
ST4040	B2	SK3053	t8	隅丸四隅形	台形	1.25	0.79	0.21	N ～ 82.90°－ E
ST4041	B2	SK3052	t8	隅丸四隅形	台形	1.11	0.67	0.34	N ～ 2.40°－ E
ST4042	B2	SK3047,3048	t6	隅丸四隅形	台形	1.95	0.45	0.12	N ～ 82.90°－ W
ST4043	B2	SK3045	t6	隅丸四隅形	丸底形	2.40	0.76	0.25	N ～ 77.00°－ E
ST4044	B2	SK4054	r7	隅丸四隅形	舟底形形	1.71	1.40	0.23	N ～ 12.55°－ W
ST4045	B2	SK3055	s10	隅丸四隅形	台形	(1.18)	0.95	0.27	N ～ 88.0°－ W
ST4046	B2	SK3075	s8	隅丸長方形	台形	2.20	1.70	0.50	N ～ 86.00°－ E
ST4047	B2	SK3056	s10	隅丸四隅形	台形	(1.48)	0.84	0.19	N ～ 82.00°－ E
ST4048	B2	SK3057	r10	隅丸四隅形	丸底形	(0.93)	0.74	0.22	N ～ 67.00°－ W
ST4049	B2	SK3058	r10	隅丸四隅形	台形	1.58	1.00	0.38	N ～ 14.40°－ E
ST4050	B2	SK3059	r9	隅丸四隅形	舟底形形	1.62	1.11	0.13	N ～ 18.60°－ W
ST4051	B2	ST3003	r10	隅丸長方形	舟底形形	2.50	0.58	0.23	N ～ 88.00°－ W
ST4052	B2	SM3001ET1	q7,8	隅丸長方形	舟底形形	2.51	1.10	0.20	N ～ 83.60°－ E
ST4053	B2	SK3074	q6	隅丸長方形	舟底形形	1.85	0.86	0.11	N ～ 72.25°－ W
ST4054	B2	SM3001ET1	p10	隅丸長方形	舟底形形	2.36	1.16	0.08	N ～ 7.25°－ E
ST4055	B2	ST3006	p10	隅丸長方形	台形	1.86	0.76	0.32	N ～ 83.60°－ E
ST4056	B3	ST2001	h16	隅丸長方形	舟底形形	3.27	1.39	0.35	N ～ 74.80°－ W
ST4057	B3	ST2004		隅丸長方形	舟底形形	3.17	1.90	0.30	N ～ 84.90°－ W
ST4058	B3	SK2037		隅丸長方形	舟底形形	2.54	0.96	0.14	N ～ 83.00°－ E
ST4059	B3	ST2002		隅丸長方形	舟底形形	2.40	2.34	0.83	N ～ 68.60°－ W
ST4060	B3	ST2003		隅丸長方形	舟底形形	2.34	2.05	0.46	N ～ 11.30°－ E
ST4061	B3	SK3031		隅丸長方形	台形	0.52	2.57	0.22	N ～ 75.10°－ W
ST4062	B2	SK2034	s9	隅丸長方形	台形	1.47	1.29	0.41	N ～ 6.10°－ W
ST4063	B3	ST4001		隅丸長方形	台形	1.03	0.92	0.26	N ～ 90.00°－ W

表 15　埋葬施設出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考、実測番号
ST-1	ST4001	須恵器	杯蓋	高：(2.7) 口：(17.0)	0.1～1.5	精 不良	石・長・チ・泥	外：灰白（5Y7/2） 内：灰白（5Y7/2）	口外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ・口外：回転ナデ／内：回転ナデ	6047
ST-2	ST4001	須恵器	杯身	口：(12.2) 側：(14.2)	0.1～0.5	良 ややそ	石・長	外：灰白（2.5Y7/1） 内：灰白（2.5Y7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	2554
ST-3	ST4001	須恵器	杯身	口：(10.8)	～1.5	良 やや不	石・砂	外：灰黄（2.5Y7/2） 内：灰黄（2.5Y7/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	2555
ST-4	ST4001	須恵器	平瓶	高：13.3 口：5.8 側：5.3 脚：14.0，底：5.2	0.1～6.0	精 良	石・長・泥・凝灰岩	外：明黄灰（5PB7/1） 内：明黄灰（5PB7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ヘラケズリ→底外：回転ヘラケズリ	回転方向下から見て反時計回り、2549
ST-5	ST4005	須恵器	瓶・ハソウ	高：15.4 口：11.0 側：3.9 脚：18.4，底：4.0	0.1～3.0	精 良	石・長	外：灰（5Y6/1） 内：灰（5Y5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ→回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り、2770
ST-6	ST4008	須恵器	杯蓋	高：3.0 口：13.0	0.5～5.0	精 良	石・長・泥・凝灰岩	外：灰（N8/0） 内：灰（N8/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	口縁部打ち欠き、天井部外面に自然石あ、自然→熱土分析、2745
ST-7	ST4008	須恵器	短頸壺	高：8.8 口：(7.7) 側：(8.1) 脚：(13.3)・底：(5.2)	0.1～1.5	精 良	石・長	外：明黄灰（5PB7/1） 内：明黄灰（5PB7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ→回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向：下から見て反時計回り、2475
ST-8	ST4010	瓦質土器	鉢	底：(4.6)	0.1～3.0	やや粗 やや不	石・雲	外：灰白（10YR7/1） 内：褐灰（10YR6/1）	脚上外：ユビオサエ／内：ヘラミガキ・底外：回転ナデ／内：ユビオサエ	5835
ST-9	ST4010	土師器	杯	底：(7.4)	0.1～3.7	粗 やや不	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：明褐（7.5YR5/6）	脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4667
ST-10	ST4005	須恵器	甕	高：(11.0) 口：(22.2) 側：(16.6)	0.1～2.5	精 良	石・長・泥・黒	外：灰（2.5Y6/1） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：平行タタキ／内：指オサエ→指ナデ	5772
ST-11	ST4022	須恵器	杯身	高：(1.0)	0.1～1.0	精 やや不	石・長・赤	外：灰（7.5Y6/1） 内：灰白（7.5Y7/2）	底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り、4435
SK4-21	ST4032	須恵器	杯蓋	高：4.1 口：14.4	～5.0	精 良	石・長・黒	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ→底外：回転ナデ／内：回転ナデ・青海波文あて具痕	回転方向上から見て反時計回り、5853
SK4-22	ST4032	須恵器	杯蓋	高：(4.0) 口：(14.5)	0.2～7.0	精 良	石・雲	外：灰（5Y4/1） 内：灰（5Y4/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ヘラケズリ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向上から見、5852
SK4-23	ST4032	須恵器	杯蓋	高：4.5 口：(14.9)	0.1～1.5	良 良	石・長・泥	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→1本ユビナデ	回転方向上から見て反時計回り、外面自然釉（陶質）→変質？付着、5855
SK4-24	ST4032	須恵器	杯蓋		0.1～2.0	精 良	石・長・チ・泥	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ	6069
SK4-25	ST4032	須恵器	杯身	高：(2.5) 口：(12.4)	0.1～1.5	良 やや不	石・長・チ・泥	外：灰白（7.5Y7/1） 内：灰白（7.5Y7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	5856
SK4-26	ST4032	須恵器	高杯	高：36.1 口：12.6・底 11.15	0.1～1.5	精 良	石・長	外：回転ナデ→刺突文／内：回転ナデ・脚外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ	2段透かし 3方向、3582
SK4-27	ST4032	須恵器	甕	口：(14.0) 側：(9.3)	0.1～1.5	精 やや良	石・長・チ・泥	外：青灰（2.5Y6/1） 内：灰白（2.5Y7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ／内：回転ナデ→3コマナデ・脚上内：青海波文	5860
ST-12	ST4038	須恵器	杯蓋	高：3.45 口：11.0	0.1～2.5	精 良	石・長・泥・凝灰岩・雲母	外：灰白（5Y8/1） 内：灰白（5Y8/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→イナデ／内：回転ナデ	回転方向上から見て時計回り、ナデ、シチャート？金為石あり、外面に墨上部あり、未分析在地？、3597
ST-13	ST4038	須恵器	杯蓋	高：2.7 口：10.3	0.2～1.5	精 良	石・長・チ	外：青灰（5PB6/1） 内：青灰（5PB5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向上から見て反時計回り、3598
ST-14	ST4038	須恵器	杯蓋	高：3.0 口：10.2	0.1～2.5	精 良	石・長・黒	外：灰（2.5Y5/1） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向上から見て反時計回り、自然釉付着、3599
ST-15	ST4038	須恵器	杯身	高：3.9 口：10.5・底 5.4	0.1～3.0	精 良	石・長・泥	外：灰白（2.5Y8/2） 内：灰白（2.5Y8/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→イナデ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り、内外面に墨上部あり、3596
ST-16	ST4043	土師器	豆	口：(11.0)	0.1～5.0	精 やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4642
ST-17	ST4043	土師器	杯	高：(1.3)・底 (9.2)	0.1～1.0	精 良	石・長・チ・雲・赤	外：褐灰（10YR4/1） 内：褐灰（10YR5/1）	脚下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	4641
ST-18	ST4043	土師器	甕	高：(9.7) 口：(28.8) 側：(24.8)	0.1～1.0	粗 やや不	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：明黄褐（10YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：イナデ／内：回転ナデ→イヌナデ	6893
ST-19	ST4043	土師器	鍋	口：(19.6)	0.1～6.0	良 良	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・脚上外：ハケ（5条）→ユビナデ／内：ユビナデ・底外：ユビナデ	6894
ST-20	ST4044	土師器	豆		0.1～3.0	良 不良	結・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：橙（7.5YR7/6）	脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ	5999
ST-21	ST4045	土師器	高台付椀	底：8.4	0.5～5.0	やや粗 不良	結・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：貼付高台→回転ナデ／内：ヘラミガキ→指付痕跡→回転ナデ	4643
ST-22	ST4054	土師器	杯	底：(5.8)	0.1～2.5	精 良	結・石・長・雲	外：黒（2.5Y2/1） 内：黄灰（2.5Y4/1）	脚下外：イナデ／内：ユビナデ・底外：ヘラナデ／内：ユビナデ	4701
ST-23	ST4055	須恵器	杯蓋	口：(10.95)	0.1～0.5	精 良	石・長・泥	外：青灰（5PB6/1） 内：青灰（5PB6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	4634
ST-24	ST4056	須恵器	壺	底：(7.0)	～1.0	精 良	石・長・黒	外：灰白（N6/0） 内：灰白（N7/0）	底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り、5839
ST-25	ST4057	須恵器	甕		0.1～0.3	良 不良	石・長・チ	外：灰白（2.5YR7/1） 内：灰黄（2.5Y7/2）	脚上外：イヌナデ／内：青海波文→イヌナデ	5665

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度構成	胎土組成	色調	調整	備考、実測番号
ST-26	ST4057	須恵器	壺	高：(21.9) 口：(16.7) 胴：(10.7) 胴：(21.2)	0.1～2.5	良	良	石・長	外：灰（N5/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ→ヘラ状工具による回転オサエ／内：回転ナデ・胴上外：平行タタキ→カキ目（10本1cm）／内：青海波文→ユビオサエ→ユビナデ・胴下外：平行タタキ／内：青海波文→ユビオサエ	5627
ST-27	ST4063	須恵器	杯蓋	高 2.8 口 8.7 胴 9.15	0.1～2.5	精	良	石・長・泥	外：灰（N5/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ→板状圧痕	回転方向上から見て反時計回り。3756
ST-28	ST4063	須恵器	杯身	高 3.5 口 8.75・底 5.6	0.1～3.0	精	良	石・長・泥	外：灰（N6/1） 内：灰（N6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ→回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラ記号／内：回転ナデ→3本ユビナデ	3753

表 16(1)　埋葬施設出土鉄器観察表

番号	遺構	器種	全長(cm)	幅（cm）	厚（cm）	実測番号
ST-M1	ST4021	刀子	13.4	1.9	0.6	3793
ST-M2	ST4038	鉄鏃	13.7	1.1	0.7	3746
ST-M3	ST4038	鎌	11.1	2.8	0.3	3747
ST-M4	ST4043	刀子	4.3	1.3	1.3	4718
ST-M5	ST4052	石突	3.4	2.7	1.3	4721
ST-M6	ST4052	刀子	3.7	2.1	0.8	4720
ST-M7	ST4061	ノミ	4.4	1.6	1.2	4719
ST-M8	SK5007	直刀	13.08	2.4	0.4	3795

表 16(2)　埋葬施設出土玉類観察表

遺物番号	遺構番号	器種	材質	色調	重量（g）	直径（mm）	高さ（mm）	備考	実測番号
ST-D1	ST4056	粟玉	ガラス	10YG5.5/7S こい黄緑	0.01	2.74	1.24	分析	3815
ST-D2	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/5S あさい青緑	0.01			欠損	3816
ST-D3	ST4056	粟玉	ガラス	16gB5.5/5S あさい緑みの青	0.02			欠損	3817
ST-D4	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/5S あさい青緑	0.02			欠損	3818
ST-D5	ST4056	粟玉	ガラス	18B3.5/5S によい青	0.03	2.83	2.64		3819
ST-D6	ST4056	粟玉	ガラス	18B3.5/5S によい青	0.01	1.93	0.91		3820
ST-D8	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/5S あさい青緑	0.04	3.30	2.29	分析	3821
ST-D9	ST4056	粟玉	ガラス	18B3.5/5S によい青	0.04			欠損	3822
ST-D7	ST4056	粟玉	ガラス	10YG5.5/5S によい黄緑	0.02	2.71	1.63		3823
ST-D10	ST4056	粟玉	ガラス	10YG5.5/7S こい黄緑	0.02	2.76	2.76		3824
ST-D11	ST4056	粟玉	ガラス	16gB4.5/5S によい緑みの青	0.03	3.94	1.78	分析	3825
ST-D12	ST4056	粟玉	ガラス	10YG5.5/5S によい黄緑 （リーフ）	0.01	3.19	1.34	分析	3826
ST-D13	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/5S あさい青緑	0.05	3.42	3.01	分析	3827
ST-D14	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あふらい青緑 （ターコイズ）	0.02	3.19	1.56	分析	3828
ST-D15	ST4056	粟玉	ガラス	10YG4.5/7S こい黄緑	0.04	3.39	2.14		3829
ST-D16	ST4056	粟玉	ガラス	14BG3.5/7S つよい青緑	0.04	3.48	2.29	分析	3830

遺物番号	遺構番号	器種	材質	色調	重量（g）	直径（mm）	高さ（mm）	備考	実測番号
ST-D17	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あかるい青緑 （ターコイズ）	0.04	3.50	2.28		5694
ST-D31	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あかるい青緑 （ターコイズ）	0.01			欠損	5696
ST-D18	ST4056	粟玉	ガラス	10YG5.5/7S こい黄緑	0.03	2.49	3.19		5697
ST-D19	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あかるい青緑 （ターコイズ）	0.03	3.25	2.03		5698
ST-D20	ST4056	粟玉	ガラス	14BG4.5/5S にぶい青緑	0.05	3.70	2.68		5699
ST-D21	ST4056	粟玉	ガラス	14BG4.5/5S にぶい青緑	0.05	3.52	2.84	分析	5700
ST-D28	ST4056	粟玉	ガラス	18B4.5/7S つよい青	0.03			欠損	5701
ST-D32	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あかるい青緑 （ターコイズ）					5702
ST-D22	ST4056	粟玉	ガラス	16gB3.5/5S にぶい緑みの青	0.02			欠損	6142
ST-D29	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あかるい青緑 （ターコイズ）	0.01			欠損	6143
ST-D27	ST4056	粟玉	ガラス	14BG4.5/7S にぶい青緑	0.04	3.39	2.51		6144
ST-D23	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あかるい青緑 （ターコイズ）	0.03	3.38	1.93	分析	6145
ST-D24	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あかるい青緑 （ターコイズ）	0.02			欠損	6146
ST-D33	ST4056	粟玉	ガラス	18B4.5/7S つよい青	0.01			欠損	6147
ST-D35	ST4056	粟玉	ガラス	14BG4.5/9S さえた青緑	0.01			欠損	6148
ST-D30	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あかるい青緑 （ターコイズ）	0.01			欠損	6149
ST-D25	ST4056	粟玉	ガラス	10YG5.5/7S こい黄緑	0.02	2.87	1.86	分析	6150
ST-D26	ST4056	粟玉	ガラス	14BG5.5/7S あかるい青緑 （ターコイズ）	0.01			欠損	6151
ST-D40	ST4059	粟玉	ガラス	14BG5.5/9S さえた青緑	0.01			欠損	3808
ST-D41	ST4059	粟玉	ガラス	14BG4.5/7S つよい青緑	0.02			欠損	3809
ST-D37	ST4059	粟玉	ガラス	14BG4.5/7S つよい青緑	0.01	2.73	1.75	分析	3810
ST-D38	ST4059	粟玉	ガラス	14BG4.5/7S つよい青緑	0.01			欠損	3811
ST-D39	ST4059	粟玉	ガラス	18B3.5/7S つよい青	0.05	3.94	2.67	分析	3812

軸長 2.05m、深度 0.46m、主軸方位 N-11.30°-E を測る。1 次墓壙中央部に長軸 1.25m、短軸 1.18m、深度 0.1m を測る浅い 2 次墓壙を掘削し、頁岩割石を敷設する。1 段目側壁は 40 ㎝大の割石を平積みし、2 段目は 20 ㎝程度の角礫を平積みする。床石が伴う。20 ㎝～ 30 ㎝弱の割石を充填する。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土や褐灰色粘性砂質土である。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

61 号埋葬施設（ST4061）（図 110）

旧 B3 区 T11 グリッドにて検出された旧 SK3031 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。残存長軸長 3.00m、残存短軸長 0.81m、深度 0.26m、主軸方位 N-75.10°-W を測る。遺構覆土は灰黄褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土である。鑿状鉄器が出土した。ST-M7 は刃部幅 1 ㎝、柄長 5.5 ㎝の小型鑿状工具である。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代後期の年代を与えることができる。

62 号埋葬施設（ST4062）（図 110）

旧 B2 区 S9 グリッドにて検出された旧 SK2034 である。

土壙墓である。平面形態は隅丸方形を呈し、断面形態は矩形を呈する。長軸長 1.47m、短軸長 1.29m、深度 0.41m、主軸方位 N-6.10°-W を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。木棺痕跡等は未検出である

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古代と推定される。

63 号埋葬施設（ST4063）（図 111）

旧 B3 区 T10 グリッドにて検出された旧 ST4001 である。

棺台敷設土壙墓である。平面形態は隅丸方形を呈し、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.03m、短軸長 0.92m、深度 0.26m、主軸方位 N-90.00°-W を測る。頁岩割石を棺台として両小口側に敷設する。木棺小口の押さえの可能性もある。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土・にぶい黄褐色粘性砂質土である。須恵器杯蓋・杯身が出土した。杯蓋 ST27 は擬宝珠抓みが伴う。杯身 ST-28 は底部にヘラ記号を施す。TK217 併行期に該当する。

出土遺物及び遺構構築面と周辺遺構から、古墳時代終末・7 世紀前葉の年代を与えることができる。

（4）土坑（SK）

7 号土坑（SK5007）（図 117）

旧 B2 区 P5 グリッドにて検出された旧 ST3001 である。

平面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 2.35m、短軸長 1.25m、深度 0.13m、主軸方位 N-28.50°-E を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。墓壙基底部に頁岩割石が敷設されており、棺台もしくは小竪穴式石槨墓の側壁の尾可能性がある。遺構覆土上層より弥生土器鉢や弥生土器高杯脚部が出土しているが、鉄刀片が出土した。鉄刀 ST-M8 は両撫関の刀身関部である。

弥生時代中期後半の年代を与えていたが、古墳時代後期の可能性もある。

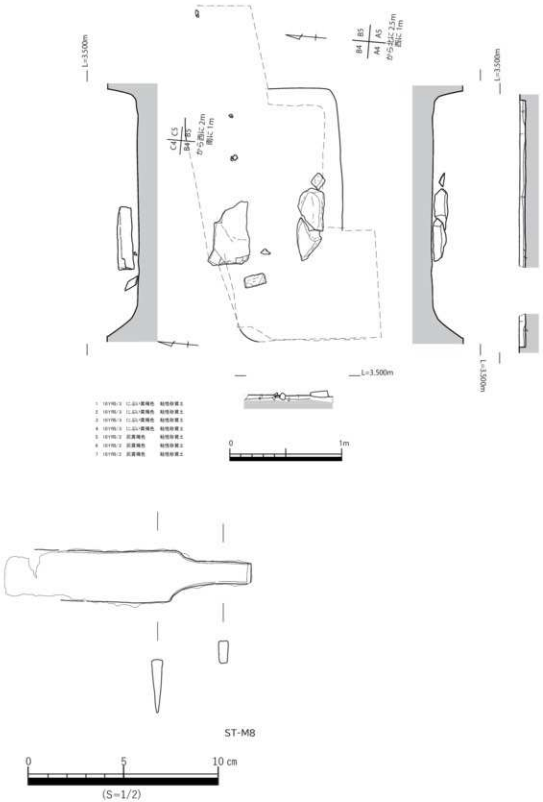


図 112　7 号土坑（SK5007）遺構図・遺物出土状況図・遺物図

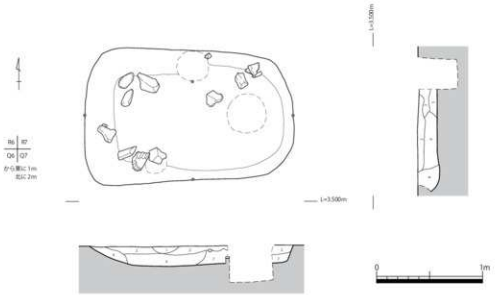


表 17　土坑出土石器観察表

番号	遺構	石材	器種	長径（cm）	短径（cm）	高さ（cm）	重量（g）	実測番号
SK4-S1	SK5008	砂岩	磨製石	（19.4）	（11.1）	（3.2）	（1113.4）	4712

SK5008

SK4001

図 113　8 号土坑（SK5008）・1 号土坑（SK4001）遺構図・遺物図

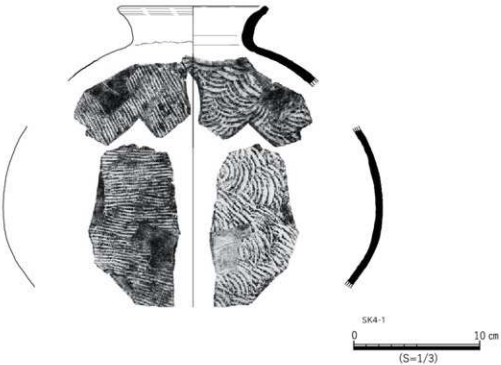


図 114　1 号土坑（SK4001）遺物図

8 号土坑（SK5008）（図 113）

旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 ST3004 である。

平面形態は不整隅丸長方形、断面形態は不整船底形を呈する。長軸長 1.95m、短軸長 1.2m、深度 0.175m、主軸方位 N-89.00°-E を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。土坑外縁寄り 4 ～ 7 層中より 20 ㎝弱の結晶片岩川原石や頁岩角礫が検出され、上層より弥生土器高杯脚部やサヌカイト製有茎石鏃と共に砥石が出土した。砥石 SK4-S1 は砂岩製筋砥石である。

弥生時代中期後半である。

1 号土坑（SK4001）（図 113、114）

山路地区・旧 B2 区 A5 グリッドにて検出された旧 SK4027 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.48m、短軸長 0.85m、深度 0.16m、主軸方位 N-34.25°-E を測る。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。2 層中より須恵器甕が出土した。甕 SK4-1 は胴下半部（底部付近）に粘土板充填痕が残る。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。

2 号土坑（SK4002）（図 115）

山路地区・旧 B2 区 S9 グリッドにて検出された旧 SK4040 である。

平面形態は不整楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.58m、短軸長 1.02m、深度 0.10m、主軸方位 N-37.00°-E を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器杯が出土した。杯 SK4-2 は底部に手持ちヘラケズリを施し、胎土特徴から勝浦川流域産と推定される。

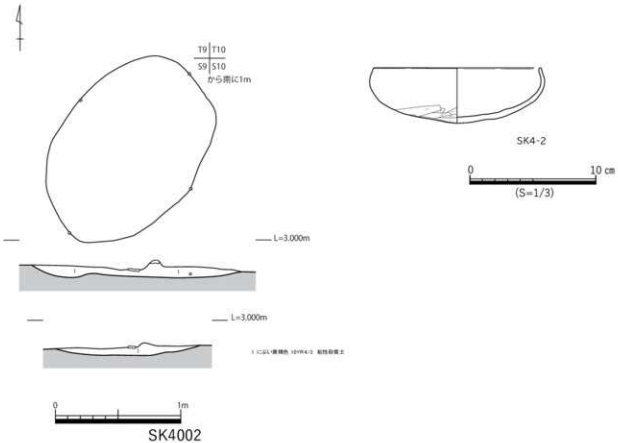


図 115　第 4 遺構面土坑 SK 遺構図（1）・遺物図（1）

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。

3 号土坑（SK4003）（図 116）

山路地区・旧 B3 区 Q12,13 グリッドにて検出された旧 SK4006 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.31m、短軸長 0.61m、深度 0.16m、主軸方位 N-34.25°-E を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器壺が転位状態で出土した。壺 SK4-3 は、底部には敲打による穿孔を、口縁部には打ち欠きを施している。TK43 式併行期の年代が与えられる。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半・6 世紀後葉と推定される。

4 号土坑（SK4004）（図 117）

山路地区・旧 B2 区 A7 グリッドにて検出された旧 SK3031 である。

平面形態は不整円形を、断面形態は不整形を呈する。長軸長 1.41m、短軸長 1.21m、深度 0.31m、主軸方位 N-1.25°-E を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。1 層上面より土師器風炉が出土した。風炉 SK4-4 は口唇部や体部内面上半約 1/3 に煤が付着している。また被熱による剥落も観察される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

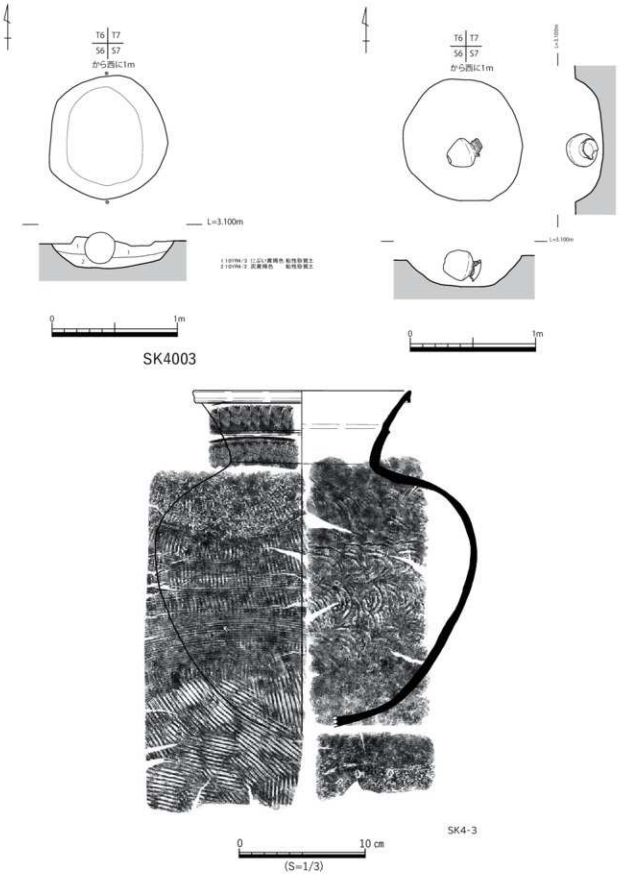


図 116　3 号土坑（SK4003）遺構図・遺物図

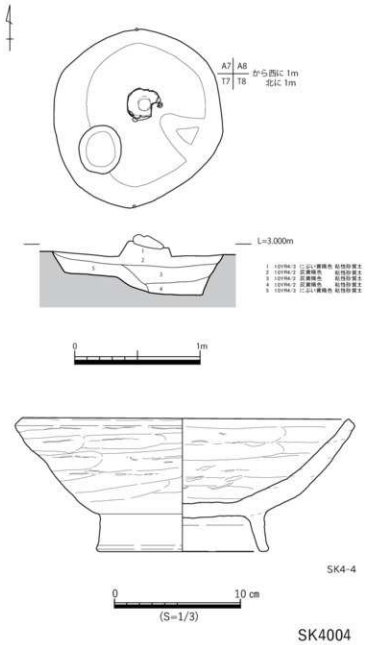


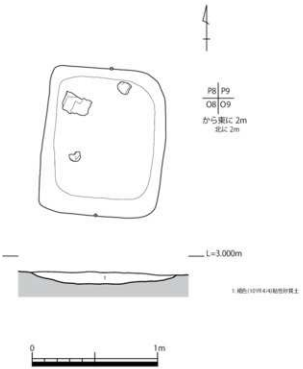
図 117　4 号土坑（SK4004）遺構図・遺物図

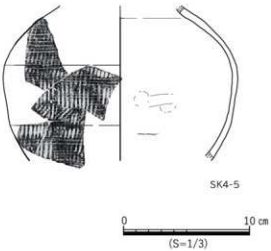
5 号土坑（SK4005）（図 118）

山路地区・旧 B2 区 S6 グリッドにて検出された旧 SK3063 である。

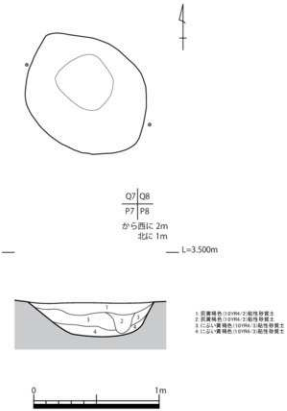
平面形態は隅丸方形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 0.99m、短軸長 0.96m、深度 0.24m、主軸方位 N-26.80°-W を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器壺が出土した。壺 SK4-5 は TK43 式併行期である。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。





SK4005



SK4006

図 118　第 4 遺構面土坑 SK 遺構図（2）・遺物図（2）

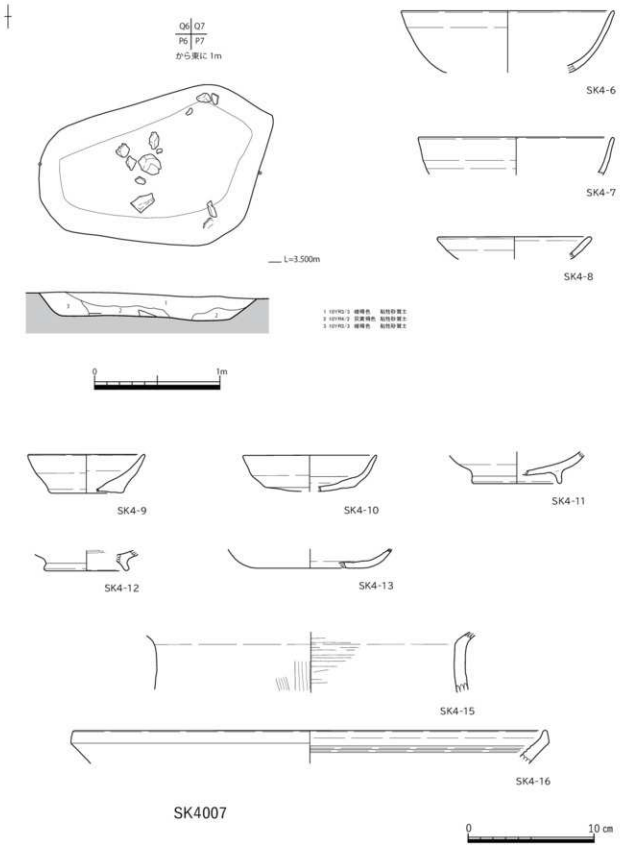


図 119　7 号土坑（SK4007）遺構図・遺物図

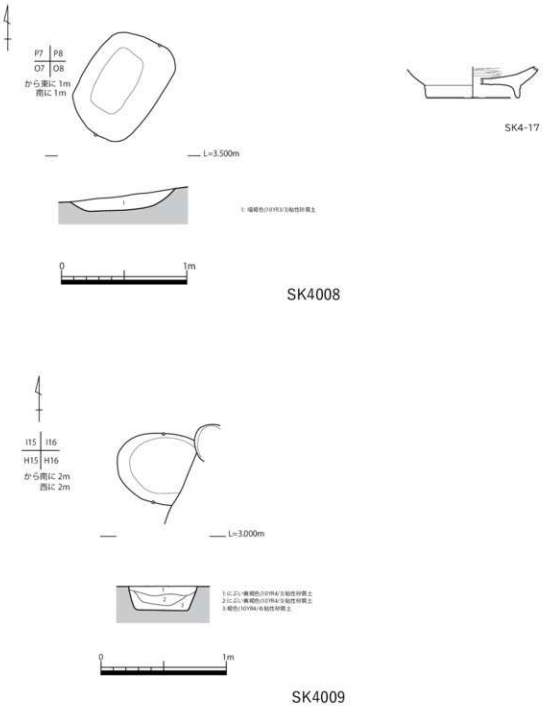


図 120　第 4 遺構面土坑 SK 遺構図（3）・遺物図（3）

6 号土坑（SK4006）（図 118）

山路地区・旧 B2 区 Q7 グリッドにて検出された旧 SK3073 である。

平面形態は不整形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.00m、短軸長 0.88m、深度 0.26m、主軸方位 N-64.25°-W を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。

遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。

7 号土坑（SK4007）（図 119）

山路地区・旧 B2 区 P7 グリッドにて検出された旧 SK3071 である。

平面形態は不整形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.83m、短軸長 1.14m、深度 0.19m、主軸方位 N-87.00°-W を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。2 層床面直上より土師器杯や土師器椀・土師器高台付椀・土師器皿・土師甕・土師器鉢が出土した。高台付椀 SK4-11 は内面に赤色顔料が塗布される。高台付椀 SK4-12 は黒色土器 B 類である。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

8 号土坑（SK4008）（図 120）

山路地区・旧 B2 区 O8 グリッドにて検出された旧 SK3068 である。

平面形態は不整長方形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 0.88m、短軸長 0.62m、深度 0.11m、主軸方位 N-36.00°-E を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器高台付椀や土師器皿が出土した。高台付椀 SK4-17・皿 SK4-18 は共に小片で有り、流れ込みの可能性が高い。

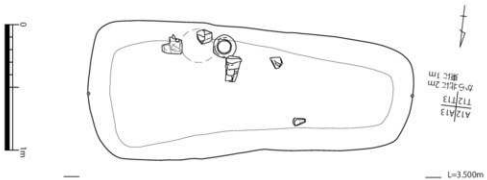
出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀前半と推定される。

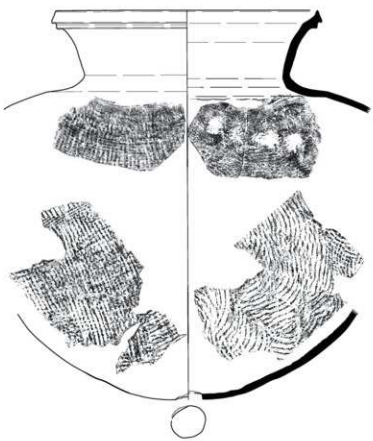
10 号土坑（SK4010）（図 121）

山路地区・旧 B3 区 S10 グリッドにて検出された旧 SK2047 である。

平面形態は隅丸長方形を、断面形態は舟底を呈する。長軸長 2.32m、短軸長 1.20m、深度 0.22m、主軸方位 N-89.00°-W を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。1,2 層中より須恵器壺が正位状態で出土した。周辺には割石が伴う。壺 SK4-20 は底部に穿孔が施される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。





SK4010

図 121　10 号土坑（SK4010）遺構図・遺物図

表 18　土坑出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度 構成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SK4-1	SK4001	須恵器	甕	口：(15.2) 頸：(12.6)・底 5.2	0.1～3.0	精良	石・長・雲・角・砂	外：赤灰（2.5YR6/1） 内：青灰（5PB6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・横外：回転ナデ／内：回転ナデ・横上外：平行タタキ→ケズリ（6 条 1 cm）／内：青海波文・横下：平行タタキ→ケズリ（6 条 1 cm）／内：青海波文・底外：平行タタキ→ケズリ（6 条 1 cm）／内：青海波文	底部粘土粒充て？修部ケ？。粘土分析有り？4290
SK4-2	SK4002	土師器	杯	高：(4.4) 口：(13.2)・底（2.3）	0.2～6.0	粗 やや不	石・長・チ・赤	外：淺黄橙（7.5YR8/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・横上外：ヨコナデ／内：ヘラミガキ・底外：手持ちヘラケズリ／内：ヘラミガキ	在地。粘土分析在地？。5967
SK4-3	SK4003	須恵器	壺	口：(17.1) 頸：11.7 胴：25.5	0.1～3.5	精良	石・長・チ・雲・無	外：灰（7.5Y6/1）（N6/0） 内：灰オリーブ（5Y6/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・横外：回転ナデ・櫛描波状文（上段 16 条 1.4 cm）（下段 16 条 1.6 cm）／内：回転ナデ・横上外：平行タタキ→ケズリ（8 条 1 cm）／内：青海波文・横下外：平行タタキ／内：青海波文・底外：平行タタキ／内：青海波文	口縁打ち欠き？底部撃孔？。6046
SK4-4	SK4004	土師器	鉢?	高：10.65 口：25.85 頸：13.2・底（13.0）	0.1～9.0	やや粗 並	結・石・長・チ・砂・紀	外：淺黄橙（7.5YR8/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・横上外：ユビナデ／内：ユビナデ・横下外：ユビナデ	口呼部欠損打著。内面体部上方約 12.5 ス付着。被熱？剥落。4639
SK4-5	SK4005	須恵器	壺	頸：(9.6) 胴：(18.6)	～2.5	精良	石・長・黒	外：灰白（N6/0） 内：灰白（N7/0）	横外：回転ナデ／内：回転ナデ・横上外：平行タタキ→ケズリ（5 条 1 cm）／内：ユビナデ・ユビナデ→回転ナデ・横下外：平行タタキ／内：ユビナデ	6020
SK4-6	SK4007	土師器	椀	口：(16.8)	0.1～1.0	良 やや不	結・石・長・雲・赤・紀	外：橙（2.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・横上外：回転ナデ／内：回転ナデ・横下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4648
SK4-7	SK4007	土師器	椀	口：15.4	0.1～3	やや粗 不良	長・チ・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：オリーブ黒（5Y3/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・横上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（黒鉛）	内黒。4650
SK4-8	SK4007	土師器	杯	口：(12.0)	0.1～2.0	良 不良	石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4）橙（7.5YR7/6） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・横上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4651
SK4-9	SK4007	土師器	杯	高：(3.1) 口：(9.3)・底（5.6）	0.1～4.0	良 不良	結・石・長・雲	外：淺黄橙（7.5YR8/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・横上外：回転ナデ／内：回転ナデ・横下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4647
SK4-10	SK4007	土師器	杯	高：2.9 口：(10.5)・底 7.8	0.1～6.0	良 不良	結・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・横上外：回転ナデ／内：回転ナデ・横下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4649
SK4-11	SK4007	土師器	高台付椀	底（6.8）	0.1～2.0	良 良	石・長・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：浅黄（2.5Y7/3）	横下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	内面赤色顔料塗布？。4652
SK4-12	SK4007	土師器	高台付椀	底（6.3）	0.1～2.0	良 やや不	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：黒（7.5YR2/1）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	4653
SK4-13	SK4007	土師器	皿	底（9.3）	0.1～2.0	良 不良	石・長・雲・赤	外：橙（5YR7/6） 内：橙（5YR7/6）	横上外：回転ナデ／内：回転ナデ・横下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4645
SK4-15	SK4007	土師器	甕	胴：(24.8)	0.1～6.0	良 やや不	結・石・長・チ・雲・角	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	横外：イタナデ／内：イタナデ・横上外：イタナデ／内：イタナデ	4657
SK4-16	SK4007	土師器	鉢	口：(37.4)	0.1～4.0	やや粗 並	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・横上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4654
SK4-17	SK4008	土師器	高台付椀	高台（7.4）	0.1～12.5	良 やや不	石・赤	外：橙（7.5YR） 内：黒（10YR2/1）	横下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：高台貼付／内：ヘラミガキ	4644
SK4-18	SK4010	須恵器	甕	口：(20.7) 頸：(16.2)	0.2～2.0	精良	石・長	外：灰（N6/0） 内：青灰（5PB6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・横外：回転ナデ／内：回転ナデ／内：回転ナデ→ユビナデ・横上外：平行タタキ→ケズリ（6 条 1 cm）／内：青海波文→ユビナデ・横下外：平行タタキ／内：青海波文・底外：平行タタキ→撫で／内：青海波文	底部撃孔。5505

表 19　土坑 (SK) 一覧表

遺構番号	旧調査区	旧遺構番号	グリッド	平面形態	断面形態	長軸長	短軸長	深度	主軸方位
SK4001	B2	SK4027	a-5	楕円形	舟底形形	1.48	0.85	0.16	N-34.25°　-E
SK4002	B2	SK4040	a-9	不整楕円形	舟底形形	1.58	1.02	0.10	N-37.00°　-E
SK4003	B3	SK4006	q-12.13	楕円形	舟底形形	1.31	(0.61)	0.16	N-34.25°　-E
SK4004	B2	SK3031	a-7	円形	不等辺三角形	1.41	1.21	0.31	N-1.25°　-E
SK4005	B2	SK3063	s-6	不整円形	舟底形形	(0.99)	0.96	0.24	N-26.80°　-W
SK4006	B2	SK3073	q-7	不整形	舟底形形	1.00	0.88	0.26	N-64.25°　-W
SK4007	B2	SK3071	p-7	不整形	舟底形形	1.83	1.14	0.19	N-87.00°　-W
SK4008	B2	SK3068	o-8	隅丸三角形	舟底形形	0.88	0.62	0.11	N-36.00°　-E

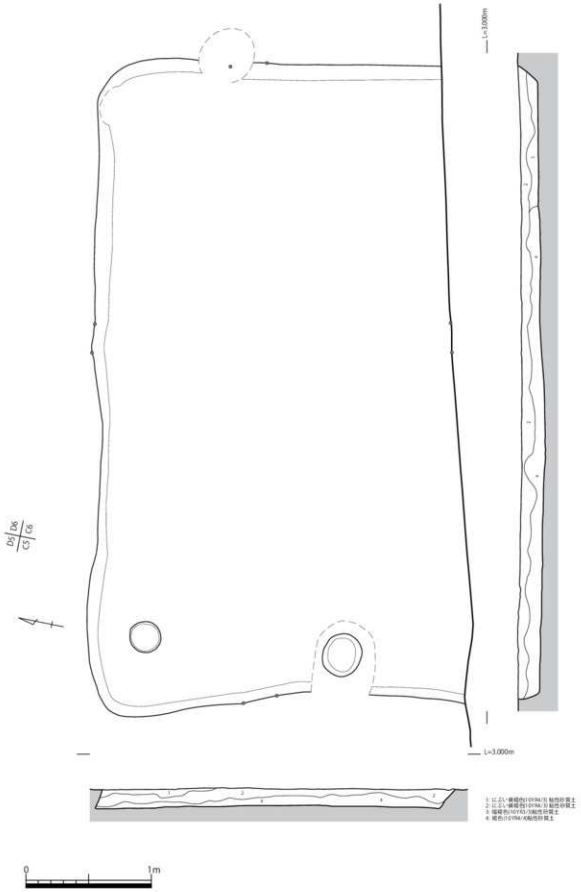


図 122　1 号性格不明遺構（SX4001）遺構図

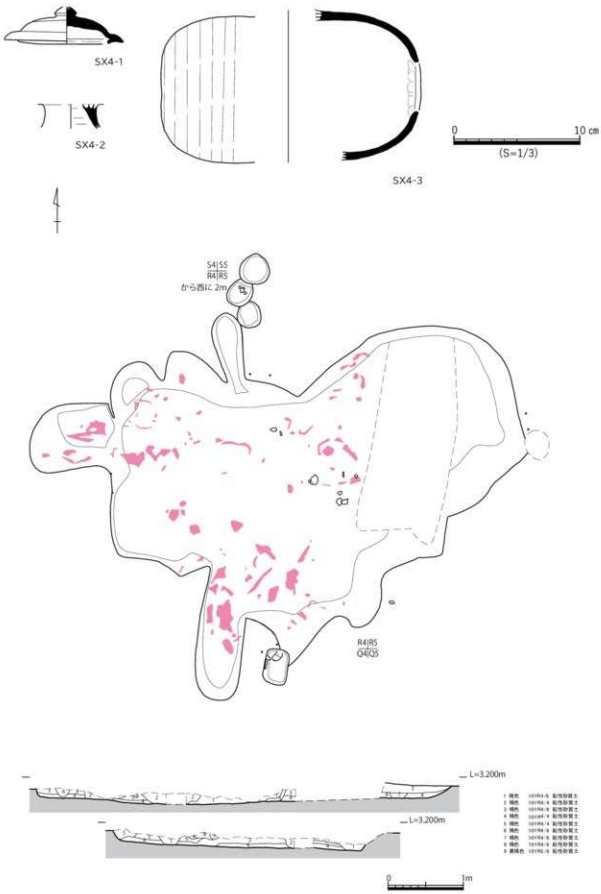


図 123　5 号性格不明遺構（SX4005）遺構図・遺物図（1）

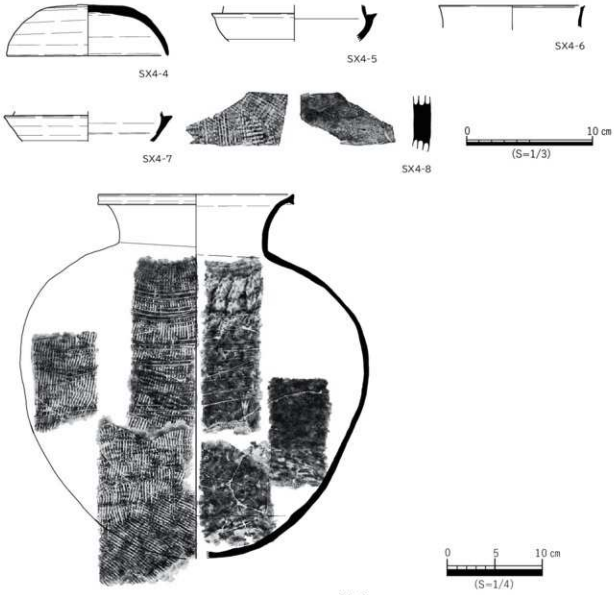
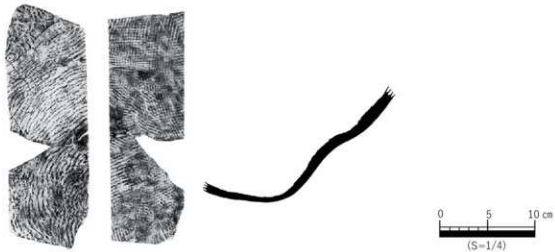


図 124　第 4 遺構面性格不明遺構 SX 遺物図（2）



SX4-11

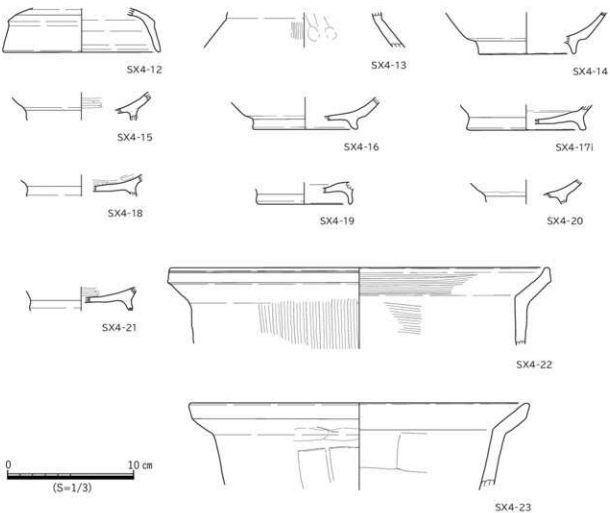


図 125　第 4 遺構面性格不明遺構 SX 遺物図（3）

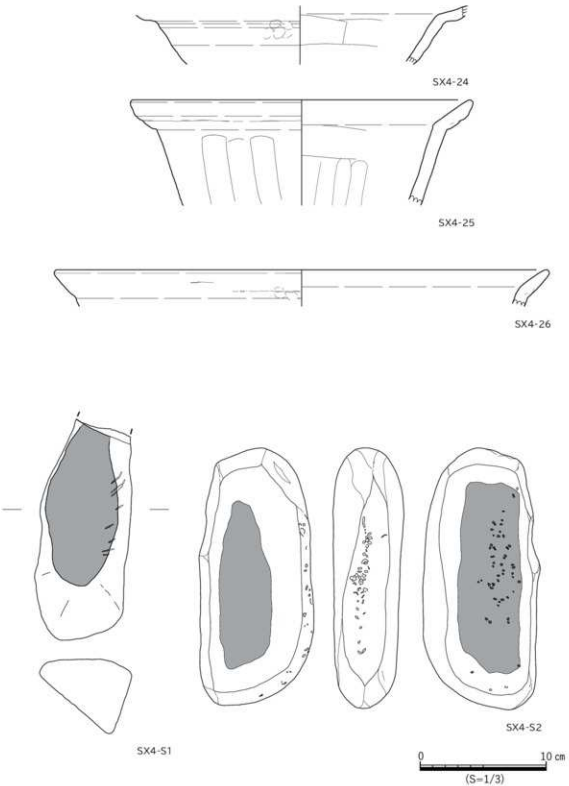
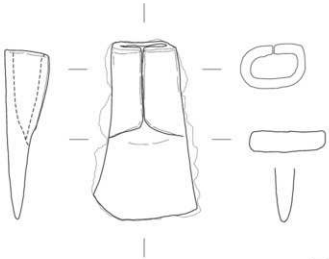
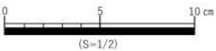


表 20　性格不明遺構等出土石器観察表

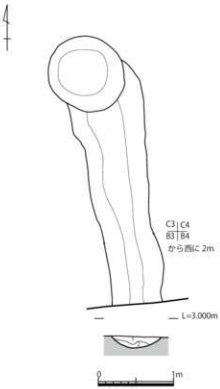
掲載番号	遺構	種類・石材	器種	長径（cm）	短径（cm）	高さ（cm）	重量（g）	備考・実測番号
SX4-S1	SX4003	砂岩	敲石	17.3	7.2	8.6	752.6	4713
SX4-S2	SX4006	砂岩	敲石	20.1	9.0	5.2	1132	両面に敲面有裏面はっり打痕に潜る一部被熱赤変 5868

図 126　第 4 遺構面性格不明遺構 SX 遺構図（2）・遺物図（4）





番号	遺構	器種	全長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	実測番号
SX4-M1	SX4005	斧	9.6	5.8	5.7	3611



SX4-28

SX4-29

SX4-30

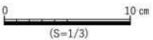


表 21　性格不明遺構等出土土器製品観察表

番号	遺構	器種	長径（cm）	短径（cm）	高さ（cm）	重量（g）	孔径（cm）	粒径	密度／焼成	組成	色調	実測番号
SX4-30	SD5001	土錘	4.15	1.2	1.25	5.87	0.3	0.1 ～ 0.35	良／良	石・長・雲・赤	外・橙（5YR7/8）	3166

図 127　第 4 遺構面性格不明遺構 SX 遺構図（4）・遺物図（5）

表 22　性格不明遺構等出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度構成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SX4-1	SX4001	須恵器	杯蓋	口:7.1 側:9.4	0.1～15	精良	石・長	外:青灰(5PB5/1) 内:青灰(5PB5/1)	口外:回転ナデ→ヘラケズリ/内:回転ナデ	2375
SX4-2	SX4001	須恵器	高杯	～2.0	精良	石・長	外:青灰(5PB6/1) 内:明青灰(5PB7/1)	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ	2268
SX4-3	SX4001	須恵器	横瓶		0.1～10	精良	石・長	外:灰白(N7/0) 内:灰白(N7/0)	底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ	内面銅灯による刺跡あり、2769
SX4-4	SX4003	須恵器	杯蓋	高:4.1 口:12.8	0.1～40	精良	石・長・雲	外:灰白(N7/0) 内:灰白(N8/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:イタナデ/内:回転ナデ→1本ユビナデ	6658
SX4-5	SX4005	須恵器	杯身	口:(11.2) 側:(13.)	0.1～20	精良	石・長・雲	外:暗灰(N3/0) 内:暗灰(N3/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	回転方向下から見て時計回り、6663
SX4-6	SX4005	須恵器	蓋	口:(11.5)	0.1～10	精良	石・長・雲	外:灰(N5/0) 内:灰(N5/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	6665
SX4-7	SX4006	須恵器	杯身	側:(13.4)	0.1～25	精良	石・長・十・泥	外:青灰(5PB6/1) 内:青灰(5PB6/1)	側上外:回転ナデ/内:回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り、6659
SX4-8	SX4006	須恵器	甕		0.2～10	精良	長・十	外:灰(N5/0) 内:灰(7.5Y6/1)	側上外:格子タタキ/内:ユビナデ	6670
SX4-10	SX4005	須恵器	甕	底:38.6 口:20.6 側:15.8 側:<36.9)	0.1～15	精良	石・長・十・泥	外:青灰(5PB5/1) 内:暗青灰(5PB4/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・肩外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:平行タタキ→ヘラナデ/内:ユビナデ・側下外:平行タタキ→ヘラナデ/内:ユビナデ・底外:平行タタキ/内:ユビナデ	3577
SX4-11	SX4002	須恵器	甕		0.1～20	精良	石・長・雲	外:灰(N6/0) 内:灰白(N7/0)	底外:平行タタキ/内:青海波文	2349
SX4-12	SX4004	須恵器	杯蓋	口:(12.3	0.1～20	精・やや不	石・長・十・泥	外:灰(N6/0) 内:灰(5Y6/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ	6659
SX4-13	SX4005	土師器	甕	高:(2.8) 側:(12.3)	0.1～20	良・良	結・石・長・雲	外:にぶい黄橙(10YR5/4) 内:黒(5YZ/1)	側上外:ハケ(磨滅)/内:ユビオサエ→ユビナデ	駅堤川流域からの搬入品、弥生？の流れ込み?、6662
SX4-14	SX4006	土師器	高台付椀	底:(7.5)	0.1～30	良・不良	石・長・雲	外:橙(7.5YR6/8) 内:橙(7.5YR6/6)	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ→ヘラミガキ(磨滅)・底外:高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ→ヘラミガキ(磨滅)	4875
SX4-15	SX4006	土師器	高台付椀		0.1～35	精・やや不	石・長・赤・泥	外:明褐(7.5YR5/8) 内:黒(7.5YZ/1)	脚下外:回転ナデ/内:ヘラミガキ(磨滅)・底外:回転ハラケズリ→高台貼付→回転ナデ/内:ヘラミガキ(磨滅)	4901
SX4-16	SX4006	土師器	高台付椀	高:(2.6)・底(19.8)	0.1～30	精・やや不	石・長・雲・赤・泥	外:橙(7.5YR7/6) 内:黒褐(2.5Y3/1)	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ→ヘラミガキ(磨滅)	4871
SX4-17	SX4006	土師器	高台付椀	底:(9.0)	0.1～20	精・やや不	石・長・雲・赤	外:浅黄橙(7.5YR8/4) 内:浅黄橙(7.5YR8/4)	底外:回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ	転用皿の可能性あり、4872
SX4-18	SX4006	土師器	高台付椀	高:(1.7)・底:(8.8)	0.1～20	良・やや不	長・十・赤・泥	外:明黄褐(10YR7/6) 内:黒(2.5Y2/1)	脚下外:回転ナデ/内:ヘラミガキ・底外:回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ/内:ヘラミガキ	4904
SX4-19	SX4006	土師器	高台付椀	底:(7.4)	0.5～30	良・不良	結・石・長・雲・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(7.5YR7/6)	底外:回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ	転用皿の可能性あり、4902
SX4-20	SX4006	土師器	高台付椀	高:(2.0)・底:(6.4)	0.1～30	良・やや不	石・長・赤	外:明赤褐(5YR5/6) 内:黒褐(7.5YR3/1)	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ	4900
SX4-21	SX4006	土師器	高台付椀		0.1	良・やや不	石・長・赤・泥	外:明赤褐(5YR5/6) 内:黒(5YZ/1)	底外:回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ	4906
SX4-22	SX4006	土師器	甕	口:(29.9) 側:(27.0)	0.1～30	やや粗・金	結・石・長・雲	外:明赤褐(5YR5/6) 内:橙(7.5YR6/6)	口外:ヨコナデ/内:ヨコナデ・側上外:ハケ(3本1cm)/内:ハケ(5本1cm)	4873
SX4-23	SX4006	土師器	鍋	口:(26.8)	0.1～60	粗・良	石・長・十・雲・泥	外:橙(5YR7/8) 内:橙(5YR7/8)	口外:ヨコナデ/内:ヨコナデ・肩外:ユビナデ/内:イタナデ・側上外:イタナデ/内:イタナデ	4877
SX4-24	SX4006	土師器	鍋	側:(23.0)	0.5～110	粗・やや不	結・石・長・十・雲・泥	外:橙(7.5YR6/6) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	側上外:ユビオサエ→ユビナデ/内:イタナデ・側下外:イタナデ/内:イタナデ・底外:回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ/内:ヘラミガキ	4908
SX4-25	SX4006	土師器	甕	口:(26.7) 側:(23.0)	0.1～40	粗・やや不	結・長・十・砂・泥	外:橙(5YR6/8) 内:橙(7.5YR6/8)	口外:ヨコナデ/内:ヨコナデ・側上外:ヨコナデ/内:ユビナデ→イタナデ	4907
SX4-26	SX4006	土師器	甕	口:(39.0) 側:(35.9)	0.1～40	粗・やや不	結・石・長・雲・泥	外:橙(5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	口外:ヨコナデ→ユビオサエ/内:ヨコナデ・肩外:ユビオサエ→ユビナデ/内:イタナデ	4910
SX4-28	SD5001	須恵器	杯身	高:(2.6) 口:(13.2)	0.1～20	精・やや不	石・長	外:灰(N6/0) 内:灰(N6/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	2749
SX4-29	SD5001	須恵器	杯身	底:(7.4)	0.1～30	精・不良	石・長・十・赤	外:灰(N6/0) 内:灰白(N7/0)	底外:回転ヘラケズリ/内:ユビオサエ→回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り、2750

4　古代の遺構・遺物

(1) 自然流路 (SR)

1 号自然流路（SR3001）（図 129 ～ 136）

旧 B1 区 D1 ～ F13 以北にて検出された SR3001 である。

東西方向に流れる古代に属する自然流路である。縄文時代・弥生時代・古墳時代の遺構面を削平して東流する。北側は川原礫が堆積した埋没自然堤防となる。田野山地の小谷地形により形成された微小扇状地により、東側で幅が狭まりやや北側へ向きを変える。

下層は暗灰黄色砂礫層や褐灰色砂礫層とにぶい黄褐色粘性砂質土が互層となる。中層は灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土で砂層や砂礫層は堆積していない。上層はにぶい黄褐色粘性砂質土で、

図 128　第 3 遺構面主要遺構配置図

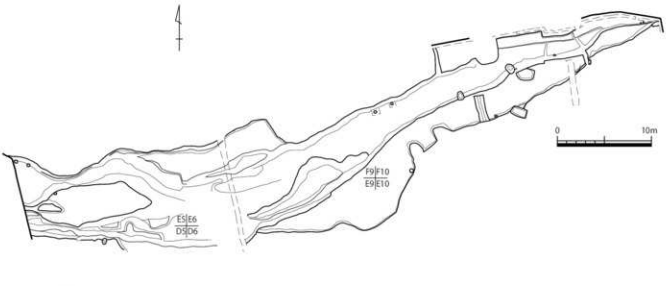


図 129　1 号自然流路（SR3001）遺構図（1）

土坑や小穴の遺構覆土に近似している。下層には砂礫層が堆積していることからある程度の流水状態であった事が伺えるが、中層以上では緩やかな流水もしくは滞水状態であったと推定される。

流路が北東へ大きく向きを変える E7 グリッド付近に L 字状の石積みが築かれている。流路南岸の斜面に沿うように約 3m の範囲にわたって 20 ㎝大の石が乱雑に積まれている。下流側には連続して流れに直交する石積みが幅 1m 弱に渡って築かれている。石積み周辺には木杭・木組は確認されておらず、割石のみで構成されたと推定される。石積み自体も面を揃えるや裏込め等の丁寧な施工は未確認である。

主な出土遺物は古代末から中世に属するが、縄文時代に属する遺物も最下層より出土した。黒色土器 B 類椀 SR3-6 は体部に打ち欠きを施し、内面に煤が付着する事から灯明皿として転用している。土師器杯 SR3-10 は内面に漆状の有機物が付着する。土師器皿 SR3-11 は口縁端部 2 箇所に被熱による赤変・黒変が観察されることから灯明皿の可能性がある。土師器付 SR3-14 は外面に被熱黒変箇所と内面口縁端部に被熱黒変箇所が観察されることから灯明皿として使用か。黒色土器 B 類椀 SR3-26 は外面に被熱による赤変箇所が観察される。土師器高台付椀 SR3-28 は口縁端部に打ち欠きを施した後に赤色顔料を塗布している。黒色土器 A 類椀 SR3-37 は内側からの底部穿孔を施している。

周辺の遺構と出土遺物より、1 号自然流路（SR3001）は、古墳時代後期末・7 世紀第 1 四半世紀の埋葬施設群構築後に神田瀬川もしくは勝浦川の河道移動により、古墳時代後期の遺構面を削平下と推定さ

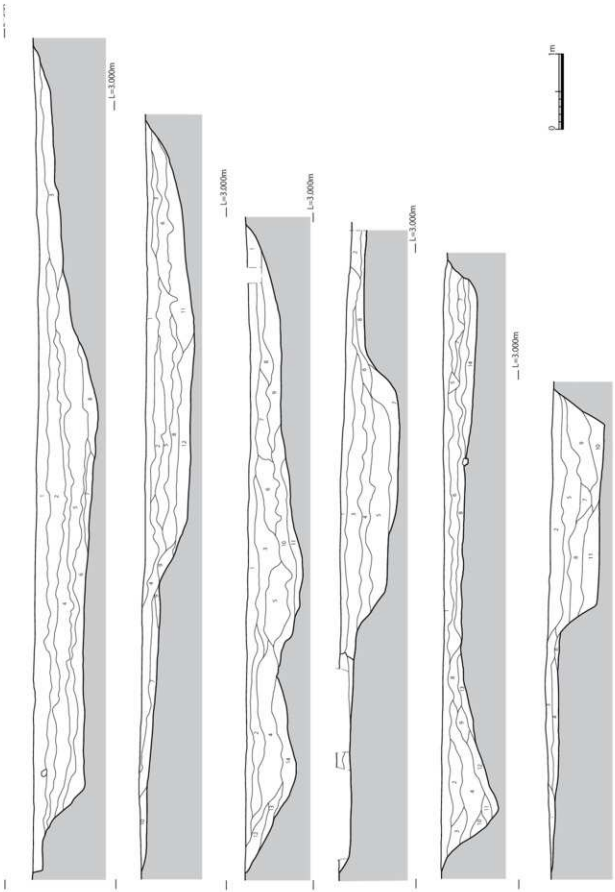
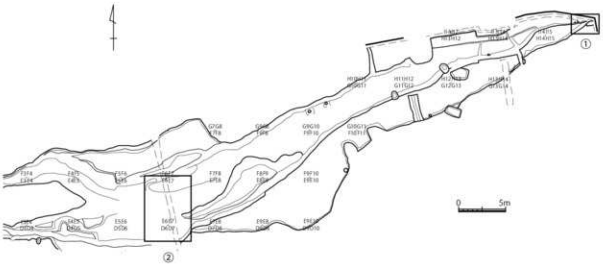
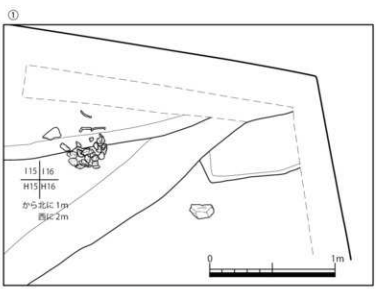


図 130　1 号自然流路（SR3001）遺構図（2）





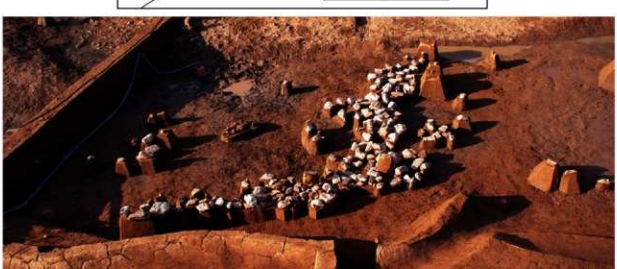


図 131　1 号自然流路（SR3001）遺物出土状況図

②

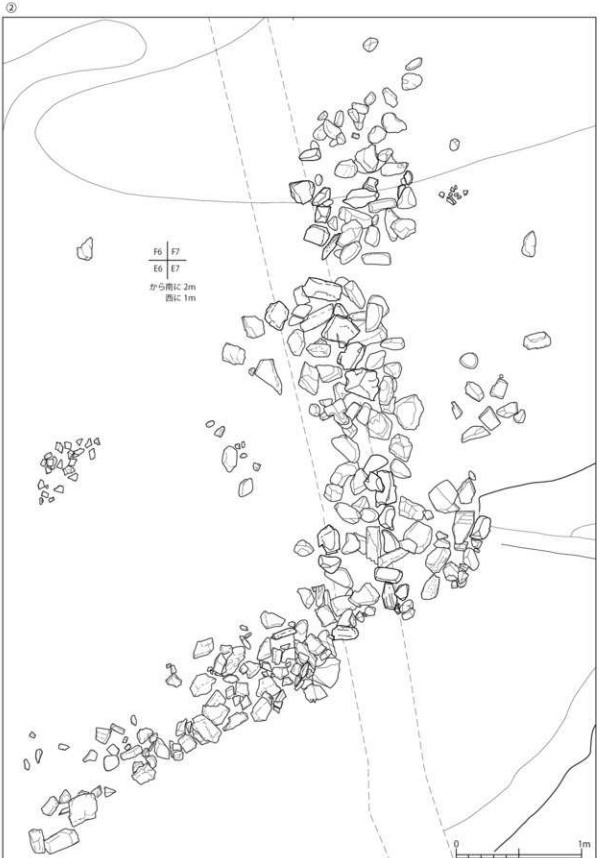


図 132　1 号自然流路（SR3001）遺構図（3）

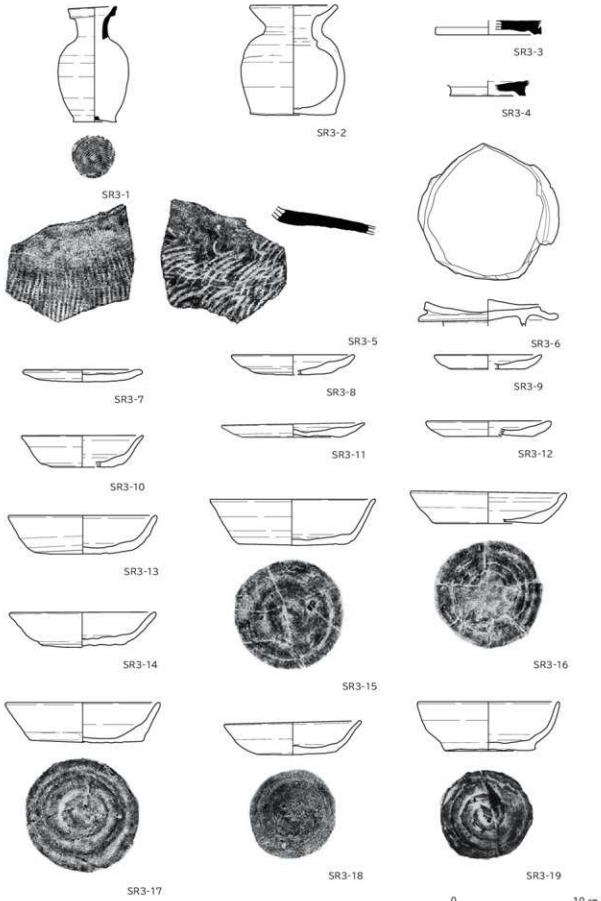


図 133　1 号自然流路（SR3001）遺物図（1）

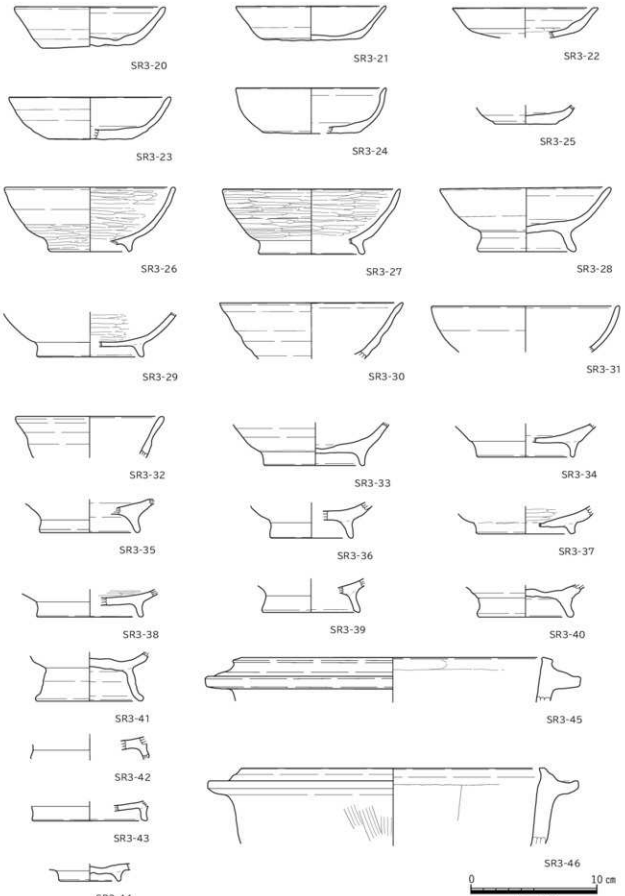


図 134　1 号自然流路（SR3001）遺物図（2）

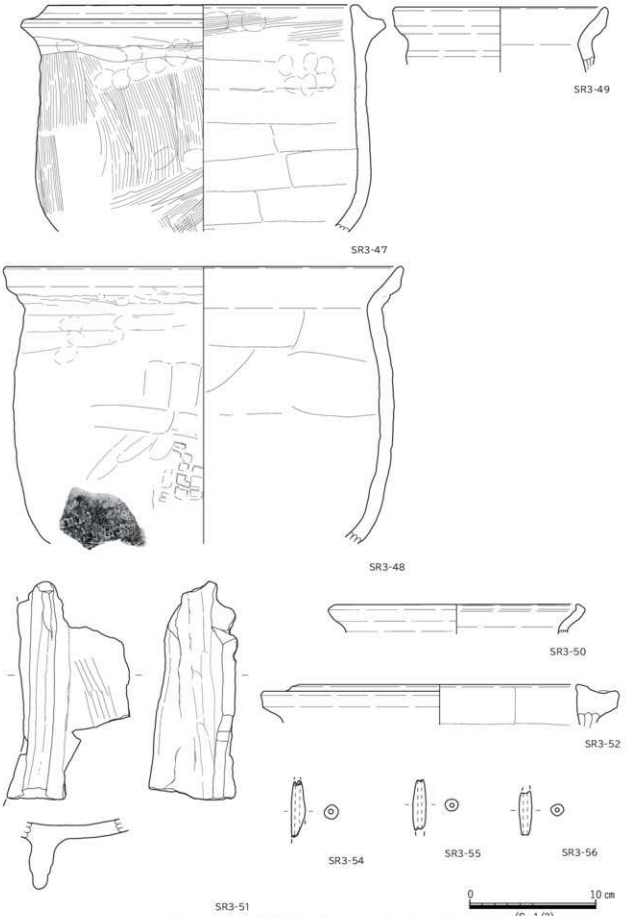


図 135　1 号自然流路（SR3001）遺物図（3）

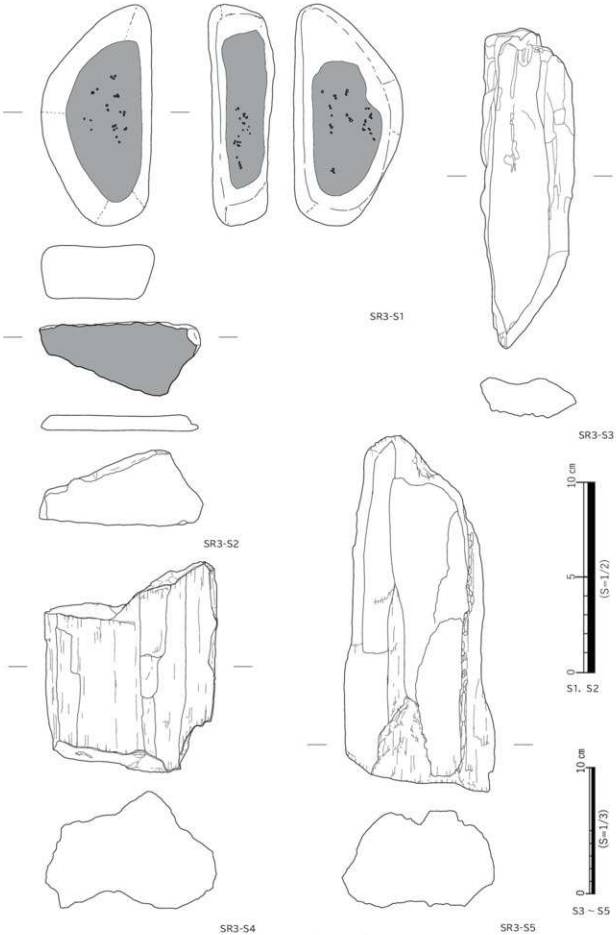


図 136　1 号自然流路（SR3001）遺物図（4）

表 23　1 号自然流路出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	転位	密度 焼成	組成	色調	調整	備考・実測番号
SR3-1	SR3001	須恵器	椀	高:9.1 口:(3.8) 脚:2.4 胴:5.6・底:3.4	0.1～1.0	良	石・長	外:灰 (10Y5/1) 内:灰 (N5/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下内:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転糸切り→内:回転ナデ	胴転方向下から見て反時計回り。2697
SR3-2	SR3001	土師器	壺	高:8.6 口:(6.8) 脚:4.5 胴:8.2・底:6.8	0.1～3.5	良	石・長・雲	外:橙 (7.5YR7/6) 内:橙 (7.5YR7/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:静止ヘラ切り→ユビナデ	横撫あり。2706
SR3-3	SR3001	緑釉陶器	椀	高:(1.15)・底:(6.4)	0.1～0.2	精良		外:明黄褐 (10YR7/6) 内:こい黄橙 (10YG4.5/7a)	底外:回転糸切り→内:回転ナデ	2667
SR3-4	SR3001	緑釉陶器	椀	底:(6.0)	～0.5	精良		外:暗いオーブグリーン (10YG4.5/55) 内:こい黄橙 (10YG5.5/55)	底外:回転ナデ/内:回転ナデ	2709
SR3-5	SR3001	須恵器	甕		0.1～3.0	精良	石・長・泥	外:灰白 (2.5YR7/2) 内:灰白 (N8/0)	胴上外:格子タタキ→ケキ目 (12 条 1 cm)/内:青海波文	2720
SR3-6	SR3001	土師器	転用皿		0.1	精良	石・長・赤	外:橙 (5YR7/8) 内:黒 (10YR2/1)	口外:打ち欠き/内:打ち欠き・脚下内:回転ナデ→ヘラミガキ・底外:回転ヘラ切り→高台貼付→ナデ/内:回転ナデ→ヘラミガキ	内面、脚(高台)内側に墨付着一上下逆にして利用法としても使用？。3692
SR3-7	SR3001	土師器	皿	高:0.95 口:(9.5)・底:(5.0)	0.1～2.0	精やや不	石・長・赤・雲・赤	外:こい黄橙 (10YR7/4) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:回転ナデ	2712
SR3-8	SR3001	土師器	皿	高:1.6 口:(9.6)・底:6.2	0.1～3.0	精良	石・長・赤・金雲・赤	外:橙 (5YR6/6) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:回転ナデ	2678
SR3-9	SR3001	土師器	皿	高:(1.15) 口:(11.2)・底:(8.5)	0.2～1.2	精やや不	石・長・チ・赤	外:橙 (7.5YR7/6) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:回転ナデ	2670
SR3-10	SR3001	土師器	杯	高:2.5 口:(9.5)・底:(4.6)	0.1～1.5	良やや不	石・長・チ・赤	外:橙 (7.5YR7/6) 内:橙 (7.5YR7/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:ユビナデ	内面赤(？)付着（筆状工具を使用）。2667
SR3-11	SR3001	土師器	皿	高:1.2 口:11.2・底:7.75	0.5～0.7	良不良	石・長・赤	外:橙 (7.5YR6/6) 内:橙 (7.5YR7/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:回転ナデ、ユビナデ	口縁端部2ヶ所被熱黒変。赤変？灯明皿？。2707
SR3-12	SR3001	土師器	皿	高:1.2 口:(9.6)・底:(7.0)	0.1～4.0	粗やや不	石・長・雲	外:明赤褐 (5YR5/8) 内:明赤褐 (5YR5/8)	脚下外・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	2696
SR3-13	SR3001	土師器	杯	高:3.05 口:(11.55)・底:8.1	0.1～2.0	良やや不	長・チ・赤・泥	外:橙 (7.5YR6/6) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	内面赤色顔料？塗布もしくは被熱により変色？。2728
SR3-14	SR3001	土師器	杯	高:2.3 口:11.4・底:6.75	0.1～1.0	粗やや不	結・石・長・チ・赤	外:明赤褐 (5YR5/8) 内:橙 (5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:回転ナデ	内面？に微成？被熱黒変内面に球場状被熱黒変一可明法とし転用？。2731
SR3-15	SR3001	土師器	杯	高:3.65 口:(13.1)・底:8.5	0.1～3.5	やや良金	石・長・チ・赤	外:こい橙 (5YR6/4) 内:こい橙 (5YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	2716
SR3-16	SR3001	土師器	杯	高:2.6 口:12.2・底:8.4	0.1～6.0	良やや不	石・長・赤	外:橙 (5YR6/8) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:回転ナデ	2715
SR3-17	SR3001	土師器	杯	高:3.2 口:12.1・底:9.1	1.0～7.5	精やや不	石・長・赤	外:橙 (5YR7/8) 内:橙 (5YR7/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ユビナデ/内:回転ナデ	2727
SR3-18	SR3001	土師器	杯	高:2.7 口:10.9・底:5.25	0.5～5.0	良やや不	結・石・長・雲・赤	外:橙 (5YR6/6) 内:橙 (5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:回転ナデ、ユビナデ	2729
SR3-19	SR3001	土師器	杯	高:3.9 口:(11.1)・底:(7.3)	0.1～3.0	良やや不	石・長・雲・赤	外:橙 (5YR6/6) 内:橙 (5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:ユビナデ	2723
SR3-20	SR3001	土師器	杯身	高:3.0 口:11.8・底:7.1	0.1～0.2	良不良	石・長・チ・雲・赤	外:橙 (5YR6/8) 内:明赤褐 (5YR5/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	2730
SR3-21	SR3001	土師器	杯身	高:2.7 口:(11.9)・底:(8.0)	0.1～4.5	粗やや不	石・長・チ・雲・赤	外:橙 (7.5YR7/6) 内:橙 (7.5YR7/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:回転ナデ	2724
SR3-22	SR3001	土師器	皿	高:(2.4) 口:(11.6)・底:(5.6)	0.1～2.0	精やや不	石・チ・雲・赤	外:明黄褐 (10YR6/6) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ→ユビナデ	2691
SR3-23	SR3001	土師器	杯	高:(3.35) 口:(12.8)・底:(6.8)	0.1～4.0	良やや不	石・長・赤	外:橙 (5YR6/6) 内:橙 (5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	2673
SR3-24	SR3001	土師器	杯身	高:3.6 口:(11.9)・底:(7.4)	0.1～4.0	良やや不	石・長・チ・赤	外:橙 (5YR6/6) 内:こい橙 (7.5YR6/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→内:回転ナデ	2671
SR3-25	SR3001	土師器	皿	底:(4.7)	0.5～7.0	良やや不	結・石・長・赤	外:橙 (2.5YR7/6) 内:橙 (7.5YR7/6)	底外:静止ヘラ切り→ユビナデ/内:ユビナデ、ユビオサエ	2711
SR3-26	SR3001	土師器	高台付椀	高:(5.1) 口:(13.4)・底:(6.2)	0.1～3.0	精良	石・雲	外:こい褐 (7.5YR3/4) 内:黒 (N2/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ→ヘラミガキ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ→ヘラミガキ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ→ヘラミガキ・底外:高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ→ヘラミガキ	外面被熱赤変？。2722
SR3-27	SR3001	土師器	高台付椀	高:5.1 口:(14.0)・底:(8.2)	0.1～0.4	良やや不	石・長・チ・雲	外:橙 (5YR6/6) 内:黒褐 (7.5YR3/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:ヘラミガキ→ヘラミガキ・脚下外:ヘラミガキ/内:ヘラミガキ・底外:回転ナデ/高台貼付/内:ヘラミガキ	内黒。2677
SR3-28	SR3001	土師器	高台付椀	高:5.0 口:13.4・底:7.5	0.1～9.0	良やや不	結・石・長・チ・赤	外:橙 (5YR6/6) 内:橙 (7.5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ	内外面赤色顔料？塗布もしくは被熱により変色？。在地。2726

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度/焼成	組成	色調	調整	備考・実測番号
SR3-29	SR3001	土師器	高台付椀	底（8.4）	～3.5	良ややイ	砂・石・赤	外：橙（5YR6/8） 内：明褐（7.5YR5/6）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、2701
SR3-30	SR3001	土師器	椀	口：（14.6）	～2.0	精・不良	砂・石・長・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ／胴上外：ユビナデ／内：ユビナデ／胴下外：ユビナデ、ユビオサエ／内：ユビナデ	2725
SR3-31	SR3001	土師器	杯	高：（3.6）口：（15.0）	0.1～4.0	精・ややイ	石・長・チ・雲・金雲・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	2683
SR3-32	SR3001	土師器	杯	高：（3.2）口：（11.5）	0.1～1.5	精・不良	石・チ・赤	外：明黄褐（10YR7/6） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	2713
SR3-33	SR3001	土師器	椀	底7.8	0.1～8.0	精・良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	在地、独土分析在地？、2705
SR3-34	SR3001	土師器	高台付椀	器：（8.6）・底（7.6）	0.1～4.0	やや精・ややイ	石・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	2694
SR3-35	SR3001	土師器	台付椀	底（7.8）	1.0～11.0	粗・ややイ	砂・石・長・赤	外：橙（5YR6/6） 内：明赤褐（5YR5/8）	胴下外：ユビナデ／内：ユビナデ・底外：ユビナデ／内：ユビナデ	2685
SR3-36	SR3001	土師器	高台付椀	底（6.5）	0.1～0.75	精・不良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：オリーブ黒（5Y3/2）	胴下外：ユビナデ／内：ヘラミガキ？・底外：ユビナデ／内：ヘラミガキ？	2674
SR3-37	SR3001	土師器	高台付椀	高：（2.2）・底（7.9）	0.1～9.0	精・良	石・長・雲	外：黒褐（2.5Y3/2） 内：橙（5YR6/6）	胴上外：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	転用品の可能性あり、底部穿孔（内側より）？、2679
SR3-38	SR3001	土師器	高台付椀	底（8.2）	0.1～2.0	精・良	石・長・チ・雲・角・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：褐灰（2.5YR4/1）	底外：回転ナデ／内：ヘラミガキ？	2688
SR3-39	SR3001	土師器	高台付椀	底（7.6）	0.1～0.2	精・ややイ	石・長・赤	外：明褐（7.5YR5/8） 内：褐灰（2.5YR4/1）	底外：回転ナデ→高台貼付／内：回転ナデ？	2686
SR3-40	SR3001	土師器	台付椀	底（7.4）	0.5～4.0	精・やや粗	砂・石・長・赤	外：橙（5YR7/6） 内：橙（5YR7/6）	胴下外：ユビナデ／内：ユビナデ・底外：ユビナデ、ユビオサエ／内：ユビナデ、ユビオサエ	2668
SR3-41	SR3001	土師器	台付椀	底（8.4）	0.5～4.0	精・やや不	砂・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：にぶい橙（7YR6/4）	底外：ユビナデ、ユビオサエ／内：ユビナデ、ユビオサエ	2700
SR3-42	SR3001	土師器	高台付椀	底（7.4）	0.1	精・やや不	石・長・雲・赤	外：明褐（7.5YR5/6） 内：にぶい橙（7.5YR6/3）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	2698
SR3-43	SR3001	土師器	高台付椀	底（8.8）	0.1～3.5	良・不良	砂・石・チ・赤	外：橙（5YR6/6） 内：（5YR6/6）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	2682
SR3-44	SR3001	土師器	台付皿	底（4.6）	0.1～1.5	精・不良	砂・石・赤	外：橙（5YR7/8） 内：橙（5YR7/8）	底外：回転ナデ→高台貼付／内：回転ナデ	2684
SR3-45	SR3001	土師器	鍋	口：（24.0）	0.1～3.0	粗・良	砂・石・長・チ・雲	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：ヨコナデ／内：ユビナデ	2708
SR3-46	SR3001	土師器	羽釜	口：（19.4）	0.1～0.5	粗・良	石・長・チ・雲・赤	外：赤褐（5YR4/8） 内：明赤褐（5YR5/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ／内：イタナデ・胴上外：ハケ（3本2ｍｍ）／内：イタナデ	2704
SR3-47	SR3001	土師器	羽釜	口：（24.5）鍔：（25.7）胴：（26.5）	0.1～9.0	粗・良	砂・石・長・雲	外：橙（7.5YR7/6） 内：黒褐（7.5YR3/2）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ケ→ユビオサエ／内：ハケ→イタナデ	外面煤付着、2666
SR3-48	SR3001	土師器	甕	口：（31.4）鍔：（26.2）	1.0～5.0	やや粗・ややイ	砂・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい橙（10YR6/3）	口外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビナデ、イタナデ、格子タタキ／内：ユビオサエ→イタナデ	外面体部下半煤付着、内面体部下半色表流用（雲）あり、2699
SR3-49	SR3001	土師器	壺	口：（16.6）鍔：（14.6）	0.1～5.5	良・ややイ	石・長・チ・雲・角・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	器種再検討、不明？鍔無？、2710
SR3-50	SR3001	土師器	甕	口：（19.1）鍔：（17.6）	0.2～3.5	精・良	石・長・チ・雲・赤	外：黒（2.5Y2/1） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・鍔外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	外面煤付着、2676
SR3-51	SR3001	土師器	器台鍋		0.1～7.0	やや粗・ややイ	砂・石・長・チ・砂	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	胴上外：ユビナデ、イタナデ／内：ユビナデ	2669
SR3-52	SR3001	土師器	羽釜	高：（21.7）	0.1～3.0	粗・良	石・長・チ・雲・角・赤	外：橙（5YR6/6） 内：にぶい橙（10YR7/4）	口内：回転ナデ／胴外：回転ナデ／内：イタナデ	2703

表 24　1 号自然流路出土土製品観察表

番号	遺構	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	孔径(cm)	粒径	密度／焼成	組成	色調	実測番号
SR3-54	SR3001	土錘	4.4	1.1	1.1	3.45	0.35	～1.0	精／良	石・長・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR5/4）	2675
SR3-55	SR3001	土錘	(3.95)	0.55	0.9	3.04	0.35	0.1～1.5	精／やや不	石・雲・赤	外：暗灰黄（2.5Y5/2）	2680
SR3-56	SR3001	土錘	3.43	1.0	0.9	2.5	0.3	0.1～0.8	精／良	長・金雲	外：黒褐（2.5YR3/1）	2681

表 25　1 号自然流路出土石器観察表

掲載番号	遺構	石材	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	備考・実測番号
SR3-S1	SR3001	砂岩	砥石	23.5	12.1	7.0	3350	2734
SR3-S2	SR3001	砂岩	砥石	8.4	3.9	0.8	40.0	2689
SR3-S3	SR3001	結晶片岩	不明黒石	24.9	7.4	2.9	812.2	2740 瀬瀬川流域からの持ち込み？
SR3-S4	SR3001	結晶片岩	不明	16.2	13.5	8.8	2400	2742 瀬瀬川流域からの持ち込み？
SR3-S5	SR3001	結晶片岩	不明	27.2	11.5	8.2	3600	2743 瀬瀬川流域からの持ち込み？

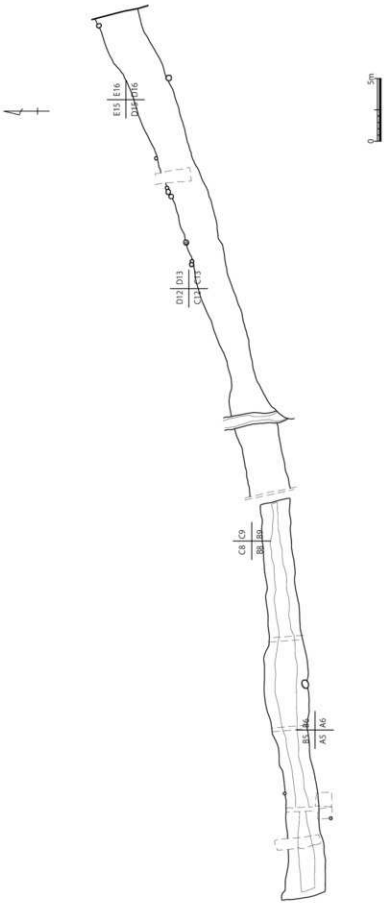


図 137　1 号溝状遺構（SD3001）遺構図（1）

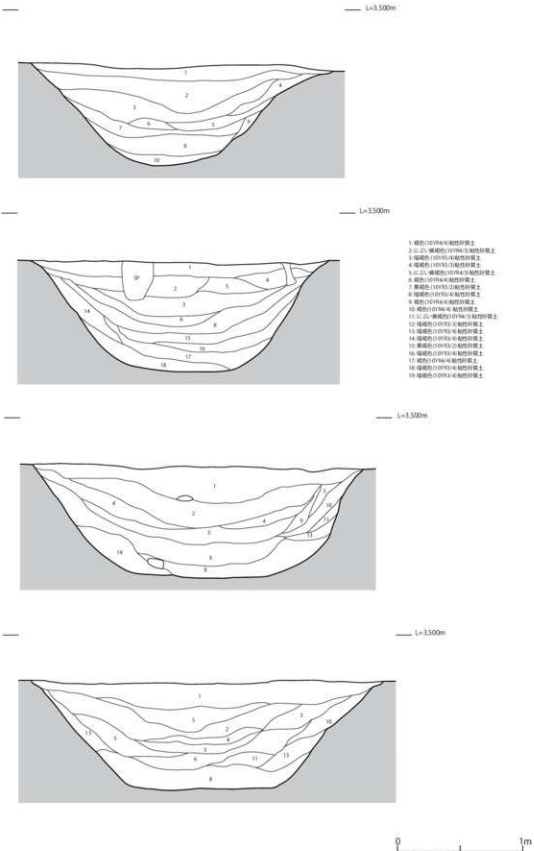


図 138　1 号溝状遺構（SD3001）遺構図（2）

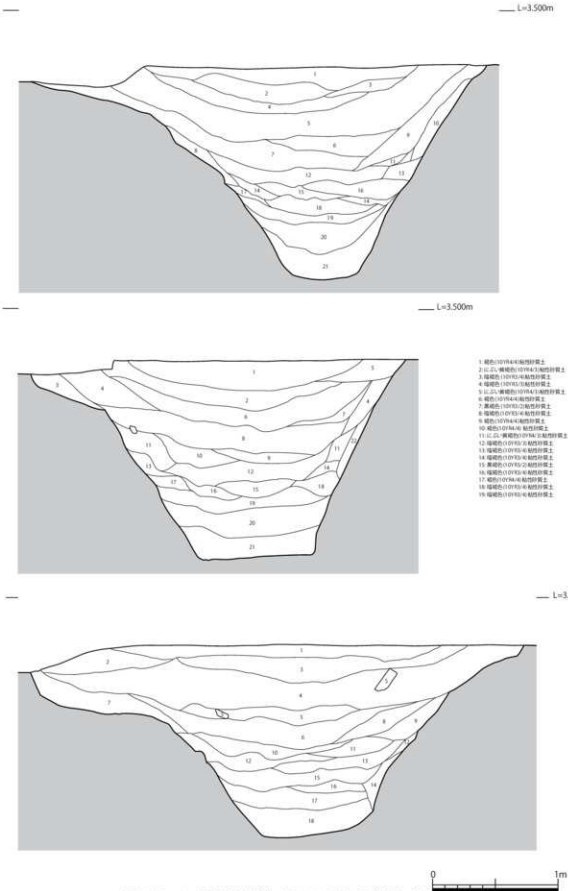


図 139　1 号溝状遺構（SD3001）遺構図（3）

れる。その後、8 世紀後半までに流路屈曲部に石組み遺構を構築することにより、水勢が徐々に弱まり中世前半までには埋没したと推定される。

(2) 溝状遺構（SD）

1 号溝状遺構（SD3001）（図 137 ～ 184）

旧 B 区全体で検出された旧 B2 区 SD1001,B3 区 SD1001 である。

直線状の溝状遺構である。上流側幅 2.4m、深度 0.75m、下流側幅 3.9m、深度 1.5m を測る。上流側は N-85°-E のほぼ東西方向であるが、E11 付近より N-75°-E とやや北に向きを変える。頃は旧地形の傾斜に沿ったためと推定される。

遺構覆土は下層には、粘性の高い粘性砂質土や粘土層が堆積しているが、中・上層には粘性の弱い粘性砂質土やシルト質土が堆積している。中層以下の粘性砂質土層中に細砂層や粗砂層がブロック状に混

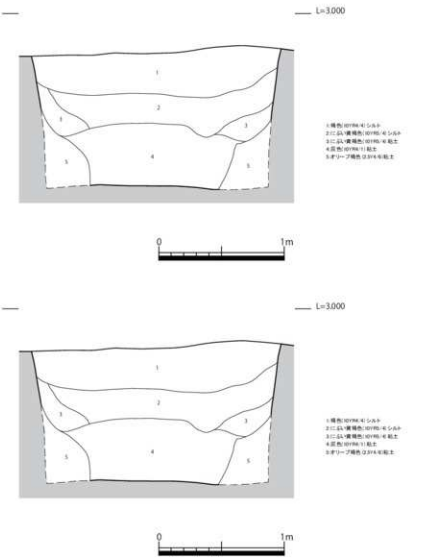


図 140　1 号溝状遺構（SD3001）遺構図（4）

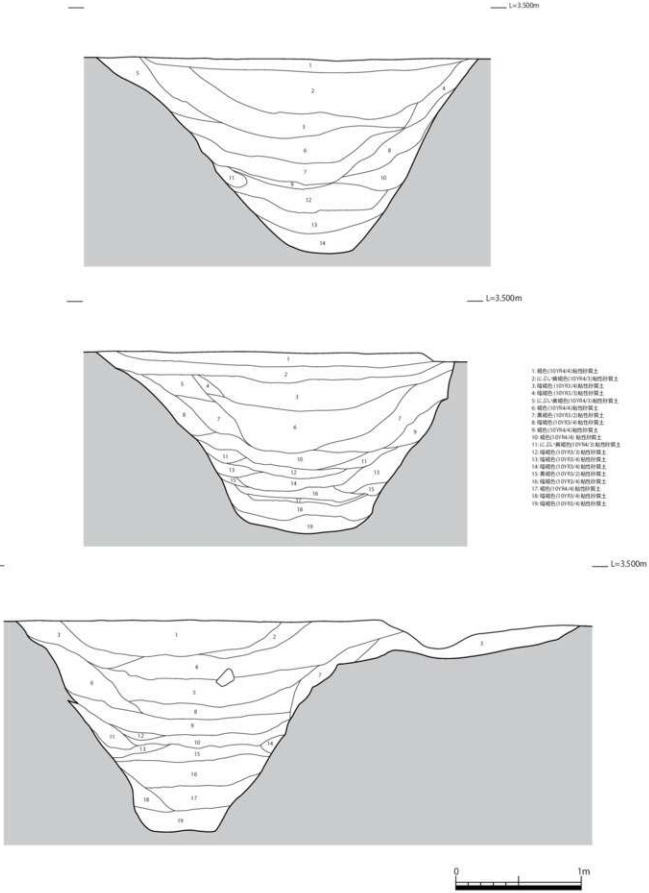


図 141　1 号溝状遺構（SD3001）遺構図（5）

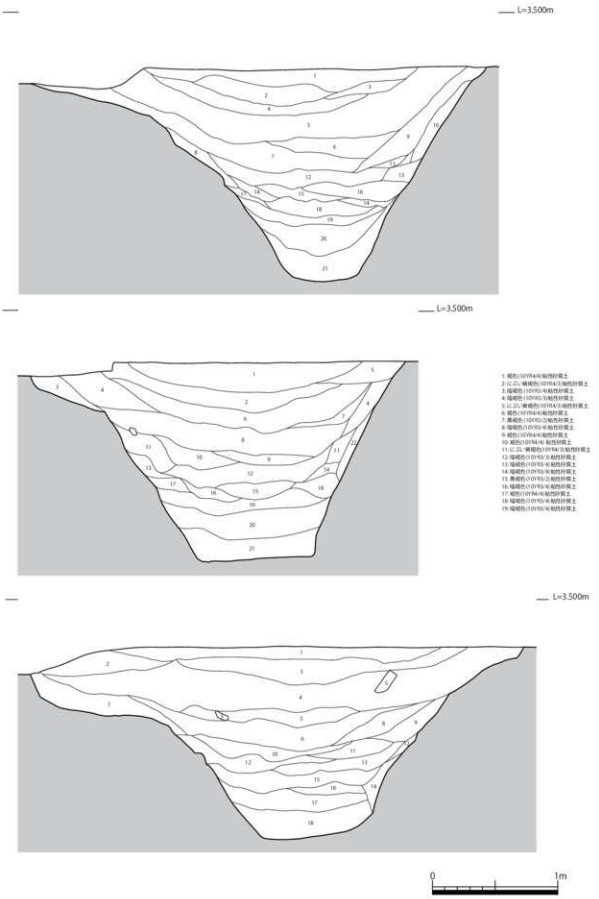


図 142　1 号溝状遺構（SD3001）遺構図（6）

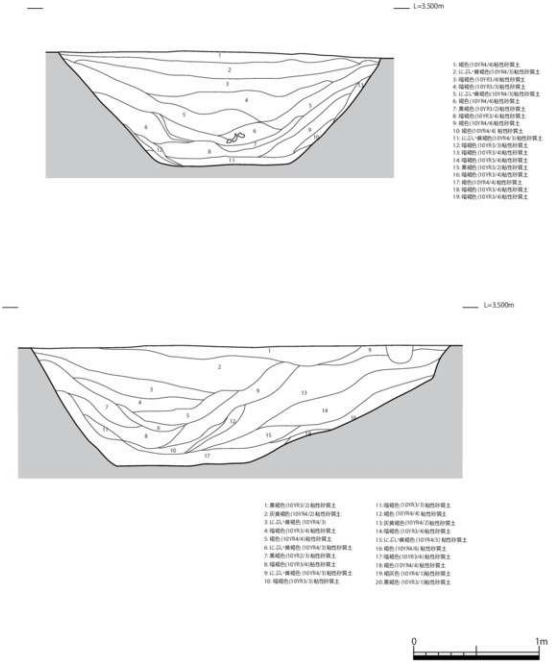
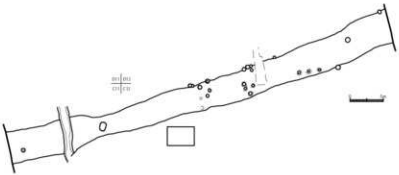


図 143　1 号溝状遺構（SD3001）遺構図（7）



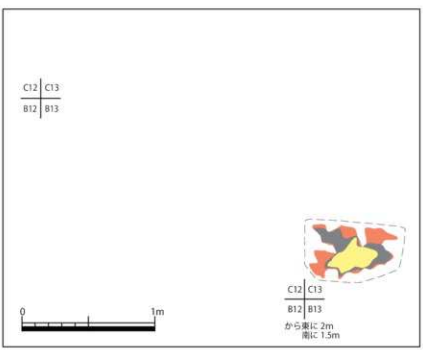


図 144　1 号溝状遺構（SD3001）遺物出土状況図（1）

じるが、強い水勢・流水を反映した堆積とは考え難い。

土師器皿 SD3/1-29 は外面に被熱による赤変が観察され灯明皿として使用された。土師器椀 SD3/1-37 は体部に打ち欠きを施し、被熱痕や煤が付着することから灯明皿として転用している。土師器高台付椀 SD3/1-38 は体部に打ち欠きを施し皿に転用している。土師器杯 SD3/1-40 は内外面に籾殻？痕が残る。土師器杯 SD3/-48 は外面に煤もしくは漆状の有機物が付着する。土師器杯 SD3/-51 は外面に漆状の有機物を塗布している可能性がある。土師器杯 SD3/1-54 は内外面に赤色顔料塗布もしくは被熱赤変の可能性がある。土師器杯 SD3/1-59 は被熱赤変が観察される。黒色土器 B 類 SD3/1-66 は外面に赤色顔料を塗布する。土師器高台付椀 SD3/1-79,81,82,83 は体部に打ち欠きを施した転用皿である。82 は内面に煤が付着する。埴輪 SD3/1-116 は普通円筒埴輪で断続ナデ技法が施されている。須恵器杯蓋 SD3/1-193 は内面に当具痕が残る。須恵器杯身 SD3/1-196 は口縁部に打ち欠きを施す。植木は位

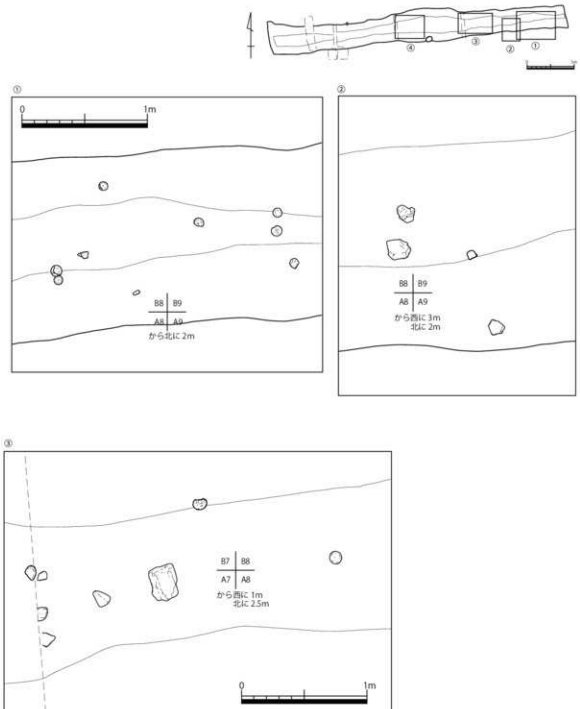


図 145　1 号溝状遺構（SD3001）遺物出土状況図（2）

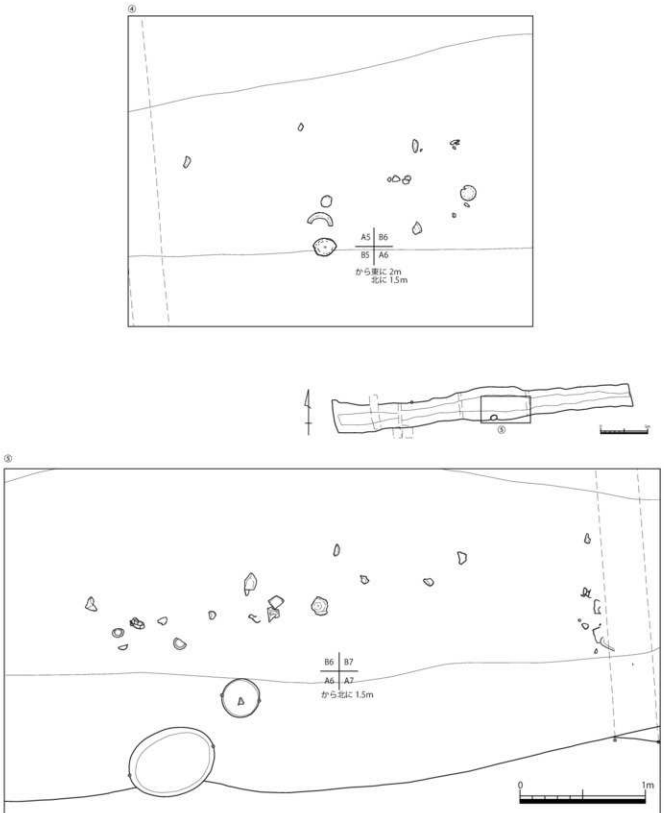


図 146　1 号溝状遺構（SD3001）遺物出土状況図（3）

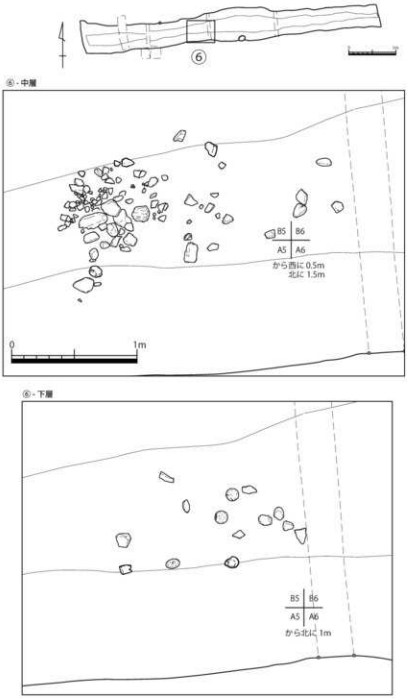
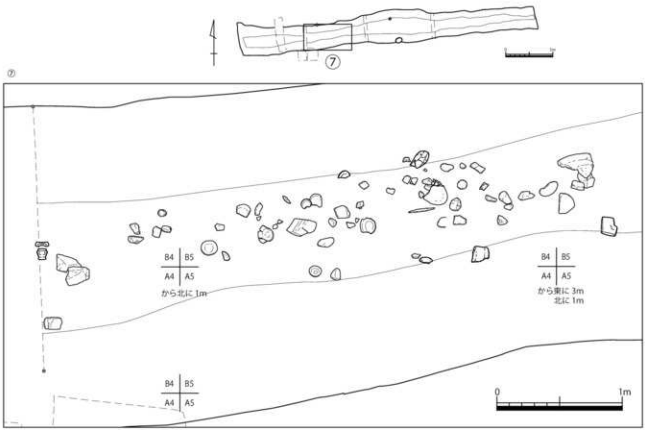


図 147　1 号溝状遺構（SD3001）遺物出土状況図（4）



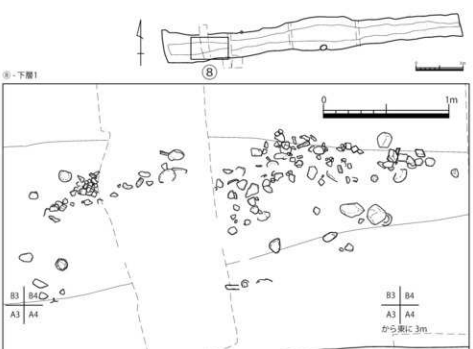
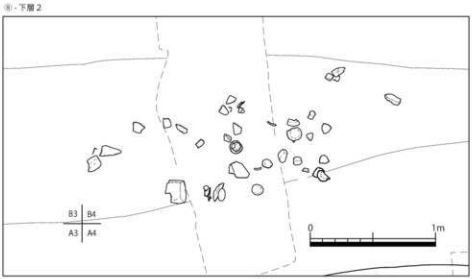


図 148　1 号溝状遺構（SD3001）遺物出土状況図（5）



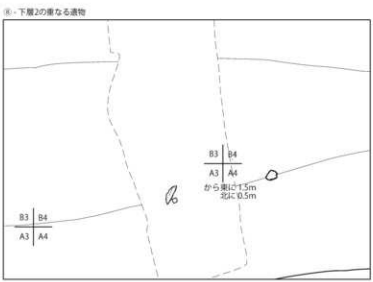


図 149　1 号溝状遺構（SD3001）遺物出土状況図（6）

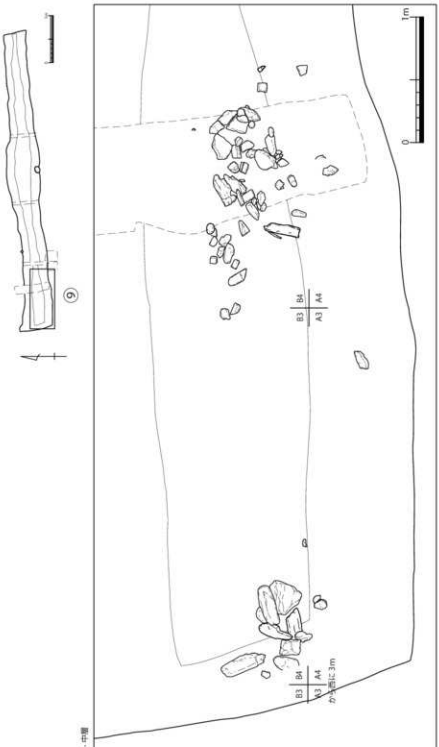


図 150　1 号溝状遺構（SD3001）遺物出土状況図（7）

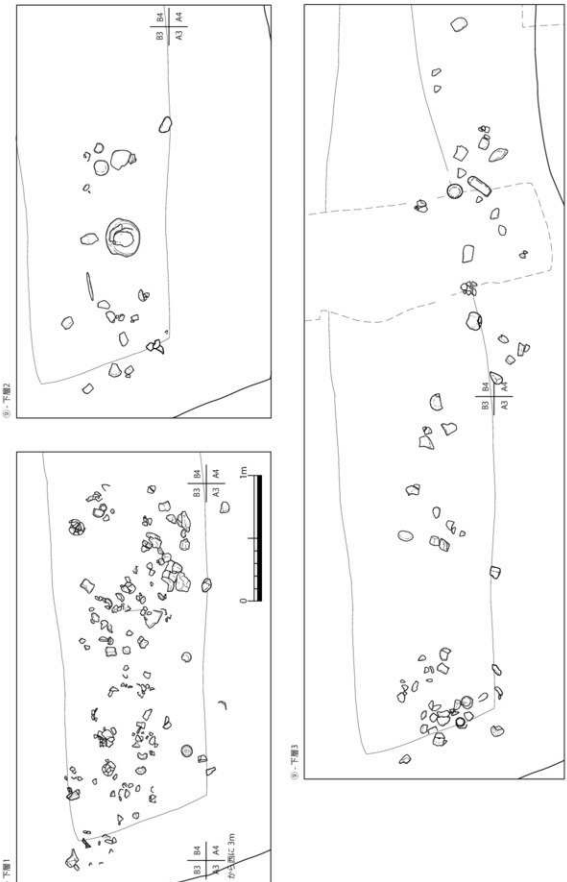


図 151　1 号溝状遺構（SD3001）遺物出土状況図（8）

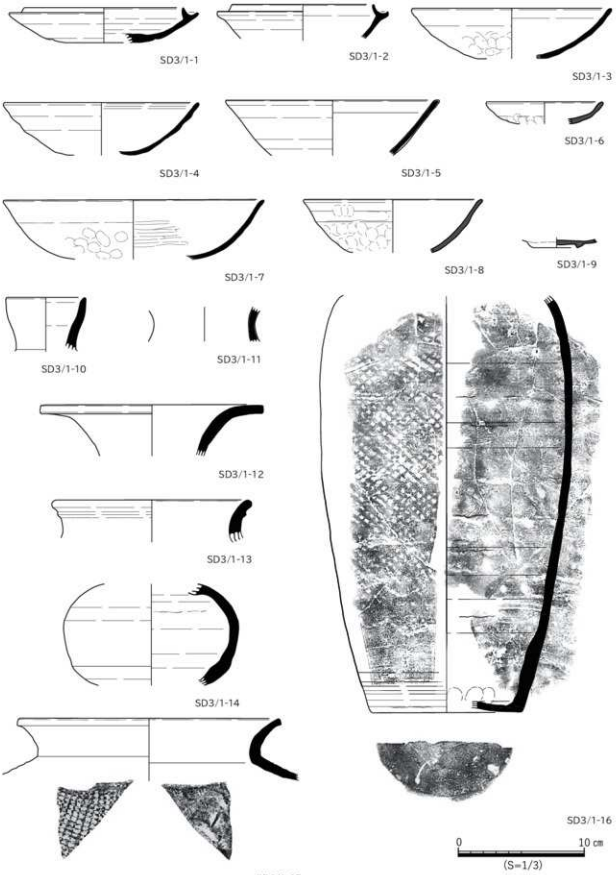


図 152 1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（1）

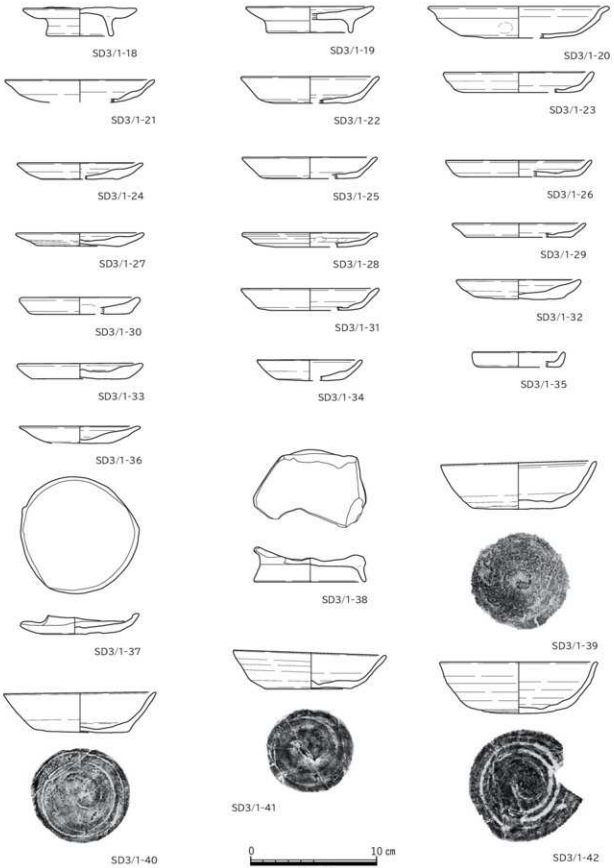


図 153　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（2）

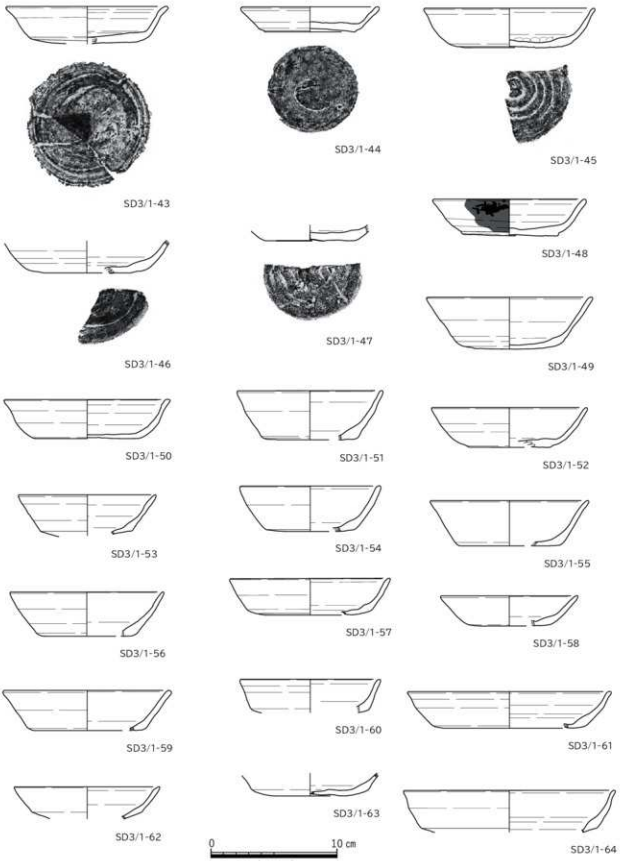


図 154　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（3）

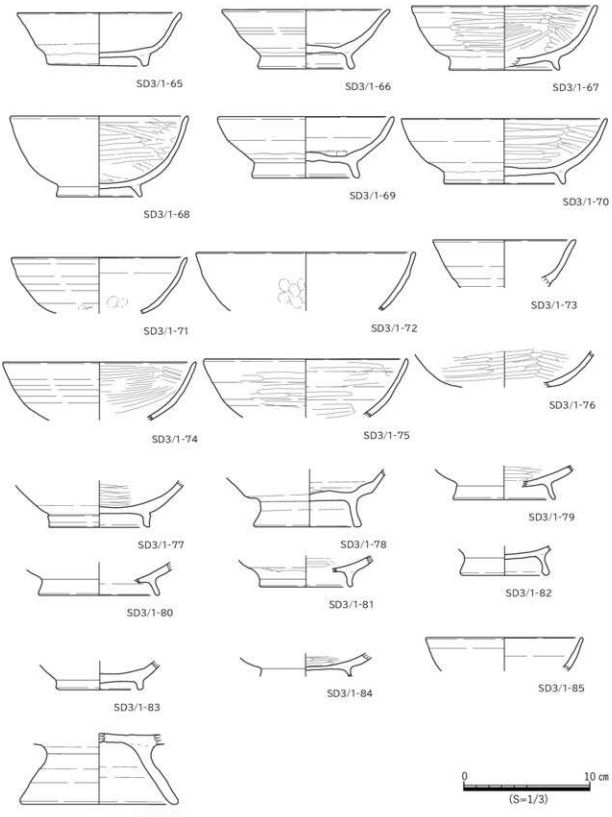
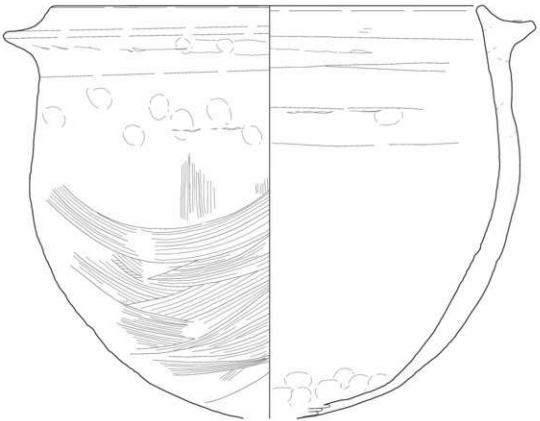
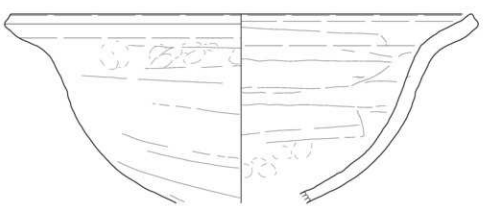


図 155　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（4）



SD3/1-87



SD3/1-88

SD3/1-90

0 10 cm
(S=1/3)

図 156　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（5）

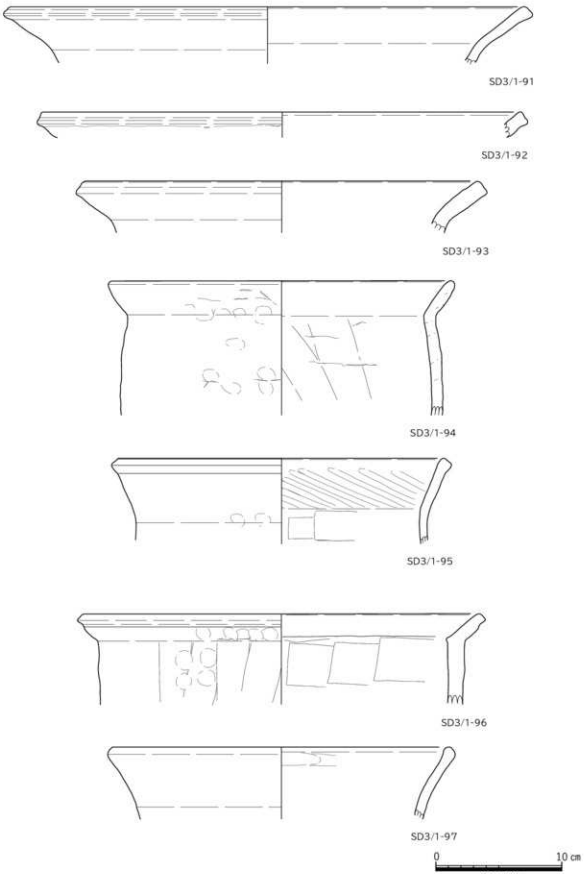


図 157　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（6）

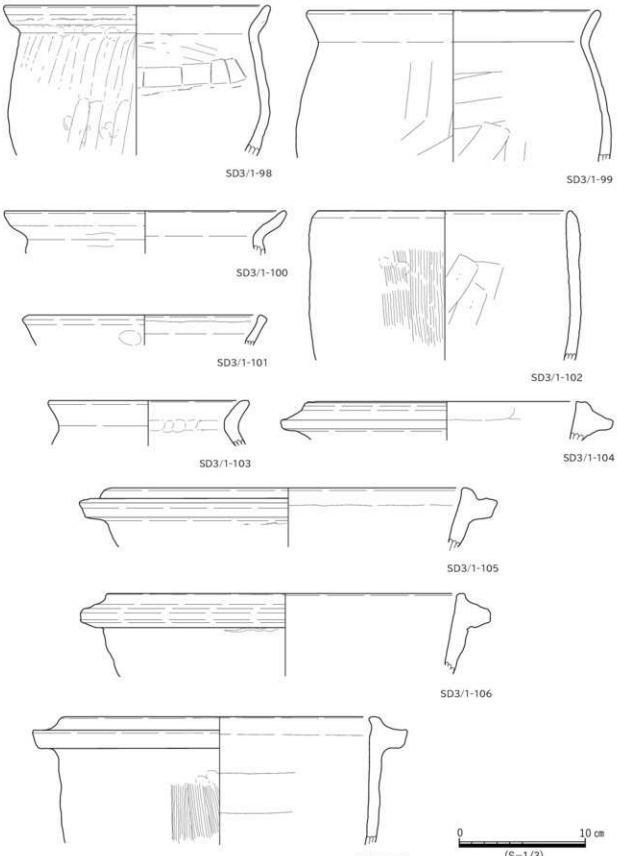


図 158　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（7）

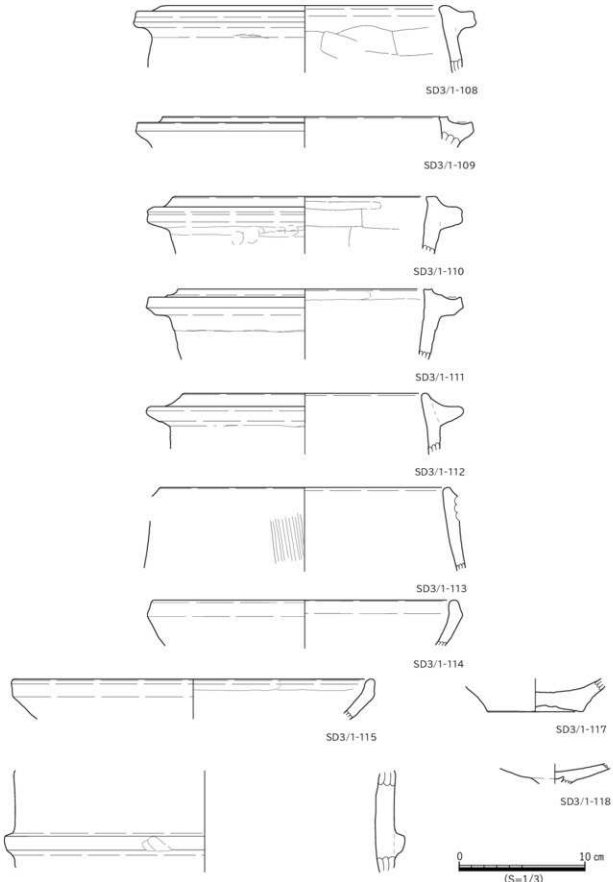


図 159　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（8）

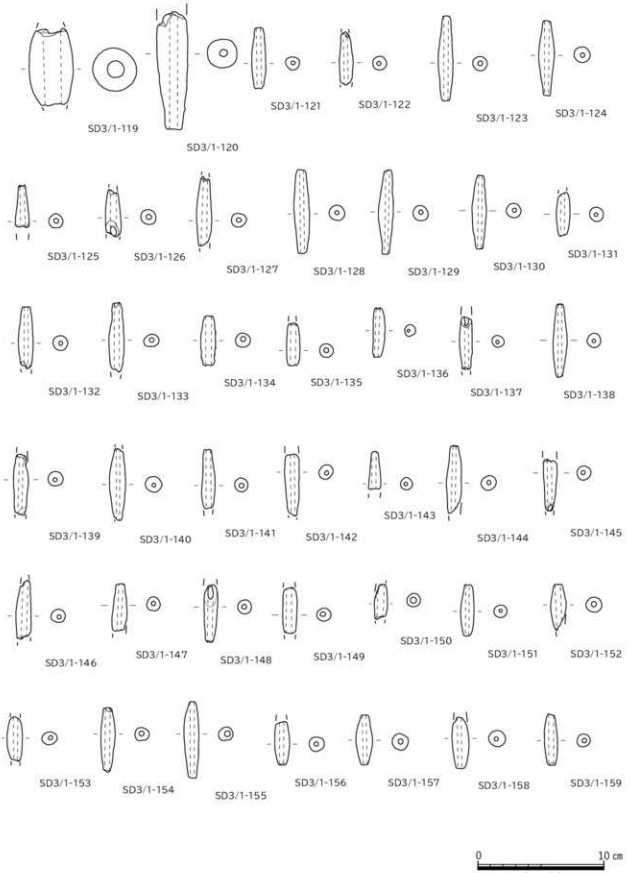


図 160　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（9）

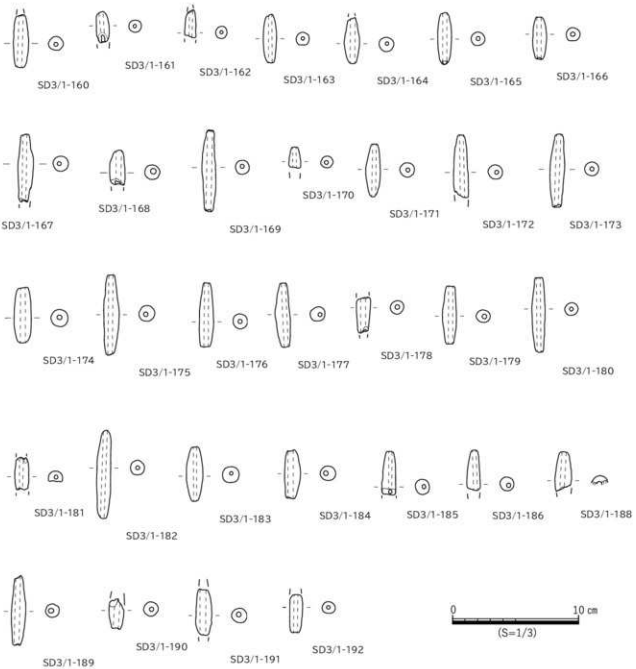


図 161　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（10）

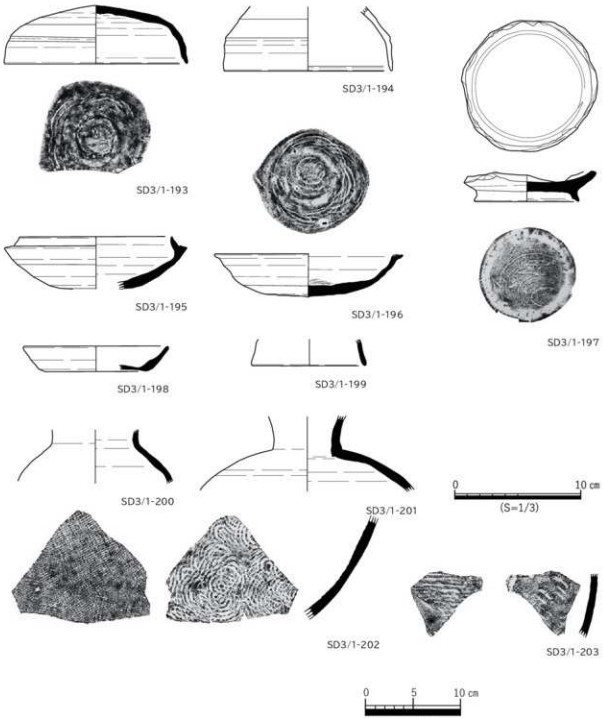


図 162　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（11）

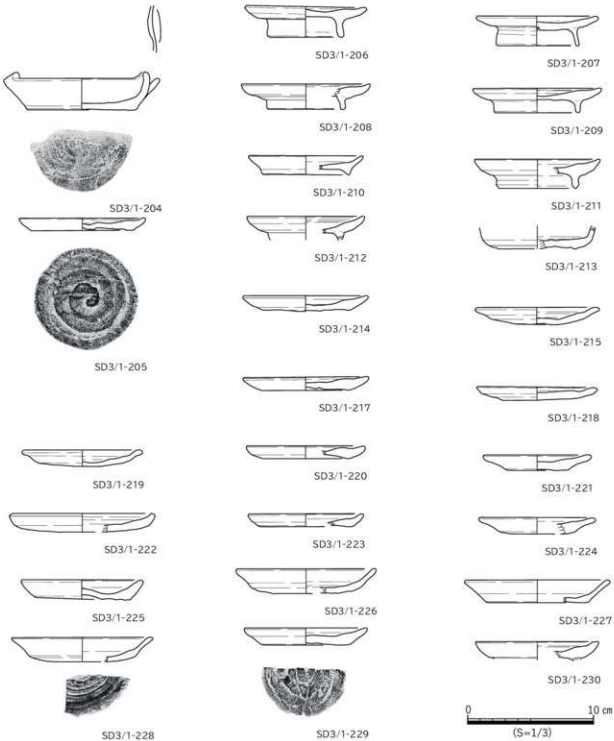


図 163　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（12）

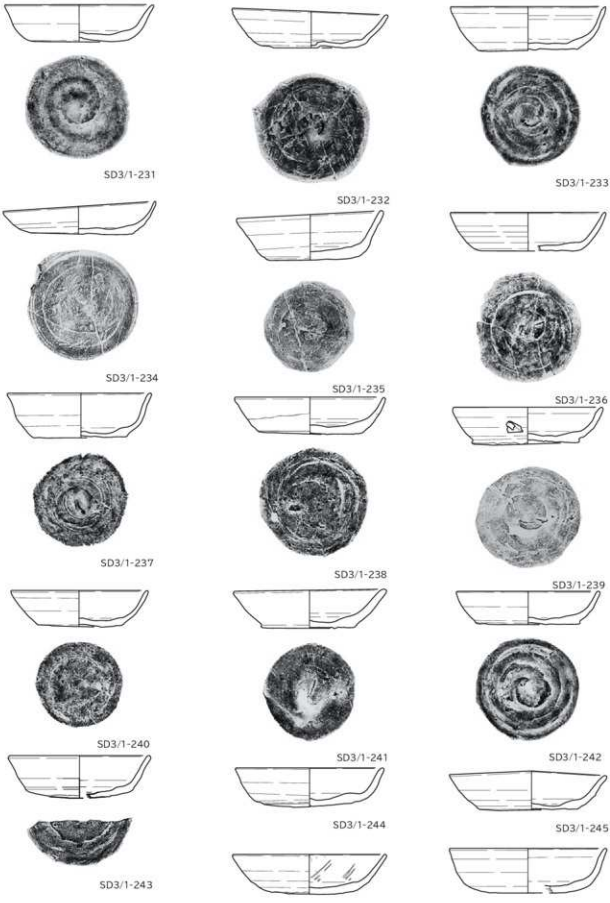


図 164　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（13）

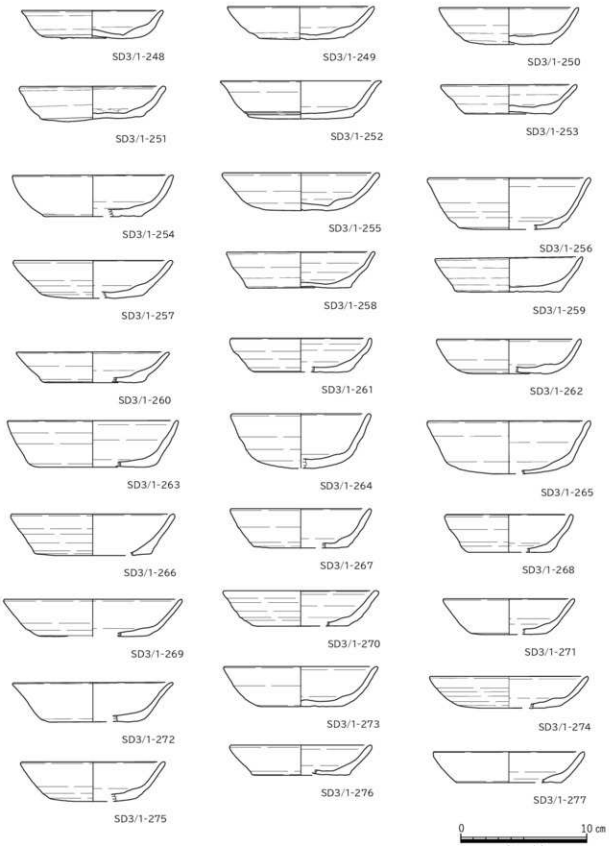


図 165　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（14）

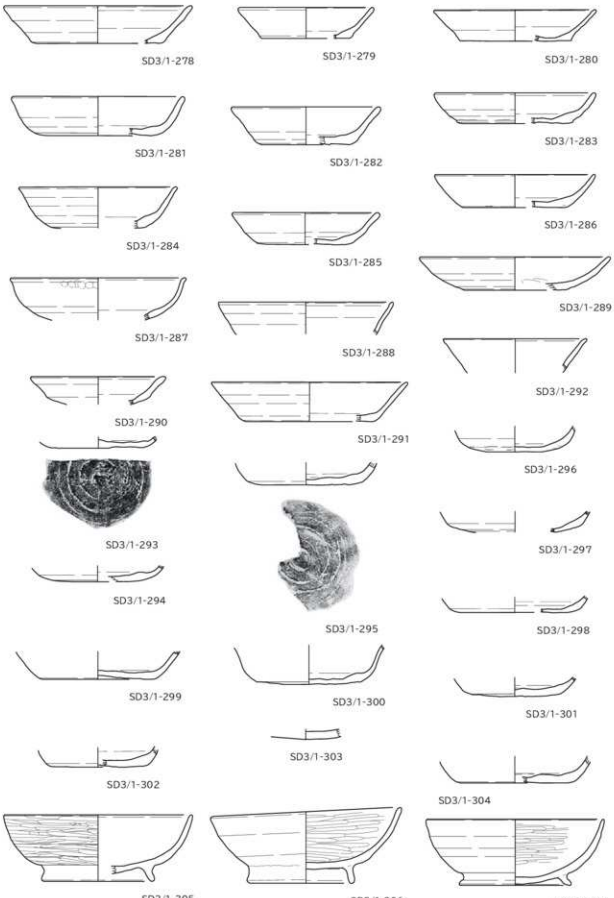


図 166　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（15）

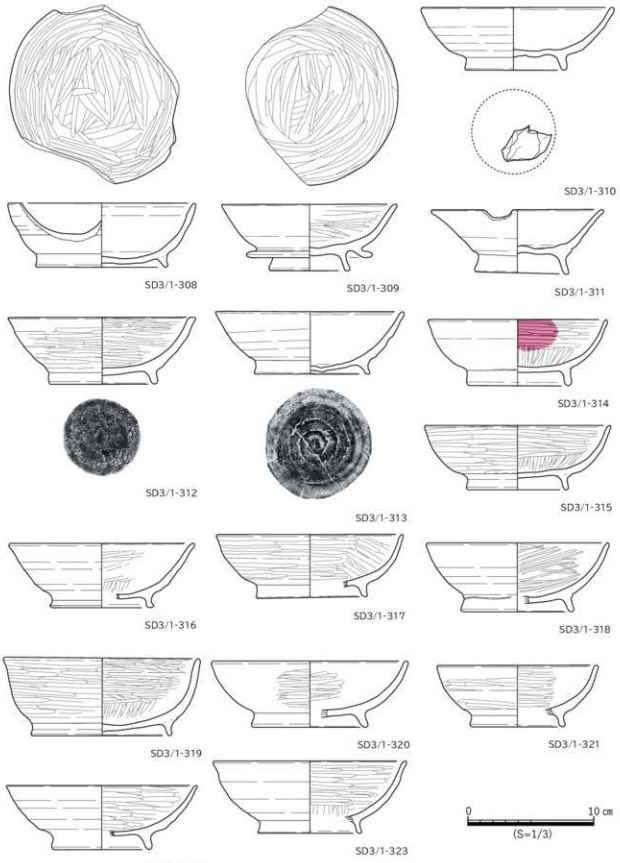


図 167　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（16）

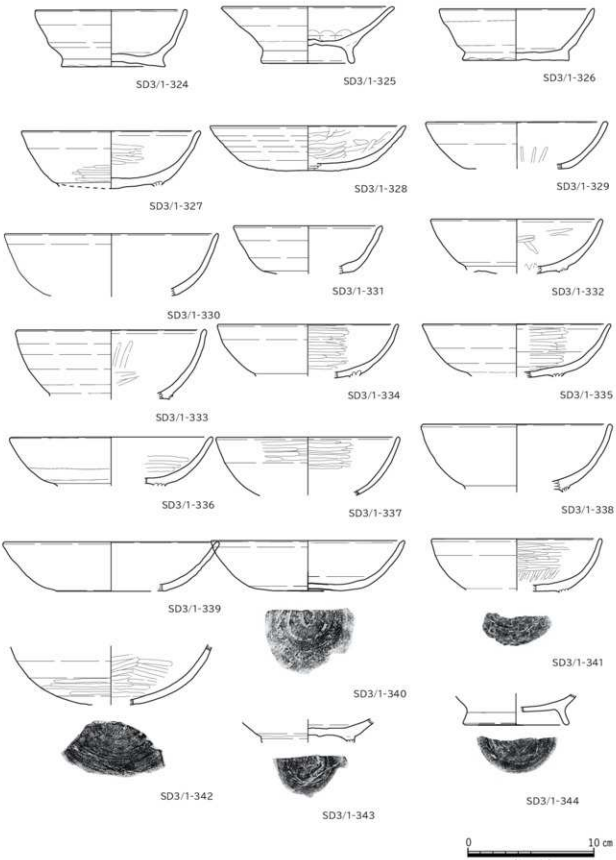
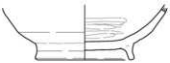
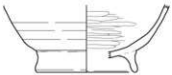


図 168　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（17）

SD3/1-345


SD3/1-346


SD3/1-347

SD3/1-348

SD3/1-349

SD3/1-350

SD3/1-351

SD3/1-352

SD3/1-353

SD3/1-354

SD3/1-355

SD3/1-356

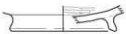
SD3/1-357

SD3/1-358

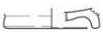
SD3/1-359

SD3/1-360

SD3/1-361


SD3/1-362

SD3/1-363


SD3/1-364

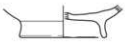
SD3/1-365

SD3/1-366

SD3/1-367

SD3/1-368

SD3/1-369


SD3/1-370

SD3/1-371

SD3/1-372

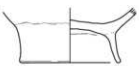
SD3/1-373

SD3/1-374

SD3/1-375

SD3/1-376

SD3/1-377


SD3/1-378

0 10 cm
(S=1/3)

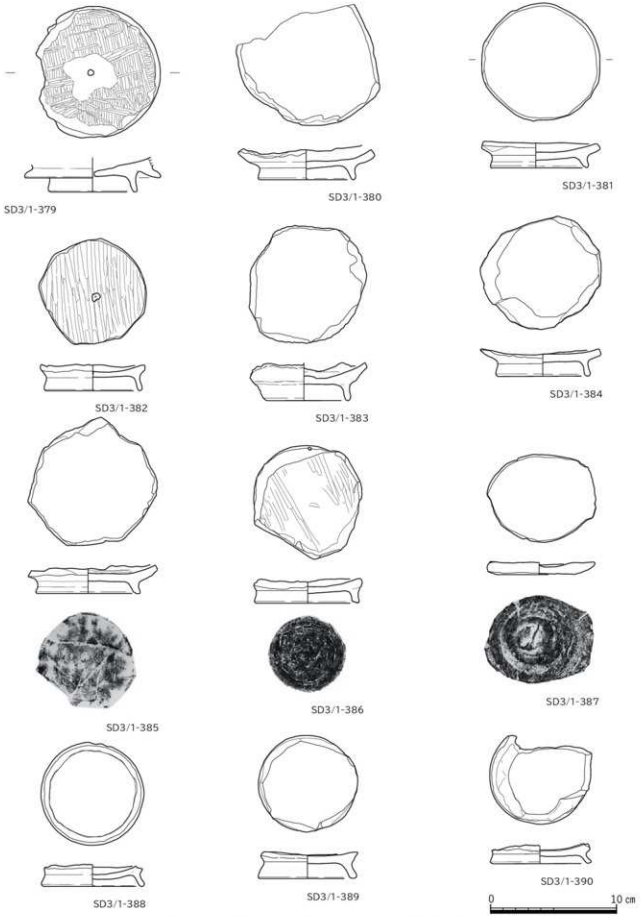


図 169　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（18）

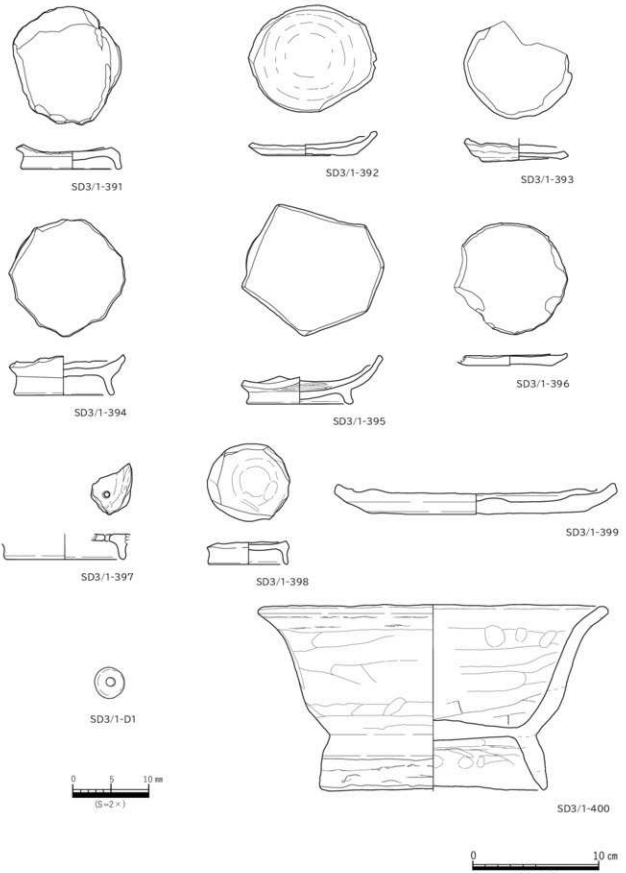


図 170　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（19）

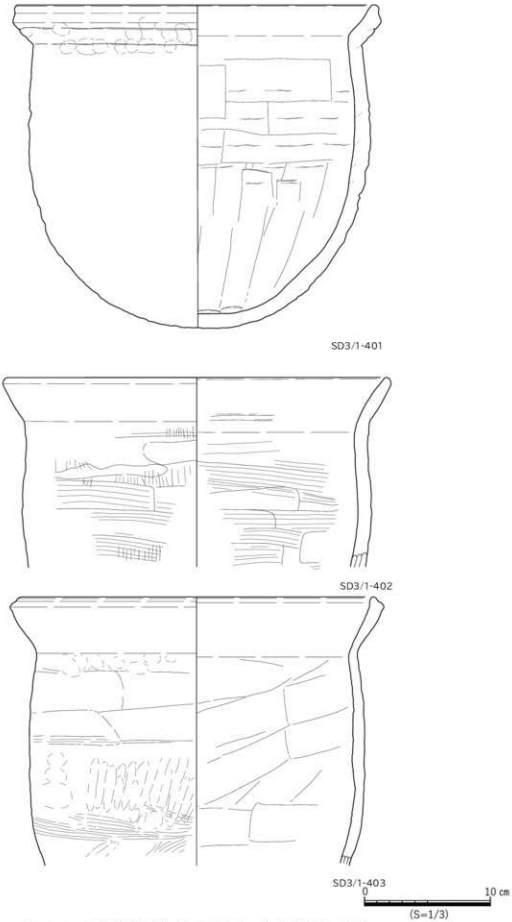
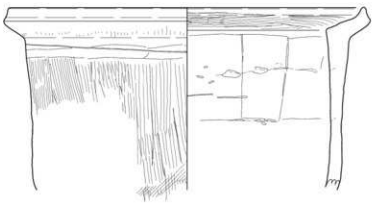
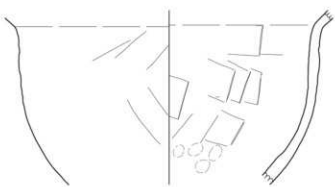


図 171　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（20）

SD3/1-404

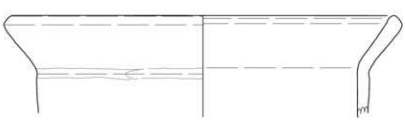


SD3/1-405

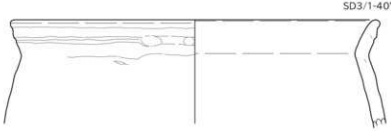


SD3/1-406

0 10 cm
(S=1/3)



SD3/1-407



SD3/1-408

図 172　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（21）

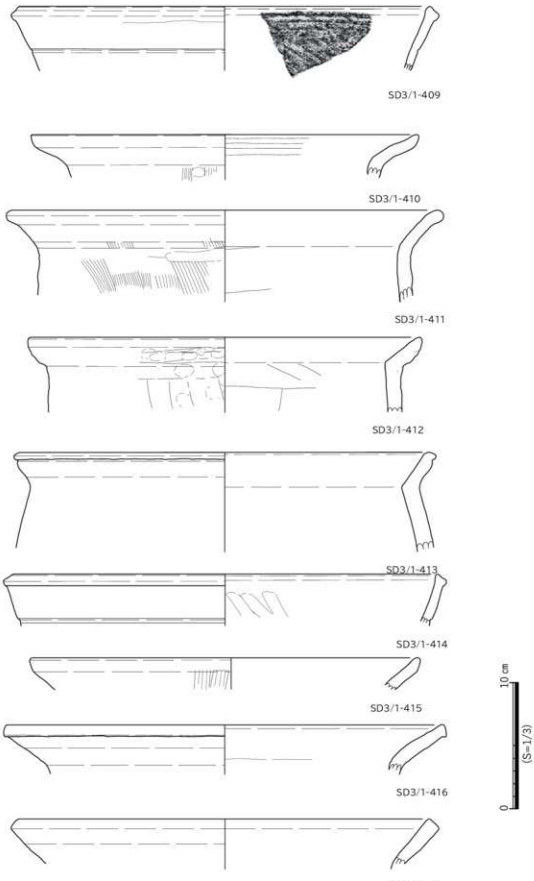


図 173　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（22）

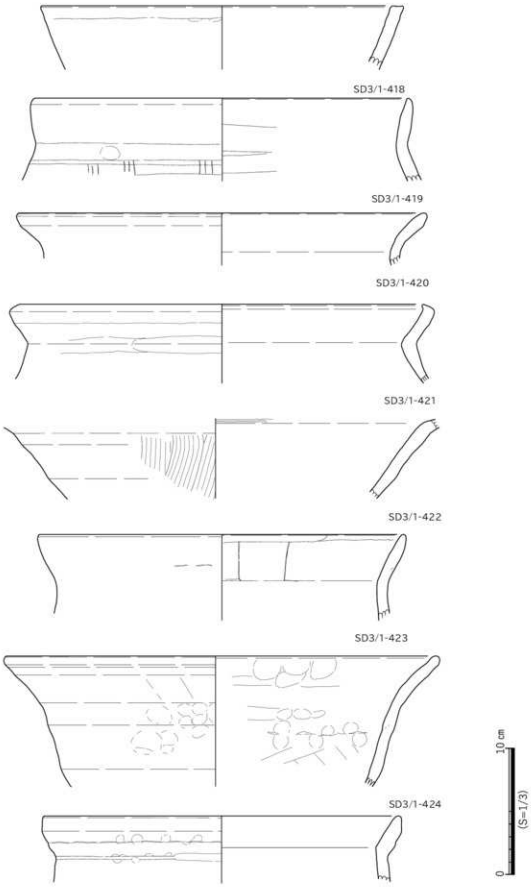


図 174　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（23）

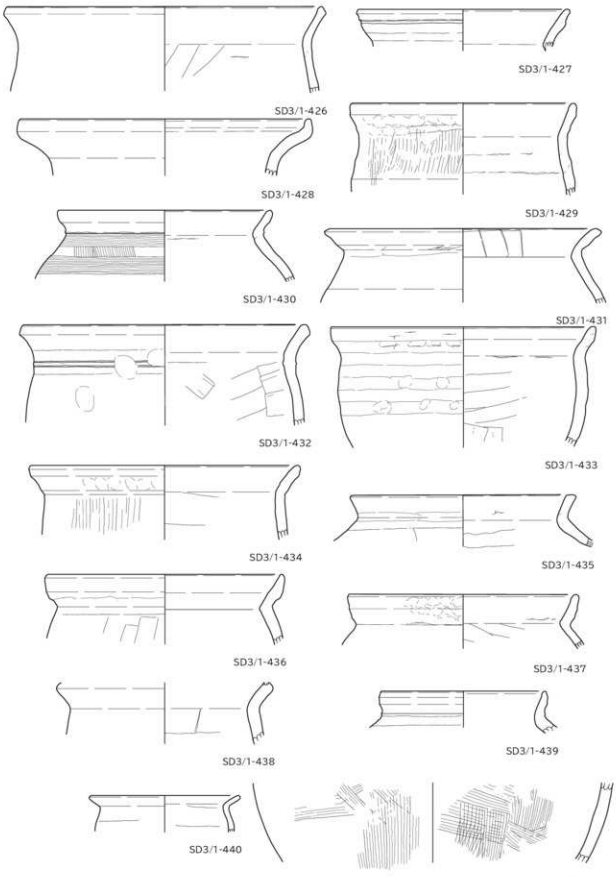


図 175　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（24）

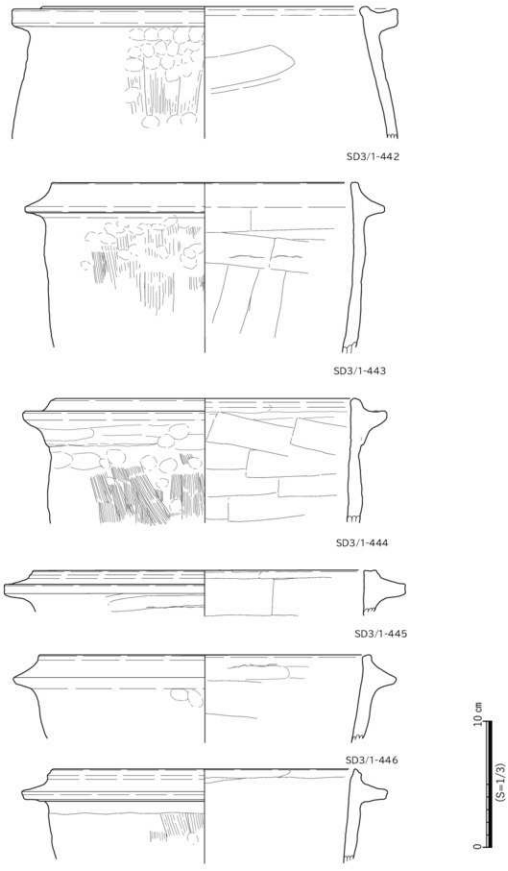


図 176　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（25）

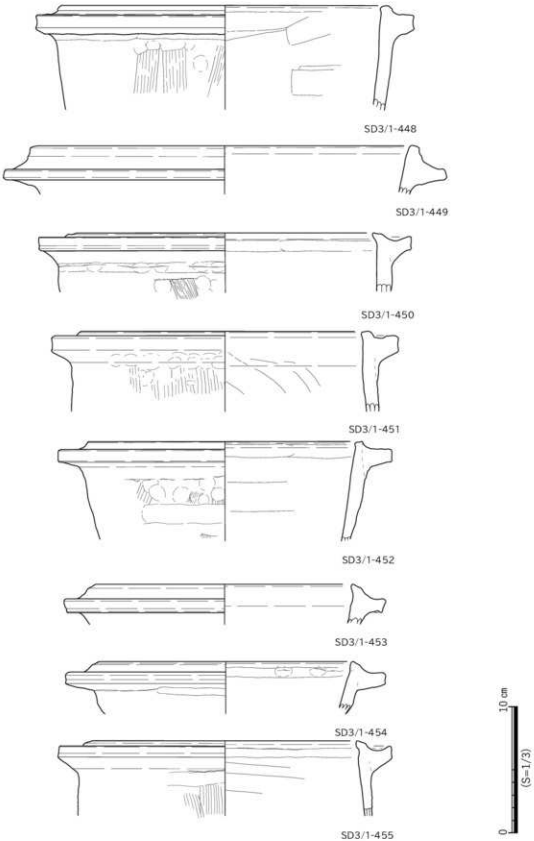


図 177　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（26）

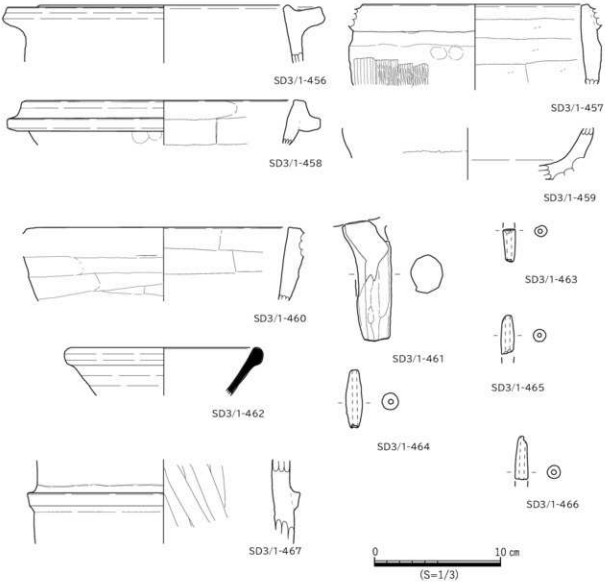


図 178　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（27）

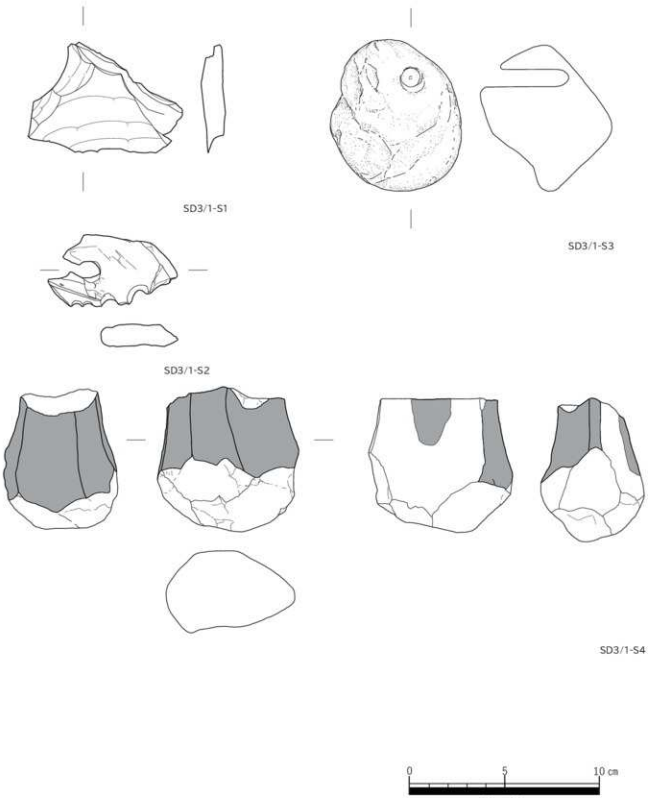


図 179　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（28）

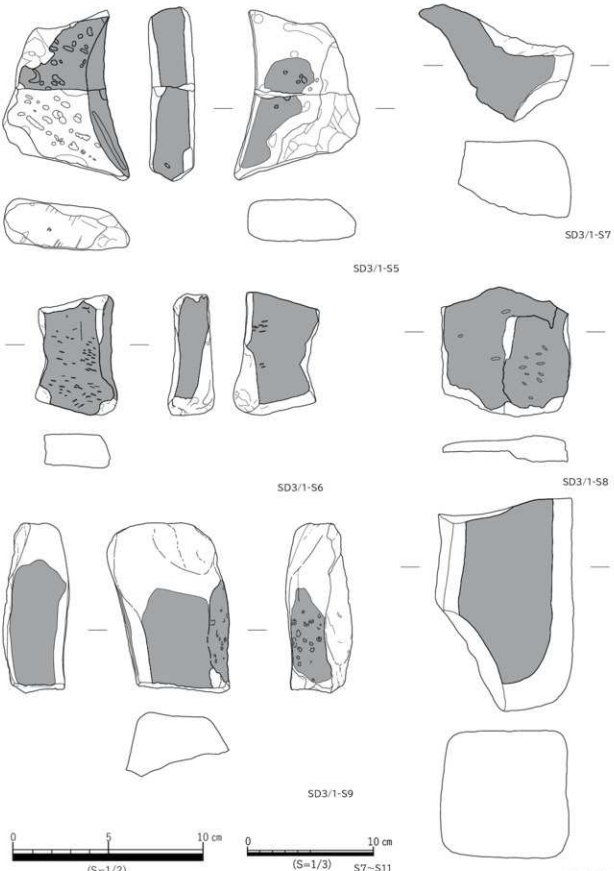


図 180　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（29）

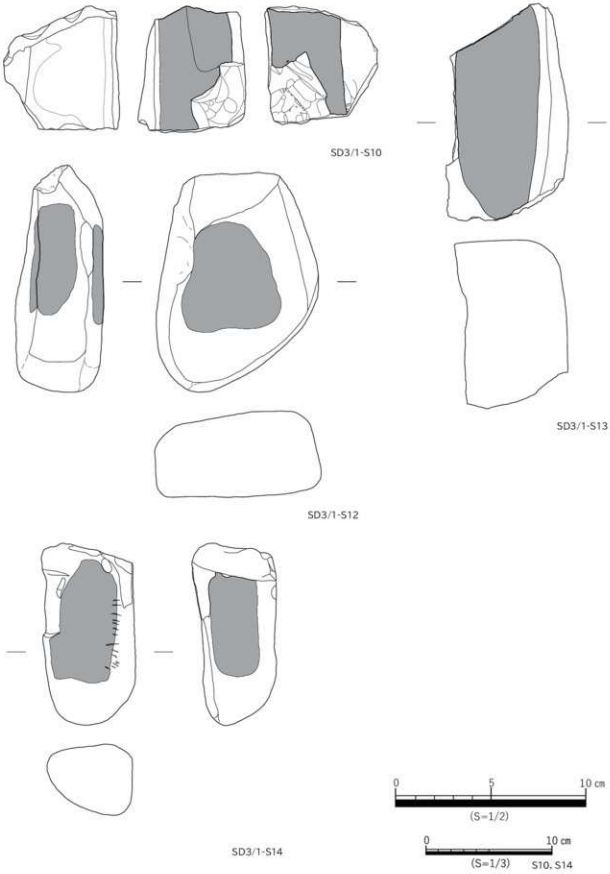


図 181　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（30）

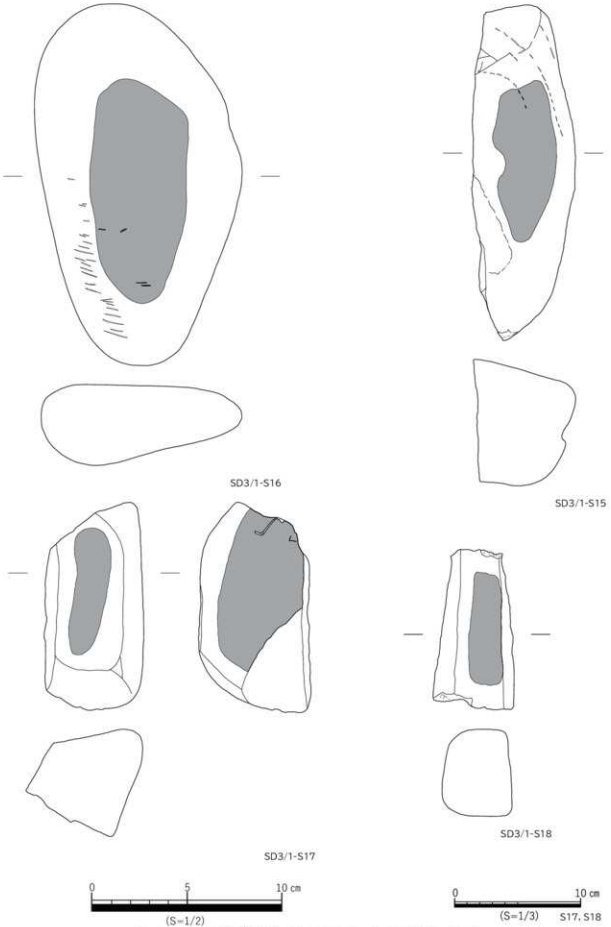


図 182　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（31）

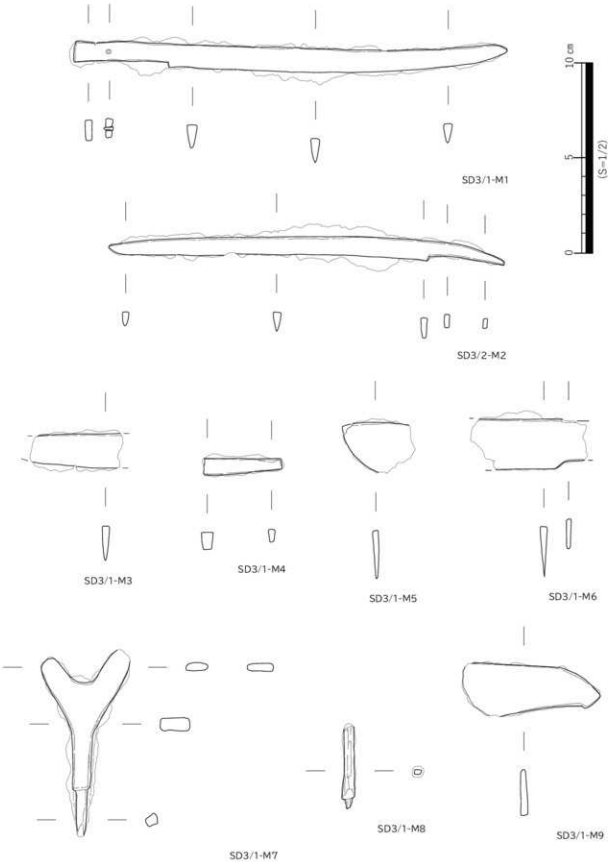


図 183　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（32）

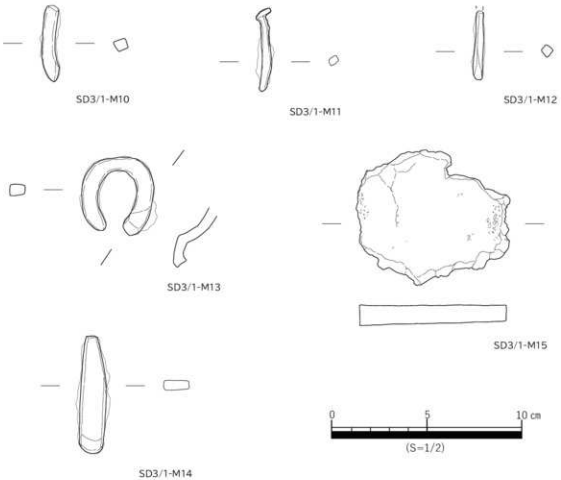


図 184　1 号溝状遺構（SD3001）出土遺物図（33）

表 26　1 号溝状遺構出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	軟質	密度 焼成	胎土組成	色調		調整	備考・実測番号
SD3/1-1	SD3/001	須恵器	杯身	高：(2.8) 口：(12.6)・底 (6.0)	0.2～2.5	やや軟 不良	石・長・チ	外：灰白 (2.5YR/2) 内：灰白 (2.5YR/2)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ	4983
SD3/1-2	SD3/001	須恵器	杯身	口：(11.2) 鞆：(13.8)	0.1～0.3	精良	石・長	外：灰 (N6/0) 内：灰 (5PB6/1)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ	4980
SD3/1-3	SD3/001	須恵器	鉢	口：(16.8)	0.5～4.0	軟 不良	石・長・泥	外：灰白 (2.5YR/1) 内：灰白 (2.5YR/1)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ→ユビオサエ／内：回転ナデ	5034
SD3/1-4	SD3/001	須恵器	鉢	口：15.4	0.5～2.0	やや軟 不良	石・長・赤	外：灰 (5Y/5) 内：灰 (5Y/6)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ（かき目？）・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ	外面剥落著しい。5062
SD3/1-5	SD3/001	白磁	碗	口：(17.0)	0.1	精緻		外：黄 (8YR/8/3/35) 内：黄 (8YR/8/3/35)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ	内面脆弱。5033
SD3/1-6	SD3/001	瓦器	皿	口：(9.2)	0.1～0.5	精良	長	外：灰 (N4/0) 内：灰 (N4/0)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：ユビオサエ／内：ユビオサエ・底片：ユビオサエ／内：回転ナデ	5106
SD3/1-7	SD3/001	須恵器	鉢	口：(21.6)	0.1～1.5	精良	石・長・泥	外：灰 (N6/0) 内：灰白 (2.5YZ/1)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ→ユビオサエ→ユビナデ／内：ヘラミガキ・別下片：回転ナデ→ユビオサエ→ユビナデ／内：ヘラミガキ	5060
SD3/1-8	SD3/001	瓦器	鉢	口：(14.1)	0.1～1.0	精良	長	外：暗灰 (N3/0) 内：灰 (5Y4/1)		口外：回転ナデ→ユビオサエ／内：ミガキ・別下片：回転ナデ→ユビオサエ／内：ミガキ	5107
SD3/1-9	SD3/001	瓦器	鉢	底 3.45	0.1～1	精やや不	石・長・赤	外：灰 (5Y5/1) 暗灰 (N3/0) 内：灰 (N6/0)		底外：ユビオサエ→貼付高台／内：ユビオサエ	5070
SD3/1-10	SD3/001	須恵器	平瓶	口：(6.2) 鞆：(9.8)	0.1～0.5	良 良	石・長・黒	外：灰 (N6/0) 内：灰白 (2.5YZ/1)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別外：回転ナデ／内：回転ナデ	5118
SD3/1-11	SD3/001	白磁	壺	鞆：(8.0)	0.1～1.0	精良		外：黄緑 (10YG2/5) 内：黄緑 (10YG2/5)			5084
SD3/1-12	SD3/001	須恵器	壺	口：(16.95)	0.1～2.5	精やや不	石・長・赤・泥	外：灰白 (2.5YR/2) 内：灰 (N2/1)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別外：回転ナデ	5081
SD3/1-13	SD3/001	須恵器	壺	口：(15.2	0.1	精良	石・長	外：灰黄 (2.5Y7/2) 内：灰 (N5/0)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別外：回転ナデ／内：回転ナデ	4977
SD3/1-14	SD3/001	須恵器	平瓶	鞆：(13.9)	0.1～3.0	精良	石・長・泥	外：明黄灰 (5PB7/1) 内：青灰 (5PB6/1)		別土片：回転→ラクズリ→回転→ヘラナデ 内：回転ナデ・別下片：回転→ラクズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り。5098
SD3/1-15	SD3/001	須恵器	甕	口：(24.5) 鞆：(2.8)	0.1～0.5	精良	石・長・泥	外：灰白 (N7/0) 内：褐灰 (10YR6/1)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別外：ヘラ状工具オサエ→回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：格子タタキ／内：青海波文→板状工具オサエ	4951
SD3/1-16	SD3/001	須恵器	壺	鞆：(20.1)・底 (12.0)	0.1～0.5	良 やや不	石・長・チ・赤	外：灰 (N5/0) 内：灰 (N6/0)		別土片：格子タタキ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ・底外：ミガキ／内：ユビナデ／内：ユビオサエ・ユビナデ	5000
SD3/1-18	SD3/001	土師器	高台付皿	高：(2.3) 口：(8.8)・底 (5.0)	0.2～3.0	やや軟 やや不	砂・石・長・チ・赤	外：橙 (5YR6/8) 内：橙 (5YR6/8)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付／内：回転ナデ	5113
SD3/1-19	SD3/001	土師器	高台付皿	高：2.05 口：(9.85)・底 (6.6)	0.1～6.5	精不良	砂・石・長・赤	外：橙 (5YR6/8) 内：橙 (5YR6/8)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4970
SD3/1-20	SD3/001	土師器	皿	高：(2.5) 口：(14.0)・底 (9.0)	0.1～1.5	精並	石・赤	外：浅黄橙 (10YR8/4) 内：浅黄橙 (10YR8/4)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ→ユビオサエ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	5036
SD3/1-21	SD3/001	土師器	皿	口：(11.8)	0.1～2.0	良 やや不	石・長・雲・赤	外：橙 (5YR6/6) 内：橙 (5YR6/8)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ	5013
SD3/1-22	SD3/001	土師器	杯	口：(10.7)・底 (5.35)	0.1～1.5	良 良	石・長・チ・赤	外：浅黄橙 (7.5YR8/6) 内：橙 (5YR6/8)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	5043
SD3/1-23	SD3/001	土師器	皿	高：(2.6) 口：(11.6)・底 (10.2)	0.1～1.5	精不良	石・長・雲・赤	外：橙 (5YR6/8) 内：明赤褐 (5YR5/6)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：ユビナデ→回転ナデ	5053
SD3/1-24	SD3/001	土師器	皿	高：1.3 口：(9.8)・底 (6.6)	0.1～3.5	やや軟 並	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい橙 (7.5YR7/4) 内：橙 (7.5YR7/6)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	5005
SD3/1-25	SD3/001	土師器	皿	高：(1.7) 口：(10.6)・底 (7.8)	0.5～6.0	良 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい橙 (7.5YR7/3) 内：にぶい橙 (7.5YR7/4)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：ユビオサエ？	4994
SD3/1-26	SD3/001	土師器	皿	高：(1.0) 口：(9.6)・底 (7.2)	～1.5	精不良	長・赤	外：橙 (7.5YR6/8) 内：橙 (5YR6/8)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	3039
SD3/1-27	SD3/001	土師器	皿	高：1.0 口：9.85・底 6.6	0.1～4.5	精やや不	砂・石・長・チ・赤・泥	外：橙 (7.5YR6/6) 内：橙 (7.5YR6/6)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4972
SD3/1-28	SD3/001	土師器	皿	高：1.15 口：(10.4)・底 (5.4)	0.1～2.5	やや軟 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙 (10YR7/2/3) 内：橙 (7.5YR6/6)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ→ユビオサエ	5061
SD3/1-29	SD3/001	土師器	皿	高：(1.1) 口：(10.45)・底 (8.4)	0.1～1.0	良 不良	砂・石・長・雲・赤	外：紅黄褐 (10YR5/2) 内：にぶい褐 (7.5YR5/4)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	外面被熱赤変？打明話？。5110
SD3/1-30	SD3/001	土師器	皿	高：1.0 口：10.0・底 8.2	0.1～3.0	良 良	石・長・金雲・赤	外：黄橙 (10YR8/6) 内：明黄褐 (10YR7/6)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラ記号／内：回転ナデ	5077
SD3/1-31	SD3/001	土師器	皿	高：(1.75) 口：(11.0)・底 (8.4)	0.1～6.5	やや精 やや不	砂・石・長・雲・角・赤	外：橙 (5YR6/8) 内：橙 (2.5YR6/8)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4944
SD3/1-32	SD3/001	土師器	皿	高：1.55 口：9.7・底 7.2	0.1～4.5	やや精 やや不	砂・石・長・チ・雲	外：橙 (7.5YR7/6) 内：にぶい橙 (7.5YR7/4)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	5138
SD3/1-33	SD3/001	土師器	皿	高：(1.2) 口：(9.7)・底 (7.5)	0.1～8.0	良 良	石・長・雲・赤	外：黄橙 (7.5YR8/8) 内：明赤褐 (5YR5/8)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	外面底部熱痕あり。4971
SD3/1-34	SD3/001	土師器	皿	高：1.65 口：(8.3)・底 (5.0)	0.1～3.1	良 やや不	石・長・雲・赤	外：橙 (7.5YR6/8) 内：橙 (5YR6/8)		口外：回転ナデ／内：回転ナデ・別土片：回転ナデ／内：回転ナデ・別下片：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4993

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/1-35	SD3/001	土師器	皿	口:(12) 口:(7.1)・底(6.6)	0.1～2.0	良 やや不	石・長・赤・泥	外:橙(5YR7/8) 内:橙(5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底内:ヘラナデ(?)/内:回転ナデ	4978
SD3/1-36	SD3/001	土師器	皿	高:(1.35) 口:(9.1)・底(5.0)	0.1～2.0	良 良	結・石・長・雲・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙黒褐(5YR5/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	4946
SD3/1-37	SD3/001	土師器	杯転用皿	底7.6	0.1～4	やや緻 ややか	長・赤	外:明赤褐(5YR5/6) 内:橙(5YR6/8)	口外:打ち欠き/内:打ち欠き・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	外面端部煤付着、被熱赤変、5095
SD3/1-38	SD3/001	土師器	高台付椀転用皿	底:(6.4)	0.2～3.0	良 やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:橙(5YR6/6)	口外:打ち欠き/内:打ち欠き・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ	体部打ち欠き、5008
SD3/1-39	SD3/001	土師器	杯	高:3.7 口:12.2・底:7.4	0.1～6.0	やや粗 並	結・石・長・チ・雲・赤	外:橙(5YR6/6) 内:橙(5YR7/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	4984
SD3/1-40	SD3/001	土師器	杯	高:3.2 口:12.0・底:7.1	0.1～2.5	良 やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外:にぶい橙(5YR6/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	内面体部にもみ殻痕あり、5031
SD3/1-41	SD3/001	土師器	杯	高:(3.05) 口:(11.96)・底(6.7)	0.2～5.0	やや緻 不良	石・長・雲・赤	外:浅黄橙(7.5YR8/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	5140
SD3/1-42	SD3/001	土師器	杯	高:4.1 口:(12.4)・底:6.0	0.1～4.0	やや緻 不良	石・長・チ・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	5037
SD3/1-43	SD3/001	土師器	杯	高:3.0 口:12.7・底:8.3	0.1～4.5	やや緻 並	結・石・長・チ・雲・赤	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	5099
SD3/1-44	SD3/001	土師器	皿	高:(2.0) 口:(16.6)・底(7.2)	0.1～5.0	やや緻 並	石・長・チ・雲・赤	外:橙(2.5YR6/8) 内:橙(2.5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	5038
SD3/1-45	SD3/001	土師器	杯	高:(3.15) 口:(13.4)・底(9.6)	0.1～4.0	やや緻 良	石・長・雲・赤	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:褐灰(10YR4/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:ユビナデ	4979
SD3/1-46	SD3/001	土師器	杯	底:(6.95)	0.1～3.5	緻 やや不	石・長・雲・赤・泥	外:橙(7.5YR6/6) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	底外:回転ヘラ切り/内:ユビナデ	外面オサエによるヒビ割ってあり、4991
SD3/1-47	SD3/001	土師器	杯	高:(1.3)・底(7.0)	0.1～9.5	良 やや不	石・長・チ・雲・赤	外:明赤褐(5YR5/6) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	側下:外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	5072
SD3/1-48	SD3/001	土師器	杯	高:2.9 口:11.96・底:7.4	0.1～6.0	良 やや不	結・石・長・チ・赤	外:橙(2.5YR6/8) 内:橙(2.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:ユビナデ	外面墨(漆?)付着、4947
SD3/1-49	SD3/001	土師器	杯	高:(4.1) 口:(13.0)・底:(7.4)	0.5～4.0	やや緻 やや不	結・石・長・雲・赤	外:橙(2.5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:ヘラナデ/内:回転ナデ・ユビナデ→ユビナデオエ	5004
SD3/1-50	SD3/001	土師器	杯	高:3.1 口:(13.0)・底:(8.3)	0.1～5.0	やや粗 やや不	結・長・雲・赤	外:橙(2.5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	4965
SD3/1-51	SD3/001	土師器	杯	高:(3.9) 口:(11.4)・底(7.0)	0.5～5.0	緻 並	石・長・雲・赤	外:橙(2.5YR6/6) 内:橙(5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:ユビオサエ	外面墨(漆?)付着、(全面に)、5146
SD3/1-52	SD3/001	土師器	杯	高:3.1 口:(12.15)・底(6.2)	0.1～2.0	やや緻 やや不	石・長・雲・赤	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR7/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	5126
SD3/1-53	SD3/001	土師器	杯	口:(10.7)・底(7.9)	0.1～2.0	粗 やや不	結・石・長・雲・赤	外:橙(7.5YR7/6) 内:浅黄橙(10YR8/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	4976
SD3/1-54	SD3/001	土師器	杯	高:3.6 口:11.0・底:(7.1)	0.1～2.0	緻 やや不	石・長・雲	外:赤褐(10R6/6) 内:赤褐(10R6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:ヘラナデ/内:回転ナデ	内外墨赤色顔料塗布?、被熱赤変?、5143
SD3/1-55	SD3/001	土師器	杯	高:3.6 口:14.0・底:(6.0)	0.1～3.5	良 不良	石・長・雲・赤	外:橙(2.5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:ヘラナデ/内:回転ナデ	5096
SD3/1-56	SD3/001	土師器	杯	高:3.5 口:(12.2)・底:(7.0)	0.1～6.0	やや緻 ややか	長・チ・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	5105
SD3/1-57	SD3/001	土師器	杯	高:(2.9) 口:(12.6)・底:(10.0)	0.1～3.0	良 やや不	石・長・雲・赤	外:橙(2.5YR6/6) 内:にぶい橙(7.5YR5/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:ユビナデ	4992
SD3/1-58	SD3/001	土師器	杯	高:2.4 口:(10.9)・底:(6.4)	0.1～1.5	良 不良	結・石・長・雲	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:磨滅/内:回転ナデ	5142
SD3/1-59	SD3/001	土師器	杯	高:3.15 口:(13.05)・底(8.7)	0.1～2.0	緻 やや不	石・長・チ・雲・赤	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	被熱赤変?、4995
SD3/1-60	SD3/001	土師器	杯	口:(11.2)	0.1～7.0	良 不良	結・石・長・赤	外:黄橙(7.5YR7/8) 内:橙(7.5YR7/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	5097
SD3/1-61	SD3/001	土師器	杯	高:2.9 口:(15.95)・底(12.1)	0.1～6.0	緻 不良	石・長・雲・角・泥・赤	外:明赤褐(2.5YR5/8) 内:明赤褐(2.5YR5/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	5087
SD3/1-62	SD3/001	土師器	杯	高:(2.6) 口:(11.5)・底(8.7)	0.1～2.0	緻 不良	石・長・雲・赤	外:明赤褐(5YR5/8) 内:橙(5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	5085
SD3/1-63	SD3/001	土師器	皿	底:(5.8)	0.1～2.0	良 不良	石・長・チ	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR6/6)	側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	5011
SD3/1-64	SD3/001	土師器	杯	口:(16.6)	～5.0	良 不良	石・長・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ	5086
SD3/1-65	SD3/001	土師器	高台付椀	高:4.2 口:13.0・底:(6.6)	0.1～1.1	緻 不良	石・長・雲・赤	外:橙(5YR7/8) 内:橙(2.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ	5632

番号	遺構	種別	器種	法量	粘土	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/1-66	SD3/001	土師器	高台付椀	高：(4.7) 口：(13.2)・底 (7.4)	0.5～3.0	やや精 やや良	石・長・雲・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：橙 (7.5YR7/6)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→(粘土補強痕)→ユビナデ／内：回転ナデ→ユビオサエ	4949
SD3/1-67	SD3/001	土師器	高台付椀	高：(5.1) 口：(14.6)・底 (8.8)	0.1～1.0	やや精 やや不	長・雲・赤	外：橙 (5YR7/6) 内：灰 (N1.5/0)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→貼付高台→回転ナデ／内：ヘラミガキ	内黒,外面赤色顔料塗布,4966
SD3/1-68	SD3/001	土師器	高台付椀	高：(6.4) 口：(14.0)・底 (6.5)	0.2～2.5	やや精 不良	石・長・雲・赤	外：橙 (5YR6/6) オリーブ黒 (5Y3/1) 内：オリーブ黒 (5Y3/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、4998
SD3/1-69	SD3/001	土師器	高台付椀	高:4.85 口:13.8・底 8.4					口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4968
SD3/1-70		土師器	高台付椀	高:5.2 口：(16.3)・底 9.4	0.1～4.8	精・良	長・チ・雲	外：橙 (7.5YR7/6) 内：橙 (7.5YR2/1)	口外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底：外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→指ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、4967
SD3/1-71	SD3/001	土師器	椀	口：(14.0)	0.1～2.5	精・良	砂・石・長・チ・赤	外：橙 (5YR2/8) 内：黒 (10YR2/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底：外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ユビオサエ→回転ナデ／内：回転ナデ→ユビオサエ	内黒、4948
SD3/1-72	SD3/001	瓦器	椀	口：(17.1)	0.1～2.5	精・やや不	石・長・赤	外：灰 (N50) 灰白 (5Y8/1) 内：灰 (N50) 灰白 (5Y8/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底：外：回転ナデ／内：回転ナデ・底下外：ユビオサエ／内：回転ナデ	4956
SD3/1-73	SD3/001	土師器	杯	口：(11.2)	～2.0	良・やや不	砂・石・長・雲・赤	外：橙 (5YR6/6) 内：橙 (5YR6/6)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底：外：回転ナデ／内：回転ナデ・底下外：回転ナデ／内：回転ナデ	5136
SD3/1-74	SD3/001	土師器	椀	口：(15.2)	0.5～2.0	やや精 やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙 (10YR7/4) 内：灰黄褐 (10YR5/2)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底：外：回転ナデ／内：ヘラミガキ	5009
SD3/1-75	SD3/001	黒色土器	椀	口:16.0					口外：回転ナデ／内：回転ナデ、ヘラミガキ・底：外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	4996
SD3/1-76	SD3/001	土師器			0.1～1.5	精・良	石・長・雲	外：褐灰 (10YR4/1) 内：黒褐 (2.5YR3/1)	口外：ヘラミガキ／内：ヘラミガキ・底外：ヘラミガキ／内：ヘラミガキ	4999
SD3/1-77	SD3/001	土師器	高台付椀	底台 (8.0)	0.1～1.1	良・良	砂・石・長・雲・赤	外：橙 (2.5YR7/8) 内：橙 (7.5YR2/1)	口外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	4997
SD3/1-78	SD3/001	土師器	高台付椀	底 8.6	0.1～3.0	精・やや不	雲・赤	外：浅黄橙 (7.5YR8/6) 内：黄橙 (10YR8/6)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底：外：回転ナデ／内：回転ナデ	4950
SD3/1-79	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (8.0)	0.5～2.0	精・良	砂・石・長・雲・角・赤	外：橙 (7.5YR7/6) 内：黒褐 (10YR3/1)	口外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ、ユビナデ	転用痕の可能性あり。
SD3/1-80	SD3/001	土師器	高台付椀	高：(2.6)・底(9.2)	0.1～5.0	精・やや不	石・長・雲・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：明黄褐 (10YR7/6)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底：外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4982
SD3/1-81	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (7.0)	0.1～3.5	精・やや不	石・長・雲・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：灰黄褐 (10YR6/2)	底外：回転ナデ→切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	転用痕の可能性あり。5052
SD3/1-82	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (6.6)	0.2～3.5	やや精 やや不	石・長・チ・雲・赤	外：灰黄褐 (10YR6/2) 内：褐灰 (7.5YR4/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（螺旋）・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（螺旋）	転用痕の可能性あり。内面煤付着、外面被熱？赤変。5115
SD3/1-83	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (6.2)	0.1～6.0	精・やや不	石・長・チ・雲・赤	外：橙 (5YR7/6) 内：灰 (5Y5/1)	底外：回転ナデ→切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	転用痕の可能性あり。糊として付ミい粉土。6981
SD3/1-84	SD3/001	土師器	高台付椀		0.1～3.0	良・やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい橙 (5YR6/4) 内：褐灰 (10YR4/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：ヘラミガキ→切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	4988
SD3/1-85	SD3/001	土師器	杯	口：(12.3)	0.1～6.0	精・やや不	石・長・チ・赤	外：にぶい橙 (5YR6/4) 内：にぶい黄橙 (10YR7/2)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ／内：回転ナデ・底下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4989
SD3/1-86	SD3/001	土師器	高台付椀	底：(8.2)・底 (12.0)	0.1～2.0	精・不良	石・長・雲・赤	外：浅黄橙 (10YR8/4) 内：浅黄橙 (10YR8/4)	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	5148
SD3/1-87	SD3/001	土師器	甕	口:23.9 胴:26.3 底:29.8	0.1～8.5	やや精 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：橙 (2.5YR6/6) 内：橙 (7.5YR6/6)	口外：ユビオサエ→ユビオサエ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビオサエ、イタナデ→ハケ（9条/2cm）／内：ユビオサエ→イタナデ・底外：イタナデ／内：ユビオサエ	内面底部オコゲ付着。外面底部被熱跡,4971
SD3/1-88	SD3/001	土師器	鍋	口：(26.4) 胴：(30.5)	1.0～9.0	粗・良	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい橙 (7.5YR7/4) 内：にぶい橙 (7.5YR7/4)	口外：ヨコナデ、イタナデ／内：ヨコナデ／イタナデ・胴上外：ユビオサエ→ヨコナデ、イタナデ／内：イタナデ	外面煤付着。4955
SD3/1-90	SD3/001	土師器	鍋	口：(33.5)	0.1～8.0	粗・やや不	砂・石・長・赤	外：明赤褐 (5YR5/6) 内：橙 (5YR6/6)	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・胴外：イタナデ／内：イタナデ	4985
SD3/1-91	SD3/001	土師器	甕	口：(41.0)	0.1～4.0	粗・やや不	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：黄橙 (7.5YR7/8)	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：イタナデ／内：イタナデ	5057
SD3/1-92	SD3/001	土師器	壺	口：(38.0)	0.1～2.5	良・やや不	石・長・雲・赤	外：褐灰 (7.5YR4/1) 内：橙 (7.5YR4/4)	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	5050
SD3/1-93	SD3/001	土師器	鍋	口：(31.0)	0.1～5.0	粗・良	砂・石・チ・赤	外：橙 (5YR6/6) 内：橙 (7.5YR6/6)	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	5071
SD3/1-94	SD3/001	土師器	甕	口：(36.9) 胴：(24.5)	0.1～6.0	やや粗 不良	石・長・チ・雲・赤	外：橙 (2.5YR6/6) 内：橙 (7.5YR6/6)	口外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ	4974
SD3/1-95	SD3/001	土師器	甕	口：(6.5) 口：(26.0) 胴：(23.0)	0.1～4.0	粗・やや不	砂・石・長・チ・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：黄橙 (7.5YR7/8)	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外上下段ナデ・胴下外：ユビオサエ／内：イタナデ	5097
SD3/1-96	SD3/001	土師器	甕	口：31.6	0.1～1.4	やや粗 良	砂・石・長・チ・赤	外：明褐 (7.5YR5/6) 内：橙 (7.5YR6/6)	口外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビオサエ→イタナデ／内：イタナデ	5833
SD3/1-97	SD3/001	縄文土師器	深鉢	口:26.7	1.0～5.0	良・やや不	砂・石・長・雲・赤		口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	5093
SD3/1-98	SD3/001	土師器	甕	口:20.8 胴:19.0	0.1～1.6	やや粗 良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙 (7.5YR7/4) 内：橙 (7.5YR7/6)	口外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビオサエ→ユビナデ／内：ユビオサエ→イタナデ	5085口縁→無頓煤付着。4975
SD3/1-99	SD3/001	土師器	甕	口：(22.9) 胴：(21.5)	7.0	粗・やや不	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙 (7.5YR4/3) 内：にぶい橙 (7.5YR5/4)	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・胴外：イタナデ／内：ユビナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	5044

番号	遺構	種別	器種	法量	軟任	密度成或	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/1-100	SD3/001	土師器	甕	口：(17.2)	1.0～10.0	粗	結・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ハケ目（7条1cm）→ヨコナデ・側面：ユビナデ／内：イタナデ	5012
SD3/1-101	SD3/001	土師器	甕	高：(2.4) 口：(23.0)	0.1～3.0	良	石・長・雲・角	外：明褐（7.5YR5/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ	内外面煤付着、被熱赤変、5051
SD3/1-102	SD3/001	土師器	甕	口：(19.9)	0.1～5.0	良	石・長・チャ・角	外：明赤褐（5YR5/6） 内：にぶい褐（2.5YR5/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ユビオサエ→イタナデ／内：ヘラケズリ・側上外：ユビオサエ→イタナデ／内：ヘラケズリ	5069
SD3/1-103	SD3/001	土師器	甕	口：(16.0)	0.5～3.0	良	石・長・雲・金雲	外：明黄褐（10YR5/2） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ヨコナデ／内：ユビナデ、ユビオサエ	煤入為？、5073
SD3/1-104	SD3/001	土師器	羽釜	高：3.1 口：26.2	0.1～3.5	粗	石・長・チャ・角・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	5108
SD3/1-105	SD3/001	土師器	羽釜	口：(28.0)	0.5～3.0	粗	結・石・長・雲・赤	外：灰黄褐（10YR6/2） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ヨコナデ（粘土輪合痕）／内：ユビオサエ→イタナデ・側上外：イタナデ／内：イタナデ	5080
SD3/1-106	SD3/001	土師器	鍋	口：(28.0)	0.1～1.0	良	石・長・チャ・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：灰黄褐（10YR5/2）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側上外：イタナデ／内：イタナデ	5002
SD3/1-107	SD3/001	土師器	羽釜	口：(24.4) 胴：(29.8)	0.1～4.0	やや粗やや良	石・長・チャ・金雲・赤	外：にぶい橙（5YR6/3） 内：にぶい橙（2.5YR5/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側上外：ユビオサエ→ヘラケズリ（6条1cm）／内：イタナデ	5141
SD3/1-108	SD3/001	土師器	羽釜	口：(21.85) 胴：(24.2) 脚：(27.1)	0.1～2.5	粗	やや粗やや良	石・長・チャ・雲・赤・泥	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：イタナデ／内：イタナデ／脚上外：イタナデ／内：イタナデ	口縁外面煤付着、4986
SD3/1-109	SD3/001	土師器	羽釜	高：(2.5) 口：(22.6)	0.1～3.0	粗	石・長・雲・赤	外：灰黄褐（10YR4/2） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：イタナデ／内：イタナデ	外面煤付着、ツバ下面被熱剥落？、4967
SD3/1-110	SD3/001	土師器	羽釜	口：(21.0)	0.1～4.5	粗	石・長・チャ・雲・赤・泥	外：褐灰（7.5YR4/2） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ	5007
SD3/1-111	SD3/001	土師器	羽釜	高：(5.6) 口：(19.5) 脚：(25.2)	0.1～5.0	やや粗やや良	石・長・チャ・角・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：褐灰（10YR4/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：ユビナデ／内：イタナデ	5010
SD3/1-112	SD3/001	土師器	羽釜	口：(19.0) 脚：(21.4)	0.1～3.0	やや粗やや良	石・長・チャ・雲・赤	外：オリーブ黒（5YR3/6） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側上外：ユビナデ／内：イタナデ	5092
SD3/1-113	SD3/001	土師器	羽釜	口：(22.75)	0.1～4.0	粗	石・長・雲・金雲・赤	外：赤褐（5YR4/6） 内：明褐灰（7.5YR7/1）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側上外：イタナデ／内：イタナデ	5109
SD3/1-114	SD3/001	土師器	こね鉢	口：23.9	0.1～3.0	粗	結・石・長・砂	外：明赤褐（5YR5/6） 内：明褐（7.5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	5049
SD3/1-115	SD3/001	土師器	鉢	口：(28.4)	0.1～5.5	粗	結・石・長・チャ・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・側外：ヨコナデ／内：ユビナデ	5119
SD3/1-116	SD3/001	瓦器	普通円筒	胴：(31.7)	0.1～4.0	良	やや不	石・長・チャ・角・泥	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/6）	脚上外：不明／内：不明	脚鋭ナデ？、5075
SD3/1-117	SD3/001	土師器（純文土器）	深鉢	底 7.4	0.1～4.0	やや粗やや良	結・石・長・砂		底外：ユビナデ／内：ユビナデ	4969
SD3/1-118	SD3/001	土師器	高坏	脚：2.4	～4.0	良	やや不	結・石・雲・赤	外：浅黄橙（7.5YR8/6） 内：橙（7.5YR7/6）	脚下外：ユビナデ／内：ユビナデ	5079
SD3/1-193	SD3/001	須恵器	杯蓋	高：4.6 口：(14.35)	0.1～2.0	粗	良	石・長	外：黄灰（5PB5/1） 内：黄灰（5PB6/1）	回転方向上から見て反時計回り。天井部内面アテ具痕あり。2992	
SD3/1-194	SD3/001	須恵器	杯蓋	口：(13.35)	0.1～1.5	粗	良	石・長	外：灰白（N7/0） 内：灰白（N7/0）		天井部外面自然釉付着、3271
SD3/1-195	SD3/001	須恵器	杯身	口：(12.0) 脚：(14.5)	0.1～1.5	粗	良	石・長・泥	外：灰白（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り。3304
SD3/1-196	SD3/001	須恵器	杯身	高：(3.4) 口：(15.0) ～底：(7.0)	～3.5	粗	良・長・角	外：黄灰（5PB6/1） 内：明黄灰（5PB7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ→回転ヘラケズリ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→ユビナデ、青海波文	回転方向下から見て反時計回り。口縁打ち欠き？、4176
SD3/1-197	SD3/001	緑釉陶器	転用坩	底 8.4	0.1～0.3	粗	長	外：灰白（） 内：灰白（）		4180
SD3/1-198	SD3/001	須恵器	杯	高：2.0 口：(11.4) ～底：(8.0)	0.1～5.0	良	石・長・チャ・赤	外：黄灰（2.5Y6/1） 内：明黄褐（10YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：静止ヘラ切り／内：回転ナデ	在地産土師器杯類土、遺元処理残？、内外黒処理、整写真。上師器杯を2次焼ふり？Or神酒徳遺ッフガとして転用？。深整付付着ます。焼成自体は不良（やや軟質）。胎土分析在地？、3219
SD3/1-199	SD3/001	須恵器	杯蓋	口：(9.0)	0.1～0.2	粗	良	石・長	外：灰（N4/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	3233
SD3/1-200	SD3/001	須恵器	短頸壺	脚：(7.0)	～1.5	粗	良	石・長・雲・赤	外：灰白（10Y7/2） 内：灰白（10Y7/2）	脚外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ	3290
SD3/1-201	SD3/001	須恵器	壺	脚：5.5	0.1～2.5	粗	良・長・泥	外：にぶい黄（2.5Y6/4） 内：灰白（2.5Y7/1）	脚外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ	外面自然釉付着、3225
SD3/1-202	SD3/001	須恵器	壺		0.1～3.0	粗	石・長・角・泥	外：灰（N6/1） 内：灰（N6/1）	脚下外：格子タタキ→カキ目（5条1cm）／内：青海波文	3618
SD3/1-203	SD3/001	須恵器	壺		0.1～1.5	粗	良・長・泥	外：灰（N5/0） 内：灰（N6/0）	脚下外：平行タタキ→ユビナデ／内：青海波文→ユビナデ	3291
SD3/1-204	SD3/001	須恵器	耳坏	高：(2.5) 口：(12.4) ～底：(8.6)	0.1～4.0	やや粗やや良	長・チャ・角	外：明褐（7.5YR5/6） 内：橙（7.5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	耳坏もしくは皿形、3292
SD3/1-205	SD3/001	須恵器	皿	高：1.0 口：10.0 ～底：8.2	0.1～3.0	良	石・長・金雲・赤	外：黄橙（10YR6/6） 内：明黄褐（10YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラ記号？／内：回転ナデ	内面ススは付着（灯明皿？）、3177
SD3/1-206	SD3/001	土師器	高台付皿	高：2.4 口：9.35 脚：9.65 脚：9.65	0.1～3.0	良	石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側外：回転ナデ・脚上外：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	内面ススやスキ状の被熱？痕、変色？。灯明皿？、3035
SD3/1-207	SD3/001	土師器	高台付皿	高：2.3 口：(9.3) ～底：6.4	0.1～2.0	良	石・長・雲・金雲・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：にぶい赤褐（5YR5/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ→高台貼付／内：ユビオサエ→回転ナデ	外面高台貼付時のユビナデによる凡痕あり。底部中央にロクロ固定時の痕跡？あり。3023
SD3/1-208	SD3/001	土師器	高台付皿	高：2.0 口：(10.2) ～底：(5.9)	0.1～4.5	良	結・石・長・チャ・雲・角	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	3066

番号	遺構	種別	器種	法量	粘度	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/1-209	SD3/001	土師器	高台付皿	高:1.9 口:10.2-底:6.8	0.1～8.0	良不良	石・長・チ・雲・赤	外:橙(7.5YR6/8) 内:橙(7.5YR6/8)	口縁欠損部に支ダスキ状の波熱痕跡見出せるが→行明以下。胎土分析在地？。3034
SD3/1-210	SD3/001	土師器	皿	高:1.6[口:(8.9)-底:(6.8)	0.1～2.5	粗不良	石・長・チ・雲・赤	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ナデ/内:回転ナデ	3056
SD3/1-211	SD3/001	土師器	高台付皿	高:2.3 口:(9.8)	0.5～5.0	良やや不	結・石・長・雲・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ナデ/内:回転ナデ/高台結付:ユビナデ/内:回転ナデ	3234
SD3/1-212	SD3/001	土師器	高台付皿	口:(9.15)	0.1～2.0	粗やや不	石・長・チ・赤	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR7/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ナデ/内:回転ナデ/高台結付:回転ナデ/内:回転ナデ	3257
SD3/1-213	SD3/001	須恵器	杯身	底:(7.6)	0.1～1.5	粗良	石・長	外:灰(N6/0) 内:灰(N6/0)	側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:ヘラナデ/内:回転ユビナデ	3263
SD3/1-214	SD3/001	土師器	皿	高:1.25 口:9.8-底:7.8	0.1～5.0	やや粗良	石・長・チ・雲・赤	外:橙(7.5YR6/8) 内:橙(7.5YR7/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3187
SD3/1-215	SD3/001	土師器	皿	高:3.25 口:9.4-底:3.2	0.1～4.0	良	石・長・チ・赤	外:明赤褐(5YR5/6) 内:明赤褐(5YR5/6)	在地産。胎土分析在地？。3031	
SD3/1-217	SD3/001	土師器	皿	高:1.1 口:10.0-底:6.9	～4.0	粗良	結・石・長	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(5YR6/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り。ユビオサエ/内:ユビナデ。ユビオサエ	3032
SD3/1-218	SD3/001	土師器	皿	高:1.1 口:9.1-底:5.2	～3.0	粗不良	石・長・チ・雲・赤	外:明黄褐(10YR6/6) 内:明黄褐(10YR7/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:ユビオサエ	3033
SD3/1-219	SD3/001	土師器	皿	高:1.3 口:9.0-脚:9.5-底:6.8	0.1～1.5	粗来	石・長・チ・雲・赤	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR7/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3030
SD3/1-220	SD3/001	土師器	皿	高:1.0 口:(9.3)-底:(6.8)	0.1～4.5	良やや不	石・長・チ・雲・赤	外:橙(5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3027
SD3/1-221	SD3/001	土師器	皿	高:(1.2) 口:(8.4)-底:(3.5)	0.1～0.2	良良	長・雲・赤	外:橙(7.5YR6/8) 内:橙(7.5YR7/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3059
SD3/1-222	SD3/001	土師器	皿	高:1.45 口:(11.0)-底:(10.6)	0.1～6.0	やや粗不良	結・石・長・雲・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3040
SD3/1-223	SD3/001	土師器	皿	高:(1.0) 口:(9.0)-底:(7.2)	0.5～4.0	粗やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR7/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3037
SD3/1-224	SD3/001	土師器	皿	高:(1.2) 口:(9.1)-底:(4.4)	0.1～0.45	粗良	長・雲・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラナデ/内:回転ナデ	3262
SD3/1-225	SD3/001	土師器	皿	高:1.5 口:9.7-底:7.5	0.1～4.0	良良	石・長・チ・雲・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR7/8)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ヘラナデ/底外:回転ヘラナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3029
SD3/1-226	SD3/001	土師器	皿	高:(2.0) 口:(11.6)-底:(5.1)	0.1～0.2	良良	石・長・チ・雲・赤	外:橙(5YR7/8) 内:橙(7.5YR6/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3044
SD3/1-227	SD3/001	土師器	皿	高:(1.75) 口:(11.6)-底:(8.2)	0.1～1.5	粗良	長・チ・雲・赤	外:明褐(7.5YR5/8) 内:明褐(7.5YR5/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ナデ/内:回転ナデ	3055
SD3/1-228	SD3/001	土師器	杯	高:(1.9) 口:(10.9)-底:(4.0)	0.2～4.5	良不良	石・長・チ・金雲・角	外:橙(7.5YR7/6) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	在地？。口縁端部無規定煤付着。胎土分析在地？。3223
SD3/1-229	SD3/001	土師器	皿	口:9.7-底:6.8	0.1～3.0	やや粗注	石・長・雲・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3239
SD3/1-230	SD3/001	土師器	灯明皿	高:(1.5) 口:(9.8)	0.1～2.5	やや粗整	石・長・赤	外:橙(7.5YR6/8) 内:橙(7.5YR6/8)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り→高台結付/内:回転ナデ	口縁端部～外面体部煤付着。灯明皿。3156
SD3/1-231	SD3/001	土師器	杯	高:2.9 口:11.8-底:7.9	0.1～3.5	良やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外:橙(2.5YR6/6) 内:橙(2.5YR6/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ナデ/内:回転ナデ	2991
SD3/1-232	SD3/001	土師器	杯	口:(12.2)-底:(5.5)	0.1～2.5	やや粗注	石・長・チ・雲	外:赤灰(2.5YR4/1) 明赤灰(2.5YR7/2) 内:赤灰(2.5YR4/1) 明赤灰(2.5YR7/2)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3024
SD3/1-233	SD3/001	土師器	杯	高:3.45 口:12.25-底:8.0	0.1～2.0	やや粗やや不	石・長・雲・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR7/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底内:回転ナデ	3011
SD3/1-234	SD3/001	土師器	杯	高:2.2 口:12.1-底:8.1	0.1～4.0	やや粗やや不	石・長・チ・雲・赤	外:黄橙(7.5YR8/8) 内:橙(7.5YR7/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底内:回転ナデ	3046
SD3/1-235	SD3/001	土師器	杯	高:3.65 口:11.5-底:6.8	0.1～4.0	やや粗注	石・長・雲・赤	外:灰褐(7.5YR5/2) 内:褐灰(10YR4/1)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	内外面煤付着(内面口縁、外面底部)。3237
SD3/1-236	SD3/001	土師器	杯	高:3.05 口:(12.2)-底:(8.0)	0.1～1.0	やや粗やや不	石・長・チ・雲	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:褐灰(10YR5/1)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ナデ/内:回転ナデ	3216
SD3/1-237	SD3/001	土師器	杯	高:3.5 口:13.0-底:7.4	0.1～5.5	やや粗やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外:橙(5YR6/6) 内:橙(5YR6/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ナデ/内:回転ナデ	4544
SD3/1-238	SD3/001	土師器	杯	高:2.9 口:12.0-底:8.4	0.1～5.0	良やや粗良	石・長・雲・金雲	外:黄褐(10YR5/6) 内:にぶい黄褐(10YR2/4)	側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	外面体部巻き上げ痕残る。4177
SD3/1-239	SD3/001	土師器	杯	高:2.9 口:11.8-底:7.6	0.1～8.0	やや粗やや良	結・石・長・チ・雲・赤	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(5YR6/8)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	体部摩孔（内側より）。4179
SD3/1-240	SD3/001	土師器	杯	高:2.85 口:10.9-底:6.7	0.1～3.0	良やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外:橙(5YR6/6) 内:橙(5YR6/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ナデ/内:回転ナデ	4178
SD3/1-241	SD3/001	土師器	杯	高:3.1 口:11.7-底:6.9	0.2～5.0	良やや不	石・長・雲・赤	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(5YR6/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラナデ/内:回転ナデ	3595
SD3/1-242	SD3/001	土師器	杯	高:3.65 口:11.1-底:8.1	0.1～7.5	粗やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(7.5YR7/6)	ロ外:回転ナデ/内:回転ナデ/側上外:回転ナデ/内:回転ナデ/側下外:回転ナデ/内:回転ナデ/底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3615

番号	遺構	種別	器種	法量	粘度	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/1-243	SD3/001	土師器	杯	底：(3.35) 口：(11.2)・底 (8.2)	0.1～4.0	やや粗 やや良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：淡黄（2.5YR4/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	3238
SD3/1-244	SD3/001	土師器	杯	底 3.1 口：11.55 ・底 7.1	0.1～4.5	良 良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ	在地？、胎土分析在地？、2903
SD3/1-245	SD3/001	土師器	杯	底 3.1 口：12.5・底 7.2	0.1～6.0	粗 やや不	石・長・チ・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：明赤褐（2.5YR5/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ→ユビオサエ／内：ユビナデ	在地、胎土分析在地？、2903
SD3/1-246	SD3/001	土師器	杯	底 3.15 口：12.0・底 6.0	0.1～3.0	粗 良	砂・石・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ→ヘラ状工具による施文	内面ヘラ状工具による3条平行線文の施文あり、看病跡、内面黒込み、2990
SD3/1-247	SD3/001	土師器	杯	底 3.55 口：(12.4)・底 (9.5)	0.1～3.0	やや粗 良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラナデ／内：回転ナデ	3036
SD3/1-248	SD3/001	土師器	杯	底 3.1 口：11.1・底 9.5	0.1～3.0	良 やや不	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	2988
SD3/1-249	SD3/001	土師器	杯	底 2.6 口：(11.6)・底 (6.75)	0.1～2.0	やや粗 良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4182
SD3/1-250	SD3/001	土師器	杯	口：(10.9)・底 (6.95)	0.5～3.0	やや粗 やや不	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：橙（2.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切り→ユビオサエ／内：ユビオサエ（底部擦乱）	底部擦乱（内側とも）、4183
SD3/1-251	SD3/001	土師器	杯	底 2.8 口：11.7・底 8.0	1.0～9.0	良 良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ→ユビナデ→ユビオサエ	3614
SD3/1-252	SD3/001	土師器	杯	底：(3.0) 口：(12.5)・底 (8.5)	0.1～3.0	粗 やや不	石・雲・赤	外：にぶい橙（5YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切り→ユビナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ	在地、胎土分析在地？、4866
SD3/1-253	SD3/001	土師器	杯	底 2.3 口：(10.7)・底 (6.7)	0.1～7.0	良 良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（5YR6/4） 内：にぶい橙（2.5YR6/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	内面と火焼成？による被熱赤変、3045
SD3/1-254	SD3/001	土師器	杯	底：(3.25) 口：(12.6)・底 (8.0)	0.1～4.5	粗 やや不	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ユビナデ／内：回転ナデ	在地？、胎土分析在地？、3008
SD3/1-255	SD3/001	土師器	杯	底：(3.0) 口：(12.2)・底 (4.55)	0.1～3.0	やや粗 良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6）褐灰（7.5YR4/1） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ユビナデ／内：回転ナデ→ユビオサエ／内：回転ナデ	3006
SD3/1-256	SD3/001	土師器	杯	底 4.1 口：(12.7)・底 (6.9)	0.1～4.0	良 やや不	長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR5/3） 内：灰褐（2.5YR4/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	3100
SD3/1-257	SD3/001	土師器	杯	底 3.0 口：(12.4)・底 (8.0)	0.1～7.0	良 やや粗	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ→ユビオサエ	3009
SD3/1-258	SD3/001	土師器	杯	底 2.8 口：11.6・底 8.0	0.1～4.0	粗 不良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR7/8） 内：橙（5YR7/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	3020
SD3/1-259	SD3/001	土師器	杯	底 2.8 口：11.6・底 8.1	0.1～4.0	やや粗 やや不	石・長・赤・砂	外：にぶい橙（5YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	3208
SD3/1-260	SD3/001	土師器	杯	底 2.3 口：(12.1)・底 (8.0)	0.1～4.0	良 良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ユビナデ／内：回転ナデ	在地？にしては焼成良好、胎土分析在地？、3041
SD3/1-261	SD3/001	土師器	杯	底：(2.65) 口：(11.0)・底 (7.7)	0.2～3.5	粗 やや不	石・長・チ・雲・金雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	在地、胎土分析在地？、3184
SD3/1-262	SD3/001	土師器	杯	底 2.7 5 口：(11.3)・底 (6.6)	0.1～4.0	良 不良	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	在地、胎土分析在地？、3203
SD3/1-263	SD3/001	土師器	杯	口：(13.4)・底 (8.6)	0.1～2.0	やや粗 不良	石・長・雲	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：静止ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	3264
SD3/1-264	SD3/001	土師器	杯	底 4.3 口：10.8・底 7.0	0.1～4.0	やや粗 良	砂・石・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	3243
SD3/1-265	SD3/001	土師器	杯	底：(4.2) 口：(12.8)・底 (10.0)	0.1～3.0	やや粗 良	石・長・赤	外：黄橙（7.5YR7/8） 内：橙（7.5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	3224
SD3/1-266	SD3/001	土師器	杯	底 3.3 口：(12.9)・底 (9.2)	0.1～7.5	良 やや不	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラナデ	3250
SD3/1-267	SD3/001	土師器	杯	底：(3.1) 口：(11.0)・底 (7.6)	0.5～5.0	良 良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：静止ヘラ切り／内：回転ナデ→ユビナデ／ユビオサエ	3160
SD3/1-268	SD3/001	土師器	杯	底：(3.0) 口：(10.0)・底 (6.5)	0.1～0.3	良 不良	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR7/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	3125
SD3/1-269	SD3/001	土師器	杯	底 2.95 口：(14.0)・底 (8.7)	0.1～2.0	良 不良	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	3215
SD3/1-270	SD3/001	土師器	杯	底：(2.8) 口：(12.0)・底 (7.4)	0.1～2.0	粗 やや不	石・長・赤・泥	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：黄橙（10YR8/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	3206
SD3/1-271	SD3/001	土師器	杯	底 2.8 口：(10.3)・底 (6.6)	0.1～2.5	やや粗 良	砂・石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ユビナデ／内：回転ナデ	3240
SD3/1-272	SD3/001	土師器	杯	底：(3.1) 口：(12.55)・底 (7.0)	0.2～2.0	粗 不良	石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り（潜痕）？／内：回転ナデ	3269

番号	遺構	種別	器種	法量	粘度	密度 成或	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/1-273	SD3/001	土師器	杯	高:3.2 口:(12.0) 底:(6.4)	0.1	精 不良	石・長・赤	外:橙(5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3232
SD3/1-274	SD3/001	土師器	杯	高:2.5 口:(12.5) 底:(8.1)	0.1～2.5	やや粗 やや良	石・長・十・赤・雲	外:橙(5YR6/6) 内:橙(5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り	3227
SD3/1-275	SD3/001	土師器	杯	高:3.1 口:(11.4) 底:(6.9)	0.1～6.5	良 良	石・長・十・雲・赤	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	3245
SD3/1-276	SD3/001	土師器	杯	高:(2.99) 口:(11.5) 底:(7.2)	0.2～5.0	良 不良	石・長・十・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3195
SD3/1-277	SD3/001	土師器	杯	高:(2.4) 口:(13.2) 底:(9.5)	0.1～2.5	精 不良	石・長・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	3155
SD3/1-278	SD3/001	土師器	杯	口:(14.8) 底:(9.8)	0.5～3.0	やや粗 並	石・長・十・金雲・赤	外:明黄褐(10YR6/6) 内:橙(5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	外面黒斑あり、底部擦れ？、丸底風味、コツメ、3269
SD3/1-279	SD3/001	土師器	杯	高:(2.45) 口:(10.5) 底:(7.0)	0.2～3.0	良 やや不	石・長・雲・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:ヘラナデ	3252
SD3/1-281	SD3/001	土師器	杯	高:(2.5) 口:(12.8) 底:(9.0)	0.1～0.3	精 不良	石・長・雲・赤	外:黄橙(7.5YR8/8) 内:橙(7.5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3226
SD3/1-281	SD3/001	土師器	杯	高:3.1 口:(13.4) 底:(8.4)	0.1～7.0	良 良	砂・石・長・十・雲・赤	外:橙(7.5YR7/6) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ	3073
SD3/1-282	SD3/001	土師器	杯	高:2.95 口:(11.6) 底:(7.0)	0.1～4.0	精 やや不	石・長・十・雲・角・赤	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3235
SD3/1-283	SD3/001	土師器	杯	高:(2.4) 口:(12.9) 底:(9.2)	0.1～6.5	精 良	石・長・十・金雲・赤	外:明赤褐(5YR5/6) 内:赤褐(5YR4/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラナデ/内:回転ナデ	搬入品？、胎土分析他地域搬入一群、3150
SD3/1-284	SD3/001	土師器	杯	高:(3.3) 口:(12.4) 底:(7.6)	0.1～4.5	良 不良	石・長・十・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(7.5YR7/6)	口外:回転ナデ/内:ヨコナデ・側上外:回転ナデ/内:ヨコナデ・側下外:回転ナデ/内:ヨコナデ・底外:ヘラナデ/内:回転ナデ	3543
SD3/1-285	SD3/001	土師器	杯	高:2.55 口:11.5 底:(7.0)	0.1～5.0	やや粗 やや良	砂・石・長・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:明褐(7.5YR5/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3298
SD3/1-286	SD3/001	土師器	杯	高:(2.6) 口:(12.6) 底:(8.2)	0.2～4.0	良 やや不	石・長・雲・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	3246
SD3/1-287	SD3/001	土師器	杯	口:(13.75)	0.1～2.5	精 良	石・長・雲・赤	外:橙(5YR6/6) 内:橙(5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:ユビオサエ、ヨコナデ/内:回転ナデ・側下外:強いヨコナデ/内:回転ナデ	3057
SD3/1-288	SD3/001	土師器	杯	口:(13.8)	0.1～3.5	良 良	石・長・十・雲・赤	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	搬入品？（産地不明）、胎土分析他地域搬入一群、3061
SD3/1-289	SD3/001	土師器	杯	高:2.6 口:(15.0) 底:(8.6)	1.0～3.0	精 良	砂・石・長・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:ヘラナデ/内:ユビオサエ→回転ナデ	3247
SD3/1-290	SD3/001	土師器	杯	高:(2.2) 口:(10.4) ～5.9	粗 不良	砂・石・長・十・赤	外:橙(5YR6/6) 内:橙(5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	在地？、胎土分析在地？、3002	
SD3/1-291	SD3/001	土師器	杯	高:3.1 口:(15.5) 底:(10.0)	0.1～3.0	良 不良	石・長・雲・赤	外:橙(7.5YR6/8) 内:黄橙(7.5YR7/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	3054
SD3/1-292	SD3/001	土師器	杯	口:(11.2)	～2.0	精 不良	砂・石・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/8)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ	3066
SD3/1-293	SD3/001	土師器	杯	底:(7.4)	0.5～3.0	良 良	砂・石・長・金雲・赤	外:橙(5YR6/6) 内:橙(5YR6/6)	・底外:回転ヘラ切り、ユビナデ/内:回転ナデ、ユビナデ→ユビオサエ	3146
SD3/1-294	SD3001	土師器	杯	底:(5.4)	0.1～4.0	良 不良	砂・石・長・十・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	丁寧/回転ヘラ切り/内:回転ナデ	4181
SD3/1-295	SD3/001	土師器	杯	底:(6.8)	0.1～0.95	粗 良	石・チ・雲・赤	外:橙(7.5YR6/6) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	・底外:ヘラナデ/内:回転ナデ	3053
SD3/1-296	SD3/001	土師器	椀	底:(4.4)	0.1～5.0	良 やや不	石・長・十・雲・赤	外:浅黄橙(7.5YR8/4) 内:浅黄橙(7.5YR8/3)	貼下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→回転ナデ/内:回転ナデ	3241
SD3/1-297	SD3/001	土師器	杯	底:(6.6)	0.1～5.0	粗 不良	砂・石・長・雲・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	貼下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3043
SD3/1-298	SD3/001	土師器	皿	高:(1.3) 底:(10.4)	0.1～2.5	やや粗 不良	石・長・十・雲・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	3167
SD3/1-299	SD3/001	土師器	椀	底:(8.8)	0.1	精 不良	長	外:橙(5YR7/8) 内:黄橙(7.5YR7/8)	貼上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3062
SD3/1-300	SD3/001	土師器	椀	底:(8.2)	0.1～4.0	やや粗 並	石・長・十・雲・赤	外:橙(5YR6/6) 内:橙(7.5YR7/6)	貼上外:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	内外面石鍛付近に煤or黒斑あり、3047
SD3/1-301	SD3/001	土師器	杯	底:7.2	0.1～3.0	粗 不良	砂・石・長・十・赤	外:橙(5YR6/8) 内:橙(5YR6/8)	貼下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3294
SD3/1-302	SD3/001	土師器	杯	底:(7.0)	0.1～0.5	良 不良	石・長・十・雲・赤	外:にぶい黄橙(10YR5/3) 内:橙(5YR6/6)	・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	3063
SD3/1-303	SD3/001	黒色土器	高台付椀	底:5.6	0.1～4.0	やや粗 やや良	石・雲	外:黒(2.5Y2/1) 内:黒(2.5Y2/1)	・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ→ヘラミガキ	3211
SD3/1-304	SD3/001	土師器	皿	底:(8.3)	0.1～3.5	良 やや粗	砂・石・長・雲・赤	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	内面煤付着、灯明皿、3169
SD3/1-305	SD3/001	土師器	椀	高:(5.2) 口:(14.8) 底:(8.6)	1.0～4.0	良 やや不	砂・石・長・雲・赤	外:橙(5YR6/6) 内:褐灰(10YR5/1)	口外:ヨコナデ/内:ヨコナデ・側上外:ヨコナデ、ミガキ/内:ヨコナデ・側下外:ヘラミガキ、ユビオサエ/内:ヘラミガキ（磨滅）・底外:回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ/内:ユビオサエ	3014
SD3/1-306	SD3/001	須恵器	高台付椀	口:15.0 底:8.2	0.5～5.0	良 良	砂・石・長・雲・赤	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:褐灰(10YR4/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ/ミガキ？・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側稜上具ナデ/内:ミガキ・底外:回転ヘラケズリ→高台貼付→ユビナデ/内:ユビオサエ→ヘラミガキ	3010

番号	遺構	種別	器種	法量	軟信	密度成或	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/1-307	SD3/001	土師器	高台付椀	高 5.25 口 (14.60 脚 (8.2) 底 (8.8)	0.1～3.5	やや粗密	石・長・ナ	外：にぶい橙 (7.5YR6/4) 内：黒 (5Y2/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、脚上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	内黒、3098
SD3/1-308	SD3/001	土師器	椀	高：(5.0) 口：(14.8) 底 (10.6)	0.1～2.0	粗	石・長・赤	外：橙 (7.5YR6/8) 内：黒 (N1.5/0)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、脚上外：回転ヘラナデ／内：ヘラミガキ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：ユビオサエ→ヘラミガキ	口縁部・体部打ち欠き、3017
SD3/1-309	SD3/001	土師器	椀	高 5.3 口：(13.9) 高台 (6.4)	0.1～0.65	粗	長・チ・雲	外：黄橙 (7.5YR7/8) 内：黒褐 (2.5YR3/1)	脚上外：ヘラミガキ／内：ヘラミガキ・脚下外：回転ナデ→赤色塗彩／内：回転ナデ・底外：回転ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ユビオサエ→ヘラミガキ	在地、黒煙あり、赤色塗布？、3018
SD3/1-310	SD3/001	土師器	高台付椀	高 5.0 口：(15.3) 底 7.9	0.1～5.0	やや粗	石・長・雲	外：橙 (5YR6/6) 内：黒 (7.5YR2/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、脚上外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：ヘラミガキ（磨滅）・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）	内黒、底部擦耗（内側より）、3022
SD3/1-311	SD3/001	土師器	高台付椀	高 5.0 口：13.5 底 7.2	0.1～3.0	良	粒・石・長・チ・赤	外：にぶい橙 (5YR6/6) 内：にぶい橙 (5YR6/4)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ	口縁端部打ち欠き、2986
SD3/1-312	SD3/001	土師器	高台付杯	高 5.3 口 (14.8 底 8.4	0.1～2.5	やや粗	石・長・チ・雲・赤	外：黄橙 (7.5YR7/8) 内：黒 (N2.0)	口外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・脚上外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	内黒、外面底部ロクロ痕跡あり、3005
SD3/1-313	SD3/001	土師器	椀	高 5.0 口 (15.0 底 9.2	0.5～5.0	やや粗やや不	粒・石・長・チ・雲・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：黒褐 (2.5YR3/1)	口外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）・脚上外：回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）	3015
SD3/1-314	SD3/001	土師器	高台付椀	高 5.3 口 (14.0) 底 7.8	0.1～2.0	やや粗やや良	石・長・チ・雲・赤	外：橙 (2.5YR6/6) 内：黒 (7.5YR2/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	内面、口縁一部都内面にかけて黒色塗彩、底径3.5cmの範囲で塗彩、赤色塗料、3002
SD3/1-315	SD3/001	土師器	椀	高 5.05 口 (14.7) 底 (7.8)	0.1～4.0	良	粒・石・長・チ・雲・赤	外：橙 (5YR6/6) 内：にぶい褐 (7.5YR5/3)	口外：ヨコナデ→ヘラミガキ／内：ヘラミガキ・脚上外：ヘラミガキ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ→ヘラミガキ	磨滅の為内面ヘラミガキ不明、在地産、胎土分析在地？、3016
SD3/1-316	SD3/001	土師器	椀	高：(5.1) 口：(14.6) 底 (7.9)	～8.0	粗やや不	粒・石・長・チ・雲	外：明赤褐 (5YR5/6) 内：黒褐 (10YR3/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付、ユビナデ／内：ヘラミガキ	吉野川流域からの搬入品、胎土分析結晶用・吉野川一致、3021
SD3/1-317	SD3/001	土師器	高台付椀	高 5.0 口：(14.7) 底 (8.55)	0.1～5.0	やや粗やや良	石・長・チ・雲	外：橙 (5YR6/6) 内：黒褐 (2.5YR3/1)	口外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、外面赤色在被粘土？、3075
SD3/1-318	SD3/001	土師器	高台付椀	高 5.4 口：(14.3) 底 (8.6)	0.1～5.0	やや粗	石・長・チ・雲・赤	外：橙 (5YR6/6) 内：黒 (5YR2/1)	口外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、3134
SD3/1-319	SD3/001	土師器	高台付椀	高 6.25 口 15.3 脚 11.0 底 10.9	0.1～6.0	粗	粒・長・チ・赤	外：にぶい黄橙 (10YR6/4) 内：黒 (2.5YR2/1)	口外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：ユビオサエ→ヘラミガキ	内黒、口縁端部打ち欠き？（1カ所）、3303
SD3/1-320	SD3/001	土師器	高台付椀	高 5.2 口：(15.4) 底：(8.95)	0.1～4.5	良やや不	石・長・チ・雲・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：黒 (N2.0)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・脚下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	3154
SD3/1-321	SD3/001	土師器	高台付椀	高 4.85 口 (12.5) 底：(7.3)	0.1～3.0	やや粗やや良	石・長・チ・雲・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：黒 (7.5YR2/1)	口外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、3244
SD3/1-322	SD3/001	土師器	高台付椀	高：(5.1) 口：(15.0) 底：(8.6)	1.0～3.0	やや粗やや良	粒・石・長・チ・雲・赤	外：橙 (5YR6/6) 内：黄灰 (2.5YR4/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ、ユビオサエ→ヘラミガキ	内黒、3205
SD3/1-323	SD3/001	土師器	高台付椀	高 5.7 口：(15.2) 底：(8.2)	0.1～2.0	やや粗	石・長・雲・赤	外：にぶい橙 (7.5YR7/4) 内：黒褐 (2.5YR2/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底内：ヘラミガキ	内黒、3288
SD3/1-324	SD3/001	土師器	杯	高：(4.5) 口：(12.0) 底 (8.3)	0.1～0.5	粗不良	長・チ・赤	外：橙 (7.5YR7/6) 内：橙 (7.5YR6/8)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	3302
SD3/1-325	SD3/001	土師器	高台付椀	高：(4.5) 口：(13.4) 底：(7.0)	0.1～3.5	やや粗	石・長・チ・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：にぶい橙 (7.5YR7/4)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：ユビオサエ→回転ナデ	3142
SD3/1-326	SD3/001	土師器	杯身	高：(4.1) 口：(12.2) 底 8.4	0.1～0.75	粗やや不	粒・長・チ・雲	外：橙 (5YR7/8) 内：黄橙 (7.5YR7/8)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	2989
SD3/1-327	SD3/001	土師器	杯	口：(14.05)	0.1～16	粗不良	粒・石・長・チ・赤	外：橙 (5YR6/8) 内：暗灰 (N3/0)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	在地、胎土分析在地？、3026
SD3/1-328	SD3/001	土師器	高台付椀	高：(3.5) 口：(15.4) 底：(5.0)	～3.0	粗やや不	粒・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙 (10YR6/4) 内：黒褐 (2.5YR3/1)	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・脚上外：回転ナデ／内：ヨコナデ、ミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付（7箇）／内：ヘラミガキ	高台剥落、3019
SD3/1-329	SD3/001	土師器	杯	高 3.7 口：(14.1) 底：(8.0	0.1～3.5	良	粒・石・長・チ・雲・赤	外：橙 (7.5YR6/6) 内：黒 (7.5YR2/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラナデ／内：回転ナデ→ヘラナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	在地？、胎土分析在地？、3074
SD3/1-330	SD3/001	土師器	椀	口：(17.0)	0.1～8.0	やや粗	石・長・チ	外：橙 (5YR6/8) 内：黒 (7.5YR2/1)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（磨滅）	内黒、外面無規あり、3122
SD3/1-331	SD3/001	土師器	杯	口：(11.6) 底：(7.2)	0.1～2.5		石・長・チ・雲・赤	外：明褐 (7.5YR5/6) 内：橙 (5YR6/6)	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	3181

番号	遺構	種別	器種	法量	粘土	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD1/1-332	SD3/001	土師器	高台付椀	口：(13.4)	0.2～1.5	精良	石・長・チ・金雲	外：橙（7.5YR7/6） 内：黒褐（2.5YR3/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、側上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ、底外：ユビナデ→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	3190
SD1/1-333	SD3/001	土師器	椀	口：(14.9)	0.1～4.0	良 やや不	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、側上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ、側下外：回転ナデ／内：回転ナデ、底外：回転ナデ／内：回転ナデ	内黒、3093
SD1/1-334	SD3/001	土師器	高台付椀	口：(14.2) 脚：(8.5)	0.1～5.0	やや精 並	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黒（10YR2/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、側上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ→底外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、底部外面ロクロ痕あり、3255
SD1/1-335	SD3/001	土師器	高台付椀	口：(14.8)	0.1～4.0	やや精 並	石・長・チ	外：橙（10YR7/6） 内：黒褐（2.5YR3/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ、側上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ→底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、3153
SD1/1-336	SD3/001	土師器	椀	高：(3.9) 口：(16.0)・底（9.7）	0.1～4.0	精 やや不	石・長	外：明褐（7.5YR5/6） 内：灰黄褐（10YR5/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、側上外：回転ナデ→ヘラケズリ→側下外：ヘラケズリ／内：ヘラミガキ→底内：ユビナデ→ヘラミガキ	3116
SD1/1-337	SD3/001	黒色土器	椀	口：(14.4)	0.1～0.5	精 良	石・長・雲	外：黒（5Y2/1） 内：灰（5Y4/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ／側上外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	3172
SD3/001-338	SD3/001	土師器	高台付椀	口：(14.8)	0.1～6.0	良 不良	結・石・長・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒褐（7.5YR3/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、側上外：回転ナデ→ヘラミガキ（鏡面？）／内：回転ナデ→ヘラミガキ（鏡面？）、側下外：回転ナデ→ヘラミガキ（鏡面？）／内：回転ナデ→ヘラミガキ（鏡面？）、底外：回転ナデ／内：回転ナデ→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（鏡面？）	在地？、胎土分析在地？、3202
SD3/1-339	SD3/001	土師器	杯	高：(3.9) 口：(16.9)・底（8.5）	0.2～1.0	粗 不良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：浅黄橙（7.5YR8/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、側上外：回転ナデ／内：回転ナデ、側下外：回転ナデ／内：回転ナデ、底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	3174
SD3/1-340	SD3/001	土師器	杯	高：(4.0) 口：(15.4)・底（5.2）	0.1～0.45	良 良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黒褐（10YR3/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ、側下外：回転ヘラ切→ヘラミガキ／内：ヘラミガキ、底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：ヘラミガキ	2次焼成？内面煤付着、3158
SD3/1-341	SD3/001	土師器	高台付椀	口：(13.4) 脚：(8.2)	0.1～4.0	やや精 並	結・石・長・チ	外：橙（7.5YR6/6） 内：黒褐（2.5YR3/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ、側上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ、底外：高台貼付→ユビナデ／内：ヘラミガキ	内黒、ロクロ痕あり、3295
SD3/1-342	SD3/001	土師器	高台付椀		0.1～8.5	やや精 良	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR7/6） 内：黒（5Y2/1）	側上外：ヘラミガキ／内：ヘラミガキ、底外：回転ヘラ切り→高台貼付／内：ヘラミガキ	内黒、高台脚端、設定技法確認、3051
SD3/1-343	SD3/001	土師器	高台付杯	底（7.25）	0.1～4.0	やや粗 良	石・長・チ・雲	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	側上外：回転ナデ／内：回転ナデ、底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	3106
SD3/1-344	SD3/001	土師器	高台付椀	底（8.0）	0.1～3.0	良 やや不	石・長・雲・角・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	側下外：回転ナデ、底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4542
SD3/1-345	SD3/001	土師器	高台付椀	底（8.2）	0.1～2.0	やや精 良	石・長・雲	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：黒褐（2.5Y3/1）	側上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ、底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、底部ロクロ台痕残る、3269
SD3/1-346	SD3/001	土師器	高台付椀	底（7.4）	0.1～3.5	精 やや不	石・長・チ・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：灰（N4/0）	側上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（鏡面）、底外：ユビオサエ→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（鏡面）	内黒、3087
SD3/1-347	SD3/001	土師器	高台付椀（4.2）	底（7.8）	0.1～0.5	やや精 やや不	長・チ・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黒褐（2.5Y3/1）	側上外：回転ナデ→ケナデ／内：ヘラミガキ（鏡面）、底外：高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ（鏡面）	3099
SD3/1-348	SD3/001	土師器	高台付椀（4.2）	底（8.2）	0.1～6.5	良 良	石・長・チ・雲	外：橙（7.5YR6/8） 内：黒褐（N1.5/0）	側上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ、側下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ、底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	在地？、胎土分析在地？、3070
SD3/1-349	SD3/001	黒色土器	椀	底（7.3）	0.1～1.5	精 やや良	石・長・雲	外：オリーブ黒（7.5Y3/1） 内：オリーブ黒（5Y3/1）	側上外：ヘラミガキ／内：ヘラミガキ、底外：ヘラミガキ→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	3013
SD3/1-350	SD3/001	土師器	高台付椀	底（8.6）	1.0	やや精 良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：褐灰（10YR4/1）	側上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（鏡面）、底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ（鏡面）	3145
SD3/1-351	SD3/001	土師器	椀	底（8.6）	0.5～5.0	良 やや不	結・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：明黄褐（10YR6/6）	側下外：回転ナデ、側上接合痕／内：回転ナデ、底外：回転ナデ→高台貼付／内：回転ナデ、ユビナデ、ユビオサエ	3290
SD3/1-352	SD3/001	土師器	椀	底（7.2）	～2.0	粗 不良	石・長・雲・赤	外：明褐（7.5YR5/8） 内：黒褐（10YR3/1）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付、ユビナデ／内：ヘラミガキ	3049
SD3/1-353	SD3/001	土師器	高台付椀	底（7.6）	0.1～4.0	良 やや不	石・長・チ・雲・角・赤	外：橙（5YR6/6） 内：黒（5Y2/1）	側下外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：回転ナデ、ヘラミガキ、底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	外面赤色顔料？、転用？、3112
SD3/1-354	SD3/001	土師器	高台付椀	底（7.75）	0.1～4.5	精 良	石・長・チ・雲・赤	外：浅黄橙（10YR8/3） 内：黒（2.5Y2/1）	側下外：回転ナデ／内：ミガキ、底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ミガキ	3048
SD3/1-355	SD3/001	土師器	高台付椀	底（7.6）	0.1～6.0	良 良	石・チ・雲・赤・泥	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい褐（7.5YR5/4）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ユビオサエ	在地？、胎土分析在地？、3248
SD3/1-356	SD3/001	土師器	高台付椀	底 8.0	0.1～6.0	粗 良	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/4） オリーブ黒（5Y2/2）	側下外：回転ナデ→ヘラミガキ、赤色顔料？、底外：回転ナデ→高台貼付／内：ヘラミガキ	体部打ち抜きにする転用品の可能性あり、3111
SD3/1-357	SD3/001	土師器	高台付椀	底（8.0）	0.5～3.0	やや粗 良	結・石・長・チ・赤	外：灰褐（7.5YR4/2） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	側上外：回転ナデ／内：回転ナデ、底外：ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	転用品の可能性あり、3082
SD3/1-358	SD3/001	土師器	高台付椀	底（7.0）	0.1～3.5	精 やや不	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：灰黄褐（10YR6/2）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ミガキ	転用品の可能性あり、3052
SD3/1-359	SD3/001	土師器	高台付椀	底（7.3）	0.2～3.0	良 良	石・長・チ・金雲・角・泥	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：橙（7.5YR6/6）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	3092
SD3/1-360	SD3/001	土師器	転用皿？		0.1～4.0	精 良	石・長	外：にぶい黄橙（10YR5/4） 内：黒（N1.5/0）	側下外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：ヘラミガキ、底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	高台付椀からの転用品の可能性あり、3108

番号	造構	種別	器種	法量	軟質	密度 硬質	焼成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD31/361	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (8.0)	～3.0	良	普通	結・石・長・赤・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：黒褐（10YR3/1）	底外：回転ヘラ切り→ユビナデ、高台貼付／内：ヘラミガキ	内黒、3185
SD31/362	SD3/001	土師器	高台付椀	無：(8.0)・底：(8.3)	0.1～6.0	良	やや軟	結・長・赤・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR5/4） 内：黒灰（2.5Y4/1）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	内黒、転用品の可能性あり、3162
SD31/363	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (8.0)	0.2～3.0	良	やや不	石・長・赤・金雲	外：橙（7.5YR7/6） 内：黒灰（2.5YR4/1）	底外：回転ナデ／内：ユビナデ→ヘラミガキ？	体部打ち欠きに転用品の可能性あり、3110
SD31/364	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (7.2)	0.1～6.5	良	普通	石・長・雲・赤	外：明褐（7.5YR5/6） 内：黒灰（10YR4/1）	底外：回転ナデ／内：ヘラミガキ	3090
SD31/365	SD3/001	土師器	高台付椀	底 7.8	0.1～8.0	良	普通	結・石・長・赤・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黒灰（5Y2/1）	側下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ→底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	体部打ち欠き転用品の可能性あり、3123
SD31/366	SD3/001	土師器	椀	底 (8.0)	0.2～3.2	粗	不良	石・長・赤・金雲	外：明赤褐（5YR5/6） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	側下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ？（鹿跳） 底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ？（鹿跳）	在地、加工台折在地？、3186
SD31/367	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (7.95)	0.1～2.5	良	やや不	石・長・赤・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：明赤褐（5YR5/6）	側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	体部打ち欠きに転用品、3141
SD31/368	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (8.2)	0.1～0.15	精	やや不	石・長・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：明黄褐（10YR7/6）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付／内：回転ナデ	3171
SD31/369	SD3/001	土師器	椀	底 (8.8)	～3.0	精	不良	石・長・赤	外：橙（2.5YR6/6） 内：橙（2.5YR6/6）	底外：回転ナデ、高台貼付／内：回転ナデ	3198
SD31/370	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (6.6)	0.1～1.5	精	不良	石・長・赤	外：橙（2.5YR6/6） 内：橙（2.5YR6/6）	側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	3088
SD31/371	SD3/001	土師器	高台付皿	高：(2.5)・底：(6.3)	0.1～2.5	精	良	石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：にぶい橙（2.5YR5/4）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	内面煤付着、3065
SD31/372	SD3/001	土師器	高台付皿	底 (6.6)	0.2～4.5	精	やや不	石・長・赤・角	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：浅黄橙（7.5YR8/4）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	内面煤付着、3192
SD31/373	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (7.7)	0.1～0.8	良	やや不	石・雲・赤	外：橙（5YR7/8） 内：橙（5YR6/6）	側下外：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付／内：回転ナデ	体部打ち欠き、転用品の可能性あり、3146
SD31/374	SD3/001	土師器	椀	底 (7.4)	0.1～2.0	精	良	石・長・赤	外：明褐（7.5YR5/6） 内：褐灰（N3/0）	側下内：ヘラミガキ・底外：ヘラ切り→ユビナデ／内：ナデ→ヘラミガキ	底部（高台込み）周囲敷痕、漁撈系或特（転土）か確認できる、3056
SD31/375	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (8.0)	0.1～4.0	やや軟	やや不	石・ナ・雲・赤	外：橙（2.5YR7/6） 内：黒（2.5YR2/1）	側上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ・底外：ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、3217
SD31/376	SD3/001	土師器	椀	底 (8.0)	～2.0	良	不良	石・長・雲・赤	外：灰黄褐（10YR4/2） 内：黒褐（10YR3/1）	側下外：イタナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付後ユビナデ／内：ヘラミガキ	3152
SD31/377	SD3/001	土師器	高台付椀	底 (8.2)	1.0～4.0	やや軟	良	石・長・雲・赤	外：橙（2.5YR6/6） 内：黒灰（2.5Y4/1）	側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒、転用品の可能性あり、4541
SD31/378	SD3/001	土師器	高台付椀	底 7.6	0.1～4.5	精	不良	石・長・雲・赤	外：浅黄橙（7.5YR8/4） 内：橙（2.5YR6/6）	側下外：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	搬入品？、転土分析地地質調査、3038
SD31/379	SD3/001	土師器	椀	底 (6.7)	0.1～7.0	良	良	石・長・赤・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：オリーブ黒（5Y3/1）	底外：回転ナデ→高台貼付→底部穿孔／内：ナデ→ヘラミガキ	外部から穿孔、穿孔部の煤減自より、3025
SD31/380	SD3/001	土師器	転用品	底 :24 口 :10.2・底 7.6	0.1～3.0	軟	良	石・長・赤・雲・赤	外：橙（5YR7/6） 内：黒褐（10YR3/1）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き→側上外：回転ナデ→ヘラミガキ／内：ヘラミガキ→底外：高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	3076
SD31/381	SD3/001	土師器	転用品	底 7.8	0.1～5.0	軟	やや軟	石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒灰（2.5YR2/1）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	内黒、底部外面ロクロ痕跡あり、3293
SD31/382	SD3/001	土師器	高台付皿（転用）	底 :20 口 :18.2・底 (7.5)	0.1～3.0	良	やや不	石・長・赤・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：黒灰（2.5Y4/1）	口外：打ち欠き→クズリ・側上外：ヘラミガキ／内：ヘラミガキ・側下外：ヘラミガキ／転用？：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：ヘラミガキ	鞴状部を打ち欠き、逆へ転用？、底部中央に穿孔（途中）？あり、3183
SD31/383	SD3/001	土師器	転用品	底 :30 口 :8.3・底 6.4	0.1～5.0	やや軟	やや不良	結・石・長・赤・雲	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/3）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き→側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	3210
SD31/384	SD3/001	土師器	転用品	底 (7.1)	0.2～2.0	良	不良	石・長・雲・金雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：黒（N4/0）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・底外：回転ヘラ切り→高台貼付／内：ヘラミガキ	3297
SD31/385	SD3/001	土師器	転用品	底 :2.25 高台 :8.2	0.1～0.2	良	良	結・石・長・赤・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・底外：回転ナデ／内：ヘラミガキ	高台付椀から転用、底部外面高台設定技法？の痕跡あり、3077
SD31/386	SD3/001	土師器	転用品	底 8.1	0.1～4.0	良	やや不	結・石・長・赤・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：橙（2.5YR7/6）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ユビナデ	底部外面高台設付特の設定技法あり、体部打ち欠き転用品、3130
SD31/387	SD3/001	土師器	転用品	底 6.2	0.1～3.0	精	良	石・長・赤・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・側下外：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→回転ナデ	体部打ち欠きに転用品、3180
SD31/388	SD3/001	土師器	転用品	高 :1.7・底 7.9	0.1～2.5	良	不良	石・長・赤・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：褐灰（10YR4/1）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・底外：回転ナデ→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ（鹿跳）	体部打ち欠きに転用品、3284
SD31/389	SD3/001	土師器	転用品	底 (7.6)	0.2～3.0	良	やや不	石・長・赤・金雲	外：褐灰（10YR4/1） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・側下外：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ	体部を打ち欠き、逆とした転用品？、3191
SD31/390	SD3/001	土師器	転用品	底 7.5	0.1～3.0	精	不良	石・長・赤・雲・赤	外：橙（2.5YR7/6） 内：橙（2.5YR7/1）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・側下外：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ（鹿跳）	体部打ち欠き転用品、3157
SD31/391	SD3/001	土師器	転用品	底 (7.7)	0.2～1.0	良	良	石・長・赤・雲・金雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒（N4/0）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・底外：回転ヘラ切り→高台貼付／内：ヘラミガキ	体部打ち欠き転用品、3149
SD31/392	SD3/001	土師器	転用品	底 7.6	0.1～4.5	精	やや不	石・長・赤・雲・赤	外：橙（2.5YR7/6） 内：橙（2.5YR7/6）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付／内：回転ナデ	体部打ち欠き転用品、3299
SD31/393	SD3/001	土師器	転用品		0.1～2.0	やや軟	やや不	石・長・赤・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・側上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／打ち欠き／内：回転ナデ	3115
SD31/394	SD3/001	土師器	転用品	底 7.5	0.1～0.5	精	不良	石・長・赤・雲・赤	外：橙（2.5YR7/6） 内：橙（2.5YR7/6）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・側下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付／内：回転ナデ	4175
SD31/395	SD3/001	土師器	転用品	高 :3.85 口 :10.6・底 8.15	0.1～3.0	良	やや不	石・長・赤・金雲・赤	外：橙（5YR7/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：打ち欠き内：打ち欠き側下外：ヘラミガキ内：ヘラミガキ	4543
SD31/396	SD3/001	土師器	転用品	底 (4.5)	0.2～3.0	良	やや不	石・長・赤・金雲・赤	外：橙（2.5YR7/6） 内：橙（5YR6/8）	口：外：打ち欠き→ケズリ／内：打ち欠き→ケズリ・底外：回転ヘラ切り→ユビナデ／内：回転ナデ	体部部を打ち欠き、逆へ転用、3189

番号	遺構	種別	器種	法量	残存	密度 成成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/1-397	SD3/001	土師器	鉢	底 (9.3)	～2.0	良 やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：褐灰（10YR5/1）	底外：刷毛ナデ→回転ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ	焼成後、刃物によると上下2方向からの擦孔。3164
SD3/1-398	SD3/001	土師器	転用具	底 (6.4)	0.1～3.0	精 良	石・長・赤	外：明褐（7.5YR5/6） 内：黒（N1.5/0）	底外：打ち欠き／内：打ち欠き・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ユビナデ→ヘラミガキ	3124
SD3/1-399	SD3/001	土師器	転用具	底 (8.7)	0.2～3.5	粗 やや不	石・長・チ・金雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：体部打ち欠き→整形（ケズリ？）／内：回転ナデ（胴下外：刷毛ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	在地、杵、体部の打ち欠き一部への転用？、胎土分析在地？、3188
SD3/1-400	SD3/001	土師器	鉢か	高 (14.8) 口 (26.8) 胴 (16.4) 頸 (27.8)・底 (17.6)	0.2～12.0	中 やや粗	石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR7/6） 内：橙（5YR7/6）	口外：ナデ／内：ナデ・胴上外：ユビナデ／内：イタナデ→ユビナデ・底外：ユビナデ／内：回転ナデ→ユビナデ	口縁端部内部凹付帯、在地？、胎土分析在地？、3002
SD3/1-401	SD3/001	土師器	甕	高 (25.5 口 (28.1) 胴 (25.9 頸 (29.1)・底 9.8	0.1～8.0	中 やや粗	石・長・チ・雲・赤・角	外：明赤褐（5YR5/8） 内：明赤褐（5YR5/8）	口外：刷毛ナデ→ユビオサエ・胴上外：不明／内：イタナデ・底外：不明／内：ユビオサエ→イタナデ	体部外面刷毛目により調整不明、体部下半内面から叩打により撫圧？、3028
SD3/1-402	SD3/001	土師器	甕	口：(30.1) 胴：(27.4)	0.1～8.5	中 やや粗	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：イタナデ→ヨコナデ／内：イタナデ→ヨコナデ・胴上外：ハケ（4条1cm）→イタナデ／内：イタナデ	内面黒煙あり、外面煤付（ススか？）付着、3069
SD3/1-403	SD3/001	土師器	甕	口：(28.2) 胴：(25.8)	1.0～6.0	中 やや粗	結・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	口外：ユビオサエ→イタナデ／内：ユビオサエ→ヨコナデ・胴上外：ハケ目（3条1cm）（4条1cm）→イタナデ→棒（ガキ？）／内：ユビオサエ→ヘラケズリ	3301
SD3/1-404	SD3/001	土師器	甕	高：(8.2) 口：(33.0) 胴 (29.2)	0.1～8.0	粗 良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR4/4） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：刷毛ナデ／内：刷毛ナデ→イタナデ・胴上外：イタナデ／内：ユビオサエ→イタナデ	外面煤付着、3272
SD3/1-405	SD3/001	土師器	甕	口：(26.3) 頸：(22.8)	0.1～1.0	粗 良	石・長・チ・雲・角・泥	外：明褐（7.5YR5/6） 内：にぶい褐（7.5YR5/4）	口外：ヨコナデ／内：ハケ（8条2.5cm）／ヨコナデ・胴外：ハケ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ハケ（5条1cm）2.5cm幅／内：イタナデ（横方向？）	搬入品？、口縁内側煤付着、4865
SD3/1-406	SD3/001	土師器	鍋	頸：(23.2) 頸：(23.2)	0.1～8.0	粗 やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：橙（5YR6/6）	胴上外：イタナデ／内：ユビオサエ→イタナデ	3286
SD3/1-407	SD3/001	土師器	鍋	口：(15.1)	0.2～4.0	良 良	石・長・チ・雲・金雲・角	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい褐（7.5YR5/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	搬入品？、3161
SD3/1-408	SD3/001	土師器	鍋	口：(29.0)	0.2～7.0	良 良	石・長・チ・金雲・角	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ→ユビナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	内面煤付着、3170
SD3/1-409	SD3/001	土師器	鉢（中型）	口：(32.2)	～6.0	粗 やや不	結・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/8）	口外：刷毛ナデ/貼付帯合成／内：刷毛ナデ・胴上外：刷毛ナデ／内：ユビナデ	3058
SD3/1-410	SD3/001	土師器	鍋	口：(30.5) 頸：(23.7)	0.1～0.6	粗 やや不	石・長・チ・雲・赤・泥	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：ハケ（6条1cm）／ユビナデ／内：イタナデ	3285
SD3/1-411	SD3/001	土師器	鍋	口：(33.6) 頸：(29.7)	1.0～6.0	中 やや粗	石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ハケ（7条1cm）→ユビナデ／内：イタナデ	内面煤付着、3287
SD3/1-412	SD3/001	土師器	鍋	口：(30.8)	0.1～3.0	粗 良	石・長・チ・雲・泥	外：黄灰（2.5YR4/1） 内：褐（10YR4/4）	口外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ→ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビオサエ→イタナデ／内：イタナデ→ヨコナデ	3289
SD3/1-413	SD3/001	土師器	甕	口：(32.8) 頸：(31.0)	0.1～5.0	粗 良	石・長・チ・泥	外：黒褐（7.5YR3/1） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：イタナデ→ヨコナデ・胴外：刷毛ナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビオサエ→ユビナデ	外面墨汚絵焼成風の黒褐あり、3089
SD3/1-414	SD3/001	土師器	こね鉢	口：(33.6)	0.1～3.5	良 良	結・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい褐（7.5YR6/3） 内：橙（2.5YR2/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：イタナデ／内：ユビナデ・胴上外：イタナデ／内：ユビナデ	3220
SD3/1-415	SD3/001	土師器	鉢	口：(30.6)	0.1～5.0	粗 良	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ→ユビナデ／内：ヨコナデ	3064
SD3/1-416	SD3/001	土師器	鉢	口：(34.8)	0.1～1.1	粗 良	結・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい褐（7.5YR5/3） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ	3067
SD3/1-417	SD3/001	土師器	鉢	口：(31.8)	0.1～0.25	粗 良	結・石・長・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：暗赤褐（5YR3/2）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	3147
SD3/1-418	SD3/001	土師器	鍋	口：(28.5)	0.2～4.0	粗 良	結・石・長・チ・雲・泥	外：にぶい橙（7.5YR2/4） 内：褐灰（7.5YR5/1）		口縁端付帯、吉野川流域からの搬入品？、胎土分析結果は一吉野川一群、3204
SD3/1-419	SD3/001	土師器	甕	高：(7.9) 口：(13.2) 胴：(13.0)	0.1～6.0	粗 良	結・石・長・チ・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：黒褐（5YR2/1）	口外：ヨコナデ／内：刷毛ナデ・胴外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：ヨコハケ？／内：イタナデ・胴下外：ヨコハケ？	3228
SD3/1-420	SD3/001	土師器	甕	口：(32.2)	1.0～9.0	粗 やや不	結・石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	3266
SD3/1-421	SD3/001	土師器	甕	口：(32.3) 頸：(29.9)	0.1～0.5	粗 良	結・石・長・チ・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：赤褐（5YR4/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビナデ／内：イタナデ→ヨコナデ・胴上外：タハケ（?）→ヨコナデ／内：イタナデ	3236
SD3/1-422	SD3/001	土師器	鍋		0.1～6.0	粗 良	結・石・長・雲・泥	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：橙（7.5YR6/6）	胴上外：ハケ（4条2.5cm）／胴下外：ハケ（7条2.3cm）／内：イタナデ	ハケ工具は板状か？、3256
SD3/1-423	SD3/001	土師器	鍋	口：(28.9) 頸：(26.3)	0.1～7.0	良 良	結・石・長・チ・雲	外：橙（5YR6/8） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：イタナデ→ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビナデ／内：イタナデ	在地？(吉野川流域)、胎土分析結果は一吉野川一群、3179
SD3/1-424	SD3/001	土師器	甕	口：(34.6)	1.0～9.0	粗 やや不	結・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ（粘土接合痕）	3005
SD3/1-425	SD3/001	土師器	鍋	口：(28.0) 頸：(26.3)	0.1～7.0	良 良	結・石・長・雲・泥	外：橙（5YR6/6） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：ユビナデ→ヨコナデ／内：ヨコナデ／頸外：ユビオサエ→イタナデ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	3119
SD3/1-426	SD3/001	土師器	甕	口：(25.0) 頸：(23.3)	0.1～7.0	粗 不良	結・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：橙（5YR4/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	3270
SD3/1-427	SD3/001	土師器	甕	口：(16.8) 頸：(13.5)	0.1～0.5	良 良	石・長・チ・雲・泥	外：赤褐（5YR4/6） 内：にぶい赤褐（5YR5/4）	口外：ユビオサエ→ユビナデ／内：ヨコナデ／頸外：ユビナデ／内：ヘラケズリ	3214
SD3/1-428	SD3/001	土師器	壺	口：(23.0) 頸：(17.8)	0.1～7.0	良 やや不	石・長・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：ヨコナデ	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	3060
SD3/1-429	SD3/001	土師器	甕	口：(17.6)	1.0～8.0	粗 良	結・石・長・雲・角・赤・泥	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ、ハケ目（4条1cm）／内：イタナデ	産地不明、乗鞍上分析、3273

番号	遺構	種別	器種	法量	残存	密度 成或	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/1-434	SD3/001	土師器	甕	口：(16.8) 胴：(18.9)	0.1～5.0	良 やや不	石・長・チ・赤・角	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外・タテハケ→ヨコハケ／内：イタナデ	3173
SD3/1-435	SD3/001	土師器	甕	口：(21.1) 胴：(18.9)	0.1～5.5	良	結・石・長・チ・赤・角	外：明赤褐（5YR5/4） 内：にぶい赤褐（5YR5/4）	口外：同転ナデ／内：同転ナデ・胴外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビナデ／内：イタナデ	3174
SD3/1-436	SD3/001	土師器	甕	底:8.0 口:22.2 胴:22.8	0.1～10.0	良	結・石・長・チ・雲・赤	外：明赤褐（2.5YR5/8） 内：橙（5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：イタナデ→ユビオサエ、2条ヘラ状沈線／内：ヨコナデ・胴上外：ヨコナデ／内：イタナデ	在地?、3276
SD3/1-438	SD3/001	土師器	鍋	口：(21.0) 胴：(18.5) 胴：(19.9)	0.1～0.85	良	石・長・チ・雲・泥	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/2）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビナデ／内：ユビナデ・胴下外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	3178
SD3/1-434	SD3/001	土師器	甕	口：(21.7) 胴：(19.0)	0.1～4.0	粗	結・石・長・チ・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：橙（10YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ハケ目（3条1cm）／内：イタナデ	3275
SD3/1-435	SD3/001	土師器	甕	口：(17.4) 胴：(16.7) 胴：(17.9)	0.1～1.5	良	結・石・長・雲・赤・角	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ／内：ケズリ	3280
SD3/1-436	SD3/001	土師器	甕	高：(5.6) 口：(18.4) 胴：(17.0)	0.1～13.5	良	結・石・長・角・赤	外：にぶい橙（7.5YR5/4） 内：明赤褐（7.5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ユビナデ／内：ヨコナデ・胴上外：タテハケ	在地?、3260
SD3/1-437	SD3/001	土師器	甕	口：(18.0)	0.1～1.0	良	石・長・赤	外：にぶい橙（7.5YR5/4） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ユビオサエ→ユビナデ／内：同転ナデ・胴外：ユビオサエ→ユビナデ、粘土接合痕／内：粘土接合痕・胴上外：ユビナデ／内：ユビナデ	3212
SD3/1-438	SD3/001	土師器	甕	口：(16.4)	1.0～5.5	粗 やや不	結・石・長・チ・赤・角	外：にぶい赤褐（5YR5/3） 内：橙（5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ	3261
SD3/1-439	SD3/001	土師器	甕	高：(3.3) 口：(17.8) 胴：(18.0)	0.1～7.0	粗	結・石・長・雲・金雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：黄灰（2.5YR7/1）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：イタナデ／内：ヨコナデ・胴上内：ヨコナデ	外面口縁煤付着、3265
SD3/1-440	SD3/001	土師器	甕	高：(2.9) 口：(15.4) 胴：(13.8)	0.1～2.0	粗	石・長・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：イタナデ／内：イタナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	3251
SD3/1-441	SD3/001	土師器	鉢		0.1～1.0	粗	結・石・長・チ・雲・泥	外：灰黄褐（10YR6/2） 内：黒褐（7.5YR3/1）	胴下外：ケズリ（8条1.5cm）→ユビナデ／内：ハケ（8条1.5cm）	内外面煤付着、外面被熱変色、秒粒の河川による雲母が多い、3159
SD3/1-442	SD3/001	土師器	羽釜	口：(25.9)	～10.0	粗 良	石・長・赤	外：黒褐（10YR3/1） 内：灰黄褐（10YR5/2）	口外：同転ナデ／内：同転ナデ、ヨコナデ・胴外：ユビオサエ2・胴上外：ハケ目（8条1cm）→ユビオサエ／内：イタナデ	外面煤オコゲ付着、3081
SD3/1-443	SD3/001	土師器	羽釜	口：(23.6)	1.0～6.0	粗 良	結・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい赤褐（5YR5/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビオサエ→ヨコナデ→ハケ目（4条1cm）・胴下外：ユビオサエ→イタナデ	外面煤付着、被熱赤変、鍔部、3163
SD3/1-444	SD3/001	土師器	羽釜	口：(23.6) 胴：(28.9)	0.1～5.0	粗 良	石・長・雲・角・花・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：にぶい赤褐（5YR5/4）	口外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ→ヨコナデ・胴上外：ハケ（12条1cm）→ユビオサエ／内：イタナデ	3254
SD3/1-445	SD3/001	土師器	羽釜	口：(25.4)	0.2～2.5	粗 良	石・長・チ・角・赤	外：褐灰（10YR6/1） 内：浅黄橙（10YR8/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ	被熱赤変、煤付着、3004
SD3/1-446	SD3/001	土師器	羽釜	口：(26.2)	0.1～3.0	良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR4/3） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビナデ→イタナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ	3138
SD3/1-447	SD3/001	土師器	羽釜	口：(24.0) 胴：(29.0)	0.1～2.5	粗 良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/2） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ハケ（8条1cm）→ユビオサエ／内：イタナデ	3146
SD3/1-448	SD3/001	土師器	羽釜	高：(8.4) 口：(26.0)	0.1～2.5	粗 良	石・長・雲・赤	外：黒（2.5Y2/1） 内：浅黄（2.5Y7/4）	口外：同転ナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：ハケ（6条1cm）→ユビオサエ／内：イタナデ	外面鍔部(吹きこぼれ)付着、3263
SD3/1-449	SD3/001	土師器	羽釜	口：(29.7) 胴：(35.3)	0.1～3.0	良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：灰黄褐（10YR6/2）	口外：同転ナデ／内：同転ナデ	3300
SD3/1-450	SD3/001	土師器	羽釜	口：(23.5)	0.1～0.3	粗 良	石・長・雲・赤・花・角	外：灰黄褐（10YR4/2） 内：にぶい黄橙（10YR5/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：ハケ（16条1cm）→ユビオサエ、ユビナデ／内：イタナデ・胴下外：同転ナデ／内：同転ナデ	搬入品?、3278
SD3/1-451	SD3/001	土師器	羽釜	口：(22.8) 胴：(24.8)	1.0～3.0	粗 やや粗 良	結・石・長・チ・雲・赤	外：灰黄褐（10YR4/2） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ユビオサエ→ヨコナデ、ハケ目（3条1cm）／内：イタナデ	外面煤付着、内面口縁端部煤付着、3282
SD3/1-452	SD3/001	土師器	羽釜		0.1～1.5	粗 良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビナデ／内：ユビナデ・胴下外：ヨコナデ／内：イタナデ	3277
SD3/1-453	SD3/001	土師器	羽釜	口：(20.4)	～1.0	粗 良	石・長・チ・赤・角	外：灰黄褐（10YR6/2） 内：灰黄褐（10YR6/3）		搬入品?、3197
SD3/1-454	SD3/001	土師器	羽釜	口：(20.0)	0.1～0.9	粗 良	石・長・チ・雲・赤・泥	外：橙（2.5YR5/6） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ・胴上外：ユビナデ／内：イタナデ・胴下外：ユビナデ／内：イタナデ	搬入品?、3267
SD3/1-455	SD3/001	土師器	羽釜	口：(20.8) 胴：(26.40)	0.1～2.5	粗 良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ハケ→ユビナデ（9条1.7cm）／内：イタナデ	3268
SD3/1-456	SD3/001	土師器	羽釜	口：(22.0) 胴：(21.8) 胴：(25.5)	0.1～7.5	粗 良	石・長・チ・雲・角	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：同転ナデ／内：同転ナデ・胴上外：同転ナデ→ケズリ（刷毛）／内：イタナデ	外面2次焼成による被熱剥落、搬入品、3162
SD3/1-457	SD3/001	土師器	羽釜	高：(6.4) 口：(17.8)	0.1～9.0	粗 良	石・長・赤	外：褐（7.5YR4/4） 内：黒褐（7.5YR3/1）	口外：同転ナデ／内：ヨコナデ・胴内：ヘラケズリ・胴上外：ユビナデ→タテハケ（3条1cm）／内：ヘラケズリ・胴下内：ヘラケズリ	口縁端部煤付着、3182
SD3/1-458	SD3/001	土師器	羽釜	口：(21.4)	0.1～4.0	粗 良	石・長・チ・雲・赤	外：灰褐（7.5YR4/2） 内：明黄褐（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内ヨコナデ、胴外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビナデ／内：イタナデ	3308
SD3/1-459	SD3/001	土師器	鳥炉	底：(18.8)	0.5～4.0	やや粗 やや不	結・石・長・角・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	胴上外：同転ナデ／内：同転ナデ・底外：同転ナデ（粘土接合痕?）／内：同転ナデ	内面：スス付着、3003
SD3/1-460	SD3/001	土師器	羽釜	口：(20.0)	0.2～3.0	粗 良	石・長・チ・金雲・角・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/3） 内：灰黄褐（10YR6/2）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：ユビナデ／内：イタナデ	煤状鍔部、搬入品?、3279
SD3/1-461	SD3/001	土師器	羽釜		0.1～3.0	粗 やや不 良	石・長・赤	外：橙（7.5YR6/8）	胴下外：ユビナデ	煤付着、在地、3296
SD3/1-462	SD3/001	白磁	碗	高：(3.8) 口：(14.8)				外：オレイルの黄褐（10YGY5/35） 内：オレイルの黄褐（10YGY5/35）		2995

表 27　1号溝状遺構出土土製品観察表

番号	遺構	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	粒径	密度/焼成	胎土組成	色調	実測番号
SD3/1-119	SD3001	土錘	3.5	3.4	6.1	56.23	0.1 ～ 2.3	稠/やや不	石・長・チ・雲・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	4990
SD3/1-120	SD3001	土錘	1.2	1.15	4.65	6.2	0.1 ～ 1	稠/良	結・石・長・雲	外: 灰黄褐 (10YR4/2)	5019
SD3/1-121	SD3001	土錘	1.1	1.0	4.85	5.04	0.0 ～ 1	稠/良	長・雲・赤	外: 黒褐 (2.5YR3/1)	4989
SD3/1-122	SD3001	土錘	1.1	1.1	4.2	4.33	～ 1.0	稠/良	石・長・雲	外: 褐灰 (2.5YR5/3)	4958
SD3/1-123	SD3001	土錘	1.15	1.1	6.75	7.84	0.1 ～ 1	稠/良	石・長・雲	外: 黒褐 (2.5YR3/1.3/2)	4959
SD3/1-124	SD3001	土錘	1.25	1.2	5.95	7.91	0.1 ～ 1	稠/良	石・長・雲	外: 黒褐 (2.5YR3/1.3/2)	4960
SD3/1-125	SD3001	土錘	1.1	1.1	3.4	3.53	0.5 ～ 4.0	稠/良	結・石・長・雲	外: オリーブ黒 (7.5YR3/1)	4962
SD3/1-126	SD3001	土錘	1.25	1.15	3.75	4.53	0.1 ～ 2	稠/良	石・長・雲	外: 黒 (7.5YR2/1)	4963
SD3/1-127	SD3001	土錘	1.2	1.05	5.5	6.19	0.1 ～ 2	稠/良	石・チ・雲・赤	外: 黒褐 (10YR3/1)	4957
SD3/1-128	SD3001	土錘	1.2	1.2	6.6	8.73	0.5 ～ 2.0	稠/良	石・長・雲	外: 褐灰 (10YR4/1)	5015
SD3/1-129	SD3001	土錘	1.2	1.2	6.7	7.95	0.5 ～ 1.5	稠/良	石・長・雲	外: 褐灰 (10YR5/1)	5016
SD3/1-130	SD3001	土錘	1.15	1.1	5.85	6.1	0.1 ～ 1	稠/やや不	石・雲・赤	外: にぶい黄橙 (10YR7/2)	5017
SD3/1-131	SD3001	土錘	1.15	1.1	3.45	3.4	0.1 ～ 2	稠/やや不	石・長・雲・泥	外: 明褐 (7.5YS/6)	5014
SD3/1-132	SD3001	土錘	1.18	1.15	4.9	6.08	0.1 ～ 1	稠/やや不	石・長・雲	外: にぶい黄橙 (10YR7/3)	4953
SD3/1-133	SD3001	土錘	1.2	0.95	5.5	4.80	0.1 ～ 1	稠/不良	長・雲	外: 明褐灰 (5YR5/8)	5059
SD3/1-134	SD3001	土錘	1.2	1.1	3.95	4.52	0.1 ～ 0.5	軟/良	石・長・チ・泥	外: にぶい黄橙 (10YR4/3)	5063
SD3/1-135	SD3001	土錘	1.05	1.05	3.35	3.0	0.1 ～ 1	良/不良	長・チ・雲・赤	外: 灰黄 (2.5Y7/2)	5064
SD3/1-136	SD3001	土錘	0.95	0.85	3.95	2.55	0.1 ～ 1.5	良/やや不	石・長・チ・雲・赤	外: 褐 (7.5YR4/3)	5066
SD3/1-137	SD3001	土錘	1.0	0.95	4.2	3.50	0.1 ～ 1.9	良/やや不	長・雲	外: 浅黄 (2.5YR7/4)	5024
SD3/1-138	SD3001	土錘	1.1	1.1	5.8	6.15	0.1 ～ 1	稠/良	石・長・雲・赤・砂	外: にぶい黄 (10YR6/3)	5018
SD3/1-139	SD3001	土錘	1.2	1.15	4.8	5.8	0.1 ～ 0.5	稠/良	石・雲	外: 灰黄褐 (10YR5/2)	5020
SD3/1-140	SD3001	土錘	1.3	1.2	5.7	8.0	0.1 ～ 1	稠/良	結・石・雲・赤	外: にぶい橙 (7.5YR7/4)	5021
SD3/1-141	SD3001	土錘	1.05	1.05	4.65	4.6	0.1 ～ 2	稠/良	石・長・雲	外: 黒褐 (10YR3/1)	5022
SD3/1-142	SD3001	土錘	1.15	1.15	4.95	6.08	01 ～ 2.6	良/やや不	石・長・雲	外: 黒褐 (5YR3/1)	5023
SD3/1-143	SD3001	土錘	0.95	0.95	3	2	0.1 ～ 2	稠/不良	石・長・雲・赤	外: 明褐 (7.5YR5/8)	5067
SD3/1-144	SD3001	土錘	1.2	1.2	5.35	6.09	0.1 ～ 2	稠/良	長・雲	外: 黒 (10YR2/1)	5025
SD3/1-145	SD3001	土錘	1.1	1.1	4.1	4.3	0.1 ～ 2.5	良/やや不	石・長・雲	外: 褐灰 (10YR4/1)	5026
SD3/1-146	SD3001	土錘	1.2	1	4.6	5.25	0.1 ～ 2	良/良	結・石・長・赤	外: 暗灰黄 (2.5Y4/2)	5027
SD3/1-147	SD3001	土錘	1.1	1.05	3.7	4.65	0.1 ～ 1	稠/良	石・長・雲・赤	外: にぶい黄橙 (10YR6/6)	5028
SD3/1-148	SD3001	土錘	1.1	1.1	4.55	4.7	0.1 ～ 1.5	良/良	結・石・雲	外: 黒褐 (2.5YR3/1)	5029
SD3/1-149	SD3001	土錘	1.1	1.0	3.7	3.9	0.1 ～ 3	良/やや不	結・石・長	外: 灰黄褐 (10YR4/2)	5030
SD3/1-150	SD3001	土錘	1.15	1.15	2.75	2.4	0.1 ～ 0.5	良/不良	結・石・長・雲	外: 橙 (5YR6/8)	5068
SD3/1-151	SD3001	土錘	1.1	0.95	4.05	3.37	0.1 ～ 1	良/やや不	長・雲・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5031
SD3/1-152	SD3001	土錘	1.25	1.15	3.65	3.67	0.1 ～ 1	良/やや不	石・長・赤	外: にぶい黄橙 (10YR7/4)	5032
SD3/1-153	SD3001	土錘	1.15	1.05	3.1	3.24	0.1 ～ 3	稠/やや不	石・雲	外: 橙 (7.5YR6/8)	5035
SD3/1-154	SD3001	土錘	1.15	1	5.1	5.1	0.1 ～ 1.5	良/やや不	結・石・長・雲	外: 褐灰 (10YR4/1)	5040
SD3/1-155	SD3001	土錘	1.15	1.05	6.1	5.91	0.1 ～ 3.5	良/良	結・石・長・雲・赤	外: 黒褐 (2.5YR3/2)	5041
SD3/1-156	SD3001	土錘	1.15	1.1	3.4	3.8	0.1 ～ 2	稠/不良	石・長・雲・赤	外: 明褐 (7.5YR5/6)	5042
SD3/1-157	SD3001	土錘	1.3	1.3	3.95	4.58	0.5 ～ 3.0	良/不良	結・石・長・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5076
SD3/1-158	SD3001	土錘	1.3	1.25	(4.05)	5.07	0.1 ～ 1	稠/やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5047
SD3/1-159	SD3001	土錘	1.01	1.0	4.1	3.40	0.1 ～ 1	良/やや不	石・長・雲・赤	外: 明黄褐 (10YR6/6)	5048
SD3/1-160	SD3001	土錘	1.2	1.05	4.2	4.78	0.2 ～ 2.0	良/やや不	結・石・長・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5089
SD3/1-161	SD3001	土錘	1.0	1.0	2.5	2.05	0.1 ～ 2.2	良/やや不	結・雲・赤	外: 明赤褐 (5YR5/6)	5090
SD3/1-162	SD3001	土錘	1.0	0.9	2.2	1.19	0.1 ～ 2.7	良/不良	石・長・雲	外: 橙 (5YR6/8)	5091
SD3/1-163	SD3001	土錘	1.05	1	3.8	3.73	0.1 ～ 1	良/やや不	石・雲・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5101
SD3/1-164	SD3001	土錘	1.2	1.15	3.6	3.4	0.1 ～ 1.5	良/やや不	石・長・チ・雲・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5102
SD3/1-165	SD3001	土錘	1.1	1.05	4.1	4.22	0.1 ～ 4	良/良	石・雲・赤	外: 暗灰黄 (2.5YR4/2)	5103
SD3/1-166	SD3001	土錘	1	1	～ 3.35	3.5	～ 0.5	軟/やや不	石・赤	外: 明赤褐 (5YR5/8)	5104
SD3/1-167	SD3001	土錘	1.2	1.15	6.5	6.5	0.1	稠/良	雲・角	外: 黒 (2.5YR2/1)	5111
SD3/1-168	SD3001	土錘	1.25	1.15	2.75	3.3	0.1 ～ 1	良/不良	結・石・長・雲・赤	外: 灰黄褐 (10YR6/2)	5112
SD3/1-169	SD3001	土錘	1.1	1.1	6.45	6.8	0.1 ～ 3	良/やや不	結・石・赤	外: 褐灰 (10YR4/1)	5116
SD3/1-170	SD3001	土錘	0.95	0.9	1.65	0.95	～ 1.0	良/不良	石・雲・赤	外: にぶい橙 (7.5YR6/4)	5120
SD3/1-171	SD3001	土錘	1.18	1.1	4.2	3.77	0.5 ～ 3.0	良/不良	結・石・雲・赤	外: にぶい橙 (7.5YR6/6)	5121
SD3/1-172	SD3001	土錘	1.2	1.1	5.0	5.80	0.1 ～ 3.5	稠/良	石・雲	外: にぶい黄橙 (10YR5/4)	5122
SD3/1-173	SD3001	土錘	1.15	1.1	5.8	5.9	～ 2.5	良/やや不	結・石・チ・赤	外: 褐 (10YR4/4)	5123
SD3/1-174	SD3001	土錘	1.35	1.35	4.4	7.0	0.1 ～ 4.5	粗/不良	結・石・長・雲	外: 橙 (7.5YR6/4)	5124
SD3/1-175	SD3001	土錘	1.2	1.2	6.35	7.92	0.1 ～ 1	稠/やや不	石・長・雲	外: にぶい黄橙 (10YR6/3)	5127
SD3/1-176	SD3001	土錘	1.15	1.15	5.1	5.72	0.1 ～ 1	稠/やや不	石・長・角	外: にぶい黄橙 (10YR6/3)	5128
SD3/1-177	SD3001	土錘	1.18	1.1	5.1	5.82	0.1 ～ 1	良/やや不	石・長・雲・赤	外: にぶい黄橙 (10YR6/3)	5129
SD3/1-178	SD3001	土錘	1.15	1.05	2.89	2.96	0.1 ～ 3.5	良/不良	結・石・長・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5130
SD3/1-179	SD3001	土錘	1.10	1.00	4.60	3.95	0.5 ～ 1.0	良/不良	結・石・長・赤	外: 浅黄橙 (10YR8/3)	5131
SD3/1-180	SD3001	土錘	1.15	1.00	5.90	5.85	0.5 ～ 1.0	良/やや不	石・長・赤	外: にぶい黄橙 (10YR6/3)	5132
SD3/1-181	SD3001	土錘	1.15	0.9	2.55	2.08	0.1 ～ 2.8	良/やや不	石・長・雲	外: にぶい褐 (7.5YR5/3)	5134
SD3/1-182	SD3001	土錘	1.2	1.1	7.0	8.69	0.1 ～ 2	良/良	石・長・雲・赤	外: にぶい褐 (7.5YR5/3)	5135
SD3/1-183	SD3001	土錘	1.3	1.25	4.35	5.80	0.1 ～ 6	粗/やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外: 明赤褐 (5YR5/8)	5144
SD3/1-184	SD3001	土錘	1.25	1.15	4.3	3.9	0.1 ～ 4	良/不良	石・長・赤・泥	外: 橙 (5YR5/8)	5145
SD3/1-185	SD3001	土錘	1.2	1.1	3.45	3.94	0.1 ～ 5	稠/やや不	長・雲	外: 灰黄褐 (10YR4/2)	5133
SD3/1-186	SD3001	土錘	1.1	1.08	3.2	2.67	0.1 ～ 2	良/不良	石・長・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5065
SD3/1-188	SD3001	土錘	1.3	0.7	3.15	1.9	0.1 ～ 1	良/不良	石・長・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5054
SD3/1-189	SD3001	土錘	1.1	1.05	5.5	5.5	0.1 ～ 3	良/やや不	結・石・長・雲	外: 褐灰黄 (2.5Y4/2)	5055
SD3/1-190	SD3001	土錘	1.15	1.1	2.4	2.25	0.1 ～ 2.5	良/不良	石・長・雲・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	5056
SD3/1-191	SD3001	土錘	1.25	1.15	3.65	5.2	0.1 ～ 0.5	稠/良	石・長・雲・赤	外: 褐灰 (10YR4/1)	5058
SD3/1-192	SD3001	土錘	1.02	0.92	3.0	2.8	～ 0.5	良/不良	石・長・雲	外: 明黄褐 (10YR6/6)	5088
SD3/1-463	SD3001	土錘	(2.6)	1.0	0.9	(2.0)	～ 1.0	稠/やや不	石・赤	外: 橙 (7.5YR6/6)	3175
SD3/1-464	SD3001	土錘	(4.6)	1.3	1.3	6.04	0.2 ～ 1.5	稠/良	結・石・長・雲	外: 明赤褐 (5YR5/6)	3229
SD3/1-465	SD3001	土錘	(3.05)	1.05	9.5	(2.5)	0.1 ～ 1.0	稠/良	石・長・赤	外: 橙 (7.5YR7/6)	3231
SD3/1-466	SD3001	土錘	(3.4)	1.0	1.05	(3.1)	0.1 ～ 3.5	稠/やや不	石・長・雲・赤	外: 黒 (5Y2/1)	3176

表 28　1 号溝状遺構出土石器観察表

掲載番号	遺構	石材	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	実測番号
SD3/1-S1	SD3001	サヌカイト	剥片	3.9	5.4	0.7	15.6	3213
SD3/1-S2	SD3001	結晶片岩	不明	4.6	2.5	0.8	9.3	3305
SD3/1-S3	SD3001	砂岩	不明	8.0	7.0	7.8	417.8	5164
SD3/1-S4	SD3001	砂岩	磨石	11.5	10.8	7.9	548	3309
SD3/1-S5	SD3001	砂岩	仕上砥	8.7	5.8	2.3	166.5	5003
SD3/1-S6	SD3001	砂岩	磨石	9.5	6.3	3.5	279.8	3385
SD3/1-S7	SD3001	砂岩	磨石	12.9	9.5	6.0	490	3312
SD3/1-S8	SD3001	砂岩	磨石	6.65	6.6	1.4	74.8	3313
SD3/1-S9	SD3001	砂岩	磨石	13.5	9.7	5.1	798.1	5165
SD3/1-S10	SD3001	砂岩	磨石	13.9	12.7	11.9	2470.7	3340
SD3/1-S11	SD3001	砂岩	磨石	10.9	7.2	6.7	917.7	3339
SD3/1-S12	SD3001	砂岩	磨石	17.1	12.5	6.7	1429	5160
SD3/1-S13	SD3001	砂岩	磨石	(17.2)	(9.7)	(9.0)	(2573.6)	5162
SD3/1-S14	SD3001	砂岩	磨石	14.0	7.3	5.6	900.8	3345
SD3/1-S15	SD3001	砂岩	磨石	37.1	11.5	14.0	8400	3356
SD3/1-S16	SD3001	砂岩	磨石	28.6	16.0	6.4	5594.3	5167
SD3/1-S17	SD3001	砂岩	磨石	15.9	7.9	8.4	1575.1	3379
SD3/1-S18	SD3001	砂岩	磨石	8.4	4.3	4.6	277.2	5006

表 29　1 号溝状遺構鉄器観察表

掲載番号	遺構	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	実測番号
SD3/1-M1	SD3001	刀子	23.1	2.5	6.5	3561
SD3/1-M2	SD3001	刀子	20.4	2.5	2.5	3560
SD3/1-M3	SD3001	刀子	4.7	2.2	0.9	5154
SD3/1-M4	SD3001	刀子	4.3	1.2	1	5155
SD3/1-M6	SD3001	直刀	6.04	2.7	0.38	3566
SD3/1-M5	SD3001	直刀	3.9	2.8	1.3	3565
SD3/1-M7	SD3001	鏃	9.9	1.6	0.7	5149
SD3/1-M8	SD3001	鏃	4.5	0.6	0.6	5248
SD3/1-M9	SD3001	曲刃鎌	7.1	2.2	0.32	3568
SD3/1-M10	SD3001	釘	4.0	1.1	1.0	3562
SD3/1-M11	SD3001	釘	4.4	0.8	0.7	5247
SD3/1-M12	SD3001	釘	3.65	0.7	0.6	5250
SD3/1-M13	SD3001	不明	4.1	1.6	1	3563
SD3/1-M14	SD3001	不明	6.3	1.8	1.3	5152
SD3/1-M15	SD3001	スラグ	7.1	8.1	2.3	5156

表 30　1 号溝状遺構玉類観察表

番号	遺構番号	器種	材質	色調	重量（g）	直径（mm）	高さ（mm）	備考	実測番号
SD3/1-D1	SD3001	棗玉	ガラス	10YG6.5/5S	0.06	4.68	2.69		3389

SD3/1-198 は土師器の胎土で、内外面に発泡が観察されており、被熱による 2 次焼成で須恵器質に変化か。土師器杯 SD3/1-228 は口縁部に煤が付着する。土師器皿 SD3/1-230 は煤が付着しており灯明皿である。土師器杯 SD3/1-234 は口縁部内面と底部外面に煤が付着する。土師器杯 SD3/1-239 は内側からの穿孔が施されている。土師器杯 SD3/1-246 は内面に篦状工具による 3 条の暗文状のミガキが施される。土師器杯 SD3/1-250 は内側からの底部穿孔が施される。土師器杯 SD3/1-253 は内面に被熱赤変が観察される。土師器杯 SD3/1-278 は底部に穿孔が施される。土師器杯 SD3/1-2838 は胎土中に金雲母を含み、他地域からの搬入品の可能性がある。土師器杯 SD3/1-300 は口縁部に煤が付着する。土師器皿 SD3/1-304 は内面に煤が付着しており灯明皿である。黒色土器 B 類椀 SD3/1-308 は体部に打ち欠きを施す。黒色土器 B 類椀 SD3/1-309 は赤色顔料塗布か?。黒色土器 B 類 SD3/1-310 は内側からの底部穿孔を施す。土師器高台付椀 SD3/1-311 は口縁部に打ち欠きを施す。黒色土器 B 類椀 SD3/1-314 は内面に赤色顔料塗布する。黒色土器 B 類椀 SD3/1-316 は吉野川流域からの搬入品か。黒色土器 B 類椀 SD3/1-317 は内面に赤色顔料塗布する土師器杯 SD3/1-340 は 2 次焼成焼成による煤が付着する土師器高台付椀 SD3/1-344 は体部に打ち欠きを施し転用皿である。黒色土器 B 類高台付椀 SD3/1-353 は外面赤色磨研を施す。黒色土器 B 類椀に体部を打ち欠きを施して皿に転用する個体例が多く、煤が付着することから灯明皿として用いたと推定される。2 次焼成による被熱赤赤変した土師器高台付椀や杯類の供膳具が多い。

出土遺物から 8 世紀後半の掘削・埋没年代が与えられる。

2 号溝状遺構（SD3002）（図 185 ～ 189）

旧 B3 区 SD4003,B2 区 SR4003 である。

SR3001 南方から東西方向の真っ直ぐ延び、B9 グリッド付近にて南へ曲がり 11m 延びた後に、T10 グリッド付近にて再び東へ直線状に延びる溝状遺構である。最上流部で幅 0.75m、深度 0.7m、屈曲箇所幅 1.5m、深度 0.45m、最下流側で幅 1.1m、深度 0.6m を測る。

下層は灰色粘質土と灰色粘性砂質土が互層である。中層はにぶい黄褐色粘性砂質土である。

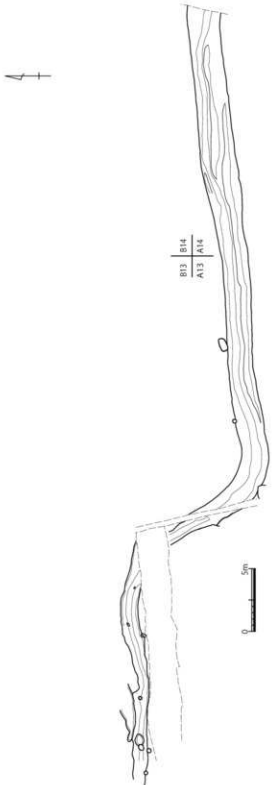


図 185　2 号溝状遺構（SD3002）遺構図（1）

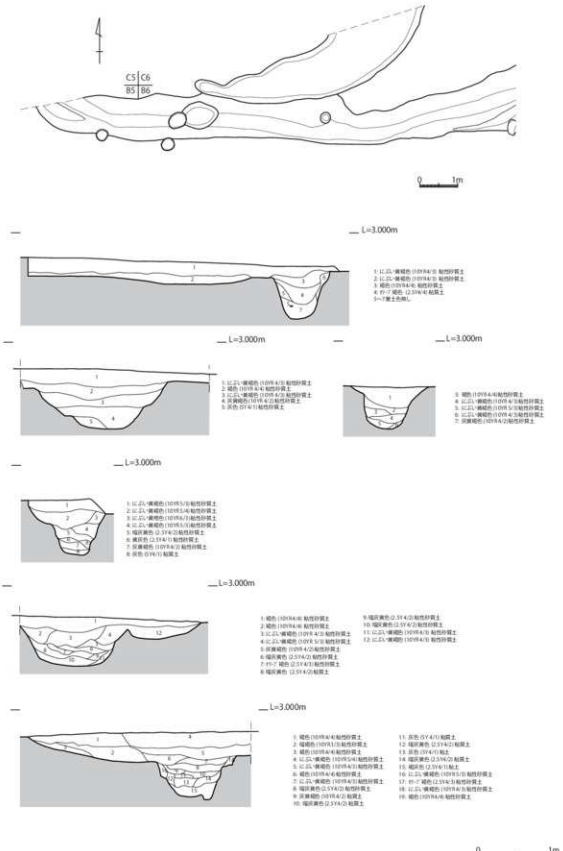


図 186　2 号溝状遺構（SD3002）遺構図（2）

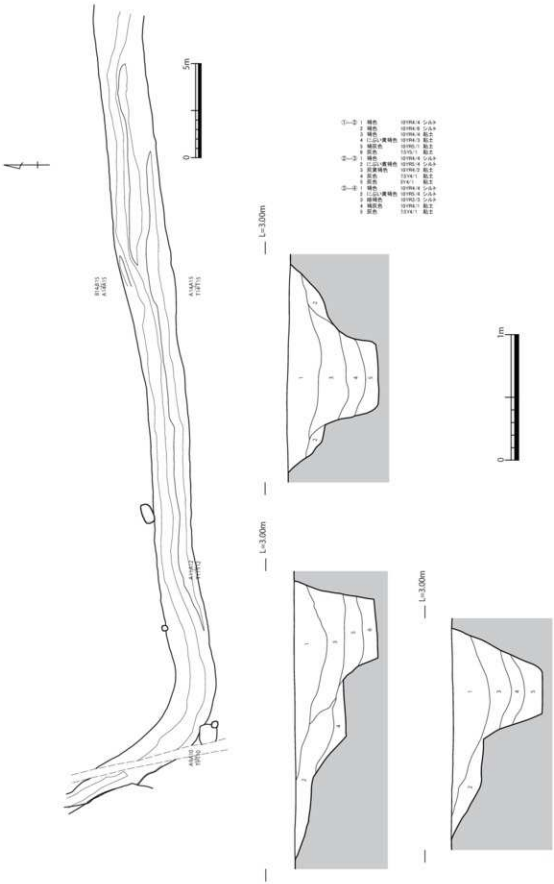


図 187　2 号溝状遺構（SD3002）遺構図（3）

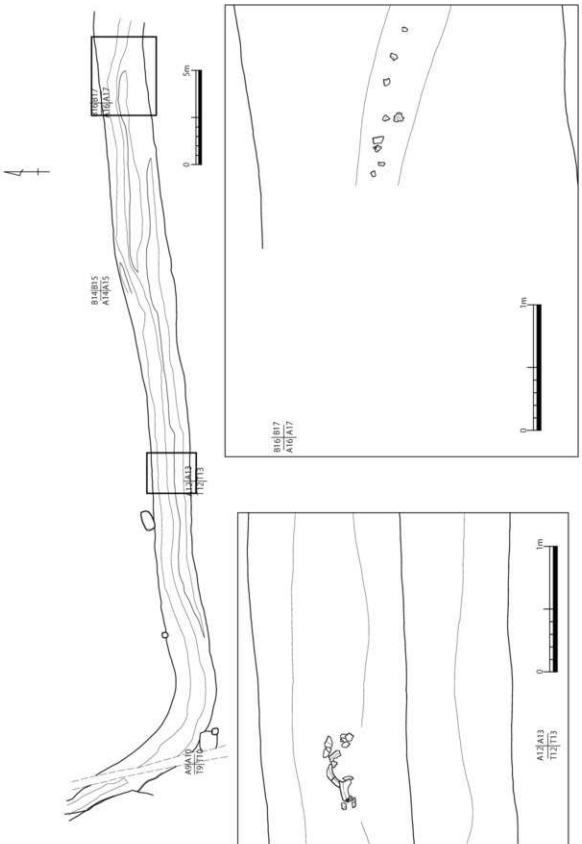


図 188　2 号溝状遺構（SD3002）遺物出土状況図

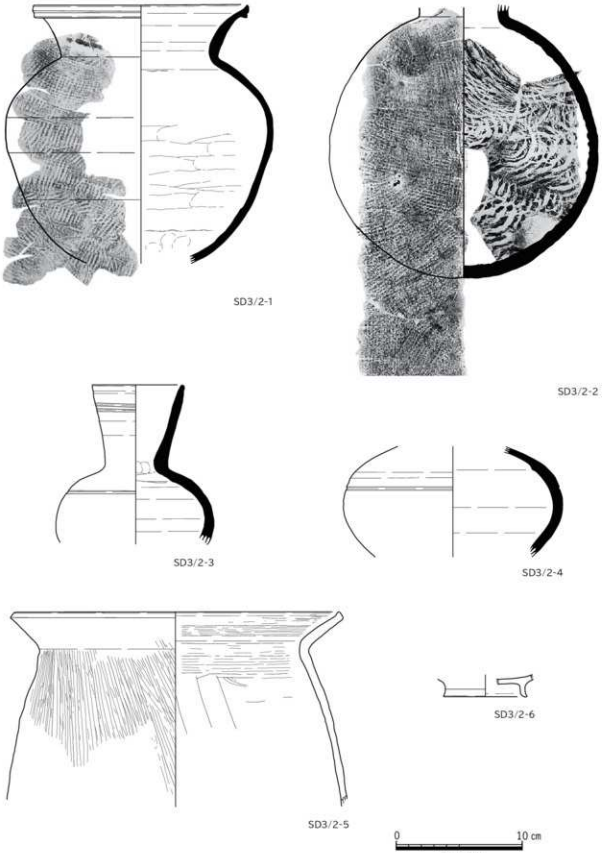


図 189　2 号溝状遺構（SD3002）遺物図

表 31　2 号溝状遺構出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度 堆積	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3/2-1	SD3002	須恵器	甕	口：(16.8) 頸：(12.5) 胴：(21.0)	0.1～0.3	粗 良	石・長・チ・赤	外：灰（N5/0） 内：灰（5Y6/1）	口外：回転ナデ / 内：回転ナデ・輪外：回転ナデ / 内：回転ナデ・頸上外：平行タタキ→ケキ目（6 条 1 cm）/ 内：ユビオサエ→ユビナデ・頸下外：平行タタキ / 内：ユビオサエ→ユビナデ・底内：ユビオサエ→ユビナデ	5918
SD3/2-2	SD3002	須恵器	横瓶	頸：(7.1) 胴：(21.4)	～2.0	粗 良	石・長	外：灰（7.5Y4/1） 内：灰（7.5Y5/1）	頸外：回転ナデ / 内：タタキ（斜角皮文）・頸上外：平行タタキ / 内：タタキ（斜角皮文）・頸下外：平行タタキ / 内：タタキ（斜角皮文）・底外：平行タタキ / 内：タタキ（斜角皮文）	4822
SD3/2-3	SD3002	須恵器	壺	口：7.4 頸：(5.2) 胴：(12.6)	0.1～0.5	良 良	石・長	外：紫黒（5P1/1） 内：灰（N6/1）	口外：回転ナデ / 内：回転ナデ・輪外：回転ナデ / 内：回転ナデ→ユビオサエ・頸上外：回転ナデ / 内：回転ナデ・頸下外：回転ヘラケズリ→ナデ	自然地　発掘　大タメキ、5774
SD3/2-4	SD3002	須恵器	壺	頸：(17.4)	0.2～2.5	粗 良	石・長・赤	外：灰（N5/0） 内：灰（N4/0）	・頸上外：回転ナデ / 内：回転ナデ・頸下外：回転ヘラケズリ→回転ナデ / 内：回転ナデ	5773
SD3/2-5	SD3002	土師器	甕	口：25.8 頸：21.4	0.1～4.0	やや粗 やや良	砂・石・長・チ・雲	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	口外：ヨコナデ / 内：ハケ（6 条 1 cm）・頸上外：ハケ（12 条 3 cm）/ 内：ハケ→イタナデ	外面体部煤付着、5755
SD3/2-6	SD3002	土師器	高台付椀	高台（6.7）	0.1～3.5	粗 やや良	長・雲・赤	外：橙（5YR7/8） 内：灰褐（7.5YR5/2）	・底外：ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ / 内：回転ナデ→ヘラミガキ（渦巻）	5996

最上流側が 1 号自然流路（SR3001）南岸に端を発し、最上流部の溝掘削地盤高 2.75m、溝基底部高は標高 1.9m を測り、最下流側溝掘削地盤高 245m、溝基底部高は標高 1.8m を測り、緩やかに傾斜している。SR3001 内に築かれた石組みによる滞水を水源としたと推定される。

須恵器類が出土しているが、何れも 1 号墳（SM3001）に伴う須恵器と推定される。

2 号溝状遺構に先行することから、8 世紀前半の掘削と 8 世紀後半の埋没が想定される。

(3) 土坑（SK）

1 号土坑（SK3001）（図 200）

山路地区・旧 B3 区 C14 グリッドにて検出された旧 SK2025 である。

平面形態は隅丸長方形を、断面形態は台形を呈する。長軸長 0.82m、短軸長 0.63m、深度 0.27m、主軸方位 N-82.70°-E を測る。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土である。3 層中よりじゃ時期転用皿が割石と共に出土した。転用皿 SK3-1 は脚台付盤の体部を打ち欠くことにより , 脚台付皿状に転用したと推定される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

2 号土坑（SK3002）（図 200）

山路地区・旧 B3 区 A14 グリッドにて検出された旧 SK2022 である。

平面形態は不整楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.47m、短軸長 2.16m、深度 0.13m、主軸方位 N-70.90°-W を測る。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器高台付杯が出土した。高台付杯 SK3-2 は体部上半に打ち欠きを施しており、転用皿の可能性がある。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

3 号土坑（SK3003）（図 201）

山路地区・旧 B3 区 Q14 グリッドにて検出された旧 SK1040 である。

平面形態は不整楕円形を、断面形態は舟形を呈する。長軸長 1.20m、短軸長 0.94m、深度 0.05m、主

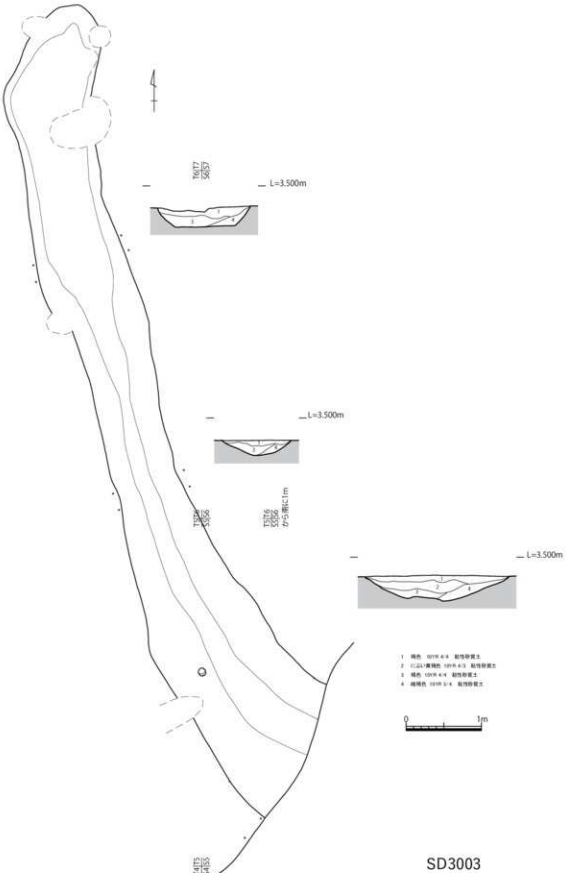
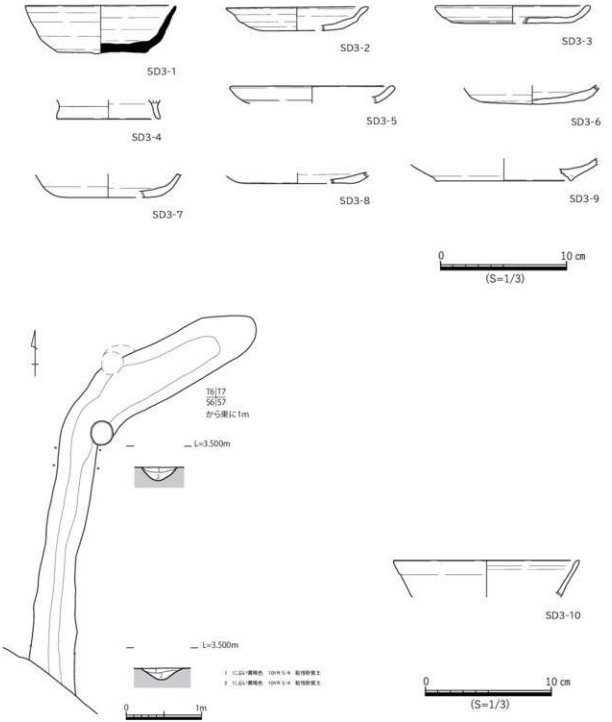


図 190　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図（1）



SD3004

図 191　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図（2）・遺物図（1）

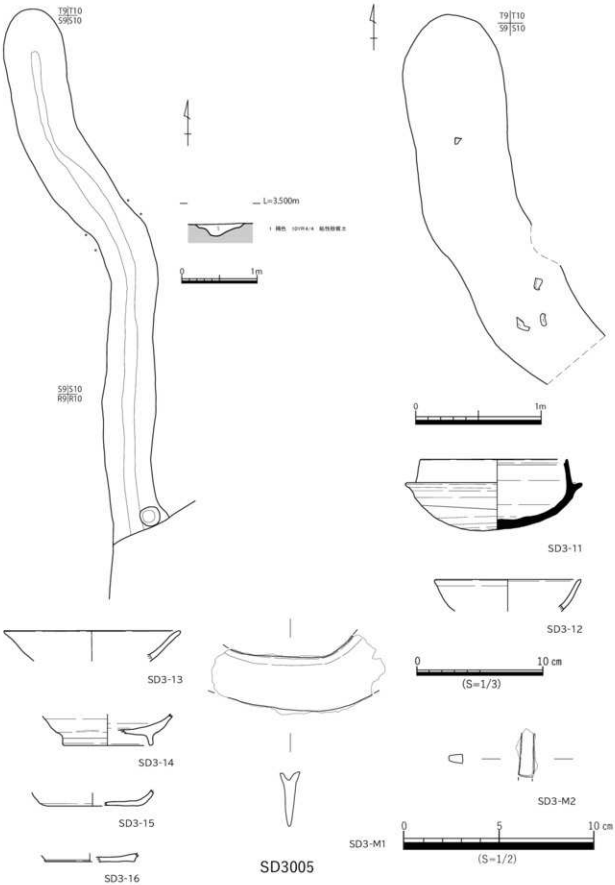


図 192　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図（3）・遺物図（2）

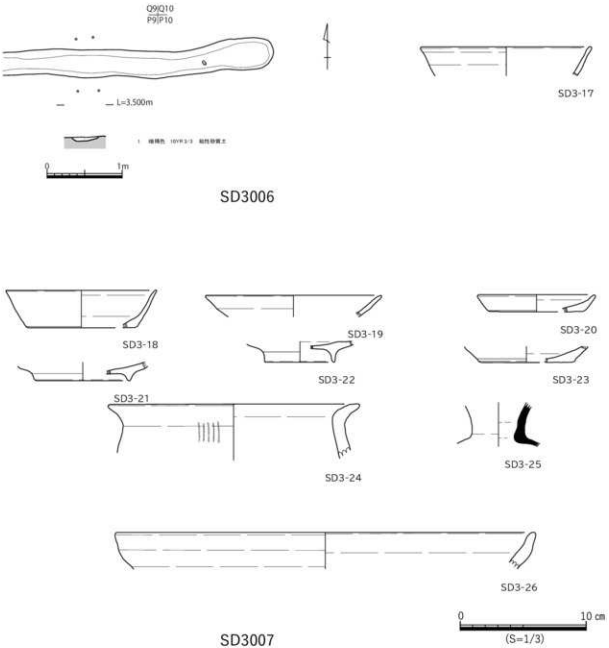
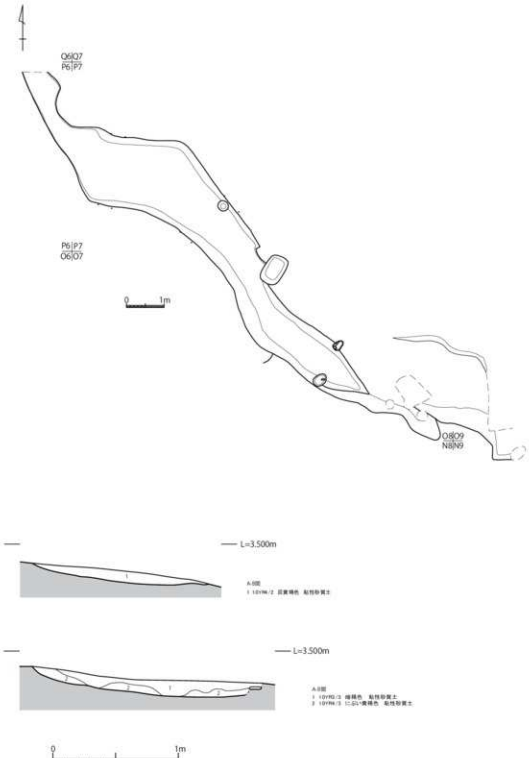
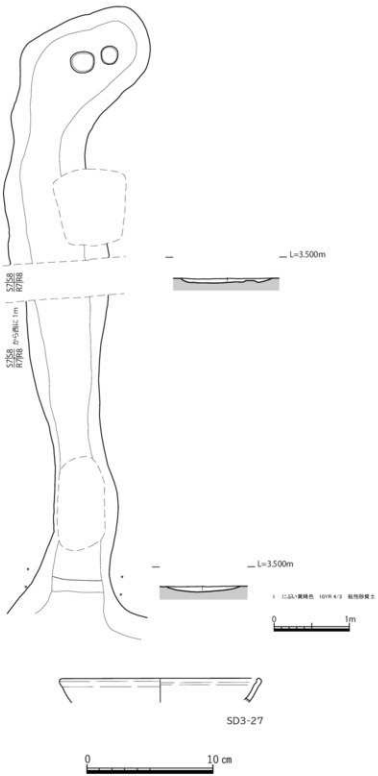


図 193　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図（4）・遺物図（3）



SD3007

図 194　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図（5）・遺物図（4）



SD3008

図 195　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図（6）・遺物図（5）

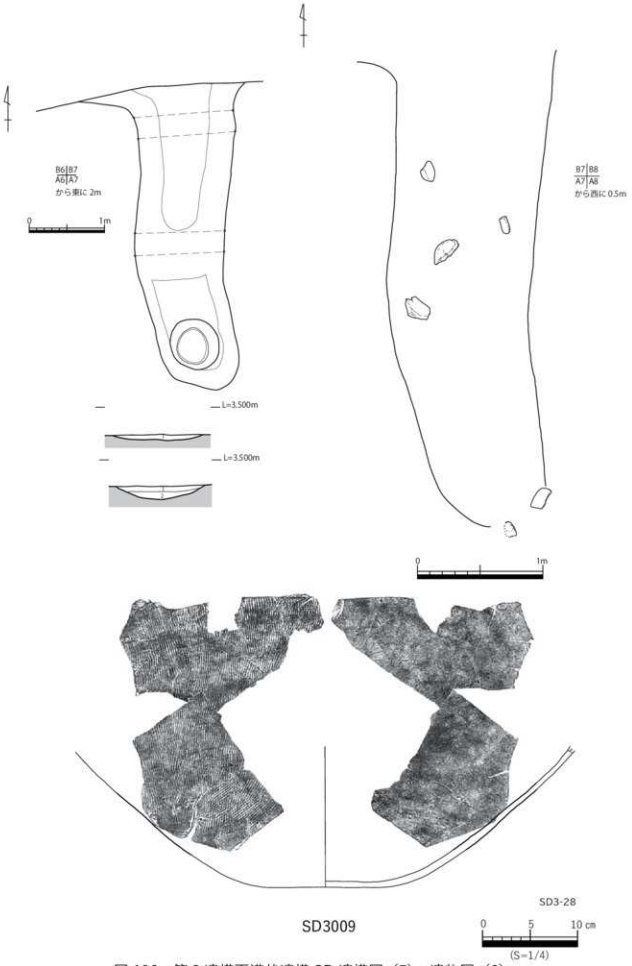


図 196　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図（7）・遺物図（6）

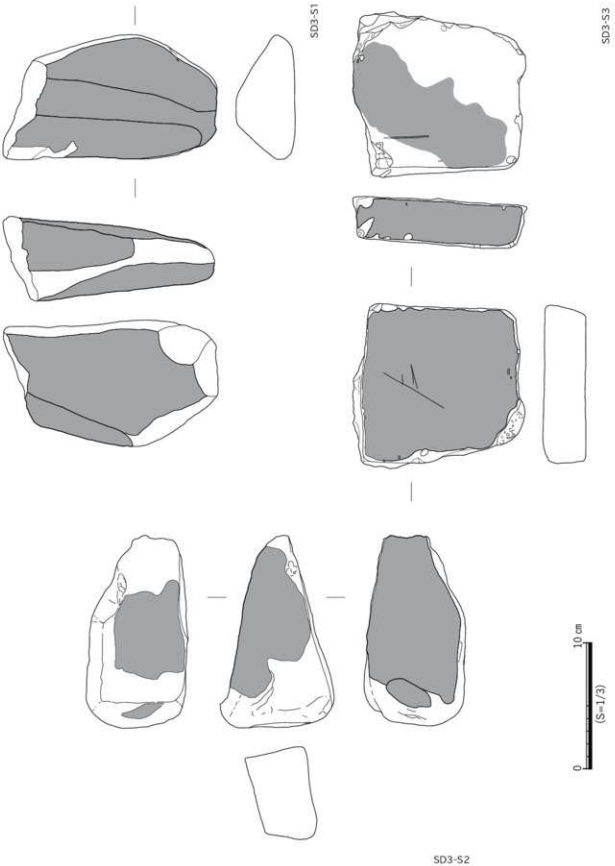


図 197　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺物図（7）

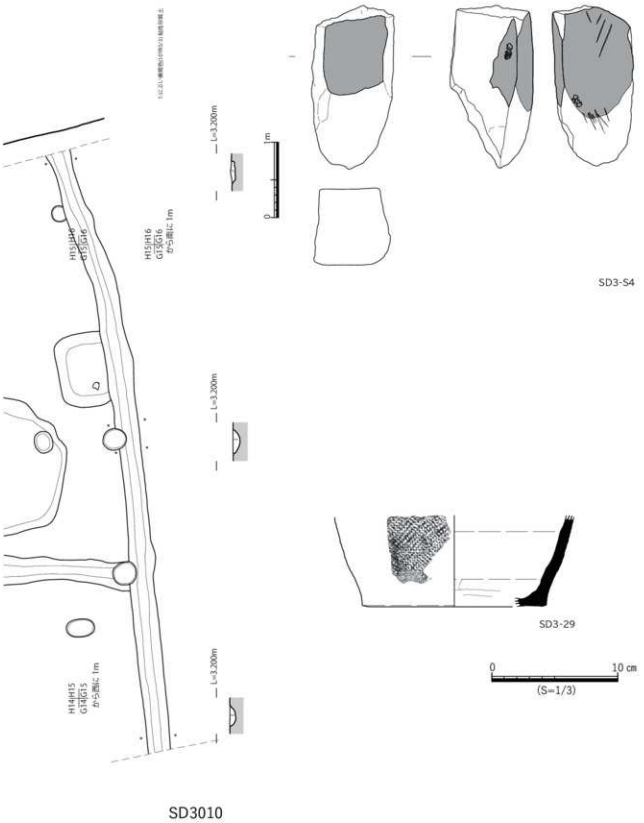


図 198　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図（9）・遺物図（8）

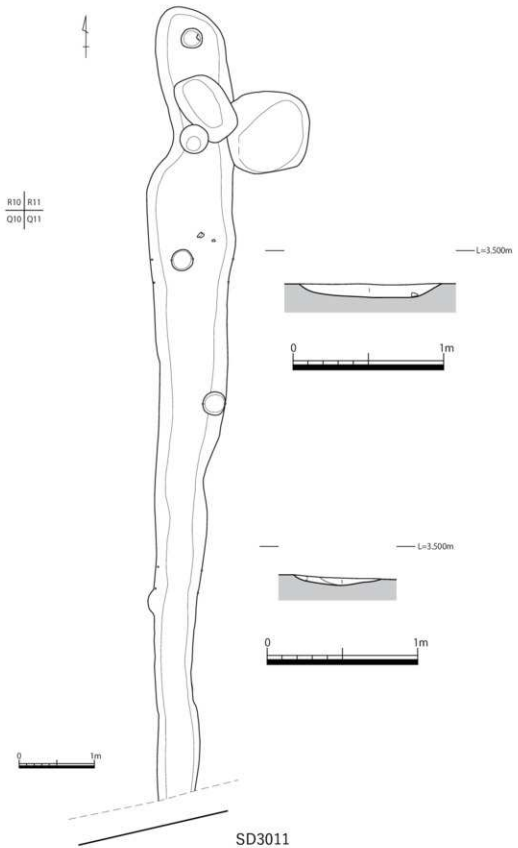


図 199　第 3 遺構面溝状遺構 SD 遺構図（10）

表 32　溝状遺構出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	密度構成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SD3-1	SD3003	須恵器	杯身	高:3.8 口:(11.8) ・底:7.0	0.1 ～ 2.0	堆積	石・長・泥	外:明青灰(5PB7/1) 内:明青灰(5PB7/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り →イタナデ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り。4496
SD3-2	SD3003	土師器	皿	高:(1.8) 口:(11.4)・底:(6.3)	0.1 ～ 5.0	為ややそ	石・長・黒・赤	外:淡黄橙(7.5YR8/6) 内:橙(7.5YR6/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	内面赤色顔料塗布。4489
SD3-3	SD3003	土師器	皿	高:(1.4) 口:(12.2)・底:(7.2)	0.5 ～ 5.0	粗ややそ	結・石・長・黒・赤	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:静止→ヘラ切り →ヘラナデ/内:回転ナデ	4496
SD3-4	SD3003	土師器	高台付椀	高台:(8.2)	0.1	中や粗疎	長・黒・赤	外:淡黄橙(7.5YR8/6)	底外:回転ナデ/内:回転ナデ	4494
SD3-5	SD3003	土師器	皿	口:(12.8)	0.1 ～ 3.0	粗やや疎	石・長・黒・赤	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	4497
SD3-6	SD3003	土師器	杯	底:8.2	0.1 ～ 6.5	中や粗疎	結・石・長・赤	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/3)	底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	4491
SD3-7	SD3003	土師器	杯	底:(7.0)	0.1 ～ 6.0	中や粗疎	結・石・長・黒・赤	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:橙(7.5YR6/6)	脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:静止→ヘラ切り→ユビナデ/内:回転ナデ	4495
SD3-8	SD3003	土師器	皿	底:(8.6 9	0.1 ～ 1.0	為ややそ	石・長・チ・黒・赤	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	4493
SD3-9	SD3003	土師器	椀	高:(2.4)・底:(10.8)	0.1 ～ 2.0	為ややそ	石・長・黒・赤	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:橙(7.5YR6/6)	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ	4490
SD3-10	SD3004	土師器	杯	口:(14.8)	0.1 ～ 2.0	為ややそ	石・長・黒・赤	外:にぶい橙(5YR7/6) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ	4499
SD3-11	SD3005	須恵器	杯身	高:5.65 口:(11.5) 脚:(14.1)	0.1 ～ 3.0	為ややそ	石・長・黒	外:灰(N6/0) 内:灰(N6/0)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り。ゆがみ有。4507
SD3-12	SD3005	土師器	杯	口:(44.5)	0.1 ～ 0.75	為ややそ	長・黒・赤・金雲・赤	外:にぶい黄橙(10YR5/3) 内:にぶい黄橙(10YR5/3)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ	4506
SD3-13	SD3005	土師器	杯	口:(14.0)	0.1 ～ 3.5	為やそ	石・長・チ・黒・赤	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	4502
SD3-14	SD3005	土師器	高台付椀	底:(7.2)	0.5 ～ 4.0	為ややそ	結・石・長・黒・赤	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:橙(7.5YR7/6)	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:高台貼付(粘土接合痕)→ユコナデ	転用皿の可能性あり。在地。胎土にザラつき感強い。胎土分析在地?。4503
SD3-15	SD3005	土師器	皿	底:(7.4)	0.1 ～ 3.0	為やそ	石・長・黒・赤	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:橙(7.5YR6/6)	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ/内:回転ナデ	4504
SD3-16	SD3005	土師器	皿	高:(0.7)・底:(7.0)	0.1 ～ 2.0	中や粗疎	石・長・金雲・赤	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR7/6)	脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	4505
SD3-17	SD3006	土師器	杯	高:(2.3) 口:(13.4)	0.1 ～ 3.5	為や	石・長・黒・赤	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ	4508
SD3-18	SD3007	土師器	杯	高:2.95 口:(11.6)・底:(8.6)	0.1 ～ 3.0	為不良	結・石・長・黒・赤	外:橙(2.5YR7/6) 内:橙(2.5YR7/6)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	被熱赤変。4604
SD3-19	SD3007	土師器	杯	口:(13.85)	0.2 ～ 2.0	為不良	石・長・チ・黒・赤	外:黄橙(7.5YR7/8) 内:橙(7.5YR6/8)	脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	4602と同一個体。4603
SD3-20	SD3007	土師器	皿	高:1.35 口:(9.2)・底:(7.6)	0.1 ～ 1.5	為	石・長・黒・赤・泥	外:黒褐(10YR3/1) 内:黒褐(10YR3/1)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:静止→ヘラ切り/内:回転ナデ	4608
SD3-21	SD3007	土師器	高台付椀		0.1 ～ 1.5	為やそ	石・長・黒・赤・泥	外:橙(5YR6/8) 内:黒褐(10YR3/1)	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ→ヘラ(潜縄)・高台貼付→回転ナデ/内:回転ナデ	4603
SD3-22	SD3007	土師器	高台付椀		0.1 ～ 2.0	為不良	石・長・黒・赤・泥	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ	4605
SD3-23	SD3007	土師器	杯		0.2 ～ 5.0	為不良	石・長・チ・黒・赤・泥	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:橙(7.5YR7/6)	底外:ヘラナデ/内:回転ナデ	4602
SD3-24	SD3007	須恵器	甕	口:(19.7) 頸:(17.6)	0.1 ～ 5.0	為ややそ	石・長・チ・黒・赤・泥	外:明赤褐(5YR5/8) 内:明赤褐(5YR5/7)	口外:ユビナデ/内:ユビナデ・頸外:イタナデ/内:イタナデ	在地?。4606
SD3-25	SD3007	須恵器	提瓶	頸:(4.2)	0.2	為良	長・黒	外:灰(N5/0) 内:灰(N6/0)	頸外:回転ナデ/内:回転ナデ	4610
SD3-26	SD3007	土師器	甕	口:(33.2)	1.0 ～ 5.0	粗不良	結・石・長・黒・赤	外:明黄橙(10YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	口外:ヨコナデ/内:ヨコナデ	4607
SD3-27	SD3008	土師器	杯	高:(1.9) 口:(15.6)	0.1 ～ 2.0	為ややそ	石・長・黒・赤	外:灰(7.5Y5/1) 内:浅黄(2.5Y7/3)	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ	4501
SD3-28	SD3009	須恵器	甕	底:(9.6)	0.2 ～ 2.5	為	石・長・雲	外:灰(N6/0) 内:灰(N6/0)	脚下外:平行タタキ/内:ユビナデ・底外:平行タタキ/内:ユビナデ	4678
SD3-29	SD3010	須恵器	甕	底:(19.5)	0.1 ～ 0.5	為	石・長・チ	外:灰(N6/0) 内:褐灰(10YR6/1)	脚下外:格子タタキ→ユビナデ/内:ユビナデ・底外:イタナデ/内:ユビナデ	4677

表 33　溝状遺構出土石器観察表

番号	遺構	石材	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	実測番号
SD3-S1	SD3009	砂岩	砥石	16.5	9.95	4.7	1183.4	5325
SD3-S2	SD3010	砂岩	砥石	21.3	10.7	13.0	3559	5243
SD3-S3	SD3010	砂岩	仕上砥	13.6	13.0	3.6	864.7	5240
SD3-S4	SD3010	砂岩	砥石	12.6	5.9	6.0	744.8	5237

表 34　溝状遺構出土鉄器観察表

番号	遺構	器種	全長(cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	実測番号
SD3-M1	SD3005	鉄先	(9.2)	4.2	1.1	4539
SD3-M2	SD3005	刀子?	(2.6)	1	0.4	4538

軸方位 N-82.55°-W を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器蓋や須恵器短頸壺が中型割石や川原石と共に出土した。小型割石は面を揃える一群があり、その内側約 0.40m の範囲に川原石が敷き詰められる。蓋 SK3-3 と短頸壺 SK3-4 は 1 対で蔵骨器と考えられる。埋葬施設の可能性がある。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、7 世紀後半と推定される。

4 号土坑（SK3004）（図 201）

山路地区・旧 B2 区 T5,A5 グリッドにて検出された旧 SK1013 である。

平面形態は不整形を、断面形態は深舟底形を呈する。残存長軸長 1.11m、残存短軸長 1.03m、深度 0.24m、主軸方位 N-68.50°-E を測る。遺構覆土は、黄灰色粘性砂質土や黒褐色粘性砂質土である。2 層中より須恵器壺が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

5 号土坑（SK3005）（図 202）

山路地区・旧 B2 区 T4 グリッドにて検出された旧 SK1031 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 0.80m、短軸長 0.66m、深度 0.05m、主軸方位 N-87.50°-E を測る。遺構覆土は、黄灰色粘性砂質土やオリーブ褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器高台付杯が出土した。高台付杯 SK3-6 は小片であり流れ込みの可能性がある。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

6 号土坑（SK3006）（図 203）

山路地区・旧 B2 区 S7 グリッドにて検出された旧 SK1055 である。

平面形態は隅丸長方形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 3.85m、短軸長 1.19m、深度 0.12m、主軸方位 N-82.00°-E を測る。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土・にぶい黄褐色粘性砂質土や黒褐色粘性砂質土・明褐色粘性砂質土である。3 層中位より土師器高台付杯や弥生土器鉢が出土した。高台付杯 SK3-8,SK3-9 は胎土中に金雲母や角閃石を含み、他地域（香川か？）からの搬入された可能性がある。鉢 SK3-10 は吉野川流域からの搬入品と推定されるが、破片であり流れ込みである。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

7 号土坑（SK3007）（図 202）

山路地区・旧 B2 区 S10 グリッドにて検出された旧 SK1046 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は矩形を呈する。長軸長 0.52m、短軸長 0.46m、深度 0.19m、主軸方位 N-0.25°-W を測る。遺構覆土は、黒褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器鍋が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

8 号土坑（SK3008）（図 204）

山路地区・旧 B2 区 S9 グリッドにて検出された旧 SK2035 である。

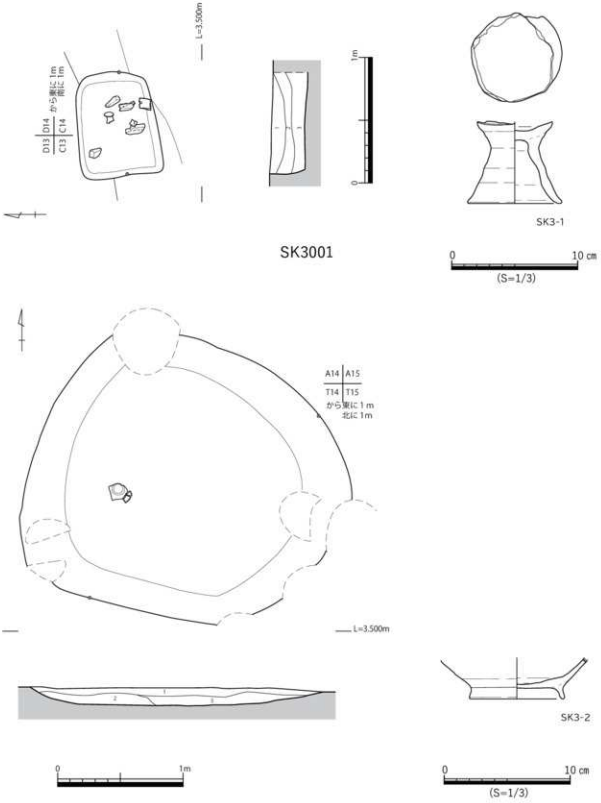
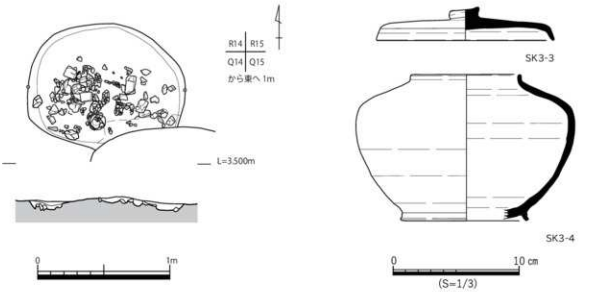
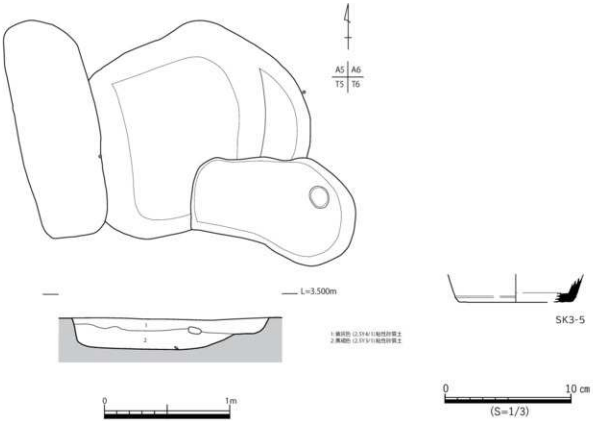


図 200　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（1）・遺物図（1）

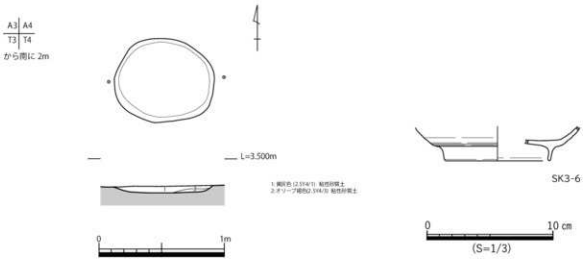


SK3003

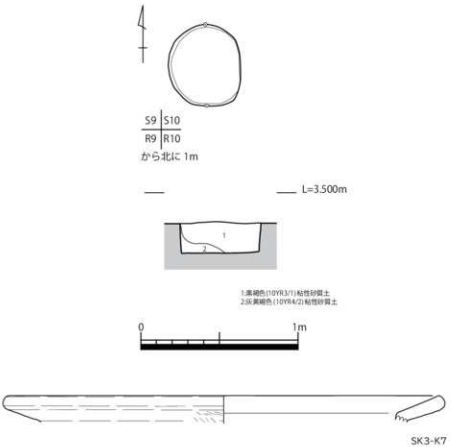


SK3004

図 201　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（2）・遺物図（2）

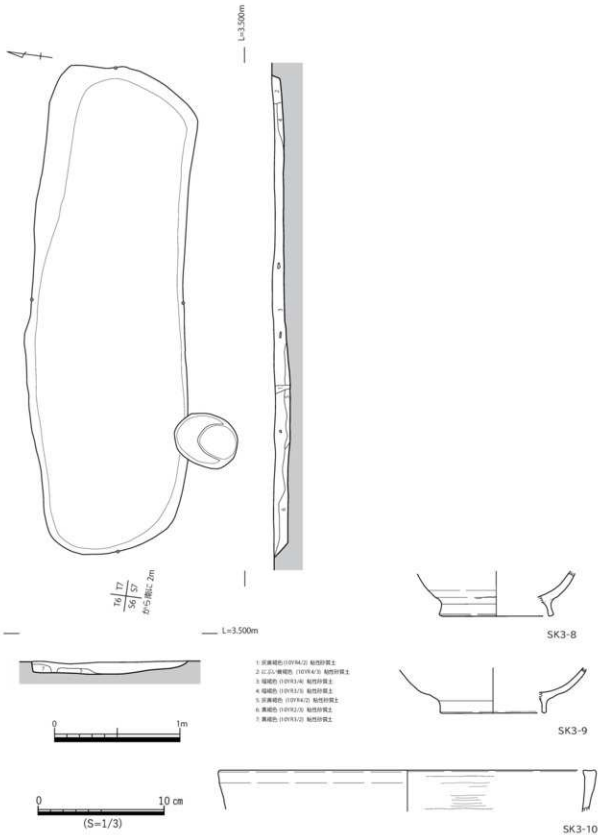


SK3005



SK3007

図 202　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（3）・遺物図（3）



SK3006

図 203　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（4）・遺物図（4）

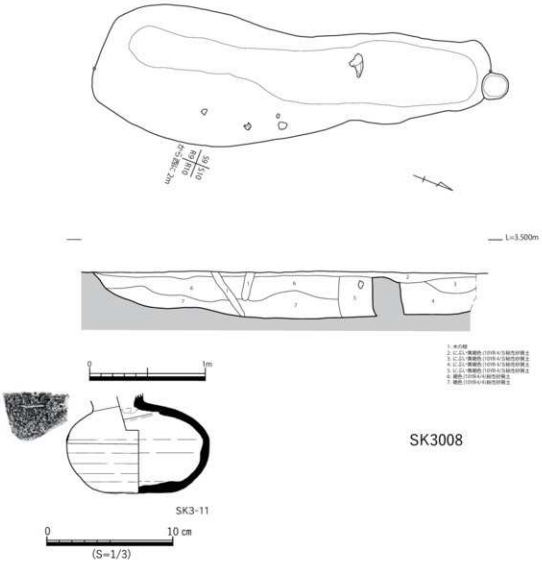


図 204　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（5）・遺物図（5）

平面形態は不整楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 3.40m、短軸長 1.16m、深度 0.42m、主軸方位 N-20.30°-W を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。7 層中より須恵器平瓶が出土した。平瓶 SK3-11 の肩部分にはヘラ記号が施される。TK43 式併行期の年代をあたることができる。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、6 世紀後半と推定される。

9 号土坑（SK3009）（図 205）

山路地区・旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 SK1097 である。

平面形態は隅丸長方形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.31m、短軸長 0.79m、深度 0.20m、主軸方位 N-87.00°-W を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器甕と須恵器甕が出土した。土師器甕 SK3-12 は胎土中に金雲母や角閃石を含み他地域（香

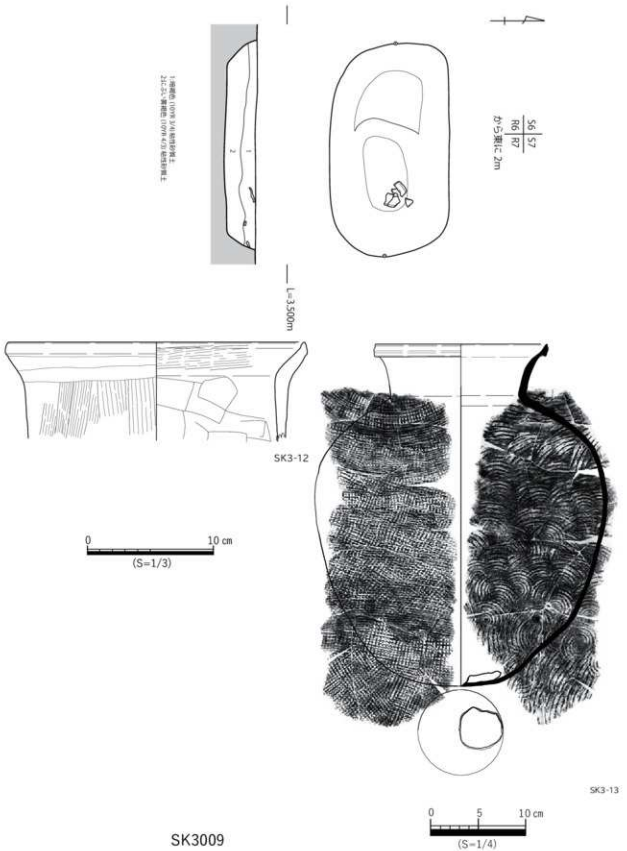
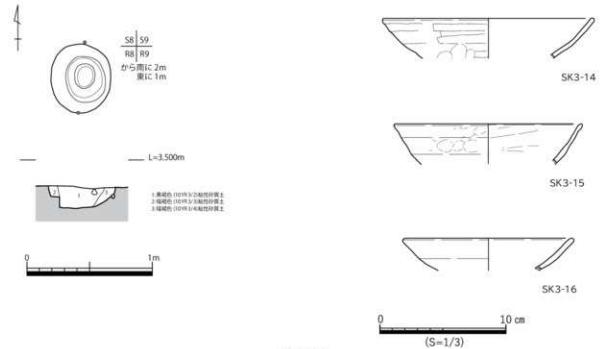
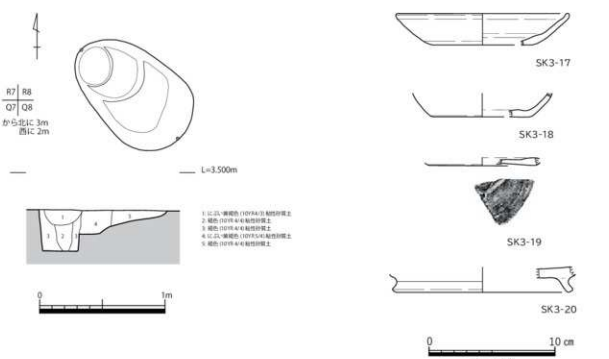


図 205　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（6）・遺物図（6）



SK3010



SK3011

図 206　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（7）・遺物図（7）

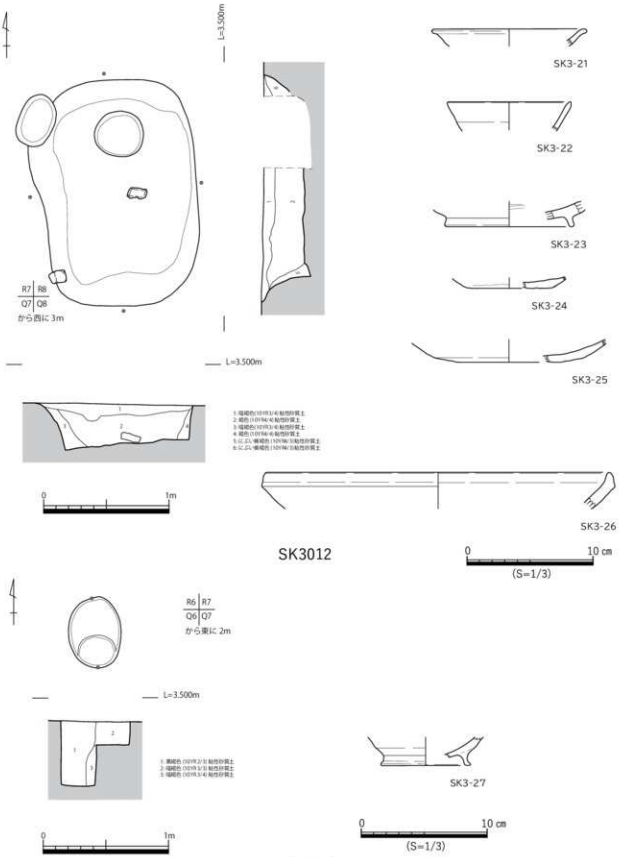


図 207　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（8）・遺物図（8）

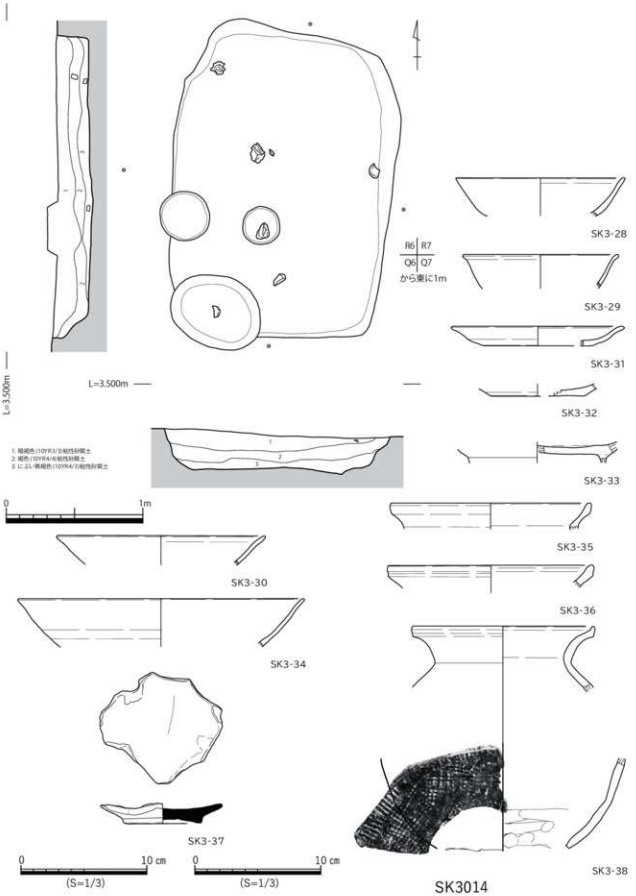


図 208　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（9）・遺物図（9）

川もしくは大阪か）からの搬入品と推定される。須恵器甕 SK3-13 は底部に内側からの敲打による穿孔が施されている。
出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、7 世紀後半と推定される。

10 号土坑（SK3010）（図 206）

山路地区・旧 B2 区 R9 グリッドにて検出された旧 SK1085 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は不整舟底形を呈する。長軸長 0.55m、短軸長 0.47m、深度 0.17m、主軸方位 N-5.50°-E を測る。遺構覆土は、黒褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器杯が出土した。杯 SK3-14 は内外面に赤色顔料を塗布する。杯 SK3-15 は内外面に赤色顔料を塗布する。杯 SK3-16 は内外面に赤色顔料を塗布する。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

11 号土坑（SK3011）（図 206）

山路地区・旧 B2 区 R11 グリッドにて検出された旧 SK2012 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は矩形を呈する。長軸長 1.04m、短軸長 0.67m、深度 0.33m、主軸方位 N-47.10°-W を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。4 層中より土師器杯や土師器高台付椀が出土した。杯 SK3-19 は内面に煤が付着しており、灯明皿として使用したと推定される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

12 号土坑（SK3012）（図 207）

山路地区・旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 SK2011 である。

平面形態は不整方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.80m、短軸長 1.24m、深度 0.33m、主軸方位 N-4.90°-W を測る。遺構覆土は、明褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土・にぶい黄褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器皿・杯・高台付椀・鉢・捏鉢等が出土した。高台付椀 SK3-23 は黒色土器 B 類である。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

13 号土坑（SK3013）（図 207）

山路地区・旧 B2 区 Q7,R7 グリッドにて検出された旧 SK1078 である。

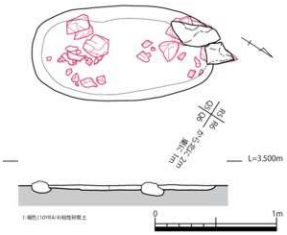
平面形態は楕円形を、断面形態は不整矩形を呈する。長軸長 0.56m、短軸長 0.42m、深度 0.52m、主軸方位 N-5.25°-W を測る。遺構覆土は、黒褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器椀が出土した。椀 SK3-27 は黒色土器 B 類である。

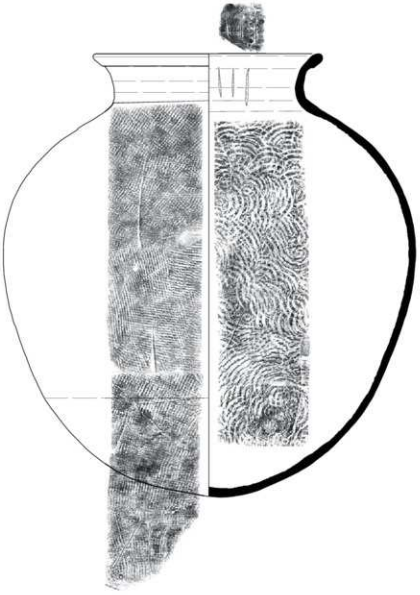
出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

14 号土坑（SK3014）（図 208）

山路地区・旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 SK2026 である。

平面形態は隅丸長方形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 2.21m、短軸長 1.60m、深度 0.24m、

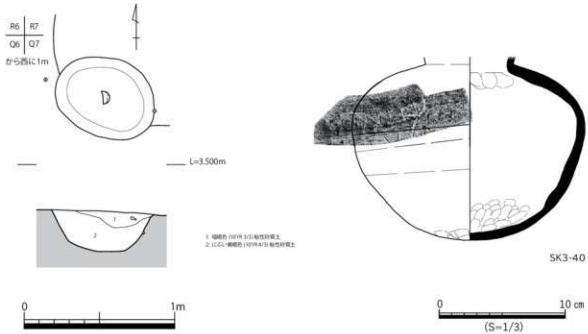




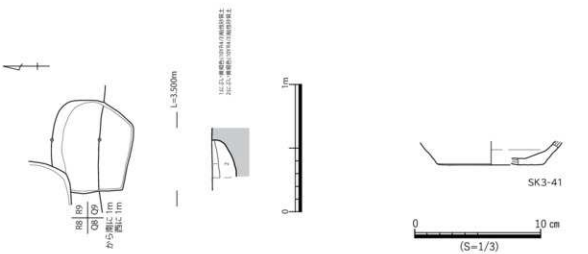
0 5 10 cm
(S=1/4)

SK3015

図 209　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（10）・遺物図（10）



SK3016



SK3017

図 210　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（11）・遺物図（11）

主軸方位 N-7.80°-E を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土・にぶい黄褐色粘性砂質土である。3 層中より土師器椀・土師器杯・土師器皿・土師器高台付椀・土師器甕・土師器鉢・須恵器椀が出土した。

椀 SK3-28 は内面のヘラミガキが著しく摩滅しており、黒色土器 B 類か。椀 SK3-29・皿 SK3-31・坏 SK3-32 は胎土中に結晶片岩粒を含み、吉野川流域から搬入された可能性も想定される。高台付椀 SK3-33 は胎土中に金雲母を含み他地域から搬入された可能性がある。須恵器椀 SK3-37 は焼成不良の緑釉陶器高台付椀で底部に打ち欠きを施して高台付皿に転用している。内面にヘラ記号状の痕跡が残る。須恵器壺 SK3-38 は小底部に敲打による穿孔が施されている。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀前半と推定される。

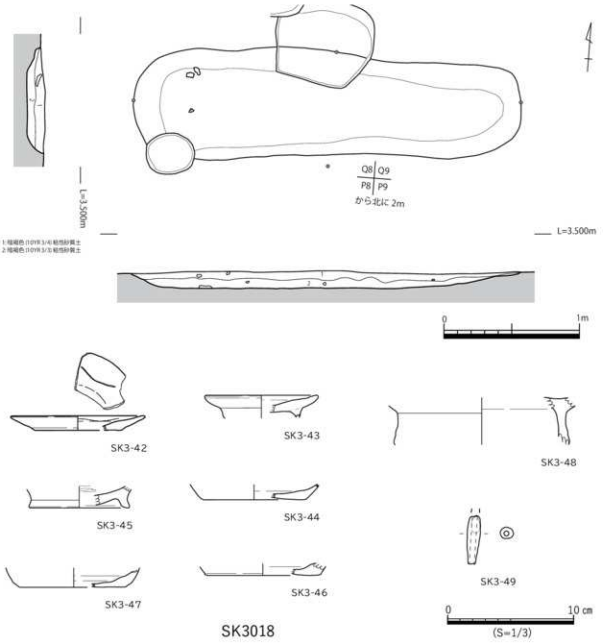


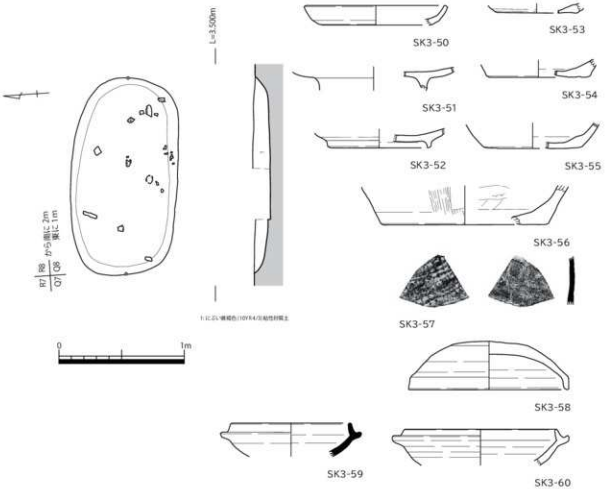
図 211　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（12）・遺物図（12）

15 号土坑（SK3015）（図 209）

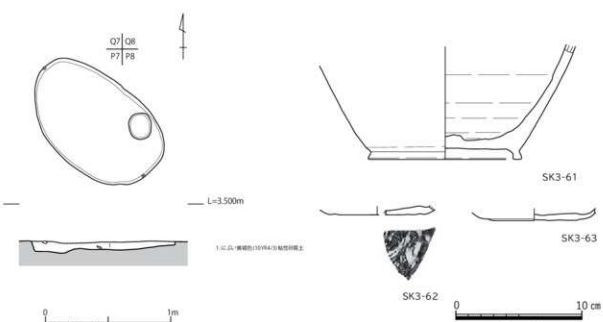
山路地区・旧 B2 区 S6,R6 グリッドにて検出された旧 SK2010 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.48m、短軸長 0.78m、深度 0.03m、主軸方位 N-31.90°-W を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器甕が出土した。主軸北側短辺には大型割石が、北側・南側底面にも中型割石が設置されており、埋葬施設の可能性もある。甕 SK3-39 は頸部内面にヘラ記号を施す。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、6 世紀後半と推定される。



SK3019



SK3020

図 212　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（13）・遺物図（13）

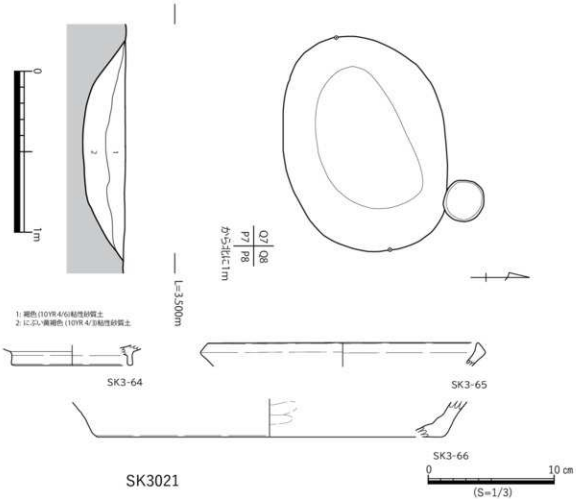


図 213　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（14）・遺物図（14）

16 号土坑（SK3016）（図 210）

山路地区・旧 B2 区 Q6 グリッドにて検出された旧 SK2038 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は椀形を呈する。長軸長 0.69m、短軸長 0.53m、深度 0.26m、主軸方位 N-66.50°-W を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。2 層中より須恵器壺が出土した。壺 SK3-40 は胴部に櫛描き波状文が施されている。MT85 式併行期能年代を与えることができる。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、6 世紀中葉と推定される。

17 号土坑（SK3017）（図 210）

山路地区・旧 B2 区 Q8 グリッドにて検出された旧 SK2021 である。

平面形態は不整台形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 0.74m、短軸長 0.53m、深度 0.09m、主軸方位 N-73.30°-W を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

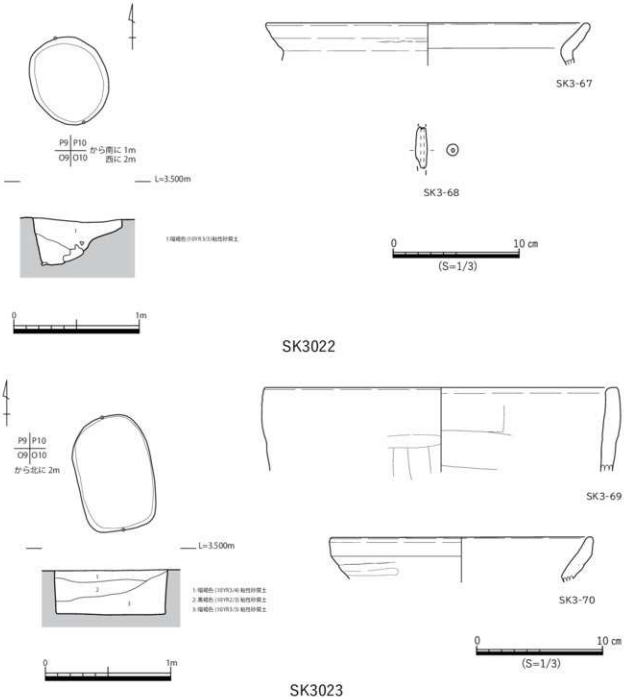


図 214　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（15）・遺物図（15）

18 号土坑（SK3018）（図 211）

山路地区・旧 B2 区 Q8 グリッドにて検出された旧 SK2020 である。

平面形態は純丸長方形を、断面形態は船底形を呈する。長軸長 2.86m、短軸長 0.69m、深度 0.12m、主軸方位 N-88.00°-E を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器皿・土師器高台付皿・土師器杯・土師器高台付椀・土師器高台付盤が出土した。皿 SK3-42 内面にはヘラ記号状が施される。高台付椀 SK3-45 は黒色土器 B 類か。高台付盤とした SK3-48 は器壁が厚くやや粗な造りから、

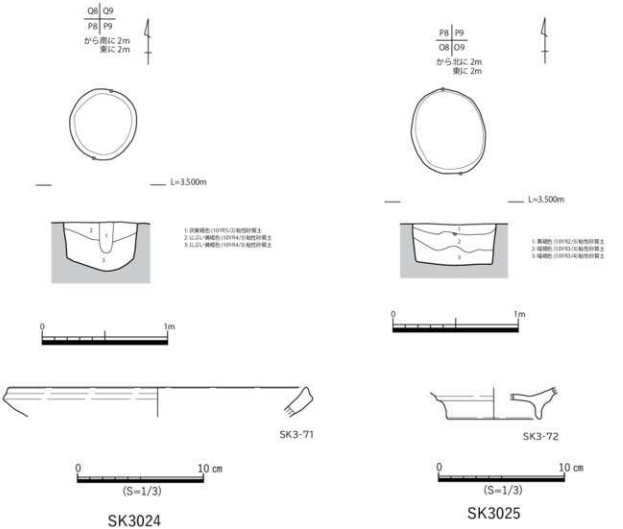


図 215　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（16）・遺物図（16）

風炉片の可能性がある。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

19 号土坑（SK3019）（図 212）

山路地区・旧 B2 区 Q8 グリッドにて検出された旧 SK2023 である。

平面形態は隅丸長方形を、断面形は態舟底形を呈する。長軸長 1.56m、短軸長 0.85m、深度 0.14m、主軸方位 N-85.00°-W を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器杯蓋・須恵器杯身・土師器皿・土師器高台付椀・土師器甕・須恵器甕が出土した。杯 SK3-55 は胎土中に花崗岩を含み、他地域（香川か）からの搬入された可能性がある。甕 SK3-56 は外面に煤が付着し、一部被熱による赤変が認められる。杯蓋 SK3-58，杯身 SK3-59，SK3-60 は TK209 式併行期である。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、7 世紀初頭と推定される。

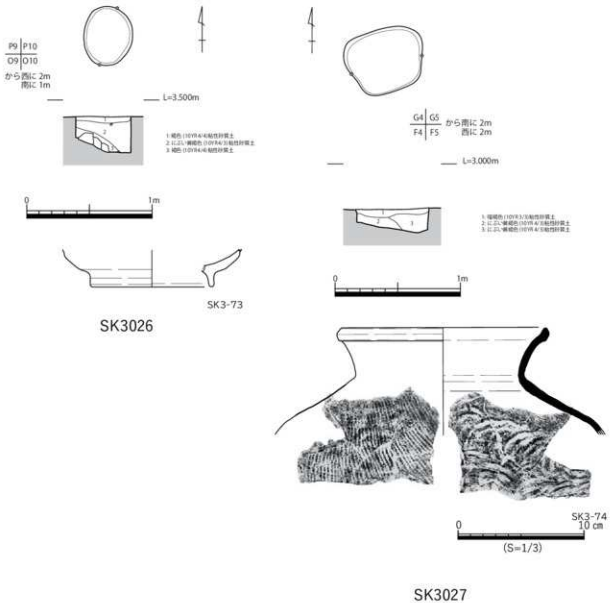


図 216　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（17）・遺物図（17）

20 号土坑（SK3020）（図 212）

山路地区・旧 B2 区 P7 グリッドにて検出された旧 SK2027 である。

平面形態は不整楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.15m、短軸長 0.74m、深度 0.07m、主軸方位 N-44.00°-W を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器壺・土師器杯が出土した。壺 SK3-61 は長頸瓶の底部である。杯 SK3-62 底部には、連続する爪状の痕跡が観察され轆轤痕と推定される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

21 号土坑（SK3021）（図 213）

山路地区・旧 B2 区 A7 グリッドにて検出された旧 SK2024 である。

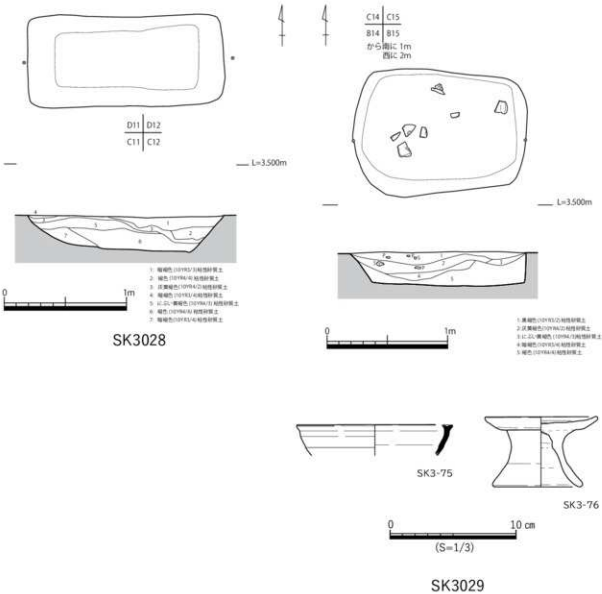


図 217　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（18）・遺物図（18）

平面形態は楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.36m、短軸長 1.02m、深度 0.27m、主軸方位 N-75.30°-E を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器高台付椀・土師器甕が出土した。高台付椀 SK3-64 は黒色土器 B 類の可能性がある。SK3-66 は平底の鉢か。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

22 号土坑（SK3022）（図 214）

山路地区・旧 B2 区 O9 グリッドにて検出された旧 SK2029 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は不整三角形を呈する。長軸長 0.70m、短軸長 0.60m、深度 0.23m、主軸方位 N-18.40°-W を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器鍋が出土した。

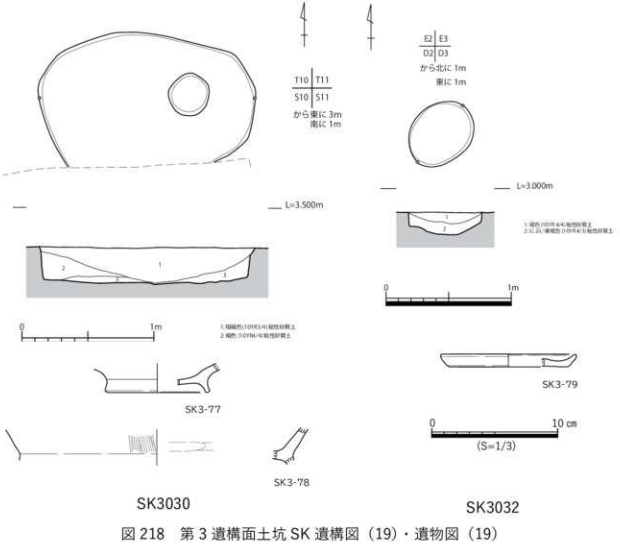


図 218　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図（19）・遺物図（19）

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

23 号土坑（SK3023）（図 214）

山路地区・旧 B2 区 P10 グリッドにて検出された旧 SK1090 である。

平面形態は隅丸長方形を、断面形態は矩形を呈する。長軸長 0.90m、短軸長 0.61m、深度 0.35m、主軸方位 N-10.50°-W を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土や黒褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器甕が出土した。甕 SK3-69 は胎土中に角閃石を含み、他地域から（香川か）搬入された可能性がある。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

24 号土坑（SK3024）（図 215）

山路地区・旧 B2 区 P9 グリッドにて検出された旧 SK2028 である。

平面形態は円形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 0.56m、短軸長 0.52m、深度 0.39m、主軸方位 N-13.90°-E を測る。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器捏ね鉢が出土した。捏ね鉢 SK3-71 は胎土中に金雲母や角閃石を含み、他地域（讃岐か）から

の搬入品である。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

25 号土坑（SK3025）（図 215）

山路地区・旧 B2 区 P9 グリッドにて検出された旧 SK1088 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は矩形を呈する。長軸長 0.67m、短軸長 0.57m、深度 0.32m、主軸方位 N-12.00°-W を測る。遺構覆土は、黒褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土・明褐色砂質土である。2 層中より土師器高台付椀が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

26 号土坑（SK3026）（図 216）

山路地区・旧 B2 区 O9 グリッドにて検出された旧 SK1092 である。

平面形態は楕円形を、断面形態は不整矩形を呈する。長軸長 0.47m、短軸長 0.39m、深度 0.28m、主軸方位 N-17.00°-E を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器椀が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

27 号土坑（SK3027）（図 216）

山路地区・旧 B1 区 F4 グリッドにて検出された旧 SK2009 である。

平面形態は隅丸方形を、断面形態は矩形を呈する。長軸長 0.58m、短軸長 0.51m、深度 0.19m、主軸方位 N-75.00°-E を測る。遺構覆土は、明褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。3 層中より須恵器甕が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、7 世紀後半と推定される。

28 号土坑（SK3028）（図 217）

山路地区・旧 B3 区 D11 グリッドにて検出された旧 SK1003 である。

平面形態は隅丸長方形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.60m、短軸長 0.72m、深度 0.28m、主軸方位 N-89.50°-W を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土・褐色粘性砂質土である。

遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

29 号土坑（SK3029）（図 217）

山路地区・旧 B3 区 B14 グリッドにて検出された旧 SK1015 である。

平面形態は隅丸長方形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.42m、短軸長 1.01m、深度 0.28m、主軸方位 N-89.25°-E を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土・灰黄褐色粘性砂質土等である。2 層中より須恵器杯身や土師器脚台付皿が出土した。杯身 SK3-75 は小片であり流れ込みと推定される。脚台付皿 SK3-76 は口縁端部に煤が付着する。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

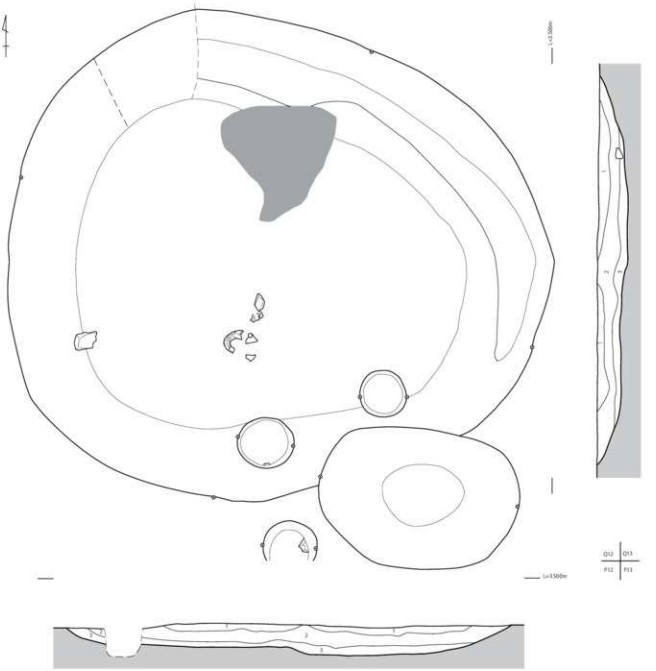


図 219　第 3 遺構面土坑 SK 遺構図 (19)・遺物図 (20)

30 号土坑（SK3030）（図 218）

山路地区・旧 B3 区 S11 グリッドにて検出された旧 SK1032 である。

平面形態は不整楕円形を、断面形態は台形を呈する。長軸長 1.64m、短軸長 0.99m、深度 0.26m、主軸方位 N-80.00°-W を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器高台付椀や土師器風炉が出土した。風炉 SK3-78 は小片であり流れ込みである。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

31 号土坑（SK3031）（図 219）

山路地区・旧 B3 区 Q12 グリッドにて検出された旧 SK2003 である。

平面形態は不整楕円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 3.54m、短軸長 3.16m、深度 0.24m、主軸方位 N-71.71°-W を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質土・灰黄褐色粘性砂質土である。2 層中より須恵器甕が出土した。　出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

32 号土坑（SK3032）（図 218）

山路地区・旧 B1 区 C3 グリッドにて検出された旧 SK002 である。

平面形態は不整長方形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 0.99m、短軸長 0.52m、深度 0.06m、主軸方位 N-0.45°-E を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器皿が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

（4）小穴・柱穴（SP）

1 号小穴（SP3001）（図 220）

山路地区・旧 B1 区 D7 グリッドにて検出した旧 SP2114 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.34m、短径 0.29m、深度 0.1m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。遺構覆土上層より須恵器杯蓋が出土した。流れ込みの可能性もあるが、SP3-1 は TK209 式併行期の年代を与えることが出来る須恵器杯蓋である。SP3-2 は須恵器壺である。頸部には櫛描波状文が、体部には廉状文が施される事から蓋の可能性がある。

出土した遺物から古墳時代後期末・6 世紀末葉の年代が想定できる。

2 号小穴（SP3002）（図 220）

山路地区・旧 B2 区 C8 グリッドにて検出下旧 SP1052 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.27m、短径 0.26m、深度 0.25m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。2 層中より須恵器杯身が出土した。柱抜き取り後の流れ込みと推定される。SP3-3 は、TK209 式併行期の年代を与えることが出来る須恵器杯身である。

出土した遺物から古墳時代後期末・6 世紀末葉の年代が想定できる。

表 35　土坑（SK）一覧表

遺構番号	旧調査区	旧遺構番号	グリッド	平面形態	断面形態	長軸長	短軸長	深度	主軸方位
SK3001	B3	SK2025	r-14	隅丸長方形	円柱	0.82	0.63	0.27	N-82.70°-E
SK3002	B3	SK2022	a-14	不整楕円形	舟底形	2.47	2.16	0.13	N-70.90°-W
SK3003	B3	SK1027	s-11	不整楕円形	台形	1.64	(0.96)	0.26	N-80.00°-W
SK3004	B2	SK1013	t,u-5	不整形	深鉢底形	(1.11)	(1.03)	0.28	N-68.50°-E
SK3005	B2	SK1031	t-4	楕円形	舟底形	0.80	0.66	0.05	N-87.50°-E
SK3006	B2	SK1055	s-7	隅丸長方形	舟底形	3.85	1.19	0.12	N-82.00°-E
SK3007	B2	SK1046	s-10	楕円形	円柱	0.52	0.46	0.19	N-0.25°-W
SK3008	B2	SK2026	s-9	不整楕円形	舟底形	3.40	1.16	0.42	N-20.30°-W
SK3009	B2	SK1087	r-7	隅丸長方形	舟底形	1.31	(0.9	0.26	N-87.00°-W
SK3010	B2	SK1085	r-9	楕円形	不整舟底形	0.55	0.47	0.17	N-5.50°-E
SK3011	B2	SK2012	r-7	楕円形	円柱	1.04	0.67	0.33	N-47.10°-W
SK3012	B2	SK2011	r-7	不整四角形	逆台形	1.80	1.24	0.33	N-4.90°-W
SK3013	B2	SK1078	q,r-7	楕円形	不整円柱	0.56	0.42	0.52	N-3.25°-W
SK3014	B2	SK2026	r-7	隅丸長方形	舟底形	2.21	1.60	0.24	N-7.80°-E
SK3015	B2	SK2010	s-r-6	楕円形	舟底形	1.48	0.78	0.03	N-31.90°-W
SK3016	B2	SK2038	q-6	楕円形	楕形	0.69	0.53	0.26	N-66.50°-W
SK3017	B2	SK2026	r-7	隅丸長方形	舟底形	2.21	1.60	0.24	N-7.80°-E
SK3018	B2	SK2021	q-8	不整台形	舟底形	0.74	0.53	0.09	N-73.30°-W
SK3019	B2	SK2020	q-8	隅丸長方形	舟底形	2.86	0.69	0.12	N-88.00°-E
SK3020	B2	SK2023	q-8	隅丸長方形	舟底形	1.56	0.85	0.14	N-85.00°-W
SK3021	B2	SK2027	p-7	不整楕円形	舟底形	1.15	0.74	0.07	N-44.00°-W
SK3022	B2	SK2024	n-7	楕円形	舟底形	1.36	1.02	0.27	N-75.30°-E
SK3023	B2	SK2029	o-9	楕円形	不等辺三角形	0.70	0.60	0.23	N-18.40°-W
SK3024	B2	SK1090	p-10	隅丸長方形	円柱	0.90	0.61	0.35	N-10.50°-W
SK3025	B2	SK2028	o-9	円形	逆台形	0.56	0.52	0.39	N-13.90°-E
SK3026	B2	SK1088	p-9	楕円形	円柱	0.62	0.57	0.32	N-12.00°-W
SK3027	B2	SK1092	o-9	楕円形	不整円柱	0.47	0.39	0.28	N-17.00°-E
SK3028	B1	SK2009	f-4	隅丸四角形	円柱	0.58	0.51	0.19	N-75.00°-E
SK3029	B3	SK1003	d-11	隅丸長方形	舟底形	1.6	0.72	0.28	N-89.50°-W
SK3030	B3	SK1015	b-14	隅丸長方形	逆台形	1.42	1.01	0.28	N-89.25°-E
SK3031	B3	SK2003	q-12	不整楕円形	舟底形	3.54	3.16	0.24	N-71.71°-W
SK3032	B3	SK1040	q-14	不整楕円形	舟底形	1.20	0.94	0.05	N-82.55°-W

表 36　土坑出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	密度成形	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SK3-1	SK3001	土師器	転用鉢	底（7.2）	0.1～8.0	良＋やや不	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き→別下外：回転ナデ／内：回転ナデ→底外：回転ナデ／内：回転ナデ	鑪台付盤からの転用か？。5649
SK3-2	SK3002	土師器	高台付杯	底 7.3	0.1～4.0	やや精不良	石・長・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（5YR6/6）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ→底外：横方ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	転用底の可能性あり。5645
SK3-3	SK3003	須恵器	蓋	高：（2.7）口：（14.0）	0.1～1.0	精良	石・長・チ・黒	外：灰白（N7/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ→底外：横方ヘラケズリ→幅狭後つまみ／内：回転ナデ→ユビナデ	回転方向上から見て反時計回り。5643
SK3-4	SK3003	須恵器	短頸壺	高：（11.6）口：（8.5）頸：（8.8）胴：（17.4）・底（9.7）	0.2～2.5	精良	石・長・黒	外：灰白（N7/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ→頸外：回転ナデ／内：回転ナデ→胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ→底外：回転ナデ／内：回転ナデ→ケズリ→ナデ／内：回転ナデ→底外：回転ヘラケズリ→高台貼付／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り。5644
SK3-5	SK3004	須恵器	壺	底（9.0）	0.5～3.0	精良	石	外：青灰（5B5/1） 内：青灰（5B6/1）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	3458
SK3-6	SK3005	土師器	高台付杯	底（8.2	0.1～3.0	精やや不	石・長・チ・赤	外：橙（2.5YR6/8） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	別上外：回転ナデ／内：回転ナデ→底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	3469
SK3-7	SK3007	土師器	鍋	口：（34.1）	0.1～2.0	粗良	石・長・雲・金雲	外：褐（7.5YR4/4） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ→頸外：ハケ（8条1cm）→ヨコナデ／内：ヨコナデ	3473
SK3-8	SK3006	土師器	高台付鉢	底（8.4）	0.2～5.0	精不良	石・長・雲・金雲	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：褐灰（7.5YR5/1）	別下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅） 底外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）	3475
SK3-9	SK3006	土師器	高台付鉢	底（8.0）	0.1～3.5	良＋やや不	石・長・チ・雲・角	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：褐灰（7.5YR5/1）	別下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅） 底外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）	3477
SK3-10	SK3006	弥生土器	鉢	高：（3.1）口：（28.0）	0.1～3.5	精やや不	石・石・長・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ→別上外：ヨコナデ／内：イタナデ（5条1cm）	3476
SK3-11	SK3008	須恵器	平瓶	高：（7.9）頸：（4.0）胴：11.4・底 5.2	0.1～2.5	精良	石・長・黒	外：灰（7.5YR7/1） 内：灰（7.5YR7/1）	頸外：回転ナデ／内：ユビオサエ→別上外：別上外：回転ナデ→ヘラ記号／内：回転ナデ→別下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→底外：回転ヘラケズリ→ヘラナデ／内：回転ナデ	回転方向下から見て時計回り。ヘラ記号。胎土分析へ予記号。4458
SK3-12	SK3009	土師器	甕	口：（23.5）	0.1～2.5	粗良	石・長・チ・金雲・角	外：明褐（7.5YR5/8） 内：にぶい黄褐（10YR5/4）	口外：イタナデ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・頸外：ハケ（8条1cm）→ユビナデ／内：ハケ→ヨコナデ・別上外：ハケ（8条1cm）／内：イタナデ	搬入品（ヤエ or 頸外：ハケ（8条1cm）→ユビナデ／内：ハケ→ヨコナデ・別上外：ハケ（8条1cm）／内：イタナデ）。胎土分析は他地域搬入一群。3513
SK3-13	SK3009	須恵器	壺	高：36.1 口：38.2 頸：14.4 胴：30.8・底 8.5	～3.0	精やや不	石・長・チ	外：灰白（7.5Y7/1） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頸外：回転ナデ→平行タタキ／内：回転ナデ・別上外：平行タタキ／内：青海波文・別下外：平行タタキ／内：青海波文・底外：平行タタキ／内：青海波文	張部発見（内側かも）。2985
SK3-14	SK3010	土師器	杯	高：（3.2）口：（16.2）	0.1～4.5	精やや不	石・長・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・別上外：イタナデ／内：ヨコナデ・別下外：イタナデ・ユビオサエ／内：ヨコナデ	内外鉢赤色塗布。3494

番号	遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	密度構成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SK3-15	SK3010	土師器	杯	口：(14.8)	～1.0	粗やや不	石・長・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：浅黄（2.5Y7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ユビオサエ→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（悪減）	内外面赤色塗布、34943#96
SK3-16	SK3011	土師器	杯	口：(13.2)	0.1～2.0	精やや不	石・長・チ・角・赤	外：明赤褐（2.5YR5/8） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上：回転ナデ／内：回転ナデ	内外面赤色塗布、2509
SK3-17	SK3011	須恵器	杯	高：2.5 口：(13.6)→底：(7.8)	0.1～2.5	やや粗やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい黄（2.5Y6/3） 内：浅黄（2.5Y7/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4419
SK3-18	SK3011	土師器	杯	底：(8.0)	0.1～	largeやや不	長・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：黄橙（7.5YR8/8）	底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→内：回転ナデ	4415
SK3-19	SK3011	土師器	杯	底：(8.4)	0.1～1.0	精やや不	石・長・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい橙（7.5YR6/3）	底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	内面煤付着、4414
SK3-20	SK3011	土師器	高台付椀	底：(13.6)	0.2～1.5	粗やや不	石・長・チ・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4418
SK3-21	SK3012	土師器	皿	口：(11.8)	0.2～0.5	largeやや不	石・長・雲	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底下外：回転ナデ	4413
SK3-22	SK3012	土師器	杯	口：(9.8)	0.1～3.5	largeやや不	結・石・雲・赤	外：橙（5YR7/8） 内：黄橙（7.5YR8/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	4412
SK3-23	SK3012	土師器	高台付椀	底：(10.0)	0.1～4.0	精やや不	石・長・雲・赤・泥	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：黒（7.5Y2/1）	底下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	4411
SK3-24	SK3012	土師器	皿	底：(6.2)	0.5～4.0	largeやや不	結・石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：明黄褐（10YR7/6）	底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4410
SK3-25	SK3012	土師器	鉢	底：(7.8)	0.5～6.0	粗やや不	結・石・長・雲・赤	外：にぶい橙（2.5YR6/4） 内：暗灰黄（2.5Y5/2）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4416
SK3-26	SK3012	土師器	こね鉢	口：(27.1)	0.1～2.0	粗やや不	石・長・チ・雲・角・赤・泥	外：橙（5YR7/8） 内：橙（5YR7/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上外：イタナデ／内：回転ナデ	4417
SK3-27	SK3013	土師器	椀	底：(7.0)	0.1～2.5	largeやや不	石・長・雲・赤	外：明黄褐（10YR7/6） 内：黒褐（2.5Y3/1）	底下外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（悪減）・底外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（悪減）	3489
SK3-28	SK3014	土師器	椀	口：(13.4)	0.1～1.0	largeやや不	結・石・雲	外：褐（10YR4/6） 内：黒褐（10YR3/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（悪減）	4436
SK3-29	SK3014	土師器	椀	口：(12.2)	0.1～6.0	精やや不	結・石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4442
SK3-30	SK3014	土師器	杯	高：(2.3) 口：(16.6)	0.5～2.0	やや精不良	石・長・雲	外：明黄褐（10YR6/6） 内：明黄褐（10YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	4440
SK3-31	SK3014	土師器	皿	高：(1.55) 口：(13.8)・底：(8.9)	0.5～3.0	やや精不良	結・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4438
SK3-32	SK3014	土師器	杯	底：(7.4)	0.1～1.0	粗やや不	結・石・長・雲	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：浅黄（2.5Y7/4）	底外：ヘラ切り→ヘラナデ？／内：回転ナデ	4439
SK3-33	SK3014	土師器	高台付椀		0.1～5.0	精やや不	結・石・長・雲・泥・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	底下外：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4456
SK3-34	SK3014	土師器	椀	口：(22.8)	0.1～1.5	やや精不良	結・長・雲	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上外：回転ナデ→ユビナデ／内：回転ナデ→ユビナデ	4441
SK3-35	SK3014	土師器	甕	高：(2.1) 口：(15.8) 胴：(13.8)	0.1～3.0	粗やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（2.5YR6/6） 内：にぶい黄橙（10YR5/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	4437
SK3-36	SK3014	土師器	鉢	口：(16.3)	0.1～3.5	粗良	結・石・長	外：赤褐（5YR4/6） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	4443
SK3-37	SK3014	須恵器	転用皿	底：5.8	0.1～2.0	粗不良	石・長・チ	外：浅黄橙（10YR8/3） 内：灰白（10YR8/2）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	接触面器壁？の転用皿？焼成甘く、発掘土分析板あり、ろくろ目（2R6.575）、4455
SK3-38	SK3014	須恵器	壺	口：(14.3) 胴：(10.8)	0.1～2.0	精やや不	石・長・泥	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：格子タタキ／内：ユビオサエ、ユビナデ	底部穿孔（焼成後）、5650
SK3-39	SK3015	須恵器	甕	高：47.0 口：23.0 胴：20.1 胴：44.0→底：7.0	0.2～3.0	精良	長	外：明緑灰（10GY7/1） 内：青灰（10BG4/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラ記号・胴上外：格子タタキ→ケタ目（9条1cm）／内：青海波文・胴下外：平行タタキ→ケタ目（6条1cm）／内：青海波文・底外：平行タタキ／内：青海波文	ヘラ記号、胎土分析ヘラ記号、3594
SK3-40	SK3016	須恵器	壺	高：(14.5) 口：(7.2) 胴：(7.0) 胴：18.5	0.1～5.0	精良	石・長・チ	外：灰（N4/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ→櫛描波状文（7条1.5cm）／内：回転ナデ・胴下外：回転ヘラケズリ→ナデ／内：回転ナデ・底外：イタナデ／内：ユビオサエ	回転方向下から見て右回打圧痕、4449
SK3-41	SK3017	土師器	杯	底：(8.6)	0.1～1.0	粗不良	石・長・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ナデ／内：回転ナデ	4428
SK3-42	SK3018	土師器	皿	高：1.15 口：(10.6)・底：(6.8)	0.1～1.0	粗やや不	結・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切り／内：回転ナデ	4424
SK3-43	SK3018	土師器	高台付皿	口：(8.8)	0.1～5.0	良やや不	結・長・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4422
SK3-44	SK3018	土師器	椀	底：(8.2)	0.1～4.0	良不良	石・長・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：橙（7.5YR6/6）	底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4426
SK3-45	SK3018	土師器	高台付椀	高：(1.7)・底：(8.0)	0.1～4.0	精やや不	石・長	外：橙（7.5YR6/6） 内：オリーブ黒（5Y3/1）	底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	4423
SK3-46	SK3018	土師器	杯	高：(1.0)・底：(9.2)	0.1～4.0	精やや不	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4425
SK3-47	SK3018	土師器	杯	底：(8.4)	0.1～6.0	良不良	石・長・石・雲・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：明赤褐（5YR5/8）	底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	4460
SK3-48	SK3018	土師器	高台付盤		～2.0	良不良	石・長・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/8）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4461
SK3-50	SK3019	土師器	皿	高：(1.55) 口：(11.6)・底：(9.0)	0.1～3.0	良やや不	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・底上外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・底下外：イタナデ／内：ヨコナデ	4462
SK3-51	SK3019	土師器	高台付椀	高台：(8.4)	0.1～1.0	良不良	石・長・赤	外：黄橙（7.5YR8/8） 内：橙（7.5YR6/6）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4430
SK3-52	SK3019	土師器	高台付椀	高：(1.5)・底：(8.2)	0.1～3.0	良やや不	石・長・雲・赤	外：明褐（7.5YR5/6） 内：黒褐（2.5Y3/1）	底下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4453

番号	道構	種別	器種	法量	胎土粒径	密度/焼成	胎土組成	色調	調整	備考・実測番号
SK3-53	SK3019	土師器	皿	底（6.4）	0.1～1.0	良/やや不	石・長・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切ち→ナデ／内：回転ナデ	4454
SK3-54	SK3019	土師器	杯	底（7.8）	0.2～3.0	良/不良	石・長・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切ち／内：回転ナデ	4463
SK3-55	SK3019	土師器	杯	底（5.2）	0.2～4.0	良/不良	長・チ・石ア	外：明赤褐（5YR5/6） 内：橙（5YR6/6）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：静止→ヘラ切ち／内：回転ナデ	芯抽岩含む?。 4464
SK3-56	SK3019	土師器	甕	底（12.0）	0.1～5.0	良/良	砂・石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：黒褐（10YR3/1）	胴下外：イタナデ、ハケ目（7条1cm）／内：ユビナデ・底外：イタナデ／内：ユビナデ	外面煤付着、一部被熱赤変？。4452
SK3-57	SK3019	須恵器	甕		0.2～2.5	精/良	石・長・チ・赤・黒	外：灰（N5/0） 内：灰白（5Y7/1）	胴上外：格子タタキ→ユビナデ／内：ユビナデ	4429
SK3-58	SK3019	須恵器	杯蓋	高（3.8 口：12.6	0.1～2.0	精/良	石・長・砂・赤	外：灰（N6/0） 内：赤灰（7.5R6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：静止→ヘラナデ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向上から見て反時計回り。 5724
SK3-59	SK3019	須恵器	杯身	高（2.65） 口（9.4）	0.1～1.0	精/良	石・長・チ	外：灰（N6/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	5661
SK3-60	SK3019	須恵器	杯身	口：（12.0） 胴（14.0）	0.1～2.0	精/良	砂・石・長・赤	外：灰（N6/0） 内：灰（10Y6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	5659
SK3-61	SK3020	須恵器	壺	底 12.1	0.01～2.0	精/良	石・長・チ・砂・黒	外：灰白（N7/0） 内：灰白（5Y7/1）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ→ユビナデ→高台貼付／内：回転ナデ	5641
SK3-62	SK3020	土師器	杯	底（7.4）	0.1～3.0	粗/やや不	砂・長・赤	外：にぶい赤褐（2.5YR5/4） 内：にぶい赤（2.5YR6/4）	底外：回転ヘラ切ち／内：回転ナデ	4445
SK3-63	SK3020	土師器	杯	底（6.8）	0.1	精/良	石・長・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：にぶい黄橙（10YR5/3）	底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4446
SK3-64	SK3021	土師器	高台付椀	高（1.6） 底（9.6）	0.1～2.5	良/やや不	石・長・雲・赤	外：明褐（7.5YR5/6） 内：黒褐（2.5Y3/1）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	4432
SK3-65	SK3021	土師器	甕	口：（21.4）	0.1～3.0	精/やや不	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黒（2.5Y2/1）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	4434
SK3-66	SK3021	土師器	鉢？	底（27.6）	0.1～3.0	良/やや不	石・長・雲・赤	外：灰（5Y4/1） 内：明赤褐（5YR5/8）	胴下外：イタナデ／内：ユビナデ・底外：イタナデ／内：ユビナデ	4431
SK3-67	SK3022	土師器	鍋	口：（25.4） 胴（23.0）	0.1～3.0	粗/やや不	砂・石・長・チ・雲・赤・砂	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ユビナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ／内：イタナデ	4448
SK3-69	SK3023	土師器	甕	口：（27.8）	0.1～6.0	粗/やや不	砂・石・長・チ・雲・角・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ→ユビナデ／内：イタナデ	3514
SK3-70	SK3023	土師器	甕	高：（3.6） 口（20.0） 胴：（17.8）	0.1～4.0	粗/良	石・長・チ・赤・砂	外：橙（7.5YR6/8） 内：黄橙（7.5YR7/8）	口外：ヨコナデ、ユビナデ／内：ヨコナデ	3515
SK3-71	SK3024	土師器	こね鉢	口：（23.45）	0.1～1.5	粗/やや不	石・長・雲・金雲・角・砂	外：明赤褐（2.5YR5/8） 内：明赤褐（2.5YR5/8）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ	サヌキからの搬入品。4447
SK3-72	SK3025	土師器	高台付椀	高台（7.3）	0.1～0.35	良/不良	石・長・雲	外：橙（5YR7/8） 内：橙（5YR6/8）	底外：回転ナデ→高台貼付／内：回転ナデ	3504
SK3-73	SK3026	土師器	椀	底（9.4）	0.1～1.5	粗/やや不	石・長・チ・赤・砂	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：褐灰（10YR5/1）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	5941
SK3-74	SK3027	須恵器	甕	口：（16.1） 胴（13.3）	0.2～4.0	精/良	石・チ	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ・胴外：回転ナデ・胴上外：平行タタキ／内：海綿皮文→ヨコナデ	2782
SK3-75	SK3029	須恵器	杯身	～3.0	精/良	良/良	石・長	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て時計回り。6056
SK3-76	SK3029	土師器	鍋台付皿	高 5.55 口 8.75 脚：4.1・底 6.85	0.1～9.0	精/やや不	石・長・雲	外：灰（5YR7/6） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切ち→高台貼付／内：回転ナデ	内面口縁端部煤付著。5254
SK3-77	SK3030	土師器	高台付椀	高台（8.1）	0.1～3.0	良/やや不	石・長・赤	外：橙（5YR7/6） 内：橙（5YR7/8）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切ち？→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	5303
SK3-78	SK3030	土師器	風炉		0.1～3.0	良/やや不	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	胴下外：ハケ／内：ユビナデ・底外：ユビナデ／内：ユビナデ	5302
SK3-79	SK3032	土師器	皿	高：（1.0） 口（9.3）・底（8.1）	0.1～1.0	やや精/やや不	長・チ・赤	外：橙（5YR7/8） 内：橙（5YR7/6）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	4089
SK3-80	SK3031	須恵器	壺		0.1～3.5	精/良	石・長・チ・砂・黒	外：黄灰（2.5Y6/1） 内：黄灰（2.5Y6/1）	胴下外：格子タタキ／内：ユビナデ	6076

表 37　土坑出土土製品観察表

番号	道構	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	胎土粒径	密度/焼成	胎土組成	色調	実測番号
SK3-49	SK3018	土錘	1.05	0.9	3.85	2.8	0.1～1	良/やや不	砂・石・長・雲・赤	外：明褐（7.5YS/6）	4427
SK3-68	SK3022	土錘	0.95	0.9	3.25	1.67	0.1～1	良/やや不	石・長・チ・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：灰黄褐（10YR5/2）	4433

3 号小穴（SP3003）（図 220）

山路地区・旧 B2 区 A7 グリッドで検出された旧 SP1078 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.22m、短径 0.21m、深度 0.10m を測る。遺構覆土は褐色粘性砂質土である。1 層中より黒色土器椀が出土した。柱抜き取り後の流れ込みと推定される。SP3-4 は、黒色土器 A 類椀で、体部を打ち欠き高台及び底部だけを残した転用皿の可能性がある。

出土した遺物から 10 世紀前半の年代が想定できる。

4 号小穴（SP3004）（図 220）

山路地区・旧 B2 区 T4 グリッド検出された旧 SP1183 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.23m、短径 0.22m、深度 0.21m を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中上位と下位から瓦器椀が出土した。

出土した遺物から 13 世紀末葉の年代が想定される。

5 号小穴（SP3005）（図 220）

山路地区・旧 B2 区 T8 グリッドにて検出された旧 SP1251 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.29m、短径 0.28m、深度 0.23m を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中位より須恵器壺片が出土した。遺構埋没過程における流れ込みと推定される。SP3-6 は胎土中に凝灰岩片らしき細粒を含み産地不明である。TK209 式併行期と推定される。

出土遺物から古墳時代後期・6 世紀末葉の年代と推定される。

6 号小穴（SP3006）（図 221）

山路地区・旧 B2 区 T7 グリッドにて検出された旧 SP1247 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.30m、短径 0.28m、深度 0.48m を測る。遺構覆土は、柱痕に該当するにぶい黄褐色粘性砂質土と裏込め土に該当する暗褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器高台付椀が出土。柱抜き取りに伴う埋納の可能性がある。SP3-7 は土師器椀で、体部を打ち欠いた転用皿と推定され、高台内側に煤が付着することから、上下転位状態で灯明皿として使用したと推定される。

出土遺物から 10 世紀後半の年代と推定される。

7 号小穴（SP3007）（図 221）

山路地区・旧 B2 区 T7 グリッドで検出された旧 SP1262 である。

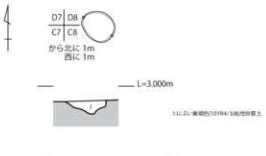
平面形態は楕円形を呈し、長径 0.33m。短径 0.31m、深度 0.51m を測る。遺構覆土はにぶい黄褐色粘性砂質土である。柱痕部の 1 層中位と裏込め部の 2 層下位より土師器甕が出土した。SP3-8 は土師器甕口縁部で、頸部内外面に煤が付着する。

出土遺物から 10 世紀前半能年代と推定される。

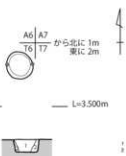
8 号小穴（SP3008）（図 221）

山路地区・旧 B2 区 T7 グリッドにて検出された旧 SP1547 である。

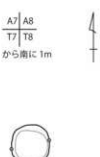
平面形態は楕円形を呈し、長径 0.25m、短径 0.23m、深度 0.49m を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂



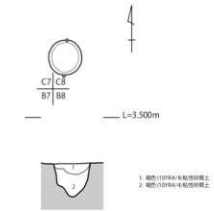
SP3001



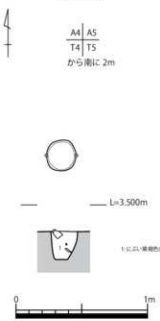
SP3003



SP3005

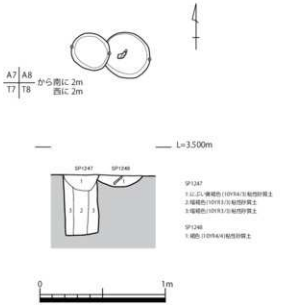


SP3002

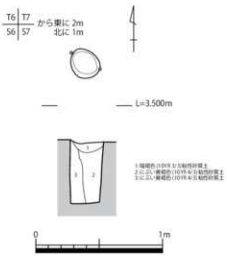


SP3004

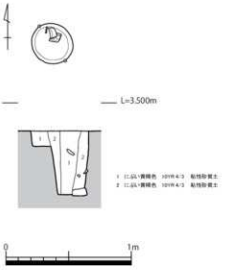
図 220　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（1）



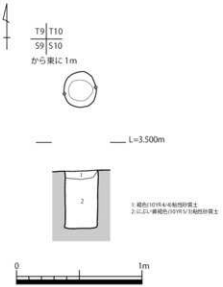
SP3006



SP3008



SP3007



SP3009

図 221　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（2）

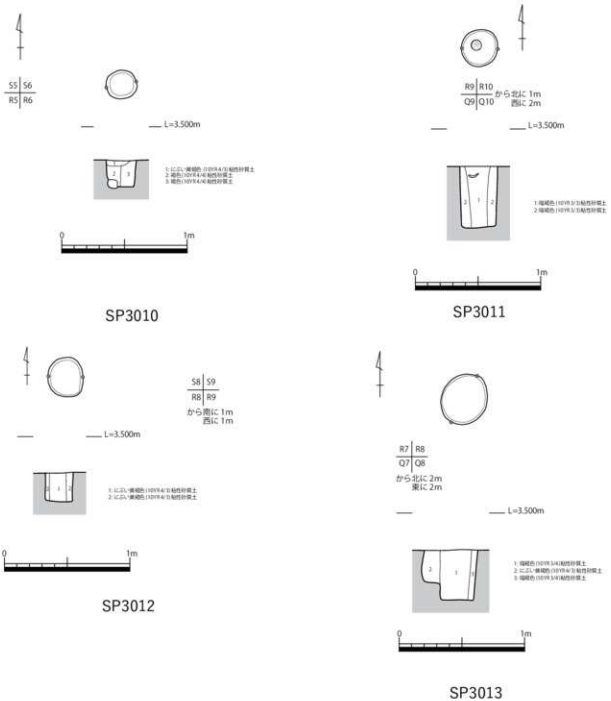


図 222　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（3）

質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。柱抜き取り後の流れ込みと推定される 2 層中より土師器甕が出土した。

出土遺物から 10 世紀前半の年代と推定される。

9 号小穴（SP3009）（図 221）

山路地区・旧 B2 区 S10 グリッドにて検出された旧 SP2027 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.26m、短径 0.27m、深度 0.45m を測る。遺構覆土は褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中より弥生壺が出土したが、埋没過程の流れ込みと推定される。SP3-10 は弥生土器壺体部である。

遺構検出面や周辺の遺構から古代後半と推定される。

10 号小穴（SP3010）（図 222）

山路地区・旧 B2 区 S6 グリッドにて検出された旧 SP2072 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.24m、短径 0.24m 深度 0.20m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。底面には根石状の小型礫が伴う。1 層より須恵器 ?? が出土したが、流れ込みと想定される。SP3-11 は須恵器 ?? で TK43 式併行期の年代を与えることが出来る。
遺構検出面や周辺の遺構から古代後半と推定される。

11 号小穴（SP3011）（図 222）

山路地区・旧 B2 区 R9 グリッドにて検出された旧 SP2131 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.31m、短径 0.29m、深度 0.49m を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土である。柱抜き取り痕と推定される 1 層上位から土師器皿が出土した。柱抜き取り後の埋納と推定される。SP3-12 は土師器皿であるが、煤等は付着していない。

出土遺物から 10 世紀後半と推定される。

12 号小穴（SP3012）（図 222）

山路地区・旧 B2 区 R8 グリッドにて検出された旧 SP2119 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.30m、短径 0.28m。深度 0.22m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。柱抜き取り痕と推定される 1 層中より瓦器椀が出土した。SP3-13 は破片であることから流れ込みと推定される。

出土遺物からは中世前半の年代を与えることが可能であるが、遺構検出面や周辺の遺構から 10 世紀後半と推定される。

13 号小穴（SP3013）（図 222）

山路地区・旧 B2 区 R8 グリッドにて検出された旧 SP2117 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.43m、短径 0.37m、深度 0.40m を測る。遺構覆土は暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中より瓦器椀が出土した。SP3-14 は破片であることから流れ込みと推定される。

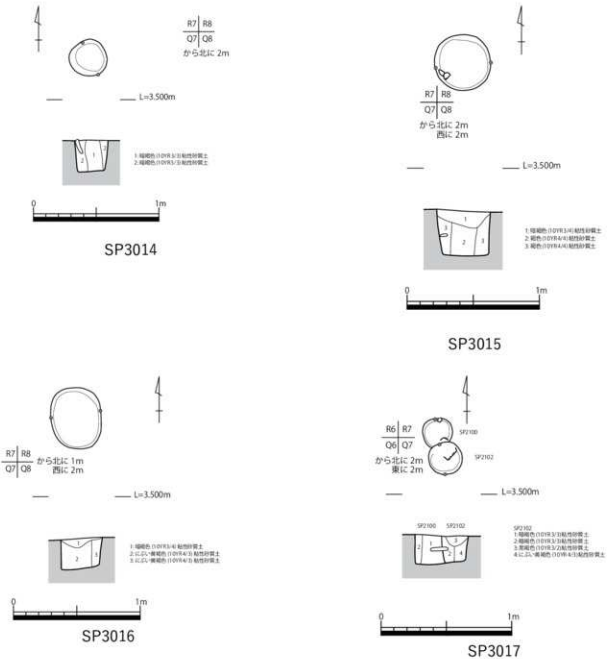


図 223　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（4）

出土遺物からは中世前半の年代を与えることが可能であるが、遺構検出面や周辺の遺構から 10 世紀後半と推定される。

14 号小穴（SP3014）（図 223）

山路地区・旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 SP2108 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.30m、短径 0.29m、深度 0.24m を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土である。裏込め土に該当する 2 層上層より土師器皿が出土した。SP3-15,16 はほぼ完形である事や煤等が付着していないことから、構築時に埋納されたと推定される。SP3-16 は胎土中に角閃石を含み、

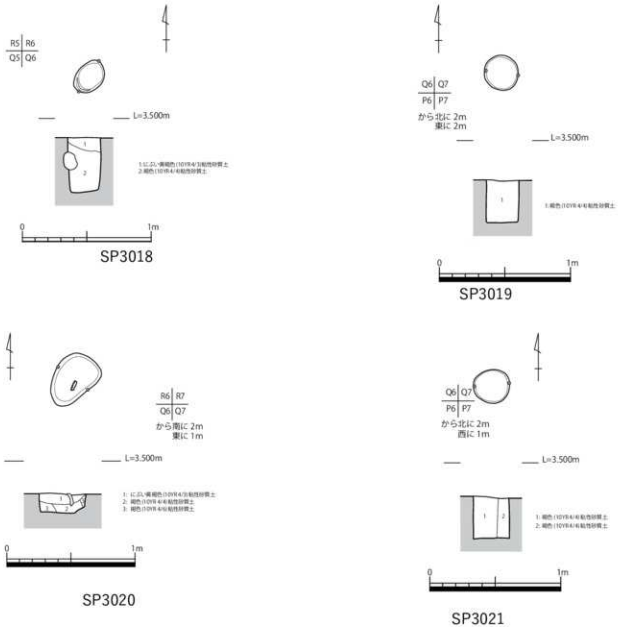


図 224　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（5）

香川地域からの搬入された可能性がある。

出土遺物から 10 世紀後半と推定される。

15 号小穴（SP3015）（図 223）

山路地区・旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 SP2106 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.43m、短径 0.42m、深度 0.34m を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。流れ込み土の 1 層中より土師器高杯が出土した。SP3-15 は脚部を欠損す

るが、古墳時代後期（大柿Ⅱ様相Ⅳ段階）に該当する。

遺構検出面や周辺の遺構から 10 世紀後半と推定される。

16 号小穴（SP3016）（図 223）

山路地区・旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 SP2105 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.50m、短径 0.40m、深度 0.24m を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。2 層上位より土師器杯が出土した。破片であることから、流れ込みと推定される。

出土遺物から 10 世紀後半と推定される。

17 号小穴（SP3017）（図 223）

山路地区・旧 B2 区 R7 グリッドにて検出された旧 SP2100 である。

平面形態は不整円形を呈し、残存長径 0.16m、短径 0.22m、深度 0.19m を測る。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中位より土師器高杯が出土した。破片であることから、流れ込みと推定される。

出土遺物から古墳時代後期後半と推定される。

18 号小穴（SP3018）（図 224）

山路地区・旧 B2 区 Q6 グリッドにて検出された旧 SP1443 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.27m、短径 0.20m、深度 0.42m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。2 層中より須恵器杯蓋が出土したが、破片であり流れ込みと推定される。SP3-20 は表面に接合痕を残是、TK43 式併行期の年代を与えることが出来る。

出土遺物からは古墳時代後期後半であるが、遺構検出面や周辺の遺構から、古代後半と推定される。

19 号小穴（SP3019）（図 224）

山路地区・旧 B2 区 Q7 グリッドにて検出された旧 SP2176 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.28m、短径 0.26m、深度 0.32m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。1 層下位より土師器高台付椀と土師器皿や土師器杯が出土した。SP3-21 は土師器高台付椀もしくは黒色土器 B 類の剥落した高台部である。SP3-22 は回転ヘラ切りが施される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

20 号小穴（SP3020）（図 224）

山路地区・旧 B2 区 Q7 グリッドにて検出された旧 SP2185 である。

平面形態は不整円形を呈し、長径 0.44m、短径 0.30m、深度 0.11m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器椀や土師器転用皿が出土した。SP3-24 は土師器高台付椀もしくは黒色土器 B 類の剥落した高台部である。SP3-25 は土師器高台付椀の体部を打ち欠き高台及び底部のみを残すことにより高台付皿に転用している。煤等は付着しておらず灯明皿としての転用は認められない。

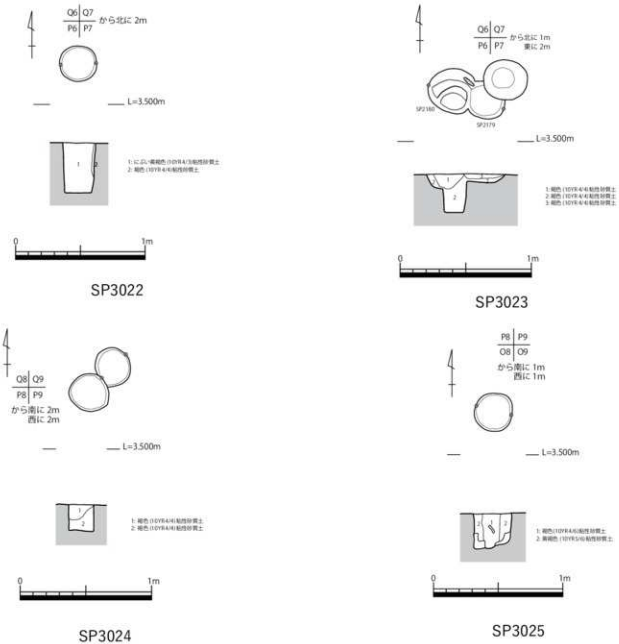


図 225　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（6）

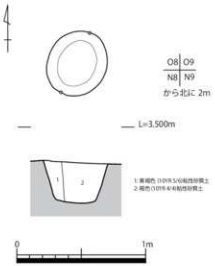
出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

21 号小穴（SP3021）（図 224）

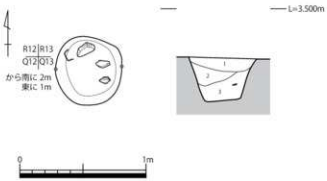
山路地区・旧 B2 区 Q6 グリッドにて検出された旧 SP2186 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.28m、短径 0.26m、深度 0.32m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器杯がが出土した。破片であり、流れ込みの可能性が高い。土師器杯 SP3-26 は内外面に赤色顔料が塗布される。

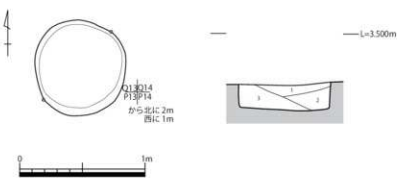
出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。



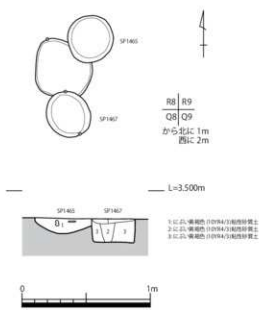
SP3026



SP3027



SP3028



SP3029

図 226　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（7）

22 号小穴（SP3022）（図 225）

山路地区・旧 B2 区 Q7 グリッドにて検出された旧 SP2183 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.28m、短径 0.27m、深度 0.39m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。1 層中中位より土師器皿が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

23 号小穴（SP3023）（図 225）

山路地区・旧 B2 区 Q7 グリッドにて検出された旧 SP2179 である。

平面形態は不整円形を呈し、残存長径 0.31m、残存短径 0.25m、深度 0.29m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器皿が出土した。土師器皿 SP3-29 は灯明皿の可能性がある。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

24 号小穴（SP3024）（図 225）

山路地区・旧 B 区 P8 グリッドにて検出された旧 SP2269 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.29m、残存短径 0.19m、深度 0.20m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。1 層中より土師器杯が出土した。土師器杯 SP3-30 は底部～下半部のみの小片であり、流れ込みの可能性がある。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、中世前半と推定される。

25 号小穴（SP3025）（図 225）

山路地区・旧 B2 区 O8 グリッドにて検出された旧 SP2275 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.30m、短径 0.28m、深度 0.27m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土や黄褐色粘性砂質土である。柱痕に該当する 1 層中位より須恵器長頸壺が出土した。須恵器長頸壺 SP3-31 は破片であり、柱抜き取り後に埋設されたと推定できる。TK209 式併行期である。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、6 世紀末と推定される。

26 号小穴（SP3026）（図 226）

山路地区・旧 B2 区 O8 グリッドにて検出された旧 SP2274 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.53 m、短径 0.45m、深度 0.32m を測る。遺構覆土は、黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。2 層中位より土師器甕が出土した。流れ込みと推定される。土師器甕 SP3-32 は内面が被熱により赤変している。

遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

27 号小穴（SP3027）（図 226）

山路地区・旧 B3 区 Q13 グリッドにて検出された旧 SP2056 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.53m、短径 0.52m、深度 0.35m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。3 層層中より土師器高台付椀が出土した。柱痕や抜き取り痕、裏込め埋土も観察されないことや、高台付椀 SP3-33 が破片であることから、廃棄後の流れ込みと推定される。

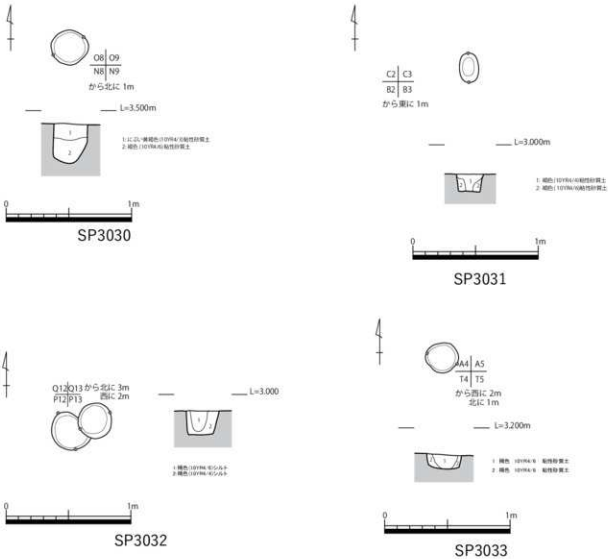


図 227　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（8）

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

28 号小穴（SP3028）（図 226）

山路地区・旧 B3 区 Q13 グリッドにて検出された旧 SP2062 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.76m、短径 0.74m、深度 0.20m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。2 層中より須恵器壺が出土した。須恵器壺 SP3-34 は、小片であるが長頸壺と推定される体部である。TK209 式併行期と推定される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期末葉・6 世紀末と推定される。

29 号小穴（SP3029）（図 226）

山路地区・旧 B2 区 R8 グリッドにて検出された旧 SP1467 である。

平面形態は不整方形を呈し、長径 0.37m、短径 0.32m、深度 0.18m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐

色粘性砂質土である。3 層中より土師器水注が出土した。SP3-35 は、胎土は精製されているが焼成は不良で酸化焔焼成状である。直線状を呈する体部に水注部を差し込んでいる。注口部はヘラケズリ後にユビナデを施す。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

30 号小穴（SP3030）（図 227）

山路地区・旧 B2 区 O8 グリッドにて検出された旧 SP1521 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.29m、短径 0.28m、深度 0.32m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。2 層中より土師器高杯が出土した。高杯 SP3-36 は中央部が膨らむやや短脚で、大柿Ⅲ様相Ⅳ段階に該当する。

出土遺物から、古墳時代後期後半・6 世紀後半と推定される。

31 号小穴（SP3031）（図 227）

山路地区・旧 B1 区 C3 グリッドにて検出された旧 SP3001 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.23m、短径 0.15m、深度 0.13m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器甕が出土した。須恵器甕 SP3-37 は 6 世紀末から 7 世紀初頭と推定されるが、口縁部小片であり流れ込みである。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。

32 号小穴（SP3032）（図 227）

山路地区・旧 B3 区 Q12 グリッドにて検出された旧 SP3040 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.28m、短径 0.27m、深度 0.19m を測る。遺構覆土は、褐色シルト質である。2 層中より黒色土器椀が出土した。椀 SP3-38 は黒色土器 B 類で、内面には丁寧なヘラミガキが施される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

33 号小穴（SP3033）（図 227）

山路地区・旧 B2 区 A4 グリッドにて検出された旧 SP3251 である。

平面形態は不整円形を呈し、長径 0.27m、短径 0.24m、深度 0.16m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器椀が出土した。SP3-39 は口径 15.8 ㎝を測り TK43 式併行期と推定されるが、小片であり流れ込みである。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期・6 世紀後半と推定される。

34 号小穴（SP3034）（図 228）

山路地区・旧 B2 区 P8 グリッドにて検出された旧 SP3400 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.35m、短径 0.28m、深度 0.29m を測る。遺構覆土は、褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器付蓋が出土した。坏蓋 SP3-40 は TK43 式併行期と推定される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期・6 世紀後半と推定される。

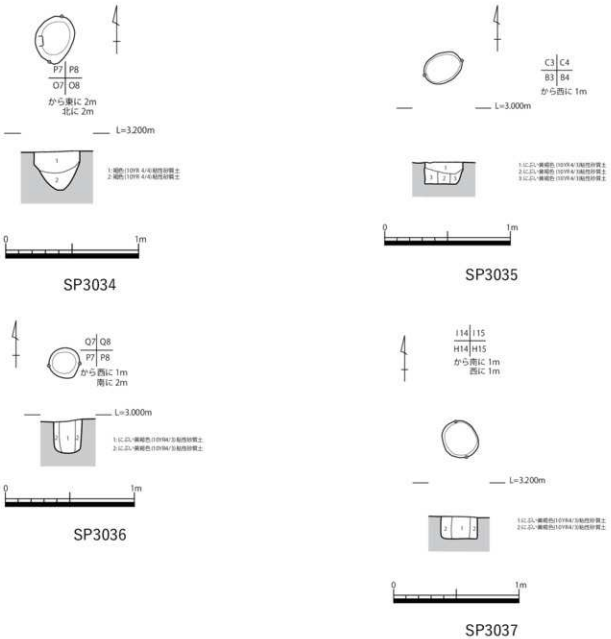


図 228　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（9）

35 号小穴（SP3035）（図 228）

山路地区・旧 B1 区 C3 グリッドにて検出された旧 SP4146 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.32m、短径 0.23m、深度 0.17m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器杯身が出土した。杯身 SP3-41 は口径 9.8 cmを測り、TK217 併行期と推定される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期末・7 世紀初頭と推定される。

36 号小穴（SP3036）（図 228）

山路地区・旧 B2 区グ P7 リッドにて検出された旧 SP4550 である。

平面形態は楕円駅を呈し、長径 0.26m、短径 0.24m、深度 0.25m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色

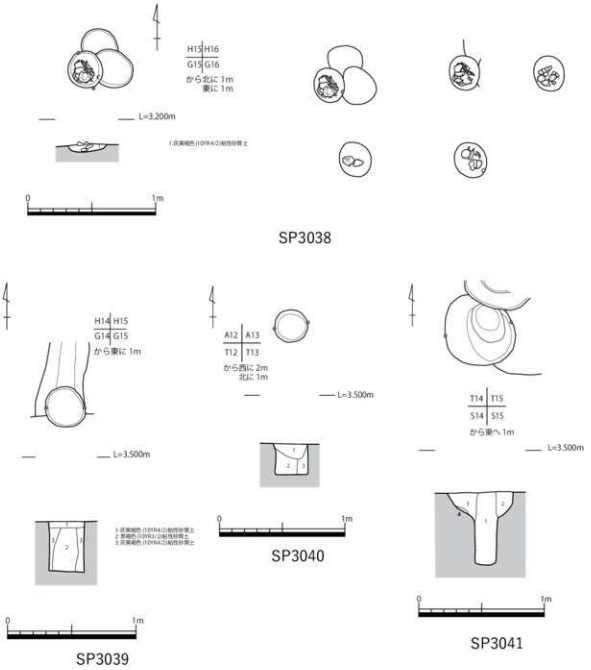


図 229　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（10）

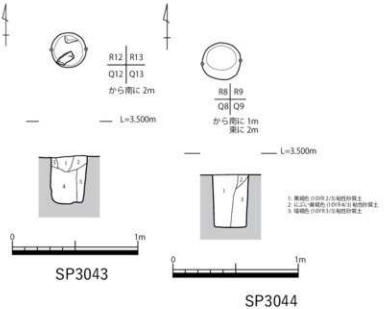
粘性砂質土である。1 層中より土師器甕が出土した。甕 SP3-42 は大柿Ⅲ様相Ⅵ段階に位置づけることが可能であるが、小片であり流れ込みである。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期末・7 世紀前葉と推定される。

37 号小穴（SP3037）（図 228）

山路地区・旧 B1 東区 J14 グリッドにて検出された旧 SP1002 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.31m、短径 0.27m、深度 0.17m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器捏鉢が出土した。捏鉢 SP3-43，44 は小片であり流れ込みと推定



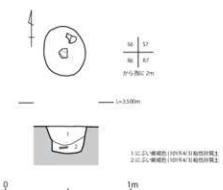


表 38　小穴（SP）一覧表

遺構番号	旧調査区	遺構番号	グリッド	平面形態	長軸長（m）	短軸長（m）	深度（m）
SP3001	B1	SP2114	d7	楕円形	0.34	0.29	0.10
SP3002	B2	SP1052	c8	円形	0.27	0.26	0.25
SP3003	B2	SP1078	s7	円形	0.22	0.21	0.10
SP3004	B2	SP1183	s4	円形	0.23	0.22	0.21
SP3005	B2	SP1251	t8	円形	0.29	0.28	0.23
SP3006	B2	SP1247	t7	楕円形	0.30	0.28	0.48
SP3007	B2	SP1262	t7	楕円形	0.33	0.31	0.51
SP3008	B2	SP1547	t7	楕円形	0.25	0.23	0.49
SP3009	B2	SP2027	s10	円形	0.26	0.27	0.45
SP3010	B2	SP2072	s6	円形	0.24	0.24	0.36
SP3011	B2	SP2131	r9	円形	0.31	0.29	0.49
SP3012	B2	SP2119	s8	円形	0.30	0.28	0.22
SP3013	B2	SP2117	s8	楕円形	0.43	0.37	0.40
SP3014	B2	SP2108	t7	円形	0.30	0.29	0.28
SP3015	B2	SP2106	t7	円形	0.43	0.42	0.34
SP3016	B2	SP2105	t7	楕円形	0.50	0.40	0.28
SP3017	B2	SP2100	t7	不整円形	(0.16)	0.22	0.19
SP3018	B2	SP1443	q6	楕円形	0.27	0.20	0.42
SP3019	B2	SP2176	q7	円形	0.28	0.26	0.32
SP3020	B2	SP2185	q7	不整円形	0.44	0.30	0.11
SP3021	B2	SP2186	q6	円形	0.28	0.26	0.32
SP3022	B2	SP2183	q7	円形	0.28	0.27	0.39
SP3023	B2	SP2179	q7	不整円形	(0.31)	(0.25)	0.29
SP3024	B2	SP2269	p8	円形	0.29	(0.19)	0.20
SP3025	B2	SP2275	o8	円形	(0)0	0.28	0.27
SP3026	B2	SP2274	o8	楕円形	0.53	0.45	0.32
SP3027	B3	SP2056	q13	円形	0.53	0.52	0.35
SP3028	B3	SP2062	q13	円形	0.76	0.74	0.20
SP3029	B2	SP1467	s6	不整方形	0.37	0.32	0.18
SP3030	B2	SP1521	o8	円形	0.29	0.28	0.32
SP3031	B1	SP3001	c3	楕円形	0.23	0.15	0.13
SP3032	B3	SP3040	q12	円形	0.28	0.27	0.19
SP3033	B2	SP3251	a4	不整円形	0.27	0.24	0.16
SP3034	B2	SP3400	p8	楕円形	0.35	0.28	0.29
SP3035	B1	SP4146	c3	円形	0.32	0.23	0.17
SP3036	B2	SP4550	p7	楕円形	0.26	0.24	0.25
SP3037	B1 東	SP1002	h14	楕円形	0.31	0.27	0.17
SP3038	B1 東	SP1006	h16	円形	0.29	0.27	0.07
SP3039	B1 東	SP1011	g15	不整円形	0.31	0.3	0.39
SP3040	B3	SP1257	s12	円形	0.27	0.26	0.28
SP3041	B3	SP1360	t15	不整円形	0.55	(0.45)	0.57
SP3042	B3	SP1652	t14	楕円形	0.52	0.37	0.28
SP3043	B3	SP1855	q12	円形	0.28	0.28	0.27

図 230　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺構図（11）

される。
遺構検出面や周辺の遺構から、古代末～中世初頭と推定される。

38 号小穴（SP3038）（図 229）

山路地区・旧 B1 東区 H16 グリッドにて検出された旧 SP1006 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.29m、短径 0.27m、深度 0.07m を測る。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土である。1 層上位中より土師器脚台付皿、土師器杯、土師器甕が出土した。柱抜き取り後に重ねて埋設された。脚台付皿 SP3-45 は、胎土中に結晶片岩砂粒を含み吉野川流域からの搬入品と推定される。杯 SP3-47 は 2 次焼成による被熱赤変が観察される。埋納前後に火に投じられたと推定される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀前半と推定される。

39 号小穴（SP3039）（図 229）

山路地区・旧 B1 東区 G15 グリッドにて検出された旧 SP1011 である。

平面形態は不整円形を呈し、長径 0.31m、短径 0.30m、深度 0.39m を測る。遺構覆土は、灰黄褐色粘性砂質土や黒褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器甕が出土した。甕 SP3-48 は小片であり流れ込みである。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古代と推定される。

40 号小穴（SP3040）（図 229）

山路地区・旧 B3 区 A12 グリッドにて検出された旧 SP1257 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.27m、短径 0.26m、深度 0.24m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器高台付椀が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

41 号小穴（SP3041）（図 229）

山路地区・旧 B3 区 T15 グリッドにて検出された旧 SP1360 である。

平面形態は不整円形を呈し、長径 0.55m、短径 0.45m、深度 0.57m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。柱痕に該当する 1 層中より擂鉢が出土した。擂鉢 SP3-50 は東播系である。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、中世初頭と推定される。

42 号小穴（SP3042）（図 230）

山路地区・旧 B3 区グリッドにて検出された旧 SP1652 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.52m、短径 0.37m、深度 0.24m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土・黒褐色粘性砂質土である。

遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

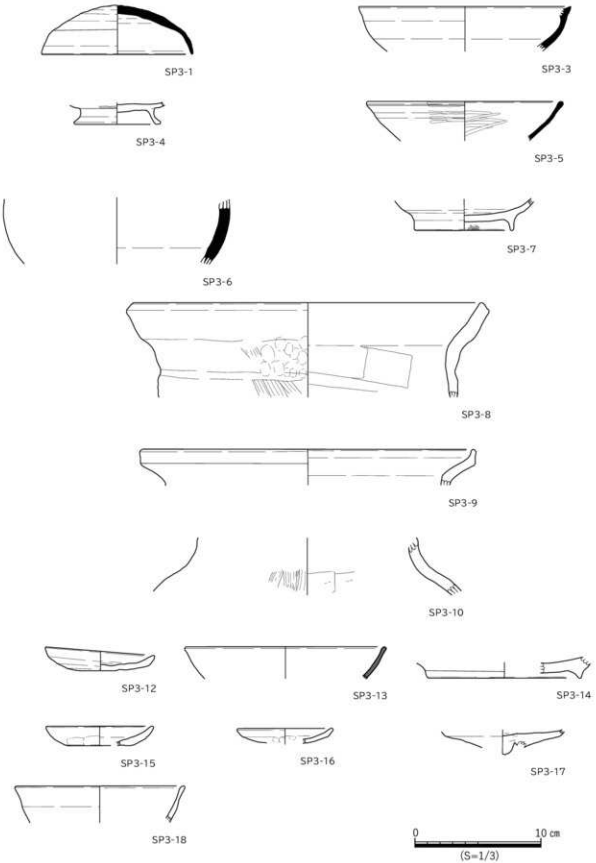


図 231　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺物図（1）

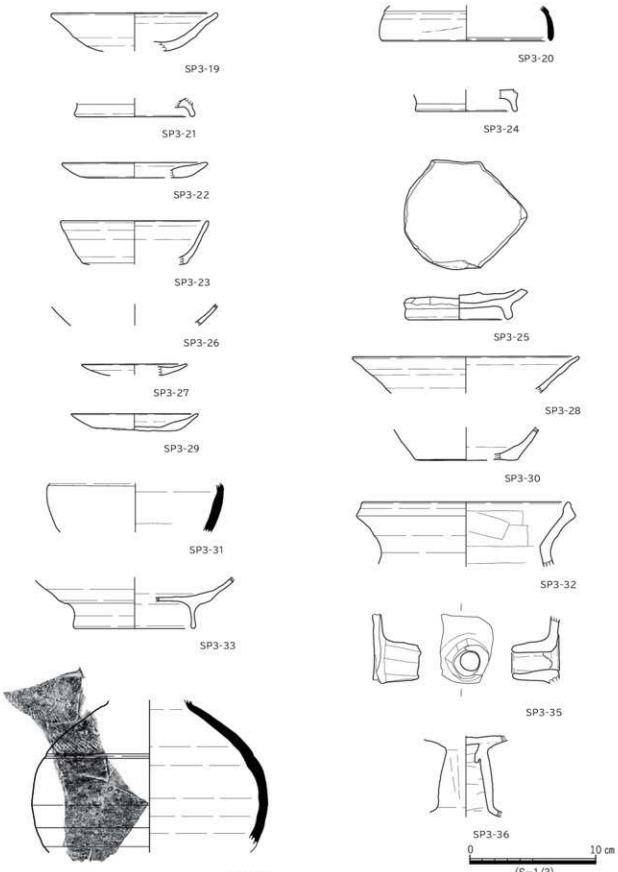


図 232　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺物図（2）

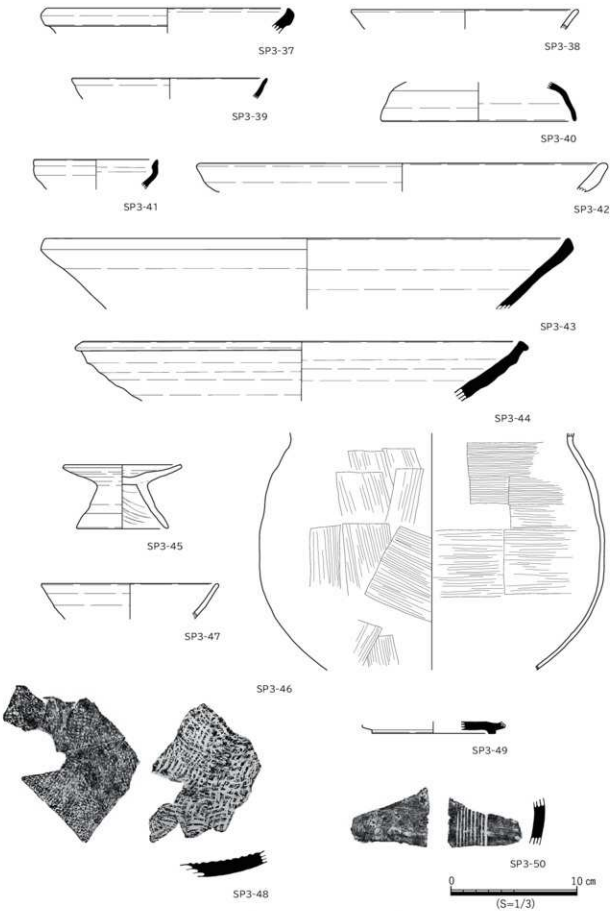


図 233　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺物図（3）

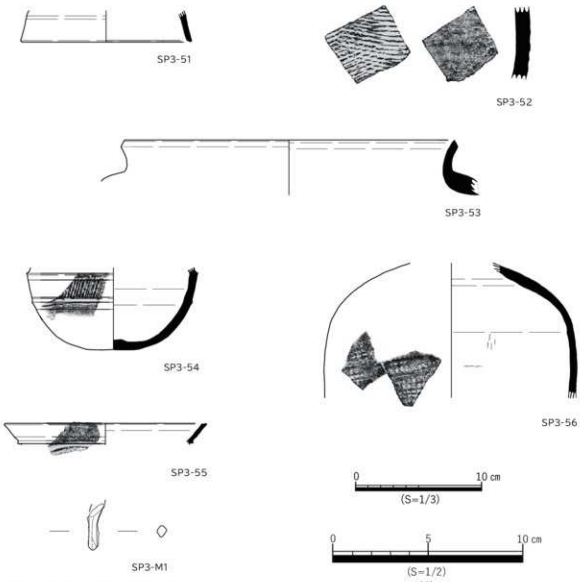


表 39　小穴出土鉄器観察表

番号	遺構	器種	全長（幅）	幅（cm）	厚（cm）	実測番号
SP3-M1	SP3014	釘	2.5	0.9	0.6	2536

図 234　第 3 遺構面小穴・柱穴 SP 遺物図（4）

43 号小穴（SP3043）（図 230）

山路地区・旧 B3 区 Q12 グリッドにて検出された旧 SP1855 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.28m、短径 0.28m、深度 0.37m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土・黒褐色粘性砂質土である。2 層中より須恵器杯蓋が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。

44 号小穴（SP3044）（図 230）

山路地区・旧 B2 区 Q9 グリッドにて検出された旧 SP1489 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.30m、短径 0.29m、深度 0.42m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や暗褐色粘性砂質°・黒褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器甕が出土した。柱抜き取り後

表 40　小穴出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	整形	密度 硬成	胎土組成	色調	調整	備考、実測番号
SP3-1	SP0001	須恵器	杯蓋	高 3.85 口 :13.0	0.1～3.5	精良	石、長、泥	外：灰（N5/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向上から見て時計回り。2563
SP3-3	SP0002	須恵器	杯身	口：(16.7)	0.1～3.0	精良	石、長、泥	外：灰黄（2.5Y6/2） 内：明褐灰（5YR7/1）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	3452
SP3-4	SP0003	黒色土器	椀	底（6.6）	0.1	精良	砂、赤	外：黒褐（5YR2/1） 内：黒褐（5YR3/1）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	転用前の可能性あり。3390
SP3-5	SP0004	須恵器	瓦器椀	高：(2.4) 口：(18.8)	0.1～1.0	精良	石	外：灰（N5/0） 内：ヨコナデ→ヘラミガキ	口外：ヨコナデ→ヘラミガキ／内：ヨコナデ	3403
SP3-6	SP0005	須恵器	壺	胴：(17.95)	0.1～3.0	精良	石、長、角、凝灰岩	外：暗オリーブ（7.5Y4/3） 内：灰白（N7/1）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ	外面白然釉付着。転土分析在地？。3406
SP3-7	SP0006	土師器	高台付椀	底（7.6）	0.1～5.0	やや粗 注	石、長、雲、砂	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：橙（7.5YR7/6）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	転用前の可能性あり。→高台内面にスス付着。上下逆にして高台内を灯明皿として使用した可能性あり。3425
SP3-8	SP0007	土師器	甕	口：(27.5) 胴：(23.3)	0.1～5.5	やや粗 注	石、長、チ、雲	外：黒褐（5YR3/1） 内：灰褐（7.5YR4/2）	口外：ユビオサエ→ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：イタナデ→ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ	外面胴部ススあり、オコゲ付着。3413
SP3-9	SP0008	土師器	甕	口：(26.2)	0.1～7.0	粗 やや不	砂、石、長、チ、金雲、赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ヨコナデ／内：イタナデ→ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ・胴上：ヨコナデ	3456
SP3-10	SP0009	土師器	壺	胴：(18.4)	0.1～5.5	粗 やや不	砂、石、長、チ、雲、赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	胴上外：ハケ（6本1mm）／内：ヘラケズリ	4466
SP3-12	SP0011	土師器	鉢	高 13.9 口 26.8 ・底 5.0	0.5～6.0	やや粗 注	砂、石、長、雲、赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4465
SP3-13	SP0012	瓦器	椀	高：(2.6) 口：(16.0)	0.1～1.5	粗 やや不	石、長	外：黒（N2/0） 内：黒（N2/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4481
SP3-14	SP0013	瓦器	椀	底（6.1）	0.1	良 良	石、長	外：黄灰（2.5Y6/1） 内：にぶい黄（2.5Y6/3）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4482
SP3-15	SP0014	土師器	鉢	高：(1.5) 口：(7.3)・底（5.0）	0.2～2.0	良 良	石、長、雲、赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：ユビナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ユビオサエ／内：回転ナデ	4484
SP3-16	SP0014	土師器	皿	口：(7.5)	0.1～2.0	良 良	砂、雲、角、赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：ユビオサエ→回転ナデ／内：ユビオサエ→回転ナデ・底外：ユビオサエ→回転ナデ／内：ユビオサエ	搬入品？。胎土分析結果焼成酸入一群。4485
SP3-17	SP0015	土師器	高杯		0.1～4.0	粗 良	砂、石、長、チ、雲	外：橙（5YR6/6） 内：明赤褐（5YR5/6）	底外：ユビナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ	在地、胎土分析在地？。4483
SP3-18	SP0016	土師器	杯	口：(13.2)	0.2～3.5	良 やや不	石、長、チ、雲	外：にぶい橙（10YR7/4） 内：浅黄（2.5Y7/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	4486
SP3-19	SP0017	土師器	高杯	底（5.0）	0.5～1.5	粗 やや不	砂、石、長、チ、赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：にぶい橙（10YR7/4）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ヨコナデ・胴下外：ヨコナデ	4487
SP3-20	SP0018	須恵器	杯蓋	口：(13.3)	0.1～3.5	精良	石、長	外：灰（N5/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	回転方向上から見て時計回り。外面、接合痕あり。3442
SP3-21	SP0019	土師器	高台付椀	高（1.5）・底（9.2）	0.1～9.0	良 やや不	石、長、雲、赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（2.5YR6/3）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4478
SP3-22	SP0019	土師器	皿	高：1.2 口：11.4・底 2.1	0.1～2	良 やや良	石、長、雲、赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ヘラ切り	4479
SP3-23	SP0019	土師器	杯	口：(11.8)	0.1～6.0	良 不良	砂、石、長、雲、赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4480
SP3-24	SP0020	土師器	高台付椀	高台（8.1）	0.1～3.0	粗 やや不	砂、石、長、雲	外：黄橙（2.5YR6/8） 内：橙（5YR7/6）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4475
SP3-25	SP0020	土師器	転用品	底7.8	0.1～6.0	良 やや不	砂、石、長、チ、雲、赤	外：橙（5YR6/8） 内：灰（5Y4/1）	口外：打ち欠き／内：打ち欠き・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4474
SP3-26	SP0021	土師器	杯		0.1～1.0	粗 やや不	砂、長、チ、雲	外：にぶい橙（7.5YR7/6） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	内外面表色顕材痕跡。4476
SP3-27	SP0021	土師器	皿	口：(8.4)	0.5～1.5	良 不良	砂、石、長、チ、雲、赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	4477
SP3-28	SP0022	土師器	杯	口：(17.8)	0.5～2.0	良 やや不	砂、石、長、雲、赤	外：明黄褐（10YR6/6） 内：黒褐（10YR3/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ	4472
SP3-29	SP0023	土師器	皿	高 1.3 口：10.0・底 4.6	0.1～3.5	良 やや不	砂、石、長、チ、雲	外：にぶい橙（10YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4467
SP3-30	SP0024	土師器	杯	底（8.05）	0.1～1.5	精 不良	石、長、チ、雲、赤	外：橙（5YR6/8） 内：明赤褐（5YR5/8）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ナデ	4471
SP3-31	SP0025	須恵器	長頸壺		0.1～3.5	精良	石	外：灰白（2.5YR7/1） 内：灰白（5Y7/1）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	自然釉付着。4469
SP3-32	SP0026	土師器	甕	高：(5.1) 口：(16.3) 胴：(13.4)	0.1～5.0	粗 やや不	砂、石、長、雲、赤	外：にぶい黄橙（10YR5/4） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ・胴上外：ヨコナデ／内：イタナデ	内面被熱赤変？。4468
SP3-33	SP0027	土師器	高台付椀	底（9.6）	0.5～7.0	良 良	砂、石、長、雲、赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR6/6）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ	5630
SP3-34	SP0028	須恵器	壺	胴：(6.6) 頸：(18.7)	0.2～4.0	精良	石、雲、黒	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：黄灰（2.5Y6/1）	胴上外：回転ナデ→レ状文／内：回転ナデ・胴下外：回転ナデ→ケ（9条1mm）／内：回転ナデ・底外：回転ナデ→手持ちヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て時計回り。自然釉付着。6067
SP3-35	SP0029	土師器	水注？		0.1～6.0	精不良	砂、石、長、チ、赤	外：浅黄（2.5Y7/4） 内：橙（7.5YR7/6）	胴上外：ヘラケズリ→ユビナデ／内：ユビナデ	5625
SP3-36	SP0030	土師器	高杯		0.1～5.0	良 やや不	砂、石、長、チ、雲、赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7/6）	胴内：ユビナデ	5829
SP3-37	SP0031	須恵器	甕	口：(19.1)	0.1～1.0	精 やや不	石、長、泥	外：灰白（N7/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	6064
SP3-38	SP0032	黒色土器	椀	口：(17.85)	0.1～1.0	精良	石、長、雲、赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：黒（7.5YR2/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ	内黒、5834

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度 構成	胎土組成	色調	調整	備考、実測番号
SP3-39	SP3033	須恵器	椀	口：(15.3)	0.1	精良	長、炭	外：灰白（2.5Y7/1） 内：灰白（2.5Y7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	4620
SP3-40	SP3034	須恵器	杯蓋	口：(15.2)	0.1～0.5	精良	石、長	外：灰（5Y6/1） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	6052
SP3-41	SP3035	須恵器	杯身	口：(9.8)	0.1～2.0	精良	石、長	外：灰（N6/0） 内：灰（10YR6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	2800
SP3-42	SP3036	土師器	甕	口：(32.0)	0.2～5.0	やや粗やや不	石、長、チ、赤、炭	外：橙（2.5YR7/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ	4899
SP3-43	SP3037	須恵器	その他（壺鉢）	高：5.6 口：41.4	0.2～2.5	精良	石、長	外：灰（N5/0） 内：灰（N6/0）		2287
SP3-44	SP3037	須恵器	その他（壺鉢）	口：(34.6)	0.1～3.0	精良	石、長	外：灰（N6/0） 内：灰白（N7/0）		2288
SP3-45	SP3038	土師器	脚台付甕	高：(5.0) 脚：(4.0)・底（7.3）	0.1～11．0	精良	砂、石、長、雲、赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄（2.5Y6/3）	口外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→ユビナデ→脚外：脚内：ユビナデ／内：ユビナデ・脚上外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚台：シボリ／内：回転ナデ	2917、吉野川流域からの搬入品か
SP3-46	SP3038	土師器	甕	高：(18.9) 脚（22.6）脚：(27.4	0.1～3.5	やや粗やや不	石、長、チ、赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：黄橙（10YR8/6）	脚上外：ユビオサエ→ハケ（7条1cm）／内：ハケ（7条1cm）	2912
SP3-47	SP3038	土師器	杯	口：(7.0)	0.1～2.0	良やや不	石、長、雲、赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：黄灰（2.5Y5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	2次焼成、被熱？、2914
SP3-48	SP3039	須恵器	甕		0.1～1.0	精良	石、長	外：灰（N6/0） 内：灰白（N7/0）	脚下外：平行タタキ→カキ目／内：青海波文	2980
SP3-49	SP3040	須恵器	高台付杯	高台径（9.8）	0.1	精良	石、長	外：灰（5Y5/1） 内：灰（5Y6/1）	脚下内：回転ナデ、底外：回転ヘラケズリ→高台貼付／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り、5456
SP3-50	SP3041	東播系	すり鉢		0.1～3.0	精良	石、長、泥	外：褐灰（10YR6/1） 内：灰黄褐（10YR6/2）	脚上外：ユビナデ／内：ユビナデ→スリ目（9条2.5cm）	6066
SP3-51	SP3043	須恵器	杯蓋	口：(13.3)	0.1～0.5	精良	石、長	外：灰白（N7/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	6054
SP3-52	SP3044	須恵器	甕		0.1～0.5	精良	石、長	外：灰白（N8/1） 内：灰白（N8/1）	脚上外：平行タタキ／内：ユビナデ	3449
SP3-53	SP3045	須恵器	椀	口：(25.6) 脚：(25.8)	0.1～3.0	精良やや不	石、長、チ	外：灰白（2.5Y7/1） 内：灰白（5Y7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚外：回転ナデ／内：回転ナデ	3450
SP3-54	SP3045	須恵器	鉢	脚：(13.6)・底（4.0）	0.1～0.5	精良	石、長、雲	外：灰（2.5Y5/1） 内：灰（2.5Y5/1）	脚下外：回転ナデ→沈線→レンズ状文、回転ヘラケズリ→ヘラナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラナデ／内：回転ナデ	自然釉付着、2974
SP3-55	SP3046	須恵器	壺	口：(16.0)	0.1～2.0	精良	石、長、泥	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：黄灰（2.5Y5/1）	口外：回転ナデ→櫛状波状文（84）	3445
SP3-56	SP3047	須恵器	壺	脚：(20.1)	0.1～0.5	精良	石、長、泥	外：灰（N6/0） 内：灰白（N7/0）	脚上外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：格子タタキ→ユビナデ	脚上部自然釉付着、6068

の流れ込みである。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

45 号小穴（SP3045）（図 230）

山路地区・旧 B2 区 S6 グリッドにて検出された旧 SP1371 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.35m、短径 0.29m、深度 0.22m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。2 層中より須恵器甕が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。

46 号小穴（SP3046）

山路地区・旧 B2 区 R8 グリッドにて検出された旧 SP1459 である。

平面形態は楕円形を呈し、長径 0.48m、短径 0.46m、深度 0.06m を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土である。1 層中より須恵器甕が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。

47 号小穴（SP3047）

山路地区・旧 B2 区 R6 グリッドにて検出された旧 SP2087 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.15m、短径 0.17m、深度 0.13m を測る。1 層中より須恵器壺が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古代と推定される。

48 号小穴（SP3048）

山路地区・旧 B3 区 R12 グリッドにて検出された旧 SP3048 である。

平面形態は円形を呈し、長径 0.26m、短径 0.24m、深度 0.15m を測る。1 層中より土師器甕が出土した。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古墳時代後期後半と推定される。

（5）竪穴住居（SB）・性格不明遺構（SX）

1 号竪穴住居（SB3001）（図 235）

山路地区・旧 B2 区 S10,T10 グリッドにて検出された旧 SB3001 である。

平面形態は隅丸長方形を呈し、長軸長 5.65m、短軸長 4.58m、深度 0.125m、主軸方位 N-1.5°-E を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。竈や主柱穴は未検出である事から、竪穴住居では無いと想定される。土師器椀や土師器杯が出土したが、小片である。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古代と推定される。

2 号竪穴住居（SB3002）（図 236、237）

山路地区・旧 B2 区 R9,Q9 グリッドにて検出された旧 SB3002 である。

平面形態は隅丸正方形を呈し、長軸長 5.45m、短軸長 5.24m、主軸方位は N-70.08°-E を測る。遺構覆土は、にぶい黄褐色粘性砂質土や灰黄褐色粘性砂質土である。主柱穴は 3 基、その他柱穴は 12 基検出された。主柱穴内区画は約 3 × 2.8m・8.4 ㎡となる。東壁中央部に竈が敷設される。焚き口部幅 1.15m、燃焼部幅 0.48m、燃焼部奥裾 0.73m を測る燃焼部と袖部が検出された。支脚は未検出である。また、明瞭な下部構造も伴わない。

遺構覆土中より土師器杯と土師器椀が出土した。何れも小片であり、遺構使用・廃絶に伴う遺物とは認めがたい。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、古代と推定される。

1 号性格不明遺構（SX3001）（図 238）

山路地区・旧 B2 区 S6,S7 グリッドにて検出された SX1002 である。

東西長軸 21.3m、南北最大短軸長 3.57m、南北最小短軸長 1.75m、深度約 0.25m を測る浅い落ち込みである。遺構覆土は、明褐色粘性砂質土である。東側の田野山塊小谷地形からの堆積により堰き止められた北側に位置する旧神田瀬川旧河道の自然堤防の後背部に位置する浅い落ち込みであり、古墳時代後期から古代にかけての旧地形である。

遺構覆土内より土師器甕が出土した。この落ち込みからは、他にも遺物は出土しているが包含層として採集・掲載した。

2 号性格不明遺構（SX3002）（図 239 ～ 241）

山路地区・旧 B2 区 R10,Q10 グリッドにて検出された旧 SX2001 である。

平面形態は不整円形、断面形態は緩い皿形を呈し、長軸 4.64m、残存短軸 2.45m、深度 0.16m を測る。浅い落ち込みである。遺構覆土は、暗褐色粘性砂質土やにぶい黄褐色粘性砂質土や褐色粘性砂質土である。6 層中より土師器皿・土師器杯・土師器高台付椀・土師器鉢・土師器甕・土師器鍋等が出土した。

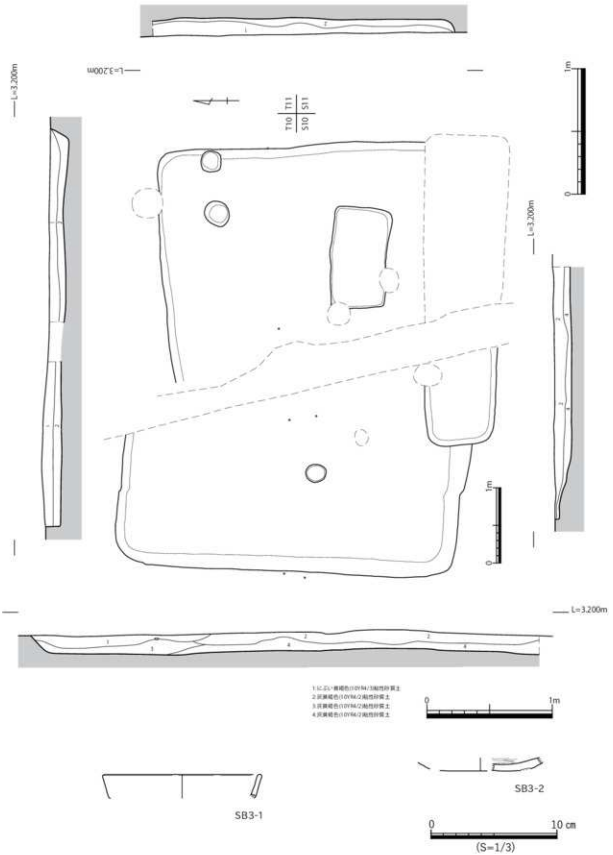


図 235　1 号竪穴住居（SB3001）遺構図・遺物図

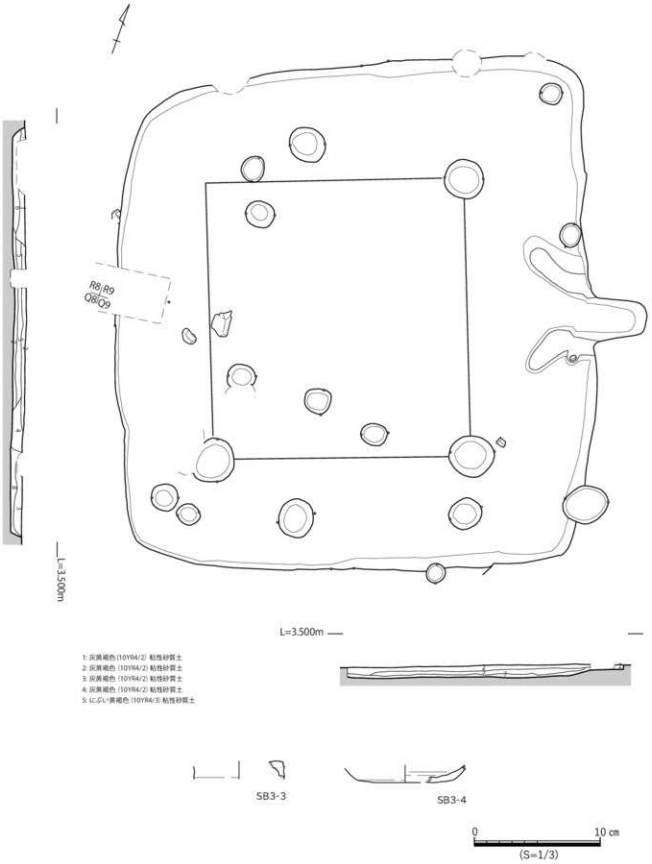


図 236　2 号竪穴住居（SB3002）遺構図（1）・遺物図

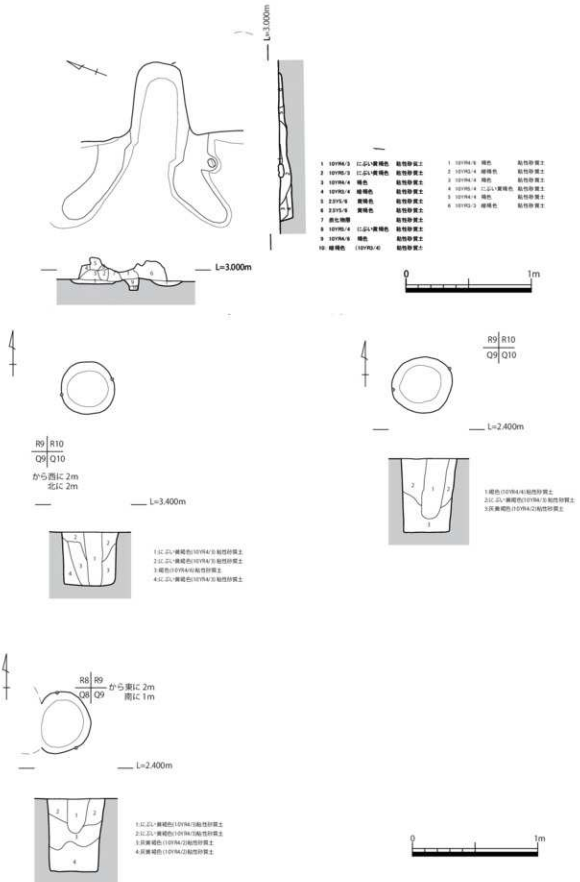


図 237　2 号竪穴住居（SB3002）遺構図（2）

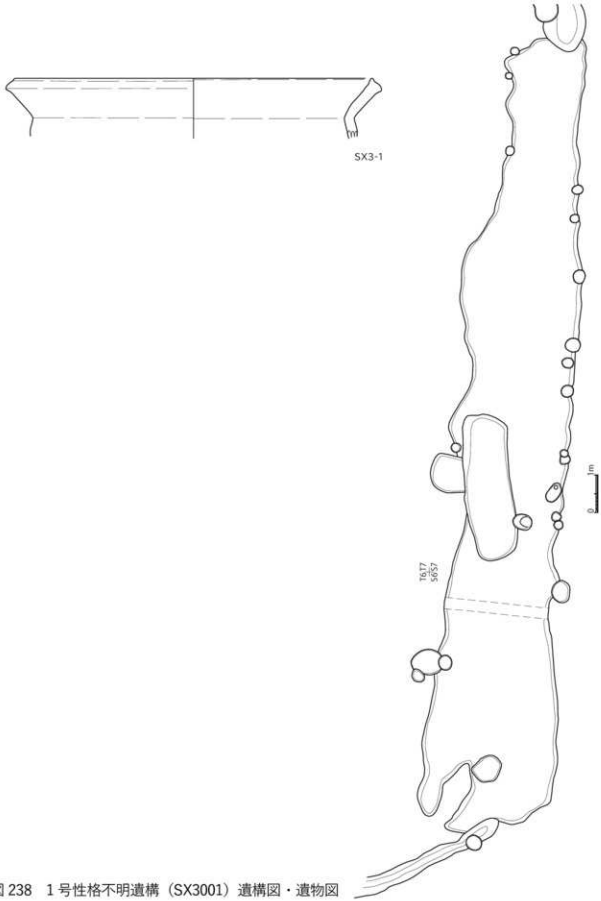


図 238　1 号性格不明遺構（SX3001）遺構図・遺物図

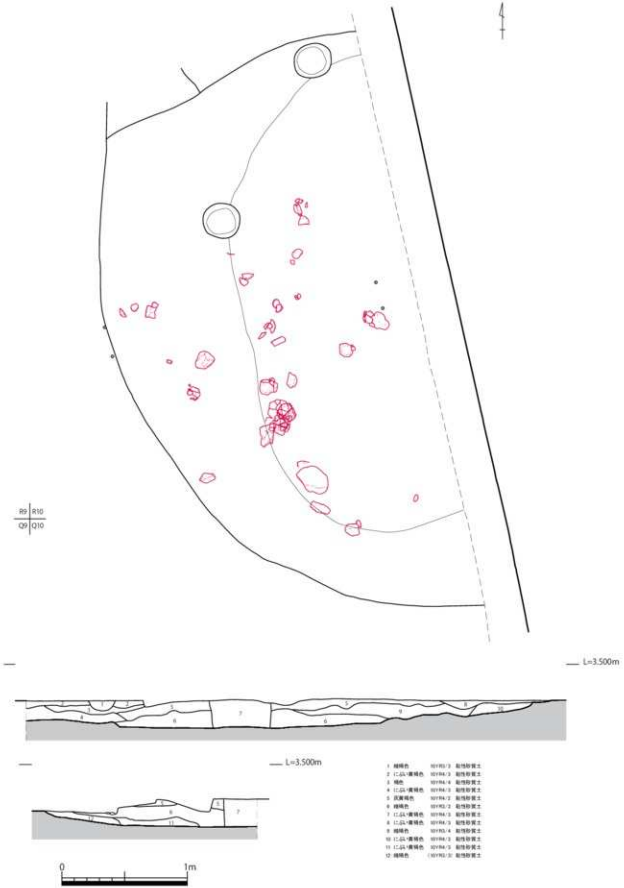


図 239　2 号性格不明遺構（SX3002）遺構図（1）

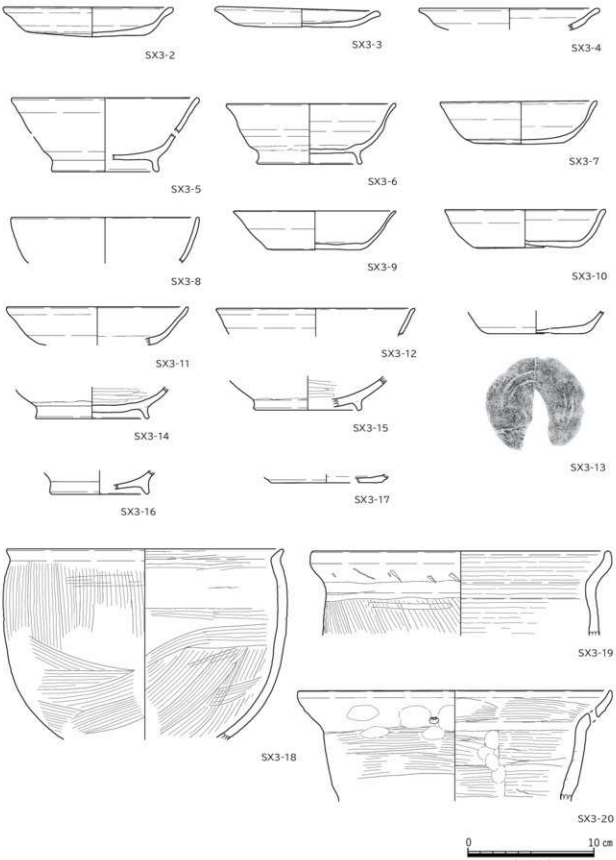
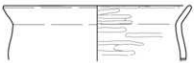


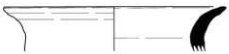
図 240　2 号性格不明遺構（SX3002）遺物図（1）



SX3-21

SX3-22

SX3-23



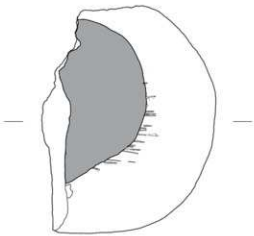
SX3-25

SX3-24

SX3-26

0 10 cm

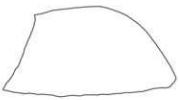
(S=1/3)



SX3-M1

0 5 10 cm

(S=1/2)



SX3-S1

表 41　性格不明遺構等出土鉄器観察表

番号	遺構	器種	全長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	実測番号
SX3-M1	SX3002	鉄鏃	(2.8)	2.5	0.4	4540

表 42　性格不明遺構等出土石器観察表

番号	遺構	石材	器種	長径（cm）	短径（cm）	高さ（cm）	重量（g）	実測番号
SX3-S1	SX3002	砂岩	台石	(25.4)	(19.6)	(10.1)	(7500)	4532

図 241　2 号性格不明遺構（SX3002）遺物図（2）

表 43　性格不明遺構等出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	密度焼成	胎土組成	色調	調整	備考
SB3-1	SB3001	土師器	杯	口：(13.3)	0.2～2.0	良やや不	石・長・黄・赤	外：にぶい褐（7.5YR5/4） 内：灰黄褐（10YR6/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4584
SB3-2	SB3001	土師器	椀		0.2～0.8	良	石・長・金雲	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：暗灰（N3/0）	底外：回転ヘラ切り／内：ヘラミガキ	4585
SB3-4	SB3002	土師器	杯	底（5.0）	0.5～4.0	極良	砂・石・長・赤	外：灰黄褐（10YR5/2） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4588
SB3-3	SB3002	土師器	椀		0.2～1.0	良やや不	石・長・チ・雲・角・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：褐灰（2.5YR4/1）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	4587
SX3-1	SX3002	土師器	甕	口：(28.5) 胴：(30.0)	0.1～6.5	粗やや不	砂・石・長・チ・雲・角・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴上外：ハケ（10条1cm）／内：イタナデ	3542
SX3-3	SX3002	土師器	皿	高：(1.65) 口：(12.5) 底：(6.35)	0.2～3.5	極やや不	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	4524
SX3-4	SX3002	土師器	杯	口：(14.2)	0.1～3.5	良やや不	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	内面赤色顔料塗布。 4531
SX3-5	SX3002	土師器	高台付椀	高：(5.85) 口：(14.8) 底：(8.4)	0.1～5.5	やや粗やや不	石・長・雲・赤	外：浅黄橙（7.5YR8/6） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ヘラ切り→高台貼付→ユビナデ／内：回転ナデ	4511
SX3-6	SX3002	土師器	高台付椀	高：4.8 口：(13.25) 胴：8.05 底：8.1	0.1～4.0	極やや不	石・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付／内：回転ナデ	口縁一体部中央打ち欠き打ち欠き部縁に煤付着。打刃部立して転用。4522
SX3-7	SX3002	土師器	杯	高：(3.43) 口：(12.3) 底：(7.05)	0.2～2.0	極やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい橙（5YR7/3） 内：にぶい橙（5YR6/3）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	内外面（底部外面除く）に赤色顔料塗布？。4512
SX3-8	SX3002	土師器	鉢	口：(14.8)	0.1～3.0	極やや不	砂・石・長・赤	外：にぶい橙（5YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・胴上外：ユビナデ／内：ユビナデ	粘土用流域からの搬入品？。焼成時頃弱なあり。粘土分析結果同：吉野川一群。4510
SX3-9	SX3002	土師器	杯	高：3.1 口：(12.9) 底：7.5	0.1～3.0	やや粗やや不	石・長・雲・赤	外：明黄褐（5YR5/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	4515
SX3-2	SX3002	土師器	皿	高：2.35 口：(13.1 底：7	0.2～4	やや粗不良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	4517
SX3-10	SX3002	土師器	杯	高：(3.05) 口：(12.8) 底：(7.8)	0.1～1.0	やや粗やや不	石・長・雲・赤	外：橙（2.5YR6/8） 内：明赤褐（2.5YR5/8）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	被熱赤変。4518
SX3-11	SX3002	土師器	杯	口：(12.4)	0.5～2.0	良不良	砂・石・長・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	4528
SX3-12	SX3002	土師器	杯	高：(2.2) 口：(15.6)	0.1～2.0	極やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ	4514
SX3-13	SX3002	土師器	杯	底 7.8	0.1～4.0	やや粗やや不	石・長・雲	外：褐灰（7.5YR4/1） 内：褐灰（7.5YR5/2）	胴上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	底用道の可能性あり。 4516
SX3-14	SX3002	土師器	高台付椀	底 8.8	0.1～2.0	やや粗やや不	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）	胴上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り？→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	内黒。4523
SX3-15	SX3002	土師器	高台付椀	底（8.2）	0.1～2.0	やや粗不良	砂・石・雲・赤	外：褐灰（5YR5/2） 内：黒（5Y2/1）	胴上外：回転ナデ／内：ヘラミガキ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：ヘラミガキ	内黒。3534
SX3-16	SX3002	土師器	高台付椀	底（7.6）	0.1～2.5	良やや不	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/3） 内：褐灰（5YR4/1）	胴下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	内面煤付着。4525
SX3-17	SX3002	土師器	皿	底（8.6）	0.1～1.5	極良	砂・石・長・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/3） 内：にぶい橙（10YR7/3）	底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4526
SX3-18	SX3002	土師器	甕	口：(21.7) 胴：(21.4) 胴：(22.5)	0.1～11.0	やや粗良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・胴上外：イタナデ（横一磨）／内：イタナデ→ユビナデ	内面赤部煤付着。4521
SX3-19	SX3002	土師器	鍋	口：(23.4) 口：(21.4)	0.2～4.0	やや粗やや不	石・長・チ・雲	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：イタオサエ→ユビナデ／内：ユビナデ→イタナデ・胴上外：タタキ→ハケ（江条35cm）／内：イタナデ	内面煤付着。外面赤部被熱赤変。4509
SX3-20	SX3002	土師器	鍋	口：(24.65)	0.2～8.0	粗良	石・長・チ・雲・金雲	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	口外：ヨコナデ／内：ヨコナデ・胴外：ユビオサエ→ハケ（7条1cm）→ヨコナデ／内：ハケ（7条1cm）→ヨコナデ・胴上外：ハケ（7条1cm）内：ユビオサエ→ハケ（7条1cm）→ユビナデ	4519
SX3-21	SX3002	土師器	甕	高：(4.4) 口：(14.3) 胴：(13.4)	0.1～3.5	極良	石・長・雲	外：オリーブ黒（5Y3/1） 内：黒（5Y2/1）	口外：ヨコナデ／内：ヘラミガキ・胴外：ヨコナデ、ユビナデ／内：ヘラミガキ・胴上外：ハケ（磨滅）／内：ヘラミガキ	4520
SX3-22	SX3002	土師器	鍋	口：(31.0)	1.0～8.0	粗良	砂・石・長・チ・雲	外：褐灰（10YR5/1） 内：にぶい黄橙（10YR5/3）	口外：ヨコナデ／内：イタナデ→ヨコナデ・胴外：ヨコナデ／内：イタナデ	4530
SX3-23	SX3002	土師器	甕		1.0～5.0	やや粗良	砂・石・長・チ・雲・赤・泥	外：橙（5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	底外：ハケ目（3条1cm）／内：ユビナデ	外面被熱赤変。4529
SX3-24	SX3002	須恵器	椀	口：(13.0)	0.1	極良	石・長・チ	外：灰（N5/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	3538
SX3-25	SX3002	須恵器	甕	口：(17.7) 胴：(13.1)	0.1～0.3	極良	石・長	外：赤灰（7.5YR5/1） 内：灰褐（5YR4/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・胴外：回転ナデ／内：回転ナデ	3540
SX3-26	SX3002	須恵器	甕	底（7.5）	0.1～6.0	極良	砂・石・長・泥	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	胴下外：イタナデ／内：無文あて具によるオサエ／底外：イタナデ／内：ユビオサエ	胎土分析在地？。4513

杯 SX3-4 は内面に赤色顔料を塗布する。高台付椀 SX3-6 は口唇部から体部中央にかけて打ち欠きを施している。打ち欠き部に煤が付着することから、灯明皿として転用。杯 SX3-7 は内外面に赤色顔料を塗布。鉢 SX3-8 は鮎喰川流域からの搬入品か。杯 SX3-10 は被熱による赤変が観察される。杯 SX3-13 は体部に打ち欠きを施した転用皿の可能性がある。高台付椀 SX3-14,15 は黒色土器 B 類である。高台付椀 SX3-16 は内面に煤が付着する。課雨 SX3-18 は内外面に煤が付着する。鍋 SX3-19 は内外面に煤が付着し、体部外面は被熱赤変が観察される。

出土遺物や遺構検出面や周辺の遺構から、10 世紀後半と推定される。

(6) 包含層出土遺物（図 242 ～ 258）

須恵器杯 IL-3 は口縁部に打ち欠きを施す。杯身 IL-28 は受け部に赤色顔料が付着する。IL-43 は口唇部に打ち欠きを施す。壺 IL-63 は胴部と底部に内側からの敲打による穿孔と、口縁部に打ち欠きを施す。壺 IL-65，壺 IL-66 は口縁部に赤色顔料を塗布する。甕 IL-70 の口縁部内外面には赤色顔料を塗布する。

土師器皿 IL-87 は口唇部が被熱により黒変しており、灯明皿の可能性がある。椀 IL-92 は内外面に赤色顔料を塗布する。杯 IL-97 は体部外面に赤色顔料を塗布する。杯 IL-102 は底部外面にヘラ記号を施し、2 種類の胎土を使用している。高台付椀 IL-96,106,107,114,115,181 は黒色土器 B 類である。高台付椀 IL-109 は体部に打ち欠きを施し転用皿とする。端部に煤が付着することから灯明皿として使用。皿 IL-113 は内面に煤が付着。椀 IL-114 外面には煤が付着する。高台付椀 IL-117 は内面に赤色顔料を塗布する。甕 IL-125 は内外面に煤やオコゲが付着する。羽釜 IL-131,IL-133 は胎土の特徴から香川地域からの搬入と推定される。甕 IL-141 の内面には焼成時破裂痕が残る。IL-145 は置き竈もしくは甑である。

白磁椀 IL-155 は体部に打ち欠きを施している。

管玉 IL-S1 は緑色凝灰岩で、片面穿孔である。管玉 IL-S2 は碧玉製で、片面穿孔である。管玉 IL-S3 は緑色凝灰岩で、片面穿孔である。石帯 IL-S4 は凝灰岩製で、4 基の級穴は裏面からの片面穿孔である。表面に残る 2 基の迎孔は途中で止まっており、迎えに失敗している。砥石 IL-S7,S8,S9,S10,S11 は砂岩製である。IL-S7 は砂岩の肌理が細かく、4 方向を使用し端部（欠損部）に溜まった鉄分が錆化している事から仕上げ置砥である。IL-S8 は砂岩の肌理が細かく、欠損するが大型の仕上げ置き砥と推定される。IL-S9,IL-S10 も仕上げ砥で、刃部長の筋状痕が残る。石製紡錘車 IL-S13 は結晶片岩製で、上側面に 8 基の格子目付鋸歯文が、下面には 6 基の格子目付鋸歯文が線刻されている。

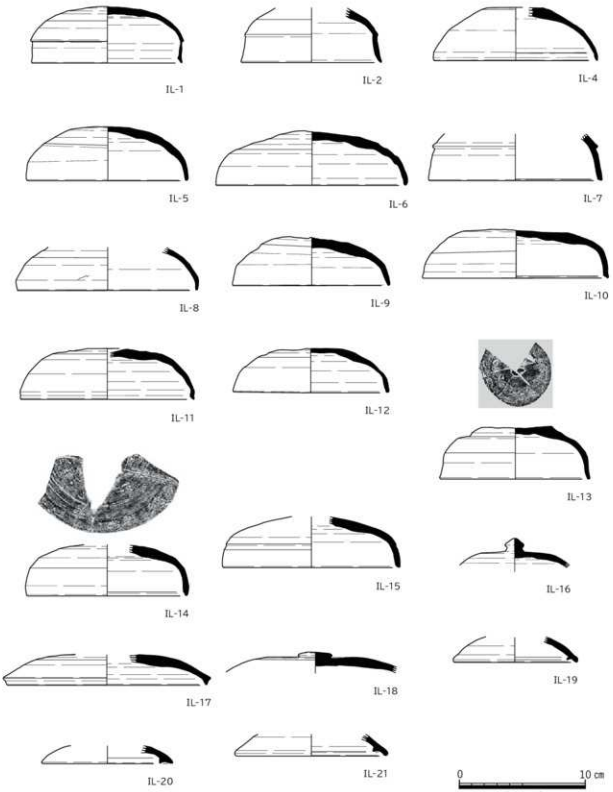


図 242　包含層出土遺物図（1）

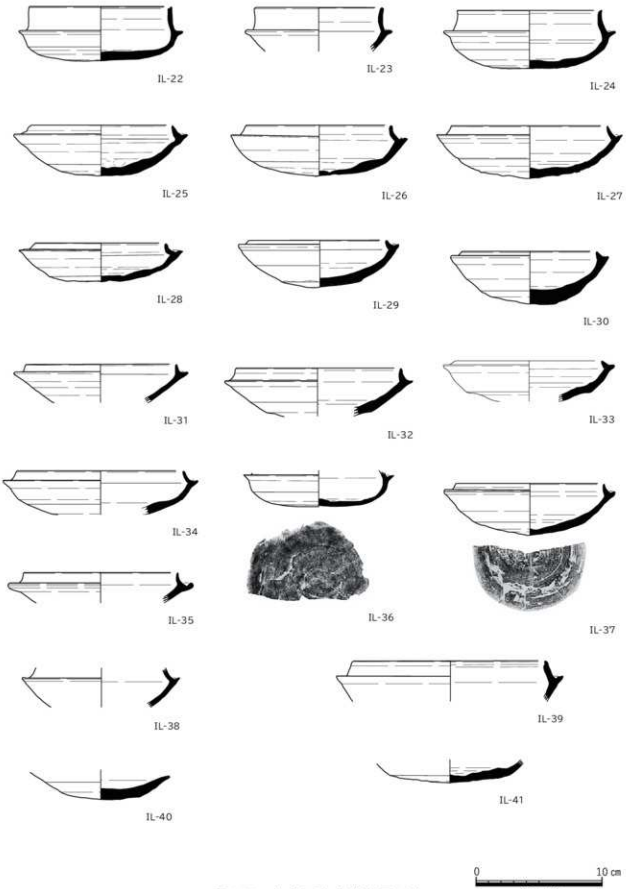


図 243　包含層出土遺物図（2）

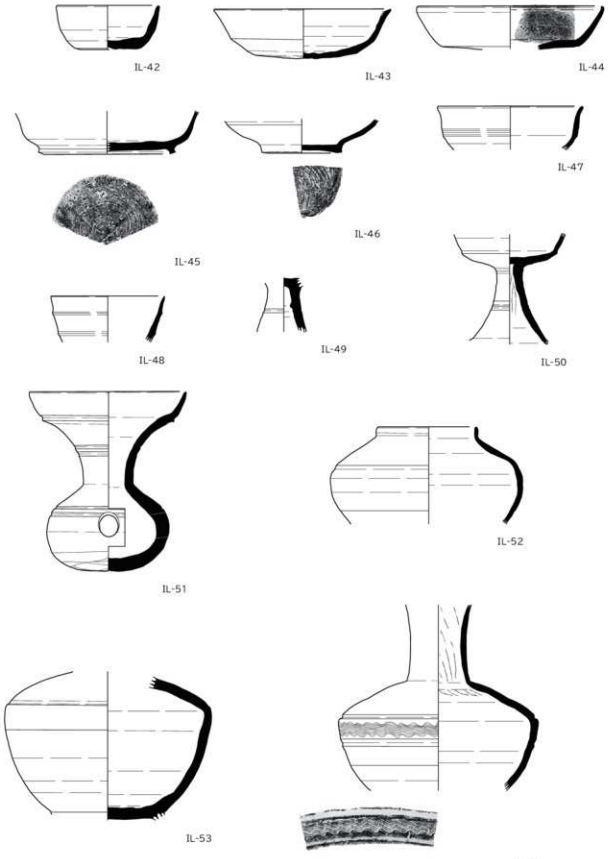


図 244　包含層出土遺物図（3）

0　10 cm
(S=1/3)

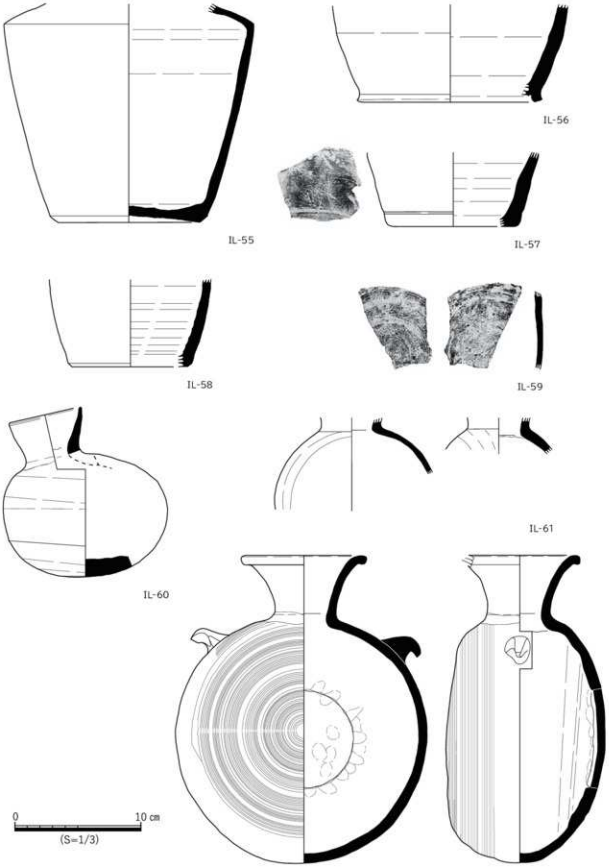


図 245　包含層出土遺物図（4）

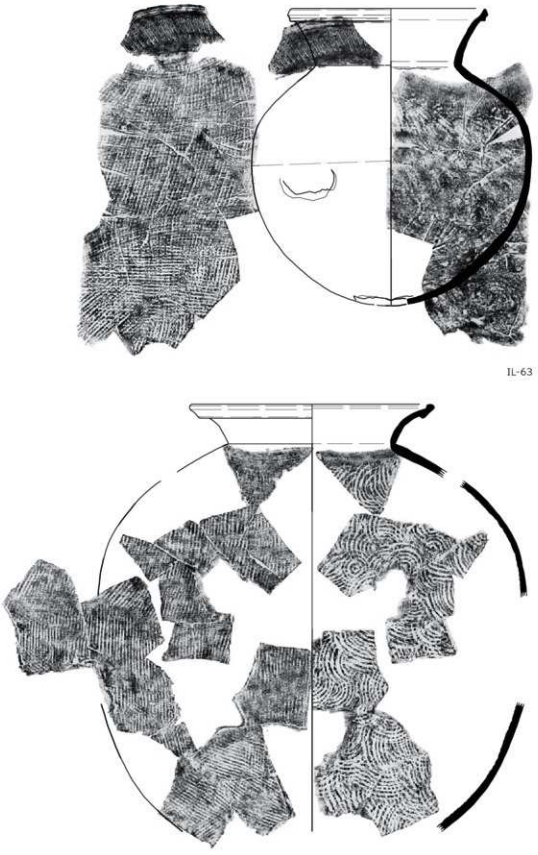


図 246　包含層出土遺物図（5）

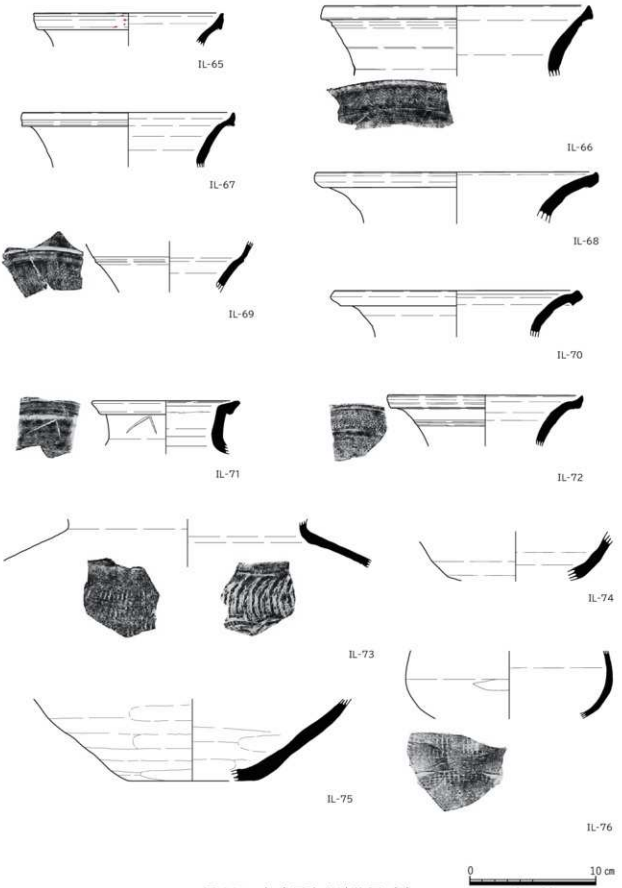


図 247　包含層出土遺物図（6）

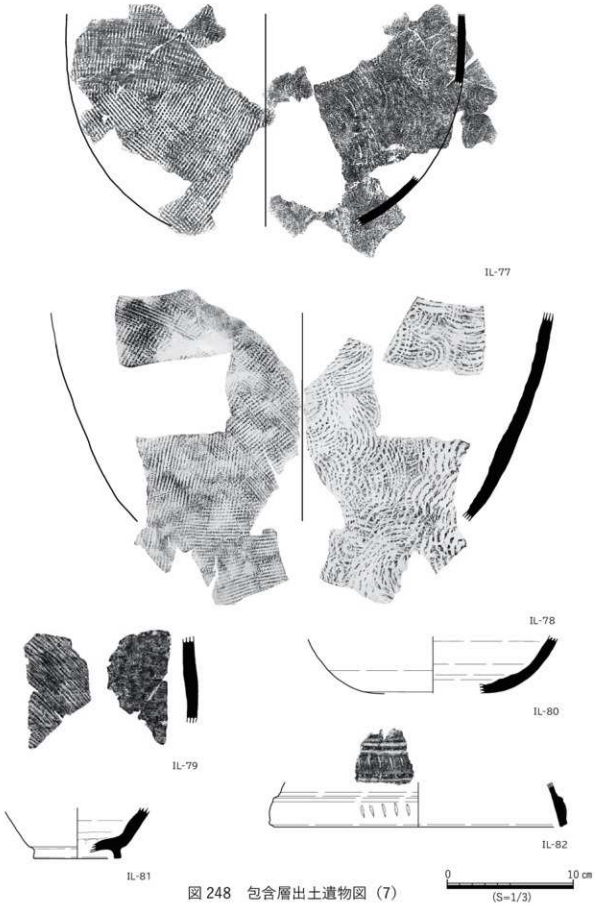


図 248　包含層出土遺物図（7）

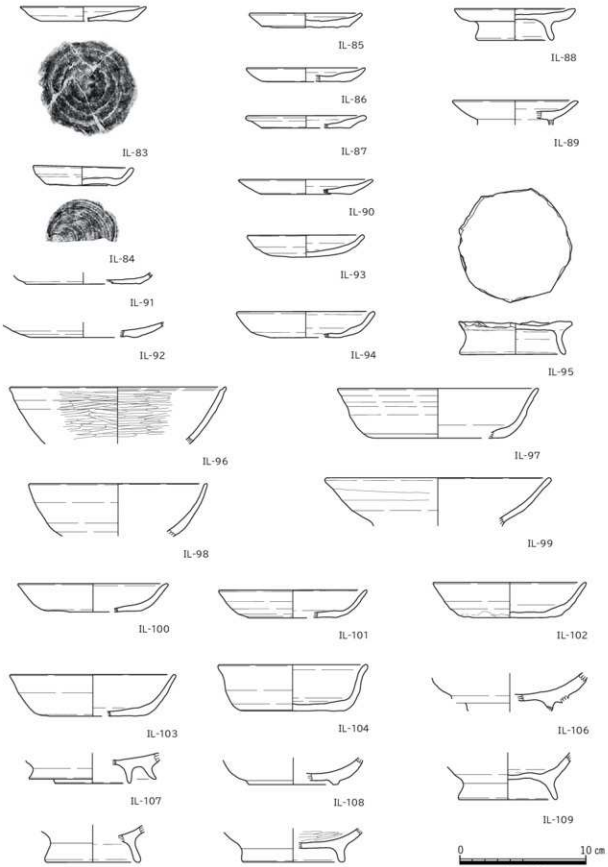


図 249　包含層出土遺物図（8）

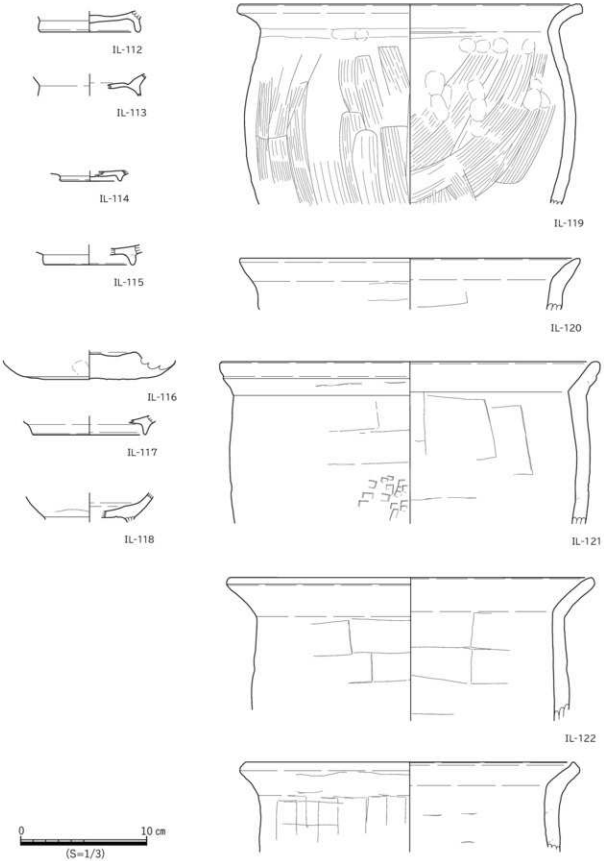


図 250　包含層出土遺物図（9）

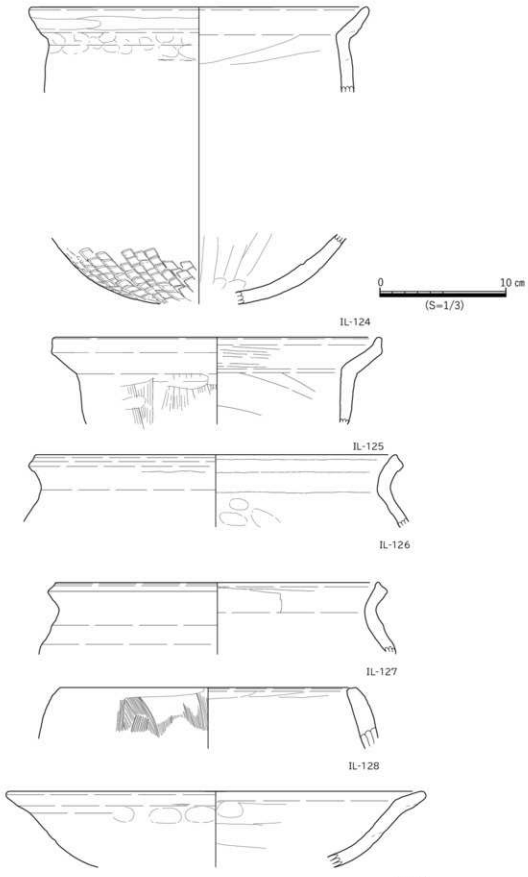


図 251　包含層出土遺物図（10）

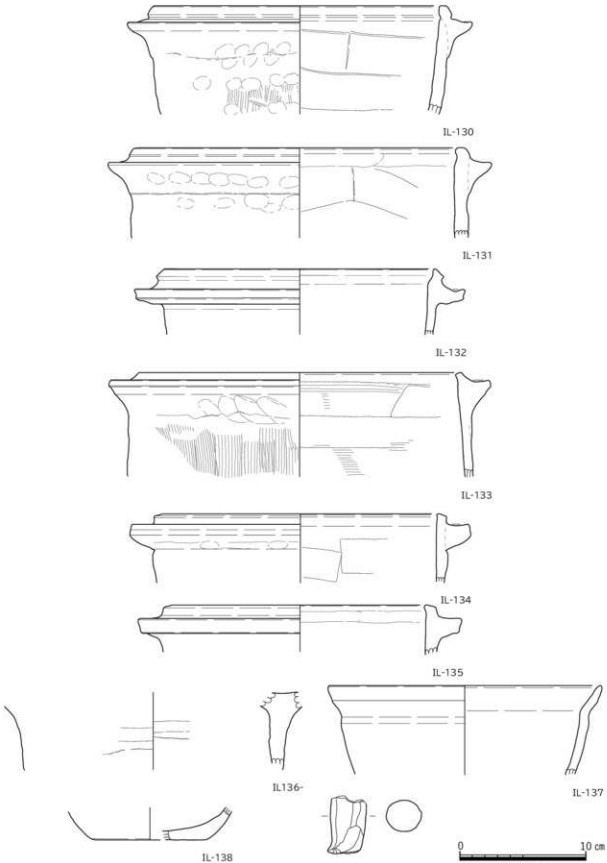


図 252　包含層出土遺物図（11）

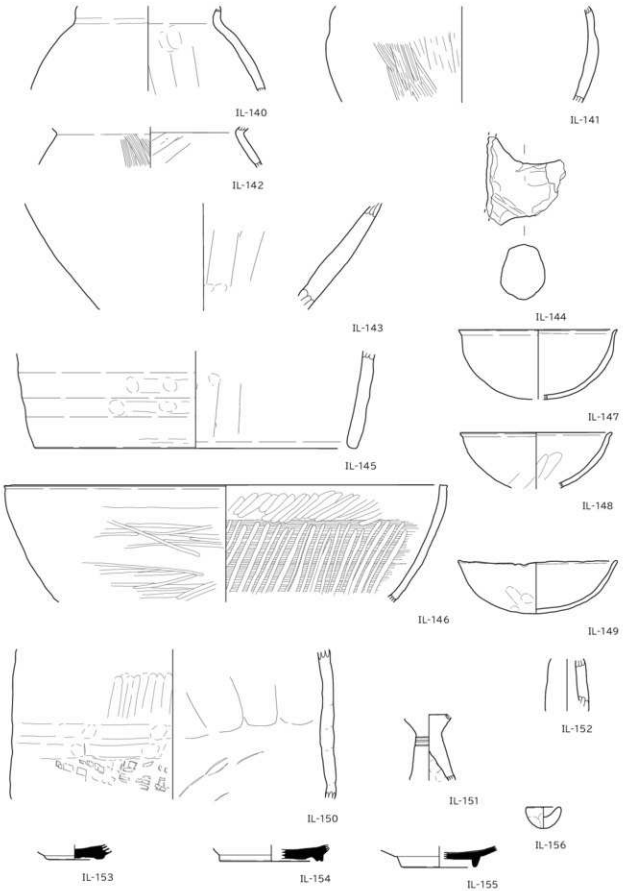


図 253　包含層出土遺物図（12）

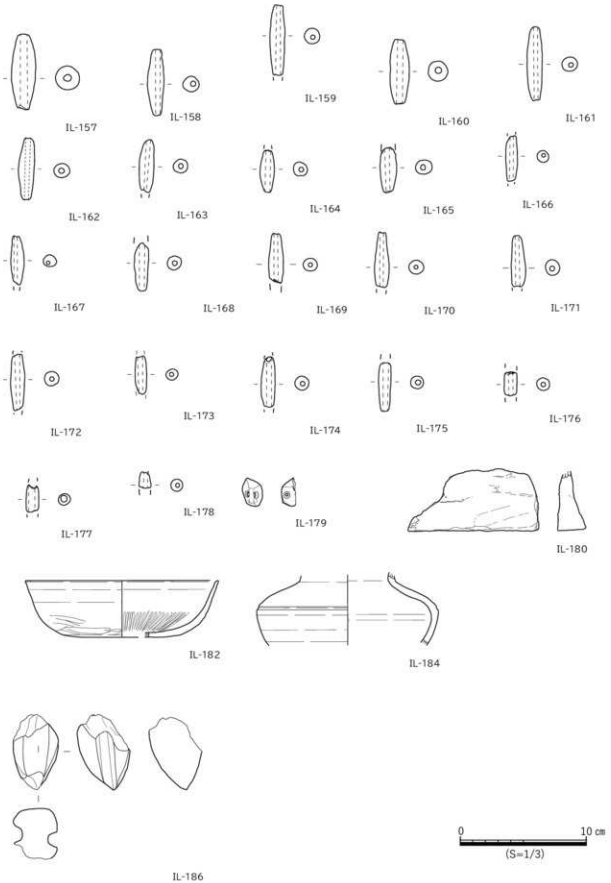


図 254　包含層出土遺物図（13）

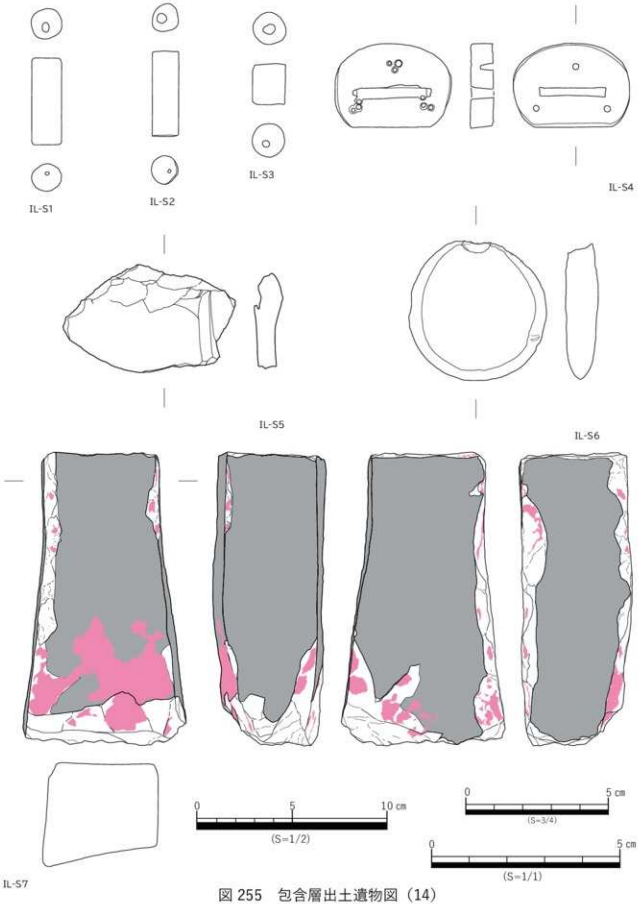


図 255　包含層出土遺物図（14）

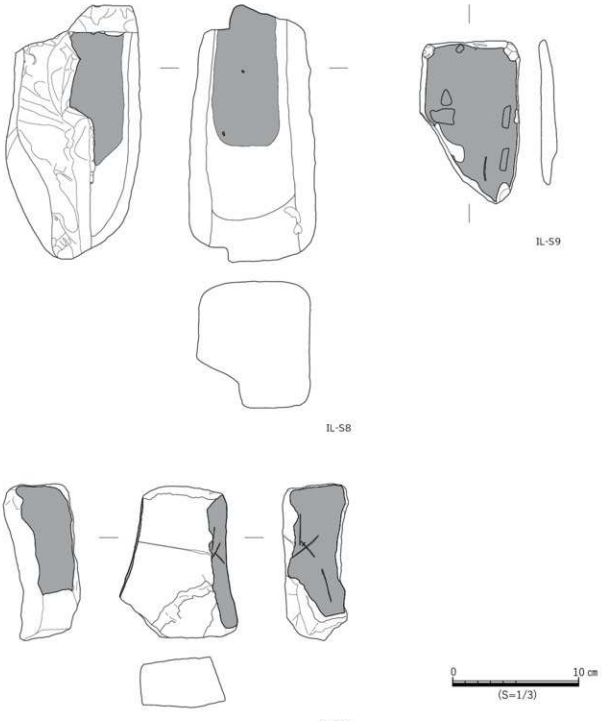


図 256　包含層出土遺物図（15）

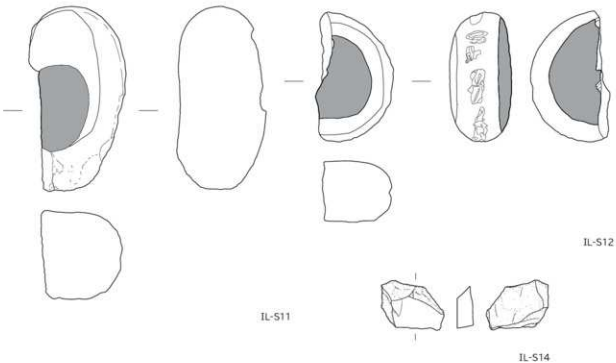
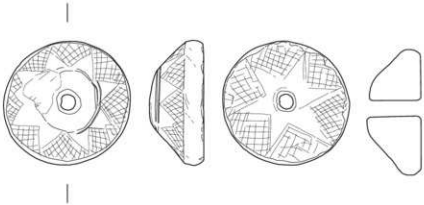
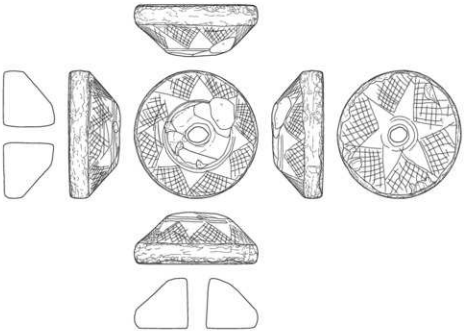


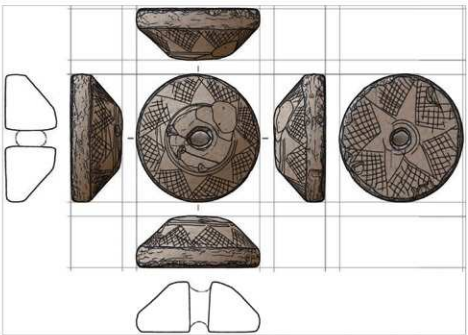
図 257　包含層出土遺物図（16）



IL-S13



IL-S13 3次元計測トレース



IL-S13 オルソ画像

図 258　包含層出土遺物図（17）

表 44　包含層出土土器観察表

番号	遺構	種別	器種	法量	整形	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考
IL-1	包含層	須恵器	杯蓋	高：(4.45) 口：(11.9)	0.2～3.0	良	石・長・雲	外：明黄灰（5PB7/1） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→ユビナデ	回転方向上から見て時計回り，5382
IL-2	包含層	須恵器	杯蓋	口：(11.2)	0.5～4.0	良	石・砂・黒	外：灰（N6/0） 内：灰（N4/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ	回転方向上から見て時計回り，2564
IL-4	包含層	須恵器	杯蓋	口：(13.0)	0.2～4.0	良 不良	石・長・チ	外：灰白（5YR7/1） 内：灰白（5Y7/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ	2552
IL-5	包含層	須恵器	杯蓋	高：4.3 口：(12.6)	0.1～2.5	良 やや不	石・長・赤	外：灰（10YR/1） 内：灰黄（2.5Y6/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→1本ユビナデ	回転方向上から見て時計回り，4735
IL-6	包含層	須恵器	杯蓋	高：4.3 口：14.9	0.1～4.5	良	石・長・チ	外：暗灰（N3/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向上から見て時計回り，3990
IL-7	包含層	須恵器	杯蓋	口：(13.7)	0.1～1.0	良	長	外：灰（5Y6/1） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	6055
IL-8	包含層	須恵器	杯蓋	口：(14.2)	0.1～4.5	良	石・長・泥	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：褐灰（10YR6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ	回転方向上から見て時計回り，在地産？，転土分析在地？，4737
IL-9	包含層	須恵器	杯蓋	高：3.9 口：12.5	0.1～2.0	良 やや不	石・長	外：灰（5Y6/1） 内：灰（5Y6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ→回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向上から見て時計回り，2545
IL-10	包含層	須恵器	杯蓋	高：3.8 口：(14.7)	0.1～1.5	良 黒	石・長・チ・雲	外：灰（N5/0） 内：青灰（5PB6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→1本ユビナデ	回転方向上から見て反時計回り，4771
IL-11	包含層	須恵器	杯蓋	口：(15.2)	0.5～5.0	良 黒	石・長・チ・雲	外：灰白（N7/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ→回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ，ユビナデ	回転方向上から見て時計回り，胎土分析在地？，4843
IL-12	包含層	須恵器	杯蓋		0.2～3.0	良	石・長・チ	外：灰（5Y6/1） 内：灰白（5Y7/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向上から見て時計回り，2543
IL-13	包含層	須恵器	杯蓋	高：4.2 口：11.9	0.1～1.5	良	石・長	外：暗青灰（5B4/1） 内：暗青灰（5B4/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ→ヘラ記号／内：回転ナデ→1本ユビナデ→ヘラ記号	3388
IL-14	包含層	須恵器	杯蓋	高：(4.0) 口：(12.7)	0.1～2.0	良 やや不	石・長	外：灰（N5/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ→ヘラ記号／内：回転ナデ	回転方向上から見て時計回り，内面擦痕あり，4771
IL-15	包含層	須恵器	杯蓋	高：(4.0) 口：(13.9)	0.1～2.0	良 不良	石・長・黒	外：褐灰（N3/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向上から見て時計回り，6061
IL-16	包含層	須恵器	杯蓋		0.1	良	長・黒	外：灰（7.5Y5/1） 内：灰（N6/0）	底外：回転ヘラケズリ→糸底痕／内：回転ナデ→1本ユビナデ	回転方向上から見て反時計回り，2532
IL-17	包含層	須恵器	杯蓋	口：(15.8)	0.1～3.5	良 不良	石・長・チ・泥	外：灰白（2.5Y7/1） 内：灰白（2.5YR/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→ユビナデ	回転方向上から見て時計回り，5377
IL-18	包含層	須恵器	杯蓋		0.1～4.0	良 やや不	石・長・チ	外：灰白（N6/0） 内：灰白（5Y7/1）	底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	5574
IL-19	包含層	須恵器	杯蓋	口：(9.8)	0.1	良	石・長	外：灰（N5/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	6057
IL-20	包含層	須恵器	杯蓋	高：(1.4) 口：(10.4)	0.1～0.5	良	石・長	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）		2776
IL-21	包含層	須恵器	杯蓋	口：(11.8)	0.1～3.0	良 黒	石・長・泥	外：灰白（N7/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	6048
IL-22	包含層	須恵器	杯身	高：4.3 口：11.3・底 5.0	～2.0	良	石・長	外：青灰（5B6/1） 内：青灰（5B5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向不から見て反時計回り，3586
IL-23	包含層	須恵器	杯身	口：(10.0) 鋲：(11.7)	0.1～1.0	良 やや不	石・長・泥	外：灰白（N7/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ	6051
IL-24	包含層	須恵器	杯身	高：4.7 口：(11.4)・底：(4.4)	0.5～3.0	良	長・チ	外：灰（N5/0） 内：灰（4/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り，3584
IL-25	包含層	須恵器	杯身	高：4.0 口：11.1・底：5.0	0.5～2.0	良	石・砂	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り，2544
IL-26	包含層	須恵器	杯身	高：4.0 口：11.4 鋲：14.0・底：2.5	0.1～5.0	良	石・長・泥	外：灰（7.5Y5/1） 内：青灰（5PB6/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り，3585
IL-27	包含層	須恵器	杯身	高：(4.2) 口：(12.4)	0.1～2.0	良	長・チ	外：灰（N4/0） 内：灰（N5/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り，4775
IL-28	包含層	須恵器	杯身	高：3.0 口：10.3 鋲：13.0・底：4.3	0.1～3.0	良	長・黒	外：褐灰（10YR4/1） 内：褐灰（10YR5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り，受部に赤色顔料付着？，赤色顔料，2542
IL-29	包含層	須恵器	杯身	高：3.75 口：11.2・底：6.4	0.1～1.0	良	石・長・チ・黒	外：灰（N6/0） 内：灰白（N8/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ・底外：熱土ヘラ切り→ヘラナデ／内：回転ナデ→1本ユビナデ	4724
IL-30	包含層	須恵器	杯身	高：4.2 口：12.5・底 5.8	0.1～3.0	良 やや不	石・長・黒	外：灰（N6/0） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→回転ヘラケズリ／内：回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り，3585
IL-31	包含層	須恵器	杯身	口：(12.0)	0.5～3.0	良 不良	石・長・砂	外：灰白（2.5YR/2） 内：灰白（2.5YR/2）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ	2551
IL-32	包含層	須恵器	杯身	口：(13.0)	0.1～0.3	良 不良	石・長・泥	外：灰（5Y6/1） 内：灰（2.5YR/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：ユビナデ，ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り，4932
IL-33	包含層	須恵器	杯身	高：(3.2) 口：(13.6)	0.1～2.0	良	長	外：灰（N5/0） 内：灰（N5/0）	底内：回転ナデ→2本ユビナデ	2590
IL-34	包含層	須恵器	杯身	口：(13.1) 鋲：(15.45)	0.1～4.0	良 不良	石・長・泥	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：黄灰（2.5Y5/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂上外：回転ナデ／内：回転ナデ・頂下外：回転ヘラケズリ／内：回転ナデ	回転方向下から見て時計回り，4802
IL-35	包含層	須恵器	杯身	口：(12.2) 鋲：(16.2)	0.1～2.0	良 不良	石・長・チ・泥	外：灰（5Y6/1） 内：灰白（N7/0）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ	回転方向下から見て時計回り，6050
IL-36	包含層	須恵器	杯身	鋲：(12.0)・底：(6.2)	0.1～3.5	良	石・長・チ・泥	外：青灰（5PB6/1） 内：灰（N5/0）	底外：回転ヘラケズリ→ヘラ記号／内：回転ナデ→1本ユビナデ	回転方向下から見て時計回り，5790

番号	遺構	種別	器種	法量	軟硬	密度構成	胎土組成	色調	調整	備考
IL-37	包含層	須恵器	杯身	口:11.8・底 6.0	～2.0	精良	石・長・黒	外:灰（N6/0） 内:灰白（N7/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底下:回転ナデ→回転ヘラケズリ・底外:回転ヘラケズリ→ヘラ起り/内:回転ナデ、2本ユビナデ	回転方向不から見て反時計回り。4736
IL-38	包含層	須恵器	杯身		0.1～0.2	精良	石・長	外:灰（N6/0） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底上:回転ナデ/内:回転ナデ	4159
IL-39	包含層	須恵器	杯身	口:（15.2）	～3.0	精良	石・長	外:灰（N6/1） 内:灰（N5/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	5565
IL-40	包含層	須恵器	杯身	底 6.1	～3.5	粗良	石・長・砂	外:灰オリーブ（5Y6/2） 内:灰白（5Y7/1）	底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	2519
IL-41	包含層	須恵器	杯身	底（6.5）	～4.0	精良	石・長・黒	外:灰白（N6/0） 内:灰白（N6/0）	底外:回転ナデ→回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→ユビナデ	回転方向不から見て反時計回り。6053
IL-42	包含層	須恵器	椀	高:（3.5）口:（8.0）・底（4.5）	0.1～0.5	精良	長・チ	外:灰白（N7/0） 内:灰白（N7/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・底下:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ→2本ユビナデ	3587
IL-43	包含層	須恵器	杯身	側:（14.1）・底 8.0	0.1～1.0	精良	石・長・チ・泥	外:灰（N6/0） 内:灰（N6/0）	側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ	回転方向不から見て反時計回り。口唇部又無or打ち欠き?。6007
IL-44	包含層	須恵器	杯身	高:3.4 口:14.6・底 10.9	0.1～2.5	精良	石・長・チ	外:灰白（N7/0） 内:灰白（N7/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ、ヘラ記号・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:静止ヘラ切り/内:回転ナデ	5785
IL-45	包含層	須恵器	杯身	底（10.0）	0.1～2.0	精良	石・長・チ・泥	外:灰白（2.5Y7/1） 内:灰白（2.5Y7/1）	側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ→面仕上げ→ヘラ起り/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向不から見て時計回り。5786
IL-46	包含層	須恵器	椀	高:（2.7）口:（12.2）・底 6.4	0.1～3.0	精良	石・長	外:灰（N5/0） 内:灰（N5/0）	側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り/内:回転ナデ	回転方向不から見て反時計回り。4547
IL-47	包含層	須恵器	壺	口:（11.6）	～2.0	精良	石・長・黒	外:灰（N5/0） 内:灰（N4/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	6049
IL-48	包含層	須恵器	⊠	口:（9.0）	0.1～0.2	精良	石・長・花崗岩?	外:黒褐（7.5YR2/2） 内:暗赤灰（2.5YR3/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	2561
IL-49	包含層	須恵器	高杯		0.2～0.5	精良	長	外:灰（5Y6/1） 内:灰白（N7/0）	脚外:回転ナデ/内:回転ナデ、シボリ	2356
IL-50	包含層	須恵器	無蓋高杯		～1.5	精良	石・長	外:灰白（10YR2/1） 内:灰白（10YR2/1）	口外:カキ目状の強い回転ナデ/内:回転ナデ・脚外:カキ目（6本8cm）/内:シボリ・脚上方:回転ナデ/内:回転ナデ	杉内面自然釉。2273
IL-51	包含層	須恵器	⊠	高:14.2 口:14.0・脚 4.0 脚:9.2・底 3.5	0.1～5.0	精良	石・長・泥	外:灰白（7.5Y7/1） 内:灰白（5Y7/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚外:回転ナデ・脚上外:回転ナデ・脚下外:回転ヘラケズリ・底外:手持ヘラケズリ	2548
IL-52	包含層	須恵器	短頸壺	口:（9.2）脚:（8.1）脚:（15.2）	0.2～1.5	精良	長・チ	外:淡黄（2.5Y7/3） 内:灰白（N7/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上方:回転ナデ・脚下外:回転ヘラケズリ	回転方向とから見て時計回り。3592
IL-53	包含層	須恵器	長頸壺	脚:16.5	0.1～3.5	精良	石・長・泥	外:オリーブ黄（5Y6/3） 内:灰白（5Y7/1）	脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ→面台貼付/内:回転ナデ	回転方向不から見て反時計回り。脚上方1箇所、自然釉。3630
IL-54	包含層	須恵器	壺	脚:（4.45）脚:（16.0）	～4.0	精良	石・長・角	外:灰（N4/0） 内:灰白（N7/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・肩内:シボリ・肩上外:回転ナデ→櫛描波状文(5本9.5cm)/内:回転ナデ・脚下外:回転ナデ→ヘラケズリ	回転方向不から見て反時計回り。脚上方部又は下方部に自然釉。3593
IL-55	包含層	須恵器	壺	脚:（19.8）・底（11.2）	0.1～1.0	精良	石・長・泥	外:灰白（N7/0） 内:灰白（N7/0）	脚外:回転ナデ/内:回転ナデ・脚上外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ→ユビナデ、ユビオサエ/内:ユビナデ	回転方向不から見て反時計回り。5776
IL-56	包含層	須恵器	壺	高台:（13.7）	0.1～5.0	精良	石・赤	外:灰（N4/0） 内:褐灰（2.5YR5/1）	脚下外:→ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ナデ/内:回転ナデ→高台貼付/内:回転ナデ	6573
IL-57	包含層	須恵器	壺	底:（10.1）	0.1～0.2	精良	石・長・チ・黒	外:灰（N6/0） 内:灰（N6/0）	脚下外:焼子タタキ→回転ヘラケズリ/回転ナデ/内:回転ナデ	回転方向不から見て時計回り。5713
IL-58	包含層	須恵器	壺（脚無o-1?）	高:（6.9）・底（9.2）	0.1～1.5	精良	長・チ	外:黒（2.5GY2/1） 内:灰（N5/0）	脚下外:回転ナデ/内:回転ナデ	5959
IL-59	包含層	須恵器	提瓶		0.1～3.0	精良	石・長・泥	外:明青灰（5PB7/1） 内:青灰（5PB6/1）	脚下外:ユビナデ→カキ目（9本1cm）/内:ユビオサエ→ユビナデ	4740
IL-60	包含層	須恵器	平瓶	高:12.7 口:5.7 側:4.4 側:13.0・底 3.6	0.1～5.0	精良	石・長・泥	外:灰白（N7/1） 内:灰白（N7/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・肩外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ	回転方向不から見て反時計回り。3638
IL-61	包含層	須恵器	提瓶	高:（7.3）口:（4.9）側:4.8	0.1～1.0	精良	石・長	外:暗赤灰（5R4/1） 内:灰（N4/0）	脚外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ	2559
IL-62	包含層	須恵器	提瓶	高:24.4 口:30.0 側:5.0 側:20.0	0.1～3.5	精良	石・長・チ	外:暗灰（N3/0） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・肩外:回転ナデ/内:回転ナデ・カキ目（6本1cm）/内:回転ナデ	3591
IL-63	包含層	須恵器	壺	口:（15.3）側:11.6 側:22.2・底 5.7	0.1～7.5	精良	石・長・泥	外:灰（N5/0） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・肩外:回転ナデ→櫛描波状文（13本2cm）/内:回転ナデ・側上外:平行タタキ→回転ナデ（ヘラ?）→穿孔/内:青灰波文→ユビナデ・側下外:平行タタキ/内:青灰波文→ユビナデ・底外:平行タタキ→穿孔/内:青灰波文→ユビナデ→穿孔	側部・底部に内側から の穿孔。口縁部打ち欠きの可能性あり。3622
IL-64	包含層	須恵器	壺	口:（19.1）側:（13.3）	0.1～3.5	精良	石・長・泥	外:褐灰（10YR5/1） 内:灰褐（7.5YR5/2）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・肩外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:平行タタキ→カキ目（9本1cm）/内:青灰波文→ユビナデ・側下外:平行タタキ→カキ目（17本1cm）/内:青灰波文	4821
IL-65	包含層	須恵器	壺	口:（15.2）	0.1～1.0	精良	長	外:灰（5Y6/1） 内:灰（5Y6/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	口縁部外面赤色顔料、赤色顔料。4651
IL-66	包含層	須恵器	壺	口:（21.0）側:（16.2）	0.1～2.5	精良	石・長	外:灰（N5/0） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・肩外:回転ナデ→櫛描波状文（15本11cm）/内:回転ナデ	口縁部外面赤顔料塗布?、赤色顔料。5762
IL-67	包含層	須恵器	壺	口:（16.7）側:（12.2）	0.1～0.2	精良	石・長	外:暗灰（N4/0） 内:灰（5Y6/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・肩外:回転ナデ/内:回転ナデ	4929
IL-68	包含層	須恵器	甕	口:（22.0）	～2.0	精良	石・長・角	外:灰白（N7/0） 内:灰白（N7/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ	2578
IL-69	包含層	須恵器	壺		0.1～3.0	精良	石・長・泥	外:灰（N6/0） 内:灰（N6/0）	脚外:回転ナデ→櫛描波状文（25本22cm）/内:回転ナデ	6063.
IL-70	包含層	須恵器	甕	口:（19.15）	0.1～1.5	精良	石・長・チ	外:明青灰（5PB7/1） 内:明青灰（5PB7/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・肩外:回転ナデ/内:回転ナデ	内外面赤色顔料?塗布?、赤色顔料。2566

番号	遺構	種別	器種	法量	整位	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考
IL-71	包含層	須恵器	壺	高 4.2 口 :11.8 脚 9.1	精 良	良	石・長・黒	外:灰 (N4/0) 内:灰 (N4/0)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸外:回転ナデ→ヘラ記号 / 内:回転ナデ・脚上:格子タタキ→回転ナデ / 内:青海波文→回転ナデ	ヘラ記号、脚之分析ヘラ記号、3581
IL-72	包含層	須恵器	壺	口 : (15.4)	精 良	良	石・長・チ	外:灰 (N6/0) 内:灰 (N5/0)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸外:回転ナデ→櫛描波状文 (16 条 1.2 cm) / 内:回転ナデ	5780
IL-73	包含層	須恵器	甕	胴 : (19.0)	～2.5	精 良	石・長・角	外:灰白 (7.5YZ/1) 内:灰 (7.5YR/1)	頸上外:格子タタキ→回転ナデ / 内:青海波文	6915
IL-74	包含層	須恵器	壺		0.01～2.0	精 良	石・長・チ・泥	外:灰 (N6/0) 内:灰白 (N7/0)	頸下外:回転ヘラケズリ / 内:回転ナデ	回転方向下から見て時計回り、5256
IL-75	包含層	須恵器	甕	底 (10.2)	0.1～0.7	良 良	石・長・チ・赤・泥・黒	外:灰 (7.5YX/1) 内:灰 (7.5YR/1)	頸下外:ユビナデ / 内:ユビナデ・底外:イタナデ / 内:ユビナデ	6065
IL-76	包含層	須恵器	壺	胴 : (16.5)	0.1～2.0	精 良	石・長	外:灰 (10YX/1) 内:灰 (10YX/1)	頸上外:タタキ→回転ヘラケズリ / 内:回転ナデ・頸下外:タタキ→回転ナデ / 内:回転ナデ	2372
IL-77	包含層	須恵器	壺	胴 : (31.7)	1.0～3.0	精 良	石・長	外:青灰 (5B5/1) 内:青灰 (5B5/1)	頸下外:平行タタキ→ウキ目 (3 条 1 cm) / 内:青海波文→ユビナデ	6029
IL-78	包含層	須恵器	甕		0.1～0.7	精 良	石・長・チ・泥	外:灰 (N5/0) 内:灰 (N6/0)	頸下外:平行タタキ→ウキ目 (3 条 1 cm) / 内:青海波文→ユビナデ	5837
IL-79	包含層	須恵器	甕		0.1～1.5	精 良	石・長・チ	外:暗灰 (N3/0) 内:灰 (N4/0)	頸上外:平行タタキ / 内:ユビナデ	6074
IL-80	包含層	須恵器	壺		0.1～3.5	精 良	石・長・チ	外:灰 (N4/0) 内:灰 (N6/0)	頸下外:回転ヘラケズリ / 内:回転ナデ・底外:ヘラナデ / 内:ユビオサエ→回転ナデ	回転方向下から見て反時計回り、5784
IL-81	包含層	須恵器	壺	底 7.0	0.5～5.0	精 良	石・長・黒	外:灰オリーブ (5Y6/2) 内:灰 (5Y6/1)	頸下外:回転ナデ / 内:ユビナデ・底外:ヘラ切り→粘付高台→回転ナデ / 内:ヘラ切り→粘付高台→回転ナデ	4765
IL-82	包含層	須恵器	器台		～3.0	精 良	石・長 +V25	外:灰 (N5/0) 内:灰 (N6/0)	底外:回転ナデ→ヘラによる刻目	6062
IL-83	包含層	土師器	皿	高 1.15 口 :9.9・底 6.8	1.0～4.0	やや精 ややそ	石・長・雲・赤	外:橙 (5YR6/8) 内:橙 (5YR2/6)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	4563
IL-84	包含層	土師器	皿	高 : (1.6) 口 : (7.5)・底 (3.8)	0.2～5.0	良 やそ不	石・長・金雲・赤・泥	外:浅黄橙 (7.5YR8/3) 内:灰白 (7.5YR8/2)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転糸切り / 内:回転ナデ	4098
IL-85	包含層	土師器	皿	高 1.15 口 :(8.6)・底 (7.0)	0.1～1.5	やや精 不良	石・長	外:橙 (5YR6/8) 内:橙 (5YR6/8)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	5949
IL-86	包含層	土師器	皿	高 : (1.1) 口 : (9.25)・底 (6.1)	0.1～3.0	良 不良	石・長・赤	外:橙 (7.5YR6/8) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸下外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	6026
IL-87	包含層	土師器	皿	高 : (9.7) 口 : (10.1)・底 (7.0)	0.1～1.5	やや精 やや良	石・長・チ・赤	外:橙 (7.5YR6/6) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	口縁端部黒煙 (被熱黒変?)、灯明皿、2592
IL-88	包含層	土師器	台付皿	高 2.5 口 : (9.6)・底 6.2	～3.0	精 良	石・長	外:橙 (7.5YR6/8) 内:明褐 (7.5YR5/8)	口外:ヨコナデ / 内:ヨコナデ・底外:ユビナデ、ユビオサエ / 内:ユビナデ、ユビオサエ	2526
IL-89	包含層	土師器	高台付皿	口 : (9.8)・底 (6.1)	0.1～	精 不良	石・長・雲	外:橙 (7.5YR6/8) 内:黄橙 (7.5YR7/8)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ナデ→高台貼付 / 内:回転ナデ	2527
IL-90	包含層	土師器	皿	高 1.15 口 : (10.4)・底 (7.1)	0.1～2.0	良 不良	石・長・赤	外:黄橙 (7.5YR7/8) 内:黄橙 (7.5YR8)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸下外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	4102
IL-91	包含層	土師器	杯	底 (9.0)	0.1～1.5	良 不良	石・長・雲・赤	外:橙 (5YR6/6) 内:橙 (7.5YR6/8)	底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	4805
IL-92	包含層	土師器	椀	底 (8.6)	0.5～2.0	精 やそ不	結・石・長・雲	外:にぶい黄橙 (10YR7/4) 内:赤橙 (5YR4/8)	底外:回転ナデ→高台貼付 / 内:回転ナデ	内外面赤色顔料全面に塗布、高台下端部にも、赤色顔料、5799
IL-93	包含層	土師器	皿	高 1.25 口 :9.5・底 4.2	0.2～2.5	良 良	結・石・長・雲	外:灰黄 (2.5Y7/2) 内:浅黄 (2.5Y7/3)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ナデ / 内:回転ナデ	4733
IL-94	包含層	土師器	杯	高 2.05 口 : (10.4)・底 (5.6)	0.1～5.0	良 やそ不	結・石・長・赤・泥	外:橙 (5YR6/8) 内:橙 (5YR6/8)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸下外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	4807
IL-95	包含層	土師器	転用皿	高 : (2.6)・底 (8.3)	0.5～3.0	精 良	結・石・長・赤	外:にぶい黄橙 (10YR6/4) 内:にぶい黄橙 (10YR6/3)	口外:打ち欠き・頸下外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ→高台貼付→ユビナデ / 内:回転ナデ	2593
IL-96	包含層	黒色土器	椀	口 : (17.2)	0.2～0.8	精 良	長・雲	外:暗灰 (N3/0) 内:暗灰 (N3/0)	口外:ヘラミガキ / 内:ヘラミガキ・頸上外:ヘラミガキ / 内:ヘラミガキ	4722
IL-97	包含層	土師器	杯	高 : (3.95) 口 : (16.8)・底 (11.8)	0.1～2.0	やや精 良	結・石・長・赤	外:にぶい黄橙 (10YR7/4) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	外面体部赤色顔料塗布、4741
IL-98	包含層	土師器	椀	口 :14.0・底 10.0	0.1～5.5	やや粗 不良	石・長・雲・赤	外:明褐 (7.5YR5/6) 内:にぶい黄橙 (10YR6/4)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ	4552
IL-99	包含層	土師器	椀	高 : (3.8) 口 : (12.6)	0.1～1.0	精 不良	石・長・チ	外:灰 (7.5YY/1) 内:灰白 (7.5YR/1)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸下外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ナデ	4769
IL-100	包含層	土師器	杯	高 2.5 口 :11.9・底 8.0	0.1～4.0	良 不良	石・長・チ・赤	外:橙 (5YR6/8) 内:橙 (5YR6/6)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	4557
IL-101	包含層	土師器	杯	高 : (2.2) 口 : (11.6)・底 (7.2)	0.5～0.9	良 不良	結・石・長・赤	外:にぶい橙 (10YR6/4) 内:橙 (7.5YR6/8)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸下外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り→ヘラナデ / 内:回転ナデ	6019
IL-102	包含層	土師器	杯	口 : (12.0)・底 (8.4)	1.0～8.0	やや粗 やや不	結・石・長・雲・赤	外:橙 (7.5YR6/6) 内:橙 (7.5YR6/6)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:ヘラ切り、ユビナデ、ユビオサエ / 内:ユビオサエ	底部外面ヘラ記号、粘土2輪押 (7.5YR66 と 5YR68)、6018
IL-103	包含層	土師器	杯	高 3.3 口 : (13.0)・底 (8.5)	0.1～1.5	良 不良	石・長・チ・雲・赤	外:にぶい橙 (7.5YR7/4) 内:にぶい橙 (10YR7/4)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・頸上外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ	4101
IL-104	包含層	土師器	杯	高 : (3.65) 口 : (11.7)	0.2～4.0	精 やや不	石・長・金雲・赤	外:にぶい橙 (7.5YR7/4) 内:浅黄橙 (7.5YR8/4)	口外:回転ナデ / 内:回転ナデ・底外:回転ヘラ切り / 内:回転ナデ→指オサエ→指ナデ	3021

番号	遺構	種別	器種	法量	粒径	密度 焼成	胎土組成	色調	調整	備考
IL-106	包含層	土師器	高台付椀	底 (9.3)	0.1～8.0	やや堅 不良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒褐（5Y2/1）	脚上共：回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅） 底外：回転ヘラ切り→貼付高台→回転ナデ／内：回転ナデ→ヘラミガキ（磨滅）	内黒，4556
IL-107	包含層	土師器	高台付椀	底 (5.9)	0.1～3.5	良 不良	砂・石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒褐（7.5YR3/1）	底外：回転ナデ／内：ヘラミガキ（磨滅）	3960
IL-108	包含層	土師器	椀	高台：(7.1)	0.1～0.5	良 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：灰褐（7.5YR5/2）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	2780
IL-109	包含層	土師器	高台付椀		0.1～4.5	良 良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（5YR6/6）	脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ナデ／内：回転ナデ	転用品の可能性あり，体部端部に煤付着（灯明油か？），3201
IL-110	包含層	土師器	台付椀	底 (7.4)	0.5～9.0	精 やや不	砂・石・角・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	底外：ユビナデ／内：ユビナデ	在地，胎土分析在地？，2540
IL-111	包含層	土師器	椀	底 (8.0)	0.1～1.0	精 良	石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：褐灰（10YR4/1）	底外：回転ヘラ切り→高台貼付／内：ヘラミガキ	内黒，ヘラミガキ，2591
IL-112	包含層	土師器	高台付椀	底 (7.8)	0.1～2.5	良 不良	石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	底外：回転ナデ／内：回転ナデ	2778
IL-113	包含層	土師器	高台付皿		0.1～3.0	良 不良	石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上共：回転ナデ／内：回転ナデ・脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	内面煤？付着，4911
IL-114	包含層	土師器	椀	底 4.65	0.1～1.0	精 やや不	石・長・チ	外：赤褐（2.5YR4/8） 内：黒褐（5YR3/1）	底外：ナデ→高台貼付／内：ヘラミガキ	外面煤付着，2522
IL-115	包含層	土師器	高台付椀	底 (7.0)	0.1～1.5	良 やや不	石・長・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：黒褐（10YR2/1）	底外：ユビナデ／内：ヘラミガキ	内黒，2581
IL-116	包含層	土師器	杯	高:2.5 口:(11.9) ・底 (8.0)	0.1～4.0	良 不良	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚上共：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り／内：回転ナデ	4457
IL-117	包含層	土師器	高台付椀	底 (9.0)	0.5～3.0	精 不良	石・長・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/6） 内：赤褐（5YR4/6）	底外：回転ナデ→高台貼付／内：回転ナデ	内面赤色顔料塗布，5812
IL-118	包含層	土師器	壺	高：(2.4)・底 (9.8)	0.1～2.5	良 良	石・長・チ・雲	外：褐灰（10YR4/1） 内：褐灰（10YR4/1）	脚下外：回転ナデ／内：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ／内：回転ナデ	4565
IL-119	包含層	土師器	甕	口：(27.0) 頸：(23.7) 胴：(26.4)	0.1～4.8	やや粗 良	砂・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：コヨコナデ／内：コヨコナデ→イタナデ・脚上共：ユビオサエ→ヘラ（4条1cm）／内：ユビオサエ→ヘラ（9条2.3cm）	3619
IL-120	包含層	土師器	鉢		0.1～9.0	粗 不良	石・長・チ・赤	外：橙（5YR7/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：ユビナデ／内：ユビナデ・脚外：ユビナデ／内：ユビナデ・脚上内：イタナデ	3951
IL-121	包含層	土師器	甕	高：(12.9) 口：(30.0) 頸：(28.0)	0.1～4.0	良 良	石・長・チ・雲・赤・砂	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：にぶい黄橙（10YR5/4）	口外：回転ナデ→ユビナデ／内：回転ナデ→イタナデ・脚外：ユビオサエ→イタナデ／内：回転ナデ→イタナデ・脚上外：イタナデ／内：イタナデ・脚下外：格子タタキ→イタナデ／内：イタナデ	2658
IL-122	包含層	土師器	甕	高：(11.4) 口：(28.8) 頸：(24.4)	0.1～5.0	粗 不良	石・長・チ・雲・赤・砂	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/6）	口外：ユビオサエ→ユビナデ／内：ユビナデ・脚外：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ・脚上共：イタナデ／内：イタナデ	2547
IL-123	包含層	土師器	甕	高:26.0 口:24.1	0.1～4	粗 良	砂・長・チ・雲・赤・泥	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：にぶい黄橙（7.5YR6/4）	口外：コヨコナデ／内：コヨコナデ・脚上共：イタナデ／内：イタナデ	6028
IL-124	包含層	土師器	甕	口：(26.8)	0.2～5.0	粗 やや不	石・長・チ・赤	外：にぶい橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：回転ナデ，ユビナデ／内：回転ナデ・脚上共：ユビナデ，格子タタキ／内：ユビナデ・底外：格子タタキ／内：ユビオサエ→ユビナデ	4747
IL-125	包含層	土師器	甕	口：(25.7) 頸：(21.6)	0.1～1.0	粗 やや不	石・長・角・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい褐（7.5YR5/3）	口外：コヨコナデ／内：イタナデ→コヨコナデ・脚上共：ハケ（10条2cm）→ユビナデ／内：イタナデ	口縁内面縦，or オコゲ付着，5950
IL-126	包含層	土師器	甕	高：(5.8) 口：(38.8) 頸：(28.0)	0.1～12.0	粗 やや不	砂・石・長・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/8） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	口外：コヨコナデ／内：コヨコナデ・脚外：ハケ（磨滅）→コヨコナデ／内：ハケ（磨滅）→コヨコナデ／内：ユビオサエ	口縁内面縦，有無可，4744
IL-127	包含層	土師器	甕	口：(25.6) 頸：(25.2)	1.0～5.0	やや粗 やや不	砂・石・長・赤	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：コヨコナデ／内：イタナデ・脚上共：ユビオサエ→ユビナデ／内：イタナデ	4745
IL-128	包含層	土師器	鍋	口：(23.4)	0.1～4.5	良 やや不	石・長・チ・雲・角・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	口外：コヨコナデ／内：コヨコナデ・脚上共：ハケ（8条1.2cm）／内：コヨコナデ	2577
IL-129	包含層	土師器	鍋	口：(32.8)	0.1～6.0	やや粗 不良	石・長・チ・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	口外：ユビオサエ→ユビナデ／内：ユビオサエ→ユビナデ・脚上共：ユビナデ／内：ユビナデ	6024
IL-130	包含層	土師器	羽釜	口：(22.0)	～3.0	粗 良	石・長・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	口外：コヨコナデ／内：ユビナデ・脚外：ユビナデ，土師器／内：イタナデ・脚上共：ハケ（6条1cm）→ユビオサエ／内：イタナデ	2656
IL-131	包含層	土師器	羽釜	口：(25.25)	0.2～3.8	粗 良	石・長・金雲・角・赤	外：明赤褐（7.5YR5/6） 内：橙（7.5YR6/6）	口外：コヨコナデ／内：コヨコナデ・脚外：ユビオサエ，ユビナデ／内：ユビナデ・脚上共：ユビオサエ，ユビナデ／内：イタナデ	鹿戸からの搬入品，2542
IL-132	包含層	土師器	羽釜	口：(21.4)	0.2～7.0	粗 良	石・長・チ・雲・赤	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：黄灰（2.5Y6/2）		2528
IL-133	包含層	土師器	羽釜	口：(25.4) 頸：(30.2)	0.1～5.0	粗 良	石・長・チ・雲・金雲・角・赤・泥	外：にぶい橙（7.5YR5/4） 内：明褐（7.5YR5/6）	口外：回転ナデ，ユビオサエ／内：回転ナデ・脚外：ユビオサエ→コヨコナデ・脚上共：ハケ（6条1cm）→イタナデ→ユビナデ	鹿戸からの搬入品，胎土分析在地，2657
IL-134	包含層	土師器	羽釜	高：(5.5) 口：(21.6)	0.1～3.0	粗 やや不	石・長・チ・雲・金雲・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	口外：回転ナデ→ユビオサエ→ユビナデ／内：コヨコナデ・脚上内：コヨコナデ	3617
IL-135	包含層	土師器	羽釜	口：(20.1)	0.1～4.0	粗 良	石・長・チ・赤	外：灰黄褐（10YR6/2） 内：褐灰（10YR5/1）	口外：コヨコナデ／内：コヨコナデ・脚外：コヨコナデ／内：ユビナデ・脚上共：イタナデ／内：イタナデ	4921
IL-136	包含層	土師器	鍋か		0.2～4.5	粗 やや不	砂・石・長・チ・雲	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	脚下外：ユビナデ→イタナデ／内：イタナデ	4549
IL-137	包含層	土師器	鉢	口：(21.6)	～1.5	良 やや不	砂・石・長・雲・赤・泥	外：明黄褐（10YR6/6） 内：黒褐（10YR2/1）	口外：回転ナデ／内：回転ナデ・脚外：回転ナデ／内：回転ナデ	4100
IL-138	包含層	土師器	壺	底:9.4	0.1～5.0	粗 やや不	砂・石・長・赤	外：浅黄橙（10YR8/3） 内：浅黄橙（7.5YR8/3）	脚上共：イタナデ／内：ユビナデ・底外：イタナデ／内：ユビナデ	6027
IL-139	包含層	土師器	羽釜		0.1～4.5	粗 良	石・長・チ・雲	外：橙（5YR6/8）	底外：ユビナデ	4578
IL-140	包含層	土師器	壺	頸：(11.1)	0.1～6.0	粗 良	石・長・チ・泥	外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：橙（7.5YR7/6）	脚上共：ユビナデ／内：ユビオサエ→ヘラケズリ	4779

番号	遺構	種別	器種	法量	粘土	密度構成	胎土組成	色調	調整	備考
IL-141	弥生層	土師器	甕	胴：(21.6)	0.1～0.8	粗良	結・石・長・チ・雲・赤	外：にぶい赤褐（5YR5/4） 内：橙（5YR6/8）	胴上外：イタナデ→ハケ（6条1cm）（1.3cm） 胴上内：ユビナデ	外面、煤或時底部あり。5818
IL-142	弥生層	土師器	甕	胴：(14.9)	0.1～8.5	粗良	結・石・長・チ・雲・赤	外：黒褐（10YR3/1） 内：褐（7.5YR4/3）	胴上外：ハケ（6条1cm）/内：ヘラケズリ	4746
IL-143	弥生層	土師器	甕		0.1～3.5	良やや不	結・石・長・雲・赤・沢	外：明黄褐（10YR6/6） 内：褐灰（10YR4/1）	胴下外：イタナデ/内：イタナデ	4752
IL-144	弥生層	土師器	甕		0.1～4.0	良やや不	結・石・長・チ・雲・赤	外：橙（5YR7/6） 内：橙（7.5YR6/6）	胴上外：ユビナデ/内：ユビナデ	4097
IL-145	弥生層	土師器	甕	底（25.4）	～7.0	粗やや不	結・石・長・チ・雲	外：明褐（7.5YR5/8） 内：明赤褐（5YR5/8）	胴下外：ユビナデ→ユビナデ/内：イタナデ・底外：ユビナデ/内：ユビナデ	甕もしくは鍋？6023
IL-146	弥生層	土師器	鉢	高：(9.3) 口：(20.0)	0.1～1.0	やや精やや良	長・チ・雲・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：回転ナデ/内：回転ナデ→くびガキ・胴上外：回転ナデ→ミガキ/内：ハケ（7条1cm）→くびガキ	3600
IL-147	弥生層	土師器	椀	口：(12.6)・底（5.0）	～0.5	粗やや不	石・長・雲・金雲	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：ヨコナデ/内：ミガキ・胴上外：ユビナデ/内：くびガキ	4781
IL-148	弥生層	土師器	鉢	口：(11.9)	0.1	やや精不良	長・雲	外：橙（2.5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	口外：ユビナデ/内：ユビナデ・胴上外：ユビナデ/内：ユビナデ	4739
IL-149	弥生層	土師器	鉢	高：(4.25) 口：(12.4)・底（5.4）	0.2～2.0	精不良	石・長	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/8）	口外：ユビナデ/内：ユビナデ・胴上外：ユビオサエ→ユビナデ/内：ユビナデ・底外：ユビオサエ→ユビナデ/内：ユビナデ	ロクロ不使用。煙円形を呈する。手づくね？。胎土粘土は粗の組かった古代土師器と同一。3602
IL-150	弥生層	土師器	甕	胴部（25.9）。	1.0～10.2	やや粗良	結・石・長・チ・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：橙（5YR6/6）	胴上外：ユビナデ、ユビオサエ→格子タタキ/内：イタナデ	6022
IL-151	弥生層	弥生土器	高杯		0.1～0.35	精良	結・石・長・雲	外：明赤褐（5YR4/8） 内：明赤褐（5YR4/6）	胴下外：ユビナデ/内：ユビオサエ	船橋川流域からの搬入品。4106
IL-152	弥生層	土師器	高杯		0.1～0.65	粗やや不	石・長・チ・雲	外：黄橙（7.5YR7/8） 内：橙（7.5YR6/8）	胴下外：ユビナデ/内：ユビナデ	2579
IL-153	弥生層	陶器	壺	底（4.1）	0.1～1.0	良良	石・長	外：にぶい橙（10YR7/4）、灰オリーブ（7.5Y6/2） 内：にぶい黄橙（10YG5/3/3）	底外：回転ナデ/内：回転ナデ	2589
IL-154	弥生層	緑釉陶器	椀	底（8.1）	0.1～0.5	精不良	赤	外：浅黄橙（10YR8/3） 内：にぶい黄橙（10YG5/3/3）	底外：回転糸切り/内：回転ナデ	2598
IL-155	弥生層	白磁	椀	高：(1.7)・底 6.0	0.1～1.5	精良	長・チ	外：灰（2.5YW1） 内：灰白（7.5Y7/1）	胴下外：回転ナデ・底外：回転ヘラ切り→高台貼付→回転ナデ	高台屑部打ち欠き かう。4558
IL-156	弥生層	土師器	手捻	高：(1.68) 口：(2.5)・底（0.7）	0.2～3.5	良良	石・長・チ・	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（2.5YR7/8）	口外：ユビナデ/内：ユビナデ・底外：ユビオサエ/内：ユビオサエ	4548
IL-180	弥生層	土師器	置き竈		1.0～6.0	粗やや不	結・石・長・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR7/6）	底外：ユビナデ/内：ユビナデ	4108
IL-182	弥生層	須恵器	椀	高：(4.5) 口：(15.6)・底（8.0）	0.5～3.0	やや粗やや良	石・長・雲・赤	外：明赤褐（5YR5/6） 内：明赤褐（5YR5/6）	口外：ヨコナデ/内：ヨコナデ・胴上外：ヨコナデ/内：ヨコナデ・底外：ヘラケズリ→ヘラミガキ/内：ヘラミガキ（放射状）	3601
IL-184	弥生層	須恵器	壺	高：(5.5) 胴：(7.8) 頸：(14.4)	0.1～4.5	精良	石・長・雲	外：灰（N6/0） 内：灰（N6/0）	胴外：胴上ナデ/内：胴上ナデ・底外：胴上ナデ/内：胴上ナデ・胴下外：胴上ナデ/内：胴上ナデ	2531

表 45　包含層出土石器観察表

番号	遺構	石材	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	孔径(cm)	備考・実測番号
IL-S10	弥生層	砂岩	砥石	11.5	8.3	4.6	633.6	-	2377
IL-S1	弥生層	緑色凝灰岩	雪玉	2.3	0.8	0.7	2.2	-	2383
IL-S13	弥生層	結晶片岩	結晶車	4.5	4.4	1.9	49.4	-	2385
IL-S2	弥生層	雲玉	雪玉	2.2	0.7	0.75	2.0	-	2386
IL-S3	弥生層	緑色凝灰岩	雪玉	1.1	0.9	0.85	1.03	2.5 /1.6	2387
IL-S7	弥生層	砂岩	砥石	(15.5)	(8.6)	5.5	1062.3	-	3510
IL-S4	弥生層	凝灰岩	石製	2.95	4.1	0.7	18.1	-	413A 表面は研磨済 穿穴4は線状的に片面研孔 裏面に逆穴孔の欠損がそれぞれ2か所
IL-S6	弥生層	砂岩	敲石	11.0	10.9	2.7	476.5	-	4169
IL-S9	弥生層	砂岩	砥石	12.9	7.8	1.5	1960	-	4170
IL-S12	弥生層	砂岩	スリ石	10.2	6.0	4.9	424.1	-	4817
IL-S5	弥生層	サヌカイト	剥片	6.1	3.8	1.0	22.6	-	4838
IL-S8	弥生層	砂岩	砥石	19.1	10.6	8.9	2750	-	4830
IL-S11	弥生層	砂岩	砥石	14.5	7.6	6.9	831.2	-	4831

表46　包含層出土土製品観察表

番号	遺構	器種	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	孔径(cm)	粘度	密度/焼成	胎土組成	色調	実測番号
IL-157	包含層	土錘	1.95	1.9	6.0	16.47		0.1～2.0	良/やや不	石・長・赤・砂	外:橙（7.5YR6/6） 内:黄橙（7.5YR6/8）	4564
IL-158	包含層	土錘	1.3	1.2	5.2	6.76	0.4	～2.0	良/やや不	石・長	外:明黄褐（10YR6/6） 内:明黄褐（10YR6/6）	2594
IL-159	包含層	土錘	1.2	1.2	5.55	6.9	0.35	0.1～2.0	精/良	石・長・雲・泥	外:明黄橙（10YR7/6）	2539
IL-160	包含層	土錘	1.55	1.5	5.1	11.3	0.5	0.1～1.0	良/良	石・長・チ・赤・泥	外:橙（5YR6/6）	2529
IL-161	包含層	土錘	1.25	1.15	5.9	6.87		0.1～3.0	良/やや不	石・長・赤・泥	外:灰白（10YR8/2） 内:浅黄橙（10YR8/3）	4566
IL-162	包含層	土錘	1.3	1.15	1.9	5.55	0.45	0.1～0.2			外:にぶい黄橙（10YR7/4） 内:浅黄橙（10YR8/4）	2588
IL-163	包含層	土錘	1.15	1.1	4.15	3.92	0.4	0.1			外:明赤褐（5YR5/8） 内:橙（5YR6/8）	2595
IL-164	包含層	土錘	1.1	1.1	3.3	3.2	0.35	0.1～1.0	精/良	石・長・雲・赤	外:橙（7.5YR6/6）	2596
IL-165	包含層	土錘	1.35	1.1	(3.6)	4.75	0.4	0.1～1.5	良/不良	石・長・雲	外:黒褐（10YR3/1） 内:黒褐（10YR3/1）	2525
IL-166	包含層	土錘	9.5	9.5	36	3.0		0.1～1.0	良/やや不	石・長・雲	外:褐（7.5YR4/4） 内:灰褐（7.5YR4/2）	4580
IL-167	包含層	土錘	1.05	0.9	3.9	2.4		0.1～1.0	良/やや不	石・長・泥	外:黄灰（2.5Y4/1）	4107
IL-168	包含層	土錘	1.15	1.1	3.85	3.82		0.1～0.2	良/やや不	石・長・雲・赤	外:橙（5YR6/8） 内:橙（5YR6/8）	4103
IL-169	包含層	土錘	1.15	1.0	3.9	4.07		0.1～3.5	粗/やや不	石・長・赤	外:明赤褐（5YR5/6）	4533
IL-170	包含層	土錘	1.2	1.1	4.4	4.78		0.5～4.0	粗/やや不	砂・石・長・赤	外:明褐（7.5YR5/6） 内:明褐（7.5YR5/6）	4546
IL-171	包含層	土錘	1.2	1.15	4.05	4.5		0.1～6.5	粗/不良	砂・石・長・雲・赤	外:橙（7.5YR6/6） 内:にぶい橙（2.5YR6/4）	4545
IL-172	包含層	土錘	1.13	1.1	4.5	5.40		0.2～2.0	良/良	石・長・チ・雲	外:にぶい橙（2.5YR6/4）	被熱2次焼成?一部赤変.4575
IL-173	包含層	土錘	0.95	0.9	3.08	1.9		0.2～1.5	良/やや不	石・長・金雲・赤	外:にぶい橙（7YR7/4）	4105
IL-174	包含層	土錘	2.1	2.0	4.95	4.3		0.1～3.0	粗/やや不	砂・石・長	外:橙（2.5YR7/6）	4492
IL-175	包含層	土錘	1.0	1.0	3.85	2.78		0.1～3.0	良/やや不	砂・石・赤・泥	外:にぶい黄橙（10YR7/4） 内:浅黄橙（10YR8/4）	4562
IL-176	包含層	土錘	1.0	1.0	1.9	1.94		0.5～2.0	良/不良	石・長	外:にぶい橙（7.5YR6/4） 内:にぶい橙（7.5YR6/4）	4806
IL-177	包含層	土錘	1.0	0.9	2.15	1.28		0.1～2.5	精/良	長・雲	外:橙（7.5YR6/6）	6164
IL-178	包含層	土錘	0.95	0.95	1.3	0.84		0.1～1.5	良/不良	石・長	外:にぶい橙（5YR7/4）	6165
IL-179	包含層	不明	1.6	1.1	2.25	2.61		0.1～2.0	精/良	長・赤	外:橙（7.5YR6/8）	4104
IL-186	包含層	土錘	(5.9)	(3.6)	(4.2)	59.16		0.1～6.0	粗/良	石・長・チ・雲・赤	外:にぶい黄橙（10YR7/4）	2586

5　小結

(1) 古墳・埋葬施設（図 259 ～ 263）

古墳時代･古代の新居見遺跡山路地区からは､古墳 1 基､周溝状遺構 23 基､埋葬施設 63 基が確認された。

田野山地山裾に築造された 1 号墳（SM4001）は内部主体と共に破壊されており、墳丘規模・内部主体部構造の詳細は不明である。

周溝状遺構は古墳周溝と推定されるが、一部は弥生時代中期末の円形周溝墓となる可能性がある遺構も含まれている。しかし何れも墳丘は削平を受ける事から遺存しておらず、内部主体は不明である。63 基の埋葬施設も古墳時代と古代に属するものが混在し、副葬品等の年代を特定できる遺構も少ない。また、上部構造が削平を受けており、その構造と外表施設については不明な点が多い。ただし、周溝状遺構内から埴輪や礫が出土していないことから、葺石や埴輪樹立は伴わなかったと推定される。

周溝状遺構に関しては、周溝内法の平面形態と規模から 4 群に分けることができる。

平面形態が方形を呈し 1 辺が 5m 未満の一群は、SD4002, SD4005, SD4007, SD4013 である。SD4002 は大柿Ⅱ様相Ⅳ段階（6 世紀代 4 四半世紀）、SD4007 は TK47 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅱ段階の年代が与えられており、形態と築造年代の関係は認められない。5 世紀後半の SD4007 は、丘陵上に展開する結晶片岩製箱形石棺を内部主体とする小型墳には、直線状の区画溝・尾根切断溝が伴う一群があることから、沖積地上での区画手段として採用された可能性があり、その関連性が伺える。

平面形態が方形もしくは不整方形を呈し 1 辺が 5m より大きい一群は、SD5003, SD5004, SD4001, SD4006, SD4009 である。SD5003 は MT15 式併行期、SD4009 は TK43 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅳ（6 世紀代 4 四半世紀）の年代が与えられており、5m 未満の一群と同様に形態と築造年代の関係は認められない。SD5003 に代表される 6 世紀初頭に位置づけられる一群は、統合過程で小型化・結晶片岩製組合式箱形石棺採用小型墳や SD4002 等と同様に在地色の強い小水系単位首長クラスの可能性がある。一方、6 世紀後半代の一群は、1 号墳 SM4001 周辺に展開した群集墳を構成する古墳と位置づけることが可能である。

平面形態が円形もしくは不整円形を呈し長径が 5m より大きい一群は、SD4004, SD4008, SD5002, SD4010, SD5006, SD4011, SD4015 である。SD4004 は TK10 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅲ、SD5002 は MT85 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅲである。徳島において横穴式石室が導入後に在地系埋葬施設が変容するなかで形成された古墳と位置づけることができる。

平面形態が円形もしくは不整円形を呈し長径が 8m より大きい一群は、SD4012, SD4014, SD5007, SD4016 である。SD4012 は TK209 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅴの年代が与えられ、1 号墳 SM4001 と共に群集墳を構成する古墳と位置づけられる。

徳島では方形基調の古墳は少なく、小型墳においても同様の傾向が認められる。

埋葬施設に関しては内部構造から 5 類型に分けることが可能である。

44 基を数える土壙墓は方形もしくは隅丸長方形を呈し、本来は墓壙深度が 1m 弱と想定される一群である。徳島市観音寺遺跡や敷地遺跡においても確認され、東みよし町大柿遺跡では箱形木棺の痕跡が確認されている。新居見遺跡では木棺痕跡は不明瞭である。所謂土坑（SK）も含まれる可能性が高いが、古墳時代後期から古代にかけて構築された。

6 基確認された小竪穴式石槨墓は、隅丸長方形もしくは楕円形を呈する土壙内に割石を平積みもしくは立石・縦積みにより壁体を構築する一群である。ST4059,ST4054,ST4052,ST4032,ST4063 が該当する。床石を伴わない一群が殆どであるが、ST4059 のように床石を伴う一群もある。ST4052 は TK47 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅱの可能性があり、ST4032 は TK43 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅳ、ST4059 は TK43 ～ TK21 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅲ～Ⅳ、ST4063 は TK217 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅵの年代が与えられ、主に古墳時代後期後半と推定され、吉野川流域の古墳時代後期群集墳において確認された小竪穴墓と同様の一群である。

礫床木棺墓や礫敷土壙墓は 5 基を数え、礫床は浅い隅丸長方形を呈する土壙内に小型割石や川原石を充填する一群である。ST4001, ST4002, ST4003 が該当する。1 号埋葬施設（ST4001）は、礫床面が緩い円弧を描くことから、断面形態が丸い木棺が伴ったと想定される。小口側は水平である事から、棺身（底）側は面取り加工が伴わない材を使用した組合式箱形木棺と想定される。

石囲木棺は、隅丸長方形を呈する土壙内に組合式箱形木棺を設置し、木棺内外に裏込め石を充填する一群である。ST4008, ST4038, ST4053, ST4047 が該当する。8 号埋葬施設（ST4008）では小口側に幅 10 ㎝弱の直線状の割石が無い場所が確認できる。木棺小口の痕跡と推定され、小口板を内外の割石で支えたと考えることができる。古墳時代中期の木槨構造に類似するが、緊結金具は出土していない。また槨か棺かは不明であるが、規模から箱形木棺を想定する。ST4008 は TK43 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅳ、ST4038 は TK217 式併行期・大柿Ⅱ様相Ⅵの築造年代が与えられ、古墳時代後期後半～末に盛行したと推定される。

非石蓋石槨状は、楕円形を呈する土壙内に、木棺据え置き後に木棺形状に沿って割石を積み上げる一群である。ST4021, ST4051 が該当する。長側壁側は 1 ～ 2 段と低く、小口・短側壁側は 3 段程度積み上げている。内部への割石の崩落が少ない事から、天井石はなく木蓋の架構もしくは、木棺蓋がそのまま天井部を構成したと推定される。ST4021 は後期前半の築造年代が与えられるが、鹿角装刀子の評価から中期に遡る可能性もある。槨石材の使用方法から中期の年代を与えるのが妥当である。

周溝状遺構に埋葬施設が伴うのは、SD4002＋ST4006, SD4006＋ST4056, SD4008＋ST4057, SD4015＋ST4054, SD4013＋ST4047, SD4014＋ST4052 である。ただし、SD4002＋ST4006, SD4006＋ST4056, SD4008＋ST4057 の組合せについては、埋葬施設が溝状遺構の中心に位置しないことから、その関連性に関しては疑義が残る。一方、SD4015＋ST4054, SD4013＋ST4047, SD4014＋ST4052 に関してはその組合せが妥当と考えられる。特に、14 号周溝状遺構（SD4014）や 16 号周溝状遺構（SD4016）のように円形で 8m 大の一群には、墳丘中心部に埋葬施設の痕跡が残る例が多いことから小型円墳と位置づけることが可能である。

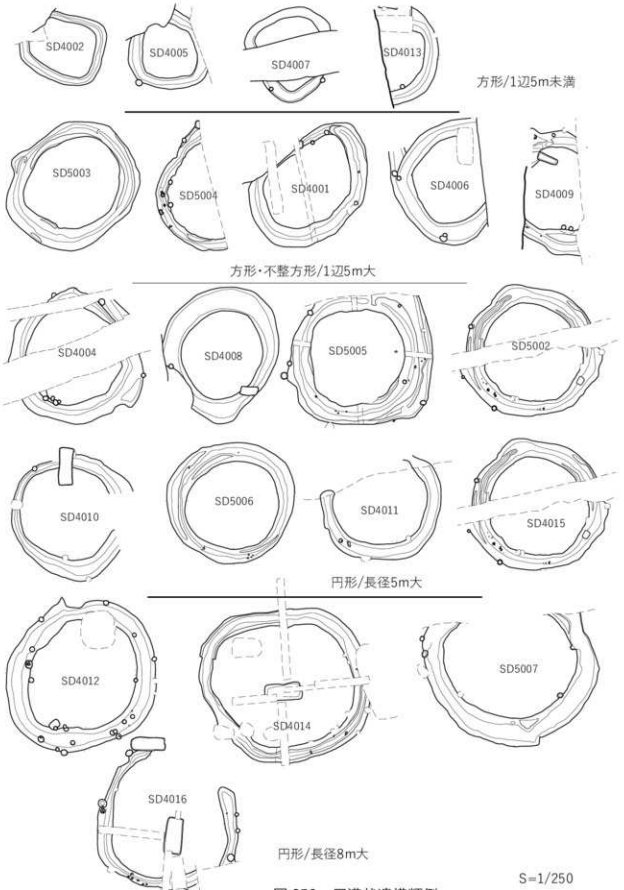


図 259　周溝状遺構類例

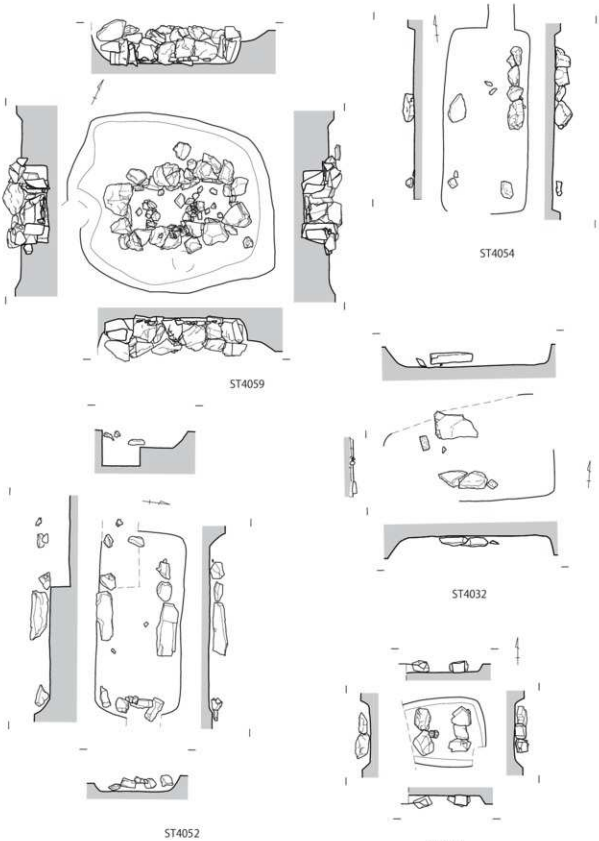


図 260　埋葬施設類型（1）

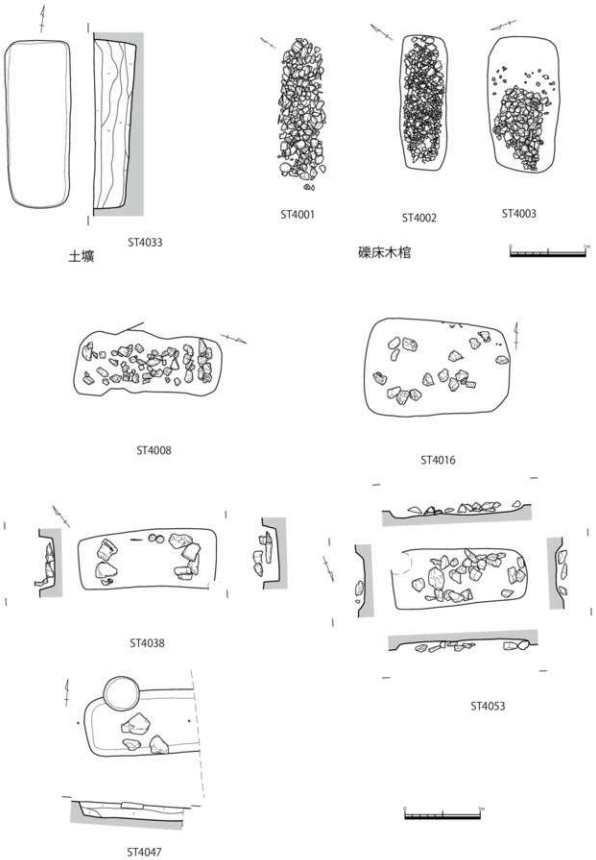


図 261　埋葬施設類型（2）

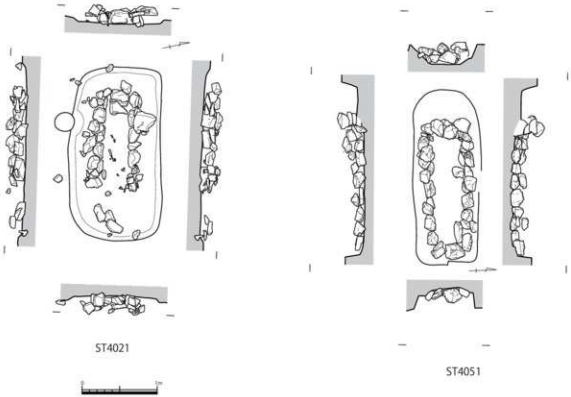


図 262　埋葬施設類型（3）

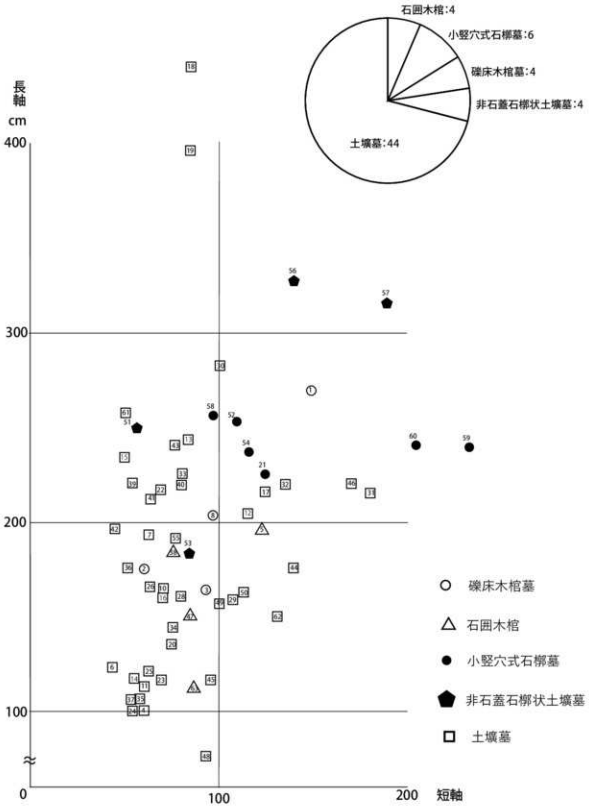

石囲木棺:4
小竪穴式石槨墓:6
礫床木棺墓:4
非石蓋石槨状土壙墓:4
土壙墓:44
長軸
cm
400
300
200
100
0
100
200
短軸
礫床木棺墓
石囲木棺
小竪穴式石槨墓
非石蓋石槨状土壙墓
土壙墓

図 263　埋葬施設規模

(2) 須恵器ヘラ記号（図 264、265）

新居見遺跡からは、ヘラ記号を施した須恵器 16 点が確認された。以下、三好郡東みよし町（旧三好町）大柿遺跡出土須恵器ヘラ記号分類に準じて確認する。

「大柿Ⅰ類」は 3 条の平行線と、それに直交もしくは斜行する 1 条の沈線から構成される一群である。SD4-25 が該当し、底部に 3 条沈線に直交する 1 条沈線が施されている。

「大柿Ⅱ類」は 3 条沈線から構成される一群である。SR4-13 は、長頸壺体部下半に施されている。SM-20 は甕の頸部内面に施されている。

「大柿Ⅲ類」は井字状もしくは井桁状を呈する一群。新居見遺跡では類例未確認である。SR4-205 は 2 条並行沈線に 2 条斜行沈線が施される。施文位置は体部肩部である。

「大柿Ⅵ類」は、1 条沈線のみで構成されている一群である。長く施文する一群と、短く施文する一群に分ける事ができる。IL-45, SD4-24 が該当する。施文位置は杯蓋天井部と杯身底部であり、大柿遺跡出土例と類似する。

「大柿Ⅶ類」は 2 条沈線で構成されている一群である。ST-28, SM-23 が該当し、共に 2 条沈線の長さがほぼ同じ一群である。施文位置は底部外面である。

「大柿Ⅷ類」は X 字状を呈する一群である。IL-13, IL-14, IL-36, IL-37, IL-44, SR4-204 が該当する。施文位置は杯蓋天井部や杯身底部に施される。

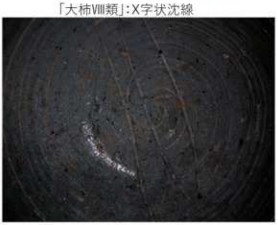
大柿類型に合致しない例としては、壺 IL-71 の頸部外面に施されたもので、「へ」字状もしくは「逆 V」字状を呈する。「大柿Ⅸ類」の範疇に入れることは可能であるが、施文時に正位置でヘラを左から斜めに上げて右下へ抜く動きから「へ」字状とした。

新居見遺跡では 7 種類のヘラ記号が確認され、ヘラ記号を施さない一群と併せて、新居見遺跡に持ち込まれた須恵器は 8 群の工人グループによって製作されたこととなる。今後は、時期差や胎土分析の成果や型式学的検討を通じて、製作地と消費地との流通の実体を明らかにする必要がある。

「大柿Ⅵ類」:1条沈線

「大柿Ⅷ類」:X字状沈線

仮「大柿Ⅸ類」:V字状沈線、旧大柿Ⅷ類の一部



「大柿Ⅰ類」:1条沈線+直交3条沈線

「大柿Ⅶ類」:2条沈線

その他:井桁状(大柿Ⅲ類)に類するが、
三角形状、もしくは複合状

掲載番号	遺構	器種	ヘラ記号部位	ヘラ記号
IL-13	包含層	杯蓋	天井部外面	X字状沈線。「大柿Ⅷ類」
IL-14	包含層	杯蓋	天井部外面	X字状沈線。「大柿Ⅷ類」
IL-36	包含層	杯身	底部外面	X字状沈線。「大柿Ⅷ類」
IL-37	包含層	杯身	底部外面	X字状沈線。「大柿Ⅷ類」
IL-44	包含層	杯身	体部内面	X字状沈線。「大柿Ⅷ類」
IL-45	包含層	杯身	底部外面	1条沈線。「大柿Ⅵ類」
IL-71	包含層	壺	頸部外面	逆V字状沈線。「大柿Ⅷ類」の一部、旧「大柿Ⅸ類」
SR4-13	SR4002	長頸壺	頸下半部外面	3条沈線。「大柿Ⅱ類」
SR4-204	SR4003	杯	底部外面	X字状沈線。「大柿Ⅷ類」
SR4-205	SR4003	杯身	底部内面・底部外面	その他。井形状
ST-28	ST4063	杯身	頸下半部外面	1条沈線。「大柿Ⅶ類」
SD4-24	SD4007	杯蓋	底部外面	1条沈線。「大柿Ⅵ類」
SD4-25	SD4007	杯身	底部外面	1条沈線+直交3条沈線。「大柿Ⅰ類」
SM-11	SM4001	壺	頸部外面	その他。三角形状
SM-20	SM4001	甕	頸部内面	3条沈線。「大柿Ⅱ類」
SM-23	SM4001	甕	頸部外面	2条沈線。「大柿Ⅶ類」

図 264　須恵器ヘラ記号（1）

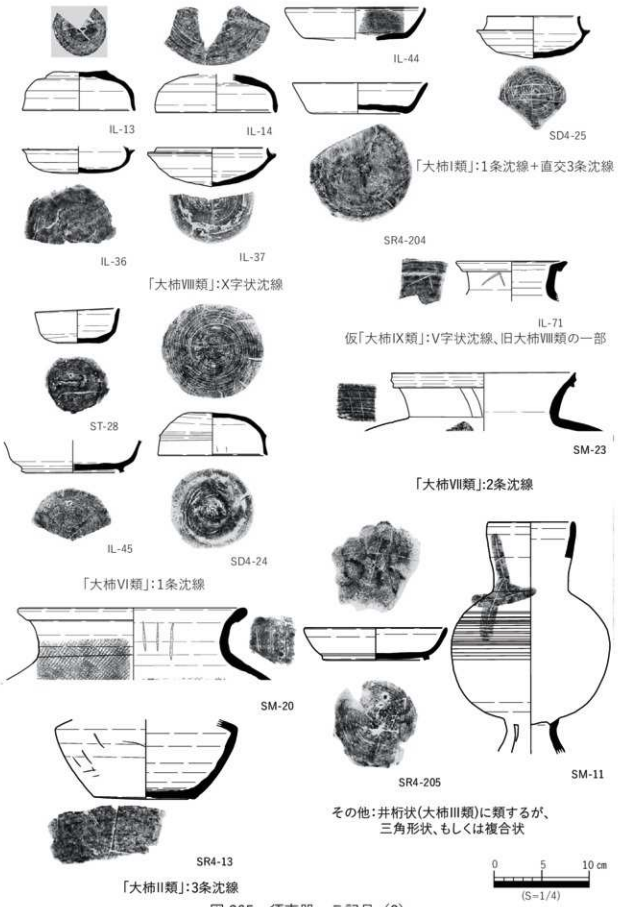


図 265　須恵器ヘラ記号（2）

(3) 前山遺跡採集須恵器（図 266）

前山遺跡は、小松島市田浦町に所在し、前山古墳から東へ続く田野山塊丘陵斜面部に位置する。1963年、開墾中に大量の埴輪が出土した。出土した埴輪は、普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪の円筒埴輪の他に、人物埴輪・盾形埴輪・石見型盾形埴輪・蓋形埴輪・靫形埴輪・太刀形埴輪等の形象埴輪である。円筒埴輪には鹿の線刻が施される個体や、断続ナデ技法を施す一群も確認される。所謂「石見型」盾形埴輪は、その分布域の西限例の一つである。6 世紀初頭～中葉の年代が想定されており、古墳以外における埴輪樹立祭祀として位置づけられている遺跡である。

同遺跡周辺では、須恵器が採集されているが、例示されていないために掲載する。現在小松島市教育委員会にて保管されているのは、杯蓋・杯身・提瓶である。杯蓋 KMMY-4,KMMY-5, 杯身 KMMY-9,KMMY-11 は、口縁部に 1 箇所の打ち欠きを施す。提瓶 KMMY-12 の口縁部欠損は、打ち欠きによる可能性も想定される。杯身 KMMY-8 は口縁部～受け部にかけて赤色顔料状の変化が認められる。何れも MT85 式, TK43 式併行期の年代を与えることが可能であり、前山遺跡出土埴輪とは年代が一致しない。しかし、新居見遺跡山路地区古墳や埋葬施設群とは同時期である事が確認された。

当該地に古墳群が築造された可能性も想定されるが、横穴式石室を埋葬施設に採用した古墳は弁慶の岩屋古墳を除いて未確認であり、その出土遺構・位置づけに関しては、今後の検討課題である。

番号	種別	器種	法量	粘土	焼成	胎土組成	色調	調整	備考
KMMY-1	須恵器	杯蓋	高:3.8 口:13.3	0.2～6.0	良 良	石・長・砂・黒	外:灰（7.5Y6/1） 内:灰（10Y5/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上条:回転ナデ→ユビナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向上から見て時計回り。6159
KMMY-2	須恵器	杯蓋	高:3.9 口:13.4 側:13.6	0.2～3.0	良 良	石・長・黒	外:灰（10Y6/1） 内:灰（10Y6/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→あて具→1本ユビナデ	口唇部ユビナデ痕残る。回転方向上から見て反時計回り。6160
KMMY-3	須恵器	杯蓋	高:40.05 口:13.85 側:14.25	0.2～4.5	精 良	石・長・チ・黒	外:灰（10Y6/1） 内:灰オリーブ（5Y5/2）暗青灰（5PB4/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向上から見て反時計回り。6161
KMMY-4	須恵器	杯蓋	高:3.8 口:14.5 側:14.75	0.1～4.0	良 良	石・長	外:灰（10Y5/1） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→1本弾、ユビナデ→2	口縁部打ち欠き？。回転方向上から見て時計回り。6162
KMMY-5	須恵器	杯蓋	高:4.8 口:14.35 側:14.3	0.4～6.0	良 良	石・長・黒	外:灰（10YR/1） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	口縁部打ち欠き。回転方向上から見て時計回り。6158
KMMY-6	須恵器	杯身	高:4.8 口:12.55 側:15.2・底:6.55	0.5～7.0	良 良	石・長・花？	外:黄灰（5B6/1） 内:黄灰（5B6/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り。6155
KMMY-7	須恵器	杯身	高:4.2 口:11.75 側:14.35・底:6.85	0.5～5.0	良 良	石・長	外:灰（10YR/1） 内:黄灰（5B5/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り。6152
KMMY-8	須恵器	杯身	高:4.5 口:12.35 側:14.95・底:6.45	0.4～6.5	良 良	石・長・チ・黒	外:黄灰（2.5Y6/1） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→ユビオサエ→2本ユビナデ	在地？（クサセシチャート含）。口縁部～受け部外側、内面赤色顔料付着？。回転方向下から見て時計回り。6153
KMMY-9	須恵器	杯身	高:（3.45）口:（13.05）側:14.3・底:5.05	0.2～3.5	良 良	石・長・黒	外:灰オリーブ（5Y5/3） 内:灰（10Y5/1）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→2本ユビナデ	口縁部打ち欠き。回転方向下から見て反時計回り。6156
KMMY-10	須恵器	杯身	高:3.85 口:12.0 側:14.45	0.2～8.0	良 良	石・長・礫・黒	外:灰（N6/0） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→あて具痕→ユビオサエ→2本ユビナデ	回転方向下から見て反時計回り。6154
KMMY-11	須恵器	杯身	高:（3.35）口:（11.45）側:（13.9）・底:（6.7）	0.2～4.0	良 良	石・長・黒	外:灰（7.5Y6/1） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側上外:回転ナデ→ユビナデ/内:回転ナデ・側下外:回転ナデ/内:回転ナデ・底外:回転ヘラケズリ/内:回転ナデ→ユビナデ	口唇部打ち欠き？。回転方向下から見て反時計回り。6157
KMMY-12	須恵器	提瓶	高:17.35 口:（4.6）側:3.6 側:13.25・底:5.0	0.1～5.0	良 良	石・長・チ・黒	外:灰（N5/0） 内:灰（N5/0）	口外:回転ナデ/内:回転ナデ・側外:回転ナデ/内:回転ナデ	6163

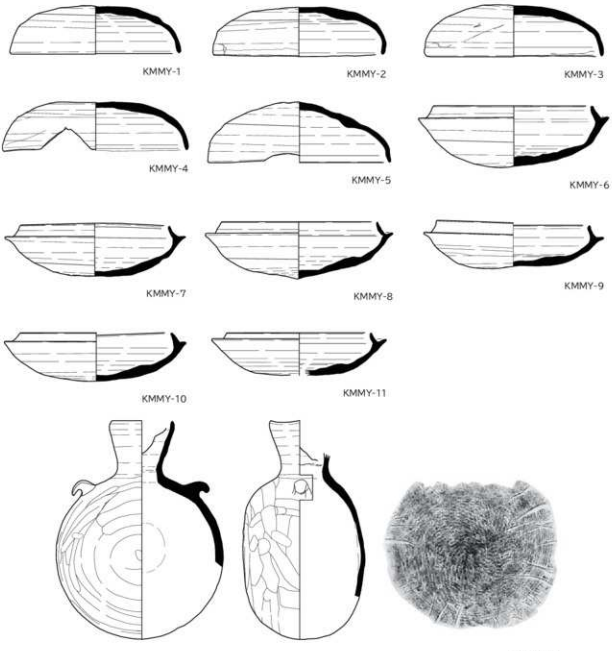


図 266　前山遺跡採集須恵器

(4) 勝浦川・那賀川流域の遺跡（図 267 ～ 269）

吉野川流域における古墳時代～中世前半の土器様相については、田川憲（栗林編 2004）・早渕隆人（栗林編 1999）・氏家敏之（氏家編 2017）らによってまとめられている。一方、旧那賀郡・勝浦郡における土器様相については、久保脇美朗（久保脇 2005）・島田豊彰（島田 2009・2010）らによってまとめられている。新居見遺跡山路地区検出の古墳時代・古代の遺構・遺物の位置づけを行うために、勝浦川・那賀川流域を中心に遺跡動態及び土器様相を概観する。

① 6 世紀代

勝浦郡では前山遺跡が展開する一方で後期古墳の築造数は少ない。那賀郡では那賀川北岸の小田ノ浦臨海地域や立江川流域において能路寺山 1 号墳や観音山古墳が独立小丘陵上に築造されるが、集落遺跡は未確認である。桑野川流域では宮ノ本遺跡において集落が形成される。

6 世紀前半の土器様相は、当該地域では不明である。三好郡東みよし町大柿遺跡が基準資料となる。徳島市（旧名東郡）敷地遺跡においても当該期の資料が確認されているが、充分な資料提示は未完である。大柿（Ⅱ）様相Ⅲ段階に代表される。当該期の須恵器は陶邑編年 MT15 型式・TK10 型式・MT85 型式が該当する。

6 世紀後半の土器様相は、大柿（Ⅱ）様相Ⅳ段階（TK43 型式）に代表される。桑野川流域では、宮ノ本遺跡（Ⅱ）第 1 期が該当する。吉野川下流域では、観音寺遺跡流路 SR1001- Ⅸ層が相当する。

② 7 世紀代

勝浦郡域勝浦川流域の弁慶の岩屋古墳や鮎喰川流域の穴不動古墳などの巨石墳が築造される段階である。那賀郡域桑野川流域では庄境遺跡 1 期の集落形成や立善廃寺の造営が認められる。名東郡域では敷地遺跡などの集落遺跡が展開する。

7 世紀第 1 四半期の土器様相は、大柿（Ⅱ）様相Ⅴ段階（TK209 型式）に代表される。名東郡域の観音寺遺跡自然流路 SR1001 Ⅷ層、名西郡域の清成遺跡 SX1002,SX1004、三好郡域の中庄東遺跡竪穴住居群から比較的まとまった資料が出土している。7 世紀第 2 四半期～中頃の土器様相は、大柿（Ⅱ）様相Ⅵ段階（TK217 型式古段階）に代表される。名東郡域の敷地遺跡（Ⅱ）ST2025、観音寺遺跡自然流路 SR1001 Ⅶ層、板野郡域の黒谷川宮ノ前遺跡 SR1001 からまとまった資料が出土している。

遺構数の減少傾向が認められる 7 世紀後半の土器資料群は、敷地遺跡（Ⅱ）3 区 SB2001，1 区 ST2025，観音寺遺跡 6 区 SR1001 において確認されている。

③ 8 世紀代

勝浦郡域や那賀郡域立江川流域の 8 世紀前半段階の遺跡密度が低く、集落動態は不明確である。しかし、8 世紀後半には立江川下流域において官衙的性格を持つ立江馬渕遺跡が成立する。那賀郡域桑野川流域では宮ノ本遺跡（Ⅱ）第 2 期の集落が盛隆し、隣接する庄境遺跡Ⅱ期の遺構群が展開する。

当該期は、所謂「律令的土器様式」の土器様相である。供膳具の杯・皿・蓋・高杯等を中心に出土する。杯・皿の内面には暗文が、外面はヘラケズリが施される。口径も 10 ～ 20 ㎝とバラエティに富む。8 世紀前半段階の土器資料群は、名東郡域の観音寺遺跡 SD1021，矢野遺跡 SB1021，清成遺跡 SB10003，SX1001，SX1004，SA1001 から出土している。

8 世紀後半段階の土器資料群は、勝浦郡域や那賀郡域立江川流域では、田浦遺跡（子安東地区）SD1019，立江馬渕 SD1001，SP1159 から、吉野川流域では観音寺遺跡 7 区 SP1086，敷地遺跡（Ⅰ）SK3158，高畠遺跡土器溜まり等からまとまった資料が出土している。坏・更に施された暗文は消失し、底部は回転台整形とナデ消し調整が施される。杯類口径は小型化する。立江馬渕遺跡 SD1001 出土遺物の内、土師器杯は口径 13 ～ 17 ㎝、器高 3 ～ 3.3 ㎝を測り、口縁端部の折り返しと内面に凹線条沈線が施される。底部にはヘラケズリ、外面にはヨコナデ調整が施される。内面に暗文を施す個体は減少する。土師器甕は筒状体部を呈する。

④　9 世紀代

勝浦郡域立江川流域の立江柳ノ内遺跡では石製巡方や円面硯・京都系緑釉陶器が出土しており、当該地の官衙関連遺跡として位置づけられている。しかし、勝浦川流域では極端に遺跡・遺構密度が低下し、神田瀬川北岸田浦遺跡 SR1001 内からは円筒埴輪が出土するなど、自然起因もしくは人的要因による土地の改変が行われた可能性が想定される。9 世紀前半の桑ノ川流域では引き続き宮ノ本（Ⅱ）遺跡の第 2 期や庄境Ⅲ期に該当し、集落が展開する。

9 世紀前半段階の土器資料群は、矢野遺跡（Ⅲ）SD1039，敷地遺跡（Ⅰ）SR3001，SA3013，黒谷側宮ノ前遺跡 SK1059，SK1283 から出土している。当該期の土器は、所謂「回転台土師器」が採用されることで供膳具における須恵器の比率は低下する。また、須恵器模倣土師器が一定量出土する。

9 世紀後半段階の土器資料群は、敷地遺跡（Ⅰ）SD3029，観音寺遺跡（Ⅲ）SK1043，古町遺跡 SK3030，相知遺跡 SX1004 から出土している。供膳具から須恵器が更に減少し、新たに緑釉陶器、黒色土器 A 類が伴う。杯は小型と貼付高台が伴う大型に分かれる。

⑤　10 世紀代

立江川流域の立江馬渕遺跡が盛期を迎え、木製祭祀具の出土などが認められることから、立江柳ノ内遺跡と併せて官衙関連機能を有していたと推定される。しかし、那賀郡域桑ノ川流域では、遺跡数の減少傾向が認められる。同様に名東郡や名西郡・板野郡域の観音寺遺跡や敷地遺跡でも遺構密度が低下する。

10 世紀前半段階の土器資料群は、立江川流域の立江馬渕遺跡 SA1004 である。吉野川流域では、敷地遺跡土器溜まり№ 13，観音寺遺跡（Ⅲ）8 区 SE1003，黒谷川宮ノ前遺跡 SK1034，SD1017，相知遺跡 SA1013，SK1019 等から出土している。当該期は、供膳具の主体を土師器が占め、黒色土器 A 類が伴う。杯・皿類の小型化は進み、高台付は高台が延びる。立江馬渕遺跡 SA1004 出土遺物の内、土師器杯は口径 12 ㎝前後を測り、体部上方への開きが小さく緩やかに外反する。高台付椀は緩やかに内彎する体部が上方へ大きく開く一群が多く、内外面赤彩される。土師器甕は、筒状体部に「く」の字状に屈曲する頸部から直線状に延びる口縁部を持つ個体と、僅かに膨らむ体部に「く」の字状に屈曲する頸部に端部が丸く仕上げられた口縁部を有する小型の個体が認められる。

10 世紀後半段階の土器資料群は、立江馬渕遺跡 SA1001，SA1002，SA1006，敷地遺跡（Ⅰ）土器溜まり№ 14，敷地遺跡（Ⅱ）SK2071，観音寺遺跡（Ⅲ）6 区 SE1001，黒谷川宮ノ前 SD1016，SD1011，相知遺跡 SX1003 等から出土している。当該期は黒色土器 B 類が増加し、杯類は小型が主体となる。皿は器高が低下する。立江馬渕遺跡 SA1001 出土遺物の内、土師器杯は口径 12 ㎝を測り薄い器壁で内彎する

体部に外反する口縁部を有する小型の個体や、法量の小型化や調整の粗雑化が認められる個体が出土した。土師器甕は体部に平行タタキが施される。黒色土器B類も伴う。SA1002出土遺物の内、高台付杯は直線的に上方へ開く体部に底部境界からやや離れた位置に開く高台が伴う。皿は体部が直線的に上方へ開く体部を有し、底部内面には粘土紐巻き上げ痕が残る。

⑥ 11世紀代

当該期は、10世紀代の遺跡数減少傾向に拍車がかかる。勝浦郡域では謂わば空白期であるが、那賀郡域桑ノ川流域では宮ノ本遺跡(Ⅱ)第3期となり、再び集落が展開する。一方、名東郡域では、11世紀前半に矢野遺跡や観音寺遺跡で遺構が確認される。板野郡域でも従来の遺跡密度が濃い旧吉野川下流域では空白地となる。吉野川上流域の大柿遺跡ではカワラケメン地区に遺構が集中する。しかし、11世紀後半には勝浦郡域では空白期となる。名西郡域では清成遺跡で掘立柱建物群が展開するが、後半段階には疎となる。一方で、吉野川河口域に大松遺跡などの集落が形成される。

11世紀前半段階の土器資料群は、矢野遺跡(Ⅲ)SP1332，観音寺遺跡(Ⅲ)SP1079，清成遺跡SA1011，SA1014，SA1019，SA1020，SA1023等から出土している。当該期は前段階と大きな変化はなく、黒色土器B類が組成の中心となる。

11世紀後半段階の土器資料群は、清成遺跡SK1170，大松遺跡（東区）SU1001，杯東遺跡（0-2区）SO1001等から出土している。当該期には東播系須恵器や白磁が組成に加わる。

⑦ 12世紀代

当該期は、11世紀同様に遺跡数は少ない。那賀郡立江川流域では立江馬渕遺跡が存続する。那賀川流域では宮ノ本遺跡Ⅱ第3期から第4期古段階へと遺構群が展開する。名西郡域では清成遺跡において掘立柱建物群が展開し、板野郡域では古城遺跡において方形区画溝を伴う屋敷地が成立する。吉野川上流域においても円通寺遺跡に見られるように河岸段丘の開発が進む。

12世紀前半段階の土器資料群は、立江馬渕遺跡SA1003，敷地遺跡(Ⅱ)3区SK1050，古城遺跡(C)SK1026，SK2001，SK2004，SD1002等が該当する。当該期の組成に瓦器椀が加わる。12世紀後半段階の土器資料群は、大松遺跡(西)H区貝塚3，古城遺跡(C)SK1057，SK1056等が該当する。当該期組成は瓦器椀が土師器椀とほぼ同量を占め、東播系須恵器こね鉢や白磁碗が増加する。立江馬渕遺跡SA1003出土遺物の内、土師器杯は口径11.2㎝、器高2.5㎝を測る小型の一群である。直線的な体部の上方への開きは小さく、口縁部は僅かに外反する。土師器甕は、筒状の体部に「く」字状に屈曲する度合いが弱い頸部から外上方に延びる口縁の端部は上方へ拡張されている。土師器小皿は、底部外面は未調整で口径・器高共に縮小化の傾向が進む。土師器土釜は摂津型である。須恵器鉢には讃岐十瓶山産と推定される。

⑧ 13世紀代

当該期では、勝浦郡域勝浦川流域では、遺跡数が増加する。新居見遺跡では、山路地区だけではなく柳ノ内地区・高屋敷地区にも集落域が拡充する。那賀川流域では宮ノ本遺跡Ⅱ第4期の集落が展開する。板野郡域では古城遺跡や大松遺跡においても屋敷地が拡充する。同様の傾向は吉野川上流域の美馬郡域や三好郡域においても杯東遺跡・大柿遺跡・中庄東遺跡等においても認められる現象である。

地域 / 西暦 AD	勝浦郡 勝浦川流域	那賀郡 小田ノ浦/立江川流域	那賀郡 那賀川南岸/桑ノ川流域	名東郡	名西郡	板野郡	美馬・三好郡
400			国高山古墳			大代古墳	大柿Ⅱ様相Ⅰ
	渋野丸山古墳						
	子安観音古墳						大柿Ⅱ様相Ⅱ
500	前山遺跡					西山田(1)1号	大国魂
		能路寺山1号					大柿Ⅱ様相Ⅲ
		観音山古墳	学原剣塚古墳			ぬか塚古墳	太鼓塚
			宮ノ本Ⅱ 第1期	矢野古墳			櫛塚
600	弁慶の岩屋古墳						大柿Ⅱ様相Ⅳ
				穴不動古墳	清成 SB1004,SX1002	日吉谷 SB1001	大柿Ⅱ様相Ⅴ
			立善廃寺 庄境Ⅰ期	敷地(Ⅱ) ST2025		中谷山	大柿Ⅱ様相Ⅵ
						黒谷川宮ノ前 SR1001	中庄東(7B,9D,10A) 竪穴住居
700			宮ノ本Ⅱ 第2期	観音寺SD1021 矢野SB1021 庄SA02	清成 SB1003,SX1001, SX1004,SA1001		郡里廃寺 中山路
			庄境Ⅱ期	観音寺7区SP1086 敷地(Ⅰ)SK3158 高畠 土器溜まり			
	田浦(子安東) SD1019	立江馬渕 SD1001,SP1159					中庄東 乗理溝,SA2001
800			庄境Ⅲ期	矢野(Ⅲ)SD1039 敷地(Ⅰ)SR3001, SA3013 敷地(Ⅰ)SD3029 観音寺(Ⅲ)SK1043		黒谷川宮ノ前 SK1059,SK1283	西州津 SR1001
	田浦(子安東) SR1001					吉町 SK3030	相知 SX1004
900		立江馬渕 SA1004		敷地土器溜まり№13 観音寺(Ⅲ)8区SE1003		黒谷川宮ノ前 SK1034,SD1017	相知 SA1013,SK1019
		立江馬渕 SA1001,SA1002, SA1006		敷地(Ⅰ)土器溜まり№14 敷地(Ⅱ)SK2071 観音寺(Ⅲ)6区SE1001		黒谷川宮ノ前 SD1016,SD1011	相知 SX1003
1000			宮ノ本Ⅱ 第3期	矢野(Ⅲ)SP1332 観音寺(Ⅲ)SP1079	清成(建物群①) SA1011,SA1014, SA1019,SA1020, SA1023		大柿Ⅲ カワラケメン地区 松吉地区
					清成 SK1170	大松(東) SU1001	拝東(0-2)SO1001 大柿Ⅲ カワラケメン地区 松吉地区
1100		立江馬渕 SA1003		敷地(Ⅱ)1998年3区 SK1050	清成(建物群②) SA1013,SA1015, SA1016,SA1017	古城(C) SK1026,SK2001, SK2004,SD1002	拝東(1-1) 掘立柱建物群 大柿Ⅲ カワラケメン地区
			宮ノ本Ⅱ 第4期古		清成(建物群③) SA1005,SA1009, SA1010,SA1012, SA1018,SA1021, SA1022	大松(西)H区 貝塚3 古城(C) SK1057,SK1065	拝東(1-2, 2) 掘立柱建物群 円通寺0期 相知(3,6) 屋敷地1,2
1200				敷地(Ⅱ) SK3012,SP2031		大松(西)H区 SX1001,SK1013, G区SK1011 5区SK1026,SK2059 古城(C) SD1001,SP1073	拝東(3-1,3-2) 掘立柱建物群 大柿Ⅲ 馬のシャクリ地区1
			宮ノ本Ⅱ 第4期新	敷地(Ⅱ) 2001年土壙墓群, 1998年2区SE1001 中島田 SK238,溝206	清成 SD1023,SD1035, SX1011	大松(西) D区 SAX1011,SD1004	拝東(3-1,3-2) 掘立柱建物群 中庄東 西側屋敷地

図 267　当該期遺跡・遺構

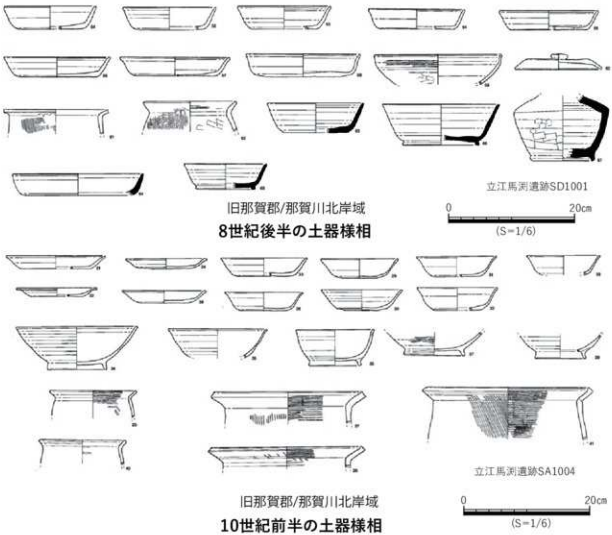
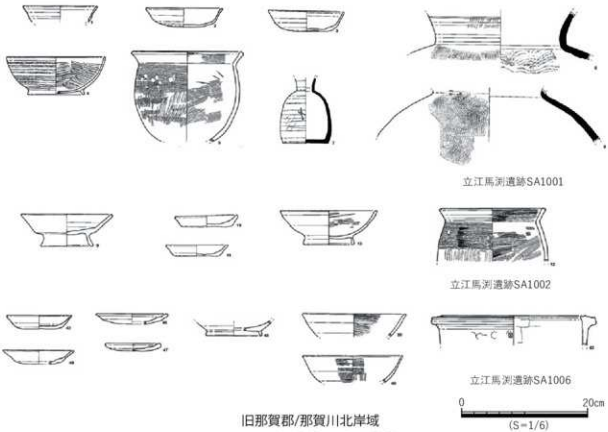


図 268　勝浦川・那賀川流域の土器（1）

13 世紀前半段階の土器資料群は、敷地遺跡(Ⅱ)SK3012，SP2031，大松遺跡(西)H 区 SX1001，SK1013，G 区 SK1011，5 区 SK1026，SK2059，古城遺跡(C)SD1001，SP1073 が該当する。当該期には和泉型瓦器椀（Ⅲ -2 ～Ⅳ期）や東播系須恵器捏ね鉢が共伴する。杯類は器高低下と小型化が進み、底部は回転糸切りが主流となる。

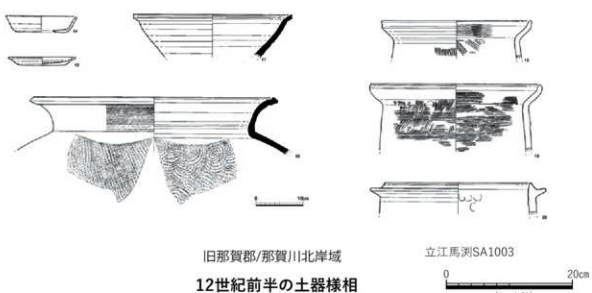
13 世紀後半段階の土器資料群は、敷地遺跡(Ⅱ)2 区 SE1001，中島田遺跡 SK238，溝 206，清成遺跡 SD1023，SD1035，SX1011，大松遺跡(西)D 区 SAX1011，SD1004 が該当する。当該期の土器は，杯類は更に小型化が進み口径 12 ㎝前後となり、底部は回転糸切りや回転ヘラ切りが主体となる。輸入磁器も白磁から青磁へとなる。

新居見遺跡山路地区の遺構群は、立江川流域の遺跡動向に類似することから、弁慶の岩屋古墳築造後に立江川流域において官衙関連遺跡の展開と併せて評価する必要がある。また、11 世紀の空白期から 12 世紀の再形成期における当該地の遺跡動態に関しては、高屋敷地区や柳ノ内地区の遺構群形成や神田瀬川北岸地域の田浦遺跡における動向と併せて検討する必要がある。



旧那賀郡/那賀川北岸域

10世紀後半の土器様相



旧那賀郡/那賀川北岸域

12世紀前半の土器様相

図 269　勝浦川・那賀川流域の土器（2）

(5) 小結

新居見遺跡山路地区において古墳時代後期の墳墓群が確認された。1 基は内部主体が横穴式石室と考えられる古墳である。1 号墳（SM4001）は、周溝は伴わないが横穴式石室を埋葬施設に採用した古墳である。古代～中世段階に墳丘及び石室が破壊もしくは崩壊したと推定され、正確な墳形や規模は不明である。石室石材には、結晶片岩と勝浦川南岸で産出される頁岩が使用されている。墳丘構築土と推定される高まりの北東側からは、碧玉製管玉 2 点、須恵器甕、須恵器台付長頸壺、須恵器高杯、須恵器杯身、須恵器杯蓋等が出土した。築造時期は古墳時代後期後半 6 世紀第 4 四半世紀である。追葬の時期は、古墳時代終末期・7 世紀初頭である。

14 号周溝状遺構（SD4014）と 52 号埋葬施設（ST4052）で構成される古墳は、直径 10 m を測る円墳である。埋葬施設は長さ 2.5 m、幅 1 m を測る長方形の土坑の内側に木棺を据え、その周辺を頁岩割石で囲う形状である。墳丘のほとんどは削平されており、埋葬施設の上部構造は不明である。

周溝状遺構は、本来は円墳であったが墳丘と埋葬施設が古代以降に削平されたことにより、周溝のみが検出されたものと位置づけられる。僅かに周溝内の残る土器からその築造時期を想定されるのみである。これら周溝状遺構内出土土器が供献土器であるのか内部主体が破壊されたときに流れ込んだ一群からはさらなる検討が必要である。SD4001 のように須恵器杯蓋と杯身が重なる状態で出土した例は、供献土器として認識できる。一方、SD4004 のように土製紡錘車や懸垂提砥などは本来副葬品であったものが破壊に伴い移動したと推定される。いずれにしても、周溝状遺構に伴う墳丘は、削平が可能である程度の埋葬施設を覆うのみの低墳丘であったと推定されている。

今回の発掘調査で確認された墳墓群は、

① 存続時期は、一部に古墳時代中期に築造されたものを含むが、主に 6 世紀後半～ 7 世紀初頭と考えられる。

② 古墳時代後期の墳墓群は、古墳と墳丘を伴わないもしくは低墳丘の小型埋葬施設で構成されている。

③ 横穴式石室は規模は不明であるが、結晶片岩と頁岩で構成されており、在地石材と搬入石材が利用されている。

④ 小型埋葬施設には、小竪穴石室墓に限らず、礫床木棺墓や石囲い等多様性に富む。

⑤ 後期中葉に周溝状遺構の低墳丘円墳が築造された後に、後期後半に田野山地山麓に横穴式石室を埋葬施設とする古墳が築造された。更に、古墳の周辺には、後期中葉～後期末に小型埋葬施設が築造された。これら同時期と推定される墳墓の内、墳丘の有無は、被葬者の階層差が反映されている。

勝浦川流域では、古墳時代後期の有力首長墳として「弁慶の岩屋古墳」が知られてきたが、小水系を単位とする有力家族層の古墳である中小古墳については実態が不明であった。古墳と小型埋葬施設で構成される墳墓群の類例は、徳島県下では上板町山田古墳群（A）、柿谷古墳群、鳴門市東林院古墳群等で確認されているが、吉野川南岸地域では初見である。

古代では自然流路と 2 条の大型溝状遺構が注目される。SD3001, SD3002 は調査区内を東西方向に延びる。出土遺物から溝 1 は、10 世紀前半（平安時代後期）に掘削され、その後、12 世紀後半（鎌倉時代）までに埋没したと考えられる。大型溝の南側から田野山麓に架けての範囲から掘立柱建物を構成する柱穴が約 700 基確認されている一方で、溝北側と 1 号自然流路の間には確認された柱穴の数は少ない。このことから、溝の南側から山裾の範囲に集落が営まれたと考えられ、溝は掘立柱建物群を区画する機能

と1号自然流路からの排水・利水機能が想定される。大型溝の東端は未検出であるが、南側から延びる尾根を切断して尾根東側の低地部へ延びると推定される。東西両尾根と溝に囲まれた範囲が、集落が展開する範囲となり、約4000㎡を測る。徳島県内における平安時代後期に属する集落遺跡事例では、区画溝が伴う例は少ない。集落の性格を考える上で示唆を与えるものである。発掘調査で新居見遺跡山路地区古代集落は、

① 存続時期は10世紀前半から12世紀後半に営まれた。

② 10世紀前半代には大型区画溝が掘削され、区画内に掘立柱建物が建てられたが、その後、区画溝が徐々に埋没する過程において、建物数が減少しながらも12世紀後半まで存続したと推定される。

③ その集落は、大型の区画溝の存在により集落域が限定される。SD1001南側の範囲からは、柱穴等が約700基検出され、掘立柱建物が展開したと推定される。複数の建物解体前後の地鎮祭祀遺構が確認された。掘立柱建物には方形を呈する柱穴は認められず。小型円形が主体である。

④ SD1001，SD1002や包含層からの出土遺物には、黒色土器や土師器と共に体部打ち欠き土器や少量の赤色塗彩土器や石帯が出土したことから、官衙関連遺跡ではないが、有力層に関係する集落であったと推定される。

⑤ 大量の管状土錘は、徐々に一般集落化していく過程で生業に想定できる遺物である。

⑥ 古墳時代の遺構面を削平する旧神田瀬川・勝浦川の河道移動は、生活基盤（安定した集落域・生産域）に影響を与えた事が伺える。自然流路（SR3001）の乾燥化・陸地化のために流路内に石組みを築き、越流水を大型溝（SD3001，SD3002）を通じて下流側へ導水したと想定できる。流路内石組みの構築にあたって、横穴式石室の破壊等により資材を入手したと考えられる。

⑦ 古墳時代後期の墳墓群は、大型溝（SD3001，SD3002）の掘削と自然流路（SR3001）の堰き止め・乾燥化のために破壊されたと考えられる。

文献資料などの面からこの地域は、古代では勝浦郡四ヶ郷の内、『新居郷』に比定されてきた地域である。その後、10世紀後半には勝浦川河口附近を中心に成立した「新島庄」の「勝浦庄」に含まれる地域であり、鎌倉時代には『太奈保（たなほ）』に比定されている地域である。

今回確認された遺構群は、10世紀前半代に属する区画溝や掘立柱建物群は、『新居郷』に、その後、数が減少するが確認される掘立柱建物等は『新島庄勝浦庄』や『太奈保』に関連すると推定される集落として位置付けることが出来る。

9世紀から10世紀は吉野川流域や勝浦流域は農地開発が増大するにつれて、有力農民層（『田堵』）が台頭し伝統的な豪族が衰退するようになる。新居見遺跡は、新たに台頭してきた有力農民層の集落遺跡と位置付けられる。勝浦川流域の地域史・開発史を考える上で示唆を与える遺跡である。

参考文献

氏家敏之 2005『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 31 大柿遺跡Ⅲ』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 60 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

氏家敏之 2008『敷地遺跡Ⅰ －道路改築事業（徳島現状線国府工区）関連埋蔵文化財発掘調査報告－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 72 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

氏家敏之 2015『大松遺跡－四国横断自動車道（徳島～鳴門）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 85 集 （公財）徳島県埋蔵文化財センター

氏家敏之 2016『拝東遺跡 －緊急地方道路整備事業（鳴門池田線）関連埋蔵文化財発掘調査報告書－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 87 集 （公財）徳島県埋蔵文化財センター

氏家敏之 2017『清成遺跡 －徳島県立農林水産総合技術支援センター整備運営事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 89 集 （公財）徳島県埋蔵文化財センター

大北和美 2002『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 19 土井遺跡』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 38 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

栗林誠治 1999『中央構造線断層帯調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 金泉寺遺跡・川端遺跡』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 32 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

栗林誠治 2004『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 24 大柿遺跡Ⅱ』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 48 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

栗林誠治 2013『渋野遺跡 －県道八多法花線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 83 集 （公財）徳島県埋蔵文化財センター

久保脇美朗 1994『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 6 北原～大法寺遺跡 十楽寺遺跡 椎ヶ丸～芝生遺跡』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 6 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

久保脇美朗 2006『立江馬渕遺跡 阿南小松島線住宅宅地関連公共施設等整備促進・緊急地方道路整備合併事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 64 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

近藤玲 2006『矢野遺跡（田）（弥生・古代編） －一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 63 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

斎藤剛 2002『古町遺跡 －一般県道板野川島線住宅宅地関連公共施設整備促進事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 43 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

島田豊彰 2009『末石遺跡 中庄東遺跡 －加茂第一地区堤防の事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 74 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

島田豊彰 2009『宮ノ本遺跡Ⅰ・大原遺跡・庄境遺跡 桑野川床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 76 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

島田豊彰 2010『宮ノ本遺跡Ⅱ －桑野川床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 81 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

田川憲 2004『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 27 井出上遺跡』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 52 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

田川憲 2005『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 30 相知遺跡』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 59 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

田川憲 2010『観音寺遺跡Ⅲ －一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 77 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

辻佳伸 2000『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 15 円通寺遺跡』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 28 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

早渕陸人 1995『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 9 黒谷川宮ノ前遺跡』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 9 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

藤川智之 2002『観音寺遺跡Ⅰ（観音寺遺跡本簡篇）－一般国道 192 号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 40 集 （財）徳島県埋蔵文化財センター

第Ⅳ章　自然化学分析

1．新居見遺跡出土土製品付着赤色顔料の自然科学分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1．はじめに

小松島市新居見町山路に所在する新居見遺跡より出土した土器および土偶に付着する赤色顔料について、蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討した。

2．試料と方法

分析対象は、遺跡より出土した土器および土偶に付着する赤色顔料である（表1、図版1）。時期は、須恵器と土師器は古墳時代後期から古代、土偶は縄文時代晩期とみられている。実体顕微鏡下で、セロハンテープに赤色部分を極微量採取して、分析試料とした。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV･1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が100 μ mまたは10 μ m、検出器は高純度Si検出器（Xerophy）である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

本分析での測定条件は、50kV、1.00mA（自動設定による）、ビーム径100 μ m、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法（FP法）による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

さらに、蛍光X線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

3．結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図1に示す。

表1　分析対象

分析 No.	実測番号	旧調査区	出土遺構	旧遺構番号	種別	器種	法量	赤色顔料の採取位置
1	2566	B1	包含層	第2遺構面	須恵器	甕	口：(19.15)	口縁部
2	2542	B1	包含層	第2遺構面	須恵器	杯身	高：3.0　口：10.3　脚：13.0　底：4.3	受部部
3	3022	B2		SD001-D	土師器	高台付椀	高：5.3　口：(14.0)　底：7.6	内面
4	4337	B2		SE001	土師器	杯	高：(2.8)　口：(11.8)　底：(7.0)	底部外面
5	4551	B2	包含層	第2包含層	須恵器	甕	口：(15.2)	口縁部外面
6	5767	B3	包含層	第3遺構面	須恵器	壺	口：(21.0)　胴：(16.2)	口縁部外面
7	5799	B3	包含層	第3包含層	土師器	椀	底：(8.6)	内面
8	2969	B1	包含層	第4包含層	土製品	土偶		胴部

分析の結果、アルミニウム（Al）、ケイ素（Si）、リン（P）、硫黄（S）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）、鉄（Fe）等が検出された。

生物顕微鏡観察により得られた画像を図版2に示す。分析No.8からは、赤色パイプ状の粒子が観察された。

4. 考察

赤色顔料の代表的なものとしては、朱（水銀朱）とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀（HgS）で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄（Fe_2O_3、鉱物名は赤鉄鉱）を指すが、広義には鉄（Ⅲ）の発色に伴う赤色顔料全般を指し（成瀬，2004）、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約１μｍのパイプ状の粒子形状からなるものも多く

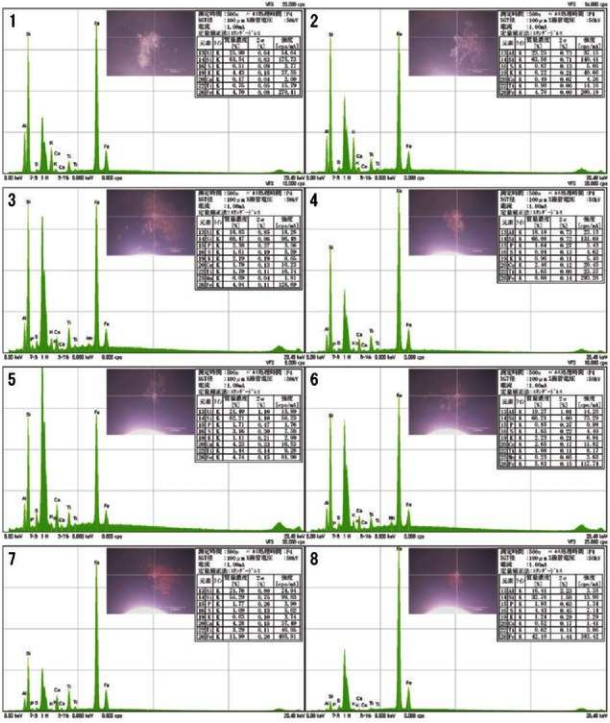


図１　赤色顔料の蛍光Ｘ線分析結果（左上数字は分析 No.）

報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており（岡田，1997）、鉄バクテリア起源の含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す（成瀬，1998）。鉄バクテリア起源のパイプ状粒子は、湿地などで採集できる。

今回分析した試料からは、いずれもケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。一方で鉄が検出されているため、赤い発色は鉄によるものと推定できる。すなわち、顔料とするとベンガラにあたる。

ただし、須恵器（分析 No.1、2、5、6）については、赤色物が非常に硬く、胎土に固着しており、土器焼成の際に赤く発色した胎土の一部である可能性も否定できない。鉄の含有量はそれほど多くなく、鉄化合物以外の不純物を多く含んでいる。色調は暗く、赤みはそれほど強くない。

土師器（分析 No.3、4、7）も、鉄の含有量はそれほど多くなく、鉄化合物以外の不純物を多く含んでいる。色調は褐色がかっており、赤みはそれほど強くない

分析 No.8 の土偶からは、パイプ状粒子が観察され、いわゆるパイプ状ベンガラであった（図版 2-8）。他の 7 点と異なり、鉄の含有量が多く、濃い赤色である。

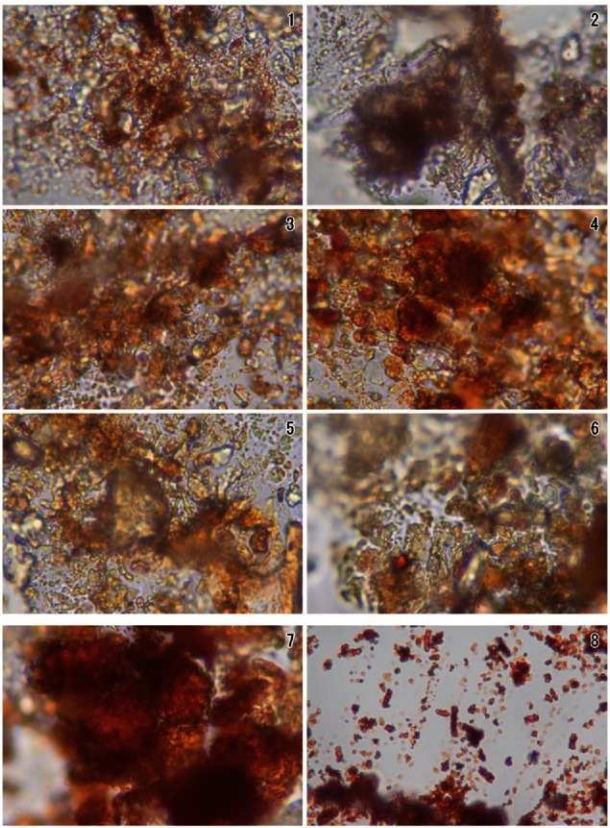
5. おわりに

土器および土偶に付着する赤色顔料を分析した結果、8 点いずれも鉄（Ⅲ）による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。土偶からは、パイプ状ベンガラが検出された。

引用文献

成瀬正和（1998）縄文時代の赤色顔料Ⅰ―赤彩土器―．考古学ジャーナル，438，10-14，ニューサイエンス社．
成瀬正和（2004）正倉院宝物に用いられた無機顔料．正倉院紀要，26，13-61．宮内庁正倉院事務所．
岡田文男（1997）パイプ状ベンガラ粒子の復元．日本文化財科学会第 14 回大会研究発表要旨集，38-39．

図版１　分析対象資料写真（右上数字は分析 No.、○は試料採取位置）



図版 2　赤色顔料の生物顕微鏡写真（右上数字は分析 No.、スケール :10 μ m）

2．新居見遺跡出土ガラス小玉の蛍光 X 線分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1．はじめに

小松島市新居見町山路に所在する新居見遺跡より出土したガラス小玉について、蛍光 X 線分析を行い、材質を検討した。

2．試料と方法

分析対象は、14 点のガラス小玉である（表 1）。主に小竪穴石室墓からの出土で、時期は古墳時代後期とみられている。

分析装置はエスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1000 μ A のロジウム（Rh）ターゲット、X 線照射径が 8mm または 1mm、X 線検出器は SDD 検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することで S/N 比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）であるが、ナトリウム、マグネシウム（Mg）、アルミニウム（Al）といった軽元素は、蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

表 1　分析対象一覧

分析 No.	色調	実測番号	調査区	遺構	法量（g,mm）		
					重量	直径	高さ
1	黄緑	3815	B3	ST2001	0.01	2.74	1.24
2	青緑	3821	B3	ST2001	0.04	3.30	2.29
3	青緑	3812	B3	ST2002	0.05	3.94	2.62
4	青緑	3825	B3	ST2001	0.03	3.94	1.78
5	青緑	3827	B3	ST2001	0.05	3.42	3.01
6	黄緑	3826	B3	ST2001	0.01	3.19	1.34
7	青緑	6145	B3	ST2001	0.03	3.38	1.93
8	青緑	3830	B3	ST2001	0.04	3.48	2.29
9	青緑	3810	B3	ST2002	0.01	2.73	1.75
10	青緑	2788	B1 東	北寄城	0.23	5.69	4.74
11	黄緑	6150	B3	ST2001	0.02	2.87	1.86
12	青緑	5700	B3	ST2001	0.05	3.52	2.84
13	黄緑	5697	B3	ST2001	0.03	2.35	3.05
14	黄緑	3209	B2	SD1001・02	0.06	3.95	2.65

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが 15kV（一次フィルタ無し）・50kV（一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用）の計 3 条件で、測定時間は各条件 500 ～ 1500s、管電流自動設定、照射径 1mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を行った。得られる半定量値は、同装置での測定結果を相対的に比較するための値である。

試料は、実体顕微鏡下での観察後、非破壊で測定した。実体顕微鏡観察は、エタノール浸漬し透過光下で行った。なお、ガラス製遺物は、透明で風化がないように見える箇所でも表面の風化が進んでおり、ナトリウム（Na_2O）、カリウム（K_2O）の減少など化学組成に変化が生じている（肥塚，1997）。人為的に露出させた完全な新鮮面でない場合は、解釈の際に風化の影響を考慮する必要がある。

3．分析結果

実体顕微鏡観察では、いずれもガラス中に気泡が多くみられ、このうち、分析 No.2、6、12、14 以外の 10 点は、孔に対して平行に伸びた気泡や気泡列、筋状の模様が観察された（図版 1）。分析 No.2 は、表面状態がいびつであった。

蛍光 X 線分析により得られた半定量値を表 2 に示す。なお、表では考察で述べる化学組成上の分類に従って試料の順番を並べ替えてある。分析の結果、いずれもアルカリ金属とケイ素（SiO_2）を主成分と

表 2　半定量分析結果（mass%）

分析No.	色調	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	SO3	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	CoO	CuO	ZnO	Br	Rb2O	SrO	ZrO2	SnO2	BaO	PbO
3	青紺	—	0.27	6.02	79.29	0.64	0.82	1.53	6.26	0.25	0.55	3.27	0.12	0.13	—	—	—	0.09	0.10	0.01	0.40	0.23
2	青緑	6.36	—	9.47	70.44	0.57	0.08	3.02	2.57	0.70	0.30	2.60	—	2.35	0.01	0.01	0.01	0.11	0.19	0.07	0.53	0.71
4	青緑	11.70	—	6.58	68.38	0.42	0.62	2.78	4.11	0.68	0.29	2.61	—	0.91	0.01	—	0.01	0.08	0.14	0.02	0.51	0.14
5	青緑	10.46	—	7.80	70.14	0.33	0.38	2.49	3.29	0.76	0.11	2.45	—	0.89	—	—	0.01	0.06	0.19	0.01	0.56	0.07
7	青緑	—	0.70	7.43	77.10	0.88	0.99	2.63	4.19	0.80	0.20	2.62	—	1.34	0.02	—	0.01	0.07	0.16	0.01	0.56	0.30
8	青緑	1.63	0.56	7.54	73.39	0.48	1.29	3.23	3.92	0.80	0.48	3.38	—	1.77	0.04	—	0.01	0.09	0.15	0.05	0.64	0.56
9	青緑	7.33	0.54	8.25	67.27	0.62	0.34	2.65	4.10	0.51	0.12	4.13	—	2.86	0.05	0.01	0.01	0.12	0.15	0.04	0.36	0.55
10	青緑	10.99	0.51	8.26	65.02	0.60	0.83	2.27	5.90	0.29	0.09	2.18	—	1.42	0.01	0.01	0.01	0.07	0.17	0.02	1.14	0.24
12	青緑	—	0.51	9.62	74.15	0.45	0.60	2.90	3.67	0.76	0.12	4.20	—	1.66	0.49	0.01	0.01	0.14	0.16	0.01	0.47	0.06
1	黄緑	9.03	0.27	10.32	66.40	0.38	0.33	2.24	1.70	1.28	0.08	2.64	—	1.03	0.01	—	0.01	0.04	0.14	0.28	0.77	3.11
6	黄緑	7.87	—	12.99	62.69	0.64	0.94	2.24	3.42	0.74	0.13	2.65	—	0.86	0.02	0.01	0.01	0.10	0.18	0.41	0.50	3.60
11	黄緑	10.11	0.42	12.16	58.44	0.32	1.12	2.00	3.87	0.63	0.11	2.91	—	1.26	0.01	0.01	0.01	0.07	0.14	0.42	1.08	4.93
13	黄緑	7.36	0.47	11.56	60.86	0.62	1.56	2.02	4.22	0.71	0.07	2.44	—	1.07	0.01	0.01	—	0.08	0.16	0.78	0.44	5.55
14	黄緑	11.10	—	12.45	62.01	0.69	0.52	1.86	4.79	0.66	0.12	3.03	—	0.65	0.01	—	—	0.10	0.12	0.23	0.40	1.28

するアルカリ珪酸塩ガラスに属するガラスと確認された。

検出できた元素は試料によって異なるが、ナトリウム（Na_2O）、マグネシウム（MgO）、アルミニウム（Al_2O_3）、ケイ素（SiO_2）、リン（P_2O_5）、硫黄（SO_3）、カリウム（K_2O）、カルシウム（CaO）、チタン（TiO_2）、マンガン（MnO）、鉄（Fe_2O_3）、コバルト（CoO）、銅（CuO）、亜鉛（ZnO）、臭素（Br）、ルビジウム（Rb_2O）、ストロンチウム（SrO）、ジルコニウム（ZrO_2）、スズ（SnO_2）、バリウム（BaO）、鉛（PbO）の合計 21 元素である。

4. 考察

実体顕微鏡観察の結果、気泡の特徴から分析 No.1、3 ～ 5、7 ～ 11、13 の 10 点は、ガラスを管状に引き伸ばした後、管を切って製作する引き伸ばし法（管切り法）により製作されたと考えられる。分析 No.2 は、表面状態がいびつであり、ガラス細片を鋳型に入れて融着させ、製作されたと考えられる。残りの分析 No.6、12、14 の 3 点は、規則的な気泡列等の特徴は確認できなかった。

古代のガラスについては、肥塚・田村・大賀（2010 など）や、中井・阿部ら（白瀧ほか，2012 など）により、詳細に分類されている。今回分析した 14 点について、化学組成に基づき、以下のとおり分類した。

・青紺色ガラス小玉（Na_2O-Al_2O_3-CaO-SiO_2 系）（分析 No.3）

分析 No.3 は、アルミニウム（Al_2O_3）の量が多く、カルシウム（CaO）をある程度含有し、ルビジウム（Rb_2O）が少なくてストロンチウム（SrO）とジルコニウム（ZrO_2）が比較的多いなどの特徴により、基礎ガラスはアルミナソーダ石灰ガラス（Na_2O-Al_2O_3-CaO-SiO_2 系）に属すると考えられる。なお、主成分のひとつであるナトリウム（Na_2O）は、試料によっては含有量が少なかったり、検出されていなかったりするが、風化の影響を受けやすい元素である点や、蛍光 X 線での感度の悪い元素である点を考慮して、上述の他の元素の組成よりアルミナソーダ石灰ガラスと判断した。ナトリウムの含有量については、後述の他色のアルミナソーダ石灰ガラスでも同様な判断を行っている。発色には、コバルトイオンが主に影響していると推定される。

・青緑色ガラス小玉（Na_2O-Al_2O_3-CaO-SiO_2 系）（分析 No.2、4、5、7 ～ 10、12）

分析 No. 2、4、5、7 ～ 10、12 の 8 点は、ナトリウム（Na_2O）とアルミニウム（Al_2O_3）の量が多く、カルシウム（CaO）をある程度含有し、ルビジウム（Rb_2O）が少なくてストロンチウム（SrO）とジ

ルコニウム（ZrO_2）が比較的多いなどの特徴により、基礎ガラスはアルミナソーダ石灰ガラス（Na_2O-Al_2O_3-CaO-SiO_2 系）に属すると考えられる。色は、主に銅イオンと鉄イオンによる着色と考えられる。

・黄緑色ガラス小玉（分析 No.1、6、11、13、14）

分析 No.1、6、11、13、14 の 5 点も、上述の青緑色ガラス小玉と同様にナトリウム（Na_2O）とアルミニウム（Al_2O_3）の量が多く、カルシウム（CaO）をある程度含有し、ルビジウム（Rb_2O）が少なくてストロンチウム（SrO）とジルコニウム（ZrO_2）が比較的多いなどの特徴により、基礎ガラスはアルミナソーダ石灰ガラス（Na_2O-Al_2O_3-CaO-SiO_2 系）に属すると考えられる。

黄緑色のガラス小玉の色調は、先述の青緑色のガラス小玉と併せて、銅、スズ、鉛の多寡により説明される（肥塚・田村・大賀，2010：白瀧ほか，2010；2012）。すなわち、青緑色のガラス小玉は銅イオンの影響で着色され、黄緑色のガラス小玉は銅イオンに加えて鉛スズ化合物の黄色顔料の添加により黄緑色となり、銅が少ないと黄色のガラスとなる。今回分析した黄緑色ガラス小玉は、いずれも実体顕微鏡観察において黄色顔料の存在が確認された。

5．おわりに

新居見遺跡より出土したガラス小玉、計 14 点の蛍光 X 線分析を行った結果、いずれもアルカリ珪酸塩ガラスと確認された。化学組成の特徴から、いずれもアルミナソーダ石灰ガラスに属する可能性が高い。

引用・参考文献

加藤慎啓・沢田貴史・保倉明子・中井　泉・真道洋子（2005）ポータブル蛍光 X 線分析装置によるエジプト・ラーヤ遺跡出土ガラスの考古化学的研究．日本文化財科学会第 22 回大会研究発表要旨集，250-251．

肥塚隆保（1997）日本で出土した古代ガラスの歴史的変遷に関する科学的研究，132p，東京藝術大学博士学位論文．

肥塚隆保（2003）日本出土ガラスから探る古代の交易―古代ガラス材質の歴史的変遷―．沢田正昭編「遺物の保存と調査」:145-158，クバプロ．

肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦（2010）古代ガラスと考古科学 材質とその歴史的変遷．月刊文化財，566，13-25．

松崎真弓・白瀧絢子・池田朋生・中井　泉（2012）非破壊オンサイト分析による日本出土の古代ガラスの流通に関する考古化学的研究．日本文化財科学会第 29 回大会研究発表要旨集，374-375．

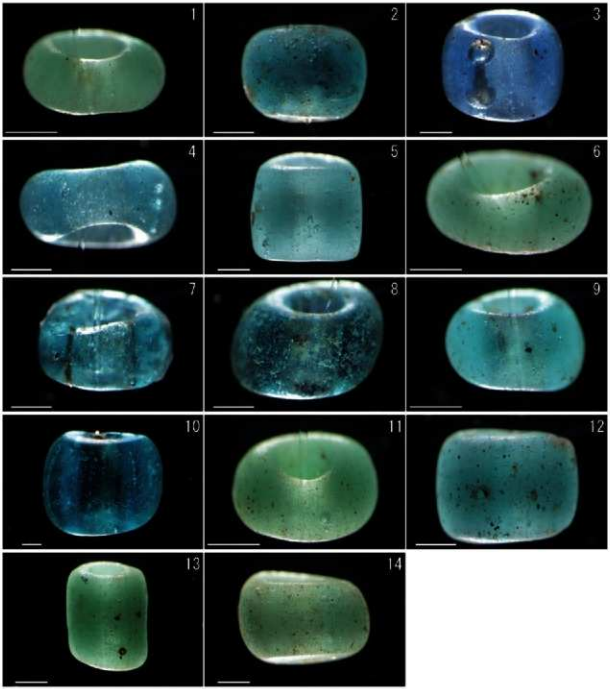
中井　泉編（2005）蛍光 X 線分析の実際，242p，朝倉書店．

作花済夫・境野照雄・高橋克明編（1975）ガラスハンドブック，1072p，朝倉書店．

白瀧絢子・阿部善也・タンタラカーン・クリアンカモル・中井　泉・池田朋生・坂口圭太郎・後藤克博（2010）熊本県の古墳から出土したガラスビーズの考古化学的研究．日本文化財科学会第 27 回大会研究発表要旨集，254-255．

白瀧絢子・阿部善也・K. タンタラカーン・中井　泉・池田朋生・坂口圭太郎・後藤克博・荒木隆宏（2012）熊本県出土の古代ガラスの考古化学的研究．考古学と自然科学，63，29-52．

山根正之（1989）はじめてガラスを作る人のために，195p，内田老鶴圃．



図版１　ガラス小玉の実体顕微鏡写真（透過光、右上数字は分析 No.、スケールは 1mm）

3．レプリカ法による貝殻圧痕の同定

三谷智広・米田恭子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

徳島県小松島市の新居見遺跡から出土した須恵器に確認された貝殻圧痕を、レプリカ法により同定した。

2．試料と方法

試料は、須恵器の坏蓋にみられる貝殻圧痕（図版 1）のレプリカ 1 点である。

須恵器に観察された貝殻圧痕は、圧痕部に離型剤を塗布し、印象材（シリコーン）を注入する方法でレプリカを作製し、実体顕微鏡下で観察した。次に、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製　超深度マルチアングルレンズ VHX-D500/D510）で写真撮影を行った。

3．結果と考察

以下に、須恵器に観察された貝殻圧痕と作成されたレプリカの観察所見を述べる。

貝殻圧痕は、須恵器坏蓋の天井部外面に確認された。確認された圧痕の大きさは、殻長方向に 3.4mm、殻高方向に 4.0mm であるが、殻頂および腹縁部の輪郭が観察できないため、実際の殻の大きさは圧痕よりも大きいと考えられる。

圧痕を観察すると、7 条の放射肋が認められる。放射肋はいずれも同じ太さで、放射肋間に間肋は認められない。肋間の幅は、放射肋と同じかやや幅が広い。放射肋上には果粒、あるいは鱗片状突起が確認できるが、レプリカの観察からとげたつような特徴は見られないため、果粒と考えられる。走査型電子顕微鏡では、放射肋上に 10 個前後の果粒が等間隔に並ぶ様子が確認できる（図版 2）。

現生の二枚貝において、放射肋上に果粒あるいは鱗片状突起が形成される主な二枚貝を表 1 に記した。これらの中で、同じ太さの放射肋上に果粒が並ぶ貝は、ウグイスガイ目フネガイ科ハイガイ（Tegillarca granosa）である。その他の貝は、放射肋上にとげたつような鱗片状突起をもち、また放射肋の太さも不規則であるなど、レプリカの特徴とは一致しないため、その可能性は低いと考えられる。ただし、ハイガイは成長すると 6 ～ 7 ㎝ほどに成長する貝であり、大きさの特徴では試料と一致しない。試料が幼貝であるとするなら幼貝時の殻の特徴を知る必要があり、さらなる比較検討が必要である。

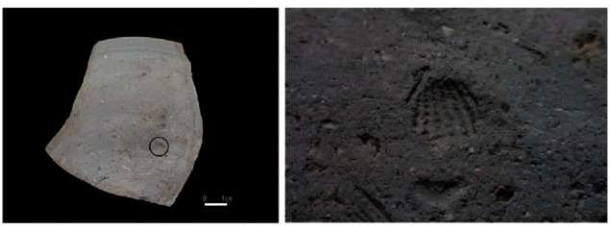
なお、この貝殻圧痕がもつ意味合いについては不明である。施文や器面調整が目的とは考えづらいため、偶発的に付いたとも考えられる。今後、他の出土事例も含めて、考えていく必要があろう。

参考文献

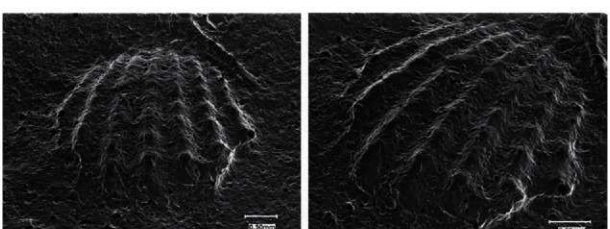
奥谷喬司編（2000）日本近海産貝類図鑑，1382p，東海大学出版会．
奥谷喬司（2006）日本の貝 2 － 二枚貝・腹貝・イカ・タコほか，204p，学習研究社．

表１　放射肋上に果粒および鱗片状突起をもつ主な二枚貝

目	科	種	特徴	生息域	水深
ウグイスガイ目	フネガイ科	ハイガイ	20 本内外の放射肋、放射肋上に果粒状突起、肋間は肋より幅広い	伊勢湾以南、東南アジアなど	潮間帯～水深 10 m の泥底
ウグイスガイ目	イヌヤガイ科	ヒクミロク	18 ～ 23 本の放射肋、放射肋上が細かくとげだら	相模湾以南の西太西洋および ハワイ	水深 100 ～ 300m の砂底
ウグイスガイ目	イヌヤガイ科	アズマニシキ	放射肋のたさは不規則、放射肋上に鱗片状突起	東北地方～九州、朝鮮半島、台湾沖	50 m 以浅の岩礁底
ウグイスガイ目	イヌヤガイ科	ニシキガイ	5 本の強い放射肋と数本の間肋、放射肋上に不規則な鱗片状突起	紅海半島以南のインド・西太平洋	水深 5 ～ 40 m の岩礁底
ウグイスガイ目	ミノガイ科	ミノガイ	20 本の強い放射肋、放射肋上に鱗片状突起、肋間は肋より狭い	紅海半島以南の熱帯インド・西太平洋	水深 20 m以浅の岩礁底
ハマグリ目	トマヤガイ科	トマヤガイ	18 本内外の強い放射肋、とげかつ鱗片状突起	北海道南部～朝鮮半島南岸、台湾	潮間帯中下部、砂礫底
ハマグリ目	トマヤガイ科	ヒラセフミガイ	30 本内外の細い放射肋、放射肋上に鱗状突起	紀伊半島以南、インドネシア	水深 100 ～ 200 m の砂礫底
ハマグリ目	マルスダレガイ科	アラスジケマンガイ	放射肋は強く、成長盛で切られ果粒状をなす	奄美諸島～インド洋	潮間帯中部～水深 20 m の砂礫底



図版１　新居見遺跡出土須恵器にみられた貝殻圧痕写真（左：破片全体右：圧痕部分の拡大）



図版２　新居見遺跡出土須恵器の圧痕レプリカの走査型電子顕微鏡写真

4. 新居見遺跡の土師器・埴輪の胎土分析

藤根　久・米田恭子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の鉱物組成から、その砂粒物が示す地域がいずれであるかを推定するのは容易ではない。

土器などの焼物は、基本材料として粘土と砂粒などの混和物で構成されるが、粘土材料は比較的良質と思える粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される（藤根・今村，2001）。また、粘土自体に珪藻化石や放散虫化石が混在している場合があり、使用した粘土の堆積環境を推定できる。

縄文土器や弥生土器、土師器など焼物材料として利用できる粘土材料は、固結していない地層、すなわち、およそ第三紀中新統以降の地層堆積物、第四紀鮮新統～更新統の段丘堆積物中の粘土質堆積物、そして断層粘土に限定できると考えられる（藤根，1998；藤根・小坂，1997）。

土器胎土中の砂粒物は、これらの粘土質堆積物に付随する砂粒の可能性が高い。ただし、祭祀用とされる土器では、意図的に混和している場合も考えられる。例えば、東海地域の弥生時代後期の赤彩されたパレススタイル土器では、パレススタイル土器のうち３分の１程度に砂粒物として火山ガラスが多量に含まれていることが分かってきた（藤根，1998）。これらの火山ガラスは、粘土採取場所の上下層や周辺に分布するテフラ層由来と考えられる。このように胎土分析においては、粘土や混和材について、岩石・鉱物のほか微化石類やテフラなどの記載が重要であり、粘土や砂粒物、混和物の特徴について調べたうえで、周辺地質と比較・検討する必要がある。

ここでは、新居見遺跡から出土した土師器および埴輪について、薄片の偏光顕微鏡観察を行い、粘土の種類と砂粒組成等の特徴を調べ、土器の胎土材料について検討した。なお、同遺跡出土の６世紀後葉の須恵器については蛍光Ｘ線分析を行っている（須恵器の蛍光Ｘ線分析を参照）。

2. 試料と方法

分析試料は、新居見遺跡から出土した 10 世紀代の土師器 33 点、6 世紀前葉の埴輪３点、の合計 36 点である（表 1）。

土器片は、岩石カッターを用いて整形し、全体にエポキシ系樹脂を含浸させて固化処理を行った。土器試料は、精密岩石薄片作製機および研磨フィルムを用いて研磨し、厚さ 0.02mm 前後の土器薄片を作製した。最後に、仕上げとしてコーティング剤を塗布した。

薄片試料は、偏光顕微鏡を用いて薄片全面に含まれる微化石類（放散虫化石、珪藻化石、骨針化石など）、鉱物、大型砂粒の特徴、その他の混和物等について、観察と記載を行った。微化石類は、全体を 300 倍で観察した後、1500 倍（油浸）で最低２列を観察した。

なお、ここで採用した微化石類や岩石、鉱物の各分類群の特徴は、以下の通りである。

[放散虫化石]

放散虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊性珪藻化石とともに外洋性堆積物中に含まれる。

表１　分析試料の詳細

分析No.	実測番号	種別	器種	出土遺構	胎土／粒径（mm）	胎土密度／焼成	胎土組成	色調	備考	分析項目
1	3038	土師器	高台付椀	SD3001	0.1～4.5	精／不良	石・長・チ・雲・赤	外：浅黄橙（7.5ＹＲ8/4） 内：橙（7.5ＹＲ7/6）	搬入品？	胎土／他地域搬入＋吉野川流域入？一群
2	3061	土師器	杯	SD3001	0.1～3.5	良／良	石・長・チ・雲・赤	外：にぶい橙（7.5ＹＲ7/4） 内：にぶい橙（7.5ＹＲ6/4）	搬入品？	（産地不明）胎土／他地域搬入／吉野川搬入？一群
3	3150	土師器	杯	SD3001	0.1～6.5	精／良	石・長・チ・金雲・赤	外：明赤褐（5ＹＲ5/6） 内：赤褐（5ＹＲ4/6）	搬入品？	胎土／他地域搬入＋吉野川搬入？一群
4	3071	土師器	椀	SD3001	～8.0	精／やや不	細・石・長・チ・雲	外：明赤褐（5YR5/6） 内：黒褐（10YR3/1）	吉野川流域からの搬入品	胎土／他地域搬入＋吉野川搬入？一群
5	4591	土師器	壺	SD5005	0.1～7.0	良／やや不	細・石・長・雲・赤	外：浅黄橙（7.5YR8/6） 内：橙（7.5YR7/6）	搬入品？	胎土／他地域搬入＋吉野川搬入？一群
6	4485	土師器	鉢	SP3014	0.1～2.0	良／良	石・雲・角・赤	外：にぶい橙（7.5ＹＲ6/4） 内：橙（7.5YR6/6）	搬入品？	胎土／他地域搬入＋吉野川搬入？一群
7	4510	土師器	鉢	SK3002	0.1～3.0	精／やや不	細・石・長・赤	外：にぶい橙（5YR6/4） 内：にぶい褐（7.5YR5/4）	墨痕顕微鏡からの搬入品？　備状外観観察：あり	胎土／他地域搬入＋吉野川搬入？一群
8	2540	土師器	台付椀	包含層	0.5～0.9	精／やや不	細・石・角・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
9	2695	土師器	杯	SR3001	0.1～8.0	良／やや不	細・石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
10	2705	土師器	椀	SR3001	0.1～8.0	精／良	石・にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	在地？	胎土／勝浦川流域？一群
11	2993	土師器	椀	SD3001	0.1～4.5	良／良	細・石・長・チ・雲・赤	外：橙（2.5YR7/6） 内：橙（2.5YR7/6）	在地？要胎土分析	胎土／勝浦川流域？一群
12	3002	土師器	鍋?	SD3001	0.2～12.0	やや精／やや良	石・長・チ・雲	外：橙（5YR7/6） 内：橙（5YR6/6）	口縁端部内部ススイ付着・在地？要胎土	胎土／勝浦川流域？一群
13	3008	土師器	杯	SD3001	0.1～4.5	粗／やや不	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	在地？要胎土分析	胎土／勝浦川流域？一群
14	3016	土師器	椀	SD3001	0.1～4.0	良／やや不	細・石・長・雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：にぶい褐（7.5YR5/3）	鹿渡の為、内面ヘラミガキ不明　在地産	胎土／勝浦川流域？一群
15	3036	土師器	杯	SD3001	0.1～16	粗／不良	細・石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/8） 内：褐灰（N3/0）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
16	3034	土師器	高台付皿	SD3001	0.1～8.0	良／不良	石・長・チ・雲・赤	外：橙（7.5YR6/8） 内：橙（7.5YR6/8）	在地、口縁欠損部に火ダスキ状の被熱痕受痕？あり→灯明皿？	胎土／勝浦川流域？一群
17	3037	土師器	鉢	SD3001	0.5～4.0	粗／やや不	細・石・長・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（7.5YR7/6）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
18	3042	土師器	杯	SD3001	～5.0	粗／不良	細・石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	在地？	胎土／勝浦川流域？一群
19	3070	土師器	高台付椀	SD3001	0.1～6.5	良／良	石・長・チ・雲	外：橙（5YR6/8） 内：黄（N1.5/0）	在地？要胎土分析	胎土／勝浦川流域？一群
20	3074	土師器	杯	SD3001	0.1～5.5	良／良	細・石・長・チ・雲・赤	外：橙（2.5YR6/6） 内：黒（7.5Y2/1）	在地？	胎土／勝浦川流域？一群
21	3184	土師器	杯	SD3001	0.2～3.5	粗／やや不	石・長・チ・金雲・赤	外：橙（7.5YR7/6） 内：橙（5YR6/6）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
22	3186	土師器	椀	SD3001	0.2～3.2	粗／不良	石・長・チ・金雲	外：明赤褐（5YR5/6） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
23	3188	土師器	転用品	SD3001	0.2～3.5	粗／やや不	石・長・チ・金雲・赤	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/8）	在地　杯　体部の打ち欠き→皿への転用？	胎土／勝浦川流域？一群
24	3202	土師器	高台付椀	SD3001	0.1～6.0	良／不良	細・石・長・赤	外：橙（5YR6/8） 内：黒褐（7.5YR3/1）	在地？	胎土／勝浦川流域？一群
25	3203	土師器	杯	SD3001	0.1～4.0	良／不良	石・長・チ・赤	外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR6/8）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
26	3223	土師器	杯	SD3001	0.2～4.5	良／不良	石・長・チ・金雲・角	外：橙（5YR7/6） 内：にぶい橙（7.5YR/4）	在地？　口縁端部：黒斑 or スス付着	胎土／勝浦川流域？一群
27	3248	土師器	高台付椀	SD3001	0.1～6.0	良／良	石・チ・雲・赤・泥	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい褐（7.5YR5/4）	在地？	胎土／勝浦川流域？一群
28	4340	土師器	高台付杯	SR4002	0.1～4.0	やや精／やや不	細・石・長・雲・赤	外：明赤褐（10YR6/8） 内：橙（7.5YR6/6）	在地・内面：黒斑（ススス）あり　転用品の可能性あり	胎土／勝浦川流域？一群
29	4483	土師器	高杯	SP3015	0.1～4.0	粗／良	細・石・長・チ・雲	外：橙（5YR6/6） 内：明赤褐（5YR5/6）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
30	4503	土師器	高台付椀	SD3005	0.5～4.0	良／やや不	細・石・長・雲・赤	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：橙（2.5YR6/6）	転用品の可能性あり　在地　胎土にザラつき感強い　要胎土分析	胎土／勝浦川流域？一群
31	4859	土師器	杯	SM4001	0.1～5.0	良／不良	細・石・長・雲・赤	外：橙（2.5YR7/6） 内：橙（2.5YR7/6）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
32	4866	土師器	杯	SD3001	0.1～3.0	精／やや不	石・雲・赤	外：にぶい橙（5YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
33	5967	土師器	杯	SK4002	0.2～6.0	粗／やや不	細・石・長・チ・赤	外：浅黄橙（7.5YR8/6） 内：橙（5YR6/8）	在地	胎土／勝浦川流域？一群
34	3258	埴輪	円筒埴輪	SD3001	0.1～6.0	良／良	細・石・長・チ・赤	外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：黒（10YR2/1）	内面：還元痕跡或？	産地不明
35	5075	埴輪	円筒埴輪	SD3001	0.1～4.0	良／やや不	石・長・チ・角・赤・泥	外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）	側鉄チデ？	産地不明
36	4697	埴輪	円筒	SM4001	0.1～6.0	粗／不良	細・石・長・チ・雲	外：明赤褐（5YR5/8） 内：明赤褐（5YR5/8）	鹿渡の為、調整不要　要胎土分析	産地不明

［珪藻化石］

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは 10 ～数百 μ m 程度である。珪藻は、海水域から淡水域に広く分布する。小杉（1988）や安藤（1990）は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石（海水種、淡水種）を分類した。

［骨針化石］

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状である。海綿動物の多くは

海水産であるが、淡水産も23種ほどが知られ、湖や池、川の底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

[植物珪酸体化石]

主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10～50μm前後である。一般にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在する。

[胞子化石]

胞子は、直径約10～30μm程度の珪酸質の球状粒子である。胞子は、水成堆積物中に多く見られるが、土壌中にも含まれる。

[石英・長石類]

石英および長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶などのように、光学的な特徴をもたないものは石英と区別するのが困難な場合が多く、一括して扱う。

[長石類]

長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）によく見られる。パーサイト構造を示すカリ長石は、花崗岩などケイ酸分の多い深成岩などに産出する。

[雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状に剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩などケイ酸分の多い火成岩に普遍的に産し、変成岩類や堆積岩類にも産出する。

[輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼ではビール瓶のような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩類に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼では緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類や、ケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

[角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類、火山岩類に産出する。

[ガラス質]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く湾曲したガラス（バブル・ウォール型：記載ではバブル型と略す）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山噴火により噴出した噴出物（テフラ）である。

[緑れん石]

緑色～淡緑色のサイコロ状鉱物で、屈折率が高く、異常干渉色を示す。緑色片岩に特徴的に含まれる。

［ザクロ石］

無色透明の屈折率の高いサイコロ状鉱物である。変成岩中にごく普通に産出し、火山岩中にも含まれる。

［片理複合石英類］

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。雲母片岩や結晶片岩、片麻岩や粘板岩あるいは千枚岩と考えられる。

［複合石英類］

複合石英類は、石英が集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は、粗粒から細粒までさまざまである。ここでは便宜的に、粒径が 0.01mm 未満の粒子を微細、0.01 ～ 0.05mm の粒子を小型、0.05 ～ 0.10mm の粒子を中型、0.10mm 以上の粒子を大型と分類した。微細結晶の集合体である場合には、堆積岩類のチャートなどに見られる特徴がある。

［砂岩質・泥岩質］

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約 0.06mm 以上のものを砂岩質、約 0.06mm 未満のものを泥岩質とした。

［斑晶質・完晶質］

斜長石や輝石・角閃石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。直交ニコルの観察において結晶度が高い岩石片である。

［流紋岩質］

石英や長石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり主に流理構造を示す岩石である。

［凝灰岩質］

ガラス質で斑晶質あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、直交ニコルの観察において結晶度が低く、全体的に暗い岩石片である。

［不明粒子］

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

3. 結果および考察

偏光顕微鏡による各土器薄片の観察結果を述べる。粒子組成は、微化石類や岩石片、鉱物を記載するために、プレパラート全面を精査した。以下では、粒度組成や、0.1mm 前後以上の岩石片・鉱物の砂粒組成、微化石類などの記載を示す。なお、表 2 における不等号は、量比の概略を示す。また、表 3 の記号については、●は極めて多い、◎は非常に多い、○は多い、△は検出、ーは不検出を示す。

3.1. 微化石類による粘土材料の分類

土器薄片の全面を観察した結果、微化石類(放散虫化石、骨針化石)が検出された。微化石類の大きさは、放散虫化石が数 100 μ m、珪藻化石が 10 ～数 100 μ m、骨針化石が 10 ～ 100 μ m 前後である（植物珪酸体化石は 10 ～ 50 μ m 前後)。一方、砕屑性堆積物の粒度は、粘土が約 3.9 μ m 以下、シルトが約 3.9 ～ 62.5 μ m、砂が 62.5 μ m ～ 2mm である（地学団体研究会・地学事典編集委員会編，1981)。主な堆積物の粒度分布と微化石類の大きさの関係から、微化石類は粘土中に含まれると考えられる。植物

表 2　試料の粘土中の微化石類と砂粒組成の特徴記載

分析No.	種別	器種	粒度	最大粒径	微化石類の特徴	砂粒岩石・鉱物組成
1	土師器	高台付椀	50 μm ～ 100 μm	0.35mm	珪藻化石（南本属 *Coscinodiscus* 属/*Thalassiosira* 属、淡水属 *Pinnularia* 属、*Cymbella* 属？；不明種：5）、骨針化石（4）、植物珪藻体化石多い。	石英・長石類、緑れんが（内閣石類、斜方輝石）、単斜輝石、ガラス質（バブル型）、雲母類、ジルコン、斜長石（双晶）、複合石英類（小型）
2	土師器	杯	120 μm ～ 250 μm	3.57mm	珪藻化石（淡水属 *Diploneis* 属：1）、植物珪藻体化石	緑れんが（内閣石類、石英・長石類）、片状複合石英類、ガラス質（バブル型）、斜長石（双晶・累帯）、複合石英類（中型）、凝灰岩質、雲母類、単斜輝石
3	土師器	杯	130 μm ～ 440 μm	2.85mm	珪藻化石（淡水属 *Pinnularia* 属、不明種：4）、植物珪藻体化石	角閃石類、片状複合石英類、ガラス質（バブル型）、石英・長石類、雲母類、斜方輝石、複合石英類（大型）、複合石英類（微細）、凝灰岩質、複合角閃石類、緑れんが
4	土師器	椀	230 μm ～ 750 μm	3.08mm	珪藻化石（淡水属 *Diploneis* 属、不明種：3）、骨針化石（1）、植物珪藻体化石	片状複合石英類）ガラス質（バブル型）角閃石類、石英・長石類、雲母類、斜方輝石、単斜輝石、複合石英類（大型）、複合石英類（微細）、凝灰岩質、緑れんが
5	土師器	壺	150 μm ～ 450 μm	0.84mm	珪藻化石（不明種：2）、植物珪藻体化石、殻子化石	緑れんが、ガラス質（バブル型）石英・長石類、角閃石類、片状複合石英類、複合石英類（大型）、斜方輝石、凝灰岩質、複合石英類（微細）、雲母類
6	土師器	皿	80 μm ～ 220 μm	2.91mm	植物珪藻体化石	緑れんが）石英・長石類、複合石英類（大型）、角閃石類）片状複合石英類、ガラス質（バブル型）、複合石英類（中型）、雲母類、斜長石（双晶）
7	土師器	鉢	130 μm ～ 460 μm	3.80mm	殻子化石、植物珪藻体化石	緑れんが）ガラス質（バブル型）片状結晶、片状複合石英類、複合石英類（大型）、複合石英類（中型）、角閃石類、雲母類、ザクロ石
8	土師器	石付椀	90 μm ～ 260 μm	3.40mm	植物珪藻体化石	石英・長石類）複合石英類（中型）角閃石類）片状複合石英類、斜長石（双晶・累帯）、ガラス質（バブル型）、複合石英類（大型）、雲母類、砂岩質、凝灰岩質、緑れんが
9	土師器	杯	80 μm ～ 130 μm	2.15mm	骨針化石（1）、植物珪藻体化石	緑れんが、石英・長石類）角閃石類）片状複合石英類、ガラス質（バブル型）、複合石英類（大型）、斜方輝石、斜長石（双晶）、雲母類、凝灰岩質、複合石英類（中型）
10	土師器	椀	70 μm ～ 150 μm	1.53mm	植物珪藻体化石	緑れんが、石英・長石類）複合石英類（大型）ガラス質（バブル型）、角閃石類、片状複合石英類、斜長石（双晶）、複合石英類（中型）、凝灰岩質
11	土師器	杯	60 μm ～ 160 μm	3.22mm	植物珪藻体化石	緑れんが）石英・長石類、斜方輝石）複合石英類（大型）、片状複合石英類、ガラス質（バブル型）、角閃石類、複合石英類（中型）、雲母類、斜長石（双晶・累帯）
12	土師器	鍋炉	60 μm ～ 180 μm	1.91mm	植物珪藻体化石	緑れんが）石英・長石類、斜方輝石）複合石英類、複合石英類（中型）雲母類、複合石英類（大型）、ガラス質（バブル型）、角閃石類、斜長石（双晶）、カリ長石（微斜長石構造）
13	土師器	杯	50 μm ～ 140 μm	4.90mm	砂粒付着珪藻、植物珪藻体化石	片状複合石英類）石英・長石類、複合石英類（大型）、角閃石類）ガラス質（バブル型）、角閃石類、雲母類、斜長石（双晶）、斜方輝石、斜方輝石、複合石英類（大型）、単斜輝石、凝灰岩質、ジルコン、緑れんが
14	土師器	椀	110 μm ～ 760 μm	2.56mm	珪藻化石（淡水属 *Pinnularia* 属：1）、植物珪藻体化石	石英・長石類、片状複合石英類）複合石英類（大型）、複合石英類（中型）、ガラス質（バブル型））複合石英類（大型）、斜長石（双晶）、単斜輝石、角閃石類、ザクロ石、緑れんが、褐鉱質
15	土師器	杯	90 μm ～ 300 μm	1.40mm	珪藻化石（淡水属 *Cymbella* 属？：1）、植物珪藻体化石	片状複合石英類）石英・長石類、複合石英類（小型）ガラス質（バブル型）、雲母類、角閃石類、複合石英類（大型）、斜長石（双晶）、斜方輝石、斜方輝石、単斜輝石、凝灰岩質、ジルコン
16	土師器	高台付皿	50 μm ～ 90 μm	1.62mm	植物珪藻体化石	緑れんが、石英・長石類）斜方輝石）ガラス質（バブル型）、片状複合石英類、複合石英類（小型）、角閃石類、雲母類、複合石英類（小型）、複合石英類（大型）、斜長石（双晶）
17	土師器	皿	80 μm ～ 180 μm	5.05mm	植物珪藻体化石	石英・長石類）緑れんが）ガラス質（バブル型）、片状複合石英類、角閃石類）複合石英類（中型）、複合石英類（大型）、斜長石（双晶）、斜方輝石、斜長石（双晶）
18	土師器	杯	50 μm ～ 190 μm	1.23mm	植物珪藻体化石	緑れんが、石英・長石類）複合石英類（中型）、片状複合石英類）火山ガラス（バブル型）、複合石英類（大型）、斜長石（双晶）、斜方輝石、角閃石類、雲母類、ジルコン
19	土師器	高台付椀	130 μm ～ 750 μm	2.45mm	珪藻化石（淡水属 *Eunotia praerupta*、*Gomphonema parvulum*、*Navicula* 属：11）、植物珪藻体化石	石英・長石類、片状複合石英類）複合石英類（小型）、複合石英類（大型）、ガラス質（バブル型）、雲母類、斜長石（双晶）、単斜輝石、斜方輝石、ジルコン、カリ長石（パーサイト）、緑れんが
20	土師器	杯	100 μm ～ 520 μm	1.97mm	珪藻化石（淡水属 *Rhopalodia gibberula*：1）、植物珪藻体化石、殻子化石	緑れんが、石英・長石類）片状複合石英類、複合石英類（中型）斜方輝石、角閃石類、火山ガラス（バブル型）、複合石英類（大型）、複合石英類（微細）、斜長石（双晶）、雲母類
21	土師器	杯	130 μm ～ 700 μm	3.02mm	珪藻化石（淡水属 *Pinnularia* 属、不明種：2）、植物珪藻体化石、殻子化石	石英・長石類、片状複合石英類）複合石英類（小型）、ガラス質（バブル型）複合石英類（大型）、雲母類、斜長石（双晶）、複合石英類（微細）、角閃石類、単斜輝石、褐鉱石、カリ長石（パーサイト）、凝灰岩質、緑れんが
22	土師器	椀	80 μm ～ 360 μm	3.12mm	植物珪藻体化石、殻子化石	石英・長石類、片状複合石英類）複合石英類（小型）、ガラス質（バブル型）、雲母類、複合石英類（大型）、角閃石類、複合石英類（微細）、斜長石（双晶）、単斜輝石、凝灰岩質、ザクロ石、緑れんが
23	土師器	転用皿	50 μm ～ 300 μm	2.66mm	珪藻化石（中～下流性汽用 *Meridion circulae* var *constricta*、淡水属 *Synedra* 属：2）、植物珪藻体化石	石英・長石類）片状複合石英類、複合石英類（小型）、複合石英類（中型）、角閃石類、斜長石（双晶）、ガラス質（バブル型）、斜方輝石、単斜輝石、凝灰岩質、雲母類、緑れんが
24	土師器	高台付椀	130 μm ～ 300 μm	1.62mm	珪藻化石（淡水属 *Eunotia praerupta*、不明種：4）、植物珪藻体化石	石英・長石類、片状複合石英類）複合石英類（小型）、複合石英類（微細）複合石英類（大型）、ガラス質（バブル型）、角閃石類、斜長石（双晶）、単斜輝石、斜方輝石、緑れんが
25	土師器	杯	60 μm ～ 720 μm	5.70mm	珪藻化石（不明種：1）、植物珪藻体化石	石英・長石類、片状複合石英類）複合石英類（小型）複合石英類（大型）、ガラス質（バブル型）、角閃石類、斜長石（双晶）、角閃石類、凝灰岩質、斜方輝石、緑れんが
26	土師器	杯	60 μm ～ 300 μm	1.32mm	植物珪藻体化石	緑れんが、石英・長石類）片状複合石英類、複合石英類（中型）ガラス質（バブル型）、角閃石類、複合石英類（大型）、斜方輝石、斜長石（双晶・累帯）、複合石英類（微細）、雲母類、カリ長石（パーサイト）
27	土師器	高台付椀	150 μm ～ 630 μm	6.51mm	珪藻化石（淡水属 *Pinnularia* 属：1）、植物珪藻体化石	石英・長石類、片状複合石英類）複合石英類（小型）、複合石英類（大型）、複合石英類（微細）、ガラス質（バブル型）、単斜輝石、角閃石類、斜長石（双晶）、凝灰岩質、ジルコン、緑れんが、褐鉱石
28	土師器	高台付杯	60 μm ～ 130 μm	2.04mm	骨針化石（1）、植物珪藻体化石	緑れんが、石英・長石類）角閃石類、片状複合石英類）複合石英類（大型）、ガラス質（バブル型）、斜方輝石、雲母類、斜長石（双晶）
29	土師器	高杯	140 μm ～ 1,100 μm	4.15mm	植物珪藻体化石	石英・長石類、片状複合石英類）複合石英類（小型）複合石英類（大型）、複合石英類（中型）、雲母類、角閃石類、単斜輝石、複合石英類（微細）、ガラス質（バブル型）、凝灰岩質、ジルコン、緑れんが、褐鉱石、褐鉱石質類
30	土師器	高台付椀	160 μm ～ 400 μm	2.86mm	珪藻化石（湖沼沼沢湿地 *Aulacoseira ambigua*、湖沼浮遊 属 *Cyclotella comta*、淡水属 *Diploneis vanukaensis*、*Pinnularia hemiptera*、*Pinnularia* 属、*Rhopalodia* 属、不明種：3：24）、骨針化石（1）、植物珪藻体化石、殻子化石	緑れんが、ガラス質（バブル型）雲母類、石英・長石類、片状複合石英類）複合石英類（大型）、角閃石類、複合石英類（小型）、斜長石（双晶・累帯）、凝灰岩質、ザクロ石、紅簾石
31	土師器	杯	70 μm ～ 280 μm	1.48mm	植物珪藻体化石	緑れんが）石英・長石類）ガラス質（バブル型）片状複合石英類）斜方輝石、角閃石類、複合石英類（大型）、複合石英類（中型）、複合石英類（小型）、斜長石（双晶・累帯）、雲母類、ジルコン
32	土師器	杯	60 μm ～ 250 μm	1.19mm	植物珪藻体化石	緑れんが、石英・長石類）片状複合石英類、複合石英類（大型）複合石英類（小型）、ガラス質（バブル型）、角閃石類、斜長石（双晶・累帯）、複合石英類（小型）、雲母類

分析No.	種別	器種	粒度	最大粒径	微化石類の特徴	砂粒物岩石・鉱物組成
33	土師器	杯	100μm～330μm	2.05mm	植物珪酸体化石、胞子化石	石英・長石類）ガラス質（バブル型）、複合石英類（大型）；角閃石類、複合石英類（中型）、複合石英類（微細、薄り）、斜長石（双晶）、雲母類、ケド長石（パーサイト）、凝灰岩質、シルコン
34	埴輪	円筒埴輪	60μm～700μm	8.42mm	植物珪酸体化石	石英・長石類）複合石英類（大型）；複合石英類（中型）；複合石英類（微細）、片理複合石英類、泥岩質、斜長石（双晶）、単斜輝石
35	埴輪	円筒埴輪	70μm～330μm	3.38mm	植物珪酸体化石	石英・長石類、緑れん石）片理複合石英類）複合石英類（大型）、斜方輝石、角閃石類、複合石英類（小型）、複合石英類（微細）、泥岩質、斜長石（双晶）、雲母類、ガラス質（バブル型）、凝灰岩質
36	埴輪	円筒	50μm～170μm	1.68mm	骨針化石（1）、植物珪酸体化石	石英・長石類、緑れん石）角閃石類）片理複合石英類）複合石英類（微細）、砂岩質、複合石英類（大型）、斜長石（双晶）、雲母類、ガラス質（バブル型）、斜方輝石、凝灰岩質

珪酸体化石以外の微化石類は、粘土の起源（粘土層の堆積環境）を知るのに有効な指標になる。植物珪酸体化石は、土器製作の場で灰質に伴って多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を必ずしも指標するとは限らない。

土器胎土は、粘土中に含まれていた微化石類により、a）海成粘土、b）淡水成粘土、c）水成、d）その他粘土、の４種類に分類された（表３）。以下では、それぞれの粘土の特徴について述べる。

a）海成粘土（土師器高台付椀：分析 No.1）

この土器胎土中には、海水種珪藻が特徴的に多く含まれていた。また、淡水種珪藻化石や海綿動物の骨格の一部である骨針化石も含まれていた。

四国東部地域では海成層は極めてまれであるが、勝浦川・那賀川流域では古紀伊水道海進（下末吉海進期に相当）の海成の天王谷層（中位段丘ＭＩ）が分布する（満塩，2001）。

b）淡水成粘土（土師器 11 点：分析 No.3、4、14、15、19～21、23、24、27、30）

これらの土器胎土中には、淡水種珪藻が含まれていた。また、一部の土師器には、海綿動物の骨格の一部である骨針化石も含まれていた。

分析 No.19 の高台付椀や分析 No.30 の高台付椀では淡水種珪藻化石が含まれており、特に分析 No.30 の高台付椀では湖沼沼沢湿地や湖沼浮遊生の指標種群が特徴的に含まれていた。粘土材料は湖沼的な環境で堆積した粘土と推定される。

c）水成粘土（土師器４点、埴輪１点：分析 No.5、9、25、28、36）

これらの土器胎土中には、不明種の珪藻化石不明種あるいは骨針化石が含まれていた。

d）その他粘土（土師器 17 点、埴輪２点：分析 No.2、6～8、10～13、16～18、22、26、29、31～35）

これらの土器胎土中には、水成環境を指標する微化石類が含まれていなかった。

3.2. 砂粒組成による分類

本稿で設定した分類群は、構成される鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。したがって、胎土中の鉱物と岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。特に、深成岩類を構成する鉱物群は粒度が大きいため、細粒質の砂粒からなる胎土の場合には、深成岩類の推定が困難な場合が多い。

ここでは、比較的大型の砂粒と鉱物群の特徴により、起源岩石の推定を行った（表３）。岩石の推定では、片理複合石英類が片岩類（A/a）、複合石英類（大型）が深成岩類（B/b）、複合石英類（微細）などが

表 3　胎土中の粘土および砂粒の特徴一覧表

分析点	種別	器種	実測番号	粘土の特徴								砂粒の特徴										鉱物の特徴							植物珪酸体化石	推定される砂粒岩石の分類	その他の特徴
				種類	放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	骨針化石	胎子化石	分類	A-a 片岩類	B-b 深成岩類	C-c 堆積岩類	D-d 火山岩類	E-e 凝灰岩類	F-f 流紋岩類	G-g チャート	石英	斜長石（双晶・累帯）	カリ長石（パーサイト）	ジルコン	角閃石類	緑れん石	輝石類	雲母類			
1	土師器	高台付椀	3038	海水成	-	△	△	△	△	-	△	(A)	-	-	-	-	-	-	△	◎	△	-	△	●	△	△	△	(緑色片岩)	砂粒少ない、イネ科プラント含む、赤白縞粘土
2	土師器	杯	3061	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	△	-	△	○	△	-	-	○	●	△	△	△	緑色片岩	斜長石（ゆがみ）
3	土師器	杯	3150	淡水成	-	-	△	△	-	-	△	Ab	○	△	△	-	△	-	○	○	△	-	-	○	△	△	△	△	角閃岩類	イネ科プラント含む、チャート？
4	土師器	椀	3071	淡水成	-	-	△	-	△	-	△	A	◎	△	△	-	△	-	△	△	-	-	-	○	△	△	△	△	泥質片岩・千枚岩	
5	土師器	壺	4591	水　成	-	-	-	-	-	-	△	Ag	○	△	△	-	-	-	○	○	△	-	-	△	◎	-	△	△	緑色片岩	
6	土師器	鉢	4485	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	-	-	△	○	-	-	-	○	●	△	△	△	緑色片岩	斜長石（歪み）
7	土師器	鉢	4510	その他	-	-	-	-	-	-	△	Ag	○	△	△	-	-	-	○	○	-	-	-	●	◎	○	△	○	角閃岩類・緑色片岩	ザクロ石
8	土師器	台付椀	2540	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	△	-	-	△	◎	△	-	-	○	△	△	△	○	角閃岩類	尖った粒子、微細赤色粒子多い（薄り）、黒色斑晶含
9	土師器	杯	2695	水　成	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	△	-	△	◎	△	-	-	○	●	△	△	△	角閃岩類・緑色片岩・泥質片岩・千枚岩	
10	土師器	椀	2705	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	△	-	△	◎	△	-	-	△	●	△	△	△	緑色片岩	
11	土師器	杯	2993	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	-	-	△	◎	△	-	-	△	●	△	△	△	緑色片岩	
12	土師器	鍋/甕	3002	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	△	-	-	△	○	△	△	△	△	●	△	△	△	緑色片岩・泥質片岩・千枚岩	
13	土師器	杯	3008	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	△	-	△	○	△	-	△	○	△	△	△	◎	石英片岩	砂粒打着痕跡、イネ科プラント含む
14	土師器	椀	3016	淡水成	-	-	△	△	-	-	-	A	○	△	△	△	-	-	△	○	△	-	-	△	△	△	△	△	石英片岩	ザクロ石、斑晶質
15	土師器	杯	3026	淡水成	-	-	△	-	-	-	-	A	○	△	△	-	-	△	-	○	△	-	△	◎	△	△	○	△	角閃岩類	
16	土師器	高台付皿	3034	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	△	-	-	△	◎	△	-	-	△	●	△	△	△	緑色片岩	
17	土師器	皿	3037	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	-	-	△	◎	△	-	-	○	●	○	△	△	緑色片岩・角閃岩類	
18	土師器	杯	3042	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	-	-	△	◎	△	-	-	△	●	△	△	△	緑色片岩	尖った粒子
19	土師器	高台付椀	3070	淡水成	-	-	○	○	-	△	△	A	○	△	△	-	-	-	△	◎	△	△	△	△	△	△	◎	△	泥質片岩・千枚岩	イネ科プラント含む、チャート？
20	土師器	杯	3074	淡水成	-	-	△	-	-	-	△	A	○	△	△	-	-	-	△	◎	△	-	-	△	●	△	△	△	緑色片岩	チャート
21	土師器	杯	3184	淡水成	-	-	△	△	-	-	△	A	○	△	△	-	△	-	△	○	△	△	-	△	△	△	△	○	石英片岩	
22	土師器	椀	3186	その他	-	-	-	-	-	-	△	A	○	△	△	-	△	-	△	○	△	-	-	△	△	△	◎	△	石英片岩・泥質片岩・千枚岩	ザクロ石、チャート？
23	土師器	転用皿	3188	淡水成	-	-	△	-	-	-	△	A	○	△	△	-	△	-	△	○	△	-	-	△	△	△	○	△	石英片岩	珪藻化石（中～下流性河川指標種群）
24	土師器	高台付椀	3202	淡水成	-	-	△	△	-	-	-	A	○	△	△	-	△	-	△	○	△	-	△	△	△	△	○	△	緑色片岩・泥質片岩・千枚岩	チャート
25	土師器	杯	3203	水　成	-	-	-	△	-	-	△	A	○	△	△	-	△	-	△	○	△	-	-	○	△	△	○	△	角閃岩類・泥質片岩・千枚岩	チャート
26	土師器	杯	3223	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	-	-	△	◎	△	△	-	○	●	△	△	△	緑色片岩・泥質片岩・千枚岩	斜長石（ゆがみ）、チャート？
27	土師器	高台付椀	3248	淡水成	-	-	△	△	-	-	△	A	○	△	△	-	△	-	△	○	△	-	-	○	△	△	◎	○	（角閃岩類、泥質片岩・千枚岩）	
28	土師器	高台付椀	4340	水　成	-	-	-	-	△	-	-	A	○	△	-	-	-	-	△	◎	△	-	△	○	●	△	△	△	緑色片岩	
29	土師器	高杯	4483	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	◎	△	△	-	△	-	△	◎	△	-	△	△	△	△	◎	◎	泥質片岩・千枚岩	発泡軽火山岩？
30	土師器	高台付椀	4503	淡水成	-	-	○	○	△	△	△	Ga	○	△	△	△	-	-	●	○	△	-	△	○	◎	△	◎	△	緑色片岩	珪藻化石（礫沢江沼湿地、湖沼浮遊生指標種群）、ザクロ石、紅簾石
31	土師器	杯	4859	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	△	△	△	-	-	-	△	○	△	-	△	△	●	△	△	△	緑色片岩	イネ科プラント、斜長石（ゆがみ）
32	土師器	杯	4866	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	△	-	-	△	◎	△	△	-	△	●	△	△	△	緑色片岩	植物組織片含む
33	土師器	杯	5962	その他	-	-	-	-	-	-	△	Bc	-	○	○	-	△	-	△	◎	△	△	△	○	-	△	△	△	緑色片岩	斜長石（ゆがみ）、チャート？
34	旭輪	円筒埴輪	3258	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	△	-	-	-	●	△	-	-	-	△	△	-	△	（石英片岩）	焼成温度高い（亜鉛物溶融）
35	旭輪	円筒埴輪	5075	その他	-	-	-	-	-	-	-	A	○	△	△	-	△	△	△	●	△	-	-	○	●	△	△	△	緑色片岩	尖った粒子
36	旭輪	円筒	4697	水　成	-	-	-	-	△	-	-	A	○	△	-	-	-	△	-	●	△	-	-	○	●	△	△	△	緑色片岩	尖った粒子、層状岩？、チャート

堆積岩類（C/c）、斑晶質・完晶質が火山岩類（D/d）、凝灰岩質や結晶度の低い火山岩が凝灰岩類（E/e）、流紋岩質が流紋岩類（F/f）、ガラス質がテフラ（G/g）である。

土器胎土中の砂粒組成は、表 4 の組み合わせに従って、1）片岩類 A 群、2）片岩類・深成岩類 Ab 群、3）片岩類・テフラ Ag 群または Ga 群、4）深成岩類・堆積岩類 Bc 群、の 4 群に分類された。以下に、分類された砂粒物の特徴について述べる。

なお、緑れん石を伴う片岩類を緑色片岩、角閃石類を特徴的に含む岩石を角閃岩類、泥質で片理複合石英類からなる岩石を泥質片岩・千枚岩、その他の片理複合石英類を含む岩石を石英片岩、と推定した（表 5 の推定される砂粒岩石の分類の項）。

1）主に片岩類 A 群（土師器 27 点、埴輪 3 点：分析 No.1、2、4、6、8 ～ 29、31、32、34 ～ 36）

主に片理複合石英類や、緑色片岩に特徴的に含まれる緑れん石などの片岩類からなる。これらの土器には、分析 No.34 の埴輪を除いて、深成岩類や堆積岩類、テフラを普遍的に含んでいる。凝灰岩類を含む土師器も多い。また、分析 No.8（台付椀）と分析 No.14（椀）、分析 No.29（高杯）では、火山岩類の砂粒を含む。

2）主に片岩類・深成岩類 Ab 群（土師器 1 点（杯）：分析 No.3）

主に片理複合石英類や複合角閃石類などの深成岩類からなる。複合角閃石類は角閃岩類と考えられる。

3）主に片岩類・テフラ Ag 群または Ga 群（土師器 3 点（壺、鉢、高台付椀）：分析 No.5、7、30）

主に片理複合石英類や、緑色片岩に特徴的に含まれる緑れん石などの片岩類と、バブル型火山ガラスのテフラからなる。なお、バブル型火山ガラスのテフラは、分析 No.34 の埴輪を除いて、いずれの土師器や埴輪にも含まれており、河岸段丘の堆積物が利用された可能性を示す。

4）主に深成岩類・堆積岩類 Bc 群（土師器 1 点（杯）：分析 No.33）

主に複合石英類（大型）や複合角閃石類、複合石英類（微細）などの堆積岩類からなる。多くの土師器に含まれていた緑れん石は含まれていない。

3.3. 胎土材料と器種について

表 5 に、材料粘土・砂粒組成と器種の関係についてまとめた。

土師器では、全体として片岩類 A 群の砂粒を特徴的に含み、水成環境を指標する微化石類を含まないその他粘土が多い。ただし、片岩類を含む A 群、Ab 群、Ga 群では淡水成粘土を用いた土師器が 11 点と多く検出された。今回の試料 36 点の粘土材料・砂粒組成と器種の関係については、特徴的な傾向は明瞭ではなかった（表 5）。

埴輪 3 点は、砂粒組成がいずれも片岩類 A 群、粘土材料は水成粘土 1 点とその他粘土 2 点である。

3.4. 遺跡周辺の地質環境

徳島県東部地域では、村田（2016）によると、吉野川北部の中央構造線を挟んで西南日本内帯の領家帯、外帯の三波川帯、秩父帯（秩父北帯、黒瀬川帯、三宝山帯）、四万十帯が分布する。領家帯は、高温・高圧型の領家変成帯と白亜紀の領家花崗岩類（図 1 の凡例 G2i）からなる。この領家帯の南縁部には後

表 4　岩石片の起源と組み合わせ

			第 1 出現群						
			A	B	C	D	E	F	G
			片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ
第2出現群	a	片岩類		Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	深成岩類	Ab		Cb	Db	Eb	Fb	Gb
	c	堆積岩類	Ac	Bc		Dc	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd		Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De		Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef		Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Eg	Fg	

表 5　粘土材料・砂粒組成と器種の関係

砂粒の特徴	粘土の特徴	土師器												埴輪		総計
		高台付皿	高台付杯	高台付椀	高杯	皿	台付椀	転用皿	杯	鉢	竈炉	椀	壺	円筒	円筒埴輪	
片岩類（A）	海水成			1												1
	淡水成			3				1	3			2				9
	水　成		1						2					1		4
	その他	1			1	2	1		7		1	2			2	17
片岩類・深成岩類（Ab）	淡水成								1							1
片岩類・テフラ（Ag/Ga）	淡水成			1												1
	水　成												1			1
	その他									1						1
深成岩類・堆積岩類（Bc）	その他								1							1
総計		1	1	5	1	2	1	1	14	1	1	4	1	1	2	36

期白亜紀の海成の和泉層群（図 1 の凡例 Inm、Inc、Is2、Im2、Ia2 など）が分布する。外帯の三波川帯は、低温高圧型の三波川変成岩類（図 1 の凡例 Sm、Sb または bs、gs）からなり、南縁部には御荷鉾緑色岩類（斑れい岩と玄武岩質火山岩類、一部超苦鉄質岩類を伴う、図 1 の凡例 Mb）が分布する。秩父帯は、石炭紀～ペルム紀の緑色岩類・石灰岩やペルム紀～前ジュラ紀のチャートブロック、シルル紀以前の火成岩類・変成岩類、シルル - デボン系の岩体など、石炭紀～ペルム紀の緑色岩類・石灰岩やペルム紀～前期ジュラ紀のチャートを含む付加コンプレックス（複合岩体）などが分布する（図 1 の凡例 Kn、ch、Mh、Mu、Sm など）。四万十帯は、白亜紀～古第三紀、新第三紀の砂岩を伴う四万十付加コンプレックスが分布する（図 1 の凡例 Sw、Sh など）。

周辺地域では、こうした地質環境で中央構造線の南側をほぼ東西方向に流れる吉野川をはじめ、支流の鮎喰川、園瀬川、遺跡の最も近くを流れる勝浦川および支流八多川、さらに南側の那賀川などの河川がある。遺跡の近接地域では、勝浦川が、秩父北帯の千枚岩質泥岩・砂岩（図 1 の凡例 Kn）やチャート（図 1 の凡例 ch）、黒瀬川帯の砂岩・礫岩・泥岩など（図 1 の凡例 Mh、Mu、Rt）が分布する地域を流下する。また、勝浦川の支流の八多川が、御荷鉾緑色岩類（図 1 の凡例 Mb）、三波川変成帯の塩基性片岩・塩基性準片岩（緑色片岩：図 1 の凡例 gs）や珪礬質（けいばんしつ）片岩・珪礬質千枚岩（珪質片岩・珪質の千枚岩：図 1 の凡例 bs）が分布する地域を流下する。近接地の砂粒は、砂岩・礫岩・泥岩、チャート、緑色岩、緑色片岩、千枚岩から構成されると考えられる。

これらの河川流域では、第三紀の上部鮮新統～第四紀の下部更新統の森山層（先段丘）、上部鮮新統～下部更新統の土柱層群、中・上部更新統の高位段丘構成層、中位段丘構成層、低位段丘構成層が分布する（満塩・加賀美，1992；図 2、3）。

森山層（先段丘）は、吉野川平野東部南縁（川島町、鴨島町および石井町付近）において上部礫層、

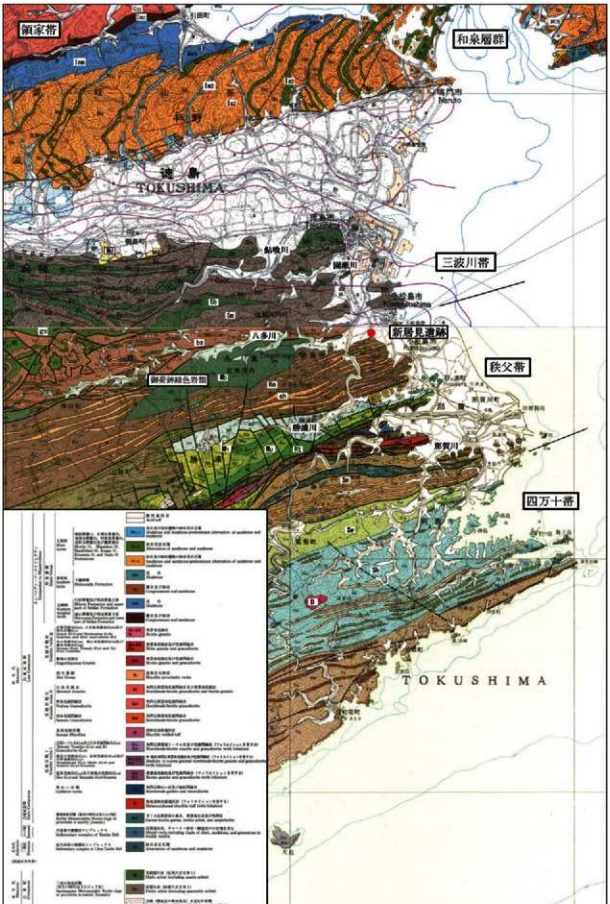


図１　遺跡周辺の地質（神戸（1969）「剣山」と牧本ほか（1995）「徳島 第２版」を編集）
凡例は「徳島 第２版」の一部

湖沼性～後背湿地性の堆積物からなる中部粘土層、下部礫層からなり、礫種は主に和泉層群の砂岩礫を含む。なお、中部粘土層中には2.3Maの藤井寺火山灰が挟在する（阿子島・須鎗，1989）。美馬市美馬町城の土柱層には、大分県猪牟田カルデラ起源の猪牟田ピンクテフラ（大阪層群ピンク火山灰に対比：猪牟田ピンクテフラSs-Pnk、約100万年前）に対比される土柱テフラが挟在する（森江ほか，2010）。吉野川中流地域には、森山層の上位に土柱層（群）が分布する（満塩・嶋，1993）。

高位段丘（吉野川中・下流域で中西層）は、主に赤褐色のクサリ礫などの礫層からなり、一部は砂層である。また、火山灰層を含む（満塩・加賀美，1992）。なお、高位段丘は、勝浦川・那賀川流域では櫛渕層・黒野田層として分布する（満塩，2001）。

中位段丘（吉野川中・下流域で下部半田層MⅠ、上部東川原MⅡ）は、半クサリ礫からなる（満塩・加賀美，1992）。礫種は、東三好町長手では三波川結晶片岩類と和泉層群の砂岩礫からなる（森江ほか，2001）。東三好町長手の中位段丘2（MⅡ）では、阿蘇4テフラ（Aso-4）に対比される長手テフラが挟在する（森江ほか，2001）。なお、中位段丘は、勝浦川・那賀川流域では海成天王谷層（MⅠ）、行司層・川島層（MⅡ）として分布する（満塩，2001）。

低位段丘（吉野川中・下流域で昼間層）は、下部から礫・シルト・礫のサイクルからなる。また、火山灰もみられる（満塩・加賀美，1992）。なお、低位段丘は、勝浦川・那賀川流域では中山層や和無田層として分布する（満塩，2001）。美馬市美馬町城における低位段丘1には姶良Tnテフラ（AT）が挟在する（水野ほか，1993）。南側地域に流域のある桑野川・福井川の低位段丘L（新田層）の堆積物は、かつて瓦焼粘土として採掘されていた（満塩・浜崎，2000）。

砂粒組成の項で述べたように、バブル型火山ガラスのテフラを普遍的に含むことから、河岸段丘の堆積物が利用された可能性が高いことを示す（図2、図3）。周辺河川に見られる段丘堆積物は、礫質層が多く、土器の粘土材料として利用できる粘土質堆積物は限定されると考えられる。

粘土材料として、第三紀の上部鮮新統～第四紀の下部更新統の森山層（先段丘）の湖沼性～後背湿地性の堆積物からなる中部粘土層が知られているが、分析No.30の高台付椀あるいは分析No.19の高台付などは、この地層を用いた粘土材料の可能性が高い。

また、中位段丘や高位段丘の表層部には、黄褐色土や赤褐色土などの粘土質堆積物が見られる場合が多い。なお、低位段丘の表層部は黒色土壌である場合が多く（浜崎・満塩，2000）、土器の粘土材料としては利用できないと考える。

今後の課題として、ここで示した土師器あるいは埴輪の材料がいずれの地域の特徴を示しているかについては、今後、各河川流域の段丘堆積物を採取して同様の分析を行うなど、さらに検討する必要がある。

4.1. 火山ガラスの主成分分析

分析試料は、火山ガラスが特徴的に多く含まれていた分析No.5とNo.30の土師器胎土中の火山ガラスである。

分析は、エネルギー分散型X線アナライザー分析（以下、EDS分析）による火山ガラスの主要10成分の化学分析を行った。

土器片約2gを乳鉢で軽く粉砕し、湿式篩分けした4 ϕ 篩残渣について重液（テトラブロモエタン、比重2.96）を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。軽鉱物はエポキシ樹脂（デブコンET）を用いて包埋し、スライドグラスに接着した後、精密岩石薄片作製機（ストルアス株式会社製、ディスコプラン-TS）を用いてEDS用プレパラート（厚さ500 μ m程度）を作製した。作製したプレパラートは、研磨フィル

ム（三共理化株式会社製、#1000,#2000,#4000,#8000）を用いて順次研磨し、最後にダイヤモンドパウダーを用いて研磨布で琢磨した。

EDS 用プレパラートは、カーボンコーター（メイワフォーシス株式会社製 CADE）を用いて炭素蒸着を行った。蒸着の条件は、真空度が 1.5pa、炭素繊維と試料の間隔 65mm で、炭素の膜厚 10nm である。測定は、エネルギー分散型 X 線分析装置（株式会社キーエンス製 VE9800+ オックスフォード・インストゥルメンツ株式会社製 AZtecOne システム）を使用した。測定条件は、加速電圧 20kV、スポットサイズ 14 ～ 15、ワークディスタンス（WD）30mm、X 線取り出し角度 16 度（＋試料台の傾斜角 15 度）、測定時間はオートである。測定は、平滑面の良いガラス片を選定して 20 点測定し、スタンダードレス定量（XPP 定量補正法）を行った。なお、化学組成が均一である姶良 Tn 火山灰（AT）の火山ガラスを同時に測定して、適正な測定であることを確認した。

測定元素は、Na_2O、MgO、Al_2O_3、SiO_2、P_2O_5、K_2O、CaO、TiO_2、MnO、FeO の 10 元素である。

なお、図 4 の主な成分の分布図には、同様の方法で測定した関連する主なテフラの結果を示した。主な火山は、多良火山灰（大阪層群ピンク火山灰に対比：猪牟田ピンクテフラ Ss-Pnk、約 100 万年前）、阿蘇火山（阿蘇 4 テフラ（Aso-4）：85 ～ 90 ka）、阿多カルデラ（阿多鳥浜テフラ Ata-Th：240 ka）、姶良カルデラ（姶良 Tn テフラ（AT）：26 ～ 29 ka）、鬼界カルデラ（鬼界アカホヤテフラ（K-Ah）：7.3 ka）である。なお、参考までに関東の主なテフラについて、すなわち浅間火山（浅間板鼻褐色（群）テフラ（As-BP：20 ～ 25 ka），浅間板鼻黄色テフラ（As-YP：15 ～ 16.5 ka））、赤城火山（赤城鹿沼テフラ（Ag-KP：≧ 45 ka））、榛名火山（榛名二ツ岳テフラ（Hr-FP：6 世紀中葉））、箱根火山（箱根東京テフラ（Hk-TP（fall）：60 ～ 65 ka））、天城カワゴ平火山（天城カワゴ平テフラ（Kg）：3.126 ～ 3.145 ka）、について示した。

4.2. 結果および考察

火山ガラスの化学組成を表 6 に示す。また、SiO_2-(Na_2O+K_2O)分布図と FeO-K_2O 分布図を図 4 に示す。

火山ガラスは、マグマの液体相が急冷し、結晶にならずに破砕されたものである。したがって、火山ガラスの化学組成から、マグマの液体相の化学組成がわかる。マグマは液体相とすでに結晶として晶出している鉱物結晶からできているため、マグマ全体の化学組成は鉱物結晶も含めて考えなければならない（黒川，2005）。

分析した土師器胎土中の火山ガラスは、いずれも SiO_2-(Na_2O+K_2O)分布図では、姶良カルデラ（姶良 Tn テフラ（AT）：26 ～ 29 ka）の領域にプロットされた。ただし、FeO-K_2O 分布図では、姶良カルデラよりも K_2O が高い範囲にプロットされ、分布範囲も大きい。アルカリ金属の酸化ナトリウム(Na_2O)は、AT に比べて低い値を示し、酸化カリウム（K_2O）が相対的に高い値を示す。ナトリウムは、土師器が焼成されたために揮発して減少したと考えられる。

以上の結果から、土師器 No.5 および No.30 の胎土中に含まれる火山ガラスは、AT の火山ガラスの可能性が非常に高い。これらの土師器胎土中の火山ガラスが AT 起源の火山ガラスである場合には、土師器の胎土材料は低位段丘の粘土質堆積物を利用して製作したことになる。なお、土師器 No.5 中の火山ガラスには、鬼界アカホヤテフラ（K-Ah）と思われる火山ガラスも含まれると考えられ、低位段丘の上位に堆積する土壌が混在したと思われる。

表 6　胎土中の火山ガラスの化学組成（単位：重量 %）

	元素	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	最小値	最大値	平均値	1σ
No.5	Na2O	2.59	2.65	2.91	2.67	3.32	2.85	2.86	3.29	2.72	2.68	3.25	3.24	2.96	3.15	3.11	3.18	3.51	3.11	3.51	2.91	2.59	3.51	3.02	0.28
	MgO	0.11	0.17	0.14	0.10	0.57	0.13	0.12	0.12	0.18	0.12	0.15	0.46	0.16	0.01	0.19	0.09	0.47	0.10	0.08	0.10	0.01	0.57	0.18	0.15
	Al2O3	12.81	12.56	12.43	12.33	13.24	12.49	12.46	12.31	12.40	12.46	12.62	13.23	12.46	12.32	12.56	12.40	13.18	12.34	12.70	12.66	12.31	13.24	12.60	0.30
	SiO2	77.09	77.10	77.59	77.43	73.67	77.48	77.43	77.48	77.04	77.04	77.08	73.96	77.22	77.84	77.07	77.55	74.08	77.57	77.01	77.14	73.67	77.84	76.79	1.27
	P2O5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.01	0.00	0.04	0.00	0.00	0.02	0.00	0.06	0.01	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.02	0.04
	K2O	4.59	4.59	4.01	4.63	3.58	4.14	4.10	3.90	4.63	4.79	4.11	3.59	4.36	3.94	4.14	3.94	3.16	3.98	3.81	4.41	3.16	4.79	4.12	0.42
	CaO	1.23	1.17	1.09	1.25	2.03	1.22	1.15	1.16	1.20	1.22	1.09	2.17	1.23	1.21	1.18	1.18	2.07	1.13	1.19	1.13	1.09	2.17	1.31	0.34
	TiO2	0.18	0.17	0.17	0.15	0.59	0.10	0.19	0.16	0.17	0.09	0.17	0.62	0.11	0.09	0.17	0.07	0.57	0.17	0.20	0.20	0.07	0.62	0.22	0.17
	MnO	0.08	0.05	0.12	0.00	0.00	0.05	0.08	0.07	0.00	0.07	0.01	0.03	0.00	0.06	0.00	0.02	0.05	0.05	0.03	0.00	0.00	0.12	0.04	0.03
	FeO	1.33	1.54	1.52	1.43	2.86	1.53	1.59	1.53	1.63	1.53	1.51	2.68	1.53	1.32	1.54	1.55	2.84	1.54	1.47	1.46	1.32	2.86	1.70	0.48
	Total	100.01	100.00	99.98	99.99	100.00	99.99	99.99	100.02	100.01	100.00	99.99	100.00	100.01	100.00	100.00	99.98	100.01	99.99	100.00	100.01				
No.30	元素	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	最小値	最大値	平均値	1σ
	Na2O	2.95	2.57	2.75	3.20	3.32	3.25	3.12	2.46	3.10	3.29	3.26	3.06	3.07	3.28	3.02	3.45	3.07	3.15	3.14	3.31	2.46	3.45	3.09	0.25
	MgO	0.12	0.10	0.14	0.04	0.09	0.14	0.15	0.16	0.08	0.02	0.18	0.14	0.12	0.09	0.20	0.21	0.16	0.05	0.15	0.15	0.02	0.21	0.12	0.05
	Al2O3	12.55	12.76	12.53	12.60	12.52	12.47	12.52	12.84	12.43	12.64	12.72	12.44	12.34	12.56	12.48	12.51	12.29	12.37	12.49	12.58	12.29	12.84	12.53	0.14
	SiO2	77.40	77.69	77.62	77.45	77.37	77.44	77.21	77.33	77.75	77.42	77.46	77.16	77.72	77.12	77.63	77.20	77.39	77.24	77.41	77.10	77.10	77.75	77.41	0.20
	P2O5	0.01	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.16	0.00	0.00	0.04	0.00	0.02	0.03	0.00	0.04	0.00	0.03	0.00	0.03	0.00	0.16	0.02	0.04
	K2O	4.10	4.10	4.14	3.95	3.89	3.76	4.05	4.13	3.83	4.01	4.52	4.12	3.97	3.87	3.70	3.80	4.16	4.12	4.07	3.93	3.70	4.52	4.01	0.18
	CaO	1.30	1.30	1.33	1.16	1.32	1.19	1.22	1.27	1.21	1.14	0.88	1.15	1.22	1.26	1.20	1.19	1.24	1.25	1.30	1.19	0.88	1.33	1.22	0.10
	TiO2	0.21	0.09	0.15	0.21	0.00	0.13	0.24	0.10	0.15	0.10	0.04	0.26	0.04	0.12	0.08	0.09	0.16	0.20	0.13	0.09	0.00	0.26	0.13	0.07
	MnO	0.10	0.00	0.08	0.05	0.06	0.10	0.10	0.00	0.05	0.00	0.01	0.09	0.00	0.07	0.12	0.07	0.01	0.10	0.00	0.07	0.00	0.12	0.05	0.04
	FeO	1.28	1.38	1.26	1.34	1.42	1.53	1.40	1.55	1.39	1.37	0.89	1.56	1.49	1.60	1.56	1.43	1.51	1.49	1.31	1.55	0.89	1.60	1.42	0.16
	Total	100.02	99.99	100.00	100.00	100.01	100.01	100.01	100.00	99.99	99.99	100.00	99.98	99.99	100.00	99.99	99.99	99.99	100.00	100.00	100.00				
AT	元素	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	最小値	最大値	平均値	1σ
	Na2O	3.43	3.09	3.49	3.51	3.62	3.50	3.54	3.63	3.57	3.69	3.59	3.63	3.74	3.81	3.65	3.49	3.62	3.33	3.73	3.64	3.09	3.81	3.56	0.16
	MgO	0.07	0.05	0.19	0.08	0.04	0.10	0.11	0.11	0.11	0.16	0.06	0.07	0.12	0.14	0.10	0.11	0.16	0.14	0.08	0.12	0.04	0.19	0.11	0.04
	Al2O3	12.25	12.71	12.29	12.60	12.51	12.56	12.43	12.48	12.62	12.48	12.35	12.39	12.28	12.36	12.28	12.37	12.44	12.61	12.60	12.35	12.25	12.71	12.45	0.14
	SiO2	78.10	77.94	78.09	77.65	77.70	77.44	78.01	77.68	77.45	77.37	77.86	77.59	77.69	77.33	77.55	77.78	77.53	77.65	77.41	77.93	77.33	78.10	77.69	0.24
	P2O5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05	0.01	0.07	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.07	0.01	0.02
	K2O	3.34	3.40	3.54	3.51	3.55	3.57	3.31	3.35	3.41	3.55	3.36	3.57	3.42	3.60	3.63	3.63	3.53	3.53	3.45	3.39	3.31	3.63	3.48	0.10
	CaO	1.15	1.19	1.15	1.14	1.16	1.17	1.14	1.15	1.17	1.15	1.15	1.10	1.23	1.14	1.24	1.12	1.24	1.14	1.09	1.09	1.09	1.24	1.16	0.04
	TiO2	0.17	0.20	0.12	0.10	0.11	0.19	0.09	0.11	0.14	0.14	0.19	0.22	0.05	0.19	0.08	0.10	0.11	0.12	0.27	0.10	0.05	0.27	0.14	0.06
	MnO	0.07	0.04	0.05	0.04	0.00	0.06	0.02	0.13	0.04	0.01	0.09	0.01	0.05	0.00	0.09	0.06	0.03	0.03	0.00	0.01	0.00	0.13	0.04	0.03
	FeO	1.42	1.38	1.68	1.37	1.32	1.38	1.35	1.37	1.46	1.44	1.43	1.41	1.42	1.36	1.36	1.26	1.33	1.45	1.38	1.35	1.08	1.46	1.37	0.08
	Total	100.00	100.00	100.00	100.00	100.01	100.01	100.00	100.01	100.00	99.99	99.99	99.99	100.00	99.98	99.99	99.99	99.99	100.00	100.01	100.00				

引用文献

阿子島功・須鎗和巳（1989）中央構造線吉野川地溝の形成過程．地球科学，43，428-442.

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42（2），73-88.

地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）増補改訂 地学事典，1612p，平凡社.

藤根　久・小坂和夫（1997）生駒西麓（東大阪市）産の縄文土器の胎土材料－断層内物質の可能性－．第四紀研究，36，55-62.

藤根　久（1998）東海地域（伊勢－三河湾周辺）の弥生および古墳土器の材料．東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会編「土器・墓が語る：美濃の独自性 弥生から古墳へ」：108-117．東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会.

藤根　久・今村美智子（2001）第３節　土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「波志江中宿遺跡」：262-277．日本道路公団・伊勢崎市・群馬県埋蔵文化財調査事業団．

浜崎修司・満塩大洸（2000）徳島県東部の園瀬川流域の第四系．高知大学学術研究報告，49，41-49.

神戸信和（1969）20 万分の１地質図幅「剣山」．地質調査所.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，1-20.

黒川勝己（2005）テフラ学入門‐野外観察から地球環境史の復元まで‐．205p，地学団体研究会.

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．336p，東京大学出版会.

牧本　博・利光誠一・高橋　浩・水野清秀（1995）20 万分の１地質図幅「徳島 第２版」．地質調査所.

満塩大洸・加賀美英雄（1992）四国の第四系．第四紀研究，31，297-311.

満塩大洸・嶋　将志（1993）四国吉野川上・中流域の第四系．高知大学学術研究報告，42，87-104.

満塩大洸・浜崎修司（2000）徳島県東南部桑野川・福井川流域の第四紀における環境変化．高知大学学術研究報告自然科学編，49，25-40.

満塩大洸（2001）四国の第四系総括－西南日本での調査地域の対比に関連して－．高知大学学術研究報告自然科学編，50，25-65.

水野清秀・岡田篤正・寒川　旭・清水文健（1993）2.5 万分の１中央構造線断層系（四国地域）ストリップマップ説明書．構造図（8）．地質調査所.

森江孝志・小澤大成・奥村　清（2001）徳島県阿讃山地南麓の段丘堆積物中から見出された長手テフラとその対比．第四紀研究，40，331-336.

森江孝志・西山賢一・古澤　明・中尾賢一（2010）四国東部，吉野川谷に分布する土柱層から見出されたテフラ．徳島大学総合科学部自然科学研究，24，65-73.

村田明広（2016）四国の各地帯の概要．日本地質学会編「日本地方地質誌７　四国地方」：8-12．朝倉書店.

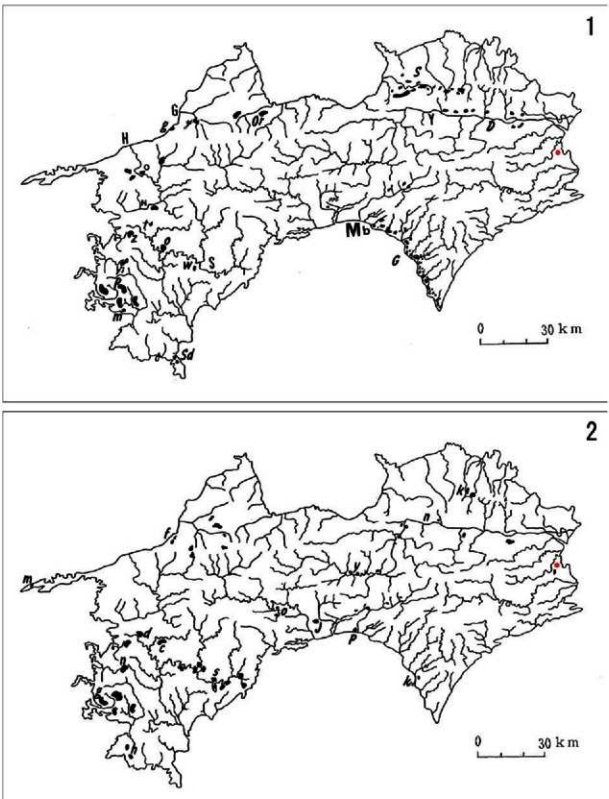


図 2　四国の段丘堆積物分布図（満塩・加賀美（1992）より抜粋）
1. 先段丘（上部鮮新統～下部更新統；土柱層群・森山層）　2. 高位段丘

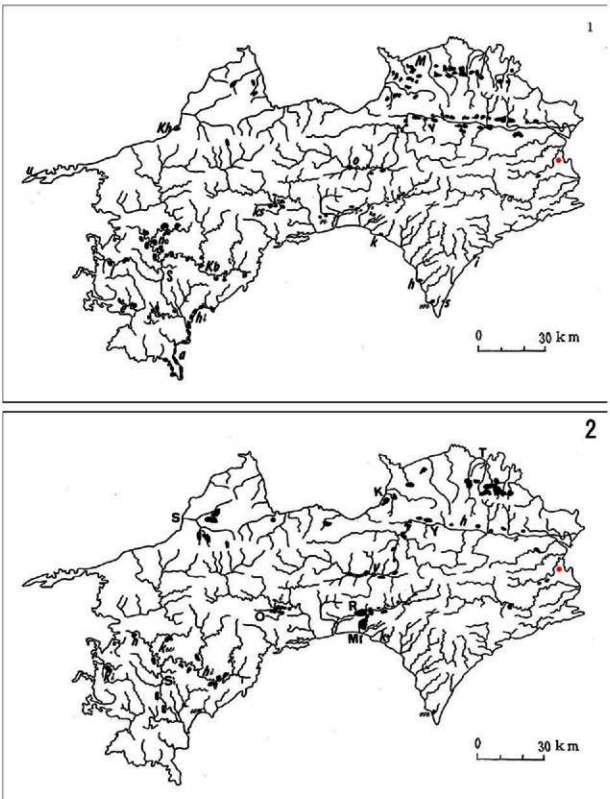


図3　四国の段丘堆積物分布図（満塩・加賀美（1992）より抜粋）

1. 中位段丘　2. 低位段丘

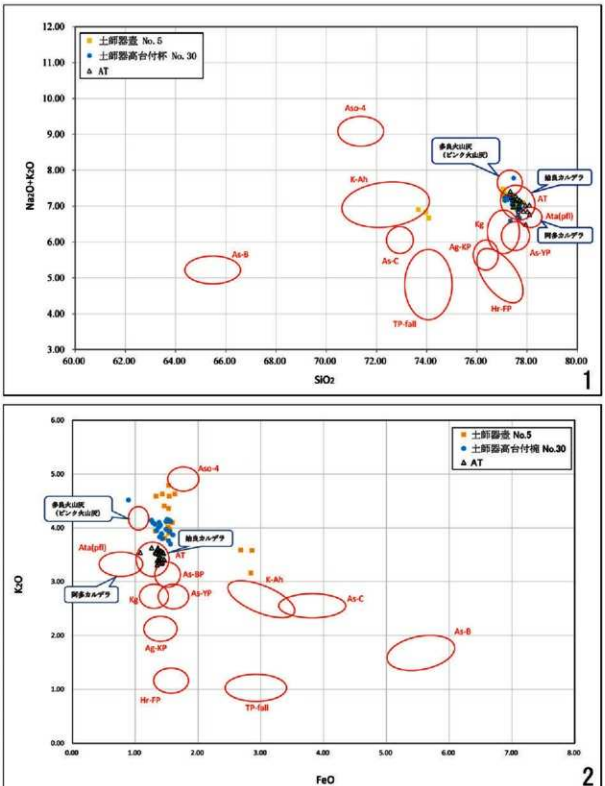
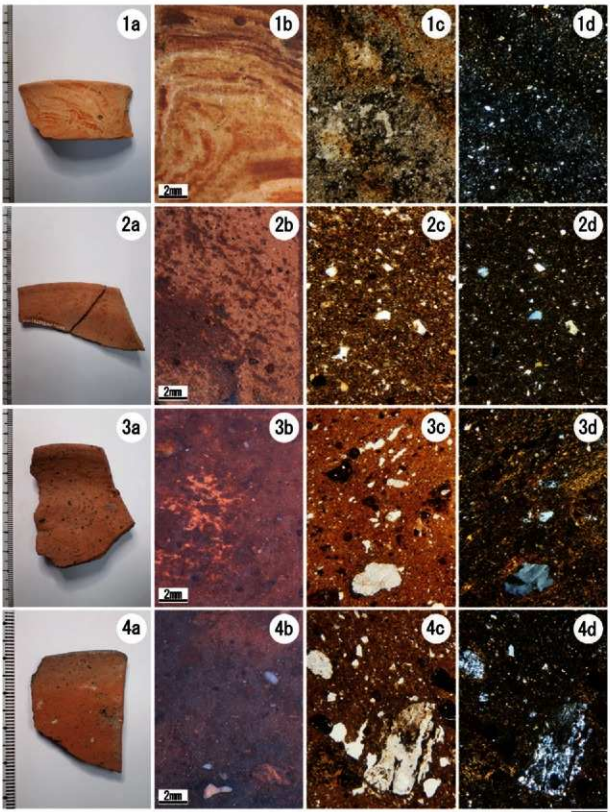


図４　主な成分の分布図

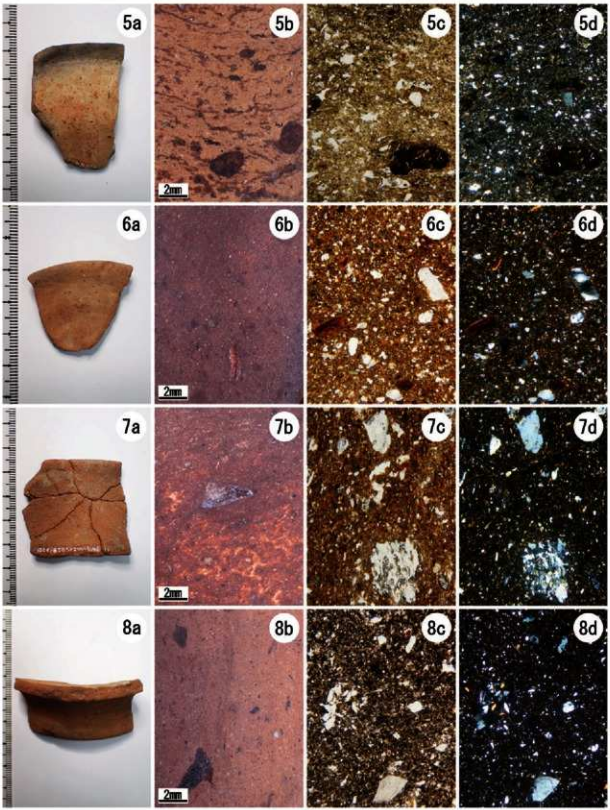
1.SiO2-（Na2O+K2O）　2.FeO-K2O



図版１　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（1）

（スケール：1c,1d,2c,2d,3c,3d,4c,4d:500 μ m）

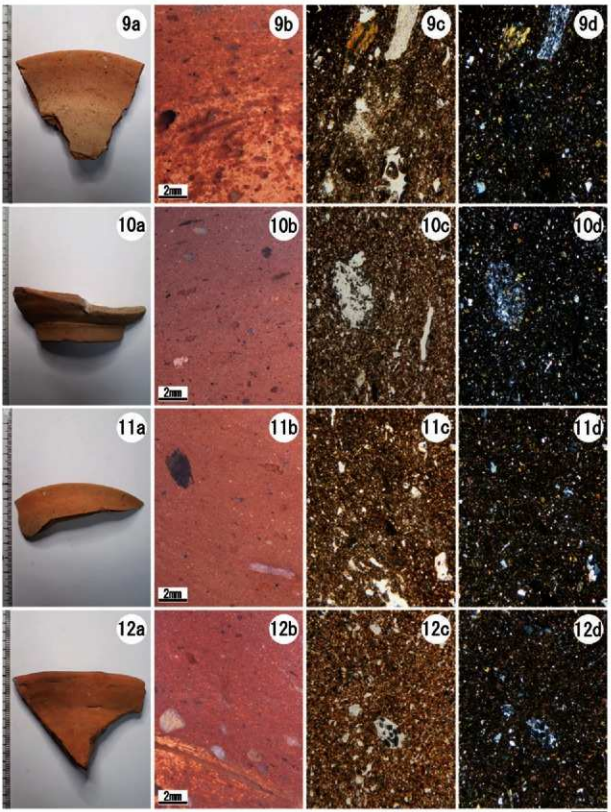
1a. 分析 No.1　1b. 分析 No.1（断面）　1c. 分析 No.1（解放ニコル）　1d. 分析 No.1（直交ニコル）
2a. 分析 No.2　2b. 分析 No.2（断面）　2c. 分析 No.2（解放ニコル）　2d. 分析 No.2（直交ニコル）
3a. 分析 No.3　3b. 分析 No.3（断面）　3c. 分析 No.3（解放ニコル）　3d. 分析 No.3（直交ニコル）
4a. 分析 No.4　4b. 分析 No.4（断面）　4c. 分析 No.4（解放ニコル）　4d. 分析 No.4（直交ニコル）



図版２　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（2）

（スケール：5c,5d,6c,6d,7c,7d,8c,8d:500 μm）

5a. 分析 No.5　5b. 分析 No.5（断面）　5c. 分析 No.5（解放ニコル）　5d. 分析 No.5（直交ニコル）
6a. 分析 No.6　6b. 分析 No.6（断面）　6c. 分析 No.6（解放ニコル）　6d. 分析 No.6（直交ニコル）
7a. 分析 No.7　7b. 分析 No.7（断面）　7c. 分析 No.7（解放ニコル）　7d. 分析 No.7（直交ニコル）
8a. 分析 No.8　8b. 分析 No.8（断面）　8c. 分析 No.8（解放ニコル）　8d. 分析 No.8（直交ニコル）



図版 3　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（3）

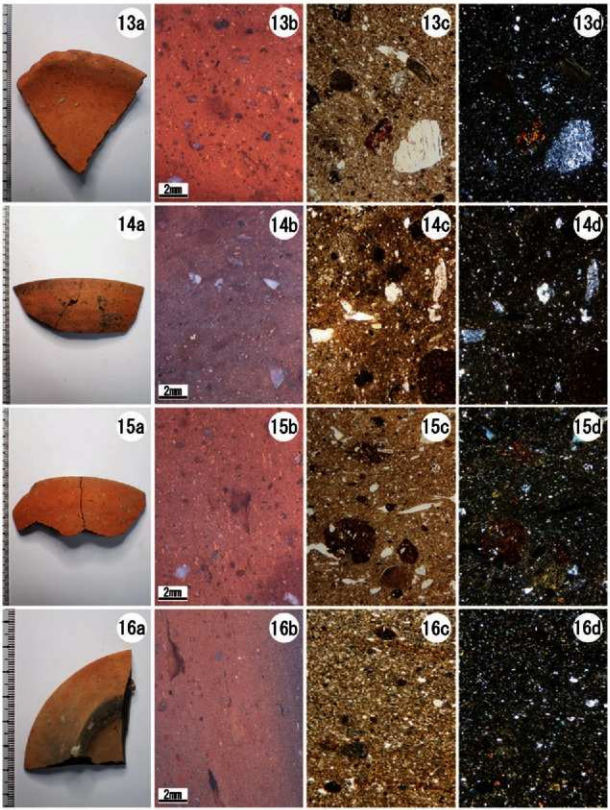
（スケール：9c,9d,10c,10d,11c,11d,12c,12d:500 μ m）

9a. 分析 No.9　9b. 分析 No.9（断面）　9c. 分析 No.9（解放ニコル）　9d. 分析 No.9（直交ニコル）

10a. 分析 No.10　10b. 分析 No.10（断面）　10c. 分析 No.10（解放ニコル）　10d. 分析 No.10（直交ニコル）

11a. 分析 No.11　11b. 分析 No.11（断面）　11c. 分析 No.11（解放ニコル）　11d. 分析 No.11（直交ニコル）

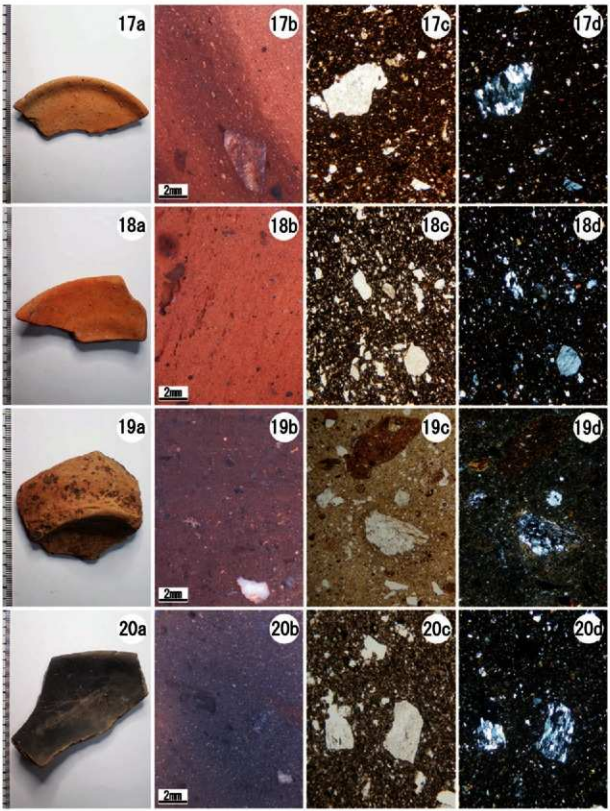
12a. 分析 No.12　12b. 分析 No.12（断面）　12c. 分析 No.12（解放ニコル）　12d. 分析 No.12（直交ニコル）



図版 4　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（4）

（スケール：13c,13d,14c,14d,15c,15d,16c,16d:500 μ m）

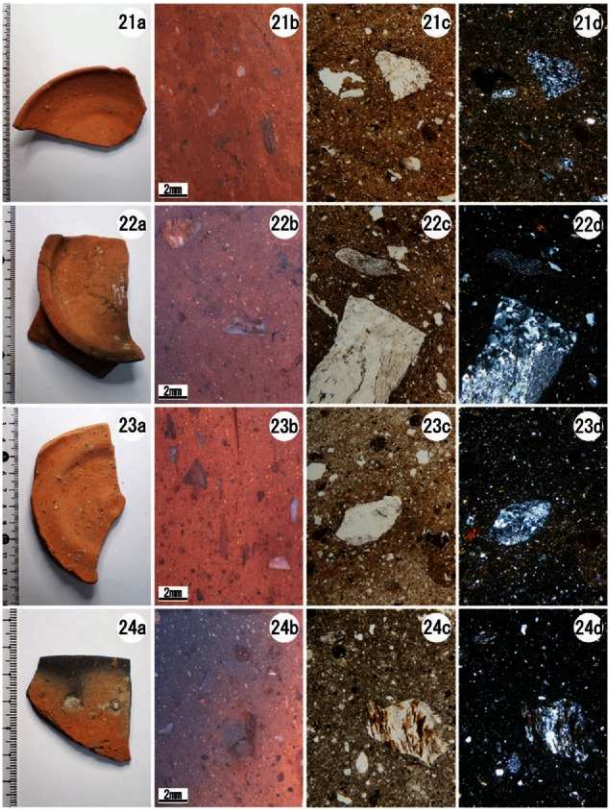
13a. 分析 No.13　13b. 分析 No.13（断面）　13c. 分析 No.13（解放ニコル）　13d. 分析 No.13（直交ニコル）
14a. 分析 No.14　14b. 分析 No.14（断面）　14c. 分析 No.14（解放ニコル）　14d. 分析 No.14（直交ニコル）
15a. 分析 No.15　15b. 分析 No.15（断面）　15c. 分析 No.15（解放ニコル）　15d. 分析 No.15（直交ニコル）
16a. 分析 No.16　16b. 分析 No.16（断面）　16c. 分析 No.16（解放ニコル）　16d. 分析 No.16（直交ニコル）



図版 5　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（5）

（スケール：17c,17d,18c,18d,19c,19d,20c,20d:500 μ m）

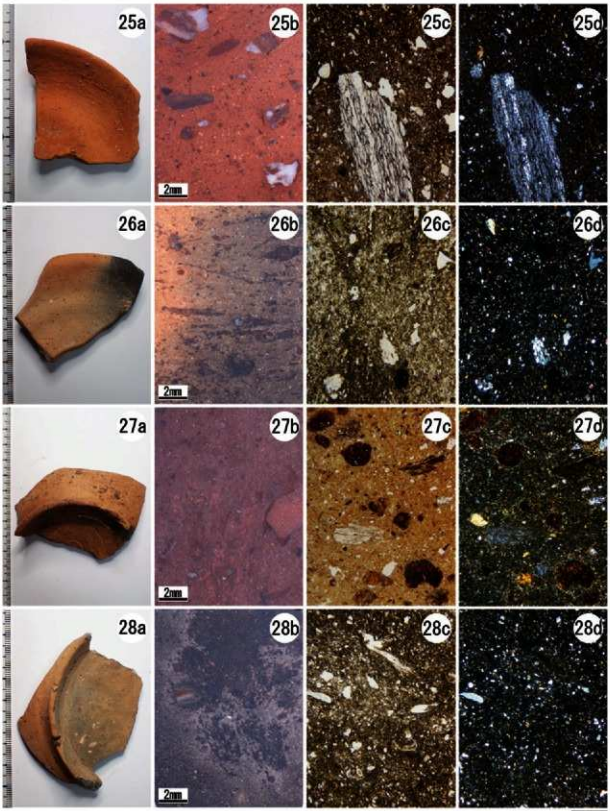
17a. 分析 No.17　17b. 分析 No.17（断面）　17c. 分析 No.17（解放ニコル）　17d. 分析 No.17（直交ニコル）
18a. 分析 No.18　18b. 分析 No.18（断面）　18c. 分析 No.18（解放ニコル）　18d. 分析 No.18（直交ニコル）
19a. 分析 No.19　19b. 分析 No.19（断面）　19c. 分析 No.19（解放ニコル）　19d. 分析 No.19（直交ニコル）
20a. 分析 No.20　20b. 分析 No.20（断面）　20c. 分析 No.20（解放ニコル）　20d. 分析 No.20（直交ニコル）



図版 6　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（6）

（スケール：17c,17d,18c,18d,19c,19d,20c,20d:500 μ m）

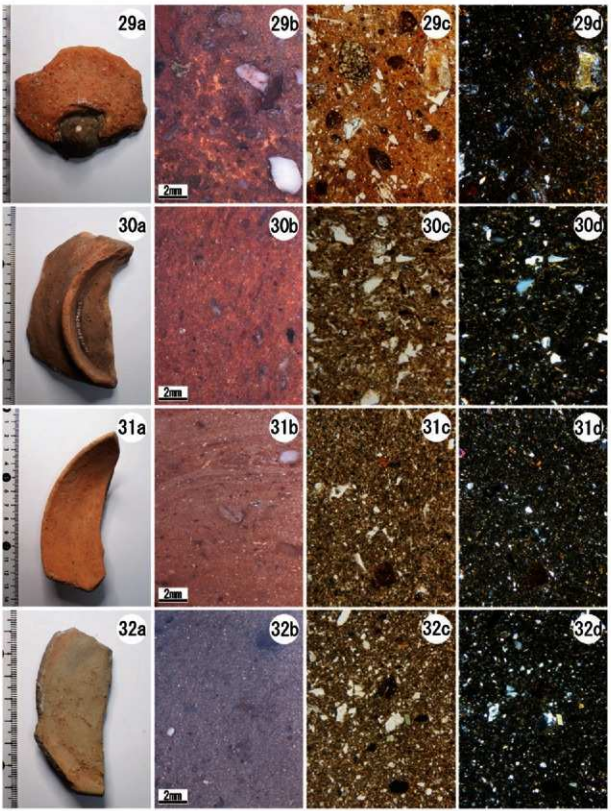
17a. 分析 No.17　17b. 分析 No.17（断面）　17c. 分析 No.17（解放ニコル）　17d. 分析 No.17（直交ニコル）
18a. 分析 No.18　18b. 分析 No.18（断面）　18c. 分析 No.18（解放ニコル）　18d. 分析 No.18（直交ニコル）
19a. 分析 No.19　19b. 分析 No.19（断面）　19c. 分析 No.19（解放ニコル）　19d. 分析 No.19（直交ニコル）
20a. 分析 No.20　20b. 分析 No.20（断面）　20c. 分析 No.20（解放ニコル）　20d. 分析 No.20（直交ニコル）



図版 7　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（7）

（スケール：25c,25d,26c,26d,27c,27d,28c,28d:500 μ m）

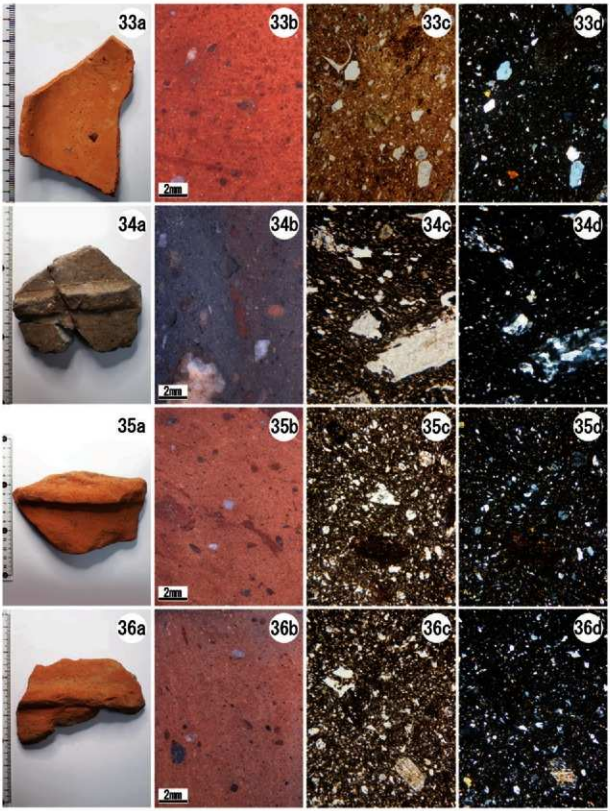
25a. 分析 No.25　25b. 分析 No.25（断面）　25c. 分析 No.25（解放ニコル）　25d. 分析 No.25（直交ニコル）
26a. 分析 No.26　26b. 分析 No.26（断面）　26c. 分析 No.26（解放ニコル）　26d. 分析 No.26（直交ニコル）
27a. 分析 No.27　27b. 分析 No.27（断面）　27c. 分析 No.27（解放ニコル）　27d. 分析 No.27（直交ニコル）
28a. 分析 No.28　28b. 分析 No.28（断面）　28c. 分析 No.28（解放ニコル）　28d. 分析 No.28（直交ニコル）



図版８　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（8）

（スケール：29c,29d,30c,30d,31c,31d,32c,32d:500 μ m）

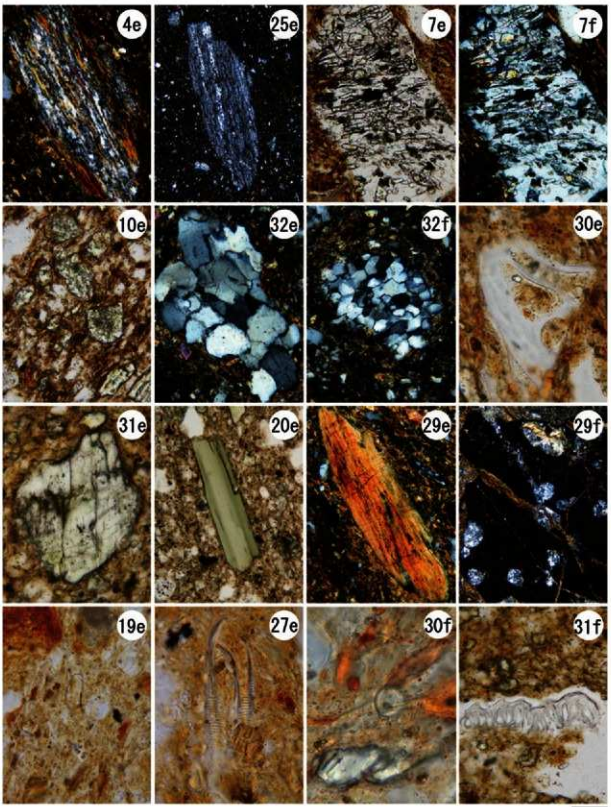
29a. 分析 No.29　29b. 分析 No.29（断面）　29c. 分析 No.29（解放ニコル）　29d. 分析 No.29（直交ニコル）
30a. 分析 No.30　30b. 分析 No.30（断面）　30c. 分析 No.30（解放ニコル）　30d. 分析 No.30（直交ニコル）
31a. 分析 No.31　31b. 分析 No.31（断面）　31c. 分析 No.31（解放ニコル）　31d. 分析 No.31（直交ニコル）
32a. 分析 No.32　32b. 分析 No.32（断面）　32c. 分析 No.32（解放ニコル）　32d. 分析 No.32（直交ニコル）



図版 9　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（9）

（スケール：33c,33d,34c,34d,35c,35d,36c,36d:500 μ m）

33a. 分析 No.33　33b. 分析 No.33（断面）　33c. 分析 No.33（解放ニコル）　33d. 分析 No.33（直交ニコル）
34a. 分析 No.34　34b. 分析 No.34（断面）　34c. 分析 No.34（解放ニコル）　34d. 分析 No.34（直交ニコル）
35a. 分析 No.35　35b. 分析 No.35（断面）　35c. 分析 No.35（解放ニコル）　35d. 分析 No.35（直交ニコル）
36a. 分析 No.36　36b. 分析 No.36（断面）　36c. 分析 No.36（解放ニコル）　36d. 分析 No.36（直交ニコル）



図版 10　胎土中の粒子の顕微鏡写真（10）

（スケール：25e,29f:500 μ m、4e,7e,7f,32e,32f,20e,29e:100 μ m、10e,30e,31e:50 μ m、19e,27e,13e,31f:20 μ m）

4e. 片理複合石英類　25e. 片理複合石英類　7e. 片理複合石英類（解放ニコル）　7f. 片理複合石英類（直交ニコル）

10e. 緑れん石　32e. 複合石英類（大型）　32f. 複合石英類（小型）　30e. ガラス質（バブル型）

31e. 緑れん石　20e. 角閃石類　29e. 雲母類　29f. 発泡火山岩類　19e. 珪藻化石 Eunotia praerupta

27e. 珪藻化石 Pinnularia 属　30f. 湖沼浮遊生 Cyclotella comta　31f. イネ科の植物珪酸体

5. 新居見遺跡出土須恵器の蛍光X線分析

藤根　久・竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

小松島市新居見町山路に所在する新居見遺跡より出土した須恵器について、波長分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行った。なお、土師器と埴輪の薄片の偏光顕微鏡観察による材料分析を行っている（土師器と埴輪の材料分析を参照）。

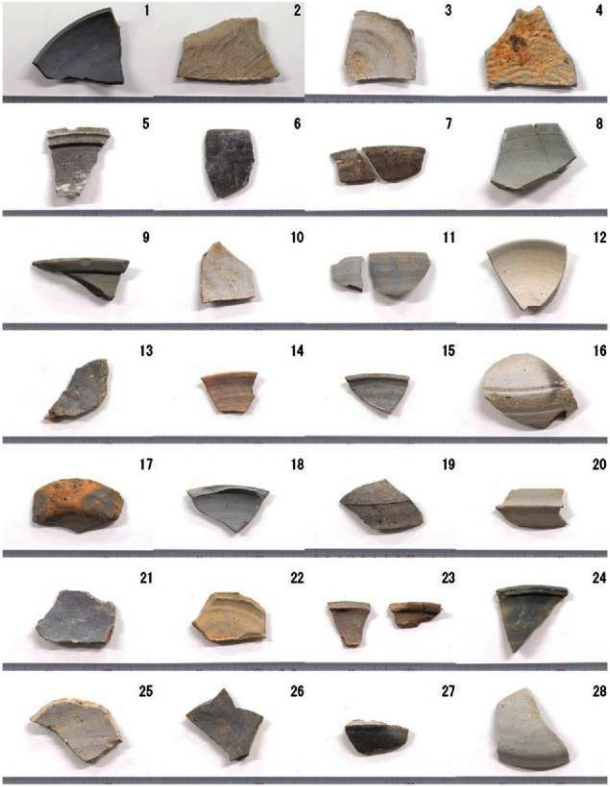
2. 試料と方法

分析対象は、須恵器28点である（表1、図版1）

分析No.1～9はヘラ記号のある須恵器、分析No.10～27は胎土の特徴より在地産とみられている須恵器、分析No.28は貝殻圧痕のあった須恵器で（レプリカ法による貝殻圧痕の同定については別項参

表1　分析対象一覧

分析No.	実測番号	出土遺構	器種	法量	胎土粒径	胎土密度／風成	胎土組成	色調	備考	分析項目	時期
1	3763	SM007	杯蓋	口:43.1 (11.4	0.5～1.0 mm	粗／良	石・黒・チャ・角	外:明褐灰（5YR7/1） 内:褐灰（5YR5/1）	外:ヘラ記号内:表で用による手ナ	胎土／ヘラ記号	9世紀後葉
2	4870	S12007	杯蓋	口:（26.0）器:（16.6）	粗／ごやそ石	粗／良	石・黒・チャ・角	外:灰褐（2.5Y7/2） 内:灰褐（2.5Y7/2）	ヘラ記号	胎土／ヘラ記号	9世紀後葉
3	4458	SC008	平瓶	高:17.9 器:（4.8）底:11.4 器:5.2	0.5～2.5 mm	粗／良	石・黒・角	外:灰（7.5Y6/1） 内:灰（7.5Y6/1）	胎土:ヘラ記号	胎土／ヘラ記号	9世紀後葉
4	3194	SC003	杯蓋	高:4.0 口:22.0 器:20.1 器:4.6 底:7.0	0.5～3.0 mm	粗／良	黒	外:明褐灰（10GY7/1） 内:青灰（10BG4/1）	ヘラ記号	胎土／ヘラ記号	9世紀後葉
5	4464	SM003	杯蓋	口:（19.2）器:（15.8）器:（40.6）底:13.2	粗／ごやそ石	石・黒・岩	石・黒・角	外:褐灰（5Y7/0） 内:褐灰（5Y7/0）	胎土:ヘラ記号	胎土／ヘラ記号	9世紀後葉
6	4852	SM003	蓋	口:（19.0）器:（2.9）器:（36.7）	0.5～3.0 mm	粗／良	石・黒・チャ	外:オリーブ黒（5Y3/1） 内:灰（5Y6/1）	胎土:ヘラ記号	胎土／ヘラ記号	9世紀後葉
7	3749	SM003	杯	高:3.0 口:（15.6）器:（13.1）	ごや粗～ごやそ石	石・黒・チャ・岩	石・黒・角	外:灰（2.5Y5/1） 内:灰（5Y4/1）	底部内面ヘラ記号あり	胎土／ヘラ記号	9世紀後葉
8	3751	SM003	杯身	高:3.4 口:（15.6）器:（13.1）	0.5～3.0 mm	粗／良	石・黒・岩	外:灰（5Y6/1） 内:灰（5Y6/1）	胎土:ヘラ記号	胎土／ヘラ記号	9世紀後葉
9	3595	生古堂	蓋	高:4.2 口:13.0 器:9.1	0.5～3.0 mm	粗／良	石・黒・角	外:灰（5Y6/1） 内:灰（5Y6/1）	ヘラ記号	胎土／ヘラ記号	9世紀後葉
10	3799	SM003	杯身	高:2.2 口:10.4 器:8.0	0.5～3.0 mm	粗／良	黒・チャ・角・雲	外:灰（N7/0） 内:灰（N6/0）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
11	2549	SM003	杯蓋	高:3.2 口:5.8 器:5.3 器:10.0 底:5.3	0.5～4.0 mm	粗／良	石・黒・岩・凝灰岩	外:明褐灰（2.5YR7/1） 内:明褐灰（2.5YR7/1）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
12	3197	SC008	杯蓋	高:3.6 口:11.0	0.5～2.5 mm	粗／良	石・黒・岩・凝灰岩・長石	外:灰（5Y6/1） 内:灰（5Y6/1）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
13	4513	SX002	壺	底:（7.5）	0.5～4.0 mm	粗／良	緑・石・黒・岩	外:灰（5Y6/1） 内:灰（5Y6/1）	壺胎土分析	胎土／須恵？	9世紀後葉
14	4737	生古堂	杯蓋	口:（14.2）	0.5～4.5 mm	粗／良	石・黒・岩	外:褐灰（2.5YR5/1） 内:褐灰（10YR6/1）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
15	4843	生古堂	杯蓋	口:（15.2）	0.5～4.0 mm	粗／良	石・黒・チャ・角	外:灰（5Y7/0） 内:灰（N5/0）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
16	3239	生古堂	蓋	器:（4.6）器:（36.0）	～4.0 mm	粗／良	石・黒・角	外:灰（5Y6/1） 内:灰（5Y7/0）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
17	3239	S12003	杯	高:3.0 口:（13.4）器:（8.0）	0.5～3.0 mm	粗／ごやそ石	石・黒・チャ・角	外:褐灰（2.5Y4/1） 内:明褐灰（10YR6/1）	焼成後土師器様色。還元雰囲気？内外面黒色。摩耗著土師器胎土ヨコナデ。外面黒色ヘラケズりとして転用？摩耗は外側ヨコナデ部分摩耗は内面（中央部）。	胎土／須恵？	9世紀後葉
18	3765	SC002	杯身	高:3.4 口:（14.0）器:16.1 器:5.7	0.5～4.0 mm	粗／良	石・黒・岩・凝灰岩	外:灰（N7/0） 内:灰（N7/0）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
19	3758	SM003	杯蓋	高:4.7 口:13.8 器:14.0	0.5～1.5 mm	粗／良	石・黒・凝灰岩	外:灰（N6/0） 内:褐灰（10YR4/1）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
20	3756	SX002	杯身	高:3.2 口:13.8 器:14.2 器:4.0	0.5～3.0 mm	粗／ごやそ石	石・黒・角・岩	外:灰（5Y7/1） 内:灰（5Y7/1）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
21	4790	SC003	杯	口:（13.2）器:（12.6）底:5.2	0.5～3.0 mm	粗／良	石・黒・角・砂	外:褐灰（2.5YR4/1） 内:青灰（5PB6/1）	器高不明。底部：粗土板をケズり（体部か？）	胎土／須恵？	9世紀後葉
22	4709	SC003	杯蓋	器:（12.6）	0.2～3.0 mm	粗／良	石・黒・角	外:灰（N7/0） 内:灰（N6/0）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
23	4849	SM003	杯蓋	高:3.0 口:（13.6）器:（13.0）	0.5～4.0 mm	粗／良	石・黒・チャ	外:褐灰（2.5YR6/1） 内:褐灰（2.5YR5/2）	胎土:ヘラ記号	胎土／須恵？	9世紀後葉
24	4654	SM003	蓋	高:26.9 口:29.25 器:30.9 器:19.45 器:4.3	0.5～6.0 mm	粗／良	石・黒・チャ・角・長石・ガラス？	外:灰（5Y6/0） 内:灰（5Y6/0）	口縁部打ち欠き？無調整内面に重ね焼き（重焼き？）の痕跡	胎土／須恵？	9世紀後葉
25	3406	S73003	壺	器:（17.9）	0.5～3.0 mm	粗／良	石・黒・角・凝灰岩	外:オリーブ（7.5Y5/3） 内:灰（N7/1）	外面、内面施釉	胎土／須恵？	9世紀後葉
26	3453	SM002	蓋	口:（28.8）器:（17.5）	0.2～3.5 mm	粗／良	緑・石・黒・チャ	外:灰（5Y6/0） 内:灰（5Y6/0）	胎土の若干クサリチャート含む電顕土分析	胎土／須恵？	9世紀後葉
27	4238	SM002	杯身	器:（14.6）	～3.0 mm	粗／良	黒・角	外:灰（7.5YR4/1） 内:灰（7.5YR4/1）	口縁部打ち欠き？	胎土／須恵？	9世紀後葉
28	3746	SC008	杯蓋	高:5.0 口:13.0	0.5～3.0 mm	粗／良	石・黒・凝灰岩	外:灰（5Y6/0） 内:灰（5Y6/0）	口縁部打ち欠き　天井部外面に貝殻圧痕	貝殻・胎土	9世紀後葉



図版１　分析対象須恵器（数字は分析No.）

照)、胎土の特徴より非在地産とみられている須恵器である。時期は、分析 No.5、6、22 ～ 24 が 6 世紀前葉、分析 No.1 ～ 4、7 ～ 21、25 ～ 28 が 6 世紀後葉とみられている。

蛍光 X 線分析には、須恵器よりガラスビードを作製し、それを分析試料とするガラスビード法を用いた。試料採取には、岩石カッターを使用した。採取した須恵器は、表面の汚れや自然釉の影響を排除するため、岩石カッターで表面や破断面を削った後、さらに精製水で超音波洗浄を行った。試料をアルミナ製乳鉢で粉末にして、るつぼに入れ、電気炉で 750℃、6 時間焼成した後、デシケータ内で放冷し、1.8000g 秤量した。これを、無水四ホウ酸リチウム Li2B4O7 と、メタホウ酸リチウム LiBO2 を 8:2 の割合で調製した融剤 3.6000g と十分に混合し、白金製るつぼに入れ、ビードサンプラーにて約 750℃で 250 秒間予備加熱、約 1100℃で 150 秒間溶融させ、約 1100℃で 450 秒間撹動加熱してガラスビードを作製した。

分析は、フィリップス社製波長分散型蛍光 X 線分析装置 MagiX（PW2424 型）にて、検量線法による定量分析を行った。標準試料には、独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センターおよび米国標準技術研究所（NIST）の岩石標準試料計 15 種類を用いた。定量元素は、酸化ナトリウム（Na2O）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化アルミニウム（Al2O3）、酸化ケイ素（SiO2）、酸化リン（P2O5）、酸化カリウム（K2O）、酸化カルシウム（CaO）、酸化チタン（TiO2）、酸化マンガン（MnO）、酸化鉄（Fe2O3）の主成分 10 元素と、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の微量成分 4 元素の、計 14 元素である。

3. 結果

表 2 に、蛍光 X 線分析の測定結果を示す。

表 2　蛍光 X 線分析結果（mass%）

分析 No.	Na_2O (%)	MgO (%)	Na_2O_3 (%)	SiO_2 (%)	P_2O_5 (%)	K_2O (%)	CaO (%)	TiO_2 (%)	MnO (%)	Fe_2O_3 (%)	Total (%)	Rb (ppm)	Sr (ppm)	Y (ppm)	Zr (ppm)	分類	時期	分析 No.
1	0.08	0.58	27.0	64.9	0.038	1.25	0.02	1.00	0.013	5.01	99.9	85	33	24	325	7ヶ山産	6C 後	1
2	0.75	0.66	19.8	71.3	0.115	2.22	0.16	0.74	0.014	4.86	100.6	118	61	30	202			2
3	1.32	0.68	19.5	68.5	0.023	2.16	0.28	0.70	0.015	3.72	96.9	99	87	52	227			3
4	0.49	0.63	20.7	67.3	0.068	1.66	0.11	0.80	0.016	5.51	97.3	91	48	27	277			4
5	0.65	0.61	20.1	70.3	0.042	1.98	0.16	0.76	0.015	5.33	99.9	127	56	24	242		6C 前	5
6	1.19	0.66	20.9	67.5	0.049	2.06	0.37	0.77	0.015	4.86	98.4	107	91	24	319			6
7	0.82	14.11	13.5	47.6	0.085	0.32	4.23	1.47	0.273	15.82	98.2	19	74	24	113	若狭産	6C 後	7
8	0.71	0.93	17.7	68.9	0.039	2.17	0.41	0.78	0.018	4.15	95.8	105	118	26	222			8
9	0.50	0.63	21.1	64.9	0.053	1.72	0.08	0.77	0.023	6.26	96.0	93	42	31	298			9
10	0.58	0.68	20.6	66.2	0.059	1.75	0.27	0.82	0.029	5.75	96.7	118	55	18	264			10
11	0.34	0.53	17.9	73.8	0.063	1.59	0.36	0.69	0.015	4.30	99.6	105	79	39	244			11
12	0.46	0.47	22.3	69.5	0.103	1.92	0.42	0.70	0.018	3.39	99.3	139	76	35	226			12
13	1.16	1.31	21.3	63.0	0.092	2.27	0.47	1.28	0.040	4.52	95.4	115	58	25	245			13
14	0.51	0.70	20.8	71.2	0.056	1.78	0.13	0.88	0.017	4.67	100.7	104	54	27	249			14
15	0.38	0.69	23.4	67.0	0.047	1.92	0.14	0.88	0.016	4.06	98.5	143	58	22	226			15
16	0.78	0.64	23.4	66.2	0.044	1.93	0.35	0.82	0.018	4.51	98.7	102	77	23	301			16
17	2.14	3.12	22.7	58.2	0.245	1.70	3.44	1.35	0.100	8.21	101.2	80	166	45	185			17
18	1.14	0.63	19.0	70.6	0.055	2.11	0.28	0.76	0.016	3.99	98.6	114	75	26	247			18
19	0.34	0.54	22.3	68.5	0.051	1.90	0.14	0.91	0.017	4.99	99.7	129	52	24	257			19
20	1.41	0.61	17.9	71.7	0.068	2.08	0.29	0.69	0.016	3.48	98.2	102	84	21	264			20
21	0.60	0.71	23.0	68.9	0.034	2.06	0.28	0.73	0.023	4.67	101.0	146	68	29	216			21
22	0.64	0.53	21.6	68.3	0.102	1.85	0.07	0.79	0.018	5.60	99.5	90	53	24	356		6C 前	22
23	0.48	0.70	21.0	71.1	0.075	1.75	0.12	0.87	0.016	4.59	100.7	101	52	29	253			23
24	0.78	0.75	22.4	67.9	0.038	2.08	0.36	0.79	0.022	6.00	101.1	130	75	29	220			24
25	1.11	0.60	17.6	74.4	0.070	2.15	0.20	0.56	0.016	3.19	99.9	91	75	28	268		6C 後	25
26	0.82	1.26	22.8	65.3	0.036	2.36	0.43	1.35	0.033	5.28	99.7	119	49	26	254			26
27	0.71	0.51	19.8	69.1	0.054	1.73	0.12	0.76	0.013	6.27	99.1	95	65	25	317			27
28	0.41	0.44	19.5	72.3	0.063	2.36	0.29	0.64	0.013	3.46	99.5	132	65	44	238			28
最小	0.08	0.44	13.5	47.6	0.023	0.32	0.02	0.56	0.013	3.19	95.4	19	33	18	113		最小値	
最大	2.14	14.11	27.0	74.4	0.245	2.36	4.23	1.47	0.273	15.82	101.2	146	166	52	356		最大値	

分析の結果、酸化ナトリウム（Na2O）が 0.08 ～ 2.14%、酸化マグネシウム（MgO）が 0.44 ～ 14.11%、酸化アルミニウム（Al2O3）が 13.5 ～ 27.0%、酸化ケイ素（SiO2）が 47.6 ～ 74.4%、酸化リン（P2O5）が 0.023 ～ 0.245%、酸化カリウム（K2O）が 0.32 ～ 2.36%、酸化カルシウム（CaO）が 0.02 ～ 4.23%、酸化チタン（TiO2）が 0.56 ～ 1.47%、酸化マンガン（MnO）が 0.013 ～ 0.273%、酸化鉄（Fe2O3）が 3.19 ～ 15.82%、ルビジウム（Rb）が 19 ～ 146ppm、ストロンチウム（Sr）が 33 ～ 166ppm、イットリウム（Y）が 18 ～ 52ppm、ジルコニウム（Zr）が 115 ～ 356ppm であった（表 2）。

4. 考察

図 1 に、各元素の分布図をヘラ記号のある須恵器と在地 / 非在地の須恵器別に、時期ごとに示す。

焼物の化学組成は、図 2 に示す酸化アルミニウム（Al2O3）と酸化ケイ素（SiO2）の分布図から、全体として逆相関を示し、酸化アルミニウム（Al2O3）が粘土分、酸化ケイ素（SiO2）が砂粒分を、それぞれ指標する（小村・藤根，2002）。

図 2 では、分析 No.7 のヘラ記号のある須恵器は、他の須恵器から大きく外れ、酸化アルミニウム（Al2O3）の値から粘土分が少なく、酸化ケイ素（SiO2）の値から塩基性岩に近い化学組成を示す。土師器・埴輪の胎土分析の項に示したように、遺跡の東側に流域をもつ八多川沿いには、中生代白亜紀～ジュラ紀の御荷鉾緑色岩類（斑れい岩と玄武岩質火山岩類、一部超苦鉄質岩類を伴う）が分布することから、これら塩基性岩からなる砂粒の影響を強く反映した結果と考えられる。なお、分析 No.17 の須恵器も塩基性岩寄りの化学組成である。

その他の須恵器は、酸化ケイ素（SiO2）が 63 ～ 75% の範囲で変化し、分析 No.7 を除くヘラ記号のある須恵器をはじめ多くの須恵器が重複して分布する。

三辻（2013）が指摘した、基盤岩（主に花崗岩類）の違いを指標するとされるルビジウム（Rb）- ストロンチウム（Sr）の分布図では、多くの須恵器がまとまった範囲に分布する（図 3）。ただし、分析 No.7、No.8、No.17 が他の須恵器の一群から外れて分布する傾向が見られた。

土師器・埴輪の胎土分析では、10 世紀代の土師器や 6 世紀前葉の埴輪において、片岩類を特徴的に含み、火山ガラスを少なからず含むことから、県内の段丘の粘土質堆積物が利用されたことが示されている。県内の須恵器窯の調査例がないことから須恵器生産の実態は不明であるが、須恵器の粘土材料も同様に、段丘の粘土質堆積物が利用されたことが考えられる。

今後、薄片分析した土師器・埴輪の化学組成を調べて、須恵器の化学組成との比較を行い、須恵器の材料について検討したい。

参考・引用文献

小村美代子・藤根　久（2002）山茶椀胎土の化学的評価．日本文化財科学会第 19 回大会研究発表要旨集，60-61，日本文化財科学会

三辻利一（2013）新しい土器の考古学，219p，同成社．

中井　泉編（2005）蛍光 X 線分析の実際，242p，朝倉書店．

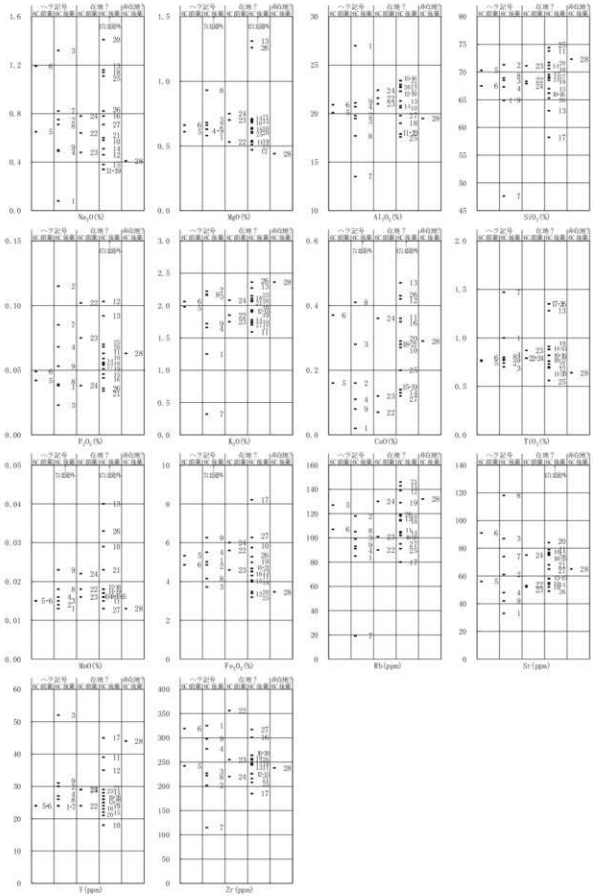

Na2O (%)
MgO (%)
Al2O3 (%)
SiO2 (%)
P2O5 (%)
K2O (%)
CaO (%)
TiO2 (%)
MnO (%)
Fe2O3 (%)
Rb (ppm)
Sr (ppm)
Y (ppm)
Zr (ppm)

図1　各元素分布図

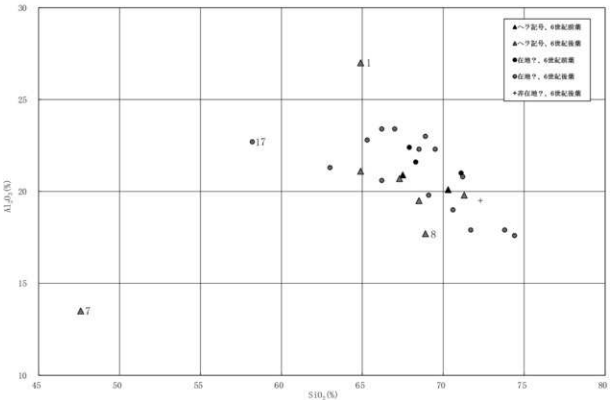


図 2　SiO_2-Al_2O_3 分布図

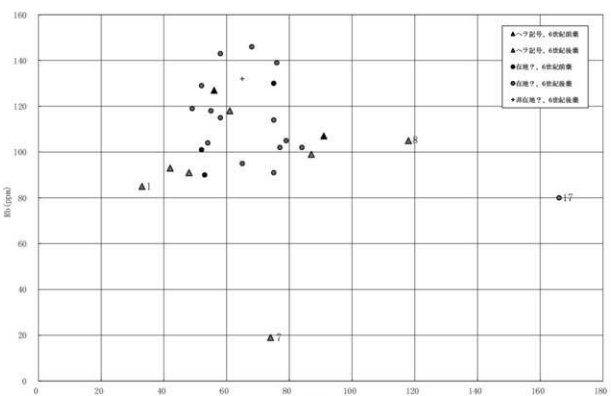
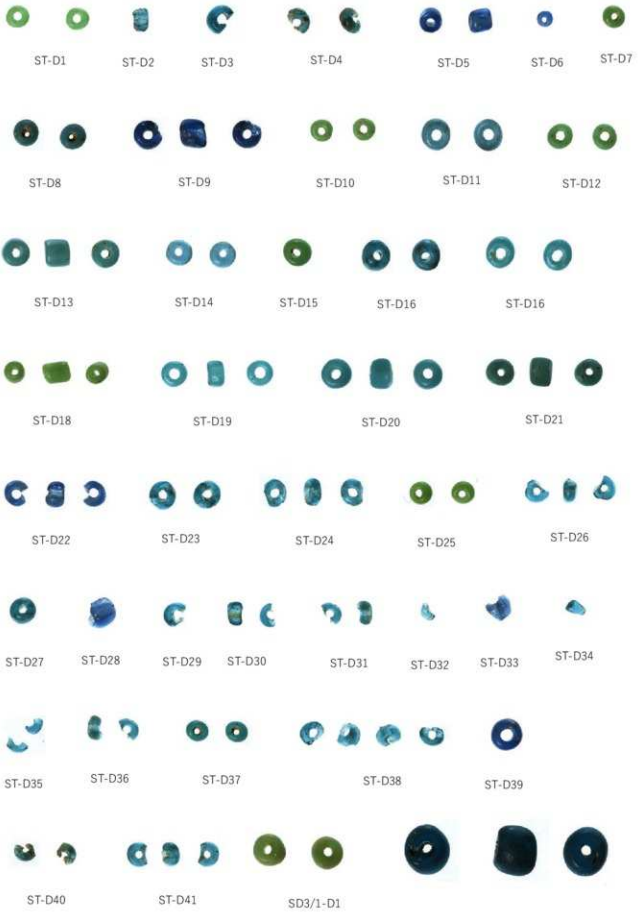


図 3　Rb-Sr 分布図

図　　版

図版1


ST-D1
ST-D2
ST-D3
ST-D4
ST-D5
ST-D6
ST-D7
ST-D8
ST-D9
ST-D10
ST-D11
ST-D12
ST-D13
ST-D14
ST-D15
ST-D16
ST-D16
ST-D18
ST-D19
ST-D20
ST-D21
ST-D22
ST-D23
ST-D24
ST-D25
ST-D26
ST-D27
ST-D28
ST-D29
ST-D30
ST-D31
ST-D32
ST-D33
ST-D34
ST-D35
ST-D36
ST-D37
ST-D38
ST-D39
ST-D40
ST-D41
SD3/1-D1
0 5 10 mm
(S=2×)

ガラス玉類

SM-D1

SM-D2

kmni2553

ST-27,28

SD3/1-197

図版 3

田野山塊北麓と新居見遺跡　東を望む

山路地区（旧 B1・B2 区）古墳時代～古代遺構面完掘状況

旧 B1 区自然流路 SR3001 完掘状況

旧 B1 区古墳時代円形周溝と古代自然流路

図版 5

旧 B2 区 1 号墳 SM4001

旧 B2 区 1 号墳 SM4001

1 号墳石室石材

1 号墳石室石材

1 号墳石室石材

図版 7

1 号墳周辺遺物出土状況

1 号周溝 SD4001,
2 号周溝 SD4002,
7 号周溝 SD4007

2 号周溝 SD4002

7 号周溝 SD4007

図版 9

1 号周溝 SD4001

14 号円形周溝 SD4014

5 号円形周溝 SD5003

5 号円形周溝 SD5003
遺物出土状況

5 号円形周溝 SD5003
遺物出土状況

12 号円形周溝 SD4012
遺物出土状況

図版 11

15 号円形周溝 SD4015
遺物出土状況

2 号円形周溝 SD5002
遺物出土状況

5 号埋葬施設 ST4005

8 号埋葬施設 ST4008

8 号埋葬施設 ST4008

8 号埋葬施設 ST4008

図版 13

8 号埋葬施設 ST4008
小口構造

8 号埋葬施設 ST4008
小口構造

8 号埋葬施設 ST4008
遺物出土状況

3 号埋葬施設 ST4003

55 号埋葬施設 ST4055

2 号埋葬施設 ST4002

図版 15

38 号埋葬施設 ST4038

38 号埋葬施設 ST4038

38 号埋葬施設 ST4038
遺物出土状況

48 号埋葬施設 ST4048

53 号埋葬施設 ST4053

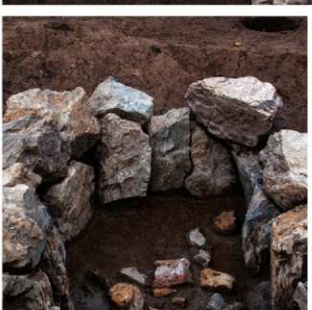
63 号埋葬施設 ST4063

図版 17

13 号埋葬施設 ST4013

56 号埋葬施設 ST4056

図版 19



59 号埋葬施設 ST4059

60 号埋葬施設 ST4060

図版 21

57 号埋葬施設 ST4057

21 号埋葬施設 ST4021

16 号埋葬施設 ST4016

図版 23

54 号埋葬施設 ST4054

3 号土坑 SK4003

1 号自然流路 SR3001

1 号自然流路 SR3001

図版 25

1 号溝状遺構 SD3001

1 号溝状遺構、2 号溝状遺構

1 号溝状遺構

1 号溝状遺構東側（下流側）
土層

1 号溝状遺構西側（上流側）
土層

図版 27

1 号溝状遺構
遺物出土状況

1 号溝状遺構
遺物出土状況

図版 29

SX4-1

SD4-27

IL-9

IL-12

SP3-1

ST-6

SD4-5

SD4-4

SD4-1

SD3/1-193

須恵器杯蓋

SD4-24

IL-13

IL-6

SK3-58

SD4-21

SD4-20

ST-13

ST-27

IL-22

SD4-25

須恵器杯蓋・杯身

図版 31

SD4-7

SD4-8

SD4-23

SD4-22

IL-26

SD4-2

ST-14

ST-15

ST-12

須恵器杯身

ST-28

ST-13,11

SX4-2

IL-51

SR4-207

須恵器杯身・高杯・甕

図版 33

ST-5

SD4-29

IL-60

ST-4

IL-155

須恵器甕・平瓶

SM-14

IL-62

SM-13

須恵器提瓶

SM-11

IL-54

SM-16

SR3-1

SD3/2-3

須恵器長頸壺・横瓶

SM-17

SK4-3

須恵器壺

図版 37

SR4-216

SR4-215

ST-26

IL-63

SR4-216

IL-71

須恵器壺・甕

SK3-13

SX4-10

SM-20

SM-21

SM-18

SM-22

須恵器甕

SD3/1-205

SR3-11

SD3/1-207

SD3/1-209

SD3/1-206

SK3-76

土師器皿類

SD3/1-238

SD3/1-240

SD3/1-245

SR3-14

SD3/1-246

SD3/1-40

SD3/1-239

SD3/1-235

SD3/1-244

SD3/1-242

SX3-10

SR4-204

土師器杯類

図版 41

SX3-7

SD3/1-241

SD3/1-48

SD3/1-248

SD3/1-251

IL-149

SD3/1-311

SR3-28

SD3/1-312

SD3/1-65

SD3/1-317

SD3/1-67

土師器杯類・椀類、黒色土器椀類

SD3/1-309

SD3/1-319

SD3/1-379

SR3-6

黒色土器椀・体部打ち欠き

SD3/1-388

SD3/1-314

SR3-26

SD3/1-310

SD3/1-382

SD3/1-381

黒色土器椀・体部打ち欠き

SD3/1-384

SD3/1-389

SD3/1-385

SR4-111

黒色土器椀・体部打ち欠き

図版 45

SX3-6

SD3/1-326

SD3/1-396

SR4-128

土師器椀・杯体部打ち欠き

SD3/1-394

IL-109

SD3/1-37

SD3/1-378

土師器椀・杯体部打ち欠き

SD3/1-400

SK3-37

SK4-4

SD3/1-356

SR4-113

灰釉陶器・土師器体部打ち欠き・土師器風炉

SD3/1-87

SD3/1-98

SD3/1-401

SD3/1-116

SD3/1-116

SR4-201

SM-24f

土師器羽釜・円筒埴輪・焼成時破裂痕

報告書抄録

ふ り が な	にいみいせき
書　　名	新居見遺跡（Ⅱ）
副　書　名	四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	（Ⅱ）（古墳時代・古代篇）
シリーズ名	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 94 集
編 著 者 名	栗林誠治・徳島県教育文化課・竹原弘展（パレオ・ラボ）・三谷智広（パレオ・ラボ）・米田恭子（パレオ・ラボ）・藤根　久（パレオ・ラボ）
編 集 機 関	公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒 779-0108　徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86-2
発行年月日	令和 3 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村 遺跡番号	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調　査　原　因
にいみいせき 新居見遺跡	とくしまけんこまつしまし 徳島県小松島市 にいみとうあざやま 新居見町字山路 27 ほか	362034 203-30	33° 59′ 43.74972″	134° 33′ 49.10590″	2010 年 4 月 1 日～ 2020 年 6 月 30 日	23,305 ㎡	四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種　　別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新居見遺跡	集落 墳墓	古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代	礫床木棺墓・小竪穴石槨墓・土壙墓・区画溝・自然流路	須恵器・土師器・鉄器・石器	礫床木棺墓・小竪穴石槨墓等の小型埋葬施設

要約

山路地区では、古墳時代中期後半から後期後半に属する円墳の周溝や小型埋葬施設が検出された。小築造時期に重なりがあるため、被葬者の階層差が反映されていると考えられる。平安時代末期には大型区画溝が掘削され、掘立柱建物や地鎮祭祀遺構が伴う。大型区画溝の埋没に伴い掘立柱建物数も減少するが鎌倉時代まで存続する。室町時代には、再度区画溝が掘削され掘立柱建物が集中する屋敷地が成立する。

本遺跡周辺は、古代では勝浦郡四ヶ郷の内、『新居郷』に比定されてきた地域である。その後、10 世紀後半には勝浦川河口附近を中心に成立した「新島庄」の「勝浦庄」に含まれる地域であり、10 世紀前半代に属する区画溝や掘立柱建物群は、『新居郷』に、その後、数が減少するが確認される掘立柱建物等は『新島庄勝浦庄』や高野山領『太奈保』に関連する遺構として位置付る事が可能である。室町期には集落域が南北約 200 m の規模に拡大し、名主クラスとみられる屋敷地群が形成される。広い範囲で中世集落の変遷が確認できる事例は、徳島県下では大林遺跡（東みよし町）、中庄東遺跡（同）、宮ノ本遺跡（阿南市）など数少なく、新居見・田浦の両遺跡にまたがる広域で確認されたことは、勝浦川流域における開発史を検討する上で極めて重要な知見を得た。

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第94集

新　居　見　遺　跡（II）
（古墳時代・古代篇）

四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日　令和3(2021)年3月23日

編　集　公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108　徳島県板野郡板野町犬伏字平山186番2
TEL（088）672-4545

発　行　徳　　島　　県
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

印　刷　徳 島 県 教 育 印 刷 株 式 会 社